

∴ 令和7年度地域観光資源の中国語解説整備支援事業 実施地域一覧

地域 番号	カテゴリ	都道府県	地域協議会名	英語解説文 作成年度	英語事例集 対応番号
005	文化財 (20地域)	広島県	廿日市市宮島地域多言語解説協議会	令和元年度	029
010		山形県	手向地区まちづくり会社設立準備会	令和3年度	001
011		大分県	豊後高田市多言語解説協議会	平成30年度 令和元年度	1226 097
012		静岡県	富士宮市	令和7年度	004
013		滋賀県	長浜市	令和7年度	006
014		滋賀県	湖南市	令和7年度	007
015		兵庫県	湊川神社	令和7年度	009
016		奈良県	世界遺産大峰奥駈道多言語化事業推進協議会	令和7年度	010
017		奈良県	長谷寺地域多言語解説整備推進協議会	令和7年度	011
018		奈良県	西ノ京地域多言語解説整備推進協議会	令和7年度	012
019		奈良県	古都奈良の文化財多言語解説整備推進協議会	令和7年度	013
020		鳥取県	三朝町日本遺産活用推進協議会	令和7年度	015
021		島根県	石見銀山多言語解説協議会	令和7年度	016
022		岡山県	津山まちじゅう博物館コンソーシアム	令和7年度	017
023		香川県	こんぴら文化観光推進協議会	令和7年度	020
024		愛媛県	大洲市観光施設多言語推進協議会	令和7年度	021
025		徳島県	徳島県文化振興課	令和7年度	022
026		徳島県	板野町	令和7年度	023
027		熊本県	錦町多言語解説協議会	令和7年度	028
028		福岡県	「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会	令和7年度	029

地域番号	005	協議会名	廿日市市宮島地域多言語解説協議会

解説文一覧

NO.	スポット名（タイトル）	中国語文字数	想定媒体
005-037	宮島歴史民俗資料館	505	WEB
005-038	宮島歴史民俗資料館： 保存民家（旧江上家主屋）	385	パンフレット
005-039	宮島歴史民俗資料館：展示館 A	570	パンフレット
005-040	宮島歴史民俗資料館：展示館 B	405	パンフレット
005-041	宮島歴史民俗資料館：展示館 C	295	パンフレット
005-042	宮島歴史民俗資料館：展示館 D	430	パンフレット
005-043	宮島歴史民俗資料館：代表民家	360	パンフレット

【タイトル】 宮島歴史民俗資料館

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**宫岛历史民俗资料馆**

宫岛历史民俗资料馆位于严岛神社的西侧，尽管有些偏离大多数来访者的观光路线，但它对探索这座岛屿的历史颇有助益，因此依然十分值得专程前往。资料馆由数栋建筑组成，其中包括一座保存完好的 19 世纪早期富商家族的宅邸（“保存民家”，即旧江上家主屋）、一座典型的本地民居建筑（“代表民家”），以及几处如今用作展厅的相邻建筑。馆内展出历年文物、文献资料和艺术作品等，种类丰富，范围广泛，主要展现自江户时代(1603-1867)以来的宫岛生活图景。

来访者可以在这里了解到有关这座岛屿的各类信息，如地理、年度节庆、传统木工技艺，以及宫岛与京都贵族社会的关联。D 展厅的介绍影片可称一大亮点，影片配有英文字幕，以通俗易懂和生动直观的方式详细介绍了宫岛扣人心弦的历史。对展示内容有了一定的了解之后，来访者可以在“保存民家”的榻榻米房间里小憩，欣赏资料馆建筑拱卫之下的中庭景色。保存民家现已被登录为国家物质文化财产。

开馆时间：9:00～17:00（入场截至 16:30）

闭馆日：周一（如遇节假日、补休日顺延），元旦放假期间（12 月 26 日～12 月 31 日）

门票：300 日元，高中生 170 日元，初中生和小学生免费

<繁体字>**宮島歷史民俗資料館**

宮島歷史民俗資料館位於嚴島神社的西側，雖然這裡有些偏離大多數遊客的觀光路線，卻能夠一探這座島嶼的歷史，很值得專程前往。資料館由幾棟建築組成，包括一座保存完好的 19 世紀早期富商家族宅邸（「保存民家」，即舊江上家主屋）、一座典型的當地民居建築（「代表民家」），還有幾棟相鄰建築，現在用作展廳。館內展出多年來的文物、文獻資料和藝術作品等，種類豐富，範圍廣泛，著重展現了自江戶時代（1603-1867）以來的宮島生活圖景。

遊客在這裡可以了解到有關這座島嶼的地理、年度祭典、傳統木工技藝，以及宮島與京都貴族社會的關聯等各類資訊。D 展廳的介紹影片以通俗易懂和生動直觀的方式，詳細介紹了宮島扣人心弦的歷史，並配有英文字幕，是參觀的一大亮點。細細觀展後，遊客可以在「保存民家」的榻榻米房間裡歇歇腳，欣賞被資料館圍繞的中庭景色。現在，保存民家已經被登錄為國家有形文化財產。

開館時間：9:00～17:00（入場截至 16:30）

閉館日：週一（如遇節假日、補休日順延），元旦放假期間（12 月 26 日～12 月 31 日）

門票：300 日圓，高中生 170 日圓，中小學生免費

<日本語仮訳>

宮島歴史民俗資料館

厳島神社の西側に、主な観光ルートからやや外れた場所にある宮島歴史民俗資料館ですが、島の歴史に関する情報を求めて訪れる価値があります。この資料館は、美しく保存された 19 世紀初頭の豪商の一家のもの（保存民家、旧江上家主屋）、宮島の一般的な民家（代表民家）、および現在展示館として使われている隣接する複数の建物で構成されています。長年にわたる広範囲な工芸品、記録文書、美術品などが展示され、主に江戸時代（1603-1867）以降の宮島での生活を知ることができます。

見学者は、地理、年中行事、伝統木工芸、京都の貴族社会との関係など、宮島に関して様々なことを学ぶことが出来ます。中でも、展示館 D で上映される映像は見どころです。英語の字幕付きで、劇的な宮島の歴史が、分かりやすく視覚に訴える方法で詳しく説明されています。展示についてよく理解できた後には、国の登録有形文化財である保存民家の畳の部屋で足を休ませながら、資料館の建物に囲まれた小さな中庭を見渡せます。

開館時間：9:00～17:00（入館は 16:30 まで）

休館日：月曜日（祝日・振替休日の場合は翌日）、年末年始（12 月 26 日～12 月 31 日）

入館料：大人 300 円、高校生 170 円、小・中学生以下無料

【タイトル】 宮島歴史民俗資料館：保存民家（旧江上家主屋）

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>

宮島歴史民俗資料館：保存民家（旧江上家主屋）

宮島歴史民俗資料館の两层楼主体建筑曾经是这座岛上最豪华的住宅之一。它建于19世纪早期，曾属于凭借酱油酿造生意致富的江上家族，如今依然能让来访者感受到江户时代(1603-1867)晚期宮島富商家庭的生活风貌。这栋建筑现为国家登录物质文化财产。

穿过宽敞的玄关，左手边是一间榻榻米房间，房间地面明显高于玄关。这个空间简洁实用，当年酱油商人曾坐在这里接待客人。宅邸内的其他房间更为考究，有些墙上还挂着卷轴画和其他艺术品。宅邸中央粗大的横梁支撑起整个房屋结构，也展现出家族雄厚的财力。横梁取自一整根松木，应该价值不菲。

参观完宅邸内部后，来访者可以在面朝中庭的房间里休息。这处庭园建于20世纪早期，当时江上家族已经不再从事酱油酿造生意，这栋建筑也被改造成了一家著名日式旅馆的别墅。庭园内的池塘中养着锦鲤，4~10月间还能体验投饵喂鱼的雅趣。

<繁体字>

宮島歴史民俗資料館：保存民家（舊江上家主屋）

宮島歴史民俗資料館の兩層樓主體建築建於19世紀早期。它曾屬於靠醬油釀造生意致富的江上家，當時是這座島上最豪華的住宅之一，如今依然能讓遊客感受到江戶時代(1603-1867)晚期宮島富商家庭的生活風貌。這棟建築現為國家登錄有形文化財產。

穿過寬敞的玄關，左手邊是一間榻榻米房間，房間地面明顯高於玄關。這個空間簡潔實用，當年醬油商人會坐在這裡接待客人。宅邸內的其他房間則更為考究，有些牆上甚至掛著卷軸畫和其他藝術品。宅邸中央粗大的橫樑撐起整個房屋結構，這也充分展現出家族雄厚的財力。橫梁取自一整根松木，一看就知道價值不菲。

參觀完宅邸內部後，遊客可以在面朝中庭的房間裡休息。這座庭園建於20世紀早期，當時江上家已經不再從事醬油釀造生意，建築本身也被改造成了著名日式旅館的別墅。庭園內的池塘中養著錦鯉，在4~10月能體驗投餌餵魚的樂趣。

<日本語仮訳>

宮島歴史民俗資料館：保存民家（旧江上家主屋）

宮島歴史民俗資料館の2階建ての本館は、かつて宮島で最も豪華な家の1つでした。1800年代初頭に建てられたこの家屋は、醤油の醸造で財産を築いた豪商、江上家のものでした。この家は、江戸時代（1603-1867）後期の宮島での裕福な商家の暮らしぶりを伝えています。この建物は現在国の登録有形文化財です。

広い玄関のすぐ奥には、左手に畳の部屋があり、その床の高さは玄関よりもかなり高くなっています。このすっきりとした機能的なスペースで、醤油商人が座って接客しました。他の部屋はより華やかで、壁に掛け軸やその他の美術品を飾った部屋もあります。もう1つ裕福さを感じられるのは、家屋中央を水平に走る建物全体を支える頑丈な梁です。この梁は1本の松の木から切り出されており、それゆえ非常に高価だったと思われます。

屋内を見た後は中庭に面した部屋でリラックスできます。この中庭が造られたのは、1900年代初頭に江上家が醤油事業を廃業し、この家が有名旅館の別荘になった後のことです。庭園内の池には鯉がいて、4月から10月までは餌をあげることができます。

【タイトル】 宮島歴史民俗資料館：展示館 A

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>

宮島歴史民俗資料館：A 展厅

A 展厅位于一座毗邻主楼的建筑中，这里原本是江上家族建造的仓库，如今陈列着各类宫岛日常生活的用具。这座仓库的地面由石头铺成，墙壁非常厚实，天花板采用了防火材料，估计当初曾用于存放重要物资，但具体用途不详。如今展厅内陈列着壶、釜（锅）、采蘑菇的篮子、锯子以及各式农具等总计约 200 件展品。其中特别值得关注的是一口曾在弥山灵火堂用“不灭之火”烧水的大锅（1945 年 10 月卸任），弥山灵火堂与弘法大师（774-835；即高僧空海）渊源深厚。

锯子是当年本地伐木工人使用的工具。在江户时代(1603-1867)，工人必须十分小心地避免误伐树木。当时，宫岛上大部分的森林都属于广岛藩大名（大领主），因此岛上大多数树木都严禁百姓砍伐。如今虽也禁止砍伐，只是原因不同了——宫岛全岛都已被划入“濑户内海国立公园”以及“特别史迹及特别名胜严岛”的范围。此外，整个宫岛也已被联合国教科文组织(UNESCO)列为世界遗产，其中严岛神社、弥山原始森林等区域是核心区，町家（商人或工匠的住宅群）等区域则是缓冲区。展品中的农具数量比锯子少，这是因为宫岛本身被视为神明栖居之地，在明治时代(1868-1912)以前一直严禁务农。即便延续了数世纪的禁令在 19 世纪晚期被解除，岛上的农业也未能真正发展起来，而零星开垦的土地常会遭到鹿群和野猪的破坏，这也令农民望而却步。

<繁体字>

宮島歴史民俗資料館：A 展廳

A 展廳位於一座毗鄰主樓的建築中，這裡原本是江上家建造的倉庫，如今陳列著各類宮島日常生活的用具。這座倉庫的地面以石頭鋪成，牆壁非常厚實，天花板採用了防火材料，推測當初曾用來儲存重要物資，但具體用途現在已然不為人所知曉。如今廳內陳列著壺、釜（鍋）、鋸子、採蘑菇的籃子以及各式農具等總計約 200 件展品。特別值得注意的是，當中有一口曾在彌山靈火堂用「不滅之火」燒水的大鍋（1945 年 10 月卸任），彌山靈火堂與弘法大師（774-835；即高僧空海）淵源深厚。

鋸子は當年當地伐木工人使用的工具。在江戸時代（1603-1867），宮島上大部分的森林都屬於廣島藩大名（大領主），大多數樹木都嚴禁百姓砍伐，因此工人必須十分小心地避免誤伐樹木。而今天，雖然也禁止砍伐樹木，原因卻全然不同了——宮島全島都已被劃入「瀨戸内海國立公園」以及「特別史跡及特別名勝嚴島」的範圍。此外，整個宮島還被聯合國教科文組織（UNESCO）列為世界遺產，其中，嚴島神社、彌山原始森林等區域是核心區，町家（商人或工匠的住宅群）等區域則是緩衝區。在所有展品中，農具數量明顯比鋸子少，這是因為宮島本身被視為神明棲居之地，明治時代（1868-1912）以前，宮島一直嚴禁務農。即便在 19 世紀晚期，延續了數世紀的禁令終於被解除後，宮島的農業也未能真正發展起來。而零星開墾的土地還會遭到鹿群和野豬的破壞，這也讓農民望而卻步。

<日本語仮訳>

宮島歴史民俗資料館：展示館 A

展示館 A では、隣接する主屋に住んでいた江上家によって建てられた土蔵に、宮島での日常生活で使用されたさまざまな民具が展示されています。この土蔵は石畳の床、非常に厚い壁、耐火性の天井を備え、なにか重要なものを保管するために使用されていたと考えられますが、その具体的な目的は不明です。壺、釜、きこ狩り用のかご、鋸、さまざまな農具など約 200 点が展示されており、中でも、1945 年 10 月に弘法大師（774-835、空海）ゆかりの弥山霊火堂からおろした消えずの火の大釜が目を引きます。

鋸は地元の木こりによって使用されていたものです。江戸時代（1603-1867）には、木こりは間違った木を伐採しないように注意する必要がありました。広島藩の大名（領主）は、宮島の森林の広範囲を所有していて、住民は島のほとんどの木の伐採を厳しく禁止されていました。現在も禁止されていますが、その理由は別のもので、宮島が現在では全島が「瀨戸内海国立公園」と「特別史跡及び特別名勝厳島」となっているからです。また、厳島神社や弥山原始林などをコアゾーン、それ以外の町家群などはバッファゾーンとして、宮島はユネスコに世界遺産に登録されているからです。展示されている農具が鋸の数よりも少ない主な理由は、島そのものが神が宿る場所として崇拝されていたため、明治時代（1868-1912）まで宮島全土では農業が禁止されていました。1800 年代後半に数世紀にわたる禁制が解除された後も、実際にはここでは農業は本格的には始まりませんでした。小さな畑が開拓されましたが、シカやイノシシによる被害が農民を阻んできました。

【タイトル】 宮島歴史民俗資料館：展示館 B

【想定媒体】 パンフレット

＜簡体字＞

宫岛历史民俗资料馆：B 展厅

B 展厅聚焦宫岛数量众多的年度节庆和其他活动，它们已传承数百年，至今对岛上居民而言依然意义重大。许多节庆都起源于与严岛神社或岛上其他宗教设施相关的宗教；另一些则是围绕本地社群展开的民俗活动。

在所有宗教节庆中，最知名、最盛大的就属“管弦祭”。该庆典在每年农历六月十七日晚上举行，大约是公历 7 月中旬到 8 月上旬之间。届时，船队航行于严岛神社及宫岛、本州岛的其他几个神社之间，最大的一艘“御座船”装饰华美，船上以乐队为主角，用合奏古典宫廷音乐来抚慰众神。展厅中有关管弦祭的展品就包括庆典用船的比例模型。

在秋天举行的民俗活动“たのもさん” (Tanomo-san) 上，船只同样重要，但尺寸却小得多。宫岛人过去长期被禁止务农，因此人们通过制作小船，向为他们提供粮食的本州岛农民表达感谢。这些小船会先在四宫神社接受祝祷，挂上小灯笼，天黑后再从严岛神社放流入海，随波荡漾，构筑出如星光点点般的梦幻美景。

＜繁体字＞

宮島歷史民俗資料館：B 展廳

B 展廳聚焦宮島多個年度祭典和其他活動，它們都已持續了數百年，今天依然對島上居民有著重大意義。許多祭典都起源於與嚴島神社或島上其他宗教設施相關的宗教，另一些則是圍繞當地社區所展開的民俗活動。

在這些宗教祭典中，最知名也最盛大的便是「管弦祭」。這個祭典在每年農曆 6 月 17 日的晚上舉行，大約是陽曆 7 月中旬到 8 月上旬之間。當天，船隊往來於嚴島神社及宮島、本州的其他幾個神社之間，最大一艘「御座船」裝飾華美，船上以樂隊為主角，用演奏古典宮廷音樂來撫慰諸神。展廳中有關管弦祭的展品就包括慶典用船的比例模型。

在秋天舉行的民俗活動「たのもさん」（Tanomo-san）中，船隻也很重要，尺寸卻小得多。過去，宮島人長期被禁止務農，人們就製作小船向為他們提供糧食的本州農民表

達感謝。這些小船先在四宮神社接受祝禱，掛上小燈籠，然後在天黑後，從嚴島神社放流入海，勾勒出星星點點隨波蕩漾的夢幻美景。

＜日本語仮訳＞

宮島歴史民俗資料館：展示館 B

展示館 B は、何世紀にもわたって宮島で開催され、今も島民にとって重要であり続ける数多くの年中行事やその他の催し物を紹介しています。祭りの多くは、嚴島神社や島にある他の宗教施設に関連した宗教が起源のものですが、地域社会が中心となって行われる民俗行事もあります。

前者のうち、最も有名で壮大なものが「管絃祭」です。この祭礼行事は、旧暦 6 月 17 日の夜に開催され、これは現在では 7 月中旬から 8 月上旬になります。数艘の船は嚴島神社と宮島や本州の神社の間を曳航され、精巧な装飾が施された一番大きな御座船の上で古典的な宮廷音楽を合奏する楽団を主役とし、神々を慰めます。管絃祭に関連する展示品の中には、参加する船の縮尺模型もあります。

ずっと小さいものにはなりますが、秋に行われる「たのもさん」でも船が重要な要素です。長いあいだ農業を禁じられていた宮島の人々は、かつて食料を頼っていた本州の農民たちに感謝のしるしとして小船を作ります。これらの船は四宮神社でお祓いを受け、小さな提灯が取り付けられ、日没後に嚴島神社から流されて、幻想的な光景を生み出します。

【タイトル】 宮島歴史民俗資料館：展示館 C

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>

宮島歴史民俗資料館：C 展厅

C 展厅位于旧江上家族主屋最深处的小仓库里，主要展出与木工工艺相关的藏品。19 世纪至 20 世纪早期，木工在当地民间发展起来，成为了宫岛的重要产业。然而，由于岛上的大部分树木是本地大名（大领主）的私产，居民不得砍伐，岛上木匠使用的木材几乎都是从本州岛运来的。

展出的木工制品包括用来搅拌或盛舀米饭的木勺以及各式各样的托盘、餐具等，其中一些还有精美的雕刻纹饰。据说饭勺发明于 18 世纪晚期的宫岛，如今早已成为全日本普遍使用的餐具。展品中还有通常作为本地特产和纪念品销售的大号木勺。欣赏工艺品之余，来访者还可以通过展厅内的传统拉坯机等多种工具，了解宫岛木工的作业流程。

<繁体字>

宮島歴史民俗資料館：C 展廳

C 展廳位於舊江上家主屋最深處的一個小倉庫裡，裡面主要展出與木工工藝相關的藏品。宮島民間的木工在 19 世紀至 20 世紀早期逐漸發展起來，成為當地的重要產業。由於當時島上大部分樹木都是當地大名（大領主）的私產，居民不得砍伐，因此島上木匠使用的木材幾乎都是從本州運來的。

展出的木工製品包括用來攪拌或盛舀米飯的木勺以及各式各樣的托盤、餐具等，其中一些還刻有精美的紋飾。據說飯勺於 18 世紀晚期在宮島發明，如今早已成為全日本普遍使用的餐具。展品中還有大號木勺，通常被當作當地特產和伴手禮。遊客除了欣賞工藝品，還可以從展廳內的傳統陶藝轉盤等多種工具中，了解宮島木工的作業流程。

<日本語仮訳>

宮島歴史民俗資料館：展示館 C

展示館 C は旧江上家の主家の一番奥にある小さな土蔵にあり、木工関連の品が展示されています。木工は地元住民の間で発展し、1800 年代から 1900 年代初期まで宮島の重要な産業でし

た。しかし、島のほとんどの木々は地元の大名（領主）の所有物だったため、住民は島での木の伐採を禁止されていました。その結果、地元の木工職人が使う木材のほとんどは、本土から運ばれました。

展示品の中には飯をよそったりかき混ぜたりするのに使われる杓子をはじめ、様々な盆や食器などがあり、その一部は細かい彫刻で装飾されています。杓子は 1700 年代後半に宮島で発明されたと言われ、現在は日本中で使用されています。伝統的に土産や記念品として販売されている巨大な杓子も展示されています。見学者は、工芸品を鑑賞するだけでなく、展示されている伝統的なロクロやその他の道具を見ることで木工の製作工程について学べます。

【タイトル】 宮島歴史民俗資料館：展示館 D

【想定媒体】 パンフレット

＜簡体字＞

宮島歴史民俗資料館：D 展厅

D 展厅是一栋两层楼的现代建筑，展品聚焦两大主题：12 世纪以来严岛神社的历史；与宫岛有关的艺术作品和图像资料。

一楼主要介绍严岛神社和平安时代(794-1185)重要的权臣平清盛(1118-1181)。在宫岛的对外文化交流中，平清盛起到了十分关键的作用，他一面将京都的贵族文化引入宫岛，一面又极大提升了严岛神社在京都上流社会的地位。厅内播放的一段影片配有英文字幕，详细描述了平清盛的功绩与宫岛惊心动魄的历史。其他展品则讲述了《平家物语》中与宫岛有关的历史事件。《平家物语》是一部宏大的战记小说，讲述 12 世纪晚期平清盛所属的平家与敌对家族源氏之间的争霸故事。

二楼展览最引人注目的是与宫岛有关的画作、地图、照片、旅行指南等资料。其中大部分出自江户时代(1603-1867)，例如绘制在折叠屏风上如地图般精细的岛屿图、有关江户时代宫岛上演歌舞伎的资料、歌川广重(1797-1858)及其 20 世纪的接班人川濑巴水(1883-1957)的浮世绘作品。

＜繁体字＞

宮島歴史民俗資料館：D 展廳

D 展廳是一棟兩層樓的現代建築，展覽內容包含兩大主題：12 世紀以來嚴島神社的歷史，以及與宮島相關的藝術作品和圖片。

一樓展覽的主角是嚴島神社和平安時代（794-1185）重要的權臣平清盛（1118-1181）。平清盛在宮島的對外文化交流中起到了很關鍵的作用，他將京都的貴族文化引入宮島，同時又大幅提升了嚴島神社在京都上流社會的地位。廳內有段影片詳細描述了平清盛的功績與宮島戲劇性的歷史，配有英文字幕。其他展品則介紹了《平家物語》中與宮島有關的歷史事件。《平家物語》講述 12 世紀晚期平清盛所屬的平家與敵對家族源氏之間的爭霸故事，是一部宏大的軍記物語。

在二樓展覽中，最引人注目的是與宮島相關的畫作、地圖、照片和旅行指南以及其他文件。這些展品大部分出自江戶時代（1603-1867），其中有如地圖般精細、繪製在折疊屏風上的島嶼圖，江戶時代宮島上演歌舞伎的資料，歌川廣重（1797-1858）及其 20 世紀的接班人川瀨巴水（1883-1957）的浮世繪作品。

＜日本語仮訳＞

宮島歴史民俗資料館：展示館 D

展示館 D は近代的な 2 階建ての建物であり、12 世紀以降の厳島神社の歴史と、宮島に関連した芸術品や画像の両方に焦点を合わせています。

1 階は厳島神社および平安時代（794-1185）の有力政治家・平清盛（1118-1181）に重点を置いています。宮島の対外文化交流において、清盛は重要な役割を果たしました。彼は京都の貴族文化を宮島にもたらし、都の上流階級のあいだで厳島神社の格を高めました。清盛の功績と宮島の劇的な歴史が、英語の字幕付きビデオで詳述されています。他の展示品は、宮島を『平家物語』の出来事と結び付けています。『平家物語』は 12 世紀後半の清盛の平家とそのライバル源氏の戦いの壮大な物語です。

展示館の 2 階では、宮島に関する絵画、地図、写真、旅行案内書、その他の資料が見どころとなっています。そのほとんどは江戸時代（1603-1867）のものであり、地図のように詳しく島を描いた屏風、江戸時代に宮島で上演された歌舞伎に関する史料、歌川広重（1797-1858）とその 20 世紀の後継者である川瀨巴水（1883-1957）の浮世絵が含まれています。

【タイトル】 宮島歴史民俗資料館：代表民家

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>

宮島历史民俗资料馆：代表民家

如果说“保存民家”（旧江上家族主屋）让人得以一窥当年宫岛富商的生活景象，这处修复的单户民居则展现了江户时代(1603-1867)岛上普通人家的生活面貌。这栋呈细长状的建筑入口狭窄，是岛上传统民居的典型特征。入口处装有木门，以防范鹿等野生动物闯入。为了在有限的平地上尽可能地建造更多的房屋，宫岛的大多数房屋都紧挨着排列在海岸和陡峭山崖之间狭长的长方形地块上。

此处民宅共有 3 个房间。入口旁的房间是工坊或店铺；中间一间安置着这个家庭的神道教神棚（家庭供奉神符、神札及祭祀的地方），只在特殊场合使用；最里面的内室是全家共用的起居室兼卧室。打开内室门，既能引入屋后中庭的自然光线，也可提高通风效果。厕所、浴室、厨房都在中庭里。来访者不能进入房间，但可以沿着一旁从入口到中庭的土路参观各个房间。

<繁体字>

宮島歷史民俗資料館：代表民家

如果說「保存民家」（舊江上家主屋）讓後人能夠一窺當年宮島富商的生活景象，那麼這處修復的單戶民居則展現了江戶時代（1603-1867）島上普通人家的生活面貌。這棟建築具備了島上傳統民居的典型特徵，建築整體呈細長狀，狹窄的入口處安裝了用來防範鹿等野生動物闖入的木門。為了在有限的平地上盡可能地建造更多的房屋，宮島的大多數民居都緊挨著排列在海岸和陡峭山崖之間的狹長方形土地上。

這座民宅共有 3 個房間。入口旁的房間是工坊或店鋪；中間一間安置著這個家庭的神道教神棚（家庭供奉神符、神札及祭祀的地方），只在特殊場合使用；最裡面的內室是全家共用的起居室兼臥室。內室的門打開後能引入屋後中庭的自然光線，且通風效果更好。廁所、浴室、廚房都在中庭裡。遊客不能進入房間，但可以沿著一旁從入口到中庭的土路參觀各個房間。

<日本語仮訳>

宮島歴史民俗資料館：代表民家

保存民家（旧江上家主屋）が裕福な商人の暮らしを紹介する一方、復元されたこの一家族住居は江戸時代（1603-1867）に普通の人々が宮島でどのように暮らしていたかを伝えています。細長い建物は狭い入口が特徴的であり、この島の伝統的な民家の典型です。鹿や他の野生動物が中に入らないよう、木の門扉を備えています。宮島の民家のほとんどは、岸と急斜面とのあいだの狭い長方形の区画に並んで建てられました。利用可能な限られた平坦地に、できるだけ多くの民家を建てようとしてのことでした。

この民家には 3 つの間があります。入口の横の表の間は作業場や店舗として使われました。中の間には家族の神棚（家の中で神符・神札などを奉安し、神を祭るための棚）があり、特別な機会にのみ使われました。奥の間は居間兼寝室として使われたのです。奥の間の戸を開けると、家の裏手にある中庭から日差しと空気を取り入れることができました。中庭には便所、風呂、台所もありました。見学者はこれらの間に入ることはできませんが、入口から中庭に至る土間を歩いてそばを通ることができます。

地域番号	010	協議会名	手向地区まちづくり会社設立準備会

解説文一覧

NO.	スポット名（タイトル）	中国語文字数	想定媒体
010-001	出羽三山：はじめに	900	WEB
010-002	出羽三山開山ストーリー	807	WEB
010-003	手向宿坊街	774	WEB
010-004	出羽三山精進料理	592	WEB
010-005	羽黒山の杉並木	611	WEB
010-006	出羽三山神社	864	WEB
010-007	羽黒山荒澤寺正善院	968	WEB

【タイトル】 出羽三山：はじめに

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

出羽三山：概览

出羽三山是拥有 1400 多年历史的朝圣地，已经被认定为日本遗产。在漫长的岁月里，羽黑山（414 米）、月山（1984 米）、汤殿山（1504 米）三山孕育出了独特的精神文化和传统，并传承至今。通常，来访者会把羽黑山作为出羽三山之行的第一站，这里的参道（参拜道路）沿山坡蜿蜒而上，穿行于高耸入云的柳杉和古老的神社建筑之间。观赏群峰与山中的建筑物，可以一窥日本近代以前的宗教景观。

山岳信仰和修验道

日本自古崇敬高山，山脉被视为神明栖居的圣地，同时山体本身也被奉作神明。出羽三山正是这个国家最神圣的灵山之一，孕育出了丰富的山岳苦修传统，称“羽黑修验道”。所谓“修验道”，可以解释为“在山间努力修炼超凡灵力之道”，它起源于古代对自然的崇拜及近代以前佛教与神道教融合的“神佛习合”传统，包含断食、隐遁、冥想，以及山间徒步、巡礼参拜等苦修方式。山伏（修验道的苦行僧，也称修验者）通过这些苦修来汲取山岳神明之力。当地的一些“宿坊”（供朝圣者和修行者住宿的旅舍）为来访者提供修验道体验项目，包括与恪行苦修的山伏一同完成山间徒步，品尝出羽三山精进料理等，后者是一种苦行者的饮食，历史悠久，通常被视为净化修行的一部分。

神佛习合与神佛分离

千百年以来，山伏深居山中苦修，供奉权现。“权现”是佛教神明在神道教中的化身，为人们指引救赎之道。每座山都有自己的权现和供奉这位神明的寺院。19 世纪，明治政府（1868-1912）施行宗教改革，拆分神道教和佛教，即“神佛分离”，对权现的崇拜也遭到禁止。出羽三山的三座寺院被改建为神社，佛像被移除，其中部分佛像现安放于羽黑山脚的正善院黄金堂（国家指定重要文化财产）内。

今日の出羽三山

穿行山间，来访者会看到一些与佛教有关的圣物矗立在神社地界上，比如在羽黑山上，一座五重塔与一株装饰着“注连绳”（通常用于标识神道教神明居所的神圣草绳或麻绳）的千年杉树并肩而立。透过种种打破宗教藩篱的景象可以看出，当地发展起来的修验道具

有独特的融合性质。如今，修验道依旧在这片土地上生存发展，来访者或许会遇见身着白袍的山伏出入山林。在出羽三山，许多宗教文化传统延续至今，即便历经岁月洗礼，仍基本保持着原貌。

<繁体字>

出羽三山：概覽

出羽三山是擁有 1400 多年歷史的朝聖地，已被認定為日本遺產。在漫長的歲月裡，羽黑山（414 公尺）、月山（1984 公尺）、湯殿山（1504 公尺）三山孕育出了獨特的精神文化傳統，傳承至今。大多數遊客都會把羽黑山作為出羽三山之行的第一站，此處參道（參拜道路）沿山坡蜿蜒而上，穿行於高聳入雲的柳杉和古老神社之間。從群峰與山上的建築物中，可以一窺日本近代以前的宗教景觀。

山嶽信仰和修驗道

日本自古以來崇敬高山，山脈被視為神明的棲居聖地，同時山體本身也被奉作神明。出羽三山正是這個國家最神聖的靈山之一，孕育出了豐富的山嶽苦修傳統，稱「羽黑修驗道」。所謂「修驗道」，就是「在山間努力修煉靈力的方法」。它起源於古代對自然的崇拜及近代以前佛教與神道教融合的「神佛習合」傳統，包含斷食、隱遁、冥想，以及山間健行、巡禮參拜等苦修方式。山伏（修驗道的苦行僧，也稱修驗者）藉由這些苦修來汲取山嶽神明之力。這個地區的一些「宿坊」（供朝聖者和修行者住宿的旅舍）也提供修驗道相關活動給遊客體驗，包括與恪行苦修的山伏一同完成山間健行、品嚐出羽三山精進料理等等。出羽三山精進料理是一種苦行者的飲食，歷史悠久，通常被視為淨化修行的一部分。

神佛習合與神佛分離

千百年以來，山伏於山間苦修，供奉權現。「權現」是佛教神明在神道教中的化身，為人們指引救贖之道。每座山都有自己的權現和供奉這位神明的寺院。19 世紀，明治政府（1868-1912）實施宗教改革，拆分神道教和佛教，也就是「神佛分離」，權現崇拜同時遭到禁止。出羽三山的三座寺院被改建為神社，佛像被移除，其中部分佛像現安放在羽黑山腳的正善院黃金堂（國家指定重要文化財產）內。

今日的出羽三山

遊客穿行山間，會看到一些與佛教有關的聖物矗立在神社地界上，像是羽黑山上有一座五重塔，與一株裝飾著注連繩（通常用於標識神道教神明居所的神聖草繩或麻繩）的千年杉樹並肩而立。從種種打破宗教藩籬的景象可以窺見，這個地區發展起來的修驗道具有

獨特的融合性質。直至今日，修驗道依舊在這片土地上生存發展，遊客可能會遇見身著白袍的山伏出入山林。在出羽三山，許多宗教傳統延續至今，即便歷經歲月洗禮，仍基本維持著傳統精神。

＜日本語仮訳＞

出羽三山：はじめに

日本遺産に認定された出羽三山は、1,400 年以上に及ぶ歴史を持つ巡礼の地である。羽黒山（414 メートル）、月山（1,984 メートル）、そして湯殿山（1,504 メートル）独特な精神文化・伝統は、現在でも脈々と受け継がれている。訪れる人々の多くは、参道が山腹へと延び、高くそびえ立つ杉並木の間や古い神社を通る羽黒山から、この地域の旅をスタートする。山々と山上の建造物の数々を通して、近代以前の日本の宗教事情を垣間見ることができる。

山岳信仰と修驗道

古来より日本では山は神霊が宿る聖地であり、山自体も神そのものとして崇敬されてきた。出羽三山の山々は日本有数の霊山であり、羽黒修驗道と呼ばれる山岳修行の豊かな伝統が育まれてきた地である。修驗道とは「山で霊験あらたかな力道を修得する道」を意味している。これは、古来の自然信仰の伝統と近代以前の仏教と神道の要素の融合「神仏習合」に由来したものであり、断食、隠遁、瞑想や、山中を歩き、聖地を巡拝するなどの厳しい修行が含まれる。山伏（修驗道の実践者、修驗者とも言う）は、これらの修行を通して山の神々の力をその身に取り入れるのである。この地域にある「宿坊」（参拝者や修行者のために造られた宿泊施設）のいくつかでは、厳しい修行を行っている山伏たちと一緒に山を歩き、身を清めるために古くから食してきた出羽三山精進料理をいただくなど、観光客でも修驗道に触れることができる体験プログラムを提供している。

神仏習合と神仏分離

数世紀もの間、山伏たちは山で修行を行い、人々に救いへの道を示すために現れた神道の神、すなわち仏教の仏の化身である「権現」を崇めてきた。各山にはそれぞれの権現と、その権現をお祀りする寺院があった。19 世紀に明治政府（1868–1912）は、仏教と神道を分ける「神仏分離」の宗教改革を行い、権現崇拝も禁じられた。出羽三山の 3 つの寺院は、神道の神社へと変貌し、仏像は排除された。仏像の一部は、現在、羽黒山の麓にある正善院黄金堂（国指定重要文化財）に安置されている。

現在の出羽三山

山中を歩いていると、通常は仏教に関連づけられるものが、神道の神社の境内に存在することに気づくだろう。例えば、羽黒山には五重塔が、注連縄（通常は神道の神の依代の境界を示す聖なる藁または麻の縄）で飾られた樹齢 1,000 年の杉の木の横に佇んでいる。宗教の垣根を打ち破るこれらの光景から、この地で発展してきた修驗道信仰の混交的性質を垣間見ることができる。修驗道は現在

でも継承・実践されており、訪れる人々は白装束をまとった山伏が山へ向かったり、帰ってきたりする姿を目にするだろう。出羽三山の精神文化・伝統の多くは、比較的変わることなく受け継がれている。

【タイトル】 出羽三山開山ストーリー

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

出羽三山の開山源起

羽黒山（414 米）、月山（1984 米）、湯殿山（1504 米）三座霊峰合称“出羽三山”。它们是多元信仰的重要灵场，在长达几个世纪的岁月里，孕育出了丰富而又独特的宗教传统。

观音菩萨现身羽黒山

通常认为，讲述羽黒山历史的《羽黒山缘起》成稿于 12 世纪。据书中记载，大慈大悲观世音菩萨曾降临羽黒山，在一位由三足鸟引领而来的男子面前现身。关于这位男子的身份众说纷纭，有的说他是崇峻天皇（日本第 32 任天皇；587-592 在位）的三皇子，名叫“参佛理大臣”，也有的说他是一名神圣的苦行者。虽无定论，但传说认为，见过观音菩萨并在之后宣布此地群山为修行圣地的人正是他。

偶遇神圣苦行者

另有记录讲述了一位猎户与山间苦行者的奇遇。相传，苦行者应猎户的请求，在为饱受腰痛折磨的本地国司（律令制时代由中央派遣的地方官）祈福时，国司宅邸突然被熊熊烈火包围。国司一跃而起，冲出家门，腰痛竟不药而愈，大火也几乎在火势刚起的一瞬间便熄灭了，房屋毫发无损。因此，国司特地修建了一座寺院用以表达感激之情。

消息传到朝廷，这名苦行者获赐名号“能除”，取《般若波罗蜜多心经》中经文“能除一切苦”的含义。朝廷还为寺院赐名“羽黒山寂光寺”，供奉观音菩萨。寺名来源于三足鸟，取汉字“黑色羽翼”中的“羽黒”二字。据说月山和汤殿山两处修行灵场的开辟都与能除有关。不过，也有其他文献将汤殿山宗教历史的发端归功于日本佛教真言宗开山祖师空海和尚（774-835，谥号弘法大师）。

羽黒山成为神道教圣地

历经数百年，有关出羽三山起源的说法层出不穷。18 世纪的记录里显示，能除的真实身份是一位名叫“蜂子”的皇子。而天皇的家族谱系图中也确有一位蜂子皇子(562-641)，图中显示，他是崇峻天皇唯一的儿子。

19 世纪，羽黑山与皇室之间的关联被不断放大，蜂子皇子被认定为羽黑山宗教修行传统的开创者。后来，人们在羽黑山顶附近发现了蜂子皇子的墓所。这处遗址如今由宫内厅负责维护管理。

<繁体字>

出羽三山的開山源起

羽黑山（414 公尺）、月山（1984 公尺）、湯殿山（1504 公尺）三座靈峰合稱「出羽三山」。它們作為多元信仰的重要靈場，經歷數世紀演變，孕育出了豐富獨特的宗教傳統。

觀音菩薩現身羽黑山

一般認為，講述羽黑山歷史的《羽黑山緣起》成稿於 12 世紀。書中記載，大慈大悲觀世音菩薩曾降臨羽黑山，並在一位受三足鳥引領而來的男子面前現身。這男子的身份眾說紛紜，據說他是崇峻天皇（日本第 32 任天皇；587-592 在位）的三皇子，名叫「參佛理大臣」，別的記載則說他是一名神聖的苦行者。雖然沒有定論，但傳說中，正是他在見過觀音菩薩後，宣布此處群山為修行聖地。

邂逅神聖苦行者

還有其他故事記錄了一位獵戶與山間苦行者的奇遇。傳說中，在獵戶懇求下，苦行者為飽受腰痛折磨的本地國司（律令制時代由中央派遣的地方官）祈福，國司宅邸卻突然被烈焰包圍。國司一躍而起沖出家門，腰痛竟不藥而癒，大火也幾乎就在火勢剛起的一瞬間便熄滅了，房屋毫髮無損。因此，痊癒後的國司特地修建了一座寺院，用以表達感激之情。

當這個消息傳到朝廷，這名苦行者獲賜名號「能除」，取自《般若波羅蜜多心經》中的經文「能除一切苦」。朝廷還為寺院賜名「羽黑山寂光寺」，供奉觀音菩薩。寺名來源於三足鳥，取漢字「黑色羽翼」中的「羽黑」二字。人們認為月山和湯殿山兩處修行靈場的開闢都與能除有關。不過，也有其他文獻將湯殿山宗教歷史的發端歸功於日本佛教真言宗開山祖師空海和尚（774-835，諡號弘法大師）。

羽黑山成為神道教聖地

數百年後，關於出羽三山起源的傳說紛紛出現。在 18 世紀的紀錄中，能除的真實身份是一位名叫「蜂子」的皇子，而天皇的世系圖中也確實有一位蜂子皇子（562-641），依照此圖所示，蜂子皇子是崇峻天皇的獨子。

到了 19 世紀，羽黒山與皇室之間的關聯更緊密了，蜂子皇子被認定為羽黒山宗教修行傳統的開創者。後來，人們在羽黒山頂附近發現了蜂子皇子的墓所。這處遺址現在由宮內廳負責維護管理。

<日本語仮訳>

出羽三山開山ストーリー

羽黒山（414 メートル）・月山（1,984 メートル）・湯殿山（1,504 メートル）の 3 つの霊峰は、総称して「出羽三山」の名で知られている。出羽三山は、数多くの信仰において重要な霊場とされており、何世紀にもわたる時の中で豊かで独特な宗教的伝統が培われてきた地である。

羽黒山に現れた観音

羽黒山の歴史を記した『羽黒山縁起』は、12 世紀に書かれたと考えられている。この書籍の中では、羽黒山で 3 本足の烏に導かれた男の前に慈悲の菩薩である観音が現れたとされている。ある記述によると、その男の名前は「参仏理大臣」といい、崇峻天皇（日本の第 32 代天皇：在位 587-592）第 3 の皇子とされている。また、別の記述では、その男は神聖な行者であったと伝えられている。この男の正体は定かではないが、観音との出会いを受けて、彼はここの山々を神聖な修行の場としたとされている。

神聖な行者との出会い

獵師が山中で修行中の行者に出会ったという話も残されている。獵師は行者に、難病の腰痛に悩む地元の国司（律令制で、中央から派遣され、諸国の政務をつかさどった地方官）のために祈りを捧げてくれるよう頼み、行者は願いを聞き入れ祈りを捧げた。すると国司の家が炎に包まれ、跳ね起きた国司が家から飛び出すと痛みも解消されていたという。火事は発火と同時にあっという間に収まり、家も無傷であった。その後、国司は寺院を創建し、感謝の意を表した。

この行者の話は朝廷に届き、彼には『般若心経』の「能除一切苦」の一文から「能除」の名が授けられた。また、朝廷は創建された寺院を「羽黒山寂光寺」と名付け、そこに観音が祀られた。この寺院の名前は 3 本足の烏に由来し、「黒い翼（羽）」となる漢字の「羽黒」が含まれている。その後能除は、月山や湯殿山を信仰の場として開山することに貢献したと言われている。しかし、湯殿山における信仰の歴史は、真言宗の開祖である空海（774-835、諡号は弘法大師）の功績であるという別の文献も存在する。

神道の聖地となった羽黒山

何世紀もの時を経て、出羽三山の起源に関しては複数の説が唱えられるようになった。18 世紀の記述によると、「能除」の真の正体は蜂子皇子とされている。天皇家の家系図を見ると蜂子皇子（562-641）の存在が確認でき、それによると崇峻天皇の唯一の皇子とされている。

19 世紀には、羽黒山と天皇家との結びつきが重視されるようになり、羽黒山の開山は蜂子皇子の

功績であるとされるようになった。後年、羽黒山の山頂近くで蜂子皇子の墓所が発見され、現在その地は宮内庁によって管理されている。

【タイトル】 手向宿坊街

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**手向宿坊街**

“出羽三山”是羽黑山（414 米）、月山（1984 米）、汤殿山（1504 米）三座灵山的总称，从山形县鹤冈市前往出羽三山的旅行者都会经过一条名叫“手向”的街道。街道两边坐落着一家家古朴的“宿坊”（供朝圣者和修行者住宿的旅舍），其中许多旅店都由“山伏”家族世代经营，他们是修习修验道（一种在灵山践行苦修的古老传统信仰）的苦行者，也称修验者。这些旅店为来到当地的朝圣者服务，入住宿坊有助于更加深入地了解出羽三山的精神文化传统。

这条宿坊街通往羽黑山脚下的随神门，它是这片圣域的入口之一。数世纪以来，出羽三山对于山伏来说都具有重要的精神意义，而位于羽黑山麓的手向地区正是最热门的巡礼起点之一。江户时代(1603-1867)，这里的宿坊曾多达 300 家以上，接待着来自全国各地的朝圣者。

如今，手向地区的宿坊数量日渐减少，但留存下来的依然由山伏经营，他们同时还肩负带领朝圣团体进山修行的工作。手向的宿坊面向所有人开放，但通常每名山伏定向负责一个国内指定区域的朝圣群体。山伏需遵循日常规仪，定期进行苦修训练，并为朝圣者提供精神指导。

在手向的宿坊里，客人可以品尝到出羽三山精进料理，这是山伏视为可净化自身的一种传统饮食。部分宿坊为来访者提供修验道体验项目，例如，在神殿前与山伏一起念诵祝词。在手向逗留期间，还经常能看到身着白袍的朝圣者成群结队地出入于群山之间。

在过去长达 1000 多年的时间里，许多神道教神明都被视为佛教神明的化身（权现）而受到供奉。修验道也是这种信仰的体现，它汲取了神道教、佛教和山岳信仰的不同元素并加以融合。进入明治时代(1868-1912)后，政府施行宗教改革，拆分神道教与佛教，对日本全国的宗教面貌产生了极大影响，也导致了出羽三山宿坊数量的锐减。而手向地区依然保留着大量由山伏经营的宿坊，为后世守护着出羽三山的修验道传统，这也正是该地区的独特之处。

<繁体字>

手向宿坊街

「出羽三山」は羽黒山（414 公尺）、月山（1984 公尺）、湯殿山（1504 公尺）三座靈山の總稱，從山形縣鶴岡市前往出羽三山の旅行者都會經過一條名叫「手向」の街道。手向街道兩邊坐落著一家家古樸的「宿坊」（供朝聖者和修行者住宿的旅舍），其中許多旅店都由「山伏」家族世代經營，他們是修習修驗道（一種在靈山踐行苦修的古老傳統信仰）的苦行者，也稱修驗者。這些旅店為前來當地的朝聖者服務，因此，入住宿坊有助於更加深入地瞭解出羽三山的精神文化傳統。

這條宿坊街通往羽黒山腳下的隨神門，它也是這片聖域的入口之一。幾百年來，出羽三山對於山伏來說都具有重要的精神意義，而位於羽黒山麓的手向地區正是最熱門的巡禮起點之一。這裡的宿坊在江戶時代（1603-1867）曾多達 300 家以上，接待著來自全國各地的朝聖者。

手向地區的宿坊數量如今日漸減少，但留存下來的依然由山伏經營，他們同時還肩負帶領朝聖團體進山修行的工作。手向的宿坊對所有人開放，但通常每名山伏定向負責一個國內指定區域的朝聖群體。山伏需遵循日常規儀，定期進行苦修訓練，並為朝聖者提供精神指導。

客人可以在手向的宿坊裡品嚐出羽三山精進料理，這是一種被山伏視為可淨化自身的傳統飲食。部分宿坊為遊客提供修驗道體驗項目，例如，在神殿前與山伏一起念誦祝詞。在手向逗留期間，經常能看到身著白袍成群結隊的朝聖者往來於群山之間。

在過去長達 1000 多年的時間裡，許多神道教神明都被視為佛教神明的化身（權現）而受到供奉。修驗道也是這種信仰的體現，它汲取了神道教、佛教和山嶽信仰的不同元素並加以融合。不過，進入明治時代（1868-1912）後，政府施行宗教改革，拆分神道教與佛教，對日本全國的宗教面貌產生了極大影響，出羽三山宿坊數量也因此銳減。而手向地區的獨特之處恰好在於，這裡依然保留著大量由山伏經營的宿坊，為後世守護著出羽三山的修驗道傳統。

<日本語仮訳>

手向宿坊街

山形県鶴岡市から「出羽三山」—羽黒山（414 メートル）・月山（1,984 メートル）・湯殿山（1,504 メートル）の 3 つの霊峰へと向かう旅行者は、質素な趣の「宿坊」と呼ばれる参拝者や修行者のために造られた宿泊施設が軒を連ねる「手向」を通る。宿坊の多くは修驗道（神聖な山中で厳しい修行を行う古くからの伝統）の実践者である山伏たち（修驗者とも言う）によって営まれており、同じ一族によって代々受け継がれている。これらの宿は、この地を訪れる巡礼者のためのもので、宿坊に滞在することで、出羽三山の世界文化・伝統をより深く知ることができる。

宿坊が建ち並んでいるこの通りは、羽黒山の麓にある聖域の入口のひとつである随神門へと続く。何世紀にもわたって、出羽三山は山伏たちにとって精神的支えの地であり、羽黒山の麓の手向の地域は、巡礼の出発点として最も人気の高いエリアのひとつであった。江戸時代（1603–1867）には300軒以上の宿坊が存在しており、全国から集まった巡礼者に対応していた。

現在、手向の宿坊は少なくなっているが、現存する宿坊は今でも山伏によって営まれている。また山伏たちは、参詣者の団体に対して山へと案内する役割を担っている。手向の宿坊は誰でも利用することができるが、各宿坊の山伏は通常、国内の特定地域の参詣者コミュニティを担当している。山伏たちは、日々の儀式に沿い、定期的に厳しい修行や、参詣者に精神的な指導を行う。

手向の宿坊の客は、山伏が身を清めるために食す伝統的な「出羽三山精進料理」を味わうことができる。宿坊によっては、神殿の前で山伏と一緒に祝詞をあげるなど、旅行者向けの修験道体験プログラムを提供している。手向での滞在中は、参拝用の白装束をまとった巡礼者が山々を行き来する姿を目にする機会が多い。

日本では1,000年以上にわたり、多くの神々が仏教の仏の権現として崇拝されてきた。修験道はこの信仰を体現し、神道や仏教、山岳修行が融合したものである。明治時代（1868–1912）のはじめ、政府は神道と仏教を分ける宗教改革を行った。この改革は、国の宗教事情に多大な影響を及ぼし、出羽三山にある宿坊の減少に繋がった。そんな中でも、手向には山伏によって営まれる宿坊が数多く残されているのが特徴で、出羽三山における修験道の伝統を守り、後世へと受け継いでいる。

【タイトル】 出羽三山精進料理

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**出羽三山精進料理**

“出羽三山”指羽黑山（414 米）、月山（1984 米）、汤殿山（1504 米）三座灵山，这片地区孕育出了以精进料理为中心的丰富饮食文化。精进料理使用本地产的蔬菜和山里采摘的野菜烹制而成，原本是山伏（修验道的苦行僧，也称修验者）的传统饮食，被视为净化身心修行的一部分。渐渐地，它们从山间苦行者的简单餐食演化出了精致多样的料理，并普及开来。

制作精进料理，首先要从进山采集食材开始，接下来才是处理食材，以备烹饪和储存。山野菜需经过浸泡、清洗、汆烫等一系列步骤的精心处理，才会变得美味。其中一部分作为当季鲜食，另一些则腌渍保存，留待后半年慢慢享用。山形县漫长的严冬和强降雪限制了食材采集和耕种的时间，也因此发展出了丰富多样的食物储存技术。

出羽三山周边的多家“宿坊”（供修行者和朝圣者住宿的旅舍）和传统日式旅馆都为来客提供精进料理。“斋馆”原本是羽黑山上的一座寺院，现对外提供住宿和餐饮服务（需预约）。料理食谱世代相传，每家宿坊都有自己独特的料理风格和风味。其中，胡麻豆腐使用葛粉、芝麻粉制成，是出羽三山精进料理中必不可少的一道主菜。日本各地的精进料理大都是素食，但在出羽三山，有时还能吃到鱼类。

来访者可以在鹤冈市郊外的手向宿坊街享用精进料理，品味出羽三山的饮食文化传统。这里是日本第一个获联合国教科文组织创意城市网络(UNESCO Creative City)认定的“世界美食之都”。

<繁体字>**出羽三山精進料理**

「出羽三山」指羽黑山（414 公尺）、月山（1984 公尺）、湯殿山（1504 公尺）三座靈山，其周邊一帶孕育出了以精進料理為中心的豐富飲食文化。精進料理原本是山伏（修驗道的苦行僧，也稱修驗者）的傳統飲食，使用當地產的蔬菜和山裡採摘的野菜烹製而成，被視為淨化身心修行的一部分。隨著時間流逝，精進料理從山間苦行者的簡單餐食演化成了精緻多樣的料理並普及開來。

要製作精進料理，第一步從進山採集食材開始，接下來是處理食材，以備烹飪和儲存。山野菜要好吃，需經過浸泡、清洗、汆燙等一系列步驟的精心處理。其中一部分可作為當季鮮食，另一部分則在醃漬後留待後半年慢慢享用。漫長的嚴冬和強降雪限制了山形縣食材採集和耕種的時間，正因為此，當地發展出豐富多樣的食物儲存技術。

出羽三山周邊的多家「宿坊」（供修行者和朝聖者住宿的旅舍）和傳統日式旅館都能為食客提供精進料理。「齋館」原本是羽黑山上的一座寺院，現在對外提供住宿和餐飲服務（需預約）。每家宿坊都有自己獨特的料理風格和風味，這些料理食譜世代相傳。胡麻豆腐是出羽三山精進料理中必不可少的主菜，使用葛粉、芝麻粉製成。日本各地的精進料理大都是素食，但在出羽三山，有時還能吃到魚類。

遊客可以在鶴岡市郊外的手向宿坊街享用精進料理，細細品味出羽三山的飲食文化傳統。這裡是日本第一個獲得聯合國教科文組織創意城市網路（UNESCO Creative City）認定的「世界美食之都」。

<日本語仮訳>

出羽三山精進料理

「出羽三山」—羽黒山（414メートル）・月山（1,984メートル）・湯殿山（1,504メートル）の3つの霊峰の周辺では、精進料理を中心とした豊かな食文化が発展した。この料理は山伏たち（修験道の実践者、修験者とも言う）によって伝統的に食されていたもので、地元で自生する野菜や、山で収穫された山菜などが食材として使われており、心身を清める修行の一環であった。精進料理は、山で修行中に食されていた素朴なものから、一般的に食される洗練された変化に富んだ料理へと進化して広がっていった。

精進料理作りは、山での食材の採取から調理・保存のための下ごしらえを含む作業から始まる。野生の山菜は、美味しくいただけるようにするために「浸す」「洗う」「下茹でする」など、気を配った下ごしらえが必要となる。食材によっては季節の旬として生のまま食されるものもあるが、塩漬けにして、その年の後半に食べる食材もある。山形県は、長く厳しい冬と降雪量の多さから、食材の採取や農作業を行える季節に限りがあるため、広範な食品の保存技術が発達した。

出羽三山周辺の宿坊（参拝者や修行者のために造られた宿泊施設）や伝統的な旅館の多くでは、滞在客に精進料理を提供している。羽黒山の元寺院である「齋館」は、現在一般の方々にも宿泊と食事サービスを提供している（要予約）。宿坊では料理法が何世代にもわたって受け継がれており、それぞれに独自のスタイルと味わいがある。葛粉とすり胡麻を使って作られた胡麻豆腐は、出羽三山精進料理の定番である。日本各地の精進料理は通常、野菜のみが使われているが、出羽三山の精進料理では時折魚が振る舞われる。

旅行者は、日本で初めてユネスコの「食文化創造都市」に認定された、鶴岡市郊外の宿坊が建ち並ぶ街、「手向」の精進料理を通して、出羽三山の食の伝統を体験することができる。

【タイトル】 羽黒山の杉並木

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**羽黒山の柳杉道**

苍劲古老的柳杉夹道而立，饱经风霜的石阶路沿着神圣的羽黒山（414 米）蜿蜒而上。这条朝圣之路从山脚的随神门出发，一直通往山顶的神社建筑群（从前的寺院建筑群），途中经过多处历史建筑，包括已被指定为国宝的五重塔。

从随神门到山顶全程 2 公里，大约需要 1 小时。沿路的柳杉大都已有约 400 年树龄，是羽黒山寺院的第五十任“别当”天宥（卒于 1674 年；“别当”是统辖寺院事务的僧官）命人种植的。天宥为羽黒山信仰的发展和普及做出了卓越贡献，这条山路也是他在 17 世纪时下令修建的。

道路沿途经过许多小神社和灵场，包括一座质朴无华的五重塔和它旁边的千年柳杉。五重塔的历史可以追溯至平安时代(794-1185)，但通常认为现存宝塔建于 14 世纪。塔往往与佛教有关，常见于佛寺中。

五重塔旁的柳杉名叫“爷杉”，树干最大周长约 10.5 米，人们相信它已存活了上千年。这是羽黒山上最高、最大的一棵柳杉，和山上众多柳杉一起被指定为日本天然纪念物。树上还挂着名叫“注连绳”的神圣草绳。

这种圣绳由稻草或麻搓制而成，饰有形如闪电的锯齿状白纸条（纸垂）。注连绳广泛应用于神道教中，以标记神明依附之处。羽黒山上这种佛教与神道教共存的现象所体现的，正是 19 世纪以前两种宗教在日本交融的“神佛习合”。在过去长达 1000 多年的时间里，许多神道教神明都曾被视为佛教神明的化身。

这条总计 2446 级台阶的石阶路与柳杉道相互辉映，获得了《米其林日本绿色指南》的三星评定。

<繁体字>**羽黒山の柳杉道**

飽經風霜的石階路沿著神聖的羽黒山（414 公尺）蜿蜒而上，蒼勁古老的柳杉夾道而立。這條朝聖之路自山腳的隨神門出發，直通山頂的神社建築群（從前的寺院建築群），途中會經過多個歷史建築，包括已被指定為國寶的五重塔。

從隨神門到山頂大約需要 1 小時，全程 2 公里。沿途的柳杉多為樹齡約 400 年的老樹，由羽黑山寺院の第五十任「別當」天宥（卒於 1674；「別當」是統轄寺院事務の僧官）命人種植。天宥對羽黑山信仰的發展與普及貢獻卓著，這條山路也是他於 17 世紀下令修築的。

山路沿途會經過許多小神社和靈場，像是一座質樸無華的五重塔及其旁的千年柳杉。五重塔の歴史可以追溯至平安時代（794-1185），但一般認為現存這座建於 14 世紀。塔與佛教多有關聯，常見於佛寺中。

五重塔旁的柳杉名叫「爺杉」，樹幹最大周長約 10.5 公尺，相傳已存活上千年，是羽黑山上最高、最大的一棵柳杉，與山上眾多柳杉一起被指定為日本天然紀念物。樹上還掛著名叫「注連繩」的神聖草繩。

這種聖繩以稻草或麻搓製而成，飾有閃電形的鋸齒狀白紙條（紙垂）。注連繩在神道教中廣泛使用，用以標示神明的所在。羽黑山上佛教與神道教並存的景象，正是體現出了 19 世紀以前兩者融合的「神佛習合」。當時神道教的諸多神明都被視為佛教神明的化身，這樣的觀念曾經持續了長達 1000 多年。

這條石階路共有 2446 級台階，與柳杉道相互輝映，獲得了《米其林日本綠色指南》的三星評定。

<日本語仮訳>

羽黒山の杉並木

杉の古木の並木に沿って、長年風雨にさらされた石段が、霊峰羽黒山（414 メートル）の山腹を縫うように続いている。山の麓に位置する隨神門から山頂にある神社の社殿（旧寺院の社殿）まで続くこの道の途中には、国宝に指定されている五重塔などを始めとした、歴史的建造物が佇んでいる。

隨神門から山頂までの 2 キロメートルの道のりは、1 時間ほどかかる。この道を取り囲む杉のほとんどは樹齡約 400 年にもなり、羽黒山にあった寺院の 50 代目別当である天宥（没年 1674、別当とは寺務を統轄する長官のこと）の指示により植樹されたものである。天宥は、羽黒山信仰の發展と普及に非常に大きく貢献し、17 世紀にはこの参道の敷設を命じている。

道中には五重塔や、その近くにそびえる樹齡 1,000 年の杉の木などをはじめ、小さな神社や靈場が数多く存在する。この場所には平安時代（794-1185）から五重塔が立っているが、今ある塔が建てられたのは 14 世紀であると考えられている。塔は通常仏教と関連づけられ、寺院の境内で見られる。

五重塔の近くの「爺杉」は樹齡 1,000 年以上とされており、幹の最大周囲は 10.5 メートルにも及ぶ。この杉は、羽黒山で最も大きく樹高の高い杉であり、山中の他の多くの杉と共に日本の天然記念物に指定されている。この杉には、神聖な縄「注連縄」が掛けられている。

この注連縄は藁や麻で作られており、紙垂というジグザグの稲妻のような形をした白紙が施されてい

る。注連縄は神道で幅広く使用されているもので、神の依代とされる場を示すために用いられる。羽黒山における仏教と神道の共存は、19 世紀前の日本の神仏習合の名残を感じさせるものである。1,000 年以上にわたり、多くの神は仏教の仏の化身とされてきた。

この 2,446 段の石段と杉の並木は、ミシュラン・グリーンガイド・ジャポンで 3 つ星を獲得している。

【タイトル】 出羽三山神社

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

出羽三山神社

出羽三山神社是一个合称，包括三座供奉出羽三山诸峰神明的神社，分别是羽黑山（414米）的出羽三山神社（原出羽神社）、月山（1984米）的月山神社、汤殿山（1504米）的汤殿山神社。三神合祭殿位于羽黑山，是三座灵山的神明一同接受供奉的地方。蜂子皇子(562-641)也安葬在这里，他被认定为出羽三山宗教修行活动的开山祖师。

这一系列神社共同维护着出羽三山悠久的宗教信仰传统。羽黑山是三座灵峰中最低矮的一座，全年可访。来到这里，可以深入了解三座灵峰的相关精神文化传统。

羽黑山神社参拜亮点

三神合祭殿位于羽黑山峰顶附近，在这里，人们一次就能参拜出羽三山的三位神明。前往神社可搭乘公交，但许多来访者都选择沿山间石阶路步行登山。这条全长 2 公里的山路从山脚的随神门开始，蜿蜒穿行于神社地界内。道路两侧苍劲古老的柳杉挺立成行，“爷杉”是其中最高大、最古老的一棵，已有逾千年树龄。这条总计 2446 级台阶的石阶路与柳杉道一起，获得了《米其林日本绿色指南》的三星评定。

爷杉旁矗立着一座五重塔。如今很少能在神社内见到类似这样的佛教旧物，因为它们大多都在明治政府(1868-1912)于 1868 年推行的宗教改革中被移除甚至拆毁了。这座佛塔的历史可以追溯至 14 世纪，如今已被指定为国宝。

沿着小路继续前行便到了“斋馆”，这座从前的佛寺如今供应出羽三山精进料理。这是一种山伏（修验道的苦行僧，也称修验者）的传统饮食，其特色在于使用本地蔬菜和山间采摘的野菜烹制。来访者可以在斋馆品尝精进料理，就餐须预约。

过了斋馆，小路继续向前，可依次抵达三神合祭殿和曾出土古铜镜的御手洗池。这些铜镜很可能是平安时代(794-1185)常见的供品，它们的发现让御手洗池又被称为“镜池”。

镜池前方、靠近山顶的地方坐落着蜂子皇子的墓所。他是崇峻天皇（日本第 32 任天皇；587-592 在位）之子，也是出羽三山宗教信仰故事中的核心人物。这处陵墓如今由宫内厅负责维护管理。

每年有好几个月的时间，月山和汤殿山都会因大雪封山而无法通行。只有羽黑山因为海拔最低，降雪较少，全年均可到访。

<繁體字>

出羽三山神社

出羽三山神社是一個合稱，包括三座供奉出羽三山諸峰神明的神社，分別為羽黑山（414 公尺）的出羽三山神社（原出羽神社）、月山（1984 公尺）的月山神社、湯殿山（1504 公尺）的湯殿山神社。三神合祭殿位於羽黑山，是三座靈山的神明一同接受供奉的地方，被視為出羽三山宗教修行活動開山祖師的蜂子皇子（562-641）也安葬在此處。

來到這裡，可以深入了解三座靈峰的相關精神文化傳統。這一系列神社共同維護著出羽三山悠久的宗教信仰傳統。羽黑山全年可訪，是三座靈峰中最低矮的一座。

羽黑山神社參拜亮點

三神合祭殿位於羽黑山峰頂附近，在這裡，人們一次就能參拜出羽三山的三位神明。搭乘公車就可以前往神社，但許多遊客會選擇沿山間石階路步行登山。這條山路從山腳的隨神門開始，蜿蜒穿行於神社地界內，全長 2 公里。道路兩側蒼勁古老的柳杉挺立成行，其中最高大、最古老的一棵名為「爺杉」，已有逾千年樹齡。這條總計 2446 級台階的石階路與柳杉道一起，獲得了《米其林日本綠色指南》的三星評定。

爺杉旁矗立著一座五重塔，其歷史可以追溯至 14 世紀，已被指定為國寶。如今已經很少能在神社內見到類似這樣的佛教舊物，因為它們大多都在明治政府（1868-1912）於 1868 年推行的宗教改革中被移除甚至拆毀了。

沿著小路繼續前行便到了「齋館」。這座從前的佛寺現在供應出羽三山精進料理。這是一種山伏（修驗道的苦行僧，也稱修驗者）的傳統飲食，其特色在於使用當地蔬菜和山間採摘的野菜烹製。只要提前預約，遊客也可以在齋館品嚐精進料理。

過了齋館，小路繼續向前，可依序抵達三神合祭殿和曾出土古銅鏡的御手洗池。這些銅鏡很可能是平安時代（794-1185）常見的供品，它們的發現讓御手洗池又被稱為「鏡池」。

鏡池前方、靠近山頂的地方坐落著蜂子皇子的墓所。他是出羽三山宗教信仰故事中的核心人物，也是崇峻天皇（日本第 32 任天皇；587-592 在位）之子。這處陵墓如今由宮內廳負責維護管理。

月山和湯殿山在一年當中的好幾個月都會因大雪封山而無法通行。只有羽黑山因為海拔最低，降雪較少，全年均可到訪。

<日本語仮訳>

出羽三山神社

出羽三山神社とは、出羽三山それぞれの神を祀る、各山に設けられた三社の神社の総称である。羽黒山（414メートル）の出羽三山神社（元々は出羽神社）、月山（1,984メートル）の月山神社、湯殿山（1,504メートル）の湯殿山神社。三山全ての神を祀った社殿である三神合祭殿は、羽黒山にある。羽黒山には、出羽三山を信仰の場として開山したとされる蜂子皇子（562-641）の墓所もある。

これらの神社は、共に長年にわたる出羽三山の信仰の伝統を継承している。羽黒山は、三山の中で最も標高が低く、一年を通して訪れることが可能である。この山を訪れることで、三山にまつわる精神文化・伝統を感じることができる。

羽黒山の境内参拝の見どころ

三神合祭殿は羽黒山の山頂近くにあり、ここでは出羽三山全ての神々を一箇所で参拝することができる。バスで行くこともできるが、多くの参拝者は、石畳の参道を進み山腹を登ることを選ぶ。2キロメートルにも及ぶこの道は、山の麓の随神門から始まり、境内に広がる杉の古木の並木の間を縫うように延びている。「爺杉」は最も樹高が高く、最も古い杉で、その樹齢は1,000年以上にもなる。なお、この2,446段の石段と杉の並木は、ミシュラン・グリーンガイド・ジャポンで3つ星を獲得している。

爺杉の近くには五重塔が佇んでいる。1868年に明治政府（1868-1912）が行なった宗教改革により仏跡のほとんどが撤去・破却されたため、現在、このような仏跡が神社の敷地内にあるのは珍しい。この五重塔は14世紀に建てられたもので、国宝に指定されている。

参道をさらに進んだ先にあるのが、「斎館」である。元々は寺院だったこの建物では、現在、出羽の山伏たち（修験道の実践者、修験者とも言う）が伝統的に食してきた「出羽三山精進料理」を提供している。この料理の食材には在来作物の野菜や、山々から採れた山菜などが使用されている。斎館を訪れた人々はこちらで精進料理をいただくこともできるが、事前の予約が必要となる。

斎館から参道はさらに続き、三神合祭殿、そして古い銅の鏡が発見された御手洗池へと続く。これらの鏡は、平安時代（794-1185）には一般的であったとされる風習から、供物として奉納されていたと考えられている。鏡の発見により、御手洗池は「鏡池」の名前でも知られている。

鏡池の先の山頂近くにあるのが、蜂子皇子の墓所である。彼は、崇峻天皇（日本の第32代天皇：在位587-592）の皇子であり、出羽三山における信仰の物語の中心的人物である。この墓所は、宮内庁によって管理されている。

月山と湯殿山の聖地は、豪雪により毎年数ヶ月の期間、立ち入りができなくなる。羽黒山は、三山の中で最も標高が低いことから、比較的降雪量も少ないため、一年中訪れることができる。

【タイトル】 羽黒山荒澤寺正善院

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

羽黒山荒澤寺正善院

荒澤寺正善院是“羽黒修験道”的总本山（总部），羽黒修験道是一种在“出羽三山”——羽黒山（414 米）、月山（1984 米）、汤殿山（1504 米）——进行苦行修炼的古老信仰。寺院供奉大慈大悲观世音菩萨，至今依然沿袭着 1868 年明治政府(1868-1912)宗教改革之前的出羽三山精神文化传统。造访荒澤寺正善院，可以一窥改革前这片山区的宗教风貌。

宗教改革前后的出羽三山

在 19 世纪的宗教改革以前，神道教神明与佛教神明之间的区分并不像今天这样分明，甚至，神道教神明还会被视为佛教神明的化身（权现）而受到供奉。然而，改革的目的是拆分神道教和佛教，在两种宗教间划出清晰的分界线。许多山间佛寺因此关闭或被毁，另一些则在移除佛像、经书、卷轴后变成了神社。羽黒山寂光寺的本堂（正殿）成了出羽三山神社的三神合祭殿，寺内供奉的主佛像都转移到了荒澤寺正善院中，这是宗教改革后当地仅存的少数几座佛寺之一。

黄金堂与文化遗产保护

荒澤寺正善院的黄金堂是羽黒山现存最古老的建筑，堂内存放着来自寂光寺和羽黒山上其他佛寺的主佛像。这里汇集了平安时代(794-1185)、镰仓时代(1185-1333)、室町时代(1392-1573)等各个不同时期的佛教艺术品，其中最重要的藏品包括大慈大悲观世音菩萨像（羽黒山供奉）、无量光之佛阿弥陀佛像（月山供奉）、密宗宇宙之佛大日如来像（汤殿山供奉）等。它们均来自寂光寺，与一组 33 尊贴金观音像供奉在一起，这也是“黄金堂”之名的由来。黄金堂现已被指定为国家重要文化财产。

羽黒修験道

荒澤寺正善院承袭寂光寺的职责，在 19 世纪成为了羽黒修験道的总本山。这座寺院为纪念神圣的苦行者“能除”（生卒年不详）而建。他被视为出羽三山宗教信仰的奠基者，有记载称其当年曾在山中苦修，拥有超凡的力量。

數百年以來，出羽三山一直是能除這樣的山伏（修驗道的苦行僧，也稱修驗者）的修行靈場，他們在這裡完成嚴苛的精神修煉。荒澤寺正善院至今保留著這份傳統，延續著“入峰修行”（山間儀式）等修驗道儀軌，从古至今，幾乎沒有改變。依照傳統，入峰修行儀式每年按照季節舉辦四次，其中包括要在靈山進行長時間的修行訓練。“秋之峰”在秋季舉辦，是荒澤寺正善院最重要的入峰修行儀式，所有規程依舊遵循 19 世紀宗教改革前的儀軌。這項儀式與“生—死—重生”的輪回有著密切關係。

〈繁體字〉

羽黑山荒澤寺正善院

荒澤寺正善院是「羽黑修驗道」的總本山（總部），羽黑修驗道是一種在「出羽三山」——羽黑山（414 公尺）、月山（1984 公尺）以及湯殿山（1504 公尺）裡進行苦行修煉的古老信仰。寺院供奉大慈大悲觀世音菩薩，至今依然沿襲著 1868 年明治政府（1868-1912）宗教改革之前的出羽三山精神文化傳統。來到荒澤寺正善院，可以一窺變革前這片山區的宗教風貌。

宗教改革前後的出羽三山

在 19 世紀的宗教改革以前，神道教神明與佛教神明之間的區分並不像如今這樣分明，神道教的神明甚至還會被視為佛教神明的化身（權現）而受到供奉。然而，改革的目的就是在兩種宗教間劃出清晰的分界線，拆分神道教和佛教。許多山間佛寺在移除佛像、經書、卷軸後變成了神社，另一些則關閉或被毀。羽黑山寂光寺的本堂（正殿）成了出羽三山神社的三神合祭殿，寺內供奉的主佛像都轉移到了荒澤寺正善院中，後者是宗教改革後當地保留的少數幾座佛寺之一。

黃金堂與文化遺產保護

荒澤寺正善院的黃金堂是羽黑山現存最古老的建築，堂內存放著來自寂光寺和羽黑山上其他佛寺的主佛像。這裡匯集了不同時期的佛教藝術品，包括平安時代（794-1185）、鎌倉時代（1185-1333）、室町時代（1392-1573）等，其中最重要的藏品有大慈大悲觀世音菩薩像（羽黑山供奉）、無量光之佛阿彌陀佛像（月山供奉）、密宗宇宙之佛大日如來像（湯殿山供奉）等。這些藏品全部來自寂光寺，與一組共 33 尊貼金觀音像供奉在一起，這也是「黃金堂」之名的由來。黃金堂現已被指定為國家重要文化財產。

羽黑修驗道

荒澤寺正善院承襲了寂光寺的職責，在 19 世紀成為了羽黒修驗道の總本山。這座寺院為記念神聖的苦行者「能除」（生卒年不詳）而建。有記載稱能除曾在山中苦修，擁有超凡的力量，他被視為出羽三山宗教信仰的奠基者。

數百年以來，出羽三山一直是能除這樣的山伏（修驗道の苦行僧，也稱修驗者）的修行靈場，他們在這裡完成嚴苛的精神修煉。荒澤寺正善院至今保留著這份傳統，延續著「入峰修行」（山間儀式）等修驗道儀軌，從古至今，幾乎沒有改變。依照傳統，入峰修行儀式每年按照季節舉辦四次，其中包括在靈山進行長時間的修行訓練。「秋之峰」是荒澤寺正善院最重要的入峰修行儀式，在秋季舉辦，所有規程依舊遵循 19 世紀宗教改革前的儀軌。這項儀式與「生—死—重生」的輪回有著密切關係。

<日本語仮訳>

羽黒山荒澤寺正善院

荒澤寺正善院は、靈峰の羽黒山（414メートル）・月山（1,984メートル）・湯殿山（1,504メートル）の総称「出羽三山」にて、厳しい修行を実践する古来の伝統である「羽黒修驗道」の総本山である。この寺院では慈悲の菩薩である観音が祀られており、また、1868年の明治政府（1868-1912）による宗教改革以前の出羽三山の世界文化・伝統が守り続けられている。荒澤寺正善院を訪れることで、この山の宗教改革以前の宗教事情を垣間見ることができる。

宗教改革以前とそれ以降の出羽三山

19 世紀の宗教改革以前は、現在と比べて神道の神と仏教の神の区別は少なく、さらに神道の神は時として、仏教の神の化身（権現）として崇拝された。しかし、宗教改革では神道と仏教を分け、宗教間により明確な区別をつけることを目指した。山々にあった数多くの寺院は廃寺、または破却され、いくつかの寺院は、仏像や経典、掛け軸などが排除されたのち神社へと姿を変えた。羽黒山の寂光寺の本堂は、出羽三山神社の三神合祭殿となった。寂光寺の御本尊は、この宗教改革を乗り越えた数少ない寺院の一つである荒澤寺正善院へと移された。

黄金堂と文化財の保持

現存する羽黒山内の建築物で最も古い荒澤寺正善院の黄金堂には、寂光寺や羽黒山の他の寺院から移された御本尊が安置されている。収蔵物は、平安時代（794-1185）や鎌倉時代（1185-1333）、室町時代（1392-1573）などを含む、様々な異なる時代の仏像などから構成されている。最も重要な収蔵物の中には、寂光寺の慈悲の菩薩である観音菩薩像（羽黒山で祀られていた）や無量光仏である阿弥陀如来像（月山で祀られていた）、密教の宇宙の仏陀である大日如来像（湯殿山で祀られていた）がある。これらは寂光寺からのもので、33 体の金箔押をされた聖観世音菩薩と共に安置されており、これがお堂の名前の由来となっている。黄金堂は国の重要文化財に指定されている。

羽黒修験道

荒澤寺正善院は寂光寺からその役割を継承し、19 世紀に羽黒修験道の総本山となった寺院である。この寺院では、神聖な行者であった能除（生没年不詳）を出羽三山における信仰の祖として崇拝している。記録によると、この行者は山中で修行していたとされており、また、彼は超人的な能力を持っていたとされている。

数世紀にわたり出羽三山は、能除のように厳しい精神修養に励む山伏（修験道の実践者、修験者とも言う）の修行の場であった。荒澤寺正善院ではこの遺産を守り、峰入り（山での儀式）などといった修験道の伝統を、古来よりほとんど変わらない形で現在に継承している。伝統的に峰入りは年に4 回、各季節に行われ、それには神聖な山々での長期にわたる修行も含まれる。秋の峰は、荒澤寺正善院で最も重要な峰入りである。秋に行われる「秋の峰」は、19 世紀に行われた宗教改革以前のものと同様に行われ、「誕生・死・生まれ変わり」のサイクルと密接に関係している。

地域番号	011	協議会名	豊後高田市多言語解説協議会

解説文一覧

NO.	スポット名（タイトル）	中国語文字数	想定媒体
011-001	豊後高田市	425	WEB
011-002	豊後高田の四季の楽しみ方	295	WEB
011-003	長崎鼻リゾートキャンプ場	770	WEB
011-004	花の岬オイル	340	WEB
011-005	長崎鼻のアート作品群	560	WEB
011-006	長崎鼻ビーチリゾート	220	WEB
011-009	夷谷の風景	690	WEB
011-010	東夷の寺社群	315	WEB
011-011	六所神社	160	WEB
011-012	夷谷温泉と寒晒しそば	285	WEB
011-013	鬼会の里 歴史資料館	680	WEB
011-014	天念寺耶馬と無明橋	415	WEB
011-038	豊後高田昭和の町	610	WEB
011-039	豊後高田昭和の町：食べ歩き	280	WEB
011-040	豊後高田昭和の町：一店一宝	240	WEB
011-041	豊後高田昭和の町：一店一品	255	WEB
011-044	昭和ロマン蔵	795	WEB
011-045	昭和ロマン蔵：ボンネットバスツアー	205	WEB
011-046	昭和ロマン蔵：駄菓子屋の夢博物館	370	WEB
011-047	昭和ロマン蔵：昭和の夢三丁目館	360	WEB
011-048	昭和ロマン蔵：チームラボギャラリー昭和の町	390	WEB
011-049	昭和時代と豊後高田昭和の町	770	WEB

【タイトル】 豊後高田市

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**丰后高田市**

大分县的丰后高田市位于日本第三大岛“九州岛”的东北沿海地区、国东半岛西北部，面对周防滩，西邻宇佐市，东接国东市。这座城市同时属于濑户内海国立公园和国东半岛县立自然公园，周边有许多探索大自然的好去处。这里夏无酷暑，冬无严寒，全年均有降水且天热时降水更多，气候舒适宜人。当地土壤富含矿物质，盛产各种农作物，比如以臭橙(kabosu)为代表的柑橘类水果和大葱等蔬菜。

丰后高田既有漫长的海岸线，也有形态独特的山地，地形复杂多样。沿海地区有长崎鼻、真玉海岸等热门景点，交通十分便捷，且提供多种水上活动。山区“夷”一带风光秀美，别具特色。靠近市中心的“丰后高田昭和之町”则再现了昭和时代(1926-1989)中期商店街的风貌。

位于国东市的大分机场是距离丰后高田市最近的机场，搭乘巴士或汽车到市中心约需1小时。最近的火车站是JR宇佐站，大约10分钟车程，JR日丰本线的特急音速号经停该站。位于大分市内的大分站有特急列车开往宇佐，车程约39分钟。

<繁体字>**豊後高田市**

大分縣的豊後高田市位於日本第三大島「九州島」的東北沿海地區、國東半島的西北部，面對周防灘，西鄰宇佐市，東接國東市。它同時被劃入瀨戶內海國立公園和國東半島縣立自然公園，周邊有許多探索大自然的好去處。這座城市夏季不酷熱、冬季不嚴寒，全年皆有降水，且在盛夏時節的降水量更多，氣候宜人。這裡的土壤礦物質含量豐富，盛產各種農作物，像是以香母酢(kabosu)為代表的柑橘類水果和大蔥等蔬菜。

豊後高田的地形多樣，既有綿延的海岸線，也有山形奇特的高地。沿海地區有長崎鼻、真玉海岸等熱門地點，交通十分便捷，水上活動選擇豐富。山區「夷」一帶風光秀美，別具特色。靠近市中心的「豊後高田昭和之町」則重現了昭和時代（1926-1989）中期商店街的風貌。

距離豊後高田市最近的機場是位於國東市的大分機場，從機場搭乘客運或汽車到市中心約需 1 小時。最近的火車站是 JR 宇佐站，距豊後高田約 10 分鐘車程，JR 日豊本線の特急音速號經停此站。自大分市內的大分站搭乘特急列車前往宇佐，車程約 39 分鐘。

<日本語仮訳>

豊後高田市

大分県豊後高田市は、日本で 3 番目に大きい島である九州の北東の海岸にあり、周防灘に面しています。国東半島の北西部にあり、西に近接した宇佐市と、東の国東市の間にあります。豊後高田市は、瀬戸内海国立公園と国東半島県立自然公園の一部であり、手近な場所で自然を大いに楽しむ機会に恵まれています。夏は暖かく、冬は穏やかで、通年で雨が降り、暖かい月の降雨量の多さは、心地よい気候を作り出しています。この地域の土壌はミネラルが豊富で、かぼすなどの柑橘類や白ねぎなどの野菜を含め、農作物が豊かに実ります。

豊後高田の地形は、長い海岸線から高地にある独特の形状をした山地までさまざまです。沿岸地区には長崎鼻や真玉海岸など、ビーチへアクセスしやすいでさまざまな水遊びを楽しめる人気スポットがあります。山地には、夷周辺の一風変わった美しい景色もあります。市の中心部近くには、昭和（1926-1989）中頃の商店街を彷彿とさせる「豊田高田昭和の町」があります。

最寄りの空港は、国東市にある大分空港で、豊後高田市の中心部まで車かバスで 1 時間ほどです。最寄りの鉄道駅は豊後高田から車で 10 分の JR 宇佐駅で、JR 日豊本線の特急ソニックを利用できます。大分市にある大分駅から宇佐までは特急で約 39 分です。

【タイトル】 豊後高田の季節の楽しみ方

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**丰后高田の四季之趣**

丰后高田气候温和，风景优美，四季都很适宜旅行。春天尤为怡人，还有很多赏樱的好去处。通往海边神社“栗嶋社”的道路就是其中之一，沿途樱花树排列成行，每年都吸引着大量游人前往。此外，在长崎鼻度假村营地还能看到油菜花海。

这里海滩众多，夏季最适合前往海边享受徐徐海风，体验游泳、桨板瑜伽等水上运动。对于想要在炎炎夏日里待在水边的人来说，长崎鼻海滩度假村是绝佳选择，度假村提供海滨露营拖车，并设有烧烤区。秋天，丰后高田秋叶绚烂，色彩缤纷，尤以夷谷周边的景色最盛。冬季通常不会降雪，但气温会明显下降，保暖衣物依然必不可少。丰后高田天然温泉众多，推荐您挑一个泡一泡，既可取暖，又能放松身心。

<繁体字>**豐後高田の四季之趣**

豐後高田氣候溫和、風景優美，一年四季都適合旅行。特別在春天，不但氣候最宜人，還有很多賞櫻好去處。通往海邊神社「栗嶋社」的道路就是其中之一，沿途櫻花樹排列成行，每年都吸引著大量遊人前往。此外，在長崎鼻度假村營地還能看到大片油菜花海。

這裡有許多海灘，夏季徐徐海風吹來，游泳、槳板瑜伽等水上運動都很受歡迎。如果在酷熱夏日裡想待在水邊，長崎鼻海灘度假村是絕佳選擇，這裡的度假村提供海濱露營拖車，還設有燒烤區。秋天，豐後高田秋葉絢爛，色彩繽紛，夷谷周邊景色尤其美麗。這裡冬天通常不會降雪，但氣溫明顯下降，所以務必穿著保暖衣物。豐後高田有許多天然溫泉，推薦您挑一處體驗，在冬日裡不但能取暖，還能夠放鬆身心。

<日本語仮訳>**豊後高田の四季の楽しみ方**

この地域の穏やかな気候と美しい風景のおかげで、豊後高田は年間を通して訪れるのに理想的な場所です。春は特に気候が良く、桜を楽しめる素晴らしいエリアが数多くあります。海辺の神社「栗嶋社」へと続く道に沿って並んでいる広い桜並木は毎年訪れる人を楽しませています。長崎鼻リゾートキ

キャンプ場は春に黄色い菜の花畑を眺めるのに良い場所です。

豊後高田の夏は、この地域の数多くのビーチで心地よい風を楽しむのに最適で、水泳や SUP ヨガなどのウォーター・アクティビティに適しています。長崎鼻ビーチリゾートのキャンプ場は、暑い夏に水の近くに滞在したい人には最適なチョイスで、海辺のキャンピング・トレーラーやバーベキューピットが用意されています。秋にはこの地域の、特に夷谷周辺の山々の木の葉は色とりどりに見事に紅葉します。この地域では通常冬にほとんど雪は降りませんが、天候は大幅に冷え込むので、温かい服が必須です。豊後高田の数多くの天然温泉のひとつで一風呂浴びることは、快適で温まる冬のアクティビティです。

【タイトル】 長崎鼻リゾートキャンプ場

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**长崎鼻度假村营地**

风光如画的长崎鼻度假村营地坐落于长崎鼻海岬的最前端，面向周防滩。风和日丽时，从丰后高田市区开车沿海岸线前往度假村营地，一路风景都十分秀丽。若是赶上天清气朗的日子，近处的姬岛和远处山口县的岛屿都清晰可见。

营地里景观众多，活动全年不断，有海滩游乐、季节性的花卉展览、各种装置艺术品的展示，以及其他海滨活动。春天，大约 2700 万株油菜花将长崎鼻的田野化作黄色的海洋。到了夏天，又有 160 万株向日葵绽放。九州不乏背靠大海的公园，但这两处花田的规模最大。来访者可以在营地餐厅里一边用餐一边欣赏海景，也可以选购各种使用本地菜籽油和葵花籽油加工的产品。

在度假村营地能看到许多著名的装置艺术作品，它们出自小野洋子（1933- ；披头士乐队主唱约翰·列侬的遗孀）和韩国艺术家、设计师崔正化(1961-)等多名日本海内外艺术家之手。这片营地是 2014 年国东半岛艺术节的一处会场，当时两位艺术家的作品就在此展出，备受瞩目。自那以后，营地内又陆续新增了许多别的艺术装置。

度假村营地提供丰富的住宿选择，包括独栋小别墅、独立平房、小木屋、帐篷营地等。旁边的长崎鼻海滩度假村配有露营拖车和烧烤设施，并提供立式桨板(SUP)出租等诸多水上活动配套服务。

站在长崎鼻的“鼻尖”上，能看到这一地区最美的几处风景。一望无际的海景，尤其是令人难忘的日落美景，足以让这趟旅程物超所值。附近有岩礁和连接陆地的小岛“马之濑”——后者得名于它类似马背的独特形状。退潮时，无需涉水便可登上小岛。

长崎鼻还有一处与众不同的景点，名叫“行者洞穴”，是海水经年累月侵蚀海岬基岩形成的。这处海岬共有大约 20 个海蚀洞窟，行者洞穴是其中最大一个，修验者（融合了日本自古以来的山岳信仰与佛教密宗、道教的修验道的修行者，也称“山伏”）常会来此修行。该洞穴现已被指定为大分县天然纪念物。

<繁体字>**長崎鼻度假村營地**

長崎鼻度假村營地座落於長崎鼻海岬的尖端，面向周防灘，風光如畫。天晴時候，從豐後高田市區開車沿著海岸線前往度假村營地，一路都是好風景。如果趕上天清氣朗的日子，近處的姬島和遠處山口縣的島嶼都清晰可見。

營地有不少景觀，活動全年不斷，可以欣賞季節性的花卉展覽、各種裝置藝術品，也可以體驗海灘與海濱活動。春季，2700 萬株油菜花將長崎鼻的田野化作黃色的海洋；到了夏天，又有 160 萬株向日葵綻放。在九州背靠大海的公園中，這兩處花田的規模最大。遊客可以在營地的餐廳裡一邊用餐，一邊欣賞海景，也可以選購各種使用當地菜籽油和葵花籽油加工的產品。

在度假村營地裡能看到許多著名的裝置藝術作品，它們出自小野洋子（1933- ；披頭四樂隊主唱約翰・藍儂的遺孀）和韓國藝術家兼設計師崔正化（1961- ）等多名藝術家之手。這片營地是 2014 年國東半島藝術節的一處會場，兩位藝術家的作品當時在這裡展出，備受矚目。自那之後，營地又陸續新增了別的藝術裝置。

如果想要住宿，從獨棟小別墅、獨立平房、小木屋到帳篷營地，度假村營地的選擇豐富。旁邊的長崎鼻海灘度假村有露營拖車和燒烤設施，還提供立式槳板（SUP）出租等多種水上活動配套服務。

站到長崎鼻的「鼻尖」上，可以欣賞這一地區最美的幾處風景。全方位海景，尤其是美不勝收的日落景象，足以讓旅程物超所值。附近有岩礁，還有連接陸地的小島「馬之瀨」，因其類似馬背的獨特形狀而得名。退潮時，無需涉水便可直接走上小島。

長崎鼻還有一處特別的景點，由海水經年累月侵蝕海岬基岩形成，名叫「行者洞穴」。這處海岬共有大約 20 個海蝕洞窟，行者洞穴是其中最大一個，常被修驗者（融合了日本自古以來的山嶽信仰與佛教密宗、道教修驗道的修行者，也稱「山伏」）用作修行地，現在已被指定為大分縣天然紀念物。

＜日本語仮訳＞

長崎鼻リゾートキャンプ場

風光明媚な長崎鼻リゾートキャンプ場は、周防灘に面し、長崎鼻の岬の先端に位置しています。天気の良い日には、豊後高田市からリゾートへ海沿いをドライブすると美しい景色が楽しめ、視界がよい日にはキャンプ場から近くの姫島や遠くの山口県の島々を見ることができます。

リゾートでは、ビーチ、季節の花の展示、アートのインスタレーション、その他の海辺のアクティビティなど、数多くの見所や年間通じてアクティビティがあります。春には約 2700 万本の菜の花が長崎鼻の野原を黄色い海へと変え、夏には約 160 万本の見事なヒマワリが咲き、海を背景とした公園としてはいづれも九州最大級です。訪問客は、敷地内のレストランで食事をしながら海を眺めたり、地元で育てた菜の花とひまわりのオイルから作られた様々な製品を買うこともできます。

敷地内には、オノ・ヨーコ（1933- 、ビートルズのボーカルだったジョン・レノンの妻）や韓国人アー

ティスト、デザイナー、チェ・ジョンファ（1961- ）など国内外のアーティストによる注目すべきインスタレーションが数多く展示されています。このリゾートは 2014 年の国東半島芸術祭の会場のひとつで、この両名の作品が目玉となりました。他の多くのアートインスタレーションは芸術祭の翌年以降キャンプ場に追加されました。

リゾートではコテージ、バンガロー、ログハウス、テントサイトなど様々な宿泊施設を提供しています。近隣の長崎鼻ビーチリゾートではキャンピング・トレーラーも利用でき、ここではバーベキュー設備や、SUPなどのウォーター・アクティビティのレンタルも簡単に利用できます。

長崎鼻の先端に立てば、エリアで最高の景色のいくつかを楽しめます。海のパノラマの景色、特に日没時の風景は、旅を価値あるものにします。近隣には、岩礁と「馬ノ瀬」として知られる陸続きの島があります。その名前は馬の背を思い起こさせる独特の形からきています。干潮時には、濡れることなく島まで直接歩くことができます。

長崎鼻のもう一つの珍しいスポットは「行者洞穴」で、海水が岬の地形をゆっくりと侵食することで形成されました。岬の約 20 の海蝕洞穴のうち最大である行者洞穴は、修験者（日本古来の山岳信仰と、仏教の密教、道教などが融合して成立した宗教「修験道」を実践するものたち、山伏とも言う）の修行場としても使用され、大分県の天然記念物に指定されています。

【タイトル】 花の岬のオイル

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**“花之岬”の食用油**

長崎鼻以其一望无垠的油菜花海（春天）和向日葵花海（夏天）闻名。这两种植物皆属油料作物，种子收获后会被加工成各种食用油。所有花田都不使用农药，而油菜花更是纯正的日本本土品种“ななしきぶ(nanashikibu)”。

花之岬食用油在榨取过程中不使用化学溶剂，成品不含任何添加剂或化学成分，所有种子均经过加工处理，再使用传统的烘烤或压榨方式提取油脂。首先，菜籽或葵花籽被放入精心控温的大锅中烘烤；随后送去压榨，提取纯天然的植物油；再兑热水清洗，去除灰尘和其他杂质；最后使用日本和纸过滤后装瓶。整个加工过程中没有任何浪费，所有残余物都会被用作园艺肥料或家畜饲料。本地出品的无添加纯天然食用油有助于提升食材与菜肴的风味，在长崎鼻的许多餐厅和商店都可以免费品尝并购买。

<繁体字>**「花之岬」の食用油**

春天一望無垠的油菜花海和夏天的向日葵花海讓長崎鼻聲名在外。這兩種植物都屬於油料作物，種子收穫後會被加工成各種食用油。所有花田都沒有使用農藥，其中，油菜花是純正的日本本土品種「ななしきぶ（nanashikibu）」。

花之岬食用油在榨取過程中不使用化學溶劑，所有種子均經過加工處理，使用傳統的烘烤或壓榨方式提取油脂，成品不含任何添加劑或化學成分。菜籽或葵花籽首先會被放入精心控溫的大鍋中烘烤；隨後送去壓榨，提取純天然的植物油；再加入熱水清洗，去除灰塵和其他雜質；最後用日本和紙過濾裝瓶。整個加工過程中的所有殘餘物都會被用作園藝肥料或家畜飼料，不會浪費。這種當地生產的無添加、純天然食用油有助於提升食材和料理的風味，在長崎鼻的許多餐廳和商店都可以免費品嚐與購買。

<日本語仮訳>**花の岬のオイル**

長崎鼻は菜の花（春）とひまわり（夏）の広大な畑で知られ、両方とも様々な食用油を作った

めに種子が収穫されます。これらの花は全て農薬を使用せずに栽培され、菜の花は「ななしきぶ」という純国産種です。

花の岬の油は、種子油を抽出するための溶媒を使わず生産され、添加物や化学物質は含まれません。種は伝統的な焙煎と圧搾の手法を用いて加工され、油が抽出されます。種はまず、釜で注意深く制御された温度で焙煎され、それを圧搾して原油を抽出し、それからお湯で洗い、汚れやその他の不純物を除去します。その後、油は和紙で濾過され、瓶詰めされます。この過程で無駄になるものは何もなく、残ったものはガーデニング用肥料や家畜の飼料として利用されます。長崎鼻のレストランやショップで、食品や料理の風味を高めるのに適した地元産の各種無添加油を試したり購入したりすることができます。

【タイトル】 長崎鼻のアート作品群

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

长崎鼻的艺术作品

长崎鼻地区有许多出自国际知名艺术家之手的永久性艺术作品和装置作品。长崎鼻度假村营地曾经是“2014 国东半岛艺术节”香香地项目分会场，该项目展出了小野洋子（1933- ；披头士乐队主唱约翰·列侬的遗孀）、崔正化(1961-)等多位国际知名艺术家的作品。之后，日本本土艺术家的作品也陆续加入到这片地区。

长崎鼻最著名的两件艺术品当属《見えないベンチ》（看不见的长椅）和《念願の木》（愿望树），它们均出自美籍日本艺术家、社会活动家小野洋子之手。前者是一块平整的石头，参观者可以坐在上面，读着小野洋子的诗，享受静谧安宁的环境。后者是一件互动型作品，参观者可以写下愿望，挂到一棵小月桂树的枝条上。

韩国艺术家、设计师崔正化的作品《色・色・色》是一座金字塔状的小丘，安置在一片能够俯瞰长崎鼻地区和周边海域全景的山坡上。四周花田便是它五彩斑斓的背景，春、夏两季鲜花盛开时更加鲜明。

2016 年以来本地区新增的艺术品包括：藤本由纪夫(1950-)的《on the border～海を望む・海に臨む～》（在边界上～望海・面海～），这是一条面朝大海的玻璃长椅；森贵也(1981-)的装置艺术作品《Dream Egg》（梦之蛋）；户田裕介(1962-)的金属雕塑作品等。正是这一件件巧夺天工的艺术之作，让长崎鼻海岬成为了艺术爱好者的向往之地。

<繁体字>

長崎鼻的藝術作品

長崎鼻地區有許多永久性藝術作品和裝置作品，都出自國際知名藝術家之手。長崎鼻度假村營地曾經是「2014 國東半島藝術節」香香地分會場，當時展出了小野洋子（1933- ；披頭四樂隊主唱約翰・藍儂的遺孀）、崔正化（1961- ）等多位國際知名藝術家的作品。之後的幾年中，日本在地藝術家的作品也陸續加入。

長崎鼻最著名的兩件藝術品是《見えないベンチ》（看不見的長椅）和《念願の木》（願望樹），都出自美籍日本藝術家、社會運動家小野洋子之手。前者是一塊平整的石

頭，遊客可以坐在上面安靜地讀小野洋子的詩；後者是一件互動型作品，遊客可以在此寫下願望，掛在小月桂樹的枝條上。

韓國藝術家兼設計師崔正化的作品《色・色・色》是一座金字塔狀的小丘，安置於一片山坡上，從這裡能夠俯瞰長崎鼻地區和周邊海域全景。四周花田五彩斑斕，春、夏兩季鮮花盛開時成為這件作品鮮明的背景。

2016 年以來，這裡還新增了以下藝術品：藤本由紀夫（1950-）的《on the border〜海を望む・海に臨む〜》（在邊界上〜望海・面海〜），這是一張面朝大海的玻璃長椅；森貴也（1981-）的裝置藝術作品《Dream Egg》（夢之蛋）；戸田裕介（1962-）的金屬雕塑作品等。一件件巧奪天工的藝術之作讓藝術愛好者對長崎鼻海岬充滿嚮往。

＜日本語仮訳＞

長崎鼻のアート作品群

長崎鼻エリアには、国際的に名高いアーティストによって制作された恒久的なアート作品やインスタレーションが多数あります。2014 年に長崎鼻リゾートキャンプ場は、「2014 国東半島芸術祭」の開催地の一つ、香々地プロジェクトの会場となりました。このプロジェクトは、オノ・ヨーコ（1933-、ビートルズのボーカルだったジョン・レノンの妻）やチェ・ジョンファ（1961-）等の著名なアーティストによる作品が展示されました。その後何年にもわたって、様々な日本人アーティストの作品もこの地域に追加されました。

長崎鼻でもっとも著名な作品の二点は日系アメリカ人のアーティスト・活動家のオノ・ヨーコによる「見えないベンチ」と「念願の木」です。前者は、オノの詩を読みながら、腰かけて穏やかな環境を味わうことができる平らな石です。後者は、見る人が願い事を書き、それを小さな月桂樹の木の枝に結ぶことを勧めるインタラクティブな作品です。

韓国人アーティスト・デザイナーのチェ・ジョンファによる「色・色・色」は斜面にある小さなピラミッド型の丘で、長崎鼻エリアと周辺の海のパノラマの景色を眺めることができます。周りの野原は、特に花が咲く春と夏の間に、カラフルな背景を作り出します。

2016 年以降この地域に追加された作品には、藤本由紀夫（1950-）による「on the border〜海を望む・海に臨む〜」という海に面したガラスのベンチ、森貴也（1981-）によるインスタレーション「Dream Egg」、戸田裕介（1962-）による金属彫刻等が含まれます。これらの作品は岬をアート愛好家が目指す目的地にさせるのに役立っています。

【タイトル】 長崎鼻ビーチリゾート

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**长崎鼻海滩度假村**

长崎鼻海滩度假村位于长崎鼻海岬上，拥有一片人造白沙海滩。度假村内除了有海滨住宿设施、海滩咖啡馆外，还提供水上活动和放松护理等配套服务。海水浴场夏季开放，海滩露营和烧烤等活动则全年都可体验。

露营拖车沿海滩排开，每辆最多能容纳 6 位客人。车旁设有配备户外座椅和烤架的海滩烧烤区。

度假村提供多种水上活动服务和体验项目，包括立式桨板(SUP)、皮划艇出租以及桨板瑜伽课程等。海滩外有防波堤防护，水域平静，是老少咸宜的理想游泳场所。

<繁体字>**長崎鼻海灘度假村**

位於長崎鼻海岬上的長崎鼻海灘度假村擁有一片人造白沙海灘，度假村內除了有海濱住宿設施、海灘咖啡館，還提供水上活動、保養護理等配套服務。這裡全年都可以在海灘露營和燒烤，但海水浴場只在夏季開放。

沿海灘排開的露營拖車每輛最多能容納 6 位客人，車旁設有配備戶外座椅和烤架的海灘燒烤區。

度假村提供多種水上相關活動，包括立式槳板（SUP）、皮划艇出租，以及槳板瑜伽課程等。因為海灘外有防波堤防護，這片水域相當平靜，是老少咸宜的戲水地。

<日本語仮訳>**長崎鼻ビーチリゾート**

長崎鼻ビーチリゾートは長崎鼻岬に位置しており、白砂の人工ビーチを有し、浜辺の宿泊施設、ビーチカフェ、ウォーター・アクティビティ、リラクゼーショントリートメントなどを提供しています。夏にはビーチで海水浴が出来、浜辺のキャンプ、BBQ、その他のアクティビティが年間を通じて楽しめます。

宿泊には、ビーチに沿ってキャンピング・トレーラーが備えられており、最大 6 名まで宿泊可能です。トレーラーの横には、屋外座席とグリルを備えたビーチ BBQ エリアがあります。

SUP、カヤックのレンタル、SUP ヨガクラスなど、たくさんのウォーター・アクティビティや体験も楽しめます。ビーチは防波堤で守られており、波は穏やかで、あらゆる世代の方にとって理想的な遊泳場所となります。

【タイトル】 夷谷の風景

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**夷谷风光**

中山仙境是一组低矮的岩峰，位于丰后高田市的夷谷中，将山谷分成了东、西两半。这里是丰后高田风景最美的地方之一，现已被指定为国家名胜。中山仙境地区的各种户外活动同样备受欢迎，例如徒步穿越这些因山形奇异而闻名的岩石山脊。有关中山仙境的文字记录最早可以追溯至平安时代(794-1185)。

这里有一片地区被称为“夷耶马”，颇有几分类似中国的桂林山水。所谓“耶马”，就是火山熔岩和凝灰岩被侵蚀后形成的独特山峰。日本江户时代(1603-1867)著名的儒学者、历史学家和汉诗人赖山阳(1781-1832)曾到访附近旧名“山国谷”的峡谷。有感于眼前美景，他写下了“耶马溪山天下无”的诗句，“耶马溪”从此成为了人们对山国谷的爱称，而“某某耶马”也成为了同类地形的代名词，“夷耶马”的名字也正是由此而来。

中山仙境徒步线串连起了多个著名景点，其中一大亮点就是本地区的“无明桥”。这座桥曾是天台宗寺院群的僧人及修验者（融合了日本自古以来的山岳信仰与佛教密宗、道教的修验道修行者，也称“山伏”）修行的场所。桥身仅由两块不算厚重的石板衔接而成，架设于陡峭山崖上，横跨深谷裂隙。桥上没有护栏，行走时需要特别小心。如果不想过桥，也可以从另一条小路绕行。另一处亮点是“高城”，这座海拔 317 米的山峰是本地区最高峰。此外，沿着中山仙境徒步线，还能看到一个被称为“隐洞”的山洞。

中山仙境的山麓附近也散布着好几处值得观赏的景点，其中包括东夷地区极富代表性的佛寺和神社。夷谷温泉人气颇高，汤池很大，还带一个露天温泉。“一路一景公园”的展望广场上设有观景台，可尽览中山仙境独特的山地全貌和四季色彩各异的山林草木美景。

<繁体字>**夷谷風光**

中山仙境是一組低矮的岩峰，位於豐後高田市的夷谷之中，將山谷分成了東、西兩部分。這裡是豐後高田風景最美的地方之一，現在已被指定為國家名勝。岩峰以山形奇異而聞名，健行穿越岩山等戶外活動很受歡迎。有關中山仙境的文字記錄最早可以追溯至平安時代（794-1185）。

此處有一片地區被稱為「夷耶馬」，令人聯想到中國桂林的山水美景。所謂「耶馬」，指的是由火山熔岩和凝灰岩被侵蝕後形成的獨特山峰。日本江戸時代（1603-1867）著名的儒學者、歷史學家和漢詩人賴山陽（1781-1832）曾造訪附近舊名「山國谷」的峽谷，被眼前美景所感動，寫下了「耶馬溪山天下無」的詩句。「耶馬溪」從此成為了人們對山國谷的愛稱，而同類地形也開始被叫做「某某耶馬」，「夷耶馬」的名字亦由此而來。

中山仙境健行線串連多處知名景點，其中一大亮點是當地的「無明橋」。這座橋曾是天台宗寺院群的僧人與修驗者（融合了日本自古以來的山嶽信仰與佛教密宗、道教的修驗道修行者，也稱為「山伏」）修行的場所。橋身僅由兩塊不算厚重的石板前後銜接而成，被架設於陡峭山崖之上，橫跨深谷裂隙。橋上沒有護欄，行走時需格外小心。如果不想過橋，也可以從一條小路繞行。另一處亮點是這個地區的最高峰「高城」，海拔 317 公尺。此外，沿著中山仙境的健行線，還能看見一處名為「隱洞」的山洞。

中山仙境的山腳附近也有好幾個值得觀賞的景點，包括東夷地區極富代表性的佛寺和神社。受歡迎的夷谷溫泉有寬敞的浴池，還有一處露天溫泉。「一路一景公園」的展望廣場設有觀景台，視野寬闊，可盡覽中山仙境獨特的山地全貌，以及隨四季變換色彩的山林草木美景。

<日本語仮訳>

夷谷の風景

中山仙境は、豊後高田市の夷谷を東西に分ける低い岩峰群です。ここは豊後高田でも際立った景勝地のひとつで、国の名勝に指定されています。人気のアクティビティには、奇岩で知られる岩の多い峰のトレッキングも含まれています。中山仙境に言及している平安時代（794-1185）まで遡る史料もあります。

このエリアの一部は「夷耶馬」としても知られており、「桂林」を彷彿します。「耶馬」とは、溶岩や凝灰岩の侵食によって形成された特徴的な峰を意味します。江戸時代（1603-1867）の有名な儒学者・歴史家・漢詩人、賴山陽（1781-1832）が近隣のかつて「山国谷」と呼ばれたこの溪谷を訪れた際、その景色に着想を得て「耶馬溪山 天下に無し」という漢詩を詠み、「耶馬溪」が山国谷の愛称となりました。それから、ここのような独特な地形を「〇〇耶馬」を呼ぶようになり、これが「夷耶馬」の名の由来です。

中山仙境的トレッキングコース沿いには見事な景色が多数あります。このエリアの見どころの一つは無明橋で、かつて天台宗寺院群の僧侶や修驗者（日本古来の山岳信仰と、仏教の密教、道教などが融合して成立した宗教「修驗道」を实践するものたち、山伏とも言う）の修行場でした。この橋は 2 枚の厚くない石板を中央で突合せ、険しい崖に渡されているのみです。橋には手すりが無いため、トレッキングする人は極めて注意深く渡る必要があります。なお、橋を渡りたくない人には迂回路があります。もう一つの見どころは高城で、317m の地域で一番高い峰です。中山仙境的のコースをトレッキングすると、「隠れ洞」と呼ばれる洞窟にも到達します。

中山仙境のふもと近くにも、東夷の象徴的な寺や神社など特筆すべきスポットが幾つかあります。人気の夷谷温泉には露天風呂を含め広々とした風呂があります。一路一景公園の展望広場の見晴らし場所からは、中山仙境の特徴的な山の形のパノラマ風景や、年間をととして色が変わる周辺の群葉を一望できます。

【タイトル】 東夷の寺社群

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**东夷的寺社群**

庞大的宗教设施“夷岩屋寺社”占据夷谷一带长达数世纪之久，如今依然并排矗立在东夷地区的两座寺庙和一座神社都曾是其的一部分，也是国东半岛上“神佛习合”（神道教与佛教融合）宗教活动的见证者。三处设施中，实相院位于正中，灵仙寺在左，六所神社在右。

在灵仙寺的朱漆钟楼门两侧，一对仁王石像（金刚力士像）分立左右，守卫着这片圣地。灵仙寺内供奉着一尊高达 6 米多的大型地藏菩萨石像，地藏菩萨被视为世间众生的救赎者。与之相邻的实相院内矗立着丰后高田市内最大的国东塔，这种宝塔在国东半岛很常见。六所神社正如其名，是“供奉六位神明的神社”。神殿旁一字排开的 6 棵大树代表 6 位神明，不远处的洞穴也同样是他们的化身，最早的神社建筑就位于洞内。

<繁体字>**東夷的寺社群**

龐大的宗教設施「夷岩屋寺社」佔據夷谷一帶長達數百年，如今依然並排矗立在東夷地區的兩座寺廟和一座神社都曾是其的一部分，它們也是國東半島上「神佛習合」（神道教與佛教融合）宗教活動的見證者。三座建築中，實相院居中，靈仙寺在左，六所神社在右。

一對仁王石像（金剛力士像）分立在靈仙寺的朱漆鐘樓門兩側，守衛著這片聖地。靈仙寺內還供奉著一尊超過 6 公尺的大型地藏菩薩石像，地藏菩薩被視為世間眾生的救贖者。與之相鄰的實相院內矗立著豐後高田市最大的國東塔，這種寶塔在國東半島很常見。六所神社則是「供奉六位神明的神社」，神殿旁一字排開的 6 棵大樹代表 6 位神明，不遠處的洞穴也同樣是祂們的化身，最早的神社建築就位於洞內。

<日本語仮訳>**東夷の寺社群**

夷岩屋寺社の境内は数世紀の間、夷谷全体に広がっており、東夷エリアに一系列に並んで今も立っ

ている二つの寺と一つの神社はかつてその宗教的な複合施設の一部でした。それらは国東半島の宗教活動の特徴である神仏習合の証です。実相院が中央に、左には霊仙寺が、右には六所神社があります。

霊仙寺には朱塗りの鐘楼門があり、寺を守る 2 体の仁王の石像が隣にあります。霊仙寺には、高さが 6m を超える大きな地蔵菩薩（すべての生き物を救う仏様）の石像もあります。隣の実相院には、豊後高田市内で最大の国東塔があります。これは、国東半島で一般的に見られる宝塔です。六所神社は文字どおり六つの神の神社です。元の神社の構造物が建てられていた近くの洞窟と同様に、建物の隣に並ぶ 6 つの大木は、6 つの神を表しています。

【タイトル】 六所神社

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**六所神社**

六所神社位于丰后高田的夷地区，连同与之并肩而立的灵仙寺和实相院，都是当年夷岩屋寺社的组成部分。它因“六位神明的神社”而闻名，神殿旁 6 棵高大的树木代表了这 6 位神明。在东面不远处的一个洞穴里，来访者依然能看见最初的神社建筑遗存，如今这里被称为“今夷社”。沿着洞窟右侧的一个缓坡往上还有一片小遗址，也曾经是一处供奉场所。

<繁体字>**六所神社**

六所神社位於豐後高田夷地區，連同與之並肩的靈仙寺、實相院都是當年夷岩屋寺社的一部分。它因「六位神明的神社」而聞名，神殿旁 6 棵高大的樹木代表了這 6 位神明。在東面不遠處的一個洞穴裡，遊客依然能看到最初的神社建築遺存，如今被稱為「今夷社」。沿著洞窟右側的緩坡往上還有一小片遺址，也曾經是供奉場所。

<日本語仮訳>**六所神社**

六所神社は豊後高田の夷地区にあり、かつては近くに並んでいる霊仙寺や実相院と共に、夷岩屋の一部でした。「六つの神の神社」として知られ、これらの神を神社建物の隣にある 6 つの大木で表しています。訪問者は、現在の神社の東にある洞窟の中に構築された元々の神社の構造物を見ることができます。洞窟の中にあるこの神社は現在では「今夷社」として知られています。洞窟右手の緩やかな坂を上って行くと、かつては同じように信仰の場であった小さなエリアの面影を見ることが出来ます。

【タイトル】 夷谷温泉と寒晒しそば

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**夷谷温泉和寒晒荞麦面**

夷谷温泉是丰后高田的一处天然温泉，位于景色宜人的夷谷中。这座简朴的温泉设施内分设男汤和女汤，此外还有露天温泉，可供人们在享受温泉的同时，欣赏这片山谷的独特风景。夷谷温泉属硫酸盐泉，所含的铁元素让它呈现出与众不同的茶色。据说，这里的温泉水有助于愈合伤口，缓解神经痛和慢性皮肤问题等症状。

每年 2、3 月间，在夷地区可以品尝到一种名叫“寒晒荞麦面”的本地特色美食。制作这种荞麦面，需要在冬天将荞麦粒放入温度极低的水中浸泡数日，然后再晾干、磨粉，加工成面条。冷泡能赋予荞麦面独特的柔和口感与甘甜滋味。在九州，只有本地才出品这种寒晒荞麦面，是难得的地方美食。

<繁体字>**夷谷溫泉和寒曬蕎麥麵**

夷谷溫泉位於景色宜人的夷谷中，是豐後高田的一處天然溫泉。這座簡樸的溫泉設施內辟有男湯和女湯，此外還有露天溫泉，供人們在享受溫泉的同時，也能欣賞這片山谷的獨特風景。夷谷溫泉屬於硫酸鹽泉，因富含鐵元素，泉水呈現與眾不同的茶色。據說這裡的溫泉水有助於傷口癒合，緩解神經痛和慢性皮膚問題等症狀。

每年 2、3 月間，在夷谷地區可以品嚐到一種名叫「寒曬蕎麥麵」的當地特色美食。製作這種蕎麥麵，需要在冬天將蕎麥粒放入溫度極低的水中浸泡數日，然後再晾乾、磨粉，做成麵條。冷泡能賦予蕎麥麵獨特的柔和口感與甘甜滋味。在全九州，只有當地出品這種寒曬蕎麥麵，是難得的在地美食。

<日本語仮訳>**夷谷温泉と寒晒しそば**

豊後高田の美しい夷谷にある夷谷温泉は、天然温泉です。素朴な宿には地域の特徴的な風景を眺めながら入浴できる露天風呂や、男女別の風呂があります。夷谷温泉の泉質は硫酸塩泉であり、この種の温泉は傷を治したり、神经痛や慢性皮膚炎の症状を緩和したりするのに役立つと考えら

れており、湯に鉄が含まれているため、珍しい茶色を呈しています。

この夷地域では、2月から3月頃に「寒晒しそば」という郷土料理を楽しめます。冬の間にはそばの実をととても冷たい水に数日浸し、乾燥し、挽いて、麺にして、作られるものです。冷水に浸すことで、まろやかで甘い風味のあるそばになります。この寒晒しそばは、九州では唯一この地域のみで作られ、食べることができる希少なそばです。

【タイトル】 鬼会の里 歴史資料館

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**鬼会之里历史资料馆**

鬼会之里历史资料馆的展览呈现了本地区居民的旧日生活风貌，重点聚焦于“修正鬼会”。这项祈求五谷丰登的宗教仪式已被指定为国家重要非物质民俗文化财产，于每年农历新年期间在附近天念寺的讲堂举办。修正鬼会已有上千年历史，其高潮是一场舞蹈——僧人们打扮成赤鬼和黑鬼的模样，挥舞着熊熊燃烧的火炬起舞，以此安抚并驱散邪灵。鬼通常被视为恐怖的存在，在国东半岛却有所不同，据说这里的鬼能为人们带来幸福。资料馆内展出鬼会期间使用的道具，例如鬼面具和服饰。同时通过一段短片介绍修正鬼会的概况。此外，资料馆还藏有一尊出自天念寺的阿弥陀如来立像，现已被指定为国家重要文化财产。

馆内另一个展览则聚焦于资料馆所在的天念寺耶马地区，展区内有一座无明桥的复制品供来访者体验。这座标志性的桥梁因不设防坠落的护栏或侧壁而闻名，它也曾是天台宗寺院群的僧人及修验者（融合了日本自古以来的山岳信仰与佛教密宗、道教的修验道的修行者，也称“山伏”）的修行场所。这个互动展使用虚拟现实技术(VR)模拟山谷周边真实景象，能令体验者好似真的置身于无明桥上。

资料馆食堂供应手工荞麦面和通常在修正鬼会上才能吃到的特色餐食，比如被称为“鬼的提神饼”。这种烤年糕上抹有辛辣酱料，吃了它，能帮助参加活动的僧侣提神醒脑。还有一种有趣的荞麦汤面“鬼眼荞麦面”，里面加入了代表“鬼眼珠”的烤年糕。

开馆时间：4月～11月 9:00～17:00，12月～次年3月 9:30～16:00

闭馆日：每月第2、第4个周二（逢节假日营业）

门票：300 日元，6 岁及以下儿童 150 日元

<繁体字>**鬼會之里歷史資料館**

鬼會之里歷史資料館的展覽呈現了當地居民過去的生活風貌，重點聚焦於「修正鬼會」。這項宗教儀式每年農曆新年期間在附近天念寺的講堂舉辦，與會者一同祈求五穀豐

登，已被指定為國家重要無形民俗文化財產。修正鬼會已有上千年歷史，高潮是僧人們打扮成赤鬼和黑鬼的模樣，揮舞熊熊燃燒的火炬起舞，以此安撫並驅散邪靈。在一般人心目中，鬼是恐怖的存在，在國東半島，人們卻認為鬼能帶來幸福。資料館內展出鬼會期間使用的鬼面具、服飾等道具，同時以短片介紹修正鬼會的概況。資料館還藏有一尊出自天念寺的阿彌陀如來立像，現在已經被指定為國家重要文化財產。

館內另一個展覽聚焦於資料館所在的天念寺耶馬地區。展區內有一座無明橋的複製品供遊客體驗。這座標誌性橋樑因沒有設置保護行人不墜入深谷的護欄或側壁而聞名，它也曾是天台宗寺院群的僧人及修驗者（融合了日本自古以來的山嶽信仰與佛教密宗、道教的修驗道的修行者，也稱「山伏」）的修行場所。這個互動展使用虛擬實境（VR）模擬山谷周邊真實景象，為遊客營造出身臨無明橋的感覺。

資料館食堂除了供應手工蕎麥麵，還有一些通常在修正鬼會上才能吃到的特色餐食，像是「鬼的提神餅」。這種烤年糕塗抹了辛辣醬料，可以讓參加活動的僧侶在食用後提起精神，不打瞌睡。而「鬼眼蕎麥麵」因麵裡有代表「鬼眼珠」的烤年糕而得名，是一種特別的蕎麥湯麵。

開館時間：4月～11月 9:00～17:00，12月～次年3月 9:30～16:00

閉館日：每月第2、第4個週二（逢節假日營業）

門票：300日圓，6歲及以下兒童 150日圓

<日本語版訳>

鬼会の里 歴史資料館

鬼会の里 歴史資料館では、この地で人々がどのように生活していたかを展示しており、とりわけ「修正鬼会」に焦点を当てています。この宗教儀礼は国の重要無形民俗文化財に指定されており、豊作を祈るため旧正月に近く天念寺の講堂で開催されます。1,000年以上続く修正鬼会のハイライトは、赤鬼や黒鬼に扮した僧侶が燃えるたいまつを振り回し、邪悪な霊をなだめ追い払う舞です。鬼は怖いと通常考えられていますが、国東の鬼は人々に幸せをもたらすと言われています。鬼の面、衣装など、祭に使われるさまざまな道具も資料館に展示されています。史料館では祭の短編映画も上映されています。また、国の重要文化財である天念寺の阿彌陀如来立像が展示されています。

資料館の別の展示は、資料館がある天念寺耶馬地区に焦点を当てたものです。ここでは、渡る人が深い峡谷へと転落するのを防ぐ欄干や側壁が無いことで有名な象徴的な建造物である無明橋のレプリカを渡ることが出来ます。この橋はかつて天台宗寺院群の僧侶や修驗者（日本古来の山岳信仰と、仏教の密教、道教などが融合して成立した宗教「修驗道」を実践するものたち、山伏とも言う）の修行場でした。展示はインタラクティブで、VRを使って周囲の景色を見ながら無明橋を歩く感覚を体験することもできます。

資料館の食堂では、手打ちそばや、通常修正鬼会で食べられる料理である焼餅「鬼の目覚まし餅」などが提供されています。長い勤行で僧侶が眠くならないように、辛い味噌が塗ってあります。「鬼の目そば」はそばのつゆの中に鬼の「目玉」を模した焼き餅が入った楽しい料理です。

開館時間：4月-11月 9:00～17:00、12月-3月：9:30～16:00

休館日：第2、第4火曜日（祝日の場合は営業）

入館料：大人 300 円、6 歳以下の子ども 150 円

【タイトル】 天念寺耶馬と無明橋

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**天念寺耶马和无明桥**

“天念寺耶马”位于丰后高田中心地区东侧的长岩屋，是一处不同寻常的自然景观，现已被指定为国家名胜。所谓“耶马”，就是火山熔岩和凝灰岩经长年侵蚀后形成的独特山峰，天念寺耶马正是以多岩的独特山脊而著称。1300 年前，“六乡满山”一派的天台宗寺院群僧人和修验道（融合了日本自古以来的山岳信仰与佛教密宗、道教的宗教）苦行者“山伏”就已在这里修行，训练项目之一便是徒步穿越这片山地。天念寺的讲堂也坐落在这里，每年举办名为“修正鬼会”的宗教仪式，这是农历新年期间的一大盛会，借以祈祷无病无灾、五谷丰登。

本地区的无明桥（曾是修行僧人和修验者的修行场所）位于天念寺耶马的最高峰上。这是一座微微拱起的小石桥，横跨在一道险峻的深谷之上，两侧没有任何护栏或侧壁防护。天气晴好时，在山下便能看到无明桥，这也是本地风光的一大亮点。相距不远的鬼会之里历史资料馆提供虚拟现实技术(VR)体验项目，来访者可切身体验与僧侣一同渡过石桥、置身大自然的感觉。

<繁体字>**天念寺耶馬和無明橋**

天念寺耶馬位於豐後高田中心地區東側的「長岩屋」，自然景觀不同尋常，現在已經被指定為國家名勝。所謂「耶馬」，就是火山熔岩和凝灰岩經長年侵蝕後形成的獨特山峰，天念寺耶馬正是以多岩的獨特山脊而出名。1300 年前，「六鄉滿山」一派的天台宗寺院群僧人以及修驗道（融合了日本自古以來的山嶽信仰與佛教密宗、道教的宗教）苦行者「山伏」的修行訓練之一就是徒步穿越這片山地。天念寺的講堂也座落在這裡，每年農曆新年期間會舉辦名為「修正鬼會」的宗教儀式，以此祈禱無病無災、五穀豐登。

這個地區的無明橋（曾是修行僧人和修驗者的修行場所）位於天念寺耶馬的最高峰上。無明橋是一座微微拱起的小石橋，橫跨在險峻深谷之上，兩側沒有任何護欄或側壁防護。如果天氣晴朗，在山下便能看到無明橋，這也是當地風光的一大亮點。遊客可以在相

距不遠的鬼會之里歴史資料館中透過虛擬實境（VR），體驗與僧侶一起渡過石橋、置身在大自然的感覺。

＜日本語仮訳＞

天念寺耶馬と無明橋

天念寺耶馬は、豊後高田市中心部の東の方に位置する長岩屋の、他に例を見ない景勝地であり、国の名勝に指定されています。「耶馬」とは、溶岩や凝灰岩の侵食によって形成された特徴的な峰を意味します。天念寺耶馬は岩の多い特徴的な稜線で知られており、約 1300 年前に「六郷満山」という天台宗寺院群の僧侶や、修験道（日本古来の山岳信仰と、仏教の密教、道教などが融合して成立した宗教）の山伏が儀式の一環として歩いた場所です。この地域には天念寺の講堂もあり、そこでは毎年、修正鬼会が開かれます。修正鬼会とは旧正月を祝い参加者がその年の無病息災や五穀豊穰などを祈願する宗教儀式です。

天念寺耶馬の高い頂には無明橋（かつて修行僧や修験者の修行の場）があります。橋はわずかに湾曲した小さな石の構造物で、欄干や側壁もなく危険な断崖を渡っています。晴れた日に山のふもとから見えるこの橋は、この地の景観の目玉です。近くの鬼会の里 歴史資料館では、VR 体験を通じて、僧侶と一緒にこの橋を渡り、周囲の景観を眺めることができます。

【タイトル】 豊後高田昭和の町

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**丰后高田昭和之町**

“丰后高田昭和之町”位于丰后高田市内，是一处再现昭和时代(1926-1989)中期风貌的复古商业街区。但它并不只是一个仿古景点，也是本地人日常生活的场所。丰后高田昭和之町分为 6 个区域，共有 50 多家店铺。沿途逛逛专卖店，欣赏一下景点，30 分钟左右即可走完。这里最老的店铺已有 100 多年历史，新店铺也在陆续入驻。

从江户时代(1603-1867)至昭和时代中期，丰后高田的中央商店街一直都是国东半岛上的繁华区域。早在江户时代，丰后高田就成为了海上交通的枢纽。到了昭和时代早期，更有无数驶往关西地区的船舶停靠于此。丰后高田地处半岛要冲，又占据临近海岸线和宇佐之利，五条交通干道在这里交汇。然而，随着岁月流逝，丰后高田渐渐跟不上日新月异的现代化浪潮，逐渐沉寂下来。

就在商店街眼看难以为继之时，一项重振 20 世纪 50、60 年代活力的计划启动了。2001 年，创建“丰后高田昭和之町”的倡议为这片古老的商店街注入了新的生命力。7 家店铺首先被指定为“昭和之町认证店”，现在已有 50 多家店铺获得了认证。

迄今为止，丰后高田昭和之町已荣获了诸多奖项，其中包括 2017 年获得的国际权威奖项“亚洲都市景观大奖”。电影《解忧杂货店》也曾在这里取景。如今，丰后高田昭和之町每年接待游客约 40 万人，店家的暖心服务令昭和精神在这里依旧焕发着生机。漫步街区，游人仿佛穿越到了过去，可以亲身感受那个重要的时代如何为现代日本的生活方式与文化奠定基础。

<繁体字>**豐後高田昭和之町**

「豐後高田昭和之町」位於豐後高田市內，是一處再現昭和時代（1926-1989）中期风貌的復古商業街區。這個區域並不只是單純的仿古景點，也是當地人日常生活的場所。豐後高田昭和之町共劃分為 6 個區域，約有 50 多間店鋪。沿途逛當地特產店、欣賞景點，大概 30 分鐘就能輕鬆走完。這裡最老的店鋪已有 100 多年歷史，也有新店鋪陸續入駐。

自江戸時代（1603-1867）至昭和時代中期，豐後高田の中央商店街始終是國東半島上の繁華地帶。它身為半島要衝，得益於濱海與鄰近的宇佐地區之利，五條交通幹道在此交匯。早在江戸時代，豐後高田就已經是海上交通樞紐。到了昭和時代早期，無數船隻在這裡停靠後開往關西地區。然而，隨著歲月流逝，豐後高田漸漸跟不上現代化浪潮，日益沉寂。

就在商店街似乎難以為繼之時，一項復興 1950、1960 年代活力的計畫啟動了。2001 年，創建「豐後高田昭和の町」的倡議為這片古老的商店街注入了新的生命力。7 家店鋪首先被指定為「昭和の町認證店」，現在已有 50 多家店鋪加入其中。

如今，豐後高田昭和の町每年接待約 40 萬名遊客，店家的熱情服務令昭和精神在這裡重煥新生。這片街區不但獲得了 2017 年國際權威獎項「亞洲都市景觀大獎」和其他多類獎項，還吸引了電影《解憂雜貨店》前來取景。遊人漫步街區之間，彷彿時光倒流，可以體會到昭和時代如何為今日日本的生活方式與文化奠定了基礎。

<日本語仮訳>

豐後高田昭和の町

豐後高田市にある「豐後高田昭和の町」はノスタルジックな商店街で、昭和（1926-1989）中期の雰囲気を再現しています。このエリアは歴史的な再現であるだけでなく、通りは日常的に利用されています。豐後高田昭和の町は 6 つのエリアに分かれており、合計約 50 以上の店鋪が入っていて、途中専門店や見どころスポットに立ち寄りながら 30 分ほど見てまわれます。この近辺最古のお店は 100 年以上続いており、その傍ら新店舗も続々仲間入りしています。

江戸時代（1603-1867）から昭和中期にかけて、豐後高田の中央商店街は国東半島で栄えた地域でした。豐後高田は江戸時代より海上交通の拠点となっており、昭和初期には数々の船舶が関西地方に向かう途中で停泊していました。海岸部と近くの宇佐の恩恵を受け、半島の要衝とされた豐後高田には、5 本の幹線道路が通っていました。しかし、年月の流れとともに豐後高田は徐々に近代化の波に取り残され、だんだんと孤立し侘しくなりました。

一見瀕死の商店街でしたが、1950 年代と 1960 年代の活気を蘇らせようと、あるプロジェクトが立ち上げられました。これが 2001 年に始動した「豐後高田昭和の町」の取り組みで、歴史ある商店街に新たな命を吹きこみました。7 店舗が最初に「昭和の町認定店」に指定され、今では、50 店舗以上が参加しています。

豐後高田昭和の町は、2017 年に国際的に権威のある賞「アジア都市景観賞」を獲得したなど、これまで数々の賞を受けてきました。そして、映画「ナミヤ雑貨店の奇蹟」のロケ地でもあります。いまでは年間約 40 万人がここに訪れ、お店を構える人たちの温かい歓迎の心が昭和の精神を息づかせています。町を歩けばまるで過去にタイムスリップしたかのように感じ、この歴史を左右した時代においていかに日本の現代のライフスタイルや文化の土台が築き上げられたかを目にすることができます。

【タイトル】 豊後高田昭和の町：食べ歩き

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

丰后高田昭和之町：边走边吃

在“丰后高田昭和之町”来一场美食之旅，好似一步踏入了往昔时光，是感受这片商店街怀旧复古氛围的热门方式。许多店铺都售卖美味小吃，有日式可乐饼、冰棍雪糕、本地花生、荞麦仙贝和炸面包等。这些食物都很适合边走边吃，人们可以一边享用美味，一边游览昭和主题的商店街，沉浸在怀旧氛围当中。

这场昭和之町的美食漫游仿佛能将人们带回到童年，许多小吃都是好几代日本人小时候在节庆或某些特别场合里吃过的东西。街区有一家餐厅供应怀旧餐食，比如上个世纪 50、60 年代的校园午餐。还有一些店铺会将食物包装成小巧便携的纪念品，方便游客购买馈赠亲友。

<繁体字>

豐後高田昭和之町：邊走邊吃

在「豐後高田昭和之町」來一場美食之旅，猶如踏入往日時光，是感受這片商店街懷舊復古氛圍的最佳方式。這裡的許多店鋪都販賣日式可樂餅、冰棒雪糕、當地產花生、蕎麥仙貝和炸麵包等美味小吃。這些小吃很適合邊走邊吃，人們可以一邊享用美味，一邊遊覽昭和主題的商店街，沉浸在懷舊氛圍當中。

昭和之町的美食漫遊彷彿能讓人回到童年，許多小吃都是好幾代日本人小時候在節慶或某些特別場合吃到過的東西。街區有一家懷舊餐廳，販賣 1950、1960 年代的校園營養午餐。還有一些店鋪會將食物包裝成小巧便攜的伴手禮，遊客可以買回家贈送親友。

<日本語仮訳>

豊後高田昭和の町：食べ歩き

「豊後高田昭和の町」の食べ歩きは過去へタイムスリップしたように感じられる、このエリアのノスタルジックでレトロな雰囲気を感じするのに人気の方法です。揚げたコロッケやアイスクャンデー、地元産のピーナッツ、そば煎餅、そして揚げパンなどのおいしいおやつがあちこちのお店で提供されています。これらの品々は気軽に食べ歩き出来るため、昭和コンセプトの商店街を探索しその雰囲気を満喫しながら

楽しめます。

こういったおやつの多くは、子供時代にこれらの食べ物をお祭りや特別な機会に食べていた幾世代の日本人にとって懐かしの味です。昭和の町での食べ歩きは、若かりし頃に戻ったかのようです。エリア内のあるレストランでは、1950 年代や 60 年代の給食などの懐かしい料理を提供しています。中には食べられるおやつを包装して「お土産」（手軽な贈答品）として提供している店もあります。

【タイトル】 豊後高田昭和の町：一店一宝

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

豊後高田昭和の町：一店一宝

“豊後高田昭和の町” 拥有超过 50 家获得“昭和之町认证店” 指定的店铺。每一家都陈列着一件出自昭和时代(1926-1989)的物品原件，即“宝物”。得益于这项倡议，如今行走在昭和之町，就像在参观一座城市历史博物馆。这些物品五花八门，通常与店铺本身的历史和经营门类相关，有家用电器、收纳装备这样的家居生活用品，也有秤、收银机、店招这样的店铺经营用具。它们仿佛在诉说随时光长河流逝的往昔。走在昭和之町的街道上，就能看到各样别具一格的历史珍宝。

<繁体字>

豊後高田昭和の町：一店一寶

「豊後高田昭和の町」有超過 50 家獲得「昭和之町認證店」指定的店鋪。每一家都陳列著一件出自昭和時代（1926-1989）的物品原件，即「寶物」。因為這項倡議，行走在昭和之町，就像在參觀一座城市歷史博物館。這些五花八門的物品通常與店鋪本身的歷史和經營門類相關，既有家用電器、收納裝備這樣的家居生活用品，也有磅秤、收銀機、招牌這樣的店鋪經營用具。這些物件彷彿在訴說隨時光長河流逝的往昔。走在昭和之町街道上，就能看到各式各樣別具特色的歷史珍寶。

<日本語仮訳>

豊後高田昭和の町：一店一宝

「豊後高田昭和の町」には「昭和の町認定店」に指定されたお店が 50 店舗以上あります。来訪者は、それぞれの店舗で展示された昭和（1926-1989）のオリジナルアイテム（「お宝」）1 点を目にすることができます。この取り組みのおかげで、昭和の町散策は市の歴史に特化した博物館を巡っているようです。これらのアイテムは通常そのお店の歴史とその商売に関連しており、電化製品や収納アイテムなどの家庭用品から、秤、レジ、看板など店舗用の品まであります。これらのアイテムは、これまでの年月で何をやってきたのかが分かるようになっています。来訪者は、この豊後高田昭和の町の通りを散策した分だけ、独特な昔ながらのお宝を見ることが出来ます。

【タイトル】 豊後高田昭和の町：一店一品

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

豊後高田昭和の町：一店一品

在“豊後高田昭和の町”能找到许多特别的东西，它们大都是从昭和时代(1926-1989)起便在本地区生产、销售的物品，也有一些是能让人回想起那个时代的新产品。每家参与“一店一品”的店铺都至少要出售一种象征昭和时代的商品。因此，在游览这座城市之余，来访者还大有机会挑选到独具一格且富有历史底蕴的纪念品。

这些商品种类繁多，有糕饼点心等可食用的小礼品，也有 20 世纪下半叶曾风行一时的小玩具和各类小饰品。此外，这片街区里还有一些专卖店出售小包装茶叶、荞麦面、传统日本木屐以及钥匙扣等纪念品。

<繁体字>

豊後高田昭和の町：一店一品

在「豊後高田昭和の町」能找到許多特別的東西，它們大都是從昭和時代（1926-1989）起便在這個地區生產、銷售的物品，也有一些則是能讓人回想起那個時代的新產品。因為每家參與「一店一品」的店鋪都至少要販賣一種象徵昭和時代的商品，造訪這座城市的遊客很有可能挑選到獨具一格、承載非凡歷史底蘊的伴手禮。

店鋪裡有糕餅點心等可食用的小禮品，也有 20 世紀下半葉曾風行過的小玩具和各類小飾品，種類繁多。此外，這片街區還有一些專賣店販售包裝茶葉、蕎麥麵、傳統日本木屐以及鑰匙圈等伴手禮。

<日本語仮訳>

豊後高田昭和の町：一店一品

「豊後高田昭和の町」は、同地区で昭和（1926-1989）中期から製造・販売されている個性的な商品や、昭和を思い起こさせる新しい商品を観光の目玉にしています。「一店一品」に参加する各店舗は昭和を象徴するような商品を少なくとも一種類販売しています。豊後高田市を訪れている観光客にとって、こういった商品は意味のある歴史をもった個性的なお土産を手に入れるチャンスです。

その商品はクッキーやケーキといった食べられるお土産から、20 世紀後半に人気のあった小型の玩具や小物まで多岐にわたります。この地区にあるその他の専門店では、包装されたお茶、そば、下駄（日本の伝統的なサンダル）といった製品やキーホルダーなどのお土産を販売しています。

【タイトル】 昭和ロマン蔵

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

昭和浪漫仓库

昭和浪漫仓库位于“丰后高田昭和之町”。这是一个包含博物馆和其他展示空间的综合体，专注于展现昭和时代(1926-1989)的魅力与珍藏，与昭和之町商店街的主题完美契合。这处丰后高田市的地标性建筑由三座老仓库改建而成，仓库原本属于大分县最显赫富商家族之一的野村家族。

“昭和之梦町三丁目馆”位于其中一座仓库中。馆内仿建了一段昭和时期的街道，其中包含一间小学教室和一座传统民宅，并借助音效营造出更加逼真的氛围。来访者还可以在这里体验射击游戏、柏青哥（弹珠游戏机）等复古娱乐活动。“駄菓子屋之梦博物馆”

（駄菓子即价格低廉的小零食和小玩具）也设在这片仓库群里，展出约 6 万件昭和时代的有趣物品。此外，日本数字艺术团队“teamLab”也在这里开设了一个互动展，来访者可以现场绘制人物并着色，完成后，人像就会被投射到墙壁上，开始跳传统盆舞《草地舞》，这种舞蹈流传于丰后高田市草地地区，迄今已有 300 多年历史。

仓库群外设有老爷车展。展品中包括一辆 20 世纪 50 年代的巴士，每逢周日及国定假日可以免费乘坐，享受一段昭和之町观光之旅。发车时间等详情可查看昭和之町・丰后高田市旅游观光网 <https://www.city.bungotakada.oita.jp/site/showanomachi/>。此外，昭和浪漫仓库内还有一家餐厅，供应鸡肉天妇罗等本地特色菜肴，以及其他日式套餐和甜品。在博物馆外的小摊上则能买到怀旧玩具、小吃等各种纪念品。

开馆时间：工作日 10:00～17:00，周六、周日及国定假日 9:00～17:00

闭馆日：12 月 30 日、31 日

门票：单馆（昭和之梦町三丁目馆或 teamLab 昭和之町美术馆）440 日元，中小学生 300 日元

两馆通票（昭和之梦町三丁目馆＋駄菓子屋之梦博物馆）900 日元，中小学生 630 日元

三馆通票（昭和之梦町三丁目馆＋駄菓子屋之梦博物馆＋teamLab 昭和之町美术馆）1200 日元，中小学生 840 日元

＜繁体字＞

昭和浪漫倉庫

昭和浪漫倉庫位於「豐後高田昭和之町」，是一個包含博物館和其他展覽地的綜合空間。它專注於展現昭和時代（1926-1989）的魅力與珍藏，完美契合了昭和之町商店街的主題。這處豐後高田市的地標建築由三座倉庫改建而成，這些倉庫原本屬於大分縣最顯赫的富商家族之一的野村家，。

「昭和之夢町三丁目館」位於其中一座倉庫裡。館內仿建了一段昭和時期的街道，包含一間小學教室和一座傳統民宅，借助音效營造出更加逼真的氛圍。遊客可以在這裡體驗射擊遊戲、柏青哥（彈珠遊戲機）等復古娛樂活動。展出約 6 萬件昭和時代有趣物品的「駄菓子屋之夢博物館」（駄菓子即價格低廉的小零食和小玩具）也設在這片倉庫群裡。此外，日本數位藝術團隊「teamLab」在這裡開設了互動展，遊客可以現場繪製人物並著色，完成後，人像就會被投射到牆壁上，開始跳《草地舞》。《草地舞》是一種擁有 300 多年歷史的傳統盆舞，流傳於豐後高田市草地地區。

倉庫群外設有老爺車展。展品中包括一輛 1950 年代的巴士，每逢週日及國定假日可以免費乘坐，享受一段昭和之町觀光之旅。發車時間等詳細資訊請參見昭和之町・豐後高田市旅遊觀光網 <https://www.city.bungotakada.oita.jp/site/showanomachi/>。此外，昭和浪漫倉庫內還有一家餐廳，供應雞肉天婦羅等地特色菜餚，以及其他日式套餐和甜品。在博物館外的小攤上則能買到懷舊玩具、小吃等各種伴手禮。

開館時間：工作日 10:00～17:00，週六、週日及國定假日 9:00～17:00

閉館日：12 月 30 日、31 日

門票：單館（昭和之夢町三丁目館或 teamLab 昭和之町美術館）440 日圓，中小學生和高中生 300 日圓

兩館通票（昭和之夢町三丁目館＋駄菓子屋之夢博物館）900 日圓，中小學生和高中生 630 日圓

三館通票（昭和之夢町三丁目館＋駄菓子屋之夢博物館＋teamLab 昭和之町美術館）1200 日圓，中小學生和高中生 840 日圓

＜日本語仮訳＞

昭和ロマン蔵

昭和ロマン蔵は豊後高田昭和の町にある博物館と展示スペースの複合施設で、大分県でも有数の豪商だった野村家がかつて所有していた 3 棟の蔵で構成されています。この豊後高田市のランダム

ークは昭和時代（1926-1989）の魅力を紹介し、その宝物を展示するためのレトロな空間に改装されており、この町の商店街が掲げるテーマにぴったりの場所になっています。

蔵の一つには「昭和の夢町三丁目館」があります。ここでは小学校の教室や伝統的な民家など、効果音の流れる昭和の町並みのレプリカを楽しむことができます。射的やパチンコ（ピンボールに似た機械のゲーム）などのレトロゲームも遊べます。施設内には「駄菓子屋の夢博物館」（駄菓子とは安価なおもちゃやお菓子のこと）も設置されていて、60,000点余りの昭和期の品々が特徴です。また、ここにはデジタルアート集団「チームラボ」によるインタラクティブ展示も行われています。この展示では、来場者が人の絵を描いて色を塗ると、それが壁に投影されて「草地おどり」という伝統的な豊後高田市の草地地区に伝わり、300年以上の歴史を誇る歌と盆踊り「草地おどり」を披露してくれます。

蔵の外では、1950年代のバスなど、レトロカーの展示を見ることができます。このバスは日曜日と祝日の昭和の町を巡る無料ツアーに使用されています。運行時間等は、「昭和の町・豊後高田市公式観光サイト」をご確認ください
<https://www.city.bungotakada.oita.jp/site/showanomachi/>。昭和ロマン蔵にはとり天（鶏の天ぷら）など地元名物やその他の和定食とデザートを味わうことのできる施設内レストランもあります。レトロなおもちゃやおやつといったお土産品も博物館外の露店で購入できます。

開館時間：平日 10:00～17:00、土日祝 9:00～17:00

休館日：12月30日、31日

入館料：単館券（昭和の町夢町三丁目館またはチームラボギャラリー昭和の町）大人 440 円、小中高生 300 円
2 館共通券（昭和の町夢町三丁目館・駄菓子屋の夢博物館）大人 900 円、小中高生 630 円
3 館共通券（昭和の町夢町三丁目館・駄菓子屋の夢博物館・チームラボギャラリー昭和の町）大人 1,200 円、小中高生 840 円

【タイトル】 昭和ロマン蔵：ボンネットバスツアー

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

昭和浪漫仓库：复古巴士观光游

昭和浪漫仓库外停放着一辆 1957 年的老巴士。来访者不仅可以登车拍照，如果适逢周日或国定假日，还能搭乘它享受一段“丰后高田昭和之町”的免费地区观光游。观光游上午 4 次、下午 5 次，一天共计 9 次。请于当天在昭和浪漫仓库预约，发车时间等详情可查 看 昭 和 之 町 ・ 丰 后 高 田 市 旅 游 观 光 网 站 <https://www.city.bungotakada.oita.jp/site/showanomachi/>。

<繁体字>

昭和浪漫倉庫：復古巴士觀光遊

昭和浪漫倉庫外停放著一輛 1957 年的老巴士。遊客不但可以上車拍照，如果適逢週日或國定假日，還能參加「豐後高田昭和之町」的免費地區觀光遊。觀光遊上午 4 次、下午 5 次，一天總共 9 次。請於當天在昭和浪漫倉庫預約，發車時間等詳細資訊請參見昭和之町・豐後高田市旅遊觀光網站：<https://www.city.bungotakada.oita.jp/site/showanomachi/>。

<日本語仮訳>

昭和ロマン蔵：ボンネットバスツアー

昭和ロマン蔵の外では、1957 年製のボンネットバスが駐車している様子が見られます。来場者はボンネットバスに飛び乗って写真を撮影することができます。また、日曜か祝日であれば、このバスで「豊後高田昭和の町」エリアを巡る無料の観光ツアーも楽しめます。このツアー実施は、1 日に 9 回あり、午前 4 便、午後 5 便運行します。ご乗車の際は、ツアー当日、昭和ロマン蔵で乗車予約をされてください。出発時間等の詳細は「昭和の町・豊後高田市公式観光サイト」をご確認ください <https://www.city.bungotakada.oita.jp/site/showanomachi/>。

【タイトル】 昭和ロマン蔵：駄菓子屋の夢博物館

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

昭和浪漫仓库：駄菓子屋之梦博物馆

“駄菓子屋之梦博物馆”内展出一系列怀旧玩具，让人不禁联想起诞生于明治时代(1868-1912)的“駄菓子屋”里贩卖的廉价小零食和玩具。这类店铺里多半还有自助投币的游戏机和扭蛋机。然而，随着便利店在各地逐渐普及，駄菓子屋慢慢消失，如今日本全国也已所剩无几。

博物馆馆藏多达约 6 万件，均为馆长小宫裕宣(1949-)的私人藏品。小宫裕宣是日本最著名的駄菓子屋玩具收藏家之一，拥有 30 万件出自二战(1939-1945)前至 20 世纪 80 年代晚期的駄菓子屋相关藏品，包括流行文化偶像的摆件、老唱片、旧杂志等，从中可以窥见当今日本流行文化的根基之所在。

一楼展区会定期轮换展览主题和展品，令来访者每次都有新的发现。二楼有老电影海报展出。纪念品商店也经过了精心设计，为来访者营造出在老式駄菓子屋里购物的氛围。

<繁体字>

昭和浪漫倉庫：駄菓子屋之夢博物館

看到「駄菓子屋之夢博物館」內展出的一系列懷舊玩具，讓人不禁聯想起誕生於明治時代（1868-1912）「駄菓子屋」中所販賣的廉價小零食和玩具。這類店鋪裡大多有自助投幣的遊戲機和扭蛋機。然而，隨著超商在各地普及，駄菓子屋慢慢消失，如今日本全國也已所剩無幾。

博物館的館藏多達大約 6 萬件，全是館長小宮裕宣（1949-）的藏品。小宮裕宣是日本最著名的駄菓子屋玩具收藏家之一，擁有多達 30 萬件出自二戰（1939-1945）前至 1980 年代晚期的駄菓子屋相關藏品，包括流行文化偶像的擺件、老唱片、舊雜誌等，從中可以一窺日本流行文化的發展軌跡。

一樓展區會定期輪換展覽主題和展品，令遊客每次都有新的發現。二樓有老電影海報展出。禮品店也經過精心設計，為遊客營造出在老式駄菓子屋裡購物的氛圍。

<日本語仮訳>

昭和ロマン蔵：駄菓子屋の夢博物館

「駄菓子屋の夢博物館」ではノスタルジックなおもちゃコレクションを展示しています。これらのおもちゃは、「駄菓子屋」と呼ばれる、明治時代（1868-1912）に起源をもつ、安価なお菓子やおもちゃを販売する店にあった商品を思い起こさせます。これらの店にはコイン投入式のアーケードゲームや「ガシヤポン」と呼ばれるカプセルトイ自販機も設置してありました。日本全国でコンビニエンスストアが徐々に出店されていくにつれ、駄菓子屋はゆっくりと数を減らし、現在では全国においてほんのわずかに見られるだけです。

この博物館には国内有数の駄菓子屋おもちゃコレクターである小宮裕宣氏（1949- ）が収集したおよそ 60,000 点という膨大な品々が収蔵されています。小宮氏はこの博物館の館長でもあり、第二次世界大戦（1939-1945）前から 1980 年代後半にかけての駄菓子屋アイテムを 300,000 点も所有しています。これらの中にはポップカルチャーのアイコンをかたどった置物、古いレコード、雑誌なども含まれます。これら多くの品々に、日本のポップカルチャーの礎を見ることが出来ます。

1 階の展示コーナーでは、定期的にテーマによって展示の品々が入れ替えられることから、来館する度に新鮮な感じがします。2 階では、レトロな映画ポスターを見られます。ギフトショップは来館者が伝統的な駄菓子屋で買い物をしているような雰囲気味わえるようにデザインされています。

【タイトル】 昭和ロマン蔵：昭和の夢町三丁目館

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

昭和浪漫仓库：昭和之梦町三丁目馆

“昭和浪漫仓库”由三座仓库组成，“昭和之梦町三丁目馆”占据了其中一座。该馆以完美复现的昭和时代(1926-1989)街道为特色。街道包括一座典型的民宅、一间小学教室，以及风行于 20 世纪 50 年代中期至 70 年代中期的街头游戏机和娱乐设施。

逼真的音效重现了上世纪 50 年代漫步这座城市街道的感觉。来访者可以走进传统的日式民居参观，其内设有一个厨房和一间起居室，摆放着那个时代的日常用品。进入小学教室则能窥见当年孩子们的生活状态。

来访者还可以在馆内尝试一下当年的游戏，比如老式的柏青哥（弹珠游戏机）和射击游戏。如果赢了，和过去一样，就能获得类似几十年前流行的“駄菓子”（廉价小零食和小玩具）的奖品。这里也非常适合拍照留影，用充满怀旧气息的照片来纪念这段体验之旅。馆内还出售大分本地土特产和駄菓子等纪念品。

<繁体字>

昭和浪漫倉庫：昭和之夢町三丁目館

「昭和浪漫倉庫」有三座倉庫，以完美複製了昭和時代（1926-1989）街道為特色的「昭和之夢町三丁目館」就位於其中一座倉庫內。街道包括一座典型的民宅、一間小學教室，以及風行於 1950 年代中期至 1970 年代中期的街頭遊戲機和娛樂設施。

逼真的音效重現了 1950 年代漫步這座城市街道的感覺。遊客可以走進傳統的日式民居，參觀擺放著那個時代用品的廚房和起居室。進入小學教室則能窺見當年孩子們的生活狀態。

遊客還可以在館內體驗當年的遊戲，例如老式的柏青哥（彈珠遊戲機）和射擊遊戲。如果贏了，和過去一樣，就能獲得與幾十年前流行的「駄菓子」（廉價小零食和小玩具）相仿的獎品。這個地方很適合拍幾張具有懷舊感的照片，紀念這段體驗之旅。館內還出售大分在地特產和駄菓子等伴手禮。

<日本語仮訳>

昭和ロマン蔵：昭和の夢町三丁目館

「昭和の夢町三丁目館」は、昭和ロマン蔵の3棟の蔵のうちの1棟にあり、昭和（1926-1989）の町並みのレプリカとなっているのが特徴です。そこには、典型的な民家、小学校の教室、さらには1950年代中頃から1970年代中頃にかけて人気を博していたアーケードゲームや娯楽施設などがあります。

リアルな効果音によって、来館者は1950年代の町並みを歩いているような感覚に浸れます。また、当時の日用品が置かれた台所や居間などがある伝統的な日本家屋に入ることができます。小学校の教室では、当時の子供たちがどのように生活していたのかを感じることができます。

来館者は年代物のパチンコ台（ピンボールに似た機械仕掛けのゲーム機）や射的などのレトロゲームに挑戦することもできます。これらのゲームに勝てば、何十年も前に人気だったものと似た駄菓子（安価なおもちゃやお菓子）がかつてのように景品としてもらえます。この写真映えする場所は、この体験の思い出として、ややノスタルジーな雰囲気の漂う写真を撮るのに絶好の場所です。地元大分産の製品や駄菓子といったお土産を購入することもできます。

【タイトル】 昭和ロマン蔵：チームラボギャラリー昭和の町

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

昭和浪漫仓库：teamLab 昭和之町美术馆

teamLab 数字艺术团队与“丰后高田昭和之町”合作，在昭和浪漫仓库开辟了一处艺术空间。teamLab 的数字艺术以其充满生命力的互动式光影秀而轰动全球，曾在多个国家的各种特色空间中展出。这里是 teamLab 团队在丰后高田的两个展览之一，特色在于鼓励来访者积极参与互动创作。

此处展览名叫《绘画草地舞》，主要展示一种起源于丰后高田市草地地区的传统舞蹈“盆舞”，其历史可追溯至江户时代(1603-1867)中期的 1722 年左右。如今每到夏天，草地舞都会在盂兰盆节（传说中逝者魂灵重返人世探望的日子）期间上演。在这个展览的互动空间里，绿草地投影在墙上，参观者的画作则会在草地上“活”过来——参观者用蜡笔画出人物形象，经过扫描后被投影到墙上，人物便开始在墙上的绿草地上走动起来，和其他来访者绘制的人物交流、互动。待到音乐响起，所有“笔下人物”便纷纷跳起草地舞。

<繁体字>

昭和浪漫倉庫：teamLab 昭和之町美術館

teamLab 數位藝術團隊與「豊後高田昭和之町」合作，在昭和浪漫倉庫開闢了一個藝術空間。teamLab 的數位藝術因為充滿生命力的互動式光影秀而轟動全球，曾在多個國家的各種特色空間中展出。teamLab 團隊在豊後高田有兩個展覽，這裡是其中之一，展覽藉由特別的互動方式，將參觀者引入其中。

這個展覽名叫《繪畫草地舞》，草地舞是源起於豊後高田市草地地區的傳統舞蹈「盆舞」，其歷史可追溯到江戶時代（1603-1867）中期的 1722 年前後。如今每到夏天，草地舞都會在盂蘭盆節（傳說中逝者靈魂重返人世探望的日子）期間上演。此處互動空間將綠草地投影在牆上，參與者用蠟筆畫出人物形象，經過掃描後被投影到牆上，好像畫作在草地上「活」了過來。人物開始在牆上綠草地裡走來走去，和其他參與者繪製的人物交流互動。隨著音樂響起，所有「筆下人物」便會紛紛跳起草地舞。

<日本語仮訳>

昭和ロマン蔵：チームラボギャラリー昭和の町

デジタルアートテクノロジストであるチームラボが、昭和ロマン蔵でアート空間をオープンするために豊後高田昭和の町と手を組みました。色鮮やかでインタラクティブな光のショーで知られるチームラボのデジタルアートは、世界的なセンセーションを巻き起こし、その展示は数カ国で独創的な空間を美しく飾っています。この展示は、豊後高田にある 2 つのチームラボ展示作品のひとつで、訪問客が参加出来るインタラクティブな仕掛けが用意されています。

『お絵かき草地おどり』と名付けられたこの作品は、豊後高田市の草地地域で、江戸時代（1603-1867）の中期（1722 年頃）に始まった伝統的な踊りである「盆踊り」を称えるものです。現在、草地おどりは毎夏、故人の魂が生者の世界を訪れると考えられているお盆のお祭り中に行われています。この展示のインタラクティブ空間では壁に草むらが投影され、その上で、訪問客によって描かれた絵が命を宿します。訪れた人たちはクレヨンを使って人物を描き、それらがスキャンされて壁に映されます。投影された人物たちは、壁の草むらの中を歩き回り、お互いに交流します。そして音楽が流れ始めると、草地おどりを踊ります。

【タイトル】 昭和時代と豊後高田昭和の町

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

昭和时代与丰后高田昭和之町

日本历法以年号纪元对应每一位天皇的任期。昭和时代指的就是昭和天皇（1901-1989；也称“裕仁天皇”）的在位时期，即 1926 年 12 月 25 日至 1989 年 1 月 7 日。他是日本历代天皇中在位时间最长的一位。

昭和时代发生了好几件日本历史上的重大事件，包括 1927 年金融危机、第二次世界大战(1939-1945)，以及 20 世纪 50 年代中期至 1972 年的经济高速增长。日本在战后经济高速发展期间，从废墟中的重建开始，快速实现了现代化，文化也得以蓬勃发展。

1989 年昭和天皇去世后，他的儿子明仁亲王(1933-)继位，平成时代(1989-2019)开启。平成时代里，日本经济泡沫破灭，昭和黄金时代的记忆渐渐远去。

目前，日本大约 70%的国民都出生于昭和时代，许多人都保留着对那段繁荣昌盛岁月的美好回忆。包括漫画和动漫在内的现代日本流行文化也发源于昭和时代，那时候，人们的可支配收入更多，家庭电视机迅速普及。那也是一个国家取得显著成就的时代，比如新干线开通，比如 1964 年夏季举办的东京奥运会——这是亚洲国家首次承办此项国际盛会。

时至今日，有关昭和时代的记忆依然在丰后高田焕发着光彩。历史商店街“丰后高田昭和之町”重现了 20 世纪 50、60 年代的氛围，那是日本几代人怀念的时光。自江户时代(1603-1867)开始，直到昭和时代中期，这一地区都是通往关西贸易路线上的热门驿站，大量的海事活动带动了本地的繁华。然而，随着人口逐渐减少，曾经热闹的城镇沉寂下来，淡出了世人的视线。2001 年，以保护并复兴这座小镇为宗旨的“丰后高田昭和之町”规划启动。目前，商店街里已有 50 多家“昭和之町认证店”，售卖被称为“一店一品”的各家经典商品以及充满昭和时代怀旧气息的美食。而昭和浪漫仓库则重现了昭和时代的街道与复古游戏，同时展出了大量的复古玩具。

<繁体字>

昭和時代與豐後高田昭和之町

日本曆法以年號紀元對應每一位天皇的任期。昭和時代指的是昭和天皇（1901-1989；也稱「裕仁天皇」）在位的時間，他的任期從 1926 年 12 月 25 日到 1989 年 1 月 7 日，是日本歷任天皇中最長的一位。

昭和時代發生了幾件日本歷史上的重大事件，包括 1927 年金融危機、第二次世界大戰（1939-1945），以及 1950 年代中期至 1972 年的經濟高速成長。日本在戰後高速發展期間，從戰爭創傷中復甦，快速實現了現代化，文化也蓬勃發展。

1989 年昭和天皇去世，兒子明仁親王（1933- ）繼位，開啟了平成時代（1989-2019）。平成時代裡日本經濟泡沫破滅，昭和黃金時代的記憶也漸漸遠去。

目前日本大約有 70% 國民在昭和時代出生，許多人都保留著對繁榮昌盛歲月的美好回憶。包括漫畫和動漫在內的現代日本流行文化大多也發源於昭和時代，當時，人們的可支配收入更多，家庭電視機迅速普及。國家在這段期間也取得了顯著成就，像是新幹線通車，以及 1964 年在東京舉辦夏季奧運會，這也是亞洲國家首次承辦這項國際盛會。

時至今日，有關昭和時代的記憶依然在豐後高田煥發著光彩。歷史商店街「豐後高田昭和之町」重現了幾代日本人懷念的 1950、1960 年代氛圍。從江戶時代（1603-1867）到昭和時代中期，這個地區始終是通往關西貿易路線上的熱門驛站，大量海事活動帶動了當地繁華。然而，隨著人口不斷減少，曾經熱鬧的城鎮沉寂下來，逐漸淡出世人視線。2001 年，以保護並復興這座小鎮為宗旨的「豐後高田昭和之町」規劃啟動。到今天，商店街裡已有 50 多家「昭和之町認證店」，販賣「一店一品」，包含各家經典商品，以及能讓人回想起昭和時代的美食等。而在昭和浪漫倉庫，不但重現了昭和時代的街道、復古遊戲，還展出了大量復古玩具藏品。

<日本語版訳>

昭和時代と豊後高田昭和の町

日本の暦は、歴代の天皇の治世に対応する元号によって体系化されています。昭和時代（1926-1989）は、裕仁天皇としても知られる昭和天皇（1901-1989）と関係しています。その治世は歴代の天皇の治世よりも長く、1926 年 12 月 25 日から 1989 年 1 月 7 日まで続きました。

昭和の時代には、日本の歴史の中でも重要な出来事のいくつかが起こりました。1927 年の金融恐慌、第二次世界大戦（1939-1945）、1950 年代半ばから 1972 年までの高度経済成長などです。高度経済成長期、日本は戦争被害から復興して急速な近代化と文化的発展を遂げました。

1989 年の昭和天皇の崩御に伴い、彼の息子である明仁親王（1933- ）が皇位を継いで始まったのが、2019 年まで続いた平成の時代です。平成の時代にはバブル経済が崩壊し、昭和の黄金時代の記憶は次第に遠ざかっていきました。

現在の日本の人口のおよそ 70 パーセントは昭和生まれで、多くの人がこの豊かだった時の甘い記

憶を持っています。漫画やアニメを含む現代の日本のポップカルチャーは、昭和の時代に育まりました。当時は今よりも可処分所得が高く、家庭でテレビを持つことが普及しました。また、アジアの国で初めて主催された 1964 年の東京夏季オリンピックや最初の新幹線開通など、国として重要な成果が得られた時でもありました。

昭和の時代の記憶は、豊後高田に今も生きています。歴史的な商店街「豊後高田昭和の町」は 1950 年代と 1960 年代の雰囲気再現しており、それは多くの世代の日本人にとって懐かしい気持ちを湧き上がらせる時代です。この地域は江戸時代（1603-1867）から昭和の中期まで関西への交易路上にあり、海上交通量が多かったことから人気の停泊所として繁栄しました。その後、人口減少などから、かつて繁栄したこの町は静かな、孤立した場所になりました。町を保存し、復興するために「豊後高田昭和の町」構想が始まったのは 2001 年です。今では、「昭和の町認定店」は、50 店以上あり、各店舗が昔から受け継いだ自慢の商品や昭和を感じることができる食べ物などを「一店一品」として、店頭で販売しています。昭和ロマン蔵には、昭和の時代の町並みのレプリカや、レトロなゲーム、玩具コレクションが展示されています。

地域番号	012	協議会名	富士宮市

解説文一覧

NO.	スポット名（タイトル）	中国語文字数	想定媒体
012-001	白糸ノ滝	431	アプリ QR コード・WEB
012-002	音止めの滝	378	アプリ QR コード・WEB
012-003	お鬘水	293	アプリ QR コード・WEB
012-004	富士山本宮浅間大社：正面入り口	365	アプリ QR コード・WEB
012-005	富士山本宮浅間大社：湧玉池	315	アプリ QR コード・WEB
012-006	村山浅間神社：概要	491	アプリ QR コード・WEB
012-007	村山浅間神社：護摩壇、水垢離場	387	アプリ QR コード・WEB
012-008	村山浅間神社：御神木（杉、銀杏）	445	アプリ QR コード・WEB
012-009	村山浅間神社：大宮・村山口登山道	452	アプリ QR コード・WEB
012-010	村山浅間神社：絹本著色富士曼荼羅図	543	アプリ QR コード・WEB
012-011	山宮浅間神社：参道入口	416	アプリ QR コード・WEB
012-012	山宮浅間神社：遥拝所	347	アプリ QR コード・WEB
012-013	人穴富士講遺跡：概要	375	アプリ QR コード・WEB
012-014	人穴富士講遺跡：溶岩洞穴「人穴」	538	アプリ QR コード・WEB
012-015	人穴富士講遺跡：碑塔群と富士講	344	アプリ QR コード・WEB
012-016	人穴富士講遺跡：人穴浅間神社	312	アプリ QR コード・WEB

【タイトル】 白糸ノ滝

【想定媒体】 アプリ QR コード・WEB

<簡体字>**白丝瀑布**

白丝瀑布是一处涌泉瀑布，数百道水流从高 20 米、宽 150 米的崖壁中汨汨涌出，倾泻而下。“白丝”之名，源于这数百道倾泻入潭的水流，宛若轻盈垂落的白色丝缎。

泉水径直从崖壁间涌出，实属罕见。富士山上的降雨与融雪渗入多孔的熔岩层，汇入透水性较低的硬化泥流层，随之沿倾斜的泥流层流淌而下，最终在此处奔涌而出。岩壁间涌出的清泉常年保持在 12 摄氏度，水流量约为每秒 1.5 吨。

苦行者长谷川角行（1541—1646），崇拜富士山的宗教流派“富士讲”的开山鼻祖，曾在此瀑布下苦修，相传他白天、夜晚各在瀑布下净身三次，每日饮瀑布之水 33 回，以此净化身心。后来，尤其是在 17 至 18 世纪富士讲最为兴盛的时期，信徒们便将此处瀑布作为富士山朝圣的必经之地。曾大力推动富士讲传播的信徒食行身禄（1671—1733）亦受后人景仰，其纪念碑便矗立于右侧阶梯附近。

1936 年，白丝瀑布被指定为日本国家名胜与国家天然纪念物。作为富士山文化群落的重要组成部分，亦被列入联合国教科文组织世界遗产名录。

<繁体字>**白絲瀑布**

白絲瀑布是一處湧泉型瀑布，由從 20 公尺高、150 公尺長的懸崖峭壁的岩壁層中湧出無數水流匯聚而成。白絲意為「白色絲線」，形容這數百條如絲綢般的水流傾瀉而下，匯入下方水潭的景象。

泉水從崖壁側面直接湧出是一種罕見景象。在這裡，源自富士山的雨水和融雪滲入多孔的熔岩層，最後到達滲透性較低的硬化泥流層。水順著泥流層坡面流下，從此處湧出。從岩石中湧出的水溫為攝氏 12 度，流量約為每秒 1.5 噸。

苦修士長谷川角行（1541-1646），被尊奉為富士講（崇拜富士山的團體）的始祖，曾在此瀑布進行苦修。據傳，角行白天跟晚上分別在瀑布淨身三次，每日飲用瀑布水 33 次以淨化自身。富士講信徒將此瀑布當作前往富士山朝聖的中繼點，尤其是在 17、18 世紀該宗教的鼎盛時期。食行身祿（1671-1733）是富士講的虔誠信徒，致力於推廣富士講的普及，在瀑布右側階梯附近建有一座紀念碑。

西元 1936 年，該瀑布被指定為日本國家名勝和天然紀念物。此外，白糸瀑布也是聯合國教科文組織（UNESCO）世界遺產之富士山構成資產之一。

<日本語仮訳>

白糸の滝

白糸の滝は湧水の滝であり、高さ 20 メートル、幅 150 メートルにわたる岩肌から無数の水流が湧き出ています。「白糸」とは無数の水流が絹糸のように柔らかく流れ落ちる様子を表しています。

崖の側面から直接水が湧き出すのは珍しい現象です。ここでは、富士山に降った雨や雪解け水が古い溶岩の多孔質層を通して地下に浸透し、やがて硬化した泥流の透水性の低い地層に達し、泥流層の斜面を下って流れ、この場所で押し出されるのです。水は年間を通じて摂氏 12 度で湧き出し、その量は毎秒約 1500 リットルに達します。

富士山を信仰の対象とする宗派の開祖とされた長谷川角行（1541-1646）はこの滝で修行を行いました。角行は昼間に 3 回、夜に 3 回この水で身を清め、さらに 1 日 33 回水を飲んで修行したと伝えられています。彼の富士講の信者たちは、特に 17 世紀から 18 世紀にかけてその宗派が最も盛んだった時期に、富士山参拝の道中でこの滝を立ち寄りの地としました。宗派の普及に尽力した食行身祿（1671-1733）もこの信仰の篤い実践者であり、右手の階段近くには彼を顕彰する碑が建てられています。

1936 年、この滝は国の名勝および天然記念物に指定されました。また、この滝は富士山のユネスコ世界遺産の構成資産にも含まれています。

【タイトル】 音止めの滝

【想定媒体】 アプリ QR コード・WEB

<簡体字>

音止瀑布与曾我兄弟复仇传奇

此处，芝川河水自 25 米高的断崖飞流而下，声若雷鸣。芝川发源于富士山麓，向南汇入富士川，最终一同注入骏河湾。

“音止瀑布”之名，源于 12 世纪著名的曾我兄弟复仇故事。兄弟二人幼年时，父亲惨遭毒手，他们矢志复仇，终在成年后报仇雪恨。这段历史被载入军记《曾我物语》，流传后世。故事中，兄弟俩隐忍多年，暗中习武，苦候良机。直至仇人受邀参加幕府将军在富士山麓举办的大规模狩猎活动，他们才得以实施复仇计划。

相传兄弟二人曾在此瀑布旁秘密会面，商议复仇大计。但瀑布声震耳欲聋，难以听清对方言语，兄长不禁抱怨瀑布无情。话音未落，瀑布轰鸣之声戛然而止，并全程保持静默，直至二人商议结束。

故事的最后，兄弟二人虽成功为父报仇，却在随后的混乱中不幸殒命。曾我兄弟的悲剧故事承载着孝道与家族荣誉的核心主题，此后反复出现在歌舞伎、浮世绘、电影等日本大众文化作品中。

<繁体字>

音止瀑布與曾我兄弟的傳說

在這裡，芝川的河水從 25 公尺高的絕壁傾瀉而下，發出巨響。芝川發源自富士山麓，向南流入富士川，最終注入駿河灣。

「音止瀑布」這個名字，意為「突然靜默的瀑布」，源自 12 世紀著名的曾我兄弟傳說，故事中兄弟倆殺死了童年時的弑父仇人。這個歷史事件記載在戰爭史《曾我物語》中。故事講述的是，曾我兄弟為報父仇而終生進行秘密修練，最終於在殺父仇人受邀參加幕府在富士山麓舉辦的大型狩獵活動時迎來復仇機會。

據說兩兄弟曾在此瀑布附近秘密會面，商討復仇計畫。瀑布的水聲太大使兩人難以聽清彼此說話，以至於其中一人曾怨瀑布無情。就在此時，瀑布水聲突然停止，悄無聲息，直至二人計畫商討完成。

故事的結局是兄弟們成功殺死父親的仇人，然而卻在後來的事件中喪生。曾我兄弟的悲劇故事蘊含著孝道與家族榮耀的核心主題，曾多次呈現在歌舞伎、浮世繪及電影等日本流行文化之中。

＜日本語仮訳＞

音止めの滝

ここでは、芝川の水が一気に 25 メートルの断崖を落下し、轟音を立てて流れ落ちています。芝川は富士山の麓から湧き出し、南へと流れて富士川と合流し、駿河湾に注ぎます。

「音止めの滝」という名は、「曾我物語」などの軍記物に描かれた 12 世紀の仇討ちの逸話に由来します。物語の中で、曾我兄弟は父の仇を討つために、生涯をかけて密かに仇討ちの修練を積みました。やがて将軍が富士山麓で狩りを催し、ついに復讐の機会を得ます。

伝承によれば、兄弟はこの滝の近くで密かに落ち合い、復讐の計画を練ろうとしました。しかし滝の轟音で会話が聞き取りにくく、兄のがこの滝を「無情だ」と非難したところ、突然、滝の音が止み、二人が計画を立て終えるまで静けさが続いたといわれています。

物語の結末では、兄弟は父の仇を討つことに成功しますが、その直後の混乱の中で命を落とします。親への孝と家名の名誉という強いテーマを持つ曾我兄弟の悲劇は、歌舞伎、浮世絵、映画など、日本の大衆文化に繰り返し描かれてきました。

【タイトル】 お鬢水

【想定媒体】 アプリ QR コード・WEB

<簡体字>**鬢水泉**

这是一处天然泉水池，由富士山径流汇聚而成。雨水与融雪渗入山体深处多孔熔岩层，历经多年渗透过滤，最终在透水性较低的硬化泥流层上方汇聚成地下水。随着地下水压逐渐增大，水流从此处涌出，继而顺流而下，汇入白丝瀑布。

鬢水泉还出现在一则历史传说中，主角是镰仓幕府（1185—1333）的开创者，武将源赖朝（1147—1199）。1193年5月，源赖朝为彰显新近确立的政治权威，在富士山麓举办了为期一月的盛大狩猎活动。在这一个月中，众人竞相比试狩猎与各类武艺。相传，在盛会期间，源赖朝鬓发散乱。他在此处泉水中照见了倒影，借着如镜的水面整理仪容。此泉因而得名“鬢水”，意为“整理鬓发之水”。

<繁体字>**御鬢水之泉**

這座天然泉池的水源來自富士山的水流。雨水和融雪長年滲入山體多孔的熔岩層，最後匯集到滲透性較低的硬化泥流層。最終因地底壓力迫使地下水在此處湧出，然後向下流入白絲瀑布。

這座泉池曾出現在關於鎌倉幕府（1185–1333）創建者源賴朝（1147–1199）將軍的歷史故事之中。1193年5月，源賴朝在富士山麓舉辦了一場盛大的狩獵活動，以展示新建立的政治威勢。在這一個月的活動中，舉辦了狩獵和其他武術比試。據傳，源賴朝在活動時髮髻鬆脫。他藉此泉池中映照倒影，並整理好儀容，而此泉池因而得名，意即「鬢撫水」，也就是「整理鬢髮的水」。

<日本語仮訳>**お鬢水**

この自然の湧水池は、富士山に降った雨や雪解け水によって生まれています。水は長い年月をかけて古い溶岩の多孔質層を通して濾過され、やがて透水性の低い硬化した泥流の地層に到達します。そ

こで水圧によって地下水が押し出され、この場所に湧き出て、白糸の滝へと流れ下ります。

この池は、鎌倉幕府を開いた武将である源頼朝（1147-1199）にまつわる物語にも登場します。

1193 年 5 月、頼朝は新たに確立した政権の威勢を示すため、富士山麓で 1 か月にわたる大規模な狩りを催しました。参加者たちは狩猟や流鏑馬など武芸の腕前を競ったと伝えられています。

伝承によれば、この「富士の巻狩り」の最中に頼朝髪が乱れ、この池に映った自らの姿を見て整えることができました。このことから、泉の名は「お鬢水」という名がついたとされています。

【タイトル】 富士山本宮浅間大社：正面入り口

【想定媒体】 アプリ QR コード・WEB

<簡体字>

富士山本宮浅間大社

富士山本宮浅間大社は日本約 1300 座浅間神社の总本社，这些神社共同供奉着富士山这座活火山的诸位神灵。

据信，浅间大社建于富士山活动异常活跃的时期，旨在平息猛烈喷发的火山。据江户时代（1603—1867）文献记载，神社原址更靠近富士山，于 9 世纪初迁至现址——水质清澈的涌玉池畔。此后数百年间，浅间大社受到众多强大武士家族的庇护，这些家族出资为神社增建了更多建筑。现存建筑大多由德川幕府（1603—1867）创立者德川家康（1543—1616）于 1606 年下令建造。富士山的部分山体也被划定在神社之内。例如如今富士山顶的神社，被官方认定为浅间大社的内宫（即奥宫）。

16 世纪后期，富士山朝圣之路日渐兴盛，浅间大社正是朝圣路上的重要一站。朝圣者通常会在神社附近投宿，并在清泉汇聚的涌玉池中涤净身心，而后继续向富士山顶进发。

<繁体字>

富士山本宮淺間大社

富士山本宮淺間大社是全國約 1300 座淺間神社的總本宮，供奉富士山這座活火山的神祇。

據說，淺間大社是在富士山火山活動特別活躍的時期所建造，目的是為了平息這座猛烈噴發的火山。根據江戶時代（1603–1867）的記載，神社位於比現在更接近富士山的位置，但在 9 世紀初搬遷至現在清澈的湧玉池旁。隨後數個世紀，淺間大社得到許多得勢的武家贊助，得以整修與擴建附屬建築。現存主要建築多由江戶幕府（1603–1867）的開創者德川家康（1543–1616）於 1606 年所下令建造。富士山本身的一部分亦被劃入神社神域：富士山頂的神社現今被正式認定為淺間大社的內殿，即奧宮。

16 世紀末，富士山作為朝聖路線的受歡迎程度大幅提高，而淺間大社是這條路線上

的重要停留點。朝聖者們在神社附近留宿，並在湧玉池沐浴淨身，然後繼續登山。

＜日本語仮訳＞

富士山本宮浅間大社

富士山本宮浅間大社は、富士山の神々を祀る全国約 1,300 社の浅間神社の総本宮です。

富士山は 11 世紀ごろまで活発な火山であり、周辺に暮らす人々の生命を脅かしていました。浅間大社は激しく噴火する富士山を鎮めるため、こうした火山活動が盛んな時代に創建されたと考えられています。創建当初は現在よりも富士山に近い場所にありましたが、9 世紀初頭に清らかな湧水をたたえる湧玉池のほとりに移されました。その後の世紀には、多くの有力な武家から寄進を受け、社殿の整備が進められました。現在の主要な建物の多くは、江戸幕府（1603－1867）を開いた徳川家康（1543－1616）の命により 1606 年に造営されたものです。また、富士山そのものの一部は神社の神域とされており、山頂にある社は浅間大社の奥宮となっています。

富士山は 6 世紀に初めて登頂されたと伝わりますが、巡礼の道としての人気が大きく高まったのは 12 世紀頃のことです。その際、浅間大社は巡礼の重要な拠点となりました。参詣者は社の付近にある宿坊に宿泊し、湧玉池の湧水で身を清めたのちに山へと登って行きました。

【タイトル】 富士山本宮浅間大社：湧玉池

【想定媒体】 アプリ QR コード・WEB

<簡体字>

湧玉池

湧玉池坐落于历史悠久的富士山本宮浅間大社内，是一处天然涌泉池。

16 世纪后期，富士山登顶朝圣之风日渐兴盛，浅间大社便成为朝圣途中的重要休整之地。攀登富士山顶前，朝圣者会在此池中沐浴净身。浅间大社珍藏的一幅拥有数百年历史的挂轴，便描绘了这一习俗。

池水源于渗入富士山岩层的雨水与融雪，在漫长的岁月里，水流渗透过多孔的熔岩层，最终在山麓涌出，水温常年清凉，保持在 14 摄氏度。每日约有 20 万吨泉水源源不断注入池中。

池面面积约 2.5 平方公里，池水汇入神田川。湧玉池下游处的小岛上，建有一座摄末社（本社の附属神社），由两座朱红色的日式太鼓桥与岸相连。

因其独特的地质价值与深厚的文化意义，湧玉池于 1952 年被指定为日本国家级特别天然纪念物。

<繁体字>

湧玉池

湧玉池是位於歷史悠久的富士山本宮淺間大社內的天然湧泉池。

淺間大社は前往富士山頂朝聖路線上的重要停留點，這條路線在 16 世紀末時越來越受歡迎。朝聖者在登上山頂前會在湧玉池沐浴淨身，這種習俗在神社收藏的一幅數百年曆史掛軸中有所描繪。

泉池的水源來自滲入富士山岩石土壤的雨水和融雪。經長年在多孔質熔岩層過濾後，最後在山麓以約攝氏 14 度的湧泉形式湧出。每日約有 20 萬噸的水流穩定匯入湧玉池。

泉池面積約 2.5 平方公里，最後注入神田川。泉池下游有一座小型附屬神社，座落於

池中島上，透過兩座拱形紅橋與岸邊相連。

湧玉池因其地質與文化重要性，於西元 1952 年被指定為特別天然紀念物。

＜日本語仮訳＞

湧玉池

湧玉池は、歴史ある富士山本宮浅間大社の境内にある、自然湧水の池です。

浅間大社は富士山頂への巡礼路における重要な拠点で、室町時代（1336–1573）にこの巡礼路が非常に人気を集めました。参詣者は登山の前に湧玉池で身を清める義務があり、その様子は社宝となっている数百年前の掛軸にも描かれています。

池の水は、富士山の高地に降った雨や雪解け水が岩質の地層に浸透し、長い年月をかけて多孔質の溶岩層でろ過された後、山麓で約 13 度の湧水として湧きだしたものです。湧玉池には、1 日約 20 万トンの水が安定して流れ込んでいます。

池の面積は約 2.5 平方キロメートルで、神田川へと流れ込みます。池の下流側には小さな末社が島の上に建ち、岸とは日本の朱色の太鼓橋で結ばれています

湧玉池はその地質学的・文化的価値が評価され、1952 年に特別天然記念物に指定されました。

【タイトル】 村山浅間神社：概要

【想定媒体】 アプリ QR コード・WEB

＜簡体字＞

村山浅間神社

村山浅間神社曾是富士山登顶朝圣古道的一部分。神社的大日堂内，供奉着多尊有着数百年历史的佛像，包含由朝圣者携至山中的供奉佛像。在明治初期（1868—1912 年）的废佛毁释运动之前，此类供奉佛像曾遍布富士山，一直至山顶。

据信，富士山频繁的火山活动与间歇性喷发，约在 11 至 12 世纪前后逐渐平息，登山变得相对安全。此后，富士山开始吸引修验道修行者前来修行。修验道是一种融合了神道教、佛教、道教及萨满教信仰的山岳修行传统。攀登神山被视为其中一种重要的修行方式。大约在 12 世纪，日本僧人末代上人据传曾在此地建立寺院，为前往富士山的修验道修行者提供驻足之所。

最初，寺院兼具神道教神社与佛教寺庙功能。但在 1868 年，日本政府颁布神佛分离令。此法令激化了民众对佛教寺院长期掌控权势的不满，导致日本多地佛寺与佛教艺术品遭到损毁。此处寺庙也在这场迫害运动中被正式废除。如今，该神社的佛教遗产仅存于大日堂中。堂内汇集了多尊来自富士山各处的佛像，皆是当年虔诚信众为保护其免遭劫难而转移至此的。此外，堂内还陈列着一尊修验道核心神明大日如来的木雕造像。该造像可追溯至 1259 年，曾是原寺院的主尊佛像。

＜繁体字＞

村山浅間神社

村山浅間神社曾是通往富士山顶过去朝圣路线的一部分。神社的「大日堂」内供奉著数百年前的佛像，其中包括朝圣者奉纳富士山的几尊佛像。在明治时代初期（1868–1912）废佛毁释之前，这些奉纳佛像曾整座山中星罗棋布，一直延伸到山顶。

据信，富士山频繁的火山活动和零星喷发在大约 11 世纪或 12 世纪左右逐渐平息，使登山朝圣变得相对安全。此后，这座山开始吸引修验道的修行者，这是一种结合了神道、佛教、道教和萨满教信仰元素的山岳苦行主义体现。修验道信徒特别重视攀登圣山，并将其视为一种宗教修行方式。约在 12 世纪左右，僧侣松代为了修验道修行者前往富士山途

中歇息而在此地建立了一座寺廟。

最初的寺廟兼具神道神社與佛教寺廟風貌。然而，自 1868 年政府下令「神佛分離」。這道命令激起人們對許多佛寺長期掌握權勢的不滿，導致全國各地許多寺廟和佛教藝術品遭到破壞或廢棄。在這場迫害之後，這裡的寺廟正式被廢除了。如今，神社的佛教遺產保存於大日堂中。堂內供奉多尊的富士山佛像，這些佛像是緣於信徒們為保護其免遭破壞而遷至安放的。堂內也展示著一尊大日如來佛的木造坐像，其為修驗道的重要神祇。這座神像可以追溯至 1259 年，是原寺院的主神像。

<日本語仮訳>

村山浅間神社

村山浅間神社は、かつて富士山頂への歴史的な巡礼路の一部として位置していました。境内にある大日堂には、長年にわたり巡礼者が富士山に奉納したものを含む、数百年の歴史をもつ仏像が安置されています。明治時代（1868-1912）初期の廃仏毀釈以前は、これらの奉納仏が山中に点在していました。

11 世紀になると、富士山では頻発していた火山活動や断続的な噴火が次第におさまり、登拝が可能になりました。これを契機に、神道と仏教の要素を組み合わせた山岳信仰である修験道の行者たちが富士山に集うようになります。修行道では、霊峰に登ること自体が重要な宗教行為とされています。12 世紀頃、この地に僧・末代（まつだい）が修験道の修行者のために寺院を建立したと伝えられています。

寺院は当初、神社と寺院の両方を兼ね備えていました。しかし、1868 年からの神仏分離政策、全国の多くの仏教寺院や仏像が破損・廃絶されました。当地の寺院も廃寺となりました。現在でも、仏教の遺産は大日堂に残されており、山中の仏像は破壊を避けるために信者によって堂内に移されました。また、大日堂には修験道の中心的な仏である大日如來の木造座像も展示されています。この像は 1259 年に制作され、もともとは寺院の本尊として安置されていました。

【タイトル】 村山浅間神社：護摩壇、水垢離場

【想定媒体】 アプリ QR コード・WEB

<簡体字>

护摩火祭坛

传统上，护摩火祭仪式于每年 7 月和 9 月举行，分别标志着登山季的开始与结束。仪式期间，人们将祈求消灾祛病的祷文写在名为“护摩木”的木棍上，随后将其焚烧。人们相信，升腾的烟雾能将祈愿送达天庭。修验道修行者会在富士山登山前后，于此祭坛举行护摩火祭仪式。

祭坛后方供奉的神像是修验道信仰中的重要神明不动明王。不动明王还是佛教中降伏邪恶与世俗欲念的神明，常被塑造为烈焰环绕之姿，面容威怒、神情凛然。

净身池

20 世纪前，攀登富士山的行者在登山前，先会在这样的净身池中沐浴净身。此类净身仪式曾在此处和富士山本宫浅间大社的涌玉池举行。这一仪式的场景，可在一幅室町时代（1336—1573）描绘富士山登顶路线的绢本设色卷轴画中看到。如今，净身池仅在每年 7 月 10 日的富士山开山仪式中使用。

俯瞰净身池的神像是不动明王，守护修验道修行者登山之路的重要神明。不动明王是佛教的护法尊神，能破除诸恶。

<繁体字>

護摩壇山

每年 7 月和 9 月都會舉行傳統護摩火祭儀式，象徵登山季的開始與結束。儀式期間，人們將祈求免於疾病與災厄的祈禱文寫在稱為「護摩木」的木札上，然後將這些護摩木燒掉，人們相信煙霧會將祈願送達天上。修驗道修行者通常都會在攀登富士山前後，於此祭壇上舉行護摩火祭儀式。

祭壇後方的神像為不動明王，是修驗道中的重要神祇。不動明王是佛教中專門降伏邪惡與世俗慾望的神祇。其形象多為受到神聖的火焰環繞，面容威嚴而帶怒意。

淨身池（水垢離場）

直到 20 世紀，富士山登山者登山之前都會先在這樣的水池裡淨身。淨化儀式在會這裡和富士山本宮淺間大社の湧玉池進行。這類淨化儀式在一幅室町時代（1336–1573）的絹本掛軸中有所描繪，說明了通往富士山頂峰的路線。現今，這座池水僅於每年 7 月 10 日富士山開山祭典中使用。

而俯瞰水池的神像描繪的是不動明王，祂是守護修驗道修行者的重要神祇。不動明王是佛教中象徵降伏邪惡的守護神。

<日本語仮訳>

護摩壇

護摩の火祭りは、登山シーズンの開山と閉山にあたる毎年 7 月と 9 月に、伝統的に執り行われてきました。この儀式では、病気や怪我からの守護を願う祈りを「護摩木（ごまぎ）」と呼ばれる木の札に記し、それを焚き上げます。燃え上がる護摩木の煙が、祈りを天へと届けると信じられています。修験道の行者たちは、富士山の登拝の前後に、この護摩修法壇で護摩供を行うのを習わしとしていました。祭壇の背後に安置されているのは、不動明王の像です。

不動明王は修験道において重要な尊格であり、五大明王の中心的存在とされています。怒りの表情で悪を打ち破る守護神で、欲望を焼き尽くすことを象徴する炎に包まれた姿で描かれることが多くあります。

水垢離場

20 世紀に入るまで、富士山登拝の前、巡礼者はまず身を清めなければなりませんでした。この石造の池は、修行者が清めを行った場所の一つで、浅間大社の湧玉池も同様の場として用いられました。この儀式の様子は、室町時代（1336–1573）にかかれた富士山山頂への道程を表す富士曼荼羅図にも残されています。現在、この池の水は、毎年 7 月 10 日に行われる富士山開山祭の神事の際にのみ使用されています。池を見下ろす像は、不動明王で、山中で修行する修験者たちを守護する存在です。仏教において不動明王は衆生を悟りへ導くゆるぎない決意を象徴することから「不動の智王」とも称される尊格です。

【タイトル】 村山浅間神社：御神木（杉、銀杏）

【想定媒体】 アプリ QR コード・WEB

<簡体字>

御神木杉树

在日本神道教中，神社内的某些特定树木常被视为神明或神灵的栖居之所。此类树木往往年岁久远、树形巨大或生命力顽强，因此被奉为御神木，所受敬重不亚于神社本身。御神木通常会系上“注连绳”，以标示其神圣地位。“注连绳”是以麻或稻草搓成的绳索，上面悬挂着白色纸条。象征神域与人间的分界。

村山浅间神社的御神木杉树，估计已有 1000 多年的树龄。树高约 50 米，树干周长超过 10 米。1956 年，该树被指定为县级天然纪念物。

御神木银杏

在日本神道教中，神社内的某些树木被视为神明或神灵的栖居之所。此类树木往往年岁久远、树形巨大或生命力顽强，因此被奉为御神木，并系上“注连绳”，以标示其神圣地位。“注连绳”是以麻或稻草搓成的绳索，上面悬挂着白色纸条，象征神域与人间的分界。

村山浅间神社的御神木银杏，估计已有 300 多年的树龄。树高超过 16 米，树干周长超过 8 米。树枝上垂挂着球状的气生根。因形态酷似乳房，当地流传着一则传说：以针轻刺这些气生根，可助哺乳期的母亲分泌乳汁。1968 年，该树被指定为县级天然纪念物。

<繁体字>

御神木・杉樹

在神道教，人們通常相信神社中某些特定樹木會有神靈寄宿。這類樹木通常具有年齡悠久、體型巨大或旺盛的生命力，被視為神聖象徵，並受到與神社本身同樣的敬重。御神木上會繫著由麻或稻草編成的注連繩，並懸掛白色紙條，以彰顯其神聖地位。

村山淺間神社的御神杉樹齡預估已超過 1000 年。樹高近 50 公尺，樹圍超過 10 公尺。這棵樹於 1956 年被指定為靜岡縣天然紀念物。

御神木・銀杏樹

在神道教，人們通常相信神社中某些樹木會有神靈寄宿。這類樹木通常具有年齡悠久、體型巨大或旺盛的生命力，被視為神聖的象徵，其會繫上由麻或稻草編成的注連繩，並懸掛著白色紙條，以彰顯其地位。

村山淺間神社の御神木銀杏樹預估樹齡已超過 300 年。樹高超過 16 公尺，樹圍超過 8 公尺。銀杏樹枝幹上垂掛著球狀氣根。這些球狀氣根形似乳房，因而成了一則當地傳說，據信用針刺扎氣根可以促進哺乳婦女分泌乳汁。這棵樹於 1968 年被指定為靜岡縣天然紀念物。

<日本語仮訳>

御神木・杉の木

神道では、神社の境内にある特定の樹木には神霊が宿ると信じられています。こうした樹木は、年齢や大きさ、生命力などにおいて際立ったものが多く、神社の境内にあり、神社と同じように神聖視されます。その存在を示すため、白い紙垂（しで）を下げた注連縄（しめなわ）が巻かれます。

村山浅間神社の御神杉は、樹齡千年以上と推定され、高さ約 50 メートル、幹の周囲は 10 メートル以上あります。1956 年に県の天然記念物に指定されました。

御神木・銀杏の木

神道では、神社の境内にある一部の樹木に神や例が宿ると信じられています。特に年齢や大きさ、力強さで際立った木は神聖視され、注連縄でその神聖さが示されます。

村山浅間神社の御神木である銀杏は、樹齡 300 年以上と推定され、高さ 16 メートル以上、幹の周囲は最も太い部分で 8 メートルを超えます。枝からは球状の気根が垂れ下がっており、その形が乳房に似ていることから、地元では「気根に針を刺すと母乳がよく出る」と伝わる伝説があります。この銀杏は 1968 年に県の天然記念物に指定されました。

【タイトル】 村山浅間神社：大宮・村山口登山道

【想定媒体】 アプリ QR コード・WEB

<簡体字>

大宮村山古道

富士山共有四条通往山顶的登山道。这些登山道的起点海拔在 1440 米至 2380 米之间，现在均可驾车抵达。然而，在机动交通工具尚未普及的年代，登山道其实始于海拔更低的山麓地带。大宮村山古道也不例外，并且经过村山浅間神社一带。

11 至 12 世纪前后，富士山频繁的火山喷发逐渐平息，人们开始以宗教朝圣的形式攀登此山。由于大宮村山古道靠近日本历史上最重要的干道之一东海道，从西部前来朝拜富士山的信徒大多选择它，使之成为一条备受青睐的登顶路线。

这条古道也被绘制于《富士参詣曼陀罗图》中。这是一幅绢本设色卷轴画，创作于室町时代后期（1336—1573 年），已被指定为日本重要文化遗产。从画中可见，该古道以富士山本宮浅間大社为起点，途经村山浅間神社，最终通向山顶。当时，被称为“修验者”的山岳修行者不仅维护着这条道路，还为其他登山者提供简单的住宿与指引。

1906 年，一条始于大宮地区并绕开村山地带的新路线被开辟出来，导致大宮村山古道的大部分路段逐渐荒废。但自六合目往上的路段得以保留，并演变为今日的“富士宫路线”。

<繁体字>

大宮村山古道

通往富士山頂峰的登山道共有四條。這些登山口位於海拔 1440 公尺至 2380 公尺之間，可開車抵達。然而，在汽車普及以前，登山道皆是從更下方的山腳開始的。大宮村山古道亦不例外，途中會經過村山淺間神社一帶。

富士山頻繁的火山活動在大約 11、12 世紀平息後，人們開始將攀登這座山當作一種宗教朝聖活動。因為大宮村山古道靠近日本古代重要道路之一的東海道，成為從西邊攀登富士山的熱門路線。

大宮村山古道在《富士參詣曼荼羅》中有所描繪，這是一幅室町時代晚期（1336-1573）的絹本掛軸，現已被指定為重要文化財產。曼荼羅描繪著登山道從富士山本宮淺間大社出發，途經村山淺間神社，最後到達山頂的過程。當時，由修驗道行者負責維護步道，並為其他登山者提供簡單的住宿與引導。

1906 年，一條從大宮地區直接通往山頂的新登山道開通，不再經過村山地區，因此大宮村山古道的大部分路段便逐漸荒廢。然而，從第六站往上的那段步道保留了下來，成為現代的富士宮登山道。

<日本語仮訳>

大宮・村山登山道

現在、富士山頂への登山道は 4 本あり、その登山口は標高 1,440～2,380 メートルの地点に位置し、現在は車でアクセスできます。しかし、自動車が普及する以前は、登山道はもっと下から始まっていた。大宮・村山登山道も例外ではなく、現在では村山浅間神社のそばに残る登山道の初期区間を示す記念碑が建てられています。

富士山は 11 世紀まで数世紀にわたって頻繁に噴火を繰り返しましたが、その後、人々は宗教的巡礼として山に登るようになりました。大宮・村山登山道は、山の西側に位置し、当時の都・京都に近かったため、山頂への最も一般的なルートとなりました。

この登山道は、室町時代（1336-1573）後期の絹本「富士曼荼羅図」に描かれており、富士曼荼羅図は重要文化財に指定されています。曼荼羅には、登山者が富士山本宮浅間大社を出発し、村山浅間神社を経て山頂に至る様子が描かれています。修験者と呼ばれる山岳修行者たちは、登山道を整備し、簡単な宿泊施設や道案内を他の登山者に提供していました。

1906 年には、大宮地区から直接山へ向かう新たな登山道が開かれ、村山地区を経由しないルートが整備されたため、旧大宮・村山登山道の多くは使われなくなりました。しかし、六合目より上の区間は現在も残されており、現代の富士宮ルートとして利用されています。

【タイトル】 村山浅間神社：絹本著色富士曼荼羅図

【想定媒体】 アプリ QR コード・WEB

＜简体字＞

《富士参詣曼陀罗图》

这是一幅绢本设色卷轴画，描绘了古时朝圣者沿通往山顶的古道攀登富士的景象。该画相传为狩野元信（1476—1559）所作，是现存最古老的富士山主题曼陀罗画作之一。

“曼陀罗”是佛教教义与宇宙观的抽象图式化表现，于 8 世纪末随密宗传入日本。至 16 世纪，逐渐演化为独特的日本形式——“参詣曼陀罗”。这类曼陀罗以全景式、风格化的手法描绘朝圣路线，为未来朝圣者提供指引，让他们预先了解朝圣途中将会经历的景象。

此幅《富士参詣曼陀罗图》描绘的是“大宫村山古道”，它曾是日本西部的朝圣者最常使用的路线。路线从画卷底部的骏河湾开始，途经富士山本宫浅间大社和村山浅间神社。画中，富士山呈三峰之势，各峰峰顶均绘有镇山佛陀像。

同时，这幅曼陀罗画作也承载着记录富士信仰仪礼与习俗的历史功能。例如，画中描绘了朝圣者在富士山本宫浅间大社的“涌玉池”与村山浅间神社的“净身池”中进行净身仪式的场景。由于 1872 年前日本禁止女性登上富士山山顶，画中女性仅出现在村山浅间神社后方的小堂附近。此外，可见弓手向巨杉射箭以占卜吉凶，另有众人筹备“流鏑马”（一种日本传统的马上射箭技艺，骑手在全速奔驰的马上射击目标）骑射神事，以祈太平或五谷丰登。

此画作于 1977 年被指定为日本重要文化遗产，现藏于富士山本宫浅间大社。

＜繁体字＞

富士参詣曼荼羅

這是一幅絹本掛軸畫，描繪著昔日朝聖者攀登富士山的情景。該畫作據信是狩野元信（1476-1559）所作，是現存最古老描繪富士山的曼荼羅之一。

曼荼羅的概念，也就是佛教教義及宇宙論的抽象圖像表現，在 8 世紀末隨著佛教密宗

傳入日本。16 世紀時，日本本土發展出「參詣曼荼羅圖」。此類曼荼羅以全景、藝術的方式描繪出神聖朝聖地，成為後來朝聖者的引導地圖，指引旅途中可能會遇到的情況。

這幅畫中，描繪了這條曾是日本西側朝聖者最受歡迎路線的大宮村山古道。從圖下方所示的駿河灣出發，途經富士山本宮淺間大社和村山淺間神社。富士山以三座山峰呈現，每座山峰上都繪有據說駐守於此的佛像。

曼荼羅是富士山信徒的儀式與風俗的歷史記錄。例如，畫中描繪了朝聖者在富士山本宮淺間大社の湧玉池和村山淺間神社の淨身池進行淨化儀式。直到 1872 年，女性才被允許攀登到山頂，因此女性在曼荼羅中最多只出現在村山淺間神社後的小殿裡。在其他場景中，還有弓箭手們正對準高聳杉木射箭，以占卜吉凶；還有一些人正在準備進行一種稱為「流鏑馬」的策馬騎射儀式，以祈求和平或豐收。

這幅曼荼羅於 1977 年被指定為重要文化資產。現收藏在富士山本宮淺間大社。

<日本語仮訳>

富士曼荼羅図

これはかつて富士山山頂へ向かう古い巡礼路を登る人々の姿を描いた絹本の掛軸です。狩野元信（1476–1559）による作とされ、現存する富士山の曼荼羅の中でも最古級の一つとされています。曼荼羅とは、仏教の教義や宇宙観を抽象的・図像的に表現したもので、8 世紀末に日本に伝わりました。16 世紀までに、日本独自に発展を遂げた「参詣曼荼羅図」が成立します。参詣曼荼羅は瞑想の対象であると同時に、巡礼者のための道案内としても用いられ、旅の予想図を示していました。富士参詣曼荼羅図には、かつて西日本からの巡礼者に最も人気があった歴史的な大宮・村山登山道が描かれています。登山道は下部に描かれた駿河湾の海岸から始まり、富士山本宮浅間大社と村山浅間神社を経て山頂へ至ります。富士山は三つの峰で表され、それぞれに仏が鎮座するとされる姿が描かれています。

曼荼羅はまた、富士信仰の儀礼や風習の歴史的記録としての役割も果たしています。例えば、巡礼者が浅間大社や村山浅間神社で清めの儀式を行う様子が描かれています。1872 年まで女性は山頂への登拝が禁じられていたため、女性は村山浅間神社の先にある小さな堂までしか描かれていません。また、弓を持った人物が吉凶を占うため、高い杉に向かって矢を射る姿や平和や豊作を祈るために馬上での流鏑馬（やぶさめ）の儀式に向かう人々は描かれています。

この富士参詣曼荼羅図は 1977 年に重要文化財に指定され、現在は富士山本宮浅間大社の所蔵です。

【タイトル】 山宮浅間神社：参道入口

【想定媒体】 アプリ QR コード・WEB

<簡体字>

山宮浅間神社

这座神社是日本现存与富士山崇拜相关的最早遗址之一。人们普遍认为，它是如今全日本供奉富士山的总本社“富士山本宮浅間大社”的前身。

据传，山宮浅間神社的建立，是为了在富士山多次喷发之后平息火山活动。考古发现的神道祭祀遗迹显示，该神社大约建于 12 世纪。但对它的确切记载，最早见于 16 世纪的文献。

山宮浅間属于“遥拜所”，一种面向远方自然圣境，遥望朝拜的信仰场所。不同于多数神社，这里并无供奉神明的本殿，富士山本身就是被敬拜的对象。该神社的选址亦蕴含深意：它坐落在古老熔岩流的边缘，四周尽是富士山往昔喷发所遗留的岩石与碎屑。

历史上，这里还是“山宮御神幸”仪式的终点。相传在仪式中，富士山本宮浅間大社的神明会降临于一柄神矛上，随后神矛被抬行约 6 公里，送至山宮浅間神社。通往神社的道路中安放著数块巨石，作为途中停放神矛、稍作歇息之处。如今山宮浅間附近的参道上，两块巨石依然可见。该仪式曾于 1874 年中断，2006 年得以恢复，并延续至今。

<繁体字>

山宮淺間神社

這座神社是現存最早關於富士山崇拜的遺址之一。被視為富士山本宮淺間大社的前身，而富士山本宮淺間大社則是全日本奉祀富士山的總本社。

據說，山宮淺間神社是為了祈求平息富士山多次噴發所建造。神道教儀式的考古證據顯示，這座神社建於 12 世紀左右，但關於該神社的最早確切記載卻出現在 16 世紀的文獻中。

山宮淺間神社屬於「遙拜所」，信徒可從遠處朝拜聖地。與大多數神社不同，山宮淺間神社主殿中並沒有供奉神明，而是以富士山本身作為崇拜對象。神社的地理位置亦富含

意義：山宮淺間座落於陳年的熔岩流邊緣，周圍滿布富士山過去噴發的岩石與碎塊。

這座神社是歷史上舉行名為「山宮御神幸」儀式的場所。據說在儀式期間，富士山本宮淺間大社の神靈會寄宿於一根神聖長矛中，接著再被抬至 6 公里外的村山宮淺間神社。參道沿途放置了大石頭，以供神聖長矛暫時休憩用，其中包括宮淺間神社參道上的兩塊石頭。這項祭神儀式於 1874 年曾中斷，但 2006 年再次恢復舉行並延續至今。

＜日本語仮訳＞

山宮淺間神社（やまみやせんげんじんじや）

山宮淺間神社は、富士山信仰に関連する現存最古級の遺跡の一つです。現在、富士山信仰の全国の総本社である富士山本宮淺間大社の前身にあたると考えられています。

富士山の噴火を鎮めるために建立されたと考えられています。12 世紀には周辺で儀式が行われていたことがうかがえますが、神社の存在が確実に記録された最初の証拠は 16 世紀の文献にあります。山宮淺間神社は遥拝所（ようはいじょ）と呼ばれる信仰の場で、遠くから聖地を拝むことができる施設です。一般的な神社のように本殿にご神体を祀っているのではなく、祀られる神は富士山そのもので、山自体を御神体として拝します。また、その立地にも深い意味があります。山宮淺間神社は古い溶岩流の端に位置し、過去の噴火で堆積した噴出物の中に建っています。

歴史的には、この神社は「山宮御神幸（やまみやごしんこう）」という儀式的目的地でもありました。儀式では、富士山本宮淺間大社の神が神聖な鉾に宿るとされ、その鉾をここ山宮まで 6 キロ運んだと伝えられています。参道の途中には、鉾を休めるための大きな石が据えられており、山宮淺間の参道にも二つの石が残されています。この神事は 1874 年に一度途絶えましたが、2006 年に復活し、現在も受け継がれています。

【タイトル】 山宮浅間神社：遥拜所

【想定媒体】 アプリ QR コード・WEB

＜簡体字＞

遥拜所：遥望朝拜的信仰场所

栅栏后方这片开阔之地，便是山宮浅間神社的遥拜所，一种面向远方自然或地理圣境进行朝拜的场所。设有遥拜所的神社通常没有主殿，而是留出开阔空间，以便清晰遥望所尊崇的自然圣境。在此处，这片开阔的空间让人得以远眺山宮浅間尊崇的对象——富士山。

遥拜所朝向东北方，正对着富士山。晴朗之日，可遥望富士山胜景。历史上，栅栏外成排的火山石兼具座席功能，曾是神官与祭典执事举行仪式的露天祭坛。关于这座神社，仍有许多未解之谜。在江户时代末期（1603—1867）的文献记载中，它就已荒废多时。

尽管攀登富士山曾是表达崇敬的另一种方式，但并非人人皆可践行。例如，历史上女性曾被禁止登上圣山高处区域，也不得进入特定寺院，不过仍有一些女性偷偷攀登。而此类遥拜所，让更广泛的人群得以参与富士山崇拜活动。

＜繁体字＞

遥拜所：遠距朝拜之地

圍欄外，即是山宮淺間神社的遙拜所，這是一個遠眺崇拜對象（包括自然或地理象徵）的敬拜場所。設置遙拜所的神社通常沒有主殿，而是留出一片可以清楚眺望崇拜的自然神靈的開闊空間。在這處，可以清楚遠眺富士山，也就是神社的主要崇拜對象。

遙拜所朝向東北方，面對富士山，天晴時可以遠眺富士山。圍欄外的火山石排，在過去作為祭司和官員的座位，亦作為露天祭壇。神社許多細節至今仍是個謎，而且根據江戶時代後期（1603–1867）的文獻記載，這座神社早已長久廢棄。

攀登富士山是表達敬意的一種方式，但不是每個人都能做得到。例如，女性在過去傳統上不被允許進入聖山的上層地區或某些寺廟，雖然有些女性仍秘密攀登。但像這樣的遙拜所得以使更多人可以參與對富士山的崇拜。

＜日本語仮訳＞

遥拝所：遠くから拝む場所

この柵の向こうに広がっているのが、山宮浅間神社の遥拝所です。遥拝所とは、聖地に直接行かなくても拝むことができる信仰の場を指します。遥拝所を持つ神社では本殿を設けず、代わりに進行対処を一望できる空間が設けられているのが特徴です。ここでは、ご神体である富士山を遮るものなく望むことができます。

遥拝所は北東方向、すなわち富士山の方角に向けて配置されており、天気の良い日には遠くに富士山が望めます。柵の向こうに並ぶ火山岩の列は、かつて神職や役人が座る席や野外祭壇として使われていました。この神社の多くはいまだ謎に包まれており、江戸時代（1603～1867 年）の文献に記された頃には、すでに長く廃絶していました。富士山に登拝することも敬意を表す方法の一つでしたが、誰もが行えるわけではありませんでした。例えば女性は、歴史的に聖なる山の上部や特定の寺院への立ち入りが禁止されており、密かに拝した女性もいたとされています。このような遥拝所は、より多くの人々が富士山を信仰することを可能にしました。

【タイトル】 人穴富士講遺跡：概要

【想定媒体】 アプリ QR コード・WEB

<簡体字>

人穴熔岩洞与石碑群

人穴熔岩洞是富士讲信徒的圣地。富士讲是一种以富士山崇拜为核心的宗教流派，深受神道教与山岳苦修传统——修验道的影响。富士讲信徒相信，攀登富士山是一种修行，能积累功德；而人穴熔岩洞正是他们朝圣途中经常驻足的重要一站。此处设有一座神社，还有数百年来由富士讲信徒树立的数百座石碑。

富士讲的教义根基源自长谷川角行（1541—1646），他是一位修验道修行者，曾在富士宫地区进行严苛的苦修。相传，他曾在人穴熔岩洞内一小块木片上踮脚站立，持续修行千日。

富士讲在 18 世纪达到鼎盛，尤其受到商贩、农户等平民阶级的欢迎，江户（今东京）地区的居民更是其重要信众。然而，多次前往富士山朝圣路途遥远、耗费巨大，并非人人皆可承担。因此，信徒们组成名为“讲”的小团体，共同出资，委托代表前往富士山朝圣。人穴熔岩洞周围的大量石碑，正是为纪念这些代表的朝圣之旅而立。

<繁体字>

人穴熔岩洞與紀念碑

人穴熔岩洞是富士講信徒的聖地。富士講是一個以崇拜富士山為基礎的宗教運動，深受神道和修驗道（山岳苦行傳統）影響。富士講信徒們深信攀登富士山是一種虔誠的修行，可累積靈性功德，而人穴熔岩洞則是富士山朝聖之旅中經常停留的地方。此處內有一座神社和由富士講信徒歷世建造的數百座石碑。

富士講的創立是基於修驗道修行者長谷川角行（1541-1646）的理念，他在富士宮地區經歷嚴苛的苦修。據說他曾在人穴熔岩洞內，踮著腳尖站在一小塊木頭上度過 1000 天的苦修歲月。

富士講在 18 世紀達到鼎盛時期。在商人、農民和其他庶民間尤為盛行，特別是居住

在江戸（今東京）的人們。然而，多次前往富士山花錢又費時，不是每個人都負擔得起。因此，信徒便組織了名為「講」的小團體，共同出資，委派成員代表朝聖出行。人穴熔岩洞周圍的許多石碑正是為了紀念這些代表的朝聖之旅所立的。

＜日本語仮訳＞

人穴と記念碑

人穴は、富士山信仰を基盤とし、仏教や山岳修行である修験道の影響を強く受けた宗教運動「富士講」の信者にとっての聖地です。この場所には神社や、富士講信者が何世紀にもわたり建立した数百の記念碑が並んでいます。

富士講は、修験道の行者であった長谷川角行（1541-1646）の教えを基礎として成立しました。角行は、過酷な身体的修行を乗り越えることで超自然的な力を得られると信じていたとされています。伝承によれば、この人穴の中で神のお告げを受けたと伝えられています。その啓示によれば、富士山が世界の「柱」であり、厳しい修行を通じて戦乱に揺れる日本に平和をもたらすことができると悟ったと言われています。

18世紀初頭になると、角行の後継者たちによって富士講は独立した宗教として広く知られるようになり、富士山頂への繰り返しの巡礼は、信仰の中心的な教義となりました。

富士講が最も盛んになったのは17～18世紀で、特に江戸（現在の東京）の町人や農民の間で強い支持を集めました。しかし、富士山への巡礼は費用も時間もかかるため、誰もが行けたわけではありません。その代わり、信者たちは「講」と呼ばれる小集団を形成し、共同で資金を出し合って代表者を選び、その代表者が集団を代表して巡礼に赴く仕組みを作りました。人穴周辺の石碑の多くは、こうした代参者の巡礼を記念して建立されたものです。

【タイトル】 人穴富士講遺跡：溶岩洞穴「人穴」

【想定媒体】 アプリ QR コード・WEB

<簡体字>

人穴熔岩洞

数百年来，这座长约 83 米的熔岩洞一直是富士山信仰的圣地。

人穴熔岩洞形成于约 8000 至 11000 年前富士山的一次喷发，属于典型的熔岩隧道。其形成过程是：火山喷发产生的表层熔岩流冷却凝固，而内部因隔热作用仍保持高温液态；即便在喷发停止后，内部的液态熔岩仍继续流动，最终留下中空而坚硬的隧道结构。

此岩洞的相关记载可见于日本 13 世纪末至 14 世纪初的历史文献《吾妻镜》中。《吾妻镜》是一部记述镰仓幕府（1185—1333）历史的编年史。文中将此岩洞描述为“浅间大菩萨”的居所。“浅间大菩萨”是一位融合了佛教与神道信仰的神明，被视为富士山神灵的化身。

被视为富士讲信仰开山鼻祖的长谷川角行（1541—1646），当年很可能因为听说了此岩洞远扬的圣地之名，而选择在此修行。据一部 18 世纪的传记记载，他曾进入洞中，在一小块木板上保持站立，不饮不食、不眠不休，持续修行千日。在此苦修期间，他获得了神灵的启示，该启示后来成为富士讲信仰的基石。传说，长谷川角行在临终前重返此洞，并在附近度过了生命最后的时光。

对富士讲信徒而言，参拜此洞及与长谷川角行有关的其他重要遗迹，是富士山朝圣之旅的重要组成部分。他们在洞内留下了多座石碑、佛像及一座神龛，以表崇敬。

注：进入洞穴需提前预约，并由向导陪同。

<繁体字>

人穴熔岩洞

這條全長 83 公尺的熔岩洞幾世紀以來被視為富士山信仰的聖地。

人穴熔岩洞的形成源自於富士山在 8,000 至 11,000 年前的一次火山噴發。溶岩洞穴

形成的原理在於，當熔岩流表面冷卻硬化，而隔絕的內部仍保持高溫持續流動。即使火山噴發結束，內部的熔融岩石仍繼續流動，最終留下外層硬化的管狀結構。

此洞穴曾出現在 13 世紀末或 14 世紀初有關鎌倉幕府（1185–1333）史書記載的《吾妻鏡》中。文中將該洞穴形容為「淺間大菩薩」的居所，被視為融合了佛教與神道的信仰元素，是富士山神靈的顯現之地。

被視為富士講創始人的長谷川角行（1541–1646），因人穴熔岩洞被視為靈地而選擇了該洞穴作為苦修場。根據 18 世紀的一本傳記記載，角行進入洞穴後，僅以微小木片為座，不吃不睡連續修行長達 1000 天。在這場嚴酷修行中，他獲得了富士講教義的神諭。根據傳說，角行在臨終前曾重返洞穴，並在此度過餘生。

對富士講信徒來說，參觀角行生平中的洞穴和其他重要遺跡是富士山朝聖之旅的一環。他們在洞穴內留下石碑、佛像和神龕以表達敬意。

附註：進入洞穴需事先申請並由導覽人員陪同。

<日本語仮訳>

溶岩洞穴「人穴」

全長 83 メートルのこの溶岩洞は「人穴」とも呼ばれ、数世紀にもわたり富士山信仰の神聖な場とされてきました。

溶岩洞穴「人穴」は、約 8,000～11,000 年前に起きた富士山の噴火によって形成されました。溶岩洞穴は、溶岩流の表面が冷えて硬化する一方で、内部の溶岩が熱を保ちながら流れ続けることで作られます。噴火が収まった後も内部の溶岩は流れ続け、外側の硬化したトンネルだけが残ります。この洞窟は、鎌倉幕府（1185–1333）の歴史を記した 13 世紀末から 14 世紀初頭の歴史書『吾妻鏡』にも登場します。書物では、洞窟を「浅間大菩薩」の住まいとして描いており、仏教と神道の要素を融合させた富士山の神霊の顯現とされています。

富士講の開祖とされる長谷川角行（1541–1646）は、人穴が靈地として知られていたことから、修行の地としてこの洞穴を選んだと考えられています。18 世紀の伝記によれば、角行は洞窟に入り、わずかな木片の上で 1,000 日間、食事も睡眠もとらずに修行したと伝えられています。その過酷な修行の中で、富士講の教義の基礎となる神のお告げを受けたといいます。伝説では、角行は晩年にも再びこの洞穴に戻り、最期の時をこの地で過ごしたとも語られています。富士講の信者にとって、洞窟や角行ゆかりの重要な場所を訪れることは、富士山巡礼の一部でした。洞窟内には、信者たちが敬意の印として建立した記念碑や仏像、祠が残されています。

※洞窟に入るには事前登録とガイドの同行が必要です。

【タイトル】 人穴富士講遺跡：碑塔群と富士講

【想定媒体】 アプリ QR コード・WEB

<簡体字>

富士講石碑群

在人穴熔岩洞入口附近，矗立着 230 多座石碑。石碑由富士講的信众出资设立。富士講是一支以富士山崇拜为中心的民间宗教流派，盛行于 17 至 18 世纪。

许多石碑是为了纪念富士講信徒的宗教朝圣之旅而立。富士講在商贩、农民等平民阶级中极为流行，尤以江戸（今东京）一带最盛。多次登拜富士山是其信仰的核心信条，但朝圣之旅费用高昂、耗时甚久。于是，信众们组成了名为“講”的小团体，集资资助个别成员代表全体成员前往富士山，并立碑纪念。

石碑铭文大体遵循一定的格式：顶部刻有立碑团体的纹章，中部刻有信众所在地区，底部则列出成员名录。最晚的石碑出现在 20 世纪，表明富士講团体一直延续到了近现代。

另外一些石碑则用于缅怀富士講的重要人物，如长谷川角行（1541—1646），其苦修哲学奠定了这一流派的思想基础。

<日本語仮訳>

富士講の記念碑

人穴溶岩洞の入口付近には、230 基以上の石碑が立ち並んでいます。これらは、17～18 世紀に栄えた富士山信仰の一派・富士講の信者によって建立されました。

多くの石碑は巡礼の記念として建てられています。富士講は、江戸（現在の東京）を中心に、町人や農民など庶民の間で非常に人気がありました。富士山への繰り返し登拝は信仰の中心的教義でしたが、多くの人にとって費用も時間もかかり過ぎるものでした。そこで信者たちは「講」と呼ばれる信仰集団を組織し、講のメンバーが代表として富士山へ登拝できるよう資金を提供し、巡礼の記念碑を建立しました。

石碑の刻文には一般的な形式があります。最上部には講の紋章、中段には講の所在地、下部には構成員の名前が記されています。最も新しい石碑は 20 世紀に建てられたもので、富士講が近代以降も存続してきたことを示しています。

その他の石碑は、富士講の開祖・長谷川角行（1541–1646）など、富士講における重要人物を

顕彰する石碑も建てられています。

【タイトル】 人穴富士講遺跡：人穴浅間神社

【想定媒体】 アプリ QR コード・WEB

<簡体字>

人穴浅間神社

这座神社供奉着与富士山渊源颇深的神道女神：木花咲耶姬。另外，这里也供奉了两位与此地关系密切的历史人物：德川家康（1543—1616）和长谷川角行（1541—1646）。德川家康是江戸幕府（1603—1867）的初代将军，他统一了日本，亦是富士山周边神社的重要庇护者；长谷川角行则被尊为富士讲信仰的开山鼻祖。

此地原本建有佛教寺院，但在 1868 年日本政府推行神佛分离政策后被拆除。随后，第一代人穴浅间神社于此建立，以作替代。第二次世界大战期间，因坦克部队将此处用作训练场地，神社迁至邻近的芝山町。二战结束后，神社建筑留在芝山町，成为芝山浅间神社。1954 年，人穴浅间神社于此地重建新殿，但现存建筑实为 2001 年所建。

<日本語仮訳>

人穴浅間神社（ひとあなせんげんじんじや）

この神社は、富士山にゆかりのある神道の女神・木花咲耶姫（このはなさくやひめ）を祀っています。また、この地域に関係の深い歴史的な人物である徳川家康（1543-1616）と長谷川角行

（1541-1646）も祀られています。家康は江戸幕府（1603-1867）を開き日本を統一した将軍で、富士山周辺の神社の有力な庇護者でした。角行は富士講の開祖とされています。

もともとこの地には仏教寺院がありましたが、1868 年の神仏分離令により解体されました。その後、代わりとして最初の人穴浅間神社が建てられました。しかし、第二次世界大戦中にこの地域が戦車の訓練場として使用されたため、神社は近隣の芝山町に移されました。戦後も建物は芝山町に残され、芝山浅間神社として存続することになります。その後、1954 年に人穴浅間神社のための新しい社殿がこの地に建てられ、現在の建物は 2001 年に造営されたものです。

地域番号	013	協議会名	長浜市

解説文一覧

NO.	スポット名（タイトル）	中国語文字数	想定媒体
013-001	「観音の里ストーリー」長浜の観音文化について（概要）	473	看板
013-002	渡岸寺観音堂（向源寺）：概要	461	看板
013-003	渡岸寺観音堂（向源寺）：十一面観音立像（国宝）	615	看板
013-004	渡岸寺観音堂（向源寺）：十一面観音立像（県指定）	293	看板
013-005	安念寺：概要	323	看板
013-006	安念寺：いも観音	342	看板
013-007	赤後寺：概要	390	看板
013-008	赤後寺：千手観音立像	331	看板
013-009	赤後寺：聖観音立像	345	看板
013-010	冷水寺：概要（冷水寺胎内仏資料館）	433	看板
013-011	冷水寺：聖観音坐像（胎内仏）＆十一面観音坐像（鞘仏）	474	看板
013-012	冷水寺：十一面観音坐像（脇仏）	323	看板
013-013	善隆寺、和蔵堂：概要	283	看板
013-014	善隆寺、和蔵堂：十一面観音立像	266	看板
013-015	大浦腹帯観音堂：概要	305	看板
013-016	大浦腹帯観音堂：十一面観音立像（腹帯観音）	420	看板

【タイトル】「観音の里ストーリー」長浜の観音文化について（概要）

【想定媒体】 看板

＜簡体字＞

长滨市：观音之里

滋贺县长滨市因拥有许多观音菩萨像而被称为“观音之里（观音之乡）”。市内各处共供奉有 130 多尊观音像，平均约每 5 平方公里就有一尊。

长滨市位于琵琶湖北岸，曾是文化交流与贸易的中心。自 8 世纪后半叶开始，佛教文化在当地逐渐兴盛。有些创作于日本奈良时代（710—794）晚期和平安时代（794—1185）早期的一些代表性的精美佛像，很少见于奈良和京都的有名寺院中，而是保存在长滨市诸多朴素的佛堂里。

随着时代变迁，许多寺院逐渐衰落，但当地居民始终守护着观音像。数百年间，长滨屡遭战火和天灾，村民们为了保护观音像，曾将其埋在地下或沉入河中。如今，当地居民将观音像安置于大大小小的寺院与佛堂中加以保护，但已经不是为了抵御战祸，而是为了使免遭岁月风雨的侵蚀。

如希望参观长滨著名的观音像，请联系高月观音之里历史民俗博物馆的观音礼宾部。

千手观音和十一面观音

观音菩萨发愿普度众生脱离苦难，是最受日本民众推崇的神明之一。观音菩萨可化现为千手观音和十一面观音等六种形态。千手观音的无数手臂象征着普度众生，十一面观音的多面则被认为是象征着成佛之路的不同阶段。

＜繁体字＞

長濱：觀音之里

滋賀縣長濱市因境內供奉著眾多觀音菩薩像而聞名，被稱為「觀音之里」。市內各地供奉的觀音像超過 130 多尊，平均每 5 平方公里便有一尊觀音像。

長濱位於琵琶湖北岸，過去曾是文化與貿易往來的重要據點。自西元 8 世紀後期，佛教傳入此地並逐漸蓬勃發展。許多奈良時代後期（西元 710–794）與平安時代初期（西元 794–1185）日本具代表性的佛像，並非供奉於奈良或京都的大型寺院，而是留存在長濱當地樸實的佛堂之中。

隨著時代推移，長濱市的眾多佛寺香火漸衰甚至荒廢，當地居民慢慢開始守護這些佛

像。數個世紀以來，經歷戰亂和天災侵襲之際，村民曾將觀音像暫時埋藏於地下，或沉入河中，以避免遭受破壞。如今，這些觀音像仍由居民們在各地寺院與神社中細心照料，讓不再受戰火威脅的觀音像能持續免於歲月與風雨的侵蝕。

如需安排參觀長濱知名的觀音像，請洽詢高月觀音之里歷史民俗資料館之觀音禮賓部。

千手觀音與十一面觀音

觀音菩薩發願救濟眾生苦難，是日本最受崇敬的神祇之一。觀音可化現六種法相，包括千手觀音，擁有無數手臂救助苦難眾生；以及十一面觀音，其十一面被部分信眾認為象徵通往開悟的各個階段。

<日本語仮訳>

長浜：観音の里

滋賀県長浜市は、慈悲の仏・観音菩薩像を多く有することから「観音の里」と呼ばれています。長浜市内の各地に 130 体以上の観音像が祀られており、およそ 5 平方キロメートルに 1 体の割合で存在します。

長浜は琵琶湖の北岸に位置し、かつては文化と交易の重要な拠点でした。仏教は 8 世紀後半からこの地域に広まりました。奈良や京都の大寺院ではなく、長浜の素朴な地域の小さなお堂に、奈良時代後期（710-794 年）や平安時代初期（794-1185 年）の日本を代表する仏像が数多く残されています。

時代の流れの中で、多くの寺院が衰退・廃絶していくなか、地域の人々は観音像を守り続けてきました。長きにわたり地域を苦しめた戦乱や災害の中で、村人たちが観音像を地中に埋めたり、川に沈めたりして、破壊から守ったと伝えられています。今日では戦火ではなく時の流れや風雨から、住民たちが大小さまざまな寺院や祠で観音像を大切に守り伝えています。

長浜の名高い観音像を拝観するには、高月観音の里歴史民俗資料館の観音コンシェルジュにお問い合わせください。

千手観音と十一面観音

観音菩薩は、人々の苦しみを救うという誓願を立てた慈悲の仏であり、観音は日本で最も広く信仰されている仏の一つです。

観音は六つの姿に変化するとされ、その中には、無数の手で人々を救済する「千手観音」や、悟りへの道を象徴するともいわれる複数の顔を持つ「十一面観音」があります。

【タイトル】 渡岸寺観音堂（向源寺）：概要

【想定媒体】 看板

<簡体字>

渡岸寺

相传渡岸寺建于公元 736 年，时值圣武天皇（701—756）年间。圣武天皇以推崇佛教和建成奈良大佛而闻名。僧侣最澄（767—822）在比叡山创立了日本天台宗，而渡岸寺则是天台宗重要的信仰之地。

据说，当年的都城奈良天花病毒肆虐，圣武天皇命僧侣泰澄（682—767）出谋划策。泰澄便雕刻了一尊十一面观音像，并修建了渡岸寺用来供奉这尊观音像，为都城祈福。

16 世纪，琵琶湖北岸战火不断，渡岸寺也因此毁于一旦。所幸当地村民将寺中的十一面观音像埋藏起来，避开了战火。战乱平息后，人们将观音像挖出，并为其新建了一座佛堂。

1888 年，宫内厅官员九鬼隆一（1852—1931）称赞十一面观音像是日本最杰出的佛像之一。1897 年，该观音像被指定为国宝。当时，安置这尊观音像的佛堂已年久失修。为此，日本全国发起一场募捐活动，并得到了许多佛教宗派的响应。在社会各界的广泛支持下，新的本堂于 1925 年落成。

如今，当地信众悉心维护着本堂和收藏库。收藏库空间宽敞，供奉着日本佛像的杰作之一，十一面观音像。参观者可环绕观音像一周，从不同角度进行观赏。

<繁体字>

渡岸寺

相傳渡岸寺建於西元 736 年聖武天皇（西元 701-756）在位期間。聖武天皇以推廣佛教、興建奈良大佛而聞名，渡岸寺亦在此背景下，逐漸成為佛教天台宗的重要信仰中心。天台宗源自比叡山，由僧侶最澄（西元 767-822）所創立。

根據傳說，當時古都奈良天花肆虐，聖武天皇便委託修行僧泰澄（西元 682-767）尋求對策，設法平息疫情。現今，渡岸寺觀音堂所供奉的十一面觀音像，即為僧侶泰澄所雕。其後，他建立此寺，供奉觀音像，為奈良祈願祝禱。

進入 16 世紀，琵琶湖北岸一帶戰亂頻仍，渡岸寺亦於戰火中遭到毀壞。所幸，當地村民事先將寺內的十一面觀音像妥善埋藏，得以免於劫難。戰亂平息後，人們將觀音像挖掘出土，並另外興建佛堂加以供奉。

西元 1888 年，宮内廳官員九鬼隆一（西元 1852-1931）讚譽此尊觀音像為日本數一數二的傑作。隨後於西元 1897 年，該十一面觀音像被指定為國寶。當時，由於供奉觀音像的小佛堂年久失修，遂發起全國性的募款行動，並獲得許多佛教宗派的捐獻。在廣大信眾的捐助下，新的本堂得以於 1925 年落成。

如今，本堂及安置十一面觀音像的收藏庫，皆由當地信眾團體悉心維護。十一面觀音像被公認為日本佛教雕刻藝術的代表作之一。收藏庫內部空間寬敞，參觀者可繞行觀音像四周，從不同角度細細觀賞其莊嚴而優雅的姿態。

<日本語仮訳>

渡岸寺観音堂

渡岸寺観音堂は、聖武天皇（701-756）の御代、736 年に創建されたと伝えられています。聖武天皇は仏教の振興や奈良の大仏建立で知られています。比叡山で最澄（767-822）が開いた天台宗の有力な信仰の場となりました。

伝承によれば、奈良の都で天然痘が流行した際、聖武天皇は泰澄（682-767）に対策を求めました。修行僧であった泰澄は、現在の渡岸寺観音堂に安置される十一面観音を彫り、その後この寺を創建し、像を安置して都の平安を祈ったとされています。

16 世紀には、琵琶湖の北岸地域一帯で激しい戦乱が繰り広げられ、渡岸寺はその結果荒廃しました。しかし幸いにも十一面観音は地元の村人によって土中に埋められ、難を逃れました。戦乱が収まった後、像は掘り出され、新しくお堂が建てられて安置されました。

1888 年、宮内庁の九鬼隆一（1852-1931）はこの観音像を日本でも屈指の傑作と称賛し、1897 年には国宝に指定されました。当時、像を安置していたお堂は老朽化していたため、全国的な寄付運動が行われ、さまざまな仏教宗派から支援が寄せられました。この広範な支援により、1925 年に新しい本堂が完成しました。

現在では、信仰者のコミュニティが本堂と、日本の仏像彫刻の傑作である十一面観音を安置する収蔵庫を維持しています。収蔵庫は広々とした設計になっており、来訪者は像の周囲を歩きながら、さまざまな角度から鑑賞することができます。

【タイトル】 渡岸寺観音堂（向源寺）：十一面観音立像（国宝）

【想定媒体】 看板

<簡体字>

渡岸寺十一面观音像（国宝）

相传，僧侣泰澄（682—767）在天花病毒肆虐时期雕刻了这尊十一面观音像，并为其修建了渡岸寺，以祈福除病。

渡岸寺在 16 世纪的战火中被烧毁，当地村民为保护观音像免遭破坏而将其埋入地下。战乱平息后，人们将观音像挖出，并为其新建了一座佛堂。1897 年，这尊观音像被指定为国宝，如今供奉在专门的收藏库内供人们参观。

渡岸寺的观音像由一整块桧木雕刻而成，高达约 1.77 米，至今仍可见到残留的金箔装饰痕迹。该观音像体现了平安时代（794—1185）早期佛像的特色，在国宝的七尊十一面观音像中，以其卓越的艺术性而引人注目。从流畅的眉形到微闭的嘴唇，其优美的形态和精致的细节，都展现出一种静谧的庄严。微微倾斜的腰部和前伸的右足为其增添了动感，丰腴的身姿传递出力量，甚至还带有一种感官之美。

观音像的十一张面孔中，一面代表悟道（佛面），三面代表慈悲（菩萨面），三面代表愤怒（瞋怒面），三面代表赞叹（狗牙上出面），后头部的面则是暴笑（暴笑面）。这些表情各异的面孔，表达了菩萨面对人类不净、自私和迷妄的本性流露出的难以置信之情。

这尊佛像还具有一些日本佛像中不常见的特征，比如装饰华丽的耳饰（耳铛），以及将两副面孔置于主面的两侧（而非顶部）。这些特征表明，该佛像受到了印度和中国佛像雕刻的深远影响。更值得一提的是，大部分观音像头顶的面孔通常是一种佛面，象征着观音未来成佛的形态，而这尊观音像则是一种菩萨面，代表了观音当下的菩萨形态。

<繁体字>

渡岸寺十一面觀音立像（國寶）

相傳，僧侶泰澄（西元 682–767）在致命的天花疫情肆虐期間，為祈求治癒與庇佑，雕刻了十一面觀音立像，並興建渡岸寺加以供奉。

西元十六世紀戰亂期間，渡岸寺遭受大火燒毀，當地村民為保護觀音像，將其埋藏於地下，使其免於破壞。戰亂平息後，觀音像才得以重新出土，人們並為其另建佛堂加以供奉與保護。西元 1897 年，此尊觀音像被指定為國寶，如今安置於專門的收藏庫。

在七尊被指定為國寶的十一面觀音像之中，渡岸寺的觀音像以其精湛的藝術性尤為出

眾。此尊觀音像以整塊檜木雕刻而成，展現了平安時代早期（西元 794–1185）雕像風格的典範，高達 177.3 公分，表面至今仍可見殘留的金箔痕跡。從流暢的眉形、輕抿的雙唇，優雅而均衡的比例到細膩的刻畫，整體散發出靜謐而莊嚴的氣息。微微傾斜的臀部線條，以及向前踏出的右腿，使姿態富有動感；豐盈的體態不僅展現力量，也流露出富有生命力的體態之美。

觀音像的十一張面孔，各自象徵不同的意涵。一面代表開悟（佛相）、三面代表慈悲（菩薩相）、三面代表憤怒（瞋怒相）、三面代表讚美（狗牙上出相）。而在頭部後方，則有一張大笑的面相（暴惡大笑相），呈現觀音菩薩面對人性中的雜穢、自私與迷妄時，所流露出的驚愕與憤怒。

此尊觀音像亦有在日本佛像中罕見的部分特徵，例如裝飾於耳部的「耳璫」，以及將兩張面相配置於主面兩側，而非置於頭頂。這些元素顯示其深受印度與中國佛教造像的影響。位於頭頂最上方的「佛相」，一般多為佛陀的面相，用以象徵觀音未來的開悟；然而在此尊像中，該位置呈現的卻是菩薩的面相，象徵觀音於現世中的形相。

<日本語仮訳>

渡岸寺觀音堂 十一面觀音立像（国宝）

伝承によれば、泰澄（682–767）がこの十一面觀音を彫り、天然痘が流行した折に人々の治癒と加護を祈るために渡岸寺觀音堂を創建したとされています。

16 世紀の戦いで渡岸寺が焼失した際、地元の村人たちはこの像を破壊から守るために地中に埋めました。戦いが収束したのち掘り出され、お堂が建てられ、そこに安置されました。1897 年に国宝に指定され、現在は専用の収蔵庫で安置・公開されています。

国宝に指定されている七体の十一面觀音の中でも、渡岸寺の觀音はその卓越した芸術性で際立っています。檜の一木造で、平安時代（794–1185）初期の仏像様式を示しており、177.3 センチの高さを誇り、現在は一部に金箔がわずかに残っています。その優美な姿勢と、流麗な眉の線から柔らかく閉じた唇に至るまでの繊細な細部の表現が気品ある静けさを湛えています。腰をわずかにひねり、右足を一步踏み出す姿には躍動感が感じられ、全体では力強さとともに、官能的な美すら漂わせています。

十一面の表情のうち、一面は悟り（仏面）を表し、三面は慈悲（菩薩面）、三面は忿怒（瞋怒面）、三面は賞賛（狗牙上出面）を表しています。後頭部には最後の一面として、人間の不浄さや自己中心性、道徳的な曖昧さに対する觀音の驚きと怒りを示す、恐ろしく狂笑する顔（暴惡大笑面）が配されています。

またこの像には、耳飾り（耳当）や、頭上ではなく本面の両脇に二つの頭を置く構造といった日本の仏像にはあまり見られない特徴もあります。これらはインドや中国の仏像彫刻からの強い影響を示しています。さらに、頂上の仏面は、通常は観音の未来成仏を示す如来相であるところ、この像では菩薩相となっている点も特筆されます。

【タイトル】 渡岸寺観音堂（向源寺）：十一面観音立像（県指定）

【想定媒体】 看板

<簡体字>

渡岸寺十一面观音像（县指定文化遗产）

这尊十一面观音像由一整块日本榿木雕刻而成，高 39 厘米，制作于 12 世纪。原本，它作为国宝观音像的替代品供信众参拜，因为国宝像曾是秘佛，平时不向信众展示。信众无法直接瞻仰大观音像，只能参拜这尊佛像。而如今，国宝观音像已经展示在本堂旁的收藏库内。

观音像的天衣上饰有被剪裁成细致图案的金箔，这种精细的装饰技法称为“截金”，在飞鸟时代（552—645）从中国传入日本。

观音像头部戴着饰有花纹的天冠，上面承托了一副小面。天衣的雕刻十分精细，一直延伸到身后，展现出雕刻师的精湛技艺。观音像面容小巧，端正匀称，双目微垂，颊部饱满。观音像身形修长，姿态柔美，双肩圆润。

<繁体字>

渡岸寺十一面觀音立像（縣指定文化財）

這尊十一面觀音立像以整塊日本榿木雕刻而成，高 39 公分，製作於西元 12 世紀。此觀音立像原本為國寶觀音像的替代佛像。當時的國寶觀音像屬於秘佛，即不對外公開的佛像，向來秘藏於寺中，因此參拜者會向這尊觀音像祈願，而非那尊更大的國寶觀音像。如今，該尊國寶觀音像已安置於本堂旁的收藏庫中，開放民眾參觀。

這尊觀音像的衣袍上飾有圖樣細緻的金箔。這種精緻的裝飾技法稱為「截金」，是在飛鳥時代（西元 552-645）從亞洲大陸傳入。

觀音頭部配戴裝飾性的髮箍，日文稱為「天冠台」，與飾有花卉圖案的寶冠一同支撐著頭頂上的化佛。衣袍的雕刻細膩入微，甚至連背面亦處理得極為用心，充分展現雕刻家的精湛技藝。此尊佛像面相小巧且比例勻稱，雙眸微垂，雙頰豐潤。身形纖細、體態柔和，雙肩呈現圓潤的線條。

<日本語仮訳>

渡岸寺観音堂 十一面観音立像（県指定文化財）

この十一面観音像は一木造でカヤから彫られ、高さは 39 センチ、12 世紀の作とされています。元々は秘仏として公開されていなかった国宝像に代わって役割を果たしていました。参拝者は、直接見ることのできない大きな観音像ではなく、この小像に向かって祈りを捧げていたのです。現在、国宝の像は本堂に隣接する収蔵庫で展示されています。

この像の衣には、細かく切った金箔で文様が施されています。この精巧な装飾技法は 截金と呼ばれ、飛鳥時代（552-645）に大陸から伝わった技法です。

天冠台の上に花文様の冠を表し、その上に小面を配します。観音像の衣の彫刻は非常に精巧で、像の背面まで及んでおり、作者の卓越した技量を示しています。顔は小さく均整が取れており、目は伏せられ、頬はふっくらとしています。身体は細身で柔らかな体つき、肩は丸みを帯びています。

【タイトル】 安念寺：概要

【想定媒体】 看板

＜簡体字＞

安念寺

据传，安念寺由僧侣详严法师（生卒年不详）于 726 年（圣武天皇时期）创建。寺内珍藏着许多珍贵的佛像，这些佛像在动荡的年代屡遭损毁。16 世纪，安念寺毁于织田信长（1534—1582）攻打浅井长政（1545—1573）的战火之中。

乱期间，村民们为了保护寺中的观音像而将其埋入附近的田里。木制佛像在地下逐渐腐朽，精美的外观变得粗糙剥落。当佛像被重新挖出时，人们因其类似于薯芋类的粗糙外形，亲切地将其称为“芋观音”。

现存的安念寺正殿建于 1933 年，由当地居民自发维护。寺中原有的 17 尊观音像中，有 7 尊不幸在 2000 年至 2003 年间被盗。为了守护剩下的千年瑰宝，当地成立了“安念寺芋观音保存会”，并通过众筹等方式筹集资金修缮寺院建筑，延续这份历史传承。

＜繁体字＞

安念寺

相傳，安念寺由僧侶詳嚴法師（生卒年不詳）於西元 726 年創建，正值聖武天皇（西元 701-756）在位期間。安念寺所供奉的珍貴佛像，在歷經動盪的時代中，多次面臨毀壞的危機。據傳於 16 世紀的一場大規模戰亂中，寺院遭到焚毀；其原因推測可能與織田信長（西元 1534-1582）攻打淺井長政（西元 1545-1573）的戰事有關。

在這段激烈的戰亂中，村民為了保護寺內的觀音像，將其埋藏於附近的田地之中。木製佛像長時間埋於地下，逐漸腐朽，因而失去許多原有的造形特徵。日後將這些佛像挖掘出土後，因其粗糙及歷經風化的外觀，被稱為「芋觀音」，「芋」泛指芋頭、番薯等根莖類作物。

現今安念寺的本堂建於西元 1933 年，由當地居民共同維護。寺院內最初供奉著 17 尊觀音像，但在西元 2000 年至 2003 年間，其中 7 尊不幸遭竊。近年來，為了修繕寺院建築與保存現存佛像，由「安念寺芋觀音保存會」發起了群眾募資行動，使這些歷經千年、脆弱的文化珍藏得以受到妥善保護。

<日本語仮訳>

安念寺

寺の記録によれば、僧詳嚴法師（生没年不詳）が、聖武天皇（701–756）の御代、726 年に安念寺を創建したとされています。安念寺は貴重な仏像を安置していましたが、それは、度重なる戦乱の中で破壊の危機に直面しました。16 世紀には大規模な戦乱で寺が焼失したと伝えられており、織田信長（1534–1582）が浅井長政(1545–1573)を攻めた戦いに巻き込まれた可能性があります。

この戦乱の間、村人たちは安念寺の観音像を近くの畑に埋めて守りました。地下に埋められていた木造の仏像は朽ちて特徴の多くを失いました。掘り出された後、その粗く風化した姿から「いも観音」と呼ばれるようになりました。

現在の安念寺本堂は 1933 年に建てられ、今も村の住民たちが管理を続けています。当初、寺には 17 体の観音像が安置されていましたが、2000 年から 2003 年の間に 7 体が盗まれました。近年では、安念寺いも観音保存会によるクラウドファンディングが行われ、老朽化した建物を修理する資金が集められ、千年の歴史を持つ繊細な宝物の保存に役立てられています。

【タイトル】 安念寺：いも観音

【想定媒体】 看板

<簡体字>

安念寺：芋观音

安念寺的观音像制作于公元 9 世纪至 11 世纪，均由整块桧木雕刻而成，具有很高的艺术价值。公元 16 世纪，当地爆发战乱，村民为了保护这些珍贵的佛像，将其埋入稻田，或沉入河底，以躲避战火。

这些佛像究竟被埋藏了多久，如今已无从考证。有说法认为，它们是在 1583 年贱岳合战后被重新发现的；也有观点认为，佛像一直被埋藏至江户时代（1603—1867）中后期才重见天日。虽然历经岁月侵蚀，佛像的细部已难以辨认，但学者推测，中央的佛像应为观音菩萨与佛陀（释迦牟尼佛或阿弥陀佛）。

当地居民一直保护着这些佛像，与它们之间有着深厚的情感。据村中老人回忆，20 世纪初每到夏季，孩子们在余吴川玩水时，有时还会把观音像当作浮板使用。长期的埋藏使佛像表面变得粗糙剥落，又常被水清洗，因此而得名“芋观音”。

<繁体字>

安念寺：芋觀音

安念寺的芋觀音，在千年的歷史中承受了無數磨難，曾遭遇戰火威脅、被埋於稻田之下，甚至沉入河中，長時間承受歲月的侵蝕。即便如此，這些觀音像始終是當地熟悉且珍愛的存在。村中長者回憶，直到 20 世紀初期，夏日時分，孩子們仍會在余吳川中嬉戲，甚至將這些觀音像當作浮板使用。或許正是這份與生活緊密相連的親切感，加上佛像粗糙的外觀，以及經常在水中清洗的經驗，才讓牠們獲得了這個獨特的稱呼——「芋觀音」，其中「芋」泛指芋頭、番薯等根莖類作物。

芋觀音像的製作年代，介乎約西元 9 世紀至 11 世紀之間，每尊皆由整塊檜木雕刻而成，顯示出當時精湛的木雕工藝。隨著歲月流逝，原本可辨識觀音形象的特徵逐漸被磨損，但一般認為，主尊即為觀音菩薩，或為佛陀本身，例如歷史上的佛陀「釋迦牟尼佛」，或是主宰西方極樂世界的「阿彌陀佛」。

在 16 世紀席卷此地的戰亂之中，村民為了保護這些珍貴的佛像，將其埋藏於地下，或投入河川之中。至於這些佛像究竟被掩埋了多久，目前仍無定論；有一說認為是在西元 1583 年的賤岳之戰後被挖掘出土，但亦有可能一直深埋至江戶時代中後期（西元 1603—

1867) 才重新出現於人們眼前。

＜日本語仮訳＞

安念寺：いも観音

安念寺のいも観音像は、数千年にわたる歴史の中で、戦火にさらされ、田んぼに埋められ、川に沈められ、時の経過で風化していくという、数々の困難をくり抜けてきました。それでも、地域の人々にとって長く親しみのある大切な存在であり続けました。村の年長者たちは、20 世紀初頭まで、子どもたちが夏に余呉川で水遊びをしていたときに、いも観音像を浮き具として使っていたことを覚えています。このような身近さ、粗い外見、そして水で洗われることが日常的であったことが、独特の名前「いも観音」の由来になったのかもしれません。

いも観音像は 9～11 世紀に彫られ、いずれも一木造の檜で、極めて高度な技術を示しています。時間の経過により像の特徴は失われ、容易に特定できる状態ではありませんが、中心の像は観音菩薩や仏（歴史的な仏である釈迦如来や、西方浄土を司る阿弥陀如来など）であると考えられています。

16 世紀の戦乱で地域が荒廃した際、村人たちはこれらの貴重な像を地中や川に隠して守りました。像がどのくらいの期間隠されていたかははっきりしていません。一説には 1583 年の賤ヶ岳の戦い後に掘り出されたとされますが、江戸時代中期から後期（1603–1867）まで発掘されなかった可能性もあります。

【タイトル】 赤後寺：概要

【想定媒体】 看板

<簡体字>

赤后寺

赤后寺坐落于涌出山麓的一片杉树林中，是一座由人口仅七十余户的唐川村村民共同守护的寺院。赤后寺虽为佛寺，正殿里却可见神镜和许愿牌等神道教元素。佛教与神道教在此交融，既反映了两种信仰在历史上的共存，也体现了当地村庄包容而开放的精神。

寺内安置着两尊平安时代（794—1185）的观音像。为躲避战乱，村民曾在 12 世纪和 16 世纪将观音像沉入附近的河中。观音像被打捞上来后，又被迎回寺中，作为秘佛供奉，数百年间未曾对外公开。1969 年，两尊观音像被指定为重要文化遗产，并于同年首次对公众展出。

如今这两尊观音像被安置在日语叫做“厨子”的华丽佛龕内。该佛龕从静岡县的滨松市运来，其装饰风格与日光东照宫的阳明门相似，据推测可能出自 17 世纪同一位工匠之手。

在寺院台阶下放置着两块从河床中取来的大石头，被称为“枕石”。相传当年为躲避战火而将观音像沉入河中时，观音的头部正是安放在这两块石头之上。

<繁体字>

赤後寺

赤後寺，座落於涌出山的山腳下的杉樹林間，是守護唐川這個小聚落的寺院。唐川聚落約有 70 戶人家，長久以來與寺院維持著緊密的關係。赤後寺雖為佛教寺院，但在本堂內仍可窺見神道教的元素，例如神鏡與祈願木牌「繪馬」。這種佛教與神道教並存的形式，不僅反映了兩種宗教傳統在歷史上的共存關係，也展現出當地社區的包容精神。

寺內供奉著兩尊珍貴的觀音菩薩像，年代可追溯至平安時代（西元 794–1185）。在西元 12 世紀與 16 世紀，村民為保護佛像免於火災和戰禍，曾多次將其投入附近的河流中。佛像被尋回並迎回寺院後，便以「秘佛」的形式供奉，數世紀以來珍藏於寺院深處，不對外公開。直到西元 1969 年，這兩尊觀音像才首次對外展示，並被指定為重要文化財。

觀音像供奉於一座裝飾華麗、稱為「廚子」的佛龕之中。這座佛龕是從靜岡縣濱松市運來，其華麗風格與日光東照宮的陽明門相近，推測可能出自同一位 17 世紀工匠之手。

在寺院階梯下方，安置著兩塊被稱為「枕石」的大石，是從河床取來的。相傳在動盪

時期，觀音像の頭部枕在這些石頭之上，因而得以遠離戰火與破壞，保存至今。

＜日本語仮訳＞

赤後寺

赤後寺は、涌出山の麓の杉林に囲まれ、約 70 軒ほどの小さな集落・唐川の人々のための寺院です。本堂は仏教建築でありながら、神鏡や絵馬などの神道要素も備えています。この仏教と神道の融合は、歴史的に両宗教が共存してきた形を示すとともに、地域コミュニティの包摂的な精神を反映しています。

寺には平安時代（794–1185）の優れた観音像が二体安置されています。12 世紀および 16 世紀には、火災や戦乱から守るため、村人たちがこれらの像を近くの川に沈めたといいます。回収された後、何世紀にもわたり、これらの像は秘仏として安置され一般公開されませんでした。重要文化財に指定された 1969 年に一般公開されました。

観音像は、厨子と呼ばれる豪華な安置箱に祀られています。この厨子は静岡県浜松市から運ばれたもので、日光東照宮の陽明門のような精巧な装飾を持ち、17 世紀の同じ職人の作と考えられています。

寺の階段の下には、川床から取られた枕石と呼ばれる大きな石が二つあります。かつて観音像が戦火や破壊から守られるために川に沈められていた際に、その頭部は、この枕石の上に置かれていたと伝えられています。

【タイトル】 赤後寺：千手観音立像

【想定媒体】 看板

＜簡体字＞

千手观音

这尊千手观音像可追溯至公元 9 世纪初，是平安时代早期佛教艺术的杰作，展现了观音菩萨伸出千臂来救度苦难众生的形象。

观音像面容丰腴，双眼细长，唇部丰润，神情威严；弯弯的眉毛透出庄严宁静的气质。佛身微微前倾，上身饱满，腰部宽厚稳重，双腿修长。整体造型写实，尤其是腿部天衣褶皱处高低交错的雕工，显示出平安时代早期的艺术特征。

在数百年的历史中，政局动荡曾多次波及长滨市，当地居民及其信仰也陷入危机。相传为了保护这尊观音像免受火灾和战乱的破坏，人们曾 12 世纪和 16 世纪将其沉入附近的一条河中。战乱平息后，又被重新迎回了赤后寺正殿供奉。

如今，观音头顶的佛面已不复存在，原有的 42 只手臂也仅剩存 12 只。这样的残损状态可能就是其直到 20 世纪 60 年代末才向公众展出的原因之一。

＜繁体字＞

千手觀音

這尊出色的佛教雕像可追溯至西元 9 世紀初期，描繪了觀音菩薩顯現的形象，伸出千隻手臂，度一切苦厄。

觀音像面相圓潤，雙眼細長，雙唇豐滿，神情莊嚴；微微彎曲的眉形，為整體增添了端嚴靜穆的氣息。觀音像微微前傾，上半身豐腴，臀部寬闊結實，雙腿纖長。雕像身形的逼真刻畫，以及腿部周圍衣袍皺褶高低起伏的表現，皆顯示了平安時代初期佛像的典型風格。

數個世紀以來，長濱地區屢受政局動盪影響，戰亂頻仍，導致當地人民與宗教組織時常面臨威脅。據傳，於西元 12 世紀及 16 世紀期間，為了避免觀音像遭受火災或戰亂等災害摧殘，曾將此尊觀音像沉入附近的河流中加以保護。危險解除後，觀音像被重新安置，供奉於赤後寺本堂。

如今，觀音像頭頂原有的面相已不復存在，原本的 42 隻手臂亦僅存 12 隻。這些損壞狀況，或許是此尊佛像直到西元 1960 年代後期才對外公開展出的原因之一。

＜日本語仮訳＞

千手観音

この仏教美術の傑作は、9世紀前半に制作されたものです。千本の手を伸ばして困っている人々を救おうとする観音の姿を表しています。

丸みを帯びた顔、細長い目、ふっくらとした唇が力強い表情を生み出し、曲線を描く眉は静謐な厳かさを添えています。像はやや前かがみで、豊かな上半身、しっかりとした腰、長くほっそりとした脚を持っています。体のリアルな描写や、脚周りの衣のひだに彫られた高低の交互の隆起は、平安時代初期の作風を示しています。

長きにわたる戦乱は長浜にも影響を及ぼし、地域の人々や寺院が危険にさらされることがありました。伝承によると、12世紀と16世紀の火災や戦乱から守るために近くの川に沈められたとされています。平和が戻ると赤後寺の本堂に戻されました。現在では頭上面は失われ、元々42本あった腕のうち12本だけが残っています。この不幸な損傷が、1960年代後半まで像が一般公開されなかった理由の一つかもしれません。

【タイトル】 赤後寺：聖観音立像

【想定媒体】 看板

<簡体字>

圣观音

这尊高 1.82 米的圣观音像，据推测制作于公元 9 世纪末至 10 世纪初。与千手观音像并立于华丽的大佛龕中。

圣观音是观音菩萨的本身相，没有多头多臂等超自然的形态特征。这尊佛像为典型的圣观音像，一臂自然下垂，象征着化除世间苦难；另一臂微微抬起，可能原本手持莲花或净瓶，两者皆象征慈悲与清净。虽然双手已经缺失，但其余部分保存良好，佛像表面仍可见金箔装饰的痕迹。

圣观音像双眼细长，位于面部中央，嘴唇和鼻子的雕刻也十分精细。腰部纤细，手臂修长，天衣褶皱线条清晰流畅，与并列供奉的千手观音像在比例与风格上高度协调。

赤后寺的圣观音像和千手观音像均由一整块桧木雕刻而成，连披肩等细节都呈现出了精湛的技艺，是平安时代珍贵的佛像雕刻作品。这些作品所展现的高超技艺，也反映了长浜市曾是佛教文化重要中心的历史地位。

<繁体字>

聖觀音

一般認為，這尊高約 1.82 公尺的聖觀音像雕刻於西元 9 世紀末至 10 世紀初之間。觀音像矗立於一座莊嚴華麗的「廚子」中，即佛龕，並與千手觀音像並列供奉。

聖觀音為觀音菩薩的標準形象，不具多頭或多臂等超自然的身體特徵。此尊聖觀音像與大部分的聖觀音像相似，一側手臂自然下垂，象徵觀音菩薩救度眾生一切苦厄的大能；另一側手臂微微舉起，推測原本手持蓮花或淨瓶，兩者皆為純淨的象徵。雖然雙手已經失去，但觀音像的其餘部分保存狀況良好，原有的裝飾金箔痕跡仍清晰可辨。

聖觀音像位於臉部中央的雙眼細小狹長，雙唇與鼻部的造形刻畫細緻而細膩。腰部線條纖細，手臂修長，衣袍皺褶的輪廓俐落分明。整體比例與千手觀音像呈現出良好的和諧感。

赤後寺所供奉的聖觀音像與千手觀音像，皆以整塊檜木雕刻而成，為平安時代雕刻作品中備受推崇的代表。其細節部分刻劃十分精湛，特別是觀音像肩部垂落的飄逸天衣，極為精雕細琢。這些觀音像所展現的高度工藝水準，也反映出長濱作為佛教文化重要據點的

歴史地位。

＜日本語仮訳＞

聖観音

この 1.82 メートルの聖観音像は、9 世紀末から 10 世紀初頭にかけにつくられたとされています。像は、大きく装飾豊かな厨子の中に安置されている千手観音像の隣に立っています。

聖観音は観音菩薩の基本的な形であり、頭や手が多数あるような超自然的な特徴は持ちません。この像は、聖観音の典型的な姿を示しており、片腕を下げてこの世の苦しみから救う姿を表しています。もう一方の腕はわずかに上げられており、かつては蓮の花や聖なる壺を手にしていたと考えられており、いずれも清浄を象徴するものです。両手先は欠損しているが、美しい姿を留めており、元々の装飾である金箔の痕跡もはっきりと残っています。

聖観音の目は小さく細めで顔の中央に配置され、唇や鼻は精密に彫られています。像の腰は細く、腕は長くほっそりとし、衣のひだも鋭く彫り出されています。聖観音のプロポーションは、千手観音ともよく調和しています。

赤後寺に安置されている聖観音像と千手観音像は、いずれも一木造りの檜材から彫られています。肩から垂らした装飾布の彫刻技術など、細部にわたる卓越した技術により、平安時代の仏像彫刻の中でも貴重な存在とされています。これらの像に見られる高度な技術は、長浜がかつて仏教文化の重要な拠点であったことを物語っています。

【タイトル】 冷水寺：概要（冷水寺胎内仏資料館）

【想定媒体】 看板

＜簡体字＞

冷水寺博物馆

这是一座仅有一个展厅的小型博物馆，主要介绍附近的冷水寺及寺内供奉的一尊神秘佛像。

据寺院相传，冷水寺的前身是僧侣行基（668—749）创建的一座小寺院。1583 年，丰臣秀吉（1537—1598）和柴田胜家（1583 年卒）为夺霸权，在长滨爆发了贱岳合战，寺院及周围的村庄被卷入战火，最终遭到焚毁。

博物馆中通过展示资料，讲述了这场惨烈战乱的经过，以及村民英勇抵抗却终告失败的历史。相传当年村庄和邻近森林起火时，冷水寺的观音像呼喊道：“救我！救我！”。村民闻声赶去救援，发现观音像已陷入火海。

观音像虽遭严重破坏但并未完全烧毁。后来，其被藏在一尊更大的观音像内，直到近年才被重新发现。一张左右分割的对比照片，清楚呈现了大观音像的内部结构，小观音像的头部刚好位于大观音像的腹部位置。

这座博物馆由当地居民亲自构思、设计并建造，自称为“世界上最小的博物馆”。博物馆没有常驻工作人员，因此全天 24 小时对外开放，静静地向来访者讲述寺院的历史，并纪念这尊在战火中幸存的观音像。

＜繁体字＞

冷水寺博物館

這座小巧的博物館，僅有一個展示空間，專門介紹附近的冷水寺歷史，以及寺院所守護的神秘佛像。

根據寺院的傳承，冷水寺源自僧侶行基（西元 668-749）興建的一座小佛寺。之後於西元 1583 年，豐臣秀吉（西元 1537-1598）與柴田勝家（卒於西元 1583 年）為爭奪權力，在長濱一帶爆發賤岳之戰，冷水寺亦遭戰火波及。寺院及其周邊的村落被捲入戰火，最終付之一炬。

館內的部分展示敘述了這場事件，以及村民英勇卻終究徒勞的抵抗行動。相傳，當村莊與鄰近的森林陷入火海時，冷水寺的觀音像曾呼喊著：「救救我！救救我！」村民聞聲趕往搶救，然而觀音像早已被烈焰吞噬。

所幸、観音像並未被完全焼毀。遭到嚴重焼損の観音像，後來被密藏於一尊體型較大的観音像內部，直到近年才重見天日。透過一張剖面照片，可以看見祂是如何放置在外層観音像之中，內藏的観音像頭部正好位於外層観音像肚臍的位置。

這座博物館由當地居民共同構思、設計並建造，自詡為「世界上最小的博物館」。館內並無固定人員常駐，全年無休、24 小時對外開放，目的在於記錄這段故事，並紀念這尊在戰火中倖存的観音像。

<日本語仮訳>

冷水寺ミュージアム

この小さな一室の博物館は、隣接する冷水寺の歴史と、そこに守られてきた不思議な仏像に捧げられています。

寺の伝承によると、冷水寺は僧・行基（668–749）によって創建された草庵に起源をもつとされています。しかし 1583 年、豊臣秀吉（1537–1598）と柴田勝家（没 1583）が権力を巡って長浜で戦った、賤ヶ岳の戦いという戦火に見舞われます。寺とその周辺の村は戦いに巻き込まれ、焼き払われてしまいました。

博物館の展示の一部では、この惨事と、村人たちの勇敢ながらも実を結ばなかった抵抗の様子が伝えられています。伝説によれば、村と隣接する森が炎に包まれる中、冷水寺の観音像が「助けて！ 助けて！」と叫んだということです。村人たちは急いで救い出そうとしましたが、観音像はすでに炎に包まれていました。

幸いにも観音像は全焼を免れ、ひどく焼け焦げた姿のまま、より大きな観音像の内部に隠されて最近になって再発見されました。二分割の写真には、その像が大きな仏像の内部に収められていた様子が示されており、頭の高さがちょうど大きな仏像のへその位置ほどとなっています。

この博物館は、地域の住民たちによって構想・設計・建設され、自称「世界一小さなミュージアム」として運営されています。常駐スタッフはおらず、24 時間開館しており、戦火をくぐり抜けた観音像の物語を記録し、その存在を称える場となっています。

【タイトル】 冷水寺：聖観音坐像（胎内仏） & 十一面観音坐像（鞘仏）

【想定媒体】 看板

<簡体字>

冷水寺：观音坐像（胎内佛）和十一面观音坐像（鞘佛）

1583 年的贱岳合战中，原本安置观音坐像的寺院在战火中被毁，当地村民为保护这尊观音像而修建了冷水寺。该坐像在火灾中遭受严重损毁，因此长期未对外公开。

17 世纪末，观音坐像因一个偶然的机缘再次被发现。相传，安置观音像的佛龛门曾自行开启。村民目睹佛像受损程度深感震惊，于是制作了一尊新的十一面观音坐像作为“鞘佛”，并将烧焦的观音像安置其中。烧焦的观音像作为“胎内佛”，被秘藏于鞘佛体内，长达三百年之久。随着岁月的流逝，这尊古老的“像中之像”渐渐成了村里口耳相传的一个传说。

1997 年，在修缮冷水寺的屋顶时，十一面观音坐像被移离底座。负责监督搬运的村民惊奇地发现，其内部竟然藏着另一尊古老的佛像。面对这尊被火焰烧焦却顽强留存的观音像，人们深深触动，最终决定开设一座小型博物馆，讲述这尊佛像的经历，以纪念先人为保护其所付出的努力。

烧焦的观音像之所以没有完全损毁，可能是因为是由质地坚硬的榉木雕刻而成。像高 1.1 米，手臂的肘部以下部分已缺失。饱满的面容和较大的双眼表明这件作品的制作年代大约可追溯至 10 世纪。

<繁体字>

冷水寺：觀音坐像（胎內佛）和十一面觀音坐像（鞘佛）

原本供奉觀音像的寺院，於西元 1583 年的賤岳之戰中遭戰火焚毀。其後，當地村民為了保護這尊觀音坐像，另行興建冷水寺加以供奉。由於該尊觀音坐像在戰亂火災中受到嚴重損毀，遂被安置於深處，緊閉門扉，不對外公開。

這尊佛像的故事本應就此劃下句點，卻在 17 世紀末因偶然的機緣而重見天日。（相傳，供奉觀音的佛龕門扉無故自行開啟）村民們見到其令人心痛的受損模樣，深感震驚，於是齊心協力打造了一尊外層的觀音坐像，日文稱為「鞘佛」，將遭火災燒損的觀音像包覆其中，加以供奉。被燒毀的觀音像作為「胎內佛」，安置於新造的十一面觀音坐像內，秘密保存約 3 個世紀之久。隨著時間推移，關於這尊藏於佛像之中的古老觀音像，也逐漸化為一則村里口耳相傳的傳說。

西元 1997 年，為進行冷水寺屋頂修繕工程，將十一面觀音坐像自底座移開時，負責監督作業的村民訝然發現，內部竟藏有一尊古老的觀音像。這尊被燒損的觀音像深深觸動了村民，於是決定興建一座小型博物館，講述這段故事，藉此向先人為守護佛像所付出的努力致敬。

這尊胎內佛之所以能免於焚毀，推測是因其以質地堅硬的櫟木雕刻而成。佛像高 110 公分，雙臂自手肘以下的部分皆已缺失。從其圓潤豐滿的面相與大有神的雙眼造形來看，推定其製作年代約為西元 10 世紀左右。

<日本語仮訳>

冷水寺：觀音坐像（胎内仏）と十一面觀音坐像（鞘仏）

地元の村人たちは、1583 年の賤ヶ岳の戦いで当初この像を安置していた寺が焼失した後、この座像の觀音像を守るために冷水寺を建立しました。戦乱の際の火災で大きく損傷していたため、この像は扉を閉ざしたまま永く人々の目に触れぬよう安置されました。

そのまま物語は終わるはずでしたが、17 世紀後半に偶然によって再び姿を現します。（伝承によれば、像が安置されていた厨子の扉がひとりでに開いたともいわれています。）村人たちはその痛ましい姿に驚き、力を合わせて焼損した觀音像を包み込む鞘仏を造りました。焼けた觀音像は胎内仏として新しい十一面觀音坐像の内部に安置され、その約 300 年もの間、人々の目から隠されることになります。やがて「仏像の中にさらに古い仏像がある」という話は、村の中の噂として語り継がれるだけとなりました。

1997 年、冷水寺の屋根修復工事の際、十一面觀音坐像が台座から降ろされました。そのとき立ち会った村人たちは、中から胎内仏が現れるのを目の当たりにし、大いに驚きました。黒く焦げたその姿に深く胸を打たれた村人たちは、この觀音の物語を記録する小さな博物館をつくり、像を守ろうとした先祖の努力を称えその想いを世の中に伝えることを決めました。

この胎内仏が焼失を免れたのは、櫟の硬い木材で造られていたためと考えられています。像の高さは 110 センチで、両腕は肘から先が失われています。ふっくらとした丸顔と大きな目の造形から、10 世紀頃の作と推定されています。

【タイトル】 冷水寺：十一面観音坐像（脇仏）

【想定媒体】 看板

<簡体字>

冷水寺：十一面观音座像（胁侍菩萨）

这尊十一面观音坐像原为胁侍佛（通常安置于主尊佛像的两侧）。它原本与一尊大型“鞘佛”十一面观音像并列供奉，而该鞘佛体内藏着一尊古老的残损观音像。这尊胁侍像和鞘佛均由日本桧木雕刻而成，是姿态相同的十一面观音坐像。如今，这尊胁侍像陈列在长浜市高月观音之里历史民俗博物馆内。

据说，17 世纪末至 18 世纪初，为筹措制作鞘佛所需的资金，村民曾带着这尊胁侍在全国各地巡回展出。坐像手臂上的修复痕迹表明，它很可能曾在辗转各地的路途中遭到损坏。

与鞘佛不同，这尊胁侍像的肩上未披戴天衣，肘部弯曲的角度也有所不同，或为多次修复所致。坐像的双眼半睁，右手拇指、中指和无名指向内屈折，左手持一只插着莲花的水瓶，呈现出典型的十一面观音像造型。

<繁体字>

冷水寺：十一面觀音坐像（脇佛）

這尊十一面觀音坐像，原本供奉於另一尊較大的「鞘佛」觀音像旁；「鞘佛」，就是把更古老且有所損壞的觀音佛安放其中的外層觀音像。這尊觀音像與鞘佛觀音像都是以檜木雕刻而成，皆為姿態相同的十一面觀音坐像。現今，這尊觀音像陳列於長浜市高月觀音之里歷史民俗資料館。此尊觀音像為「脇佛」的實例之一，亦稱「脇侍菩薩」，通常供奉於佛寺本尊左右兩側。

據說在西元 17 世紀末至 18 世紀初，村民為了籌措製作鞘佛的經費，曾攜帶這尊脇佛巡行日本各地募集善款。從這尊觀音像手臂上的修復痕跡推測，很可能在巡迴期間曾遭受損傷。

與鞘佛不同，這尊觀音像的肩部未披戴裝飾性的天衣，手肘彎曲的角度亦有所差異，推測可能是歷經多次修復所致。觀音像雙眼半閉，右手的大拇指、中指與無名指向內彎曲；左手則持著插有蓮花的淨瓶（盛裝聖水的水瓶）。

<日本語仮訳>

冷水寺：十一面觀音坐像（脇仏）

この十一面観音坐像は、古く損傷した観音像を内部に納めていた鞆仏観音のそばにもともと安置されていました。鞆仏とこの像はいずれもヒノキ材で造られ、同じ姿勢の十一面観音坐像を表しています。現在は高月観音の里歴史民俗資料館に収蔵・展示されています。本尊のそばに祀られる脇仏の一例であり、寺院では一般的に本尊の左右に配置されます。

17 世紀末から 18 世紀初頭にかけて、村人たちは鞆仏建立の資金を集めるため、この脇仏を各地へ持ち出して公開し、寄進を募ったと伝わっています。そのため腕部には修復の痕跡が残っており、巡行の過程で損傷したと考えられています。

鞆仏とは異なり、この像は肩に装飾的な天衣をまとい、肘の角度も異なっています。これは繰り返しの修理によるものとみられます。この脇仏の目は半眼で、右手の親指と中指・薬指が内側に折りたたまれ、左手には水瓶と蓮華を持っています。

【タイトル】 善隆寺、和藏堂：概要

【想定媒体】 看板

＜簡体字＞

和藏堂

和藏堂位于长滨市山门地区的善隆寺内，是一座独立的佛堂，由四户人家组成的“和藏讲”集体管理。如今，堂内安置着一尊木制的十一面观音像。

大约 600 年前，这尊十一面观音像被安置在附近村庄的一座寺院里。据传，观音菩萨曾托梦于看守寺院的人，指示将佛像迁移至现址。人们遵从菩萨的指示，将观音像迁于此处，并为其建造了和藏堂。

据说著名作家井上靖（1907—1991）曾被这尊十一面观音像的形象深深吸引，入神地凝视至深夜。后来，他在 1972 年创作的小说《星与祭》中提及此佛像，使其名声远扬。如今每年约有五六百名访客前来参拜，其中许多人专程从全国各地而来，只为一睹这尊观音像的风采。

＜繁体字＞

和藏堂

和藏堂位於長濱市山門地區的善隆寺境內，但與寺廟毫無關係，是由四個家族組成的「和藏講」負責維運。現今，和藏堂內供奉著一尊木造的十一面觀音像。

約在 600 年前，這尊十一面觀音像原本安置於鄰近村落的寺院中。相傳某天夜晚，觀音菩薩向寺廟住持託夢，希望能將佛像遷至現址。人們遂依循觀音的旨意，興建和藏堂，將這尊觀音像安置至此供奉。

這尊十一面觀音像，因知名作家井上靖（西元 1907–1991）而逐漸為全國所知。據說，井上靖曾被這尊觀音像深深吸引，長時間靜坐於像前凝望至深夜。後來，他於西元 1972 年出版的小說《星與祭》中提及這尊觀音像，而使其聲名遠播。如今，每年約有 5 至 600 名遊客前來參拜，當中更有許多人從日本各地專程前來。

＜日本語仮訳＞

和藏堂

和藏堂は長浜市山門にある善隆寺の境内にありますが、独立したお堂で、和藏講と呼ばれる 4 軒の家族によって守られています。現在ここには、有名な十一面観音菩薩像が安置されています。

今からおよそ 600 年前、この十一面観音像は隣村の寺院に祀られていました。伝承によれば、ある夜、観音像が寺の守り役の夢に現れ、「和蔵堂の現在地へ移してほしい」と告げたといいます。そのお告げに従い、観音像はこの地に移され、和蔵堂が建立されました。

この十一面観音像は、著名な作家・井上靖（1907-1991）によって全国的に知られるようになりました。井上はその姿に心を奪われ、夜遅くまで座して見入ったといいます。その後、1972 年の小説『星と祭』の中で言及し、この像は全国的な注目を集めました。現在では、毎年 500～600 人ほどの参拝者が日本各地から和蔵堂を訪れています。

【タイトル】 善隆寺、和藏堂：十一面観音立像

【想定媒体】 看板

＜簡体字＞

和藏堂十一面观音像

和藏堂中安置着一尊十一面观音像，制作年代约为 11 世纪初。

十一面观音像高约 1 米，表情庄严，整体比例匀称，天衣褶皱排列整齐，使小巧的佛像呈现出堪比真人大小的气势。丰腴的手臂和敦实的身躯，体现了平安时代（794—1185）佛像特有的写实主义风格。佛像右手自然下垂，拇指与中指弯曲；左手在腹前持花瓶。腰部微微左倾，右膝略微向前提起，呈现出静中蓄动之姿。

一般而言，十一面观音像的佛面位于观音头顶，象征着菩萨未来成佛后的形态。然而这尊观音像的头顶却是菩萨面，代表着菩萨当下的形态。除此之外，其他特征均与典型的十一面观音像相同。

＜繁体字＞

和藏堂的十一面觀音

和藏堂內供奉著一尊古老的十一面觀音像，其製作年代可追溯至西元 11 世紀初期。

這尊十一面觀音像高約 1 公尺，其端莊而沉穩的神情、勻稱的比例，以及排列整齊、間距均勻的衣袍皺褶，使這尊小型觀音像展現出不亞於等身佛像的氣勢。豐腴的雙臂與圓潤的體態，充分體現了平安時代（西元 794-1185）追求寫實表現的雕刻風格。觀音右手自然下垂，拇指與中指彎曲；左手於腹前捧持華瓶（插有花朵的瓶器）。腰身向左側扭轉，右膝微微前抬，為整體姿態增添了流動感。

在多數十一面觀音像的表現手法中，觀音頭頂通常會配置一尊佛頭，象徵其未來成佛的形相；然而，此尊觀音像頭頂所呈現的，則是一尊菩薩頭，象徵觀音於現世的形相。除此之外，其聖像特徵大致與其他十一面觀音像相同。

＜日本語仮訳＞

和藏堂の十一面観音

和藏堂には、11 世紀初頭にさかのぼる十一面観音像が安置されています。

十一面観音像の高さはおよそ 1 メートルです。落ち着いた表情、均整の取れたプロポーション、整然と並ぶ衣のひだの美しさによって、小ぶりながらも等身大の像にも匹敵する存在感を放っています。ふくよかな腕や豊かな体つきは、平安時代（794–1185）の身体表現の写実性を示しています。右手は下げられ、第一指と第三指が曲げられており、左手は腹部前に華瓶（花が入った瓶）を持っています。腰は左にひねられ、右膝がやや前に出ており、動きを感じさせます。

一般的な十一面観音像では、観音の仏面には未来の姿を象徴する仏が配されていますが、この像では代わりに「現在の姿」を意味する菩薩となっています。それ以外の図像表現は他の十一面観音像と同じです。

【タイトル】 大浦腹帯観音堂：概要

【想定媒体】 看板

＜簡体字＞

大浦腹带观音堂

大浦腹带观音堂位于琵琶湖北岸的小村庄——长滨市大浦。现存的观音堂建于 1931 年，堂内供奉着平安时代（794—1185）的十一面观音像。该观音像历经战火、天灾，以及近年来的盗窃等重重磨难，仍得以保存至今。

大浦十一面观音作为赐子和保佑安产的菩萨而受到人们的信仰。寺院里备有由漂白棉布制成的安胎用品——腹带。每条腹带都用 18 世纪的木版印上观音像，并在佛像腰部缠绕约一周时间。寺院还会举行缠腹带仪式，参拜者可亲眼看到寺院管理人将腹带小心翼翼地缠绕在观音像腰间的过程。这里的腹带全国闻名，曾用来献给皇室成员，也可以邮寄给全国各地的孕妇。

如需参观大浦腹带观音堂，请联系高月观音之里历史民俗博物馆的观音礼宾部。

＜繁体字＞

大浦腹帶觀音堂

大浦腹帶觀音堂位於長濱市大浦的一處小村落，座落於琵琶湖北端。現存的觀音堂建於西元 1931 年，堂內供奉著一尊出自平安時代（西元 794-1185）的十一面觀音像（慈悲的菩薩）。這尊觀音像歷經了無數磨難，包括戰亂、天災，以及近年的竊盜事件，但仍一路保存至今。

大浦的十一面觀音以庇佑安產、祈求子嗣而聞名，深受民眾信仰。依循這項信仰，寺方會準備孕婦所用的傳統腹帶，以漂白的棉布製成。每條腹帶皆以 18 世紀的木版印刷印上觀音聖像，並纏繞於觀音像腰間，為期大約一週。寺院亦會舉辦腹帶纏繞儀式，參拜者可觀看寺方人員慎重地將腹帶纏繞在觀音像腰間的過程。儀式完成後，這些腹帶還能郵寄至日本各地，送至準媽媽們手中。此腹帶在全國享有盛名，甚至曾被敬獻給皇室成員。

若欲安排參觀大浦腹帶觀音堂，請洽高月觀音之里歷史民俗資料館的觀音禮賓部。

＜日本語仮訳＞

大浦腹帶觀音堂

大浦腹帯観音堂は、琵琶湖北端の小さな集落・長浜市大浦に位置しています。現在の観音堂は 1931 年に建てられ、平安時代（794-1185 年）の優れた十一面観音像（慈悲の菩薩）が安置されています。この像は、戦火や自然災害、さらに近年では盗難など、数々の困難を乗り越えて今日まで残されてきました。

大浦の十一面観音は、安産と子授けの守護仏として信仰されています。この信仰により、寺では妊婦が用いる伝統的な腹帯が用意されます。腹帯は漂白した白い木綿布で作られ、18 世紀の木版画で観音の姿が刷られています。腹帯は観音像の腰まわりに巻かれ、約 1 週間そのまま安置されます。また寺では腹帯を巻く儀式が行われ、参拝者は寺の世話役が慎重に腹帯を観音の腰に巻く様子を見学できます。また、この腹帯は全国の妊婦に郵送することも可能です。大浦の腹帯は全国的に知られており、皇族の方々へも献上されたことがあります。

大浦腹帯観音堂の参拝や見学の手配については、高月観音の里歴史民俗資料館の観音コンシェルジュまでお問い合わせください。

【タイトル】大浦腹帯観音堂：十一面観音立像（腹帯観音）

【想定媒体】看板

＜簡体字＞

大浦腹帯观音堂：十一面观音

据寺院文献记载，这尊十一面观音像出自比叡山延历寺创始人最澄（767—822）之手，是由一整块日本榿木雕刻而成。像高约 1.5 米，虽然小巧却表情丰富，头顶有十一面小面。

在 16 世纪的战乱期间，人们为了保护该像将其埋入了地下。约 90 年后，一位僧侣称菩萨托梦于他，告知佛像所在，使得这尊观音像得以重见天日。

据传说，挖出佛像后村民用棉布擦拭，并将这些棉布作为腹带分发给孕妇。人们相信佩戴蕴含着菩萨加持之力的腹带，能庇佑孕妇顺利生产。由此，逐渐形成了以腹带包裹观音像，并祈愿安产的信仰习俗。

2003 年 9 月 23 日，观音堂曾遭遇盗窃。一伙窃贼闯入殿内，盗走了观音像，仅留下包裹佛像的腹带。寺院悬赏 300 万日元，希望观音像能平安归还。后来寺院接到一名窃贼的来电，希望能私下交还被盗的佛像。2005 年 4 月 23 日，一名寺院管理人前往京都指定地点取回观音像，一同前往的还有假扮成僧人的警察。窃贼最终被捕，观音像也完好无损地回到了大浦的佛堂。

＜繁体字＞

大浦腹帯観音堂 十一面観音

根據寺院紀錄，這尊觀音像是由比叡山延曆寺的開山祖師最澄（西元 767-822）以整塊日本榿木雕刻而成。觀音像高約 150 公分，面相小巧，神情卻極為豐富，頭頂上並排列著十一張更為細小的面孔。

在西元 16 世紀戰亂期間，為了避免遭受毀損，這尊觀音像被埋藏於地下。約九十年後，一名僧侶宣稱獲得神明託夢啟示，得知觀音像的所在位置，這尊觀音像才得以重見天日。

另一個傳說為觀音像出土後，村民以棉布擦拭佛像，並將這些棉布分贈給孕婦作為腹帶，相信能獲得觀音菩薩的庇佑。據說配戴這些腹帶的孕婦皆能平安生產，於是以腹帶包裹觀音像的習俗便逐漸形成。

2003 年 9 月 23 日，觀音堂遭竊賊闖入，觀音像被盜，只留下原本包裹佛像的腹帶。寺方懸賞 300 萬日圓，期盼觀音像能被安全歸還。其後，寺方接獲其中一名竊賊來電，對

方表示希望私下歸還佛像。2005 年 4 月 23 日，一名寺院人員依竊賊指示前往京都的指定地點，取回觀音像，並由喬裝成僧侶的警方人員陪同。竊賊隨後遭到逮捕，觀音像也完好無缺地回到大浦的寺院。

＜日本語仮訳＞

大浦腹帯観音堂：十一面観音

寺の記録によれば、比叡山延暦寺の開祖・最澄（767-822）が、一本のカヤの木からこの観音像を彫ったとされています。像の高さはおよそ 150 センチで、小さいながらも表情豊かな顔の上に、十一の小さな顔があります。

16 世紀の兵火の際、この観音像は損傷や破壊から守るために土に埋められました。そのおよそ 90 年後、ある僧が夢の中で像の場所を告げられたとして、ようやく引き上げられました。

ある一つの伝説によれば、像が掘り出された際、村人たちは綿布で観音像を清め、その布を妊婦に腹帯として配りました。この布には菩薩の加護が宿るとされ、妊婦たちは無事に出産したといいます。こうして、観音像に腹帯を巻く新たな習慣が生まれました。

2003 年 9 月 23 日泥棒が堂に侵入し、腹帯を残して観音像が盗まれました。観音像の無事な返還を条件に、300 万円の懸賞金かけられました。寺には、盗まれた像をひそかに返却したいという意向で、盗人の一人から電話がありました。2005 年 4 月 23 日、寺の管理者は、提示された京都の住所に像を受け取りに向かいましたが、その際僧に扮した警察官が同行していました。窃盗犯は逮捕され、観音像は無傷のまま、大浦のお堂に返還されました。

地域番号	014	協議会名	湖南省

解説文一覧

NO.	スポット名（タイトル）	中国語文字数	想定媒体
014-001	常楽寺/本堂	629	アプリ QR コード/Web
014-002	長壽寺/本堂	546	アプリ QR コード/Web
014-003	常楽寺/三重塔	542	アプリ QR コード/Web
014-004	西應寺/概要、由来	567	Web
014-005	立志神社（りゅうしじんじや）/概要、由来	291	アプリ QR コード/Web
014-006	長壽寺/弁天堂	180	アプリ QR コード/Web
014-007	白山神社/拝殿	271	アプリ QR コード/Web
014-008	平松のウツクシマツ自生地/概要	478	アプリ QR コード/Web
014-009	三雲城跡/概要	932	アプリ QR コード/Web
014-010	常楽寺/木造釈迦如来坐像	383	アプリ QR コード/Web
014-011	常楽寺/木造二十八部衆立像	478	アプリ QR コード/Web
014-012	長壽寺/木造阿弥陀如来坐像	424	アプリ QR コード/Web
014-013	長壽寺/丈六阿弥陀如来坐像	390	アプリ QR コード/Web
014-014	長壽寺/二天王立像	265	Web
014-015	長壽寺/木造釈迦如来坐像	569	アプリ QR コード/Web
014-016	西應寺/庭園	495	Web
014-017	西應寺/写経体験	459	Web
014-018	立志神社/立志神社にまつわれている神様たち	941	アプリ QR コード/Web
014-019	石部宿場の里/概要	592	アプリ QR コード/Web

014-020	石部歴史民俗資料館/概要	685	アプリ QRコード/Web
014-021	立志神社/手水舎	275	アプリ QRコード/Web
014-022	立志神社/御朱印	319	アプリ QRコード/Web
014-023	長壽寺/概要 (リーフレット)	705	パンフレット
014-024	常楽寺/概要 (リーフレット)	777	パンフレット

【タイトル】 常楽寺/本堂

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web

<簡体字>

常乐寺本堂

常乐寺于 8 世纪初奉敕令建造，隶属阿星山大型寺院群，而本堂正是这座寺院的核心建筑。建造此寺旨在护佑国家，与位于西南方的奈良地区的朝廷。常乐寺为佛教天台宗寺院，主奉千手观音，即观世音菩萨的化身。现存本堂建于 1360 年，是室町时代(1336-1573)和样建筑中罕见的现存实例，已被指定为日本国宝。

外观与建筑风格

和样建筑发展于平安时代(794-1185)，以利落的线条与未经涂饰的天然木材彰显简约与优雅。这座建筑最显著的特征为入母屋造屋顶。出檐深邃、弧度柔和的屋檐勾勒出鲜明的水平线条，稳固整体结构，形成低矮宽阔的轮廓，与周边环境和谐相融。桧皮屋顶质地柔和，为整座殿堂增添精致而优雅的气息。

内部结构与仪式区域

本堂面宽七间，深六间，在室町时代建筑属于宏大的规模。正面设有部户（格状窗扉），可沿铰链向上或向下掀开，并以挂钩固定，用于调节采光与通风。其内部空间根据天台宗的仪轨规制，分为三个独立佛殿区域：外阵是供普通信众参拜的公共区域；内阵是神圣的核心空间，专供僧人举行秘仪。常乐寺本尊千手观音即供奉在内阵佛坛的佛龕之中，两侧分立佛教护法神的二十八部众立像。在这 30 尊雕像中，有 28 尊被整体指定为日本重要文化财产。后阵通常用于仪式和存放法器，但常乐寺的后阵内，供奉着一尊 12 世纪的释迦如来坐像。

参观须知与行为规范

- 本堂既是日本国宝，也是正在使用的参拜场所，请游客遵守以下准则：
- 进入本堂前必须脱鞋。入口附近备有鞋架和拖鞋。

- 本堂内严禁拍照和使用手机等电子设备。

〈繁体字〉

常樂寺本堂

常樂寺於 8 世紀初奉敕令建造，隸屬阿星山大型寺院群，而本堂正是這座寺院的核心建築。當時建寺是為了護佑國家，與位於西南方奈良地區的朝廷。常樂寺為佛教天台宗寺院，主祀千手觀音，即觀世音菩薩的化身。現存本堂建於西元 1360 年，是室町時代（西元 1336－1573）和樣建築罕見的現存典範，已被指定為日本國寶。

外觀與建築風格

和樣建築發展於平安時代（西元 794－1185），透過俐落的線條與未上漆的自然原木彰顯簡約與優雅，最顯著的特徵為歇山式屋頂（入母屋造）。深挑且弧度柔和的屋簷勾勒出鮮明的水平線條，穩固了整體結構，形成低矮寬闊的輪廓，與周邊環境和諧相融。檜樹皮屋頂表面質地柔和，為整座殿堂外觀增添精緻與優雅的氣息。

內部結構與儀式空間

本堂面寬七間、進深六間，在室町時代建築屬於宏大的規模。正面設有部戶（格狀窗扉），可沿鉸鏈向上或向下掀開，並以掛鉤固定，用於調節採光與通風。內部空間根據天台宗的儀軌分為三個獨立區域：外陣是供普通信眾參拜的公共區域；內陣則是神聖的核心空間，專供僧人舉行秘儀。常樂寺本尊千手觀音即供奉在內陣佛壇的佛龕之中，兩側分立二十八部眾立像，為佛教的護法神。在整組 30 尊雕像中，有 28 尊一併被指定為日本重要文化財產。後陣通常用於舉行儀式和存放法器，但常樂寺的本堂後陣內，供奉著一尊 12 世紀的釋迦如來坐像。

參觀須知與行為規範

- 本堂既是日本國寶，也是仍在使用的禮拜場所，請訪客遵守以下規定：
- 進入本堂前務必先脫鞋。入口附近設有鞋架並提供拖鞋。
- 本堂內嚴禁攝影，亦不得使用手機等電子裝置。

<日本語仮訳>

常楽寺/本堂

本堂は常楽寺の中心的な建物で、阿星山の大規模な伽藍の一部として、8世紀初頭に勅命により建立されました。この寺院は国家、および南西方向、つまり奈良地方に位置していた朝廷の双方を守護するために建てられました。常楽寺は天台宗に属し、本尊として観音菩薩の化身である千手観音を祀っています。現在の本堂は1360年に建てられたもので、室町時代（1336～1573）の和様建築の貴重な現存例であり、国宝に指定されています。

外観および建築様式

和様は、平安時代（794～1185）に発展し、すっきりとした線と天然の無塗装の木材を生かすことで、シンプルさと優雅さが際立っています。この建物の際立った特徴のひとつは、入母屋造の屋根です。深く緩やかにカーブする軒は、力強い水平ラインを作り出し、建物をしっかりと支えるとともに、低く広い姿で周囲と調和しています。柔らかな質感を持つ檜皮葺の屋根の表面は、本堂全体に洗練された優美な印象を与えています。

堂内および儀式の空間

桁行七間、梁間六間のこの本堂は、室町時代としては大きな造りです。正面には、蝶番で上下に開閉する格子戸が鉤で固定され、光や風通しを調節しています。堂内は三つの明確な区画に分けられており、この配置は天台宗の儀式上の要件に従ったものです。外陣は一般参拝者のためのパブリックスペースとして用いられ、内陣（神聖な中心部）は、特別な儀式を行う僧侶のみが入ることを許されています。本尊である千手観音は、本堂内の内陣の祭壇に安置されており、その両脇には仏教の守護神である二十八部衆の像が並んでいます。本尊および30体からなる一連の像のうち28体は、重要文化財に指定されています。後陣は通常、儀式や儀式用具の保管に使われますが、常楽寺本堂内のこの空間には、12世紀に造られた歴史的な仏陀の坐像が安置されています。

保存と行動規範

本堂は国宝であると同時に、現在も信仰の場として使用されているため、参拝者には以下のガイドラインを守っていただくようお願いしています。

- 本堂に入る際は靴を脱いでください。入口付近に靴箱とスリッパが用意されています。
- 本堂内での写真撮影、携帯電話等の使用は固く禁じられています。

【タイトル】 長壽寺/本堂

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web

<簡体字>

长寿寺本堂

这座天台宗古寺建于 8 世纪，其本堂是礼拜活动的核心区域，整个寺院建筑群由皇室敕令兴建，作为国家与朝廷的精神守护者。本堂建筑是日本早期寺院建筑发展的重要实例，被指定为日本国宝。

一顶双堂

现存本堂建于镰仓时代初期(1192-1333)，但继承了 8 世纪的结构框架。外观看似一座独立殿堂，由一个巨型入母屋造屋顶（歇山顶）覆盖整栋建筑，但其实是承袭早期寺庙设计的“双堂”结构。双堂即是建立两座等长的殿堂，两座堂以狭窄空隙相隔，分别供信众礼拜和供奉神明。这一布局强调了佛陀的神圣空间与信众的世俗世界之间的隔绝。但由于两堂之间距离较近，屋顶跨度较小，难以有效遮蔽雨水。

创新设计

长寿寺本堂将两座殿堂统合在同一屋顶下，标志着寺庙建筑设计的一次重要转型。这种 12 世纪发明的隐蔽式屋顶支撑结构，让两座殿堂可以共用一个大型屋顶，不仅能有效地保护墙壁和地基免受暴雨侵袭，其更大的屋顶跨度还形成了宽敞的入口空间，为日益增多的参拜者提供一个避雨的场所。长寿寺本堂是日本现存为数不多的过渡结构建筑实例之一，因此成为早期佛教建筑的珍贵的典范之作。

参观须知与行为规范

- 本堂既是日本国宝，也是正在使用的参拜场所，敬请访客遵守以下规定：
- 进入本堂前必须脱鞋。入口附近备有鞋架和拖鞋。
- 本堂内严禁摄影，亦不得使用手机等电子设备。

＜繁体字＞

長壽寺本堂

這座天台宗古寺建於 8 世紀，本堂為寺院的禮拜中心。整個寺院建築群依據皇室詔令而建，作為國家與朝廷的精神守護。本堂建築是早期寺廟建築發展的重要典範，被指定為日本國寶。

一頂雙堂

現存本堂建於鎌倉時代（西元 1192—1333）初期，但仍融合了 8 世紀的結構框架。從外觀看像是一座獨立殿堂，以一座巨型寄棟造（四坡式）屋頂覆蓋整座建築，但實際上承襲了早期寺院設計的「雙堂」形制。雙堂即是建立兩座長度相等的殿堂，兩堂以一條窄縫相隔，分別用於供信徒參拜及供奉神佛本尊。這種佈局明確分隔了佛陀的神聖空間與信眾的世俗世界。不過，由於兩個殿堂靠得很近，屋頂跨度較小，難以有效遮蔽雨水。

創新設計

長壽寺本堂將雙殿堂統合到一個屋頂下，標誌著寺院建築設計的一次重要轉型。這種 12 世紀發明的隱藏式屋頂支撐結構，讓兩個殿堂可以共用一個大型屋頂，不僅能更有效地保護牆身和地基免於暴雨侵襲，更大的屋頂跨度更創造出寬敞的入口空間，為日益增多的信眾提供避雨的聚集空間。此轉型期的建築結構在日本僅存極少數實例，長壽寺本堂即是其中之一，因而成為早期佛教建築的珍貴典範之作。

參觀須知與行為規範

- 本堂既是日本國寶，也是仍在使用的禮拜場所，敬請訪客遵守以下規定：
- 進入本堂前務必先脫鞋。入口附近設有鞋架並提供拖鞋。
- 本堂內嚴禁攝影，亦不得使用手機等電子裝置。

＜日本語仮訳＞

長壽寺/本堂

本堂は、8 世紀に建立されたこの天台宗の古刹における礼拝の中心となっています。勅命によって建立されたこの伽藍は、国家と朝廷の双方の靈的な守護神としての役割を果たしました。本堂は、初期

寺院建築の発展を伝える重要な一例であり、国宝に指定されています。

一つの屋根、二つの堂

現在の本堂は鎌倉時代初期（1192～1333）に建てられたものですが、8 世紀の建物の骨組みを取り入れています。外から見ると、一つの大きな入母屋造の軒が建物全体を覆い、単一の堂のように見えます。しかし、その構造はさらに初期の寺院建築である「双堂」（ならびどう）を継承したものです。「双堂」とは同じ長さの二つの堂で建てられ、一つは参拝者用、もう一つは本尊安置用とされ、両堂の間は狭い隙間のみで仕切られていました。この配置は、仏像の神聖な空間と参拝者の世俗的な空間の分離を強調していました。しかし、堂同士が近いと屋根の幅が狭く、雨を防ぐには限界がありました。

革新的な設計

長壽寺の本堂は、双堂を一つの屋根の下に統合することで、寺院建築における重要な転換点を示しています。12 世紀に考案された隠れ屋根支持構造によって、二つの堂の上に大きな屋根を架けることができました。これにより壁や基礎が豪雨からよりしっかりと守られるようになり、屋根の幅が広がったことで広々とした入口が生まれ、増え続ける参拝者のための雨宿りの場としても機能しました。この本堂は、日本に現存するこの過渡期における建築様式の非常に数少ない例の一つであり、初期の仏教建築の貴重な一例となっています。

保存と行動規範

本堂は国宝であると同時に、現在も信仰の場として使用されているため、参拝者には以下のガイドラインを守っていただくようお願いしています。

- 本堂に入る際は靴を脱いでください。入口付近に靴箱とスリッパが用意されています。
- 本堂内での写真撮影、携帯電話等の使用は固く禁じられています。

【タイトル】 常楽寺/三重塔

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web

<簡体字>**三重塔**

常乐寺三重塔是日本传统佛教建筑的杰出典范，也是室町时代最具代表性的三重塔之一。这座塔建于 1400 年，以稳固的结构与和谐的美感闻名，这归功于建造过程中运用了极为精确的数学计算。尽管年代久远，但三重塔自建成以来几乎未曾进行重大修缮。历史记录显示，其主要梁柱结构和斗拱几乎未曾更换。三重塔被指定为日本国宝。

这座塔采用和样（日式）建筑风格，摒弃额外装饰，以简洁线条与天然材质，彰显简约典雅格调。建筑通体选用未经涂饰的原木，结合平缓优美的屋顶曲线，展现内敛之美。支撑各层的三手先斗拱等额外结构细节，形成规律的视觉节奏，使塔身更显均衡而轻盈。

建筑的优美外观与稳定结构，奠基于塔身三层均采用的“枝割”比例系统。这是一套非常精密的数学比例法，以单根椽子的高宽之和为基本单位，确定建筑结构的构件比例。椽子中心间距、柱子中心间距、屋檐出挑深度及其他各项建筑尺寸，均根据此计量单位确定。常乐寺三重塔是将此比例法统一应用于全部三层塔身的早期典范，具有极高的历史意义。

三重塔位于本堂后方的山坡之上，是常乐寺所属天台宗的典型布局方式。佛塔象征佛陀之身与教法，是礼拜的核心对象。将佛塔建于高处，反映了当时的信念：精神力量是维护国家稳定与安全的根本。人们认为，高度能够增强佛塔的镇护之力，从灵性之力庇佑周边地区。

<繁体字>**三重塔**

常樂寺三重塔是日本傳統佛教建築的傑出典範，也是室町時代最具代表性的三重塔之一。這座三重塔建於西元 1400 年，以其結構的完整性與和諧美感聞名，這歸功於建造過程中極其精確的數學計算。雖然年代久遠，但自建成以來的修繕次數屈指可數。據史料記載，主要樑柱結構和斗拱幾乎未曾更換。常樂寺三重塔已被指定為日本國寶。

這座塔採用和樣（日式）建築風格，捨棄繁複裝飾，強調透過簡潔線條與天然材質，展現出簡約與優雅。建築整體選用未上漆的原木，結合平緩優美的屋頂曲線，展現含蓄內斂之美。支撐各層的三手先斗栱等結構細節，形成規律的視覺節奏，使塔身更顯均衡而輕盈。

建築的優美外觀與穩定結構，奠基於塔身三層皆統一採用了「枝割」比例系統。這是一套非常精密的數學比例法，將單根椽子（垂木）的高寬之和作為基本計量單位，確定建築結構的構件比例。椽子中心間距、柱子中心間距、屋簷伸出深度及其他各項建築尺寸，均根據此計量單位來決定。常樂寺三重塔是將此比例法統一應用於全部三層塔身的早期典範，具有極高的歷史意義。

三重塔位於本堂後方的山坡上，是常樂寺所屬天台宗寺院的典型佈局方式。佛塔象徵佛陀之身與教法，是禮拜的核心對象。將佛塔建於高處，反映了當時的信念：精神力量是維護國家穩定與安全的根本。人們認為將佛塔建於高處能增強其鎮護之力，以靈性之力庇佑周邊地區。

＜日本語仮訳＞

常樂寺/三重塔

常樂寺三重塔は、日本の伝統仏教建築の卓越した一例で、室町時代を代表する三重塔の一つです。1400 年に建てられたこの三重塔は、類まれな数学的精度によって実現された構造の完全性と美的な調和で有名です。その古さにもかかわらず、建設以来ほとんど修理を必要とせず、史料によれば、主要な骨組みや組物を交換したことも皆無に等しいと言います。仏塔は国宝に指定されています。

この三重塔は、装飾を施すのではなく、すっきりとした線や自然素材を用いることで簡素さと優雅さを重んじる、和様建築様式で建てられました。その構造は、無塗装の木材や自然な比率に沿った緩やかで優美な曲線を描く屋根のラインによって、さりげなく控えめな美しさを表現しています。また、各層を支えている簡素な三段の組物などのその他の構造的細部は、一貫した視覚的リズムを生み出しており、仏塔の外観をバランスよく軽やかなものにしています。

この建物の美しさと構造的な完全性は、三層すべてに枝割という比例の規範を採用した手法に根ざしています。この数学的に厳密な技術は、垂木 1 本の高さと幅の合計に基づいた単位を使用し、建物の構造資材の割合を決定します。この単位は、垂木の中心間の距離、1 つの柱の中心から別の柱の中心までの距離、軒の出幅、およびその他の建物の測定に使用されました。これは歴史的に重要な意義を持ち、この手法が仏塔の三層すべてに均一に適用された初期の例となっています。

本堂の背後の丘にこの塔が配置されているのは、常楽寺が属する天台宗に特有の配置様式に基づくものです。仏塔は、仏陀の身体と教えを象徴し、信仰の中心的な礼拝対象としての役割を果たしています。高台に仏塔を建てたのは、国家の安定と防衛は精神力にかかっているという信念を反映したものでした。その高さは、周囲地域の霊的な守護を通じて、仏塔の守護力を増幅させると考えられていました。

【タイトル】 西應寺/概要、由来

【想定媒体】 Web

<簡体字>

西应寺

西应寺属于佛教净土真宗，供奉阿弥陀佛，即无量光无量寿之佛。由于寺内广植花草、尽显四季更迭之美，因此常被称作“花之寺”。游客可在寺内体验抄经，感受这项静心怡神的传统文化（仅限预约）。

寺庙起源

西应寺与圆满山少菩提寺间有一段历史渊源。规模宏大的圆满山少菩提寺建筑群于 8 世纪奉敕兴建，旨在作为国家与朝廷的精神守护。鼎盛时期，寺域内建有大型本堂、三重塔和 37 座僧寮。1520 年，其中一处僧寮经过重建，复立为西应寺。半个世纪后的 1571 年，圆满山少菩提寺建筑群因地方战乱而遭焚毁，西应寺亦未能幸免，但随后得以重建。原本的宏大规模与布局，从寺院现存的一幅古版地图中可见一斑。此图有时会在入口接待厅内展出。

枯山水庭园

西应寺以枯山水庭园为中心景观，巧妙地将周围的群山与森林作为借景融入其中。庭园中设有象征群山的大型土丘，分列在枯瀑布两侧，瀑布之下是一条枯溪流，蜿蜒汇入一条狭长的枯池。错落的石桥与踏石横跨于写意水景之上，一条小径沿山坡蜿蜒而上，通向静谧的观景台，可俯瞰整座庭园。

抄经体验

寺院提供有专人指导的抄经体验，参加者使用毛笔和墨水，临摹佛学经文的节选内容。活动在俯瞰假山庭园的寺院书院内进行。虽然活动内容简单，但全神贯注于一笔一画，心神随之焕然一新，宛如冥想。笔墨工具均由寺院提供，访客只需提前预约，无需任何额外准备，没有日语基础也可参加。

<繁体字>

西應寺

西應寺屬於佛教淨土真宗，供奉阿彌陀佛，即無量光無量壽之佛，由於寺內廣植花草、盡展四季更迭之美，因此有「花之寺」的美譽。訪客可在寺內體驗抄經，感受這項靜心怡神的傳統文化（僅限預約）。

寺院起源

西應寺與圓滿山少菩提寺之間有一段歷史淵源。圓滿山少菩提寺曾是規模宏大的寺院建築群，於 8 世紀由皇室敕令興建，旨在作為國家與朝廷的精神守護。鼎盛時期，其範圍涵蓋大本堂、一座三重塔和 37 座僧寮。西元 1520 年，其中一處僧寮經過重建，復立為西應寺。半個世紀後的西元 1571 年，圓滿山少菩提寺建築群因地方戰亂而遭焚毀，西應寺亦未能倖免，但隨後重建。原本的壯闊規模與佈局，從寺院收藏的一幅手繪古地圖可見一斑。此圖有時會在接待大廳內展出。

枯山水庭園

西應寺的中心是一座枯山水庭園，巧妙地將鄰近的山林景色納入庭園構景。庭內的造景特色在於以大型假山象徵山巒，分列於枯瀑布與枯溪流兩側，枯溪流一路延展，匯入一座狹長的枯池之中。錯落有致的石橋與踏腳石橫跨於象徵性水景之上，一條小徑沿山坡蜿蜒而上，通向靜謐的觀景台，從此處可俯瞰整座庭園。

抄經體驗

寺院提供專人指導的抄經體驗，參加者使用毛筆與墨水，臨摹佛經節錄內容。活動地點位於寺院書齋，可俯瞰枯山水庭園。雖然活動內容簡單，但全神貫注於每一筆畫時，心神隨之煥然一新，宛如冥想。除了需要事先預約外，參加者不需要具備任何日語基礎或其他準備，寺方也會提供所有筆墨工具。

<日本語仮訳>

西應寺/概要、由来

西應寺は浄土真宗に属し、本尊として無量光・無量寿の仏・阿弥陀如来を祀っています。この寺は、四季折々の美しさを映し出すように植栽された魅力的な境内から、しばしば「花の寺」と呼ばれています。参拝者は、この寺院で瞑想的な文化体験として写経を楽しむことができます（要予約）。

寺院の起源

西應寺は、8 世紀に勅命によって建立された、かつての大伽藍である円満山少菩提寺と歴史的なつながりを持つ寺院です。この伽藍は、国家と朝廷の双方の霊的な守護神として建てられました。最盛期には、境内に大本堂や三重塔、37 の僧坊を備えていました。これらの僧坊のひとつが 1520 年に再建され、西應寺として再興されました。その半世紀後の 1571 年、地域間の争いに伴う火災により、壊滅的な被害を受けました。西應寺もまた焼失しましたが、その後再建されました。この伽藍の当初の壮大な規模と配置は、寺院に伝わる歴史的な絵図に描かれており、現在も入り口に展示されることがあります。

枯山水庭園

西應寺の境内の中心には、隣接する山と森を借景として取り入れた枯山水庭園があります。この庭園には、山を表す大きな築山が、枯滝や細長い枯池へと注ぐ枯流れの両脇を囲んでいます。段差を付けて配置された石橋や飛び石が水景の上を渡る道筋を作り、丘の斜面を取り巻くように登る小道はのどかな展望地点へと続き、境内全体を見渡すことができます。

写経体験

寺院では、ガイド付きの写経体験を体験できます。訪問者は、仏教の教えの抜粋を筆と墨でなぞり写します。この体験は、石庭を見渡せる寺院の書院で行われます。シンプルでありながら、一筆一筆に深く集中することで、瞑想のように心がリフレッシュされます。予約は必須ですが、準備や日本語の知識は必要なく、筆記用具もすべて用意されています。

【タイトル】 立志神社（りゅうしじんじや）/概要、由来

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web

<簡体字>

立志神社

立志神社主祭国之常立神，即神道教诸神中开创地上世界根基的远古神祇。该神明象征万物之始，赐予好运与繁荣。除主神之外，此处亦供奉包含太阳神天照大御神在内的八位神祇。

立志神社之名，原意为“立定志向、向神宣誓之社”。自古以来，人们便来到这里，祈求神明庇佑实现愿望。参拜者在神前透过祈愿，向神明诉说自己的目标和决心。

虽然神社的确切起源已不可考，但在 6 世纪的史料中已有记载。钦明天皇(509-571)在位时期，日本国内发生了大饥荒，朝廷在全国选定十二处神社代天皇举行祈愿仪式，立志神社便是其中之一。这些祈祷寄托了天皇拯救受苦百姓的殷切心愿，由此，立志神社成为人们立下人生重要誓愿的场所。

<繁体字>

立志神社

立志神社主祀國之常立神，是神道教諸神中最早出現的神祇，被尊崇為地上世界的奠基者。祂象徵著萬物之始，賜予信眾好運與繁榮。除主神之外，神社內亦供奉著太陽神「天照大御神」等八位神祇。

立志神社之名，原意為「立定志向、向神宣誓之社」。從古至今，參拜者紛至沓來，祈求神明庇佑得償所願。信眾在神社會透過祈願，向諸神表達自己的目標與決心。

雖然這座神社的確切起源已不可考，但在 6 世紀的歷史文獻中便有記載。欽明天皇（西元 509—571）統治時期，日本國內發生了大饑荒，朝廷在全國選定十二處神社代天皇舉行祈願儀式，立志神社便是其一。當年的祈願表達了天皇拯救受苦百姓的強烈心願。這也讓神社成為許下莊重、立定人生志向誓願的場所。

＜日本語仮訳＞

立志神社（りゅうしじんじゃ） / 概要、由来

立志神社は、地上世界の基盤を築いたとされる神道の原初の神である、国之常立神を本尊として祀っています。この神は万物の始まりを象徴し、幸運と繁栄を受けるとされています。太陽神である天照大御神を含む八柱の神々も、主祭神とともに祀られています。

神社の名前は「志を立て、祈る（意宣(いの)る）ための神社」の原意があります。古来より、人々は目標達成のために神の加護を求め、ここを訪れてきました。参拝者は神々の前で祈りを捧げ、自らの意志と決意を表明します。

神社の正確な創建時期は不明ですが、6 世紀の歴史的記録に神社について記されています。欽明天皇（509～571）の時代、大飢饉の際に天皇に代わって祈りを捧げる全国 12 か所の神社のひとつとして、この神社が選ばれました。この祈りには、飢餓に苦しんでいる民を救いたいという天皇の熱い思いが込められていました。こうした行動により、この神社は命に関わる重要な誓いを立てる場所として建てられました。

【タイトル】 長壽寺/弁天堂

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web

＜簡体字＞

弁天堂

这座小堂供奉弁財天，即司掌水、诗文、音乐、智慧与财运等世间一切流转之物的神明。相传，该建筑始建于 1484 年，被指定为日本重要文化财产。

弁天堂采用可追溯至平安时代(794-1185)的和样（日式）佛教建筑风格建造，典型特征为入母屋造屋顶（歇山顶）和桧皮葺屋顶。不过，弁天堂也体现了后世风格的影响，例如屋顶上装饰有受中国风格启发的唐破风（S 形曲线拱形山墙）。

＜繁体字＞

弁天堂

這座小堂供奉弁財天，即司掌水、詩文、音樂、智慧與財運等世間一切流轉之物的神明。相傳，該建築建於西元 1484 年，被指定為日本重要文化財產。

弁天堂採用可追溯至平安時代（西元 794－1185）的和樣（日式）佛教建築風格，典型特徵為歇山式屋頂（入母屋造）與檜木皮屋面（檜皮葺）。不過，弁天堂也展示了後世風格的影響，例如屋頂上裝飾著受中國風格啟發的唐破風（S 形曲線拱形山牆）。

＜日本語仮訳＞

長壽寺/弁天堂

この小さな堂には、水・詩・音楽・知恵・財福など、流れるものすべてを司る神、弁財天が祀られています。日本各地の神社仏閣で崇拝されています。1484 年に建てられたとされるこの建物は、重要文化財に指定されています。

この堂は、平安時代（794～1185 年）にまで遡る、仏教建築の和様様式で建てられています。入母屋造りの屋根と檜皮葺の使用は、和様の典型的な特徴を示しています。しかし、この堂の屋根には中国風の装飾的な要素である唐破風（丸みのある、S 字曲線を描く切妻）など、後世の影響が認

められます。

【タイトル】 白山神社/拝殿

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web

＜簡体字＞

白山神社拜殿

白山神社拜殿是日本重要文化财产，相传始建于室町时代(1336–1573)。整栋建筑简约轻盈，体现了平安时代(794–1185)的早期和样（日式）建筑风格的典型特征。

拜殿为简洁的三间方形结构，檐下可见素朴的船形斗拱与排列疏朗的椽子。主柱边角均作倒角处理，更添精致之感。四面均设有格扇门，这一罕见做法增强了空间的通透开阔之感。

历史上，白山神社曾是长寿寺的守护神社。尽管其创建年代不详，但该神社最早见于1287年的一份文献记载之中。平安时代(794–1185)，随着神道与佛教的信仰融合日益加深，在佛寺内设置神道守护神社的做法逐渐普及。

＜繁体字＞

白山神社拜殿

白山神社拜殿是日本重要文化財產，相傳建於室町時代（西元 1336—1573）。整棟建築簡約輕盈，體現平安時代（西元 794—1185）的早期和樣（日式）建築風格的典型特徵。

拜殿為簡潔的三間方形建築，簷下可見樸實無華的船形斗拱與排列疏朗的椽子。主柱邊角均作倒角處理，增添了結構的精緻感。四面皆設有格扇門，這種罕見的做法增強了空間的通透感。

歷史上，白山神社曾是長壽寺的守護神社。儘管建立年代不詳，但該神社最早見於西元1287年的文獻記載中。平安時代（西元 794—1185），隨著神道教與佛教日益融合，在佛寺內設置神道守護神社的做法逐漸普及。

<日本語仮訳>

白山神社/拝殿

白山神社の拝殿は重要文化財に指定されており、室町時代（1336～1573 年）に建立されたと考えられています。この建築様式の簡素さと軽快さは、平安時代（794～1185 年）における初期の和様建築の典型です。

この堂は、簡素な三間四方の構造で、装飾のない舟形肘木と、軒下に見える、広い間隔で置かれた垂木で構成されています。主要な柱の角は面取りが施され、構造に洗練された印象を与えています。四方すべてに備わった格子戸は、開放感を高める珍しい要素となっています。

歴史的には、白山神社は長寿寺の守護神社でした。創建年代は不明ですが、1287 年の文書に初めてその神社のことが記されています。仏教寺院の境内に神道の守護神を祀る慣習は、神道と仏教の融合が進む平安時代（794～1185 年）に一般的になりました。

【タイトル】 平松のウツクシマツ自生地/概要

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web

<簡体字>

美松山之美松

美松（学名：Pinus densiflora Sieb. et Zucc. f. umbraculifera Miyoshi）是日本赤松的天然地方品种，因多干丛生的秀丽树形而得名。尽管现今全球各地均有种植，但自然原生地只有日本湖南省美松山的南坡。这片原生松林及其生长环境已被指定为日本国家天然纪念物予以保护。沿着环形步道漫步，约 20 分钟即可探索一圈。为保护脆弱的幼苗和幼树，请切勿偏离步道或触碰任何植被。

美松的外观与普通日本赤松大相径庭。普通日本赤松多为单一笔直的主干，而作为变种的美松在距地面三米之内的低矮处分生出多个主干，形成如同展开扇面或伞面般的特殊形态。遗传分析表明，这种独特形态由当地赤松种群的单一隐性基因所致。

20 世纪 20 年代至今，受松材线虫病影响，该种群数量大幅锐减，从 1924 年的 450 株成树减至 2019 年仅剩 86 株。为此，当地政府已经发起美松保护行动，采取定期清理林下植被和开展监测，以促进自然更新。

美松原生地约占 1.9 公顷。这片狭小区域内的树木格外长寿，其中最古老的植株树龄介于 200 至 300 年。最大的树木高约 12.7 米，周长约 2.1 米。

<繁体字>

美松山之美松

美松（學名：Pinus densiflora Sieb. et Zucc. f. umbraculifera Miyoshi）是日本赤松的天然地方品種，因多幹叢生的秀麗樹形而得名。儘管現今全球各地均有種植，但其自然原生地只有日本湖南省美松山的南坡。該原生松樹群及其生長環境已被指定為受保護的日本國家天然紀念物。沿著環狀小徑漫步，約 20 分鐘即可探索一圈。為保護脆弱的幼苗和幼樹，請遊客切勿偏離步道或觸碰植被。

美松の外観與普通的日本赤松截然不同。一般赤松通常具有單一筆直的主幹；相對地，此變種在離地三公尺內的低矮處即分生出多個主幹，形成彷彿展開扇面或傘面的特殊形態。遺傳分析結果顯示，這種獨特形態是當地赤松種群中單一隱性基因所致。

自 1920 年代以來，受到松材線蟲病影響，該群落數量急遽減少：成樹從西元 1924 年的 450 棵銳減至西元 2019 年僅存 86 棵。對此，當地政府已經發起美松保護行動，相關措施包括定期清除林下植被並持續監測，以促進自然更新。

美松棲息地面積約為 1.9 公頃。在這片狹小區域內，樹木格外長壽，其中最古老的植株樹齡介於 200 至 300 年。最大的樹木高約 12.7 公尺，周長約 2.1 公尺。

＜日本語仮訳＞

平松のウツクシマツ自生地/概要

ウツクシマツ (*Pinus densiflora* Sieb et Zucc. form. *umbraculifera* Miyoshi) とは、自生する日本のアカマツの在来種で、その名は美しい多幹の姿に由来しています。現在では世界中で栽培されていますが、自生するものは湖南省の美松山の南斜面に限られています。この自生の松林とその生息地は、国の天然記念物に指定されています。周回路が整備されており、20 分ほどで敷地を回ることができます。繊細な苗木や幼木を保護するため、見学者は遊歩道から外れず、植物に触れず、何かを持ち出すことがないように求められています。

ウツクシマツの外観は、通常単幹で真っ直ぐに成長する日本アカマツとは大きく異なります。対照的に、この変種は、地面から 3 メートルほどの間の低い位置で複数の幹に分かれ、扇や傘を広げたような独特の形を生み出しています。遺伝子解析では、この独特の形状は、地元のアカマツ個体群に存在する単一の劣性遺伝子によるものであることが明らかとなっています。

1920 年代以降、この松林の個体数はマツ枯れ病によって激減し、1924 年に 450 本あった成木は、2019 年にはわずか 86 本にまで減少しました。これを受けて、地方自治体はこの松林を守るための保全活動を始めています。この取り組みでは、定期的な下草刈りや自然再生を促すためのモニタリングなどが行われています。

ウツクシマツの生息地は約 1.9 ヘクタールにわたり広がっています。この小さな区域内的のウツクシマツは非常に長寿で、最も古い個体は樹齢 200～300 年と推定されており、最大の樹木は、高さ約 12.7 メートル、幹周り約 2.1 メートルにも達します。

【タイトル】 三雲城跡/概要

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web

<簡体字>

三云城遗址

三云城始建于日本战国时代(1467-1568)，即足利幕府统治崩溃后近乎连年战乱的年代。在动荡的乱世中，各地大名为争夺霸权纷纷在领地内修筑要塞，这座位于琵琶湖南侧的山城便是其中之一。

如今，沿着已整备的徒步步道，可通往保有土垒、空壕和石墙等遗迹的城址。从起点停车场出发，徒步往返全程约需 45 分钟。

京都近郊的战略要塞

三云城始建于 1487 年，由近江国（今滋贺县）领主——势力强大的武家六角氏兴建。为防北岸的琵琶湖畔主城失陷时，首领无处退守，六角氏特建此城作为后备要塞。城堡的行政与维护事务交由其家臣三云氏负责，该城之名由此而来。

三云城俯瞰琵琶湖及其南岸的交通要道，是至关重要的监视哨点，士兵可在此瞭望敌军动向并发出通报。在战国时代，近江国地处日本中部腹地，是连接东西日本的核心交通枢纽，因此成为各方势力争夺最为激烈的战略要地之一。近江被称为通往皇都京都的“前门”，控制近江，被视为称霸全国的先决条件。

对战织田信长

1568 年，三云城登上霸权争夺的中心舞台。彼时，战国大名织田信长(1534-1582)为统一日本，发动了进军京都的战役。效忠足利幕府的六角氏族头领六角义贤(1521-1598)及其子拒不归降，并试图阻挡信长的攻势。但他们却在主城战败，被迫南撤，退入甲贺郡的深山之中，继续据守抗争。

六角氏头领以三云城为最终堡垒，并得到了三云氏及其盟友甲贺忍者的支援。甲贺忍者精

于游击战法，为联军递送关键情报，并持续袭扰信长大军。虽然甲贺的游击战术收效显著，六角氏一族也殊死坚守，但信长大军仍于 1574 年前后攻破三云城，六角氏势力就此覆灭。

三云城布局

三云城是典型的山城，其设计充分利用山地地形与森林掩护进行防御。城郭以简易的土垒和纵向壕沟（竖堀）为主，打造分散式防御要塞格局。整座城堡沿山脊分设五重主要郭区（曲轮），各自扼守一处要道，同时占据俯瞰周边的战略制高点。山间依然可见依山开凿的防御沟和深堑壕遗迹，这些设施主要用于牵制敌军行进。

主城郭规模宏大，足以容纳首领居所，并设有石砌水井，以备长期围困之需。城郭主体以土木结构为主，后期部分以石墙加固。正门采用结构复杂的箱形玄关（枅形门）设计，用于阻滞和围堵入侵者。这些先进的石构防御工事被认为是六角氏覆灭后的后期增筑。

〈繁体字〉

三雲城遺址

三雲城建於日本戰國時代（西元 1467—1568），即足利幕府統治崩潰後，近乎連年戰亂的亂世。在這段動盪時期，各地大名為了爭奪霸權，紛紛在領地內修築要塞，這座位於琵琶湖南側的山城便是其中之一。

如今，循著已整備的健行步道，可通往保有土壘、乾壕和石牆等遺跡的城址。從起點處的停車場出發，徒步往返全程約需 45 分鐘。

鄰近京都的戰略要塞

三雲城建於西元 1487 年，由近江國（今滋賀縣）的守護大名——勢力強大的武家六角氏興建。六角氏興建此城作為可退守的後備要塞，以備更北邊、琵琶湖畔的主城失陷之時。城堡的管理與維護交由家臣三雲氏負責，這也是三雲城名稱的由來。

三雲城俯瞰琵琶湖及其南岸的交通要道，是至關重要的監視哨點，守軍可在此瞭望敵軍動向並發出警報。戰國時代，近江國地處腹地中樞，是連接東西日本的核心交通樞紐，因此成為各方勢力爭奪最為激烈的戰略要地之一。掌控近江這道通往皇都京都的「前門」，乃

稱霸全國的先決條件。

對戰織田信長

西元 1568 年，隨著戰國大名織田信長（西元 1534－1582）為了統一日本，發動了進軍京都的戰役，三雲城被推向了爭霸戰的中心舞台。效忠足利幕府的六角氏頭領六角義賢（西元 1521－1598）及其子拒不歸降，並試圖阻擋信長的攻勢，但他們卻在主城戰敗，被迫向南撤退，隱匿在甲賀一帶的深山之中，繼續據守抗爭。

六角氏頭領選擇三雲城作為最後的堡壘，並得到了三雲氏及其盟友甲賀忍者的支持。這群以游擊戰術而聞名的忍者，一邊傳遞關鍵情報，一邊持續襲擾信長大軍。雖然六角氏頑強抵抗，甲賀的游擊戰術也相當奏效，但三雲城仍於西元 1574 年前後陷落於信長軍之手，六角氏勢力至此終結。

城郭佈局

三雲城是典型的山城，是依託山地地形與森林掩護建造的防禦要塞。城內運用簡易土壘和縱向壕溝（豎堀），打造分散式要塞格局。整座城堡沿山脊分設五個主要郭區（曲輪），各自扼守一處要道，並提供俯瞰周邊的戰略視野。山間依然可見依山開鑿的防禦溝和深掘壕遺蹟，這些設施主要用於牽制敵軍行進。

主城郭規模宏大，足以容納首領居所，並設有石砌水井，以備長期圍困之需。城郭主體以土木結構為主，隨後部分以石牆加固。正門採用精巧的箱形防禦入口（枳形門）設計，用於阻滯和圍堵入侵者。這些先進的石造防禦工事被認為是六角氏覆滅後增設而成。

<日本語仮訳>

三雲城跡/概要

三雲城は、日本の戦国時代（1467～1568）に築られました。足利幕府による支配の崩壊後、ほぼ絶え間なく争いが続いた時代です。この動乱の時代、守護大名たちは覇権を争い、全国の拠点に城砦を築きました。そのひとつが琵琶湖の南にあるこの山城です。

現在、ハイキングコースが整備されており、土塁、空堀、石垣などが残っている城の史跡へと続いています。ハイキングコースの所要時間は、登山口の駐車場から往復で約 45 分です。

京都近郊の戦略拠点

三雲城は1487年、近江国（現在の滋賀県）で強い勢力を持つ武将であった六角家によって築城されました。六角家は、さらに北方にある琵琶湖畔付近の本拠地が陥落した際、一族のリーダーたちが避難できる第二の城砦としてこの城を築きました。この城の管理と維持は、六角家の家臣であった三雲氏に委ねられ、城の名前は三雲氏に由来しています。

琵琶湖とその南岸の主要街道を見渡せるこの城は、兵士たちが敵軍の動きをいち早く察知し、警告を発することができる重要な監視拠点としても機能しました。戦国時代の近江国は、戦略的に最も重要で、激しく争われた領土のひとつでした。その重要性は、この地が日本の中心に位置し、東日本と西日本を結ぶ交通の要所としての役割を果たしていたことに由来します。都である京都への「玄関口」である近江を支配することは、国全体の支配への前提条件とされました。

織田信長に対する抵抗

三雲城が覇権争いの中心的な舞台となったのは、1568年、戦国大名である織田信長（1534～1582）が、天下統一の一環として京都の支配権を奪取する軍事作戦を開始したときでした。足利幕府に忠実であった六角家当主・六角義賢（1521～1598）とその息子は、信長に従わず、その進軍を阻もうとしました。しかし、彼らは本拠地で敗北し、南への退却を余儀なくされ、その後も甲賀山間部の奥地から抵抗を続けました。

六角家は、三雲一族とその同盟者である甲賀忍者の支援を受け、三雲城を最後の砦に選びました。ゲリラ戦の達人として知られる忍者たちは、重要な情報を提供し、信長軍に対して執拗な攻撃を仕掛けました。頑強な抵抗と甲賀の効果的なゲリラ戦術にも関わらず、三雲城は1574年頃に信長軍に攻略され、六角家の勢力は終焉を迎えました。

城砦の構成

三雲城は典型的な山城で、山の地形や森林を防御に活用できるように設計されました。三雲城は単純な土塁と竪堀を用いて、分散化された砦を築いています。城は尾根に沿って階層化された5つの主要な曲輪で構成され、それぞれが侵攻路を防御し、その地域における戦略的な視界を確保していました。敵の動きを制御するために山腹に掘られた防御溝や深い堀の跡は、現在も残っています。

主郭は領主の住居としては十分な広さがあり、長期的な包囲戦に備えた、石で縁取られた井戸がありました。主に土と木で築かれた砦でしたが、後に一部は石垣で補強され、正門には、洗練された石造りの枡形門が設けられました。これは敵を足止めし閉じ込めるために設計された場所です。これらの高度な石造りの要塞は、六角家が滅亡した後に追加されたものと考えられています。

【タイトル】 常楽寺/木造釈迦如来坐像

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web

<簡体字>

释迦如来坐像（常乐寺本堂）

这尊贴有金箔雕像刻画了历史上的佛陀——释迦如来，两腿交叠盘坐在莲花座上的形象。其右手举至胸前，掌心朝外，五指向上结施无畏印，代表消除恐惧。左手则置于膝上，掌心朝上，代表恩惠。

这尊雕像据传于 12 世纪制作，采用了名为“寄木造”的精密工艺：将多块桧木局部挖空并拼接，然后再进行雕刻。雕刻完成后，再于雕像表面涂漆并贴上金箔。有些部位的金箔已经脱落，露出了下层的黑漆。这尊雕像从双膝下缘至头顶的高度为 139.1 厘米。

佛像使用的雕刻手法充分体现了镰仓时代富有的典型跃动感，这种艺术风格的演变反映了新兴武士阶级所偏好的力量与权势的展现。整尊雕像处处体现了这种大胆的风格：面部以深刻的浮雕刻出分明的轮廓；胸部肌肉发达结实。袈裟上锐利的褶皱营造出强烈的立体感和体量感，而大脚趾指甲等精心雕刻的微小细节则让雕像显得栩栩如生。这尊雕像已被指定为日本重要文化财产。

<繁体字>

釋迦如來坐像（常樂寺本堂）

這尊貼有金箔的雕像刻畫了歷史上的佛陀——釋迦如來兩腿交疊盤坐在蓮花座上的形象。其右手舉至胸前，掌心朝外，五指向上結施無畏印，代表消除恐懼。左手則置於膝上，掌心朝上，象徵施予。

這尊雕像據傳於 12 世紀製作，採用了名為「寄木造」的精密工藝：將多塊檜木部分挖空並拼接，再進行雕刻。雕成後，再在雕像表面塗漆並貼上金箔。有些部分的金箔已磨損而剝落，露出下層的黑漆。這尊雕像從雙膝下緣至頭頂的高度為 139.1 公分。

佛像使用的雕刻手法呈現鎌倉時代典型的躍動感；這種藝術風格的演變，反映了新興武士

階級推崇的力量與權勢的展現。整尊雕像處處體現這種大膽強烈的風格：臉部以深刻的浮雕刻出鮮明五官輪廓；胸部肌肉線條結實有力。袈裟上的褶線銳利分明，營造出強烈的立體感和份量感，而腳大拇指指甲等精心雕刻的微小細節，則賦予雕像栩栩如生的寫實感。這尊佛像已被指定為日本重要文化財產。

＜日本語仮訳＞

常楽寺/木造釈迦如来坐像

この金箔貼りの像は、蓮華座上に結跏趺坐する歴史上の仏陀、釈迦如来の姿を表しています。右手のひらを胸の高さで外に向け、指を上方に伸ばしており、恐怖の払拭を表す印相を結んでいます。また、左手を膝の上に置き、手のひらを上方に向けており、恩恵の施しを象徴しています。

12 世紀に作られたと考えられているこの像は、寄木造と呼ばれる洗練された技法で作られており、複数の檜材の塊の一部をくり抜き、組み合わせたうえで彫刻しています。彫刻が完成した後、像に漆を塗り、金箔を施しています。一部では金箔が剥がれ、黒い漆の下地が見える箇所もあります。この像の膝の付け根から頭頂までの高さは 139.1 センチメートルです。

この彫刻は、鎌倉時代の躍動感の典型であり、この芸術様式は、新たに台頭した武士階級が好んだ強さと力の投影を反映して発展したものです。この大胆な作風は、深い浮き彫りを施した力強い顔立ちや引き締まった筋肉質の胸部に表れており、像全体にその特徴がはっきりと示されています。衣の鋭い襷は印象的な深みとボリュームを生み出し、足の親指の爪の丁寧な彫刻などの細部は、像に生き生きとした写実性を与えています。この像は重要文化財に指定されています。

【タイトル】 常楽寺/木造二十八部衆立像

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web

<簡体字>

二十八部众立像和风神雷神像（常乐寺本堂）

在常乐寺秘藏的本尊佛像——千手观音像（慈悲之菩萨观世音的化身）两侧，安放着的原为 30 尊木雕造像（现已不齐全）。这些雕像包含二十八部众，即誓愿护持菩萨救度所有信众的二十八位强大佛教护法神。每位部众各司其职，分别专注慈爱、智慧、力量和防御等不同精神职能。二十八部众立像旁还安放风神和雷神像，代表自然的原始之力。部分雕像上的铭文表明，这组雕像由至少两位雕刻师在 1308 年至 1314 年间合力雕刻而成。30 尊雕像中的 28 尊被整体指定为日本重要文化财产。

每尊雕像均由桧木雕刻而成，采用了寄木造工艺。这种创新工艺兴起于 11 世纪，取代了此前的一木造工艺。寄木造的技法是将多块中空木材拼接成雕像。该工艺具有多项优势，既能抑制大块实木因干燥不均而产生的开裂和变形，又能让多位雕刻师同时雕刻不同的部件。

许多雕像呈现肌肉隆起、神情威猛的形象。他们手持具有象征意义的武器，例如斩断无知的剑、抵御邪祟的戟和击碎虚妄的金刚杵。所有雕像均採鑲嵌水晶為眼的技法，使眼神更為攝人。

这组雕像中缺失风神像及二十八部众立像的一尊，两者均遭盗窃，至今仍未寻回。

<繁体字>

二十八部眾立像和風神雷神像（常樂寺本堂）

在常樂寺秘藏的本尊佛像——千手觀音像（慈悲的菩薩「觀音」之化身）兩側，排列著原為 30 尊的一組木雕像，現已不齊全。這些雕像包含二十八部眾，即二十八位佛教護法神，誓願護持菩薩，救度所有信眾。他們各司其職，專注不同的精神職能，涵蓋慈愛與智慧、力量與防護等不同面向。二十八部眾立像旁還安放著風神和雷神像，代表自然的原始之力。部分雕像上的銘文顯示，這組雕像由至少兩位雕刻師在西元 1308 年至西元 1314 年間合力

雕刻而成。30 尊雕像中的 28 尊被整體指定為日本重要文化財產。

每尊雕像均採用檜木，以寄木造工藝雕刻而成。這種創新工藝興起於 11 世紀，作為早前一木造工藝的替代方案。寄木造工藝是將多塊挖空的木料組裝成雕像，這項技法有多項優點：可抑制大型實木因乾燥不均造成的開裂與翹曲變形，並讓不同雕刻師得以同時在各部位分工製作。

許多雕像呈現肌肉線條起伏分明、神情威猛的形象。他們緊握具有象徵意義的武器，例如斬斷無知的劍、抵禦邪祟的戟和粉碎虛妄的金剛杵。所有雕像皆採水晶鑲嵌眼的技法，使眼神更為攝人。

這組雕像中缺失風神像與二十八部眾的一尊，兩者均遭盜竊，至今仍未尋回。

＜日本語仮訳＞

常楽寺/木造二十八部衆立像

常楽寺の本尊（秘仏）である千手観音像の両側には、30 体の木彫像（一部欠落）が並んでいます。千手観音は観世音菩薩の化身です。これらの像には、すべての信者の救済を菩薩と共に助ける、仏教の強力な守護者である二十八部衆が含まれており、それぞれの守護者は、慈愛や知恵から強さや防御に至るまで、異なる精神的な役割を担っています。二十八部衆とともに、自然の根源的な力を象徴する風神像と雷神像が配置されています。一部の彫像に刻まれた碑文では、この一揃いの仏像は 1308 年から 1314 年の間に少なくとも二人の仏師によって制作されたことを示唆しています。30 体から成る一連の像のうち 28 体は、重要文化財に指定されています。

それぞれの像は、寄木造の技法を用いて檜材から彫刻されたものです。この革新的な技法は 11 世紀に登場し、それまでの一木造に取って代わるものとなりました。寄木造は、複数の木材をくり抜いて組み立てる工程を経ます。この技法にはいくつかの利点がありました。すなわち、大きな無垢材の乾燥ムラによるひび割れや反りを軽減することや、複数の彫刻家が同時に別々の部位を制作できることなどが挙げられます。

多くの像が隆起した筋肉や陰しい表情で表現され、その守護の役割を体現しています。こうした像の手には、無知を切り裂く剣、悪から身を守る鉾、虚偽を打ち砕く金剛杵など、象徴的な武器が握られています。また、すべての像には水晶の象眼が施されており、その視線の強さを劇的に際立たせています。

この一揃いの像の中で欠落しているものは、風神像と二十八部衆のうちの一体です。どちらも盗難の

被害に遭い、未だ行方不明です。

【タイトル】 長壽寺/木造阿弥陀如来坐像

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web

<簡体字>

阿弥陀如来坐像（长寿寺本堂）

这尊贴有金箔的木制雕像高 142.5 厘米，刻画了无量光无量寿佛——阿弥陀如来结跏趺坐、手结禅定印的形象。雕像安置坐在莲花座上，背后有双重光背，象征着佛陀的永恒光明和觉悟。根据风格判断，这尊雕像可能于 12 世纪末制作。其莲台和光背均被认为是原件，这在同一时期的雕像中十分罕见。这尊雕像已被指定为日本重要文化财产。

从风格上看，这尊雕像明显有别于 12 世纪早期所偏好的柔和细腻，其细节处理更加大胆，采用深刻浮雕技法来雕刻线条。例如，明显地肌肉隆起的胸膛和袈裟上的锐利褶皱，营造出强烈的立体感和体量感。从结构上看，这尊雕像采用了寄木造工艺，由多块部分挖空的桧木雕刻和拼接而成。这种技法可抑制大块实木经常因干燥不均或内部应力所致的严重开裂和变形。

阿弥陀如来雕像与历史上的佛陀——释迦如来的坐像安放在寺院佛坛两侧，而本尊地藏菩萨则秘藏于紧闭的佛龛门后。地藏菩萨被尊为孩童和亡灵的慈悲护佑者。阿弥陀如来雕像位于左侧，释迦如来雕像则位于右侧。

<繁体字>

阿彌陀如來坐像（長壽寺本堂）

這尊貼有金箔的木造佛像高 142.5 公分，刻畫了無量光無量壽佛——阿彌陀如來呈結跏趺坐、手結禪定印的形象。雕像安置於蓮花座上，背後有雙重光背，象徵著佛陀的永恆光明和覺悟。根據風格判斷，這尊雕像可能於 12 世紀末製作。其蓮台和光背均被認為是原件，以此年代的佛像而言十分罕見。這尊佛像已被指定為日本重要文化財產。

從風格上看，這尊雕像明顯有別於 12 世紀早期追求柔和細膩的雕像風格，其細節更顯大膽鮮明，以深刻浮雕的技法來雕刻線條。例如，明顯地肌肉隆起的胸膛和袈裟上稜角分明的褶皺，皆營造出強烈的立體感和份量感。從結構上看，這尊雕像採用了寄木造工藝，以

多塊部分挖空の檜木組装而成。這種做法可抑制大型實木常因乾燥不均與內部應力，導致嚴重開裂與翹曲變形。

阿彌陀如來雕像與歷史上的佛陀——釋迦如來的坐像安放在寺院佛壇兩側，而本尊地藏菩薩則秘藏於緊閉的佛龕門後。地藏菩薩被尊為孩童和亡靈的慈悲護佑者。阿彌陀如來雕像位於左側，釋迦如來雕像則位於右側。

＜日本語仮訳＞

長壽寺/木造阿彌陀如來坐像

この高さ 142.5 センチメートルの金箔を施した木像は、無限の光と生命の仏陀、阿彌陀如來を表しており、結跏趺坐で、両手を合わせて瞑想の印相を結んでいます。蓮華座に安置され、仏陀の永遠の光明と悟りを象徴する二重の光背が背後に配されています。作風から判断すると、この像は 11 世紀後半の作とされています。台座と光背は共にオリジナルであると考えられており、この時代の像としては珍しいものです。この像は重要文化財に指定されています。

彫刻様式の観点から、彫像は、柔らかで繊細な表情が好まれた 12 世紀初期の彫像とは明らかに異なる特徴を示しています。この作品では、細部をより大胆で、深い浮き彫りの線で際立たせています。たとえば、隆起した筋肉質の胸部や鋭く刻まれた衣の襞は、深みと立体感を強く印象付けています。構造的には、複数の檜材を部分的にくり抜いた状態で彫刻され、寄木造の技法を用いて組み立てられています。この技法により、乾燥ムラや内部応力が原因で大きな無垢材の塊にしばしば発生する深刻な割れや反りが緩和されます。

阿彌陀仏と歴史上の仏陀である釈迦如來坐像が祭壇の両脇に鎮座しており、本尊である地藏菩薩はその祭壇の密室に隠されています。地藏菩薩は、子宝と来世の魂を守る慈悲深い存在として崇敬されており、阿彌陀像は左側に、釈迦は右側に配置されています。

【タイトル】 長壽寺/丈六阿弥陀如来坐像

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web

<簡体字>

阿弥陀如来坐像（长寿寺收藏库）

这尊雕像安放在本堂后的收藏库内，高 285.5 厘米，刻画了无量光无量寿佛——阿弥陀如来。这尊贴有金箔的木制雕像结跏趺坐，双手放于膝上结禅定印。雕像背后有双重光背，象征着佛陀的永恒光明和觉悟。根据风格判断，这尊雕像可能于镰仓时代(1185–1333)制作，现已被指定为日本重要文化财产。

雕刻手法体现了 12 世纪末贵族阶层喜爱的精致典雅风格。内敛而沉稳的五官传达出入定般的宁静与内在安定。这尊雕像面部圆润，嘴巴小巧精致，眉毛修长且呈拱形，下方的细长双眼微微睁开。衣褶线条同样细腻含蓄，呈现出流畅优雅的曲线。

从结构上看，这尊雕像采用了寄木造工艺。这种创新工艺兴起于 11 世纪，取代了早期的一木造工艺。寄木造的技法是将多块中空木材拼接成雕像。这种工艺具有多项优势，不仅能抑制大块实木因干燥不均而产生的开裂和变形，增强雕像的结构稳定性，还能减轻重量，以便雕刻和运输。

<繁体字>

阿彌陀如來坐像（長壽寺收藏庫）

這尊雕像安放在本堂後的收藏庫內，高 285.5 公分，刻畫了無量光無量壽佛——阿彌陀如來。這尊貼有金箔的木造佛像結跏趺坐，雙手放於膝上結禪定印。雕像背後有雙重光背，象徵著佛陀的永恆光明和覺悟。根據風格判斷，這尊雕像可能於鎌倉時代（西元 1185–1333）製作，現已被指定為日本重要文化財產。

其雕刻手法體現了 12 世紀末貴族階層喜愛的精緻典雅風格。內斂而沉穩的五官，傳遞出入定般的靜謐與內在安定。佛像圓潤的臉龐上，嘴巴小巧精緻，眉毛修長且呈拱形，下方的細長雙眼微微睜開。衣褶線條同樣細緻含蓄，呈現出流暢優雅的曲線。

從結構上看，這尊雕像採用了寄木造工藝。這種創新工藝興起於 11 世紀，作為早前一木造工藝的替代方案。匠人們會將多塊挖空的木料組裝成雕像，這項技法有多項優點：不僅能抑制大型實木因乾燥不均造成的開裂與翹曲變形，還能增強雕像的結構穩定性並減輕重量，使其更便於雕刻與運輸。

＜日本語仮訳＞

長壽寺/丈六阿弥陀如来坐像

本堂裏の収蔵庫に安置されているこの高さ 285.5 センチメートルの像は、無量光・無量寿の仏である阿弥陀如来を表しています。この像は、金箔を施した木製であり、結跏趺坐で、両手を膝の上に置いて瞑想の印相を結んでいます。仏陀の永遠の光明と悟りを象徴する二重の光背が背後に配されています。作風から判断すると、鎌倉時代（1185～1333 年）の作と考えられ、重要文化財に指定されています。

この像は、12 世紀末期の貴族たちが好んだ洗練された優雅さを体現しています。思慮深く落ち着いた顔立ちをしており、瞑想的な静けさと精神的穏やかさが伝わってきます。丸みを帯びた顔には、小さく繊細に掘られた口と、アーチ型の長い眉の下にある、細くかろうじて開いた目が特徴的です。同様の繊細さは、優雅に流れるような曲線を描く衣服にも反映されています。

構造的には、この像は寄木造の技法を用いて作られています。この革新的な手法は、古い一木造の技法に代わるものとして 11 世紀に登場しました。寄木造は、複数の木材をくり抜き、像を組み立てる工程を経ます。この技法には、大きな無垢材の乾燥ムラによるひび割れや反りを軽減し、像の構造的安定性を高め、重量を軽くして彫刻や運搬を容易にするといった、いくつかの利点がありました。

【タイトル】 長壽寺/二天王立像

【想定媒体】 Web

＜簡体字＞

二天王立像（长寿寺本堂）

寺院本堂の佛壇上、阿彌陀如来和釋迦如来雕像の兩側安放着多聞天王和增長天王雕像。二者均位居四天王之列，四天王分別鎮守東南西北方位。当天王以成對形式展示時，合称为“二天”。兩尊雕像被認為于平安時代(794–1185)制作。

守護北方的多聞天王位于釋迦如来的右前方，他身披鎧甲，右手持戟，左手托着一座象征佛教精神財富的微型寶塔。单独供奉時，多聞天王被称作毗沙門天。

守護南方的增長天王位于阿彌陀如来的左前方。和多聞天王一樣，增長天王也身披鎧甲，手持戰戟。其右手緊握三股金剛杵，該法器象征佛法堅不可摧，可降伏邪惡勢力。

＜繁体字＞

二天王立像（長壽寺本堂）

在寺院本堂の佛壇上，阿彌陀如來和釋迦如來雕像の兩側安放著多聞天王和增長天王雕像。二者均位居「四天王」之列；四天王各自鎮守東西南北四個方位。當天王以成對形式展示時，合稱為「二天」。這兩尊雕像被認為可追溯至平安時代（西元 794—1185）。

守護北方的多聞天王位於釋迦如來的右前方，他身披鎧甲，右手持戟，左手托舉象徵佛教精神財富的微型寶塔。單獨供奉時，多聞天王被稱為毘沙門天。

守護南方的增長天王位於阿彌陀如來的左前方。和多聞天王一樣，增長天王也身披鎧甲並手持長戟。其右手緊握三股金剛杵，此法器象徵佛法堅不可摧，可降伏邪惡勢力。

＜日本語仮訳＞

長壽寺/二天王立像

寺院の本堂には、阿弥陀如来と釈迦如来の両脇に、多聞天と増長天の彫刻が安置されています。この二人は四天王のうちの一尊で、それぞれが東西南北の各方位を守護しています。対で安置される場合は、二天と呼ばれています。これらの像は平安時代（794～1185年）の作とされています。

北方を守る多聞天は、釈迦如来の右前方に安置されています。多聞天は甲冑を身にまとい、右手には戟を、左手には仏教の豊かな精神を象徴する小さな仏塔を持っています。多聞天を単独で祀る場合は、毘沙門天と呼ばれています。

南方を守る増長天は、阿弥陀如来の左前に安置されています。多聞天と同様に、増長天も甲冑を身につけ、戟を手に入しています。右手には三叉の金剛杵を握っています。この金剛杵は、仏法の不滅性と邪を制する力を象徴する祭具です。

【タイトル】 長壽寺/木造釈迦如来坐像

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web

<簡体字>

释迦如来坐像（长寿寺本堂）

这尊贴有金箔的雕像高 180 厘米，刻画了历史上的佛陀——释迦如来结跏趺坐的形象。雕像的右臂举止胸前，掌心朝外，五指向上结施无畏印，代表消除恐惧。左手向外伸出，掌心朝前，五指向下，结与愿印，象征恩惠。这尊雕像安放在莲花座上，背后的光背象征着佛陀的觉悟与智慧。根据风格判断，这尊雕像可能于 12 世纪制作，现已被指定为日本重要文化财产。

这尊雕像展现出贵族优雅的气质，这一审美风格贯穿了平安时代后期的艺术。佛像脸庞圆润，嘴巴小巧，细长的眼睛微微睁开，这些柔和的面部特征体现了冥想时的宁静。这种精致感亦延伸至雕像的全身及衣饰。胸部没有镰仓时代(1185-1333)雕像常见的肌肉线条起伏，袈裟轻薄，褶皱呈现优雅流畅的曲线。包括细密螺发在内的每一处细节都体现了平安宫廷所喜爱的含蓄典雅风格。

从结构上看，这尊雕像采用了寄木造工艺。这种创新工艺兴起于 11 世纪，取代了早期的一木造工艺。寄木造的技法是将多块中空木材拼接成雕像。这种工艺具有多项优势，不仅能抑制大块实木因干燥不均而产生的开裂和变形，增强雕像的结构稳定性，还能减轻重量，以便雕刻和运输。

释迦如来雕像和无量光寿佛（阿弥陀如来）坐像安放于寺院佛坛两侧，坛中供奉着不轻易示人的本尊地藏菩萨。地藏菩萨被尊视为孩童和亡灵的慈悲护佑者。释迦如来雕像位于右侧，阿弥陀如来雕像则位于左侧。

<繁体字>

釋迦如來坐像（長壽寺本堂）

這尊貼有金箔的雕像高 180 公分，刻畫了歷史上的佛陀——釋迦如來結跏趺坐的形象。其右臂舉至胸前，掌心朝外，五指向上結施無畏印，代表消除恐懼。左手向外伸出，掌心朝

前，五指伸直並指向下方，此手印稱為結願印，象徵施予。這尊雕像安放在蓮花座上，背後的光背象徵佛陀的覺悟與智慧。根據風格判斷，這尊雕像可能於 12 世紀製作，已被指定為日本重要文化財產。

這尊雕像展現出貴族優雅的氣質，這一審美風格貫穿了平安時代後期的藝術。佛像臉龐圓潤，嘴巴小巧，細長的眼睛微微睜開，這些柔和的臉部特徵體現了冥想時的寧靜。這種精緻感亦延伸至全身及衣飾。胸部不見鎌倉時代（西元 1185—1333）雕像常見的肌肉線條起伏，袈裟輕薄，褶皺呈現優雅流暢的曲線。每一處細節，包括細密螺髮，都體現平安宮廷喜愛的含蓄典雅風格。

從結構上看，這尊雕像採用了寄木造工藝。這種創新工藝興起於 11 世紀，作為早前一木造工藝的替代方案。匠人們會將多塊挖空的木料組裝成雕像，這項技法有多項優點：不僅能抑制大型實木因乾燥不均造成的開裂與翹曲變形，還能增強雕像的結構完整性並減輕重量，使其更便於雕刻與運輸。

釋迦如來雕像和無量光壽佛（阿彌陀如來）坐像安放於寺院佛壇兩側，壇內供奉著秘藏的本尊地藏菩薩像。地藏菩薩被尊為孩童和亡靈的慈悲護佑者。釋迦如來雕像位於右側，阿彌陀如來雕像則位於左側。

＜日本語仮訳＞

長壽寺/木造釈迦如来坐像

高さ 180 センチメートルの金箔を施したこの像は、歴史上の仏陀である釈迦如来が結跏趺坐で坐している姿を表しています。右腕を胸の高さまで上げ、手のひらを外に向け、指を上方に伸ばしており、恐怖の払拭を表す印相を結んでいます。また、左手は外側に差し出し、手のひらを前に向け、指を伸ばして下を指しています。このポーズは与願印として知られ、福德や加護を与えることを象徴しています。本像は蓮華座に安置され、仏陀の悟りと知恵を示す光背を帯びています。作風から判断すると、12 世紀の作と考えられており、重要文化財に指定されています。

その姿は、平安時代後期の美術に広く見られる貴族的な優美さを体現しています。穏やかに丸みを帯びたフォルム、小さな口、細くかろうじて開いている目など、柔らかな表情によって、瞑想的な落ち着きを表現しています。この繊細さは、像の身体や衣服全体にまで及んでいます。胸部には、鎌倉時代（1185～1333 年）の彫像に見られるような筋肉質な輪郭はなく、衣は薄く、襞は優美で流れるような曲線を描いています。また、小さくタイトな巻き毛など、あらゆる細部にまで、平安宮廷が好んだ繊細な優雅さが反映されています。

構造的には、この像は寄木造の技法を用いて作られています。この革新的な技法は、古い一木造の技法に代わるものとして 11 世紀に登場しました。木材を何枚もくり抜いて像を組み立てる手法です。この技法には、大きな無垢材の乾燥ムラによるひび割れや反りを軽減し、像の構造的安定性を高め、重量を軽くして彫刻や運搬を容易にするといった、いくつかの利点がありました。

本尊（秘仏）である地蔵菩薩が安置されている本堂の祭壇の両脇には、釈迦如来坐像と無量光・無量寿の仏である阿弥陀如来坐像が安置されています。地蔵菩薩は、子宝と来世の魂を守る慈悲深い存在として崇敬されており、釈迦如来像は右側に、阿弥陀像は左側に配置されています。

【タイトル】 西應寺/庭園

【想定媒体】 Web

<簡体字>**西应寺的庭园**

西应寺内花木繁盛、四季景致优美，常被称作“花之寺”。从正门延伸出的小径环绕本堂，途经寺院后方的山坡，悠闲漫步一周约需 30 分钟。

春季，寺内庭园因在春、夏、秋三季开花的小雀花而闻名。枝条修长如弓并长满粉色花朵，从正门延伸的石阶上方形成优美的繁花隧道。初夏，园内开满五颜六色的绣球花。秋季，花园里盛开着深蓝色的龙胆花，以及日本原生种的野凤仙花，其花形纤细，宛如兰花。

寺院以枯山水庭园为中心景观，巧妙地将周围的群山与森林作为借景融入其中。象征群山的大型土丘分列在枯瀑布两侧，瀑布之下是一条枯与汇入狭长枯池的枯溪流。错落的石桥与踏石穿梭于写意水景之上，一条小径沿山坡蜿蜒攀升，通向静谧的观景台。此处是热门的拍照地点，尤以绚丽的秋季红叶为甚。步道途经一块几米高的巨石后方，最后绕回本堂前。

参观须知与行为规范

为了维护寺内庭园的美景，确保所有人都能享受愉快的体验，敬请游客遵守以下指引：

- 保护植物：请沿着既定步道行走，并请勿触碰任何植物。
- 注意行走路线：部分路段的步道较为狭窄，请相互礼让，尤其是在红叶观赏旺季。
- 摄影礼仪：欢迎拍摄相片，但请顾及其他游客。拍摄风景时请勿堵住步道或妨碍他人通行。

<繁体字>**西應寺境內**

西應寺內栽植各種植物，四時景致如畫，素有「花之寺」的美譽。從正門延伸出的小徑環

繞本堂，途經寺院後方的山坡，悠閒漫步寺內一周約需 30 分鐘。

春季，寺院境內以小雀花聞名，其花期橫跨春夏秋三季，枝條修長如弓並長滿粉色花朵，從正門延伸的石階上方交織成一條如畫的花之隧道。初夏，寺內開滿五顏六色的繡球花。秋季，深藍色的龍膽花盛開，還有日本原生種的野鳳仙花（學名：Impatiens textori），一種宛如蘭花般纖巧的花朵。

西應寺的中心是一座枯山水庭園，巧妙地將鄰近的山林景色納入庭園構景。大型的假山（築山）象徵山巒，分列於枯瀑布與枯溪流兩側，枯溪流一路延展，匯入一座狹長的枯池之中。錯落有致的石橋與踏腳石橫跨於象徵性水景之上，步道小徑沿山坡蜿蜒而上，通向靜謐的觀景台，從此處可俯瞰整座庭園。此處是熱門的拍照地點，尤以絢麗的秋季紅葉為甚。步道繞過一座數公尺高的巨石後方，最終回到本堂前方。

參觀須知與行為規範

為了維護寺院境內美景，確保所有人都能享有愉快的參訪體驗，請遊客遵守以下指引：

- 保護植物：請沿著既定步道行走，並請勿觸碰任何植物。
- 留意步道：步道的部分路段較為狹窄。請相互禮讓，尤其在賞楓旺季期間。
- 攝影禮儀：本寺歡迎拍攝照片，但請顧及其他遊客。拍攝風景時請勿堵住步道或妨礙他人通行。

<日本語仮訳>

西應寺/庭園

西應寺は、境内の植栽が四季折々に美しいことから、しばしば「花の寺」と呼ばれています。正門から続く道は本堂の周りをぐるりと巡り、寺院の裏山の一部を通ります。境内は 30 分ほどで、ゆったりと一周できます。

春には、春、夏、秋に咲きほころぶさまざまな雲南萩が有名で、長くアーチ状に伸びた枝にピンク色の花をたくさん咲かせ、正門から続く石段の上に絵のような花のトンネルを形づくりま。初夏には、色とりどりのアジサイの花が境内を埋め尽くします。秋になると、深い青のリンドウや、ツリフネソウの在来種のランのような繊細な花で庭園が輝きます。

境内の中心には、隣接する山や森を借景として取り入れた枯山水庭園があります。山を表す大きな築山が、枯滝や細長い枯池へと注ぐ枯流れの両側を囲んでいます。段差を付けて配置された石橋や

飛び石が水景の上を渡る道筋を作り、丘の斜面を取り巻くように登る小道は、のどかな展望地点へと続いています。特に秋の鮮やかな紅葉の撮影に人気のスポットとなっています。小道は高さ数メートルの巨大な岩の背後を通り、本堂前へ戻って終わります。

保存と行動規範

境内の美しさを保ち、参拝者の皆様が気持ちよくお参りできるよう、参拝者の方々には以下のガイドラインをお守りいただきます：

- 植物を守るために：決められた道を歩き、植物に触れないようにしてください。
- 通り道にご注意ください：散歩道は場所によって狭くなっています。特に混雑する紅葉シーズンには、互いに譲り合ってお進みください。
- 写真撮影のマナー：自由に写真撮影をしていただけますが、ほかの参拝者へのご配慮をお願いします。風景を撮影する際は、道をふさいだり進行の妨げにならないようご注意ください。

【タイトル】西應寺/写經体験

【想定媒体】Web

<簡体字>

西应寺的抄经体验

西应寺是一座以优美庭园闻名的古刹，欢迎大众前来体验抄经。在抄经体验中，参加者将临摹西应寺所属宗派——净土真宗的经文或教义节选内容。除了需预约外，无需任何特别准备，也不需要日语基础。寺院会提供书写工具，参加者只需静下心来平稳运笔。

工作人员引导访客前往寺院的书斋，这是一处可欣赏静谧枯山水庭园美景的宁静空间。在书桌前入座后，参加者将获发毛笔与墨汁，或软笔，以及两张纸：一张空白，另一张印有经文。将白纸放在印有经文的纸上，即可开始仔细逐字临摹。虽然看似简单，但专注于临摹每个笔画能洗涤心灵，平静心绪，就像冥想一样。耳边只剩下毛笔轻柔划过纸面的声音和庭园的自然之音。

抄经结束后，参加者将前往本堂，将作品作为供品献给寺内供奉的无量光寿佛。此外，住持可能会用日语讲解所临摹词句的含义。供奉仪式结束后，住持会在抄经纸上题写寺名，然后交还给参加者带回家。

如需预约，可直接联系[西应寺](#)（使用日语交流），或通过[Jalan](#)等在线活动预约网站进行预约。预约时，参加者可同时大口选择在抄经体验后前往附近的客殿享用抹茶和日式甜点。

<繁体字>

西應寺的抄經體驗

西應寺是以優美庭園聞名的古刹，歡迎大眾前來體驗抄經。在抄經體驗中，參加者將臨摹西應寺所屬宗派——淨土真宗特有的經文或教義節選內容。參與前除了預約以外，不需要做任何特別的準備，也無需具備日語基礎。寺方會提供筆墨工具，參加者只需靜下心來平穩運筆。

工作人員會引導參加者前往寺內的書齋；此處環境清幽，可眺望寺院靜謐的枯山水庭園。在書桌前入座後，參加者將獲發毛筆和墨水，或是軟筆，以及兩張紙：一張空白，另一張印有經文。將白紙疊放在印有經文的紙上，即可開始仔細逐字臨摹。雖然看似簡單，但專注於每一筆觸的過程中，可以洗滌心靈並平靜思緒，就像冥想一樣。耳邊只剩下毛筆輕柔劃過紙面的聲音，以及庭園的自然之聲。

抄寫完成後，參加者將前往本堂，將所抄經文作為奉納品，獻給寺內供奉的無量光壽佛。此外，住持可能會用日語講解講解所臨摹詞句的含義。供奉結束後，住持會在抄經紙上題寫寺名，然後交還給參加者帶回家。

如需預約，可直接聯絡[西應寺](#)（以日語洽詢），或透過 [Jalan](#) 等線上活動預約網站辦理。預約時，參加者可選擇在抄經體驗後，前往附近的客殿享用抹茶和日式甜點。

<日本語仮訳>

西應寺/写経体験

西應寺は美しい境内で知られる古刹、ぜひ写経を体験しましょう。この写経体験では、この寺が属する浄土真宗特有の経典や教えの抜粋を、なぞり書きます。予約は必須ですが、その他の特別な準備や日本語の知識は必要ありません。筆記用具はすべて用意されています。あとは参加者の皆様に、心を静め、手を落ち着かせることに集中していただくだけです。

参加者は、寺院の穏やかな枯山水庭園を眺める、静寂な書院に案内されます。用意された机のうちの一席に着くと、参加者は筆と墨、または筆ペンと、白紙の用紙とお手本となる印刷された用紙の2枚が渡されます。お手本が印刷された用紙の上に白紙を置き、お手本の漢字を一字ずつ丁寧に書き写していきます。一見すると簡単に思えますが、一筆一筆に注意深く集中することで、心がリフレッシュされ、落ち着き、瞑想に似た状態になります。聞こえるのは、筆の柔らかな音と庭の周囲の音だけです。

写経が終わると、参加者は本堂に移動し、無量光・無量寿の仏である本尊への供養として写経を奉納します。奉納には、住職が写経の語句の意味について説明する時間（日本語で行われます）が含まれることもあります。奉納が終わると、住職は写経に西應寺と記し、参加者が持ち帰れるよう返却します。

予約は西應寺に直接連絡するか、じゃらんなどのオンライン予約サイトを通して行うことができます。予約の際参加者は、写経体験の後に近くの客殿で提供される抹茶と和菓子が付いてくるオプションを選ぶこともできます。

【タイトル】 立志神社/立志神社にまつわれている神様たち

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web

<簡体字>

立志神社所奉之神

国之常立神

根据 8 世纪《古事记》记载，国之常立神是继五柱别天津神之后最先诞生的神明。人们将这位原初之神奉为地上世界根基的开创者，其功业为创世神伊邪那岐和伊邪那美缔造日本列岛奠定了基础。国之常立神被尊为大地之源、国家安泰的守护神和福运昌隆的赐予者，是立志神社的主神。

多贺大神

多贺大神象征创世神伊邪那岐与伊邪那美。相传，他们是天地初分后最早诞生的其中二位神祇。为缔造日本列岛，他们立于天之浮桥，以天沼矛搅动原初之海。奉祀多贺大神可祈愿姻缘圆满、子孙繁盛。

热田大神

热田大神是以草薙神剑为神体的太阳神天照大御神。这柄传奇之剑是代表天皇神权的三大御宝之一，另外两件分别是八咫镜与八尺琼勾玉。据传，奉祀热田大神可获赐勇气、长寿，并远离厄灾。

八幡大神

八幡大神是第十五代应神天皇(201-310)的神格化灵体。相传，应神天皇尚在母腹之中时，便曾庇佑母亲的军队平定朝鲜半岛的古代诸国。因此，八幡大神被尊为战神与日本守护神。

惠比寿大神

惠比寿大神常以肩扛钓竿、手抱鲷鱼的形象出现，与海洋有着深厚的渊源。惠比寿大神为创世神伊邪那岐与伊邪那美所生，曾被置于芦苇船中，漂流海上。最终，他被海浪冲回岸上，安然无恙。因此，渔民将其奉为平安出海和渔获丰饶之神。惠比寿大神能够赐予生意兴隆、福运喜乐等福泽。

天照大御神

天照大御神是太阳神、皇室的祖先神，也是日本民众的总氏神与守护神，护佑社稷安宁与家宅平安，并以光辉普照世间，将五谷丰登的神恩赐予万民。

金比罗大神

金比罗大神亦有“大物主神”的别称。根据 8 世纪《日本书纪》记载，这位神祇为生命、自然与土地等世间万物奠定根基，引导世人走向和平与幸福，赐予病愈之佑，并保佑航海者平安。

爱宕大神

爱宕大神司掌火焰，是创世神伊邪那岐与伊邪那美最后的孩子。相传，他伴烈火降生，致使母亲殒命，父亲因此将其斩首。爱宕大神的鲜血与肉身化作多位新神，分别象征山峦、火山与雷电等各类自然力量。人们将爱宕大神奉为铁匠与陶工的守护神，他也可保佑家宅平安、远离火灾。

宇迦之御魂神

宇迦之御魂神是稻荷神社所奉主神；这类神社往往设有多座红色鸟居和狐狸雕像。这位神祇司掌五谷丰登，尤其是作为日本主食的稻米收成。在近世之前的日本，稻米还曾是国家的经济基石。向宇迦之御魂神祈愿可保佑粮食丰收与生意兴隆。

<繁体字>

立志神社所奉神祇

國之常立神

根據 8 世紀《古事記》記載，國之常立神是繼五柱別天津神之後最先誕生的神明。人們將這位原初之神奉為地上世界根基的開創者，其功業促成創世神伊邪那岐和伊邪那美創造了日本列島。國之常立神被尊崇為大地之源、國家安泰的守護神，以及福運昌隆的賜予者，是立志神社的主神。

多賀大神

多賀大神象徵創世神伊邪那岐與伊邪那美。相傳，他們是天地初分後最早誕生的其中二位神祇。為了創造日本列島，他們立於天之浮橋之上，以天沼矛攪動原初之海。參拜多賀大神可祈求姻緣成就、子孫繁榮。

熱田大神

熱田大神是太陽神「天照大御神」顯現為神劍「草薙劍」的化身。這把傳說中的武器位列「三神器」之一，與八咫鏡、八尺瓊勾玉共同象徵天皇的神聖權力。據傳，參拜熱田大神可獲賜勇氣、長壽，並遠離災厄。

八幡大神

八幡大神是第十五代應神天皇（西元 201－310）的神格化靈體。相傳，應神天皇尚在母親腹中時，便護持母親的軍隊平定朝鮮半島的古代諸國。因此，八幡大神被尊為戰神與日本守護神。

惠比壽大神

惠比壽大神常以肩扛釣竿、手抱鯛魚的形象出現，與海洋有著深厚的淵源。這位神祇乃創世神伊邪那岐與伊邪那美所生，曾被置於蘆葦船中，漂流海上。最終，他被海浪沖回岸上，安然無恙。於是漁民將其奉為祈求海上安全和漁獲豐饒之神。惠比壽大神能夠保佑生意興隆、福運喜樂。

天照大御神

天照大御神是太陽神、皇室的祖先神，也是日本民眾的總氏神與守護神。這位神祇守護國家的和平與安寧，賜予家內安全的庇佑，並普照世間，將五穀豐登的神恩賜予萬民。

金比羅大神

金比羅大神亦稱「大物主神」。根據 8 世紀《日本書紀》記載，這位神祇為生命、自然與土地等世間萬物奠定根基，引導世人走向和平與幸福、保佑病癒，並守護航海者的安全。

愛宕大神

愛宕大神司掌火焰，是創世神伊邪那岐與伊邪那美最後一個孩子。相傳，他伴烈火降生，導致母親殞命，父親因此將其斬首。愛宕大神的鮮血與肉身化作多位新神，分別象徵山巒、火山與雷電等各類自然之力。人們將愛宕大神奉為鐵匠與陶工的守護神，他也保佑家內平安、遠離火災。

宇迦之御魂神

宇迦之御魂神奉祀於稻荷神社；這類神社往往設有多座紅色鳥居和狐狸雕像。這位神祇司掌食物與穀物收成，尤其是作為日本主食的稻米收成。在近世之前的日本社會，稻米還曾是國家的經濟基石。向宇迦之御魂神祈願可保佑糧食豐收與生意興隆。

<日本語仮訳>

立志神社/立志神社にまつわれている神様たち

国之常立神

8 世紀の古事記によれば、国之常立神は、別天神五柱が現れたのちに最初に出現した神とされています。この原初の神は大地の基盤を形づくったとされ、その後、創造神であるイザナギとイザナミによって日本列島が創造されることにつながります。国之常立神は、大地の源であり、国の安全の守護神であり、福德と繁栄をもたらす神として崇敬されています。この神は、立志神社の本尊として祀られています。

多賀大神

多賀大神は、伝説によれば、天地が分かれた後に最初に出現した創造神とされるイザナギとイザナミを象徴しています。日本列島を創造するため、彼らは天の浮橋に立ち、天沼矛で原初の海をかき混ぜました。多賀大神を祀ると、縁結びや子孫繁栄のご利益があるといわれています。

熱田大神

熱田大神は、太陽神である天照大御神が神剣の草薙神剣として現れた神です。この伝説の剣は三種の神器の一つであり、天皇の神聖な権威を象徴する三つの宝物のうちの一つです。ほかの二つは八咫鏡と八尺瓊勾玉です。熱田大神を祀ると、武運長久、災難除けのご利益があるといわれています。

八幡大神

八幡大神は第十五代応神天皇（201～310 年）の御神霊であり、朝鮮半島の古代王国を平定するための母の軍事遠征を支えたといわれています。その結果、八幡大神は戦いの神、日本の守護神として信仰されています。

恵比寿大神

釣り竿を肩にかけ、鯛を手に抱える姿で描かれることが多い恵比寿大神は、海との結びつきが強い神です。この神は創造神イザナギ・イザナミの間に生まれ、葦で造られた舟に乘せられて海に漂いました。恵比寿大神は無傷で海岸に打ち上げられたため、漁師たちから海上の安全と豊漁をもたらす神として崇敬されるようになりました。また、恵比寿大神は、商売繁盛、開運、幸福などのご利益も授けるとされています。

天照大御神

天照大御神は太陽神であり、皇室の祖先神、さらに日本国民の総氏神として崇敬される神です。この神は国の平安と安寧を守り、家内安全の御利益を授けます。天照大御神は世界を照らし、五穀豊穡の神徳を授けるとされています。

金比羅大神

金比羅大神は、大物主神の別名であり、8 世紀の日本書紀によれば、生命や自然、大地など創造を手助けしたとされています。金比羅大神は、人々を平和と幸福へと導き、病氣平癒のご利益を授け、航海者には安全を守るご加護をもたらします。

愛宕大神

愛宕大神は火の神であり、創造神であるイザナギとイザナミの間に生まれた最後の子です。伝説によれば、出産の際に自ら発せられる火で母親が命を落とし、その報いとして父に首をはねられたといいます。この神の血と体からは、新たな神々が生まれ、特に山、火山、雷などの自然の力を象徴する神々が誕生しました。愛宕大神は、鍛冶職人や陶芸家の守護神として信仰され、家内安全や火難除けのご利益があるとされています。

宇迦之御魂神

宇迦之御魂神は、多数の赤い鳥居や狐の像と結びつけられることが多い、稻荷神社で祀られる神です。この神は、食物や穀物、特に日本の主食であり、近世以前の社会の経済的基盤でもあった米の豊穡を司るとされています。宇迦之御魂神に祈りを捧げることで、五穀豊穡や商売繁盛のご利益があ

るとされています。

【タイトル】 石部宿場の里/概要

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web

<簡体字>

石部宿场之里

这座露天博物馆再现了石部宿的旧时氛围。该宿场町曾是官方驿站，位于连接京都与江户（今东京）的东海道上。館区内建有客栈和茶屋等多栋建筑，采用江户时代(1603-1867)的传统建筑风格，所有建筑均对外开放，并展出工具等日常器物，让访客能一窥这条历史古道上的真实生活面貌。

宿场町的功能

石部距京都约 38 公里，是从江户算起，东海道沿线 53 座宿场町中的第 51 座。宿场町作为官方驿站，由德川幕府设立，旨在为道路上的往来旅人提供支援并加以管控。这里提供各项必要服务：为高官和大名提供官方居所，为普通旅人提供旅宿，并为朝廷信使和脚夫配备马匹。如果旅人从京都出发，石部往往是他们第一晚的落脚之地；而对从江户启程的旅人而言，抵达石部就意味着长达 492 公里的旅程已临近终点。

交通与参勤交代制度

东海道上的往来行人形形色色，既有幕府官员、武士，也有劳工、工匠和商人等普通百姓都有。前往伊势神宫等地朝圣的信众也络绎不绝。一般旅人步行走完全程，通常需要 13 到 17 天。

根据参勤交代制度，大名须以隔年交替的方式在幕府首都江户居住，以示对将军的忠诚。因此大名会率领庞大的随行队伍沿东海道出行。有时，队伍人数多达数千人，包括家臣、士兵、侍从和脚夫。由于需要准备足够的食宿和人力来服务这些访客，这为石部等宿场町带来沉重的后勤负担。东海道石部宿历史民俗资料馆设有与大名行列相关的展览，包括一座大名专用官方住宿的模型。

<繁体字>

石部宿場之里

這座露天博物館重現了石部宿的舊時氛圍。該宿場町曾是官方驛站，位於連接京都與江戶（今東京）的東海道上。館區內內設有客棧和茶屋等多棟建築，採用江戶時代（西元1603－1867）的傳統建築風格，所有建築均對外開放，並展出工具等日常器物，讓訪客能一窺這條歷史古道上的真實生活樣貌。

宿場町的功能

石部距京都約 38 公里，是從江戶算起，東海道沿線 53 座宿場町中的第 51 座。宿場町作為官方驛站，由德川幕府設立，用於為道路上的往來旅人提供支援並加以管控。這裡提供各項必要服務：為高官和大名提供官方居所、為普通旅人供應旅宿，並為官府信使和腳夫準備馬匹。如果旅人從京都出發，石部往往是他們第一晚的落腳之地；但對從江戶啟程的旅人而言，抵達石部就代表長達 492 公里的旅程已臨近終點。

交通與參勤交代制度

東海道上的往來行人形形色色，既有幕府官員和武士，也有勞工、工匠和商人等普通民眾，前往伊勢神宮等聖地朝聖的信眾也絡繹不絕。一般旅人走完全程，通常需要 13 到 17 天。

根據參勤交代制度，大名須以隔年交替的方式在幕府首都江戶居住，以示對將軍的忠誠。因此大名會率領龐大的隨行隊伍沿東海道出行。有時，隊伍人數多達數千人，包括家臣、士兵、侍從和腳夫。由於需要準備足夠的食宿和人力來服務這些訪客，這為石部等宿場町帶來沉重的後勤負擔。東海道石部宿歷史民俗資料館設有與大名行列相關的展覽，包括一座大名專用官方住宿的模型。

<日本語仮訳>

石部宿場の里/概要

この野外博物館は、京都と江戸（現在の東京）を結ぶ東海道における公式の宿場町であった旧石部宿場の風情を再現しています。敷地内には、伝統的な江戸時代（1603～1867）の様式で建てられた旅館や茶屋などの模型がいくつか展示されています。建物の内部に入ることができ、道具や日用品が展示されており、歴史ある街道での生活の様子を実際にうかがうことができます。

宿場町の役割

京都から約 38 キロに位置する石部は、東海道 53 宿の 51 番目（江戸から数えて）の宿場町でした。これらの公的な宿場町は徳川幕府が設置したもので、街道を通るあらゆる交通を支援し監視する役割を担っていました。また、宿場町には高官や大名が泊まる本陣、一般の旅人向けの旅籠、人足や幕府の飛脚が利用する馬など、旅に欠かせない設備やサービスが整えられていました。京都から旅を始める旅人にとって石部はしばしば最初の宿泊地となり、江戸から来た旅人にとっては、古都までの 492 キロに及ぶ旅の終わりが近づいたことを知らせる場所でした。

交通と参勤交代制度

幕府の役人や武士から、労働者や職人、商人といった一般庶民まで、さまざまな人々が街道を行き交っていました。また、この街道は、伊勢神宮などへの巡礼を行う人々にも多く利用されました。一般的な旅人がこの街道全体を歩くには、通常 13 日から 17 日かかりました。

大名たちは将軍への忠誠を示すため、幕府のあった江戸に隔年で居住する参勤交代制度の一環として、この街道を大規模な行列で進みました。これらの行列は、家臣、兵士、従者、人足などからなり、時には数千人に及ぶこともありました。そのため、石部のような宿場町では、旅人に必要となる宿泊施設や食糧、労働力を賄うために膨大な物流的負担がかかりました。「東海道石部宿歴史民俗資料館」には、これらの大名行列を紹介する展示があり、大名専用の宿場の模型なども展示されています。

【タイトル】 石部歴史民俗資料館/概要

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web

<簡体字>

东海道石部宿历史民俗资料馆

本馆深入介绍江户时代(1603-1867)的旅行和日常生活，并以东海道古道和昔日石部宿为重点。石部宿始建于 1601 年，是连接着帝都京都与幕府首都江户（今东京）的东海道 53 宿之一。馆内展品包含立体模型、地图和历史木刻版画，再现了这条 492 公里的漫漫旅途，以及过去石部宿的城镇布局与相关设施。

石部宿场町

一幅 1828 年的地图展现了鼎盛时期的石部宿。街道两侧的商铺与民宅绵延超过 1.6 公里。城镇两端设有岗哨，负责监控往来旅人，并查验普通民众的通行许可证。当时，平民百姓通常只有在宗教朝圣时，才能获准旅行。临街房舍后方是居民耕作的田地，为商铺与客栈提供稻米与蔬菜，以供应络绎不绝的旅人。住宿按照社会阶层区分：大名和高官入住名为“本阵”的专属客栈，其他旅客则住在名为“旅笼”的客栈。地图表明，石部宿设有两座本阵和 36 间旅笼，足见这座距京都仅 38 公里（约一天路程）的东海道近终点驿站在后勤上举足轻重。

东海道

东海道是近代早期日本最繁忙的干道之一。据估计，江户时代每年通行人数超过数十万。往来旅人包括幕府官员、武士、劳工、工匠、商人和朝圣者。为持续管控地方大名，幕府强制推行参勤交代制度，规定大名每两年须沿东海道出行一次。他们通常率领大规模队伍，从领地前往幕府首都江户居住，家眷则长期定居于此。馆藏的住宿登记簿记载着下榻石部宿的知名人物，包括德川幕府第十四代与第十五代将军，以及后来的明治天皇(1852-1912)。馆内还陈列着他们曾入住的本阵等比例模型。除历史文献外，该馆亦有大量木刻版画，其中不乏歌川广重(1797-1858)等著名画家所绘的东海道沿途景致。

<繁体字>

東海道石部宿歷史民俗資料館

這座資料館深入介紹江戶時代（西元 1603－1867）的旅行和日常生活，並以東海道古道與昔日石部宿為重點。石部宿建於西元 1601 年，是連接帝都京都與幕府首都江戶（今東京）的東海道上 53 個宿場之一。館內展品包含立體模型、地圖和歷史木版畫，再現了這條 492 公里的旅途，以及過去石部宿的城鎮佈局與相關設施。

石部宿

一張西元 1828 年的地圖描繪出鼎盛時期的石部宿：商鋪與民宅林立於街道兩側，綿延超過 1.6 公里。城鎮兩端設有崗哨，負責監控往來旅人動向，並查驗普通民眾的通行許可證。當時，平民百姓通常只有在宗教朝聖時，才能獲准旅行。臨街房舍後方是居民耕作的田地，為商鋪與客棧供應稻米與蔬菜，讓絡繹不絕的旅人得以飽餐。住宿地點依社會階級區分：大名和高官入住名為「本陣」的專屬旅館，其他旅客則住在「旅籠」客棧。地圖表明，石部宿設有兩座本陣和 36 間旅籠，足見這座距京都僅 38 公里（約一天路程）的東海道近終點驛站在後勤上舉足輕重。

東海道

東海道是近世日本最繁忙的幹道之一。據估計，江戶時代每年通行人數達到數十萬人以上。往來旅人包括幕府官員、武士、勞工、工匠、商人和朝聖者。為持續控管地方大名，幕府強制施行參勤交代制度，規定大名每兩年須沿東海道出行一次。他們通常率領大規模隊伍，從領地前往幕府首都江戶居住，家眷則長期定居於此。館藏的住宿登記簿記載著下榻石部宿的知名人物，包括德川第十四代與第十五代將軍，以及後來的明治天皇（西元 1852－1912）。館內還陳列著他們曾入住的本陣等比例模型。除歷史文獻外，館內還有大量木版畫，其中不乏歌川廣重（西元 1797－1858）等著名畫家所繪製的東海道沿途景致。

<日本語仮訳>

石部歴史民俗資料館/概要

この博物館は、歴史的な東海道と旧石部宿を中心に、江戸時代（1603～1867）の旅と日常生活についての見識を深めることができます。石部宿は 1601 年に成立し、都であった京都と幕府が置かれた江戸（現在の東京）を結ぶ東海道の 53 の宿場のひとつでした。ジオラマ、地図、歴史的な木版画の展示は、492km に及ぶ旅の道のりや、歴史的な石部の町の構造と施設について紹介して

います。

石部宿

1828 年の地図には、全盛期の石部宿の様子が描かれており、1.6 キロ以上にわたって街道の両側に家や店が立ち並んでいます。町の両端に設けられた番所は、旅人の動きを監視するとともに、当時は主に宗教的な巡礼のための旅行しか許可されていなかった平民の通行手形を確認していました。街道沿いの家々の裏手には、町民が耕す畑が広がっていました。これらの畑では、絶えず訪れる旅人に食料を提供するため、商店や宿屋に米や野菜を供給していました。宿泊は身分によって分けられており、大名や高官は本陣と呼ばれる専用の宿に宿泊しました。それ以外の宿泊客はすべて、旅籠に宿泊しました。地図によれば、石部宿には 2 軒の本陣と 36 軒の旅籠があり、京都からわずか 1 日で到達できる距離（38km）に位置する、街道の最後の宿場町のひとつとして、非常に重要な物流拠点であったことがわかります。

東海道

東海道は近世日本で最も交通量の多い街道のひとつで、江戸時代には年間で数十万を超える旅人が行き来したと推定されています。旅人には、幕府の役人、武士、労働者、職人、商人、巡礼者などがいました。幕府は地方の大名たちの支配を維持するため、隔年での出仕、参勤交代を義務付けました。参勤交代により、大名は 2 年に一度、たいていは大規模な行列を組んで街道を旅し、領地から家族が常住する、幕府が置かれた江戸へと住居を移さなければなりません。館内の宿泊台帳には、この町に立ち寄った著名人の名前が記録されており、そこには徳川 14 代将軍・15 代将軍、さらに後には明治天皇（1852～1912）も含まれています。また、彼らが滞在した本陣の縮尺模型も展示されています。歴史的な資料だけでなく、歌川広重（1797～1858）などの著名な画家による街道沿いの風景を描いた木版画も非常に数多く残されています。

【タイトル】 立志神社/手水舎

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web

<簡体字>**手水舎**

信众前往立志神社参拜时，会先在手水舎洗净厄运与秽气，再进入本殿祈福。神社的手水舎选用应季的神圣花饰装点，展现四季更迭：初夏，水钵中漂浮着色彩缤纷的绣球花；秋季，大波斯菊与南瓜相映摇曳，交织出丰收景象。这些花艺布置体现了传统神道教信仰对自然万物的深切敬畏。

进入本殿前的洁净步骤如下：请用右手拿起手水舎上的水瓢，避开水钵中央的花饰，用水瓢舀水后，在水钵外淋洗左手。将水瓢换至左手，淋洗右手。然后，舀少许水倒入左手掌心，以此漱口。请注意水瓢不可直接触碰嘴唇；漱口水需吐在水舎下方的排水口，切勿吐回水钵。最后，再次清洗左手。洁净完毕后，将水瓢放回原位。

<繁体字>**手水舎**

信眾前往立志神社參拜時，會先在手水舎洗淨厄運與穢氣，再進入本殿祈福。神社的手水舎以神聖的花藝佈置妝點，展現四季更迭：初夏，水鉢中漂浮著色彩繽紛的繡球花；秋季，大波斯菊與南瓜隨水晃動，交織出豐收景象。這些花藝佈置皆體現了傳統神道教信仰對自然萬物的深切敬畏。

進入本殿前的潔淨步驟如下：請用右手拿起手水舎上的水瓢，避開水鉢中央的花朵舀水，於水鉢外沖洗左手。將水瓢換至左手，沖洗右手。然後，舀少許水倒至左手掌心，用以漱口。請注意水瓢不可直接觸碰嘴唇；漱口後請將水吐至手水舎下方的排水口，切勿吐回水鉢。最後，再次清洗左手。潔淨完畢後，將水瓢放回原位。

<日本語仮訳>**立志神社/手水舎**

立志神社の参拝者は、本殿で参拝する前に、手水舎で立ち止まり、ここで厄や穢れを洗い流します。この神社の手水舎は、四季折々の神聖な花で美しく飾られています。初夏の水盤に浮かぶ色とりどりのアジサイの花から、秋のカボチャとともに揺れる収穫の風景まで、これらの生け花は、伝統的な神道

信仰に見られる自然界への深い神道的敬意を映し出しています。

本殿に参拝する前に身を清めるためには、まず水鉢に置かれた柄杓を取り、右手に持ちます。水鉢の中央にある花を動かさないように注意しながら、柄杓に水を汲み、水鉢の外で左手にかけます。柄杓を左手に持ち替え、右手を清めます。次に、左手の手のひらに少量の水を汲み、口をすすぎます。柄杓を口につけないように注意し、水は手水鉢の中に戻さず、鉢の縁元にある流しに捨てます。最後に、もう一度左手をすすぎ、終わったら柄杓を戻します。

【タイトル】 立志神社/御朱印

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web

＜簡体字＞

御朱印

御朱印是日本各地神社和寺院授予的神圣参拜盖印证明，通常会先盖上寺社专属的朱红印章，然后由神职人员挥毫书就。御朱印既是参拜的证明，也是信众与所祀神明之间缔结精神连结的有形见证。

对于立志神社而言，御朱印与神社的核心理念紧密相连：鼓励来访者树立目标，向所供神明表明决心。这一理念与立志神社之名如出一辙。自 6 世纪创社以来，人们纷纷来此表明志向、回报进度，并在心愿达成后表达感谢。为了希望定期坚定自身决心的信众，立志神社推出了季节与月份限定的御朱印。月份御朱印采用透明胶片印制花卉纹样。这些御朱印款式多样且数量有限，旨在鼓励信众长久保持虔敬之心，帮助达成精神目标。此外，神社还开设了手作工坊，供来访者自选纹样，亲自装订专属御朱印账（需预约）。

＜繁体字＞

御朱印

御朱印是日本各地神社和寺院授予的神聖參拜蓋印證明，通常會先蓋上寺社專屬的朱紅印章，再由神職人員以毛筆揮毫出蒼勁有力的書法。御朱印既是參拜的證明，也是信眾與所供奉神明之間締結精神連結的有形見證。

在立志神社，御朱印與神社的核心理念緊密相連：鼓勵參拜者立下目標，向供奉的神明表明決心。這樣的理念與立志神社之名相呼應。自 6 世紀創社以來，信眾紛紛到此宣告決心、回報進展，並在心願達成後表達感謝。為了協助希望定期強化決心的參拜者，立志神社推出季節與月份限定的御朱印。其中，月份限定的御朱印採用透明薄片印製花卉圖案。神社以款式多樣的期間限定御朱印，鼓勵信眾持之以恆地實踐信仰，幫助達成精神目標。此外，神社還開設了手作坊，供來訪者挑選喜歡的圖案，親自裝訂專屬御朱印帳（需預約）。

＜日本語仮訳＞

立志神社/御朱印

御朱印と呼ばれる神聖な参拝朱印証明は、日本各地の神社や寺院で授与されるものであり、通常、各神社特有の朱印の上に、神職による力強い筆跡が施されています。御朱印は参拝の証であり、ご祭神との精神的な絆を形にした証でもあります。

立志神社では、御朱印は神社の理念である「参拝者が目標を立て、神に決意を表明することを奨励する」と結びついています。この理念は、立志神社の名とも合致しています。同神社には、6 世紀の創建以来、人々が決意を表明し、経過を報告し、成就に感謝するために訪れてきました。定期的にこの信仰心を強めたい方のために、立志神社では季節ごとや月ごとに特別な御朱印を授与しています。月ごとの御朱印は、透明なシートに花のデザインが印刷されています。これらの御朱印は種類が豊富ですが授与期間に制限を設けており、継続的な参拝を促すとともに、霊的な目標の達成を助けることを意図しています。また、お好みの絵柄で自ら綴じる『御朱印帳づくり』の体験も承っております（要予約）。

【タイトル】 長壽寺/概要 (リーフレット)

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>

长寿寺

长寿寺是建于 8 世纪的古寺，旨在祈愿皇室安康、社稷安宁。长寿寺隶属佛教天台宗，主祀地藏菩萨——被尊为护佑孩童和亡灵的慈悲守护者。寺内有多座建筑及收藏的佛教艺术品被指定为重要文化财产，本堂与供奉本尊的微型佛龕更被列为日本国宝。

长寿之寺

长寿寺始建于 729 至 748 年间。相传，当时的天皇在祈求得子的心愿达成後，为祈求女儿长寿而敕令修建此寺。据说，长寿寺由天皇亲自赐名，意为“长寿之寺”。如今，很多人慕名而来求子，以及祈愿儿女身体健康。

建筑珍品

现存本堂始建于镰仓时代初期(1185-1333)。虽然外观看似一座采用连贯歇山顶的独立建筑，但其实是承袭早期寺庙设计的“双堂”结构。双堂即是建立两座等长的殿堂，两座堂以狭窄空隙相隔，分别用于信众礼拜和供奉神明。长寿寺本堂的一顶双堂结构，标志着寺庙建筑设计的一次重要转型。日本现存的过渡结构建筑实例极为罕见，这座本堂即是其中之一。

佛教艺术品

寺内珍藏着多尊神圣佛像，其中部分可以追溯到 12 世纪。这些佛像或坐或立，或手持法器，或结印契（带有象征意义的手印）。本堂佛坛供奉秘藏的本尊地藏菩萨，两侧安放阿弥陀如来（无量光佛无量寿佛）坐像与历史上的佛陀——释迦如来的坐像。本堂后方的专用收藏库内，供奉着一尊高 285.5 厘米的阿弥陀如来坐像，推定为镰仓时代作品。

文明游览长寿寺

长寿寺既是日本国宝，也是正在使用的参拜场所。为守护神圣的寺院环境、避免造成任何破坏，敬请游客遵守以下规定：

- 参观游览时，请勿偏离指定步道或触碰植物。
- 拍照时，请尊重其他游客，切勿堵塞道路或出入口。
- 本堂内严禁摄影，亦不得使用手机等电子设备。
- 寺院及本堂内一律禁止饮食。

<繁体字>

長壽寺

長壽寺是建於 8 世紀的古寺，用以祈願皇室安康與國泰民安。長壽寺隸屬佛教天台宗，主祀地藏菩薩——被尊為庇佑孩童與亡靈的慈悲守護者。寺內多座建築及收藏的佛教藝術品被指定為重要文化財產，本堂與供奉本尊的微型佛龕更被列為日本國寶。

長壽之寺

長壽寺建於西元 729 至西元 748 年間。相傳，當時的天皇在祈求得子的心願達成後，為祈求皇女健康長壽而下令敕建此寺。據說，長壽寺由天皇親自賜名，意為「長壽之寺」。如今，許多信眾慕名而來求子，或祈願兒女身體健康。

罕見的建築形式

現存本堂可追溯至鎌倉時代（西元 1185—1333）初期。從外觀來看，本堂彷彿是一座擁有單一屋頂、單體成形的建築；但實際上承襲了早期寺院設計的「雙堂」形制。雙堂即是建立兩座長度相等的殿堂，兩堂以一條窄縫相隔，分別用於供信徒參拜及供奉神佛本尊。長壽寺本堂將兩座殿堂統合到一個屋頂下，標誌著寺院建築設計的一次重要轉型。此轉型期的建築結構在日本僅存極少數實例，本堂即是其中之一。

佛教藝術品

寺內珍藏著多尊莊嚴的佛像，部分可以追溯到 12 世紀。這些佛像呈現坐立不一的姿態，有的手持法器，有的結印契（帶有象徵意義的手印）。本堂佛壇內供奉秘藏的本尊地藏菩薩；兩側安置阿彌陀如來（無量光無量壽佛）坐像與釋迦如來坐像。本堂後方的收藏庫內，安置著一尊高 285.5 公分的阿彌陀如來坐像，推定為鎌倉時代之作。

長壽寺參訪守則

長壽寺既是日本國寶，也是仍在使用的禮拜場所。為守護神聖的寺院環境、避免造成任何破壞，請訪客遵守以下規定：

- 參觀遊覽時，請勿步出指定參道或觸碰植物。
- 拍照時請尊重其他訪客，切勿堵住參道或出入口。
- 本堂內嚴禁攝影，亦不得使用手機等電子裝置。
- 寺院及本堂內一律禁止飲食。

<日本語仮訳>

長壽寺/概要 (リーフレット)

長壽寺は、皇室の安寧と国家の安泰を祈願するために 8 世紀に建立された古刹です。天台宗に属し、子どもや死後の魂を慈しみ守る地藏菩薩を本尊としています。境内に建ついくつかの建造物と、そこに安置されている仏教美術品は重要文化財に指定されています。本堂と、本尊を安置する厨子は国宝に指定されています。

長寿の寺

729 年から 748 年にかけて建立されたこの寺院は、当時の天皇が子宝を授かったことへの感謝として、その娘の長寿を願って建立を命じたと伝えられています。長寿寺という名前は「長寿の寺」という意味で、天皇から授かったものとされています。子宝祈願、子どもの健康を願い、多くの人が参拝に訪れます。

建築上の希少性

現在の本堂は鎌倉時代初期（1185～1333）に建てられたものです。外観はつながった入母屋造の屋根をもつ一つの建物のように見えますが、実際の構造は、より初期の寺院建築様式である「双堂形式」を継承したものです。この形式では、寺院には、狭い隙間で仕切られた同じ長さの二つの堂が建てられ、一つは参拝者用、もう一つは本尊安置用とされていました。長寿寺の本堂は、この双堂を一つの屋根の下に統合しており、寺院建築における重要な転換点を示しています。これは、日本に現存する数少ない過渡期の建造物のひとつです。

仏教美術品

寺の宝物の中には、12 世紀にさかのぼる神聖な仏像のコレクションも含まれています。これらの像は、儀式用の持物を手にしたものや象徴的な手ぶりを示す（印相を結ぶ）ものなど、さまざまな神々を座る姿や立つ姿で表現したものです。本堂では、本尊（秘仏）である地藏菩薩が安置されている本堂の祭壇の両脇に、無量光・無量寿の仏である阿弥陀如来と歴史的な仏陀の坐像が安置されています。本堂の裏にある収蔵庫には、鎌倉時代のもと思われる 285.5 センチの阿弥陀如来坐像が安置されています。

長寿寺を楽しむ際のお願い

長寿寺は国宝に指定され、また現在も信仰の場として使用されています。寺院の神聖さを守り、寺院を傷つけないためにも、訪問者には以下のガイドラインを守っていただくようお願いしています。

- 境内を散策する際は、指定された通路から外れたり、草木に触れたりすることはご遠慮ください。
- 写真撮影の際は、他の観光客に配慮し、通路や入り口を塞がないようにしてください。
- 本堂内での撮影や携帯電話等の使用は、固く禁じられています。
- 境内および本堂内での飲食は禁止されています。

【タイトル】 常楽寺/概要 (リーフレット)

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>

常乐寺

常乐寺于 8 世纪初奉敕令建造，作为阿星山大型寺院群一部分而建立。这座寺院群曾是国家和朝廷的精神守护者，当时朝廷位于西南方的奈良地区。常乐寺为佛教天台宗寺院，主奉千手观音，即观世音菩萨的化身。寺内建筑堪称日本古典寺院建筑与工艺的杰出典范，其本堂和三重塔均为日本国宝。

本堂

本堂建于 1360 年，是室町时代(1336–1573)和样建筑中罕见的现存实例。这栋建筑选用未上漆的天然木材建造而成，外观简洁典雅，线条利落。其内部空间根据天台宗的仪轨规制，分为三个独立佛殿区域：外阵是供普通信众参拜的公共区域；内阵是神圣的核心空间，专供僧人举行秘仪。常乐寺本尊千手观音即供奉在内阵佛坛的佛龕之中。后阵通常用于存放物品和筹备仪式，现供奉释迦如来像。

三重塔

三重塔建于 1400 年，以稳固的结构与和谐的美感闻名。建造过程中运用了极为精确的数学计算，大幅减少修缮需求。宝塔与本堂一样，采用未上漆的木材与桧树皮屋顶，呈现柔和自然的外观。不过，其结构之美建立在韵律与稳定之上：屋檐的优雅曲线，以及三手先斗拱所形成的规律视觉节奏，使塔身更显均衡而轻盈。

佛像

本堂内供奉着多尊佛像，部分可以追溯到 12 世纪。其中最著名的是一组二十八部众像，这些木像被指定为重要文化财产，分立于秘藏本尊千手观音两侧，象征誓愿护持菩萨救度所有信众的强大护法神。每尊各自代表不同的神格职能。这些木像于 1308 年至 1314 年间以桧木雕刻而成，多数肌肉贲张、神情威猛，彰显护法神祇的镇护之力。

文明游览常乐寺

常乐寺既是日本国宝，也是正在使用的参拜场所。为守护神圣的寺院环境、避免造成任何破坏，敬请游客遵守以下规定：

- 参观游览时，请勿偏离指定步道或触碰植物。
- 拍照时，请尊重其他游客，切勿堵塞道路或出入口。
- 本堂内严禁摄影，亦不得使用手机等电子设备。
- 寺院及本堂内一律禁止饮食。

<繁体字>

常樂寺

常樂寺於 8 世紀初奉敕令建造，作為阿星山大型寺院群的一部分而建立。這座寺院群曾扮演護佑國家與朝廷的角色，當時朝廷位於西南方的奈良地區。常樂寺為佛教天台宗寺院，主祀千手觀音，即觀世音菩薩的化身。寺內建築堪稱日本古典寺院建築與工藝的傑出典範，其本堂和三重塔均為日本國寶。

本堂

本堂建於西元 1360 年，是室町時代（西元 1336－1573）和樣建築罕見的現存典範。這棟建築選用未上漆的天然木材建造而成，外觀簡潔典雅、線條俐落。內部空間根據天台宗的儀軌分為三個獨立佛殿區域：外陣是供普通信眾參拜的公共區域；內陣則是神聖的核心空間，專供僧人舉行秘儀。常樂寺本尊千手觀音即供奉在內陣佛壇的佛龕之中。後陣通常用於存放物品和籌備儀式，現供奉釋迦如來像。

三重塔

三重塔建於西元 1400 年，以穩固的結構與和諧的美感聞名。在建造過程中，運用了極為精確的數學計算，大幅減少修繕需求。寶塔與本堂一樣，採用未上漆的木材與檜樹皮屋頂，呈現柔和自然的外觀。不過，其結構之美建立在韻律與穩定之上：屋簷的優雅曲線，以及三手先斗拱所形成的規律視覺節奏，使塔身更顯均衡而輕盈。

佛像雕塑

本堂內供奉著多尊佛像，部分可以追溯到 12 世紀。其中最著名的是一組二十八部眾立像，這些木像被指定為重要文化財，分立於秘藏的本尊千手觀音兩側。祂們象徵誓願護持菩薩，救度所有信眾的強大護法神；每尊各自代表不同的神格職能。這些木像於西元 1308 年至西元 1314 年間以檜木雕刻而成，多數肌肉賁張、神情威猛，展現護法神祇的鎮護之力。

常樂寺參訪守則

常樂寺既是日本國寶，也是仍在使用的禮拜場所。為守護神聖的寺院環境、避免造成任何破壞，請訪客遵守以下規定：

- 參觀遊覽時，請勿走出指定參道或觸碰植物。
- 拍照時請尊重其他訪客，切勿堵住參道或出入口。
- 本堂內嚴禁攝影，亦不得使用手機等電子裝置。
- 寺院及本堂內一律禁止飲食。

<日本語仮訳>

常楽寺/概要 (リーフレット)

常楽寺は、8 世紀初頭に勅命により、阿星山の大規模な伽藍の一部として建立されました。この伽藍は国家、および南西方向、つまり奈良地方に位置していた朝廷の双方を、靈的に守護する役目を担っていました。常楽寺は天台宗に属し、本尊として観音菩薩の化身である千手観音を祀っています。寺院の建物は、日本の古典的な寺院建築と職人技を示す、素晴らしい実例となっています。本堂と三重塔は国宝に指定されています。

本堂

本堂は 1360 年に建てられたもので、室町時代（1336～1573）の和様建築の稀少な現存例のひとつです。古典的なシンプルさと優雅さがある外観で、すっきりとした線と無塗装の天然木が使用されています。室内は三つの明確な区画に分けられており、この配置は天台宗の儀式上の要件に従っています。外陣は一般参拝者のためのパブリックスペースとして用いられ、内陣（神聖な中心部）は、特別な儀式を行う僧侶のみが入ることを許されています。寺の本尊である千手観音は、内陣の祭壇にある厨子に安置されています。後陣は、通常は倉庫や儀式の準備のために確保されており、歴史的な仏像が安置されています。

三重塔

1400 年に建立された三重塔は、建物の修理の必要性を最小限に抑えた類まれな数学的精度により造られ、構造の完全性と美的な調和で知られています。本堂と同様に、この塔も無塗装の木材と檜皮葺屋根を用いることで、柔らかく自然な印象を与えています。しかし、その構造上の美はリズムと安定性に基づいています。軒の優雅な曲線と三段の持送りの複合体が生み出す一貫した視覚パターンにより、バランスが取れた軽やかな印象を塔に与えています。

仏像

本堂には数多くの仏像が安置されており、中には 12 世紀のものもあります。中でも注目すべき作品は、重要文化財に指定されている二十八部衆像です。重要文化財に指定されているこれらの木像は、秘仏かつ本尊である千手観音像の左右に配置されています。これらの仏像は、すべての信者を救済するという菩薩の献身を支える、力強い守護者を表しており、それぞれが異なる精神的役割を象徴しています。1308 年から 1314 年にかけて檜から彫られたもので、像の多くは隆起した筋肉や陰しい表情で表現され、それぞれの守護の役割を反映しています。

常楽寺を楽しむ際のお願い

常楽寺は国宝に指定され、また現在も信仰の場として使用されています。寺院の神聖さを守り、寺院を傷つけないためにも、訪問者には以下のガイドラインを守っていただくようお願いしています。

- 境内を散策する際は、指定された通路から外れたり、草木に触れたりすることをご遠慮ください。
- 写真撮影の際は、他の観光客に配慮し、通路や入り口を塞がないようにしてください。
- 本堂内での撮影や携帯電話等の使用は、固く禁じられています。
- 境内および本堂内での飲食は禁止されています。

地域番号	015	協議会名	湊川神社

解説文一覧

NO.	スポット名（タイトル）	中国語文字数	想定媒体
015-001	楠木正成公/祭神・ご利益・歴史上の人物	1867	その他
015-002	湊川神社/概要	482	パンフレット
015-003	湊川神社/概要	649	看板
015-004	殉節地/文化財史跡・由来	572	Web
015-005	嗚呼忠臣楠子之墓/文化財史跡・由来	367	Web
015-006	嗚呼忠臣楠子之墓/文化財史跡・由来	602	看板
015-007	殉節地・嗚呼忠臣楠子之墓/文化財史跡・由来	993	その他
015-008	宝物殿/概要	274	Web
015-009	宝物殿/刀剣について	849	看板
015-010	栗原信秀「太刀 銘 信秀」/宝物品	231	Web
015-011	段威腹巻/宝物品・重要文化財	259	Web
015-012	段威腹巻/宝物品・重要文化財	538	看板
015-013	法華経奥書/宝物品・重要文化財	307	Web
015-014	法華経奥書/宝物品・重要文化財	599	看板
015-015	宝物殿・段威腹巻・法華経奥書/宝物品・重要文化財	938	その他
015-016	横山大観筆「大楠公像」/宝物品	406	看板/Web
015-017	前田青邨筆「大楠公」/宝物品	286	看板/Web
015-018	宝物殿/大楠公御一代記	1389	看板
015-019	神能殿/世界遺産「能楽」の祖の祖	845	Web
015-020	神能殿/世界遺産「能楽」の祖の祖	572	その他
015-021	楠本稻荷神社/ご利益	263	Web

015-022	菊水天満神社/ご利益	377	Web
015-023	楠本稻荷神社・菊水天満神社/ご利益	522	その他
015-024	本社社殿/本社社殿	351	Web

【タイトル】 楠木正成公/祭神・ご利益・歴史上の人物

【想定媒体】 その他

<簡体字>

楠木正成：武士典范

楠木正成是日本历史上最负盛名、备受尊崇的武士之一，他因矢志不渝地效忠天皇（全球最古老君主制的象征）而千古流芳。他效命之际，朝廷正试图从以镰仓为据点的武家幕府手中重新夺回统治权。后人因楠木坚定不移的赤胆忠心，常将他与希腊的列奥尼达一世国王、法国的圣女贞德等英雄人物相提并论。尽管这位 14 世纪英雄的诸多生平细节已不可考，但他的精神遗产至今仍在日本传承不息。

湊川神社

楠木的灵位供奉在神户湊川神社。神社建于湊川之战遗址之上，楠木正成正是在此以身殉主，成就千古忠名。此神社始建于 1872 年，距楠木殉节约有 500 年，旨在缅怀他的忠勇气节。

如今，诸多政要和哲人等人士都对楠木心怀敬仰，立志以其信条为立身之本。他们纷纷前往神社参拜这位著名武将。楠木因过人的智慧、卓越的谋略、坚毅的品格与对正义的执着坚守而声名远扬，世人相信向他祈愿能够获得诸多福佑，例如学业有成、事业顺遂、心志坚韧、提升领导才能等等。

忠义武将的生平与殉节

楠木正成的早年生平并无确切史料可考，但一般认为他生于 1294 年前后。关于他的现存记载，大多源自成书于 14 世纪末期的历史史诗《太平记》。这部典籍融合了历史叙事与文学润饰，也是将楠木塑造为“智谋过人的将领”和“后醍醐天皇的忠臣”的核心史料。

楠木正成的事迹始于 1331 年。当时，后醍醐天皇正筹划推翻日本首个武家政权，以恢复天皇亲政。当时，成立于 1185 年的幕府已经执掌朝政近 200 年之久，打破了天皇此前一脉相承的古老统治传统。后醍醐天皇认为，幕府政权罔顾天下苍生福泽与朝廷的正统权威，一味牟取私利。而楠木作为天皇复辟大业的坚定拥护者，在这段时局动荡的岁月里始终忠心辅佐天皇。

1331年，后醍醐天皇的计划败露，被迫逃离京都御所。他避居于一座深山寺院，但最终还是被幕府大军擒获并流放。值此危难之际，楠木对天皇大业依旧忠心不改。为此，幕府派军围攻楠木驻守的城池。

城池濒临失守之际，楠木佯死脱身，率领残部退入深山。此后，他开始招兵买马，展开了长达三年的游击战，持续袭扰幕府的补给线和前哨据点，牵制幕府军力，为最终推翻幕府统治的起义立下了汗马功劳。

1333年初，后醍醐天皇逃离流放之地。同年早些时候，权臣足利尊氏等一众核心武将纷纷倒戈，转而归附天皇阵营，镰仓幕府随之土崩瓦解。在楠木等忠臣的辅佐之下，后醍醐天皇成功恢复亲政，展开“建武新政”。然而，朝廷重掌大权后不久，便遭到以足利尊氏为首的部分武家势力抵制。局势迅速恶化为公开叛乱，足利尊氏率领武家军队起兵造反。由于天皇军队的兵力远不及叛军，楠木劝谏后醍醐天皇避免正面交锋，但天皇的近臣却力主迎战。楠木忠贞不二，因此奉命出征。

楠木殉节

1336年，自知即将面对殊死决战，楠木在出征前决意分兵。他命其子率领主力部队返乡，恳切叮嘱他们至死忠于天皇，继续投身倒幕大业。这场父子诀别的悲壮场景，深深烙印在日本民众心中，后世诸多艺术作品皆以此为题进行创作。

楠木身边仅余 700 骑兵，毅然奔赴战场。这支兵力悬殊的部队自清晨鏖战至午后，纵使奋勇搏杀，败局却已注定。虽然他们未能击溃足利尊氏大军，却死死牵制住兵力，为盟军主帅的撤退争取到宝贵时间，令主帅得以返回京都面见天皇，筹备后续战事。

经过六小时的浴血奋战，楠木军队终被足利尊氏大军合围，最终全军覆没。楠木与胞弟、家臣毅然切腹自尽，宁死不降。相传，其弟临终立下誓愿，愿转世七次，继续为主征战。这份“七生报国”的壮志，自此成为后世将士以身殉国的精神号角。楠木于凑川之战兵败身死，亦标志着建武新政就此终结。

国民英雄

在江户时代（1603—1867），随着《太平记》中的相关记载被不断改编为新的文学与艺术作品，楠木正成的英雄事迹广为流传。不过，他的“国民英雄”地位直到 19 世纪末的

明治维新时期才正式恢复。当时，日本逐步转型为中央集权君主制国家，明治新政府将楠木尊为国民英雄。他对天皇的忠义之心，正是新政府希望向全体国民弘扬的核心精神。此后，一尊楠木正成的青铜骑马像在东京皇居附近落成，其生平事迹也被纳入全国学校课程。在日本统治台湾时期，楠木正成的事迹同样被编入公立学校教科书，成为战前台湾民众家喻户晓的人物。

今日的楠木正成

时至今日，楠木依然是备受尊崇的历史人物。湊川神社的参拜者依旧会向他的英灵致以敬意，他的生平事迹也在日本民众的精神世界中占据独特地位。虽然有关楠木的诸多细节已不可考，但《太平记》中的故事却塑造了数百年间人们对“忠君报国”这一理念的认知。无论人们将其视作卓越的谋略家、政治理想主义者，抑或是悲情英雄，楠木始终是受后世代代敬仰的传奇人物。

〈繁体字〉

楠木正成：武士典範

楠木正成是日本歷史上最負盛名、備受尊崇的武士之一，他因堅貞不渝地效忠天皇（全球最古老君主制的象徵）而千古流芳。他效命之際，朝廷正試圖從以鎌倉為據點的武家幕府手中重新奪回統治權。後人因楠木堅定不移的赤膽忠心，常將他與希臘的列奧尼達一世、法國的聖女貞德等英雄人物並稱。儘管這位 14 世紀英雄的諸多生平細節已不可考，但他的精神遺產至今仍在日本傳承不息。

湊川神社

楠木被供奉在神戶的湊川神社。神社建於湊川之戰遺址之上，楠木正成正是在此壯烈殉節，成就千古忠名。此神社於西元 1872 年落成，約莫是在楠木殉節後 500 年，以此緬懷他的忠勇氣節。

如今，許多政要和哲學家等各界人士都對楠木心懷敬仰，立志將其理念當成人生準則。他們紛紛前往神社參拜這位著名武將。楠木因過人的智慧、卓越的謀略、堅毅的品格與對正義的堅守而聲名遠播，世人相信向他祈願能夠得到多方面的保佑，例如學業進步和事業有成，還有堅韌意志及提升領導能力。

忠義武將的一生與謝幕

關於楠木正成早年的生平，確鑿的史料並不多，但一般認為他出生於西元 1294 年左右。現今大眾對其事蹟的認知，大多源於成書於 14 世紀末的史詩《太平記》。這部典籍結合了歷史敘事與文學潤飾，是將楠木刻劃為「智謀過人的將領」和「後醍醐天皇的忠臣」的核心史料。

楠木正成的事蹟始於西元 1331 年。當時後醍醐天皇正籌劃推翻日本首個武家政權，以恢復天皇親政。成立於西元 1185 年的幕府已執掌朝政近 200 年之久，打破了此前一直由天皇治世的古老傳統。後醍醐天皇認為，幕府政權重視私利，勝過天下蒼生福祉與朝廷的傳統權威。而楠木作為天皇復辟大業的堅定擁護者，在這段時局動盪的歲月裡始終忠心輔佐天皇。

西元 1331 年，後醍醐天皇的計畫敗露，被迫逃離京都御所。他躲進一座深山寺院尋求庇護，最終卻還是被幕府大軍擒獲並流放。即便在此危急時刻，楠木對天皇大業依舊忠心不改。為此，幕府派軍圍攻楠木駐守的城池。

城池瀕臨失守之際，楠木佯死脫身，率領殘餘部隊撤入深山。此後，他招兵買馬，對幕府展開了長達三年的游擊戰。他持續襲擊幕府的補給線和前哨據點，牽制了幕府的資源，成為推翻幕府之起義行動的關鍵契機。

西元 1333 年初，後醍醐天皇逃離流放地。同年稍晚，武家首領足利尊氏等一眾核心武將紛紛倒戈，轉而歸附天皇陣營，鎌倉幕府隨之垮台。在楠木等忠臣的輔佐下，後醍醐天皇成功恢復親政，展開「建武新政」。然而，朝廷重掌大權後不久，便遭到以足利尊氏為首的部分武家勢力抵制。局勢激化為公開造反，足利尊氏率領武家軍隊起兵叛亂。由於天皇軍隊的兵力遠不及叛軍，楠木於是勸諫後醍醐天皇避免正面交鋒，但天皇的近臣卻力主迎戰。楠木忠貞不二，奉命出征。

楠木殉節

西元 1336 年，自知即將面對殊死決戰，楠木在出征前決意分兵。他命其子率領主力部隊返鄉，懇切叮囑他們繼續效忠於天皇，並延續這場戰鬥。這場父子訣別的動人場景，深深烙印在日本民眾心中，後世諸多藝術作品皆以此為題進行創作。

楠木身邊僅餘 700 名騎兵，仍奔赴戰場。這支兵力懸殊的部隊自早晨戰至午後，縱使英勇奮戰，敗局卻已註定。雖然他們未能擊潰足利尊氏大軍，卻牽制住敵軍，為盟軍主帥的撤

退爭取到寶貴時間，使主帥得以返回京都面見天皇，籌備後續戰事。

經過六小時的奮戰，楠木軍隊被足利尊氏大軍包圍，最終遭到擊潰。楠木、其弟與家臣毅然切腹自盡，寧死不降。相傳，其弟臨終立下誓願，願轉世七次，繼續為主征戰。這份「七生報國」的壯志，此後成為後世將士以身殉國的精神口號。楠木於湊川之戰兵敗身死，也象徵著「建武新政」的終結。

國民英雄

在江戶時代（西元 1603—1867），隨著《太平記》中的相關記載被不斷改編為新的文學與藝術作品，楠木正成的英雄事蹟廣為流傳。不過，他的「國民英雄」地位直到 19 世紀末的明治維新時期才正式恢復。當時，日本轉型為中央集權君主制國家，明治新政府將楠木尊為國民英雄。他對天皇的忠義之心，正是新政府希望向全體國民傳遞的理想價值。此後，東京皇居附近豎立起楠木正成的青銅騎馬像，其生平事蹟也被納入全國學校課程。在台灣日治時期，楠木正成的事蹟同樣被編入公學校教科書，成為戰前台灣家喻戶曉的人物。

今日的楠木正成

時至今日，楠木依然是備受尊崇的歷史人物。湊川神社的參拜者依舊會向他的英靈致敬，他的生平事蹟也在日本民眾的集體想像中佔據獨特地位。雖然有關楠木的諸多細節已不可考，但《太平記》中的故事卻塑造了數百年間對於「忠君報國」所代表意義的認知。無論是視為卓越的謀略家、政治理想主義者，或是悲情英雄，楠木始終是一位受後世代代敬仰的傳奇人物。

<日本語仮訳>

楠木正成公/祭神・ご利益・歴史上の人物

日本史上最も有名で崇敬される武将の一人、楠木正成は、世界最古の君主制の象徴である天皇への揺るぎない忠誠で知られています。楠木が仕えていたのは、鎌倉を拠点とする武家主導の幕府に対し、朝廷が主権回復を図っていた時代でした。その揺るぎない献身は、ギリシャのレオニダス王やフランスのジャンヌ・ダルクといった英雄たちと並び称されるほどです。この 14 世紀の英雄についての詳細の多くは不明であるものの、楠木の遺産は現代の日本に生き続けています。

湊川神社

楠木は神戸の湊川神社に祀られています。この神社は、湊川の戦いの舞台に建てられており、彼が天皇のために命を捧げたことでよく知られている場所です。楠木の死後およそ 500 年を経た 1872 年に創建され、彼の勇気と忠誠を記念しています。

現在、政治的指導者や哲学者など、多くの人々が楠木を崇敬し、彼の理想に従って自らの人生を生きたいと願っています。彼らは湊川神社を訪れ、この高名な武将に敬意を表しています。その知恵、戦略的な洞察力、不屈の精神、正義への献身で知られる楠木に祈ることで、学業・仕事の成功、精神力、指導力の向上など、さまざまな御利益があるとされています。

忠義の武将の生涯と死

楠木の初期の人生について確実にわかっていることはほとんどありませんが、1294 年頃に生まれたと信じられています。知られていることの大部分は、14 世紀後期に完成した歴史叙事詩である『太平記』に由来します。『太平記』は歴史的記述と文学的脚色が混合したものです。これは、彼を後醍醐天皇の鋭敏な武将であり、忠実な臣下として描く主要な史料となっています。

楠木の歴史は 1331 年、後醍醐天皇が日本初の武家主導政権の打倒を通じて直接的な皇室統治を復活させようとした時代から始まります。1185 年に成立した幕府は、天皇による統治というかつての連綿と続く伝統を打ち破り、およそ 200 年にわたり政権を握りました。後醍醐天皇は、幕府が国家の繁栄や朝廷の伝統的な権威よりも、私利私欲を優先させていると考えていました。楠木は天皇の大義を強く信じ、この激動の時代に天皇に忠誠を尽くしたのです。

1331 年に後醍醐の計画が発覚すると、彼は京都の皇宮からの逃亡を余儀なくされました。彼は山中の僧院に逃げましたが、最終的に幕府軍に捉えられ、配流されました。この危機的状況でも、楠木は天皇の大義に忠実に仕えました。これに対し、幕府軍が彼の城を包囲することになりました。

自分の城が陥落寸前となった楠木は、死を装い、残った軍勢と共に山中に撤退しました。そこから彼は兵を募り、3 年間にわたり幕府に対するゲリラ戦を展開しました。補給線や小規模な前哨基地への絶え間ない攻撃により、徐々に幕府の資源が滞っていき、政権崩壊につながった反乱に大きく寄与しました。

1333 年初頭、後醍醐天皇は配流から逃れました。同年後半、鎌倉幕府は、強大な将軍足利尊氏などの主要な武将たちが政権を放棄し、天皇の大義に加わったため、崩壊しました。傍らで仕える楠木などの忠臣たちに支えられ、後醍醐は皇室統治の復活に成功し、建武の新政が始まりを迎えました。しかし、朝廷の新たな権威はまもなく、尊氏をはじめとする一部の武士階級からの抵抗に直面しました。状況は公然の対立へと発展し、尊氏が武士側を率いることとなりました。天皇側の武力が圧倒的に劣勢であったため、楠木は後醍醐に直接対決を避けるよう進言しましたが、天皇の側近らは正面決戦を主張しました。最後まで忠義を貫いた楠木は天皇の命令に従いました。

楠木の犠牲

1336 年、最期の戦いになると知った楠木は、その戦いを前に、軍勢を分割しました。彼は息子と彼の軍勢の大半に帰郷を命じ、天皇に忠実であり続け、戦いを続けるよう懇願しました。息子との感傷的なこの別れは、日本人の心に永く刻み込まれ、この場面を描いた多くの芸術作品が生まれました。

楠木は残された 700 騎というわずかな部隊と共に出陣しました。彼の劣勢な軍勢は朝から夕方まで勇ましく戦ったものの、結果は避けられませんでした。彼らは尊氏軍を打ち負かすことはできませんでしたが、楠木の同盟軍の総大将が退却するまで尊氏軍を占領することに成功しました。これにより、彼は京都にいる天皇のもとへと戻り、次の戦いに備えることができたのです。

6 時間にわたる戦いを経て、楠木軍は尊氏軍に包囲され、打ち砕かれました。捕虜になる不名誉に直面するよりも、楠木は弟や家臣たちと共に切腹することを選びました。伝説によると、弟は戦いを続けるために七度生まれ変わりたいという最期の願いを表明しました。この心情である「七生報国」（「七たび生まれて国に報いん」）は、後に国のために自らを犠牲にする兵士たちの戦いのスローガンとなりました。湊川の戦いにおける楠木の敗北は、建武の新政の終焉を告げるものでした。

国民的英雄

江戸時代（1603～1867）に『太平記』の物語は新たな文学や芸術作品へと翻案され、楠木正成の生き様は絶大な人気を得ました。しかし、国民的象徴としての楠木の地位が正式に復活したのは、19 世紀後期の明治維新の時代でした。日本が中央集権的君主制に移行するにつれ、明治新政府は楠木を国民的英雄として称えました。彼は天皇への忠誠を体現しており、これは国家が国民と共有したいと願った理想でした。その結果、東京の皇居近くには騎馬姿の彼の銅像が建立され、彼の生涯の物語は国の学校教育のカリキュラム組み込まれました。また、日本統治時代の台湾においては、公学校の教科書にも楠木正成を題材とした記述が見られ、戦前の台湾では広く知られた人物でした。

現代の楠木

現在でも楠木は、深く尊敬される歴史上の人物であり続けています。湊川神社の参拝者は今でも彼のレガシーに敬意を表しており、彼の生涯は日本人の想像力の中で独特の地位を占めています。彼に関する詳細の多くは不確実なままですが、『太平記』に保存された物語は、天皇と国に仕える意味について何世紀にもわたる思想を形づくってきました。優れた戦術家、政治的理想主義者、あるいは悲劇的英雄のどれと見なされるにしても、彼は世代を超えて尊敬を集める人物であり続けています。

【タイトル】 湊川神社/概要

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>

湊川神社

湊川神社坐落于 14 世纪一场重大战役的遗址之上，主祭著名武将楠木正成(1294–1336)。这位备受尊敬的武将在此为效忠天皇而殉节，凭借其至死不渝的忠义与自我牺牲的精神，被世人奉为武士道之典范。神社现存楠木殉节之地、墓所以及供奉其灵位的主殿。

这座神社由明治天皇于 1872 年建立，以纪念楠木的英勇和对后醍醐天皇的忠诚。当时正值南北朝时代(1336–1392)初期，天皇朝廷因皇室分支对峙而陷入分裂，局势动荡，权力斗争诡谲，忠诚瞬息易主，内战频繁发生。

楠木曾作为核心干将辅佐后醍醐天皇推翻镰仓幕府，1333 年一度恢复天皇亲政。然而，这场复辟只是昙花一现，武将足利尊氏倒戈，决意另立自己的幕府。尽管楠木曾向天皇进言，建议进行战略性撤退，但他还是奉命迎战足利尊氏，于 1336 年在“湊川之战”率军迎战。尽管寡不敌众，但楠木依然谨遵天皇圣旨，怀着沉重的心情出战。

当败局已定时，楠木与胞弟、家臣毅然切腹自尽，宁死不降。临终之际，其弟高呼：“愿七生报国！”，此言亦永载青史。

楠木被埋葬在当年的战场遗址，即今日湊川神社所在地。他的佩刀和甲冑等个人物品，也被保存在神社宝物殿里。

<繁体字>

湊川神社

湊川神社坐落於 14 世紀一場重大戰役的遺址之上，主祭著名武將楠木正成（1294 – 1336 年）。這位備受尊敬的武將在此為效忠天皇而殉節，因他至死不渝的忠義與自我犧牲的精神，被世人奉其為武士道典範。神社現存楠木殉節之地、墓所以及奉祀其神靈的主殿。

1872 年，明治天皇下令建造湊川神社，以紀念楠木正成的英勇與對後醍醐天皇的效忠。當時為南北朝時代（1336 – 1392 年）初期，天皇朝廷因皇室分支對峙而陷入分裂，局勢動盪。這個時期權力鬥爭詭譎，陣營時常更迭，內戰頻繁發生。

楠木在輔佐後醍醐天皇推翻鎌倉幕府一事上扮演關鍵角色，1333 年一度恢復天皇親政。然而，這場復辟只是曇花一現，武將足利尊氏倒戈，決意另立自己的幕府。楠木雖曾向天皇建言進行戰略性撤退，1336 年仍奉命在「湊川之戰」率軍迎戰足利尊氏。儘管寡不敵眾，但楠木仍懷著悲壯的心情奉命出戰。

當敗局已定，楠木與胞弟、家臣毅然切腹自盡，寧死不降。臨終之際，其弟高呼出青史名言：「七生報國！」

楠木長眠於當年的戰場遺址，也就是今日湊川神社所在地。他的佩刀和甲冑等遺物也被珍藏在神社寶物殿內。

<日本語仮訳>

湊川神社/概要

湊川神社は、崇敬される武士楠木正成が天皇のために命を捧げたことで知られている 14 世紀の重要な戦いの跡地に建っています。揺るぎない忠誠と自己犠牲により、楠木は理想的な武士の行いの典型として日本全国で称賛されています。境内には楠木の終焉の地、彼の墓所、そして彼が祀られている本殿が含まれています。

1872 年に明治天皇によって創建されたこの神社は、南北朝時代（1336–1392）の開幕における後醍醐天皇への楠木の勇気と献身を記念しています。南北朝時代は権力闘争、忠誠の変転、そして二つの対立する皇室朝廷間の内戦という動乱の時代でした。

この内戦の勃発以前、楠木は後醍醐天皇の鎌倉幕府打倒と 1333 年より短期間の皇室統治復活を支援する上で重要な役割を果たしていました。しかし、この新政は、天皇のかつての盟友である武将足利尊氏が反乱を起こし、自らの軍事政権を樹立したため短命に終わりました。天皇に戦略的撤退を進言していたものの、天皇から足利と対峙するよう命じられた楠木は、1336 年の湊川の戦いに挑みました。圧倒的に劣勢であったにもかかわらず、彼は重い心を引きずりながらも忠実に皇命に従いました。

敗北が避けられなくなった時、楠木と彼の弟、そして生き残った兵士たちは捕虜になることよりも切腹（儀礼的自殺）を選びました。最期の時に、彼の弟は「七生報国」（「七たび生まれて国に報いん」）という有名な言葉を述べました。

楠木は、現在湊川神社が建っているこの戦いの地に埋葬されています。刀や甲冑を含む彼の遺品もまた、この神社の宝物殿に保存されています。

【タイトル】 湊川神社/概要

【想定媒体】 看板

<簡体字>

欢迎来到湊川神社

湊川神社坐落于 14 世纪一场重大战役的遗址之上，主祭著名武将楠木正成(1294–1336)。这位备受尊敬的武将在此为效忠天皇而殉节，凭借其至死不渝的忠义与自我牺牲的精神，被世人奉为武士道之典范。神社现存楠木切腹自尽之地、墓所以及供奉其灵位的主殿。

这座神社由明治天皇于 1872 年建立，以纪念楠木的英勇和对后醍醐天皇的忠诚。当时正值南北朝时代(1336–1392)初期，天皇朝廷因皇室分支对峙而陷入分裂，局势动荡，权力斗争诡谲，忠诚瞬息易主，内战频繁发生。

楠木曾作为核心干将辅佐后醍醐天皇推翻镰仓幕府，1333 年一度天皇亲政恢复。然而，这场复辟只是昙花一现，武将足利尊氏旋即倒戈，决意另立自己的幕府。尽管楠木曾向天皇进言，建议进行战略性撤退，但他还是于 1336 年奉命在湊川之战迎战足利尊氏。尽管寡不敌众，但楠木依然谨遵天皇圣旨，怀着沉重的心情出战。

他与部下英勇奋战，从清晨鏖战至黄昏。当败局已定时，楠木与胞弟、家臣毅然切腹自尽，宁死不降。他们的殉节之举，既体现了对后醍醐天皇的赤诚忠心，也印证了天皇的治国理念：将天下公义置于武士氏族私利之上。

如今，很多人都为祭奠这位名将特来参拜湊川神社。人们敬仰他的智慧、谋略、忠贞和对正义的坚守。相传，向楠木祈愿能够得到诸多庇佑，包括国家长治久安、学业顺利、事业成功、收获坚韧的意志以及领导能力的提升等等。

湊川神社的宝物殿收藏着与这位武士相关的大量珍贵文物。展品包含刀剑甲冑，亦有展出楠木的生平事迹、生前私人物品，以及后世受其精神感召而创作的艺术作品。

<繁体字>

歡迎來到湊川神社

湊川神社坐落於 14 世紀一場重大戰役的遺址之上，主祭著名武將楠木正成（西元 1294–1336）。這位備受尊敬的武將在此為了天皇而捐軀，他那份至死不渝的忠義與自我犧牲的精神，被譽為武士道之典範。神社現存楠木切腹自盡之地、墓所以及奉祀其神靈的本殿。

1872年、明治天皇下令建造湊川神社，以為紀念楠木正成的英勇與對後醍醐天皇的效忠。當時為南北朝時代（西元 1336—1392）初期，天皇朝廷因皇室分支對峙而陷入分裂，局勢動盪。這個時期權力鬥爭詭譎，陣營時常更迭，內戰頻繁發生。

楠木在輔佐後醍醐天皇推翻鎌倉幕府一事上扮演關鍵角色，1333年一度恢復天皇親政。然而，這場復辟只是曇花一現，武將足利尊氏倒戈，決意另立自己的幕府。楠木雖曾向天皇建言進行戰略性撤退，1336年仍奉命在湊川之戰迎戰足利尊氏。儘管寡不敵眾，但楠木仍懷著悲壯的心情奉命出戰。

他與部下們英勇奮戰，從早晨戰至傍晚。當敗局已定，楠木與胞弟、家臣毅然切腹自盡，寧死不降。他們的殉節之舉，既體現了對後醍醐天皇的赤誠忠心，也印證了天皇的治國理念：將天下公義置於武士氏族私利之上。

如今，許多人前往湊川神社向這位名將致敬，敬仰他的智慧、謀略、忠貞和對正義的堅守。相傳，向楠木祈願能夠得到多方面的保佑，包括國泰民安、學業進步和事業有成，還有堅韌意志及提升領導能力。

在湊川神社的寶物殿內，收藏大量與這位武士相關的珍貴文物。展品包含刀劍甲冑，亦有展出楠木的生平事蹟、生前私人物品，以及後世受其精神感召而創作的藝術作品。

<日本語仮訳>

湊川神社/概要

湊川神社は 14 世紀の重要な戦いの地であり、崇敬される武将、楠木正成（1294～1336 年）が自身の仕える天皇のために命を捧げた場所です。彼の揺るぎない忠誠と自己犠牲の心により、楠木は理想的な武士道の模範として称えられています。神社の境内には楠木が切腹した場所、彼の墓所、そして彼が祀られる本殿があります。

1872 年に明治天皇により創建されたこの神社は、朝廷が皇室の二つの対立する系統に分かれた南北朝時代（1336～1392 年）の幕開けに、後醍醐天皇に示した楠木の勇気と忠誠を称えるものです。これは権力闘争、離反、内乱が渦巻く時代でした。

楠木は、後醍醐天皇の鎌倉幕府打倒を支え、1333 年に短期間で天皇の権威を回復する上で重要な役割を果たしました。しかし、この復権は短いものでした。武将の足利尊氏が天皇に背き、自らの幕府を開こうと決意したためです。楠木は後醍醐天皇に戦略的撤退をするよう進言したものの、1336 年の湊川の戦いで尊氏と対峙するよう命じられました。多勢に無勢であるにもかかわらず、彼は重い心を引きずりながらも天皇の命令に従いました。

彼と彼の軍勢は朝から夕方遅くまで勇ましく戦いました。しかし敗北が避けられない状況となった時、楠木は彼の弟や家臣たちと共に、捕らえられるよりはと、切腹（または英語で儀式的な自殺）することを選びました。この殉死の行為は、後醍醐天皇への忠誠の証であり、また、武家氏の私利私欲よりも公の義務を重んじた後醍醐天皇の治世観となりました。

今日、多くの人々がこの神社を訪れて、この高名な武将に敬意を表しています。彼の知恵、戦略的

洞察力、揺るぎない信念、そして正義への献身を称え、彼に崇敬の念を捧げているのです。彼に祈りを捧げると、国家の平和、学業や仕事の成功、精神的な強さ、そしてリーダーシップ能力の向上など、様々な御加護がもたらされると信じられています。

神社の宝物殿は、この伝説の武将に関連する貴重な遺物が収蔵されている場所です。展示品には刀や鎧、楠木正成の生涯を紹介する展示、楠木個人が所有していた品々、そして彼の功績に因んで制作された作品などがあります。

【タイトル】 殉節地/文化財史跡・由来

【想定媒体】 Web

<簡体字>**楠木正成殉节之地**

湊川神社中最神圣的地方，是忠臣楠木正成和麾下家臣切腹自尽之处。1336年7月5日，在生死攸关的湊川之战中，他们明知敌众我寡却仍奋勇拼杀，最终宁死不降，毅然切腹自尽。这一殉节壮举，彰显了他们对后醍醐天皇及其公义为先、私利为后这一治国理念至死不渝的忠诚。

这场关键战役的交战双方，是效忠天皇的军队和叛将足利尊氏的军队。双方对于国家未来的发展存在分歧，因此兵戎相见。1333年推翻初代幕府之后，后醍醐天皇恢复天皇亲政，他认为政权应不受武家私利牵制，而足利尊氏却意图自立门户，建立由其亲自掌控的新幕府政权。

楠木深知己方兵力远逊于敌军，曾力谏天皇暂避锋芒，转而采取游击战术。然而，天皇的近臣却执意正面交战。出于绝对的忠诚，楠木最终服从命令，率领兵力处于劣势的部队奔赴战场。败局将定之际，他与包括胞弟正季的麾下 72 名家臣一同切腹自尽。临终时，正季留下千古名言：“愿七生报国！”誓愿轮回转世，继续效忠朝廷，讨伐逆贼。正成深表赞同，随即最后一次拔出佩刀。

尽管楠木率军浴血奋战，最终仍是足利尊氏赢得胜利。凭借这场胜仗，足利尊氏顺利攻占日本国都京都，随后建立由武家掌权的足利幕府，统治日本直至 1573 年。如今，楠木正成殉节之地已被日本政府指定为文化财产与史迹。遗址立着多盏石灯笼，均为各界名流捐赠，其中包括日本首任首相伊藤博文(1841-1909)。

<繁体字>**楠木正成殉節之地**

湊川神社中最神聖的地點，莫過於忠臣楠木正成和麾下家臣集體切腹自盡之處。西元 1336 年 7 月 5 日，在生死攸關的湊川之戰中，他們明知敵眾我寡卻仍奮勇作戰，最終寧死不降，毅然切腹自盡。此殉節壯舉體現了他們對後醍醐天皇以及其「公務為先、私利為後」的治國理念毫不動搖的忠誠。

這場關鍵戰役的交戰雙方，是效忠天皇的軍隊和叛將足利尊氏大軍，衝突源於雙方對國家未來願景的分歧。西元 1333 年推翻初代幕府之後，後醍醐天皇恢復天皇親政，他認為政權應不受武家私利牽制，足利尊氏卻意圖自立門戶，另立自己統帥的新幕府政權。

楠木深知己方兵力遠遜於敵軍，曾力諫天皇撤退並改採游擊戰術。然而，天皇的近臣卻執意正面交戰。楠木最終仍出於至高忠誠而服從命令，率領寡不敵眾的部隊奔赴戰場。當敗局已定，他與包括胞弟正季的麾下 72 名家臣一同切腹自盡。臨終之時，正季留下「七生報國！」這句名言，誓願轉世後繼續效忠朝廷，討伐逆賊。楠木正成深表贊同，隨即最後一次拔出佩刀。

儘管楠木率軍奮戰抵抗，最終仍由足利尊氏贏得勝利。這場勝利使足利尊氏得以攻佔皇都京都，隨後建立由武家掌權的足利幕府，並統治日本直到西元 1573 年。如今，楠木正成殉節之地已被日本政府指定為文化財產與史蹟。遺址矗立著多盞石燈籠，均為各界名流捐贈，其中包括日本第一任首相伊藤博文（西元 1841－1909）。

<日本語仮訳>

殉節地/文化財史跡・由来

湊川神社で最も神聖な場所は、忠義の武将、楠木正成と彼の家臣たちの殉節地です。1336 年 7 月 5 日、湊川の戦いにおいて、彼らは多勢に無勢である中、果敢に戦い抜き、捕虜になることよりも切腹を選びました。この殉死は、後醍醐天皇に対する彼らの揺るぎない忠誠心と、私利私欲よりも公務を重んじる彼の統治理念の証でした。

この重要な戦いは、天皇の忠臣軍と反乱軍の足利尊氏の軍勢との間で繰り広げられました。この衝突は、国の将来に対する双方の相反する見解から生じました。1333 年、初代幕府を倒した後、後醍醐天皇は天皇親政を復活させ、武家の私的利益から解放されるべきだと考えました。しかし、尊氏は自らの指揮で新たな幕府を築こうとしていたのです。

自軍が圧倒的に劣勢であることを知った楠木は、天皇に退却してゲリラ戦術を採用するよう進言しました。しかし、天皇の側近たちは対決を命じました。至上の忠誠心から、楠木は最終的にそれに従い、劣勢な軍勢を率いて戦いに臨みました。敗北が避けられなくなった時、彼の弟正季を含む 72 人の家臣と共に切腹（儀礼的自殺）を行いました。この最期の時の前に、正季は有名な「七生報国」（「七たび生まれて国に報いん」）を宣言し、朝廷の敵との戦いを続けるために生まれ変わることを誓いました。正成もこれに同意し、そして最後の刀を振りました。

楠木の勇敢な戦も虚しく、尊氏が戦いに勝利しました。この勝利により、帝都である京都を占領できたのです。その後、彼は武家主導の足利幕府を成立させ、1573 年まで統治しました。現在、楠木正成の殉節地は国指定の文化財史跡となっており、日本の初代内閣総理大臣伊藤博文（1841－1909）などの著名人物が寄贈した石灯籠が置かれています。

【タイトル】 嗚呼忠臣楠子之墓/文化財史跡・由来

【想定媒体】 Web

＜簡体字＞

楠木正成墓

1336 年，楠木正成(1294–1336)为后醍醐天皇壮烈殉节后，被安葬于湊川战场，附近的百姓标记了其墓址并默默守护着它。直到 16 世纪末，日本国家土地调查正式认定此处为楠木正成墓地。随后，尼崎藩（今兵库县）藩主在此建立了一座五轮塔。

1692 年，如今的纪念碑取代了五轮塔。此碑由水户德川家当主德川光圀下令修建。光圀因主持编纂《大日本史》而闻名，他视楠木正成为忠义武士的典范，故建碑以彰其德。碑文由光圀亲笔题写，将楠木的英雄事迹确立为忠节的最高象征，并将其奉为举国敬仰的杰出代表。

楠木正成的墓位于湊川神社内，游客们通常会前往楠木墓所、殉节之地和供奉其灵位的主殿凭吊。

另一处纪念楠木之地是位于大阪府的观心寺，其首级便安葬于此。大战结束后，敌军依照当时惯例斩下楠木首级，却因十分钦佩其忠肝义胆，又将首级送还给位于现今大阪的楠木一族。

＜繁体字＞

楠木正成之墓

西元 1336 年，楠木正成（西元 1294 – 1336 年）為後醍醐天皇壯烈殉節，他的遺體被安葬在湊川戰場，附近百姓將他的墓址標示起來，並一直默默守護。直至 16 世紀末的一場國家土地調查後，此處正式被確認為楠木正成墓地。隨後，尼崎藩（今兵庫縣）藩主在此建立了一座五輪塔。

在西元 1692 年，五輪塔被如今的紀念碑所取代。此紀念碑由水戶德川家當主德川光圀下令修建。光圀因主導編纂《大日本史》而聞名，他視楠木正成為忠義武士的典範，因而建碑以彰其德。光圀親筆題寫碑文，將楠木的英雄事蹟作為忠節的最高象徵，並將其奉為舉

國敬仰的傑出代表。

楠木正成的墓位於湊川神社內。參拜者通常會前往楠木墓所、殉節之地，以及奉祀其神靈的主殿致意。

另一處紀念楠木的地點位於大阪府的觀心寺，他的首級便安葬於此。戰爭結束後，敵軍依照當時慣例斬下楠木首級，又因欽佩其英勇而將首級送還給居於現今大阪的楠木一族。

<日本語仮訳>

嗚呼忠臣楠子之墓/文化財史跡・由来

楠木正成（1294～1336 年）は天皇にその生涯を立派に捧げた後、その亡骸は 1336 年に湊川の戦いの地に埋葬されました。近隣の人々は埋葬地を記し、国土調査で正式に特定される 16 世紀後半まで、ひっそりと手入れしていました。その後、尼崎藩（現在の兵庫県）の藩主がこの埋葬地に五輪の供養塔を建立しました。

この供養塔は 1692 年に現在の記念碑に改築されました。水戸徳川家当主の徳川光圀がこの建立を命じました。『大日本史』（大日本の歴史）の編纂で知られる光圀は、忠義を貫く武将の模範として楠木を称えようとしたのです。自らの筆で刻まれた記念碑を建てることで、光圀は究極の忠誠の象徴、そして深い国民的尊敬を集める人物像として楠木正成の功績を確固たるものにしました。

楠木の墓は湊川神社の境内内にあります。参拝者は、彼の墓所、彼が切腹を行った跡地、神格化される彼の御霊が祀られている本殿にも、頻繁に訪れて敬意を表しています。

楠木を祀る別の参拝地として、ほかに大阪府にある観心寺もあり、ここには楠木の首が埋葬されています。戦いの後、敵軍は当時の慣習に従い首級を斬り取りましたが、彼の勇敢さに深く敬意を表し、現在の大阪にある楠木家のもとに送り返したのです。

【タイトル】 嗚呼忠臣楠子之墓/文化財史跡・由来

【想定媒体】 看板

<簡体字>

楠木正成墓

楠木正成的遗体安葬于此。在 1336 年湊川之战中，这位武将为效忠天皇切腹自尽，其遗体即被葬于此处。但他的首级另葬于大阪府的观心寺。原因是因十分敬重其勇武气节，敌军依照当时惯例割下楠木首级並送还其家人。

现存纪念碑建于 1692 年，由德川氏族水户藩家主德川光圀下令修建。光圀因主持编纂《大日本史》而闻名，他视楠木为忠义武士的典范，故建碑以彰其德。光圀下令修建此碑，将楠木的英雄事迹确立为忠节的最高象征，并将其奉为举国敬仰的杰出代表。

该纪念碑基座刻有一尊赑屃神兽，其外形似龟，背上驮负一方石碑。赑屃是中国神话中背负龟壳的龙，象征道德与权威。这种「赑屃驮碑」的设计源自中国碑志传统，自古用于纪念并颂扬重要人物的功绩。

除了赑屃的象征意义之外，这座纪念碑更巧妙选用三类不同石材，分别代表楠木生平三个关键节点：方形基座选用神户花岗岩，象征这场决定命运之战的遗址；赑屃神兽采用京都花岗岩，源自其君主后醍醐天皇的居所；碑身则为大阪砂岩，取材自楠木的出生地。

碑身镌刻光圀亲笔题字，指明此处为楠木长眠之地。新碑一经落成，声名鹊起，每日都有数千名参拜者前来凭吊，并拓印碑文以作纪念。数百年间，此地始终吸引着无数品行高洁的文人雅士与政界名流到访，其中包括德国植物学家兼医师菲利普·弗朗茨·冯·西博尔德(1796-1866)、尊王志士坂本龙马(1836-1867)，以及希腊及爱尔兰混血裔作家小泉八云(1850-1904)。

<繁体字>

楠木正成之墓

此處安葬著楠木正成的遺體。這位武將在西元 1336 年的湊川之戰中為效忠天皇切腹自盡後，便長眠於此，但他的首級另葬於大阪府的觀心寺。原因是為表達對其英勇氣節的深切敬意，敵軍依照當時的慣例，在取下楠木的首級後送還給楠木家。

現存紀念碑建於西元 1692 年，由德川家族水戶藩家主德川光圀下令修建。光圀因主導編纂《大日本史》而聞名，他欲以楠木為忠義武士的典範加以表彰。透過建立此碑，光圀鞏固了楠木作為「至高忠誠象徵」的地位，也使其成為舉國敬重的人物。

該紀念碑の基座刻有一尊鼉負神獸，其外形似龜，背上馱負一方石碑。鼉負是中國神話中背負龜殼的龍，象徵道德與權威。這種「鼉負馱碑」的設計源自中國碑誌傳統，自古用於紀念並頌揚重要人物的功績。

除了鼉負的象徵意義之外，這座紀念碑更巧妙選用三種不同的石材，分別代表楠木生平三個關鍵要素：方形基座選用神戶花崗岩，象徵這場決定命運之戰的遺址；鼉負神獸採用京都花崗岩，象徵其君主後醍醐天皇的居所；碑身則為大阪砂岩，取材自楠木的出生地。

碑身鐫刻光圀親筆題字，指明此處為楠木長眠之地。新碑落成後迅速成名，每天都有數千名訪客前來致意，並拓印碑文留念。數百年間，此地不斷吸引無數品行高潔的文人學者與政要人士到訪，其中包括德國植物學家兼醫師菲利普・法蘭茲・馮・西博爾德（西元 1796—1866）、尊王志士坂本龍馬（西元 1836—1867），以及希臘及愛爾蘭混血裔作家小泉八雲（西元 1850—1904）。

<日本語仮訳>

嗚呼忠臣楠子之墓/文化財史跡・由来

楠木正成（楠木正成）の亡骸はここに埋葬されています。この武將は 1336 年の湊川の戦いで天皇のために命を捧げ、切腹した後、ここに埋葬されました。しかし、彼の首は、大阪府の観心寺にて別々に埋葬されています。これは慣例として、彼の敵対者がその勇敢さに深く敬意を表して彼の首を切り落とし、楠木家の墓前に送ったのです。

現在の記念碑は、1692 年に水戸徳川家当主である徳川光圀の命により建立されました。『大日本史』（大日本の歴史）の編纂で有名な光圀は、忠義を貫く武將の模範として楠木を称えようとしたのです。この記念碑を建てることで、光圀は忠誠の至高の象徴、そして深い国民的尊敬を集める人物像として楠木の功績を確固たるものにしました。

この台座の上で背中に碑を立てた亀のような生き物を象った記念碑は、亀の甲羅を持つ中国の神話上の龍（鼉負）が表現されており、善行と権威を表す一般的な象徴です。この造形は中国の神話や墓碑文化に由来する意匠であり、重要な人物の功績を顕彰するために用いられてきました。

鼉負の象徴性に加えて、記念碑には楠木の物語の重要な側面に対応する三種類の石材が使用されています。四角い台座は運命の戦場となった地を示す神戸から産出された花崗岩で、鼉負は主君である後醍醐天皇が住んだ京都から産出された花崗岩で、そして碑は彼の生誕の地である大阪から産出された砂岩です。

碑には、この地が楠木の永眠の地であることを示す、光圀の筆跡による碑文が刻まれています。新しい記念碑が完成すると、その評判は瞬く間に広まり、毎日何千人もの参拝者が訪れ、敬意を表して墓石の碑文に拓本を取りました。その後も数世紀にわたり、この地は高潔な学者や政治家を惹きつけ続けました。その中にはドイツの植物学者・医師であるフィリップ・フランツ・フォン・シーボルト（1796～1866 年）、天皇を忠実に支持する武士の坂本龍馬（1836～1867 年）、そしてギリシャ系アイランド人作家小泉八雲（1850～1904 年）がいます。

【タイトル】 殉節地・嗚呼忠臣楠子之墓/文化財史跡・由来

【想定媒体】 その他

<簡体字>

楠木正成殉节

湊川神社位于神戸，主祭日本名将之一楠木正成。神社坐落在一场关键战役的遗址之上，这位备受敬仰的 14 世纪武将正是在此为主捐躯。凭借其至死不渝的忠义与自我牺牲的精神，他被世人奉为武士道之典范。神社内可见楠木切腹殉节之地，亦有其长眠之墓。

楠木临终之举

湊川神社中最神圣的地方，是楠木、胞弟及麾下家臣在 1336 年决定性的湊川之战中切腹自尽之处。他们在寡不敌众的绝境下奋勇拼杀，最终宁死不屈，自尽而亡。这一殉节壮举，正是他们对于后醍醐天皇及其公义为先、私利为后的治国理念至死不渝的明证。

这场关键战役的交战双方，是效忠天皇的军队和叛将足利尊氏大军。双方对于国家未来的发展存在分歧，因此兵戎相见。1333 年推翻初代幕府之后，后醍醐天皇恢复天皇亲政，他认为政权应不受武家私利牵制，而足利尊氏却意图自立门户，建立由武家掌权的新幕府。

楠木深知己方兵力远逊于敌军，曾力谏天皇暂避锋芒，转而采取游击战术。然而，后醍醐天皇的近臣却下令正面交战。楠木对天皇之命绝对服从，因此最终奉命出征，率领注定寡不敌众的部队奔赴战场。败局既定之际，他与包括胞弟正季的麾下 72 名家臣一同切腹自尽。

尽管楠木率军英勇奋战，最终仍是足利尊氏赢得胜利。凭借这场胜仗，足利尊氏顺利攻占日本国都京都，随后建立由武家掌权的足利幕府。尽管该幕府在名义上统治日本直至 1573 年，但在此期间，以惨烈的应仁之乱(1467-1477)为代表的内部纷争从未停歇。这些内乱也为此后开启战国时代(1467-1568)埋下伏笔。如今，楠木正成殉节之地已被日本政府指定为文化财产与史迹。遗址矗立着多盏石灯笼，均为各界名流捐赠，其中包括日本首任首相伊藤博文。

楠木墓所

楠木正成切腹自尽后，其遗体便被安葬于湊川战场遗址。附近的百姓标记了其墓址并默默守护着它。直到 16 世纪末，一场国家土地调查正式认定此处为楠木正成墓地。此后，当地领主在原址立起一座五轮塔。

1692 年，德川氏族水户藩家主德川光圀下令，将这座五轮塔替换为如今的纪念碑。光圀因主持编纂《大日本史》而闻名，他视楠木为忠义武士的典范，故建碑以彰其德。光圀下令修建此碑，将楠木的英雄事迹确立为忠节的最高象征，并将其奉为举国敬仰的杰出代表。

该纪念碑的基座之上承托一尊赑屃神兽，其外形似龟，背上驮负一方石碑。在中国神话传说中，赑屃是形似龟而具龙相的神兽，常象征德行与权威，多见于德高望重的文人政客的陵墓建筑群中。

<繁体字>

楠木正成殉節事蹟

湊川神社位於神戶，主祭日本名將之一——楠木正成。神社坐落在一場關鍵戰役的遺址之上，這位備受敬仰的 14 世紀武將正是在此為天皇而捐軀。因至死不渝的忠義與自我犧牲的精神，世人奉其為武士道典範。神社內保留了楠木切腹殉節之地，亦有其長眠之墓。

楠木臨終之舉

湊川神社中最神聖的地方，莫過於楠木與胞弟、家臣在西元 1336 年決定性的湊川之戰中切腹自盡之處。他們在寡不敵眾的絕境下奮勇作戰，最終寧死不降，自盡而亡。此殉節壯舉既體現了他們對後醍醐天皇，及其「公務為先、私利為後」的治國理念毫不動搖的忠誠。

這場關鍵戰役的交戰雙方，是效忠天皇的軍隊和叛將足利尊氏大軍，衝突源於雙方對國家未來願景的分歧。西元 1333 年推翻初代幕府之後，後醍醐天皇恢復天皇親政，他認為政權應不受武家私利牽制，足利尊氏卻意圖自立門戶，另立自己統帥的新武家幕府政權。

楠木深知己方兵力遠遜於敵軍，曾力諫天皇撤退並改採游擊戰術。然而，後醍醐天皇的近臣卻下令正面交戰。楠木最終仍出於至高忠誠而服從命令，率領寡不敵眾的部隊奔赴戰場。當敗局已定，他與包括胞弟正季的麾下 72 名家臣一同切腹自盡。

儘管楠木率軍奮戰抵抗，最終仍由足利尊氏贏得勝利。這場勝利使足利尊氏得以順利攻佔皇都京都，隨後建立由武家掌權的足利幕府。儘管該幕府名義上統治日本直到西元 1573 年，但在此期間，以慘烈的應仁之亂（西元 1467－1477）為代表的內部紛爭卻從未停歇。這些內亂也為此後開啟戰國時代（西元 1467－1568）埋下伏筆。如今，楠木正成殉節之地已被日本政府指定為文化財產與史蹟。遺址矗立著多盞石燈籠，均為各界名流捐贈，其中包括日本第一任首相伊藤博文。

楠木墓所

楠木正成切腹自盡後，遺體便安葬於湊川戰場所在地。附近百姓將他的墓址標示起來，並一直默默守護。直至 16 世紀末的一場國家土地調查後，此處正式被確認為楠木正成墓地。隨後，當地領主在原址興建了一座五輪塔。

西元 1692 年，德川家族水戶藩家主德川光圀下令，將這座五輪塔替換為如今的紀念碑。光圀因主導編纂《大日本史》而聞名，他欲以楠木為忠義武士的典範加以表彰。透過建立此碑，光圀鞏固了楠木作為「至高忠誠象徵」的地位，也使其成為舉國敬重的人物。

該紀念碑的基座刻劃了一尊鼈負神獸，其外形似龜，背上馱負一方石碑。在中國神話傳說中，鼈負是背負龜殼而具龍相的神獸，常象徵德行與權威，多見於德高望重的文人政要的陵墓建築群中。

<日本語仮訳>

殉節地・嗚呼忠臣楠子之墓/文化財史跡・由来

神戸の湊川神社は、日本を代表する名将の一人、楠木正成を祀っています。この神社は、14 世紀に敬愛された武将が天皇のために自身の命を捧げた、重要な戦いの地に建てられています。彼の揺るぎない忠誠と自己犠牲の心により、楠木は理想的な武士道の模範として称えられています。神社の境内には、楠木が切腹した場所と彼のお墓があります。

楠木の最期の行動

神社で最も神聖な場所は、1336 年の決定的な戦いの場となった湊川の戦いで、楠木と彼の弟、家臣たちが切腹を行った場所です。多勢に無勢である中、勇敢に戦った後、彼らは捕らえられるよりも自死を選びました。この殉死の行為は、後醍醐天皇への彼らの揺るぎない忠誠の証であり、また、私利私欲よりも公の義務を重んじた後醍醐天皇の治世観となりました。

この重要な戦いは、天皇に忠誠を誓う軍勢と、反乱軍の長である武将 足利尊氏率いる軍勢との間で繰り広げられました。この衝突は国の将来をめぐる両者の対立する理想から生じたものでした。1333 年に初代将軍を打ち倒した後、後醍醐天皇は武家氏の私利私欲から離れるべきだと自身が考える、

天皇直轄の統治を復活させました。しかし、尊氏は自らの指揮下で武家による新たな幕府を開こうと企てました。

自身の軍勢では多勢に無勢であることを認識していた楠木は、撤退して遊撃戦術を採るよう天皇に強く勧めました。しかし、後醍醐天皇の側近たちが対決を命じたのです。楠木は究極の忠誠を示す行動をもって最終的にこれに従い、数的に劣る軍勢を率いて戦場へと赴きました。敗北が避けられない状況となった時、楠木は弟の正季を含む 72 名の家臣と共に、切腹という儀式的な自殺を行いました。楠木の勇敢な抵抗にもかかわらず、尊氏はこの戦いに勝利しました。この勝利により尊氏は京都の朝廷を掌握することに成功し、その後武家による足利幕府を開きました。この幕府は名目上、1573 年まで続きましたが、壊滅的な応仁の乱（1467～1477）に代表される内紛が続き、その後、戦国時代（1467～1568）の幕開けとなったのです。現在、楠木正成の死地は国により文化財ならびに史跡に指定されています。初代首相の伊藤博文をはじめとする著名な人物から寄贈された石灯籠が並んでいます。

楠木の墓

楠木正成の亡骸は、彼が切腹を行った後、湊川の戦いの場に埋葬されました。近隣の人々は埋葬地を記し、国土調査で正式に特定される 16 世紀後半まで、ひっそりと手入れしていました。その後、この地域の藩主がこの地に五輪の供養塔を建立しました。

この供養塔は 1692 年、水戸徳川家当主の徳川光圀の命により、現在の記念碑に改築されました。『大日本史』（英語で大日本の歴史の意味）の編纂で知られる光圀は、忠義を貫く武将の模範として楠木を称えようとしたのです。記念碑を建てることで、光圀は忠誠の至高の象徴、そして深い国民的尊敬を集める人物像として、この武将の功績を確固たるものにしました。

記念碑は台座の上に亀のような生き物が表現されており、その背中に碑が立っています。この生き物は、亀の甲羅を持つ中国の神話上の龍で、善行と権威を表す一般的な象徴として、高潔な学者や政治家の墓域によく見られます。

【タイトル】 宝物殿/概要

【想定媒体】 Web

<簡体字>**宝物殿**

湊川神社の宝物殿内蔵有大量与 14 世纪名将楠木正成(1294-1336)相关的珍贵文物。楠木正成因忠勇无双而被奉为武士典范。此殿于 1963 年在当地商人盐田富藏慷慨资助下完工，他是这座神社的赞助人，也是楠木的仰慕者。

殿内陈列着武士刀和甲冑，并设有楠木生平事迹展。藏品包含楠木本人的遗物，以及后世受其事迹感召而创作的作品。其中，楠木曾穿戴的甲冑及其手书真迹均被指定为重要文化财产。此外，馆藏亦收录由湊川神社建造者明治天皇(1852-1912)捐赠的佩刀，以及著名画家横山大观(1868-1958)与前田青邨(1885-1977)绘制的楠木正成肖像。

<繁体字>**寶物殿**

湊川神社的寶物殿內藏有眾多與 14 世紀名將楠木正成（西元 1294 - 1336 年）相關的珍貴文物，他因忠勇無雙而受世人奉為武士典範。西元 1963 年，此殿在當地商人鹽田富藏的慷慨捐資下落成；他既是神社的贊助人，也仰慕這位知名武將。

殿內陳列著武士刀和甲冑，並設有楠木生平事蹟展。藏品包含楠木本人的遺物，以及後人受其事蹟感召而創作的作品。其中，楠木曾穿戴的甲冑及一紙親筆書跡，皆獲指定為重要文化財產。此外，館藏亦收錄由湊川神社創建者明治天皇（西元 1852 - 1912 年）捐贈的刀劍，以及著名畫家橫山大觀（西元 1868 - 1958 年）與前田青邨（西元 1885 - 1977 年）繪製的楠木正成像。

<日本語仮訳>**宝物殿/概要**

この神社の宝物殿は、武士の忠誠と勇気の典型として敬慕される 14 世紀の武将楠木正成（1294～1336）に関する貴重な遺物の宝庫です。宝物殿は、神社の後援者であり、名声を博した武将楠木の崇拝者でもあった地元の実業家塩田富造の寄附により、1963 年に完成しました。

宝物殿には、楠木の生涯に関する展示とともに武士の刀・甲冑が展示されています。コレクションの中には楠木が個人的に所有していた品物と、彼のレガシーに着想を得た作品があります。これらの中には、楠木が着用した甲冑と直筆の書状が含まれ、それらはいずれも重要文化財に指定されています。さらに、このコレクションには湊川神社の創建者である明治天皇（1852-1912）から寄贈された刀、そして著名な画家横山大観（1868-1958）と前田青邨（1885-1977）による楠木の肖像画が収蔵されています。

【タイトル】 宝物殿/刀剣について

【想定媒体】 看板

<簡体字>

忠魂见证：湊川刀剑藏品

宝物殿的刀剑藏品多为信众向神社捐赠的供物，用以祭奠名将楠木正成(1294–1336)的神灵。其中包含由神社建造者明治天皇(1852–1912)下令锻造的太刀（一种长刀），以及末代幕府将军德川庆喜(1837–1913)赠予的武士刀。馆藏亦有若干中世纪刀剑，相传部分为楠木正成本人生前所佩。

日本文化中的刀剑

日本刀凭借精湛的工艺、优美的造型，以及深厚的精神内涵而享誉世界。在神道传统中，刀是常见的神圣器物或献予神明的供品，象征力量、纯净并具有驱邪之力。在某些情况下，刀甚至可被视作“神体”，即神明寄宿或代表神明的载体。历史上，武士常将佩刀献予神社，或为纪念重大胜利，或为履行战前承诺。这一传统令刀成为了武士忠魂的有形见证。

日本刀的工艺与种类

日本刀的历史可以追溯至 8 世纪，其传统制法采用名为“玉钢”的高碳钢材，经过反复折叠锻打，以去除杂质并使碳分布均匀。刀匠会将锻造后的材料分层复合，以坚硬的高碳钢为刃，较软的低碳钢为芯，打造出锋利无比又坚韧耐用的刀身。

日本刀不仅是兵器，也是艺术品，其审美价值在刀形、刃纹、雕刻，以及刀鞘、护手、刀柄等精美配件上均有体现。其中，护手尤为注重艺术装饰，常见以铁、铜等材质精心打造的图案。

刀剑可按功能与形制分为多种类型。太刀的刀身长而弯，盛行于 10 至 16 世纪，为骑兵作战设计。随后，刀身更短的武士刀将其取而代之。武士刀诞生于室町时代(1336–1573)，适用于步兵作战。当时，步战较马战更为普遍，武士刀也日益成为主流武器。长度更短的胁差常与武士刀一同佩戴，用于近身格斗或切腹自尽；最短的则是日式短刀，即匕首。楠木正成所处时代的刀剑，留存至今者已屈指可数。

馆藏名刀

宝物殿内陈列数把具有重要历史意义的刀剑。其中，太刀“铭 信秀”由明治天皇敕令铸造并献赠神社，出自名匠栗原信秀(1815–1881)之手，其锻冶技艺享誉当时。同馆藏品还有太刀“铭 藤六左近国纲”以及短刀“铭 国时”。前者据信曾为楠木佩刀，后者由德

川庆喜捐贈，并被日本美术刀剑保存协会认定为重要刀剑。

〈繁体字〉

忠魂見證：湊川刀劍藏品

寶物殿的刀劍藏品多為信眾向神社捐贈的供物，用以供奉名將楠木正成（西元 1294 – 1336 年）的神靈。其中包含由神社創建者明治天皇（西元 1852 – 1912 年）下令鍛造的太刀，以及末代幕府將軍德川慶喜（西元 1837 – 1913 年）贈予的武士刀。館藏亦有幾把中世紀刀劍，相傳部分為楠木正成本人生前佩劍。

日本文化中的刀劍

日本刀憑藉精湛的工藝、優美的造型，以及深厚的精神內涵而享譽國際。在神道傳統中，刀是常見的神聖器物或獻予神明的供品，象徵力量、純淨並具有驅邪之力。在某些情況下，刀甚至可被視作「神體」，即神明寄宿或代表神明的載體。歷史上，武士們常將佩刀獻予神社，或為紀念重大勝利，或為履行戰前承諾。這項傳統令刀成為武士忠誠與奉獻的有形見證。

日本刀的工藝與種類

日本刀的歷史可以追溯至 8 世紀。其傳統制法採用名為「玉鋼」的高碳鋼材，經過反覆摺疊鍛打去除雜質，讓碳均勻分佈。刀匠會將鍛造後的材料分層複合，以堅硬的高碳鋼為刃，較軟的低碳鋼為芯，打造出鋒利無比又堅韌耐用的刀身。

日本刀不僅是兵器，也是藝術品，其審美價值在刀形、刀紋、雕刻，以及刀鞘、護手、刀柄等精美配件上均可見一斑。其中，護手尤為注重藝術裝飾，常見以鐵、銅等材質精心打造的圖案。

刀劍可按功能與形制分為多種類別。太刀刀身長而彎，盛行於 10 至 16 世紀，設計用於騎兵作戰。隨後被刀身更短的武士刀取而代之。武士刀於室町時代（西元 1336 – 1573 年）問世，適合步兵作戰。當時，步戰比馬戰更為普遍，武士刀也漸漸成為主流武器。長度更短的「脇差」常與武士刀一同佩戴，用於近身格鬥或切腹儀式；最短的則是日式短刀，即匕首。楠木正成時代的刀劍僅有寥寥幾把留存至今。

館藏名刀

寶物殿內陳列數把具有重要歷史意義的刀劍。其中，太刀「銘 信秀」出自當時以鍛冶技術聞名的工匠慄原信秀（西元 1815 – 1881 年）之手，為明治天皇敕令鍛造並奉納於神社。同館藏品還有太刀「銘 藤六左近國綱」以及短刀「銘 國時」。前者據信曾為楠木佩刀，後者為德川慶喜奉納，並經日本美術刀劍保存協會指定為「重要刀劍」。

＜日本語仮訳＞

宝物殿/刀剣について

宝物殿所蔵の刀の多くは、この高名な武将 楠木正成（1294～1336 年）の神格化される御霊への奉納品として神社に寄進されたものです。その中には本殿の創建者である明治天皇（1852～1912 年）の命により作られた太刀や、最後の徳川将軍である徳川慶喜（1837～1913 年）が寄進した刀もあります。収蔵品にはまた、中世の刀もあり、その中には楠木が実際に佩用したと伝えられるものもあります。

日本文化における刀剣

日本の刀剣（日本刀）は、その卓越した技法と美しさだけでなく、また、深い精神的意義から世界的に有名です。神道の伝統において、刀は力、清らかさ、そして悪を退ける力を体現することから、よくみられる神聖な宝物、あるいは神への供物です。場合によっては、刀は神体、すなわち神が宿ると信じられる物と見なされることもあります。史実に基づくと、武士たちは大勝利を祝うため、あるいは戦いの前に立てた誓いを果たすために、しばしば刀を神社に奉納しました。この慣習により、刀は武士の献身を示す具体的な証となりました。

日本刀の技法と種類

日本刀の歴史は 8 世紀に遡ります。日本刀は伝統的に、不純物を取り除き炭素を均等に分散させるために、繰り返し折り畳まれ、鍛接された玉鋼という炭素を豊富に含む鋼材から作られていました。鍛冶師たちはこの精錬された素材を層状に重ねて、刃先には硬く高炭素の鋼を、芯には柔らかく低炭素の鋼を用いることで、極めて鋭利かつ強靱な刀身を実現しました。

日本刀は武器として、また芸術作品としても高く評価されており、その形状、焼き入れ模様、彫刻、鞘、鍔柄などの装飾的な金具など、美的特徴を備えています。特に鍔は、鉄や銅、またはその他の素材を用いて施されたデザインを有する芸術的な装飾の対象となっています。

刀はその機能と形状によって分類されます。太刀は、10 世紀から 16 世紀にかけて広く用いられ、馬上で戦うために設計された長く湾曲した刀です。その後、室町時代（1336-1573）に開発された、より短い刀に取って代わられました。刀は歩兵戦用に設計され、騎馬戦よりも次第に一般的になっていきました。さらに短いのが脇差で、接近戦や切腹用に刀と共に携行されました。最も短い刃を持つものは短剣です。ごくわずかな刀が楠木の時代から現存しています。

所蔵される著名な刀

宝物殿には、歴史的に重要な刀が数点展示されています。明治天皇の命により作られ神社に下賜され、金属加工の技で知られる鍛冶の名匠 栗原信秀（1815～1881 年）によって鍛造された太刀「銘 信秀」が展示されています。その他の展示品には、楠木が佩用したとされる太刀「銘 藤六左近国綱」や、徳川慶喜から寄贈され日本美術刀剣保存協会により重要刀剣に指定された短刀「銘 国時」などがあります。

【タイトル】 栗原信秀「太刀 銘 信秀」/宝物品

【想定媒体】 Web

<簡体字>

太刀 銘 信秀

“太刀 銘 信秀” 铸于 1870 年，是日本太刀形制的典范之作。刀身长 66.8 厘米，带有 1.62 厘米细微弧度的特徵。10 至 16 世纪，太刀曾是日本武士的主流佩刀，特点为刀身长，且佩戴时刀刃朝下，常以绳索悬于腰间。

这柄特制太刀由明治天皇(1852-1912)敕令锻造，作为创建者供奉之礼赠予湊川神社。其锻造者是曾为天皇铸造多柄宝刀的著名刀匠——栗原信秀(1815-1881)。信秀的技术造诣不仅限于锻刀，他在金属工艺领域同样声名卓著，曾为多座神社制作并奉纳纪念镜。

<繁体字>

太刀 銘 信秀

「太刀 銘 信秀」鍛造於西元 1870 年，是日本刀中太刀的典範之作，刀身長 66.8 公分，帶有 1.62 公分細微弧度的特徵。10 至 16 世紀，太刀曾是日本武士的主流佩刀，特點為刀身長，佩戴時刀刃朝下，常以繩索懸於腰間。

這柄特製太刀由明治天皇（西元 1852－1912）下令鍛造，作為創建者奉納之禮贈予湊川神社。其鍛造者是栗原信秀（西元 1815－1881），他是當時著名的刀匠大師，曾為天皇鍛造多把名刀。信秀的技術造詣不僅限於鍛刀，在金工領域同樣享有盛名，曾為多座神社製作並奉納紀念鏡。

<日本語仮訳>

栗原信秀「太刀 銘 信秀」/宝物品

1870 年に鍛造された太刀「銘 信秀」は太刀の型を取る日本刀の優れた見本です。刃の長さは 66.8 センチメートル、そして 1.62 センチメートルのわずかな湾曲が特徴です。太刀は 10 世紀から 16 世紀にかけて武士が携行した主流の刀で、その長さ、しばしば紐で腰から吊るして、刃を下にして着

用するという点で際立っていました。

この特別な太刀は明治天皇（1852～1912 年）の命により鍛造され、創建者の献納として湊川神社に寄進されました。制作者は栗原信秀（1815～1881 年）で、天皇のために数多くの刀を鍛えた名匠です。信秀の技量は鍛冶の域を超えていました。彼は金属加工の専門家としても知られ、神社に記念の鏡を制作し、献納しました。

【タイトル】 段威腹巻/宝物品・重要文化財

【想定媒体】 Web

<簡体字>

段威腹巻（楠木正成所着）

相传，这副段威腹巻为名将楠木正成(1294-1336)所着，曾由龙野藩（今兵库县）藩主脇坂家族作为传家之宝珍藏三个世纪，后于 1891 年捐予湊川神社。该铠甲已被指定为日本国宝。

穿着时，需将段威腹巻缠在躯干上，并以背后的绳带固定。铠甲主体由大量涂漆硬化的小型防护甲片编缀而成。所有甲片均采用横向层叠的编连方式，该技法被称作“段威”。段威腹巻专为步战时的机动性和快速行进而设计，大幅提升了活动灵活度。14 世纪战争形态从马背上的对决转变为更频繁的徒步作战，这种轻量而坚固的结构反映了当时的实用设计需求。

<繁体字>

楠木正成穿戴過的段威腹巻

這副段威腹巻相傳為名將楠木正成（西元 1294－1336）所穿戴，曾由龍野藩（今兵庫縣）藩主脇坂家族作為傳家之寶珍藏三個世紀，後於西元 1891 年捐贈給湊川神社。該鎧甲已被指定為日本國寶。

穿著時，需將段威腹巻纏在軀幹上，並以背後的繩帶固定。鎧甲主體由大量塗漆硬化的小型防護甲片編綴而成。所有甲片均採用橫向層疊的編連方式，該技法稱為「段威」。段威腹巻專為提升步戰的機動性與速度而設計，賦予穿戴者更大的行動自由。14 世紀戰爭形態從馬背上的對決轉變為更頻繁的徒步作戰，這種輕量而堅固的結構反映了當時的實用設計需求。

<日本語仮訳>

段威腹巻/宝物品・重要文化財

この紐で締める胴鎧（段威腹巻）は、高名な武将 楠木正成（1294～1336 年）が着用したものとされています。龍野藩（現在の兵庫県）藩主の脇坂家が家宝として 3 世紀にわたり保存した

後、1891 年に湊川神社に寄進されました。この鎧は国宝に指定されています。

胴体に巻き付けて背中で紐で締めるこの鎧は、漆を塗り硬化させた無数の小さな鱗札で構成されています。これらの鱗札は水平方向に幾重にも重ねてつなが合わされています；段威という名前で知られる技法です。徒歩での機動性と速度を重視した設計となっているこの鎧は、より自由に動くことを可能にしました。軽量でありながら頑丈な構造は、戦が騎馬戦からもっと頻繁な歩兵戦へと移行していく中で、14 世紀の戦場に実戦的な設計が反映されたものです。

【タイトル】 段威腹巻/宝物品・重要文化財

【想定媒体】 看板

<簡体字>

段威腹巻（楠木正成所着）

相传，这副段威腹巻为名将楠木正成(1294-1336)所着，曾由龙野藩（今兵库县）藩主脇坂家族作为传家之宝珍藏三个世纪，后于 1891 年捐予湊川神社。该铠甲已被指定为日本国宝。

武士铠甲的演进历程

武士铠甲在数百年间的显著演变，体现了战争的变迁历程。早期形制如平安时代(794-1185)的沉重箱型“大铠”，主要为满足骑射需求。然而，随着 14 世纪步战渐成主流，更加轻便灵活的铠甲类型应运而生。

腹巻是一种护腹甲胄，以背后的绳带固定，由大量涂漆硬化的小型防护甲片编缀而成。这些甲片通过段威工艺横向层叠编连，这种被称作“段威”的技法兼具实用性与装饰性，常以交替色彩营造阶梯状的视觉效果。早期铠甲采用坚实的大块甲板，而腹巻却叠用小型甲片，与武士身体灵活贴合。与大铠相比，腹巻采用环绕式设计，降低了手臂和腰部的束缚感，便于完成步战的转身、弯屈和奔跑动作。各阶层武士均有穿着这款铠甲，其轻量而坚固的结构体现了当时步战日渐频繁的趋势。

16 世纪末，日本引入火器，再度催化变革。旧式腹巻与札甲被当世具足（现代铠甲）取代。该新式铠甲采用坚固的铁板，能更有效地抵御子弹。从坚硬的大铠，到灵活的腹巻，再到以板甲结构为核心的当世具足，这一演进脉络展现了日本铠甲顺应实战需要的演进历程。

<繁体字>

楠木正成穿戴過的段威腹巻

這件段威腹巻相傳為名將楠木正成（西元 1294—1336）所穿戴，曾由龍野藩（今兵庫縣）藩主脇坂家族作為傳家之寶珍藏三個世紀，後於西元 1891 年奉納於湊川神社。該鎧甲已被指定為日本國寶。

武士鎧甲的進化史

武士鎧甲在數百年間大幅改變，體現了戰爭的變遷歷程。早期形式如平安時代（西元 794—1185）的沉重箱型「大鎧」，主要是為了滿足騎馬射箭需求而設計。然而，隨著步

戦在 14 世紀日益普遍，更加輕便靈活的鎧甲類型應運而生。

腹巻是一種護腹甲冑，以背後的繩帶固定，由大量塗漆硬化的小型防護甲片編綴而成。這些甲片透過段威工藝橫向層疊編連，這種名為「段威」的技法兼具實用性與裝飾性，常以交替色彩營造階梯狀的視覺效果。與早期鎧甲剛硬的大塊板狀鎧甲不同，腹巻疊用小型甲片，可貼合武士的身形，並隨動作靈活彎曲。相較於大鎧，腹巻採用環繞式設計，降低了手臂和腰部的束縛感，便於完成步戰的轉身、彎腰和奔跑動作。各階層武士均有穿著腹巻，其輕量而堅固的結構體現了當時步戰日漸頻繁的趨勢。

16 世紀末，火器的引入使盔甲設計需要進一步改良，當世具足（現代鎧甲）取代了舊式腹巻與札甲。該新式鎧甲採用堅固的鐵板，能更有效地抵禦子彈。從堅硬的大鎧到靈活的腹巻，再到以板甲結構為核心的當世具足，這樣的演進脈絡展現了日本鎧甲順應實戰需要的變化。

<日本語仮訳>

段威腹巻/宝物品・重要文化財

この紐で締める胴鎧（段威腹巻）は、高名な武将 楠木正成（1294～1336 年）が着用したものとされています。龍野藩（現在の兵庫県）藩主の脇坂家が家宝として 3 世紀にわたり保存した後、1891 年に湊川神社に寄進されました。この鎧は国宝に指定されています。

武具の進化

武具は、戦の変遷を反映して、数世紀にわたって大きな進化を遂げてきました。平安時代（794～1185 年）の重厚な箱型大鎧などの初期の武具は、主に騎射向けに設計されていました。しかし、14 世紀に歩兵戦が主流となるにつれて、軽量でより柔軟な種類の武具が登場したのです。

腹部を保護し、背中で紐で締める腹巻は、漆を塗り硬化させた無数の小さな鱗札で構成されています。これらの鱗札は水平方向に幾重にも重ねてつなぎ合わされました。機能性と装飾性を兼ね備えた段威という名で知られる技法で、しばしば色を交互に配することで階段状の見た目を創り出していました。従来の鎧に見られる大型で硬質の板とは異なり、小さな鱗札が重なり合うことで、腹巻は武士の身体の動きに合わせて柔軟に曲がることを可能にしました。巻き付けるようなデザインは、大鎧と比べて腕や腰周りの動きを制限せず、徒歩での戦闘に必要な体を捻る動作、屈伸、走りを容易にしたのです。あらゆる階級の武士に着用された腹巻は、軽量でありながら頑丈な構造を特徴とし、当時の歩兵戦の増加を反映しています。

16 世紀後半には火器の導入によりさらなる変化が求められました。古い腹巻や薄片鎧は、弾丸に対する抵抗性を高めるために固い鉄板を用いた当世具足（現代の鎧）に取って代わられました。硬い大鎧から柔軟な腹巻へ、そして最終的に板物を使用する当世具足への進化は、日本の鎧が戦の現実の変化にどう対応したかを示しています。

【タイトル】法華經奥書/宝物品・重要文化財

【想定媒体】Web

<簡体字>

楠木正成亲笔跋文

此藏品为湊川神社至宝之一，是楠木正成(1294-1336) 手抄《法华经》写本的跋文，亦是现存唯一以汉字楷书书写的楠木手书真迹；楷书以字形方正、笔画清晰著称。

1333年，日本首个武家政权被推翻后，后醍醐天皇重掌朝纲，恢复天皇亲政。楠木感念于此，特地抄写经书以示忠诚。

跋文中，楠木感恩神明庇佑朝廷平定叛乱、恢复天下太平。他将天皇亲政的成功复辟视为天赐恩典，同时也实现了他长久的夙愿。因此，抄写经书既是楠木感谢神明的具体行为，也是精神上报答神恩的体现。这一文献显示了楠木的戎马生涯不仅出于对天皇的世俗忠诚，更源于他虔诚的宗教信仰——坚信天皇的大业是神明庇佑的正义事业。

这篇跋文已被指定为日本重要文化财产。

<繁体字>

楠木正成親筆跋文

此藏品為湊川神社珍藏的至寶之一，是楠木正成（西元 1294－1336）手書《妙法蓮華經》寫本之跋文，亦是楠木正成現存唯一的漢字楷書手跡；楷書以字形方正、筆畫清晰著稱。

後醍醐天皇成功推翻日本首個武家政權、恢復天皇親政後，楠木為表達對主君的忠誠與奉獻抄寫經書，並於西元 1333 年完成。

在跋文中，楠木感恩神明庇佑朝廷平定叛亂、恢復天下太平。他將皇權恢復視為神恩，其長久夙願終於得以實現。因此，抄寫經書成為楠木正式且具體的感恩之舉，也是對這份宗教恩義的回報。該文表明，楠木的戎馬生涯不單是出於世俗忠心，更源於虔誠的宗教信仰——堅信天皇的大業是神明庇佑的正義之舉。

這篇跋文已被指定為日本重要文化財產。

＜日本語仮訳＞

法華經奥書/宝物品・重要文化財

これは湊川神社の最も貴重な宝物の1つです。楠木正成（1294～1336年）が写経した法華經の跋文です。明瞭で角ばった文字で知られる、漢字の正式な楷書体で書かれた彼の筆跡が現存する唯一の写本です。

楠木は、主君である後醍醐天皇が日本初の武家政権の打倒に成功し、天皇直轄の政治回復という勝利を手にした後、その忠誠の証として1333年にこの法華經を完成させました。

跋文で楠木は、反乱鎮圧、国の安定と平和を神々に感謝しています。彼は、天皇の権威が成功裏に回復したことを、長年抱いてきた願いの直接的な成就であり、また神からの計り知れない恩恵であると考えました。したがって、經典の写経は、彼の感謝の念を正式かつ具体的な形で表す行為であり、そしてこの精神的恩義に報いる行為となるものだったのです。この書は、彼の武将としての活動が世俗的な忠誠心だけでなく、天皇の大義こそが正義であり、また神聖なる御加護に浴しているという深い宗教的信念にも根ざしていたことを明確に示しています。

この跋文は重要文化財に指定されています。

【タイトル】法華經奥書/宝物品・重要文化財

【想定媒体】看板

<簡体字>

楠木正成亲笔跋文

此藏品为湊川神社至宝之一，是楠木正成(1294-1336)手书《法华经》写本的跋文，亦是现存唯一以汉字楷书写就的楠木真迹；楷书以字形方正、笔画清晰著称。这篇工整严谨的书法作品，是楠木高度专注与信仰虔诚的有力佐证。这份特质源自伴其终生的佛学修养。

楠木主君后醍醐天皇成功推翻日本首个武家政权后，楠木为表虔敬特抄此经卷，并于1333年完成。事件史称“建武新政”，长达150年的幕府军事统治就此终结，天皇亲政短暂恢复。

《法华经》作为佛教要典之一，是天台宗和日莲宗等日本诸多佛教宗派的立宗之本。日本殖民台湾期间，对《法华经》的信仰伴随日本佛教传入当地，继而融入寺院教育体系与普通信众团体的修行活动。时至今日，在台湾佛教的部分分支中，仍能窥见这一历史影响的印记。对武士而言，认真抄写经文是修心之法。抄经所需的专注力与战场克敌的定力一脉相承。同时，抄经也是积累功德的重要途径，用以祈愿君主长寿顺遂、国家安定繁荣。

跋文中，楠木诚挚感恩神明庇佑朝廷平定叛乱、恢复天下太平。他认为，皇权成功复辟不仅仅是单纯的政治胜利，还是意义非凡的神赐恩典，是其长久夙愿的直接应验。

因此，楠木特抄经书，既为以物质形式郑重表达感激之情，亦为接受神明恩泽而还愿。该跋文表明，楠木戎马与政治生涯的根基不仅源自世俗的忠心，还源自他虔诚的宗教信仰，他坚信天皇所为是正义之举，并且受到神明庇佑。

这篇跋文已被指定为日本重要文化财产。

<繁体字>

楠木正成親筆跋文

此藏品為湊川神社珍藏的至寶之一，是楠木正成（西元 1294－1336）手書《妙法蓮華經》寫本之跋文，亦是楠木正成現存唯一的漢字楷書手跡；楷書以字形方正、筆畫清晰著稱。這件工整嚴謹的書法作品，體現了楠木高度的專注力及對信仰的虔誠。這份特質源於他自幼接受的佛教教育，並貫徹其一生。

後醍醐天皇成功推翻日本首個武家政權後，楠木為表達對主君的忠誠與奉獻抄寫經書，

並於西元 1333 年完成。事件史稱「建武新政」，長達 150 年的幕府軍事統治就此終結，短暫恢復天皇親政。

《妙法蓮華經》作為佛教最重要的經典之一，是天台宗和日蓮宗等日本諸多佛教宗派的根本經典。日本殖民台灣期間，對《妙法蓮華經》的信仰伴隨日本佛教傳入，並深入寺院教育體系與信眾團體的修行活動。時至今日，在台灣佛教的部分分支中，仍能窺見這份影響力所留下的痕跡。對武士而言，認真抄寫經文是磨練心性的方式。抄經所需的專注力與戰場克敵的定力一脈相承。同時，抄經也是累積功德的重要途徑，用於祈願君主福壽綿長、大業有成，並保佑國家之精神福祉。

在跋文中，楠木對神明表達了深切的謝意，感恩神明庇佑朝廷平定叛亂、恢復天下太平。他認為，皇權成功復辟不僅是政治勝利，更是神明浩大的恩澤，是其長久夙願的直接應驗。

因此，抄寫經書成為楠木正式且具體的感恩之舉，也用以回報這份信仰上的恩義。該文表明，楠木的軍事與政治事奉不單是出於世俗忠心，更源於虔誠的宗教信念，即堅信天皇的大業是神明庇佑的正義之舉。

這篇跋文已被指定為日本重要文化財產。

＜日本語仮訳＞

法華經奥書/宝物品・重要文化財

これは湊川神社の最も貴重な宝物の1つです。楠木正成（1294～1336年）が写経した法華經の跋文です。明瞭で角ばった、そして非常に読みやすい文字が特徴の、漢字の正式な楷書体で書かれた楠木の筆跡が現存する唯一の写本です。その精密で美しい筆跡そのものが、楠木の強い集中力と深い信仰心の証であり、彼の仏教教育を通じて培われ、その生涯を通じて維持された資質を示しています。

楠木は、主君である後醍醐天皇が日本初の武家政権の打倒に成功した後、その忠誠の証として1333年にこの法華經を完成させました。建武の親政として知られるこの出来事は、150年に及ぶ武家政権を終わらせ、天皇直轄の統治を一時的に回復させました。

この法華經は仏教において最も重要な經典の1つで、天台宗や日蓮宗を含む日本の仏教宗派の根本となる經典です。また、日本統治時代の台湾においても、日本仏教の伝播とともに法華經信仰が伝えられ、寺院教育や在家信仰の中で受容されました。現在の台湾仏教においても、その影響は一部に受け継がれています。武士にとって、經典を写経するという緻密な行為は、戦で必要とされる集中力を映しだした精神修養でした。仕える主君の長寿と成功、そして国家の精神的安寧に捧げるべく宗教的功德を積むために必要な修行だったのです。

跋文で楠木は、反乱鎮圧、国の安定と平和を神々に深く感謝しています。彼は、天皇の権威が成功裏に回復したことを、単なる政治的な勝利だけではなく、長年抱いてきた願いが直接成就された、神からの計り知れない恩恵であるとみなしました。

経典の写経は、彼の感謝の念を正式かつ具体的な形で表す行為であり、そしてこの精神的恩義に報いる行為となるものだったのです。この書は、彼の武将かつ政治としての活動が世俗的な忠誠心だけでなく、天皇の大義こそが正義であり、また神に認められているという深い宗教的信念にも根ざしていたことを明確に示しています。

この跋文は重要文化財に指定されています。

【タイトル】 宝物殿・段威腹巻・法華經奥書/宝物品・重要文化財

【想定媒体】 その他

<簡体字>

铭记英雄：湊川神社珍宝

湊川神社的宝物殿收藏着与 14 世纪名将楠木正成相关的珍贵文物。1336 年，这位备受尊崇的武将在湊川之战中为效忠天皇而殉节。凭借其至死不渝的忠义与自我牺牲的精神，他被世人奉为武士道之典范。神社宝物殿内陈列着刀剑甲冑，并设有楠木生平事迹展。馆藏包含楠木私人物品，以及后世受其精神感召而创作的艺术作品。

楠木所着铠甲

相传，这件绑绳式胴甲为楠木所着，曾作为大名望族的传家之宝珍藏三个世纪，后于 1891 年捐予湊川神社。该铠甲已被指定为日本国宝。

穿着时，需将铠甲缠在躯干上，并以背后的绳带固定。铠甲主体由大量涂漆硬化的小型防护甲片横向层叠编连而成，专为步战时的机动性和快速行进而设计，活动灵活度较早期形制有大幅提升。14 世纪的战争形态从马战向步战逐步过渡，这种轻量而坚固的结构，恰恰体现了当时的实战化设计理念。

楠木正成手迹

这份手书真迹是神社最珍贵的文物之一。它是楠木手书《法华经》写本的跋文。

楠木主君后醍醐天皇成功推翻日本首个武家政权。此后，楠木为表忠心特抄经书，并于 1333 年完成。该事件史称“建武新政”，终结长达 150 年的幕府军事统治，天皇亲政短暂恢复。

跋文中，楠木感恩神明应允其祈愿，助其平定叛乱、恢复天下太平。他认为天皇亲政复归既是一场政治胜利，也是一次天佑神助。

楠木抄经之举既为郑重表达感激之情，也是对这份宗教恩义的回报。该文表明，楠木戎马生涯的根基源自一种坚定信念，即天皇所为是天命所归的正义之举。

楠木精神启迪的艺术作品

宝物殿亦展有后世为致敬楠木而创作的艺术作品，见证着其不朽的魅力。藏品包含一柄太刀（长刀）和两幅日本著名画家绘制的肖像。

这柄单刃太刀由明治天皇敕令铸造，并于 1872 年作为创社纪念捐予湊川神社。其锻造者是曾为天皇铸造多柄宝刀的著名刀匠——栗原信秀。

两幅著名肖像画则为纪念楠木而作。一幅由横山大观于 1935 年绘就，以纪念楠木逝世 600 周年。画作展现这位武将在湊川之战前，身着华美服饰、安然端坐的形象。

第二幅肖像画则由前田青邨于 1945 年绘就，展现楠木全副武装、策马出征的英姿。这一形象在凸显武将勇武雄风的同时，与东京皇居前方矗立，于 1889 年制作的著名楠木骑马铜像遥相呼应。此画原受日本海军兵学校所托创作，在第二次世界大战结束之际捐予湊川神社。

〈繁体字〉

銘記英雄：湊川神社珍寶

在湊川神社的寶物殿內，收藏著與 14 世紀名將楠木正成相關的珍貴文物。西元 1336 年，這位備受尊崇的武將在湊川之戰中為效忠天皇而捐軀。因至死不渝的忠義與自我犧牲的精神，世人奉其為武士道典範。神社寶物殿內陳列武士刀和甲冑，並設有楠木生平事蹟展。藏品包含楠木本人的遺物，以及後人受其事蹟感召而創作的作品。

楠木所穿戴的鎧甲

相傳，這件綁繩式胴甲為楠木所穿戴，曾作為大名望族的傳家之寶珍藏三個世紀，後於西元 1891 年奉納於湊川神社。該鎧甲已被指定為日本國寶。

穿著時，需將鎧甲纏在軀幹上，並以背後的繩帶固定。鎧甲主體由大量塗漆硬化的小型防護甲片組成，並橫向層疊編連而成。相較於早期款式，此設計注重於提升步戰時的機動性與速度，賦予穿戴者更大的行動自由。這種輕量而堅固的結構，正是為了因應 14 世紀戰爭形態轉變的實用設計，當時的作戰方式從馬背上的對決轉變為步戰。

楠木正成手跡

這份手書真跡是神社最珍貴的文物之一，是楠木手書《妙法蓮華經》寫本之跋文。

後醍醐天皇成功推翻日本首個武家政權、恢復天皇親政後，楠木為表達對主君的忠誠與奉獻抄寫經書，並於西元 1333 年完成。該事件史稱「建武新政」，終結長達 150 年的幕府軍事統治，短暫恢復天皇親政。

在跋文中，楠木感恩神明成全了他的願望，讓朝廷平定叛亂、恢復天下太平。他將皇權恢復視為一場政治勝利，更是一次天佑神助。

抄寫經書成為楠木正式且具體的感恩之舉，也用以回報這份信仰上的恩義。該文表明，楠木的戎馬生涯出於堅定信念，認為天皇大業是受神明認可的正義之舉。

受楠木精神啟迪的藝術作品

寶物殿亦展有後世為致敬楠木精神而創作的藝術作品，可見其魅力至今不減。藏品包含一把太刀（長刀），以及兩幅由日本著名畫家繪製的肖像畫。

這把單刃太刀由明治天皇下令鍛造，並於西元 1872 年作為創社紀念奉納於湊川神社，其鍛造者是栗原信秀，他是當時著名的刀匠大師，曾為天皇鍛造多把名刀。

兩幅著名肖像畫則為紀念楠木而作，一幅由橫山大觀於西元 1935 年繪製，紀念楠木逝世 600 週年。畫作展現這位武將在湊川之戰前，身著華美服飾、安然端坐的形象。

第二幅肖像畫則由前田青邨於西元 1945 年完成，描繪楠木全副武裝、策馬出征的英姿。這種視覺意象既展現了武將的英勇戰技，也與東京皇居前方矗立，於西元 1889 年製作的著名楠木騎馬銅像遙相呼應。此畫原受日本海軍兵學校所託創作，在第二次世界大戰結束之際捐贈給湊川神社。

<日本語仮訳>

宝物殿・段威腹巻・法華經奥書/宝物品・重要文化財

湊川神社の宝物殿は、14 世紀の著名な武將 楠木正成に関連する貴重な遺物を収蔵している場所です。この崇敬される武將は、1336 年の湊川の戦いで天皇のためにその命を捧げました。彼の揺るぎない忠誠と自己犠牲の心により、楠木は理想的な武士道の模範として称えられています。神社の宝物殿には、刀や鎧などの武具に加え、楠木の生涯に関する展示もあります。収蔵品には、楠木個

人が所有していた品々や、彼の功績に因んで制作された作品もあります。

楠木が着用した鎧

この紐で締める胴鎧は、楠木が着用したと言われています。有力な大名家の家宝として 3 世紀にわたり保存された後、1891 年に湊川神社に寄進されました。この鎧は国宝に指定されています。

この鎧は胴体に巻き付けられ、背中で紐で締めるようになっています。漆を塗り硬化させた無数の小さな鱗札を、水平方向に幾重にも重ねてつなぎ合わせて作られています。地上での機動性と速度を重視した設計となっているこの鎧は、従来の型よりも自由に動くことを可能にしました。軽量でありながら頑丈な構造は、戦が騎馬戦から歩兵戦へと移行していく中で、14 世紀の戦場に実戦的な設計が反映されたものです。

楠木の直筆

この神社が所蔵する最も貴重な遺物の 1 つが、この直筆の書簡です。楠木により書かれた法華経写経の跋文です。

楠木は、主君である後醍醐天皇が日本初の武家政権の打倒に成功した後、その忠誠の証として 1333 年にこの法華経を完成させました。建武の新政として知られるこの出来事は、150 年に及ぶ武家政権を終わらせ、天皇直轄の統治を一時的に回復させました。

跋文で楠木は、反乱鎮圧、国の安定と平和を願う彼の祈りの成就に対して神々に感謝しています。彼は、天皇の権威の回復を、政治的な勝利だけではなく、神からの計り知れない恩恵であるとみなしました。

経典の写経は、彼の感謝の念を正式な形で表す行為であり、そしてこの精神的恩義に報いる行為となるものだったのです。この書は、彼の武将としての活動が、天皇の大義こそが正義であり、また神に認められているという深い宗教的信念に根ざしていたことを明確に示しています。

楠木の功績に因んで制作された遺物

宝物殿はこの武将の功績に捧げられた芸術的作品も展示しており、彼の永続的な魅力を明らかにしています。これらの品々には太刀と、著名な日本画家による 2 点の肖像画があります

この片刃の太刀は明治天皇の命で制作され、1872 年に湊川神社の創建を記念して寄進されました。制作者は栗原信秀で、天皇のために数多くの刀を鍛えた名匠です。

2 点の肖像画は楠木を記念する作品です。横山大観は 1935 年に楠木の没後 600 年を記念してこの肖像画を制作しました。この作品には、湊川の戦いを前に、精巧な衣装をまとった武将が静かに座る姿が描かれています。

2 つ目の肖像画は、前田青邨が 1945 年に制作したもので、全身を鎧に包まれた楠木が自身の馬に跨り出陣する姿を描いています。この肖像画はこの武将の軍人らしい勇敢さを伝えており、東京の皇居前に立つ 1889 年制作の有名な楠木の銅像を彷彿とさせます。元々は日本海軍兵学校からの依頼で制作されましたが、肖像画は第二次世界大戦終結時に湊川神社に寄贈されました。

【タイトル】 横山大観筆「大楠公像」/宝物品

【想定媒体】 看板/Web

＜简体字＞

横山大观绘《大楠公像》

1935 年，为纪念楠木正成(1294–1336)逝世 600 周年，横山大观(1868–1958)执笔绘就这副肖像画。画作展现了这位备受敬仰的武将在湊川之战前，身着华美服饰与甲冑，安然端坐的形象。一段广为人知的轶事是，横山在创作时，让儿子身披铠甲作为楠木的形象模特。

画中，楠木神情镇定自若，为护卫主君后醍醐天皇而整装待发。他右手执扇，象征王军统帅之权。值得注意的是：画作上部松枝之间隐约可见楠木家徽——“菊水纹”，即皇室菊纹浮于水上。相传，此家徽是后醍醐天皇亲赐，旨在表彰楠木的忠勇。

横山大观作为日本近代艺术巨匠，在创作中融合传统日本技法与西方艺术元素，以革新日本画而闻名遐迩。在东京美术学校学成后，他深受美术评论家冈仓天心(1863–1913)的影响，后者鼓励他在日本美学框架内开拓创新。横山大观的作品在 20 世纪初期推动日本画赢得国际认可。他作为日本美术院的创立者之一，因杰出贡献而屡获殊荣。

＜繁体字＞

横山大觀繪《大楠公像》

這副肖像畫是橫山大觀（西元 1868–1958）於西元 1935 年，為紀念楠木正成（西元 1294–1336）逝世 600 週年而作。畫作展現這位武將在湊川之戰前，身著華美服飾、安然端坐的形象。一段廣為人知的軼事是，橫山當時特意讓兒子穿上盔甲擔任模特兒。

畫中的楠木正成神情鎮定自若，準備好投身戰場以護衛主君後醍醐天皇，他右手執扇，象徵勤王軍統帥之權。值得注意的是，畫作上部的松枝之間可見到楠木家徽「菊水紋」（即浮於水上的皇室菊紋）。相傳，此家徽是後醍醐天皇為了表彰楠木的英勇與忠誠，親賜予他的榮譽象徵。

橫山大觀是日本現代藝術的重要人物，他最著名的成就在於將日本傳統繪畫技法與西方元素融合，為日本畫注入新生命。在東京美術學校學成後，他深受美術評論家岡倉天心（西

元 1863－1913) 的影響，岡倉鼓勵他在日本美學框架內開拓創新。橫山大觀的作品是在 20 世紀初期讓日本畫贏得國際認可的重要推手。他作為日本美術院的共同創立者之一，因傑出貢獻而屢獲殊榮。

<日本語仮訳>

横山大観筆「大楠公像」/宝物品

この肖像画は、横山大観（1868～1958 年）が、楠木正成（1294～1336 年）の没後 600 年を記念して 1935 年に完成させたものです。湊川の戦いを前に、上質な衣と鎧を身にまとい、鎮座する尊き武将を描いています。横山は、鎧を身にまとった自身の息子をその武将のモデルにしたことで知られています。

肖像画で楠木は、自身の主君である後醍醐天皇を守るため、戦いに臨もうと備える静かな表情を湛えています。彼が右手に扇を握りしめる姿は、忠臣たちの軍勢に対する彼の権威を象徴しています。特筆すべきは、楠木の家紋である菊水紋（皇室の菊が水面に浮かぶ様子をあしらったもの）が上部の松の枝の間から確認できることです。この家紋は後醍醐天皇が楠木の勇敢さと忠誠心を称え、彼に自ら授けたものと伝えられています。

横山大観は日本の近代美術において重要な人物で、日本の古典的な技法と西洋の影響を融合させることで日本画の様式を再活性化させたことで非常によく知られています。東京美術学校で学んだ後、彼は美術評論家の岡倉天心（1863～1913 年）に深い影響を受けました。岡倉は、日本の美学の枠組みの中での彼の革新的なアプローチを奨励したのです。横山の作品は 20 世紀初頭に日本画を国際的な認知を得る上で重要な役割を果たしました。彼は日本美術院の共同設立者であり、その功績により数々の栄誉を受けました。

【タイトル】 前田青邨筆「大楠公」/宝物品

【想定媒体】 看板/Web

＜簡体字＞

前田青邨绘《大楠公》

名将楠木正成(1294–1336)的这幅肖像画由前田青邨(1885–1977)于 1945 年绘就。画中，楠木全副武装，手持刀剑与弓矢，正欲策马出征。这一雄健形象展现了武将的英勇气概，亦与其他著名英姿雕像遥相呼应，如东京皇居二重桥附近，于 1889 年制作的楠木骑马铜像）。

前田青邨作为传统日本画巨匠，以细腻笔触、柔和用色与雅致构图著称。其作品常取材于历史事件、古典文学作品和静谧景致。前田于东京美术学校学成后，成为 20 世纪日本画坛核心人物，在日新月异的现代化浪潮中，为文化传承作出重要贡献。

此画原受日本海军兵学校所托创作，在第二次世界大战结束时捐予湊川神社。

＜繁体字＞

前田青邨繪《大楠公》

這幅名將楠木正成（西元 1294—1336）的肖像畫由前田青邨（西元 1885—1977）於西元 1945 年繪製。畫中楠木全副武裝，手持佩刀與弓箭，正欲策馬出征。這種氣勢十足的視覺意象不僅展現了武將的戰技，也與其他著名的英雄形象呈現遙相呼應，例如東京皇居二重橋附近，於西元 1889 年製作的楠木騎馬銅像。

前田青邨是傳統日本畫巨匠，以細膩筆觸、柔和用色與雅緻構圖著稱，其作品常取材自歷史事件、古典文學作品和靜謐景致。前田於東京美術學校學成後，成為 20 世紀日本畫壇核心人物，在日新月異的現代化浪潮中，為文化傳承作出重要貢獻。

此畫原受日本海軍兵學校所託創作，在第二次世界大戰結束時捐贈給湊川神社。

＜日本語仮訳＞

前田青邨筆「大楠公」/宝物品

崇敬される武将、楠木正成（1294～1336 年）を描いたこの肖像画は、前田青邨（1885～1977 年）により 1945 年に制作されました。鎧を全身にまとい、刀と弓矢を手にした楠木が馬に乗り、出陣する様子が力強く描かれています。この力強い肖像画はこの武将の軍人らしい勇敢さを表現し、東京の皇居の二重橋近くにある 1889 年制作の著名な楠木の銅像など、その他の立派な英雄の姿を彷彿とさせます。

日本画という伝統的な絵画様式の巨匠である前田は、彼の緻密な筆致、繊細な色彩、優雅な構図で高く評価されました。彼の作品は歴史的出来事や、古典文学の場面、静謐な風景をよく題材としています。東京美術学校で学んだ後、前田は 20 世紀の日本美術における影響力ある人物となり、急速な近代化の時代において文化の保存に大きく貢献しました。

肖像画は元々は日本海軍兵学校からの依頼で制作されました、第二次世界大戦終結時に湊川神社に寄贈されました。

【タイトル】 宝物殿/大楠公御一代記

【想定媒体】 看板

<簡体字>

楠木正成生平事迹展

此展呈现名将楠木正成(1294-1336)生平的重要场景，他被后世尊为忠勇的化身。

最初，楠木因支持后醍醐天皇(1288-1339)反抗日本首个武家政权——镰仓幕府而崭露头角。天皇力图推翻幕府，恢复延续已久的天皇亲政传统。1333年，后醍醐天皇在楠木等忠臣的辅佐下成功推翻幕府，开创了史称“建武新政”的时期。

朝廷重掌政权不久，便遭到以大将足利尊氏(1305-1358)为首的武士阶层内部的强烈抵制。至1336年，冲突全面激化，尊氏举兵反叛，同年爆发湊川之战。在这场关键战役中，楠木所率兵力虽处绝对劣势，却仍英勇奋战，成功延缓尊氏进军，确保朝廷要员安全撤离，让皇业大统得以延续。

尽管楠木军殊死搏斗，最终仍遭足利军合围歼灭。楠木与胞弟、家臣毅然切腹自尽，宁死不降。后世因楠木最后的牺牲和对君主至死不渝的忠诚，将其奉为武士道精神的杰出典范。

本展所陈列的13组立体透视模型，取材于14世纪的军记物语《太平记》，以戏剧化手法展现楠木的生平事迹。部分重要场景如下：

1. 少年时代

少年楠木在观心寺（位于今大阪府）师从僧侣龙觉坊修学。

楠木自幼接受佛法教育，终生虔信不渝。

2. 应召觐见后醍醐天皇

图中前景，楠木在笠置寺（位于今京都府）跪地觐见后醍醐天皇。

当时，天皇已经秘密逃离京都，募集勤王之师对抗镰仓幕府；楠木是少数应天皇之召前来驰援的将领之一。画中的楠木正立誓效忠天皇、匡扶社稷。

3. 下赤坂城之战

在今大阪府境内的山中小城，楠木准备迎击幕府大军。

虽然他已精心布防，周密部署投石、泼洒沸水等战略，却仍因兵力悬殊而难以久守。固守约三周后，楠木决意冒险突围。他命令残部佯装集体自尽，并纵火烧城，趁乱潜入同样位于今大阪府，更为险固的千早城。

4. 千早城之战

楠木率军守卫千早城，迎战估计逾十万的幕府大军。

楠木以仅约千人之众，借助险峻地势，运用佯攻、设陷、布设疑兵等游击战术，成功阻击并拖延敌军数月之久。千早城攻防战成功牵制幕府主力大军，致其兵疲财竭，政权的脆弱暴露无遗。幕府久攻不克的消息广为流传，以足利氏为首的其他强藩意志出现动摇，最终背弃源氏幕府，转而归附朝廷，为日后武家政权的倾覆埋下伏笔。

7. 足利尊氏倒戈

楠木向天皇近臣献策，提出击败武家首领足利尊氏的建议。

最初，尊氏一度支持朝廷对抗幕府，随后却倒戈相向，意图自立为新的幕府将军。当尊氏军逼近都城时，楠木力谏避免正面迎战，主张撤离京都，诱敌深入，再以战略包围，困锁孤立的足利军。然而，此策却遭天皇近臣斥为怯懦且不谙政理。他们执意坚守都城，正面迎敌。

8. 樱井之别

楠木与年幼的嫡子正行(1326-1348)诀别，正行恳求随父出征迎战足利尊氏。这悲怆一幕发生在樱井驿站，位于楠木从故里前往京都的途中。

楠木深知此行一去不返，严令儿子返乡好好生活，嘱咐其毕生以为父报仇、匡扶皇业为志。

9. 湊川之战

1336年5月25日，湊川战场箭矢如雨，楠木率军发起猛攻，足利尊氏一度败退。

尽管兵力悬殊，将士们依旧英勇杀敌，与尊氏大军从清晨鏖战至黄昏。然而，随着战事接近尾声，楠木麾下仅余零星骑兵，败局已定。

10. 楠木一族殉节

切腹自尽之前，楠木与胞弟正季共度临终时光。

楠木、其胞弟和幸存家臣面临被俘之辱，向北撤离至今湊川神社所在地，决意在此殉节。在拔刀之际，正季留下千古名言：“愿七生报国！”誓愿轮回转世，继续效忠朝廷，讨伐逆贼。楠木深表赞同，随即最后一次拔出佩刀。

<繁体字>

楠木正成生平事蹟展

此展覽呈現名將楠木正成（西元 1294—1336）生平重要場景，他被後世尊為忠勇的化身。

最初，楠木因支持後醍醐天皇（西元 1288—1339）反抗日本首個武家政權——鎌倉幕府而嶄露頭角。天皇力圖推翻幕府，恢復延續已久的天皇親政傳統。西元 1333 年，後醍醐天皇在楠木等忠臣的輔佐下成功推翻幕府，開創了史稱「建武新政」的時期。

朝廷重掌政權不久，便遭到大將足利尊氏（西元 1305—1358）為首的武士階層內部

的強烈抵制。至西元 1336 年，衝突全面激化為公開造反，尊氏舉兵反叛，同年爆發湊川之戰。在這場關鍵戰役中，楠木所率兵力雖處絕對劣勢，卻仍英勇奮戰，成功延緩尊氏進軍，確保朝廷要員安全撤離，讓皇權正統得以延續。

儘管楠木軍拼死奮戰，最終仍遭足利軍包圍並擊潰。楠木、其弟與家臣毅然切腹自盡，寧死不降。後世因楠木最後的犧牲和對君主至死不渝的忠誠，將其奉為武士道精神的傑出典範。

本展覽所陳列的 13 組立體透視模型，取材於 14 世紀的編年體史書《太平記》，將楠木的生平事蹟美化後呈現。部分重要場景如下：

1. 少年時代

少年楠木於觀心寺（位於今大阪府）師從僧侶龍覺坊修學。

楠木自幼接受佛法教育，終其一生皆為虔誠的佛教徒。

2. 奉詔覲見後醍醐天皇

圖中前景，楠木在笠置寺（位於今京都府）跪地覲見後醍醐天皇。

當時天皇已秘密逃離京都，募集勤王之師對抗鎌倉幕府；楠木是少數應天皇之召前來馳援的將領之一。畫中的楠木正立誓效忠天皇、報效國家。

3. 下赤坂城之戰

在今大阪府境內的山中小基地，楠木準備迎擊幕府大軍。

雖然他已精心佈防，周密部署投石、潑灑滾水等戰術，卻仍因兵力懸殊而難以久守。固守約三週後，楠木決意冒險突圍。他命令殘餘的部隊佯裝集體自盡，並縱火燒城，趁亂脫身轉往同樣位於今大阪府，更為險固的千早城。

4. 千早城之戰

楠木率軍守衛千早城，迎戰估計超過十萬人的幕府大軍。

楠木以僅約千人之眾，利用險峻地勢和佯攻、設陷阱、佈置疑兵等游擊戰術，成功阻擊並拖延敵軍數月之久。千早城攻防戰成功牽制幕府主力大軍，不僅消耗其資源，更暴露了政權的虛弱。幕府久攻不克的消息廣為流傳，以足利氏為首的其他勢力強大、立場動搖的武家，最終背棄源氏幕府，轉而投向朝廷，為日後武家政權的傾覆埋下伏筆。

7. 足利尊氏反叛

楠木向天皇近臣獻策，提出擊敗武家首領足利尊氏的建議。

尊氏最初支持朝廷對抗幕府，隨後卻倒戈相向，意圖自立為新的幕府將軍。當尊氏軍逼近都城時，楠木力諫避免正面迎戰，主張撤離京都，誘敵深入，再以戰略包圍並封鎖孤立的足利軍。然而，此策卻遭天皇近臣斥為怯懦且有損朝廷威嚴。他們執意堅守都城，正面迎敵。

8. 櫻井之別

楠木與年幼的嫡子正行（西元 1326—1348）訣別，正行懇求隨父出征迎戰足利尊氏。這段令人動容的場景，發生在楠木從故里前往京都路上的櫻井驛站。

楠木深知此行一去不返，嚴令兒子回到家鄉好好活下去，囑託他餘生要以報父仇為志，確保皇室大業能延續不絕。

9. 湊川之戰

西元 1336 年 5 月 25 日，湊川戰場箭矢如雨，楠木率軍發起猛攻，足利尊氏一度敗退。

儘管兵力懸殊，將士們依舊英勇殺敵，與尊氏大軍從清晨戰至傍晚。然而，隨著戰事接近尾聲，楠木身邊僅剩一小群騎兵，敗局已定。

10. 楠木一族殉節

切腹自盡之前，楠木正成與其弟正季共度臨終時光。

楠木正成、其弟與倖存家臣面臨被俘之辱，向北撤離至今湊川神社所在地，決意在此殉節。在拔刀之際，正季留下「七生報國！」這句名言，誓願轉世後繼續效忠朝廷，討伐逆賊。正成深表贊同，隨即最後一次拔出佩刀。

<日本語仮訳>

宝物殿/大楠公御一代記

この展示は、高名な武將、楠木正成（1294～1336 年）の生涯の重要な場面を紹介しています。彼は忠誠心と勇敢さの象徴として崇められている人物です。

楠木は当初、鎌倉幕府という日本初の武家政権に対する後醍醐天皇（1288～1339 年）の闘争を支援することで名を上げました。天皇は、長きにわたる天皇統治の伝統を復活させるため、幕府を打ち倒そうとしました。そばで仕える楠木などの忠臣たちに支えられ、後醍醐天皇は 1333 年に幕府を倒すことに成功し、建武の親政として知られる時代を迎えました。

しかし、朝廷の権威回復はすぐに、有力な武將、足利尊氏（1305～1358 年）率いる武士階級内部からの抵抗に直面したのです。1336 年までに、この対立は尊氏の指揮下で公然たる反乱へと発展し、最後はその同じ年に湊川の戦いとなりました。この重要な戦いにおいて、楠木は多勢に無勢でありながら、尊氏の進撃を遅らせるべく勇敢に戦い、要人の安全な撤退と天皇が掲げる大義の存続を確かなものにしました。

しかし、その英雄的な奮闘にもかかわらず、楠木の軍勢はついに尊氏の軍に包囲され、壊滅してしまいました。捕らえられるという不名誉に直面するよりも、楠木、その弟、そして家臣たちは切腹を行ったのです。この最期の犠牲と彼の主君への揺るぎない忠誠により、楠木は武士道の究極の模範として永遠に記憶されることになりました。

ここに展示されている 13 のジオラマは、14 世紀の年代記『太平記』を基に、楠木の生涯における美化された出来事を描写しています。いくつかの主な場面は以下の通りです：

1. 少年時代

若き楠木は、現在の大阪府に位置する観心寺にて、僧 龍覚坊のもとで学びました。

楠木は幼い頃から仏教の教えを受けて、生涯を通して敬虔な仏教徒であり続けました。

2. 後醍醐天皇による召還

この絵の最前面でひざまずいている楠木は、現在の京都にある笠置寺で後醍醐天皇に侍っています。天皇は鎌倉幕府に対抗する忠臣の軍を募るため、密かに京都を離れていたのです。楠木は天皇による支援の命に応じた数少ない武將の 1 人でした。この場面で、楠木は天皇と国家に尽くすことを誓っています。

3. 下赤坂城の戦い

楠木は、現在の大阪府にあたる山間の小さな拠点で、幕府の大軍を迎え撃つ準備を整えています。岩石を落したり、煮えたぎる湯を敵兵にかけたりする戦術など、自身が周到に計画して機知に富んだ防御策を講じましたが、少数の兵力ではいつまでも持ちこたえることはできませんでした。およそ 3 週間に及ぶ包囲攻撃の後、楠木は大胆な脱出を計画しました。自身の残存兵に集団自殺を装わせて城を焼き払わせ、その混乱に乗じてより堅固な千早城（同じく現在の大阪府内）へ脱出することに成功したのです。

4. 千早城の戦い

楠木の軍は、10 万人以上と推定される幕府の大軍に対抗し、千早城を守り抜きます。

わずか 1,000 名ほどの兵を指揮して、楠木は険しい地形を利用し、偽装攻撃や仕掛け罠、偽装軍の展開といった遊撃戦術を駆使して、数か月にわたり攻撃者らを翻弄し、足止めしました。千早の包囲攻撃は幕府主力軍の大半を拘束し、彼らの資源を消耗させ、政権の脆弱性を露呈させました。この失敗は広く知れ渡るようになり、特に足利氏をはじめとする有力で揺れ動く武家氏に対し、ついに源氏主導の幕府を見捨てて皇室側に加わる決断を促し、結果として武家政権の崩壊へとつながったのです。

7. 足利尊氏の裏切り

楠木は天皇の側近たちに計画を持ち掛け、戦国大名 足利尊氏を打ち破るにはどうすればいいか助言を提供します。

尊氏は当初、幕府に対抗する皇室側を支持していましたが、後に反旗を翻し、自らを首班とする新たな幕府の樹立を目論みました。尊氏の軍が都に迫る中、楠木は正面から戦わないように注意しました。その代わりに、彼は京都から退去して、尊氏を都に入らせた後、孤立した足利軍を戦略的に包囲・封鎖すべきだと主張しました。しかし、天皇の側近たちはこの計画を臆病かつ政治的に不適切だと退け、直ちに都を直接防衛することを主張したのです。

8. 桜井の別れ

楠木は自身の幼い息子で後継者の正行（1326～1348 年）に別れを告げます。政匡は父と共に

尊氏との戦いに赴きたいと懇願しました。この切ない別れの場面は、楠木の故郷から都の京都へと続く街道沿いの宿場町、桜井で起きました。

死に向かって進んでいることを覚悟した楠木は、息子に帰郷して生き延び、父の仇討ちと皇室の存続にその生涯を捧げるよう命じました。

9. 湊川の戦い

1336年5月25日の湊川の戦いにおいて、楠木とその兵らが攻勢に出ると、矢の雨が戦の場に降り注ぎ、尊氏を退却させます。

数では大きく劣勢であったにもかかわらず、彼らは勇敢に戦い、早朝から午後の刻の遅くまで、尊氏の軍と交戦しました。しかし、戦いが終盤に差し掛かる頃には、楠木の軍は少数の騎馬隊にまで減少し、敗北は避けられない状況となっていました。

10. 楠木家の殉死

楠木とその弟の正季は、切腹の前に最後の時を共に過ごしました。

捕らえられるという不名誉を前にし、楠木とその弟、そして生き残った家臣たちは北へと逃れ、現在の湊川神社の地にたどり着きました。そこで彼らは最後の決行の場を見つけたのです。刀を抜く際、正季は「7度生まれ変わって、自国のために捧げられんことを」と有名な格言を残し、朝廷の敵との戦いを続けるため、生まれ変わることを誓いました。楠木はこれにうなずくと、最期のために刀を抜きました。

【タイトル】 神能殿/世界遺産「能楽」の祖の祖

【想定媒体】 Web

<簡体字>

神能殿能乐堂

湊川神社的能乐堂旨在纪念武将楠木正成(1294–1336)与能乐师兼剧作者观阿弥清次(1333–1384)、其子世阿弥元清(1363–1443)之间的家族渊源。观阿弥与世阿弥分别是楠木的外甥和外甥孙。

观阿弥和世阿弥将民间表演艺术“猿乐”改造为高度精炼的舞剧“能乐”。父子二人备受尊崇，经常受邀携剧团为天皇献艺。就历史与规模而言，他们创立的“观世流”为五大传统能乐中最古老且规模最大，其名取自二人名讳首字。

这座能乐堂建于 1972 年，采用日本桧木建造，呈现标准的能乐舞台布局：主舞台位于右侧，左侧设有桥挂，舞台后壁绘有青松图案。堂内共有 489 个座位（包括特别包厢席位），呈 L 形环绕主舞台。舞台正对供奉楠木神位的神社主殿，演出也为向楠木致敬而举行。此处是关西地区规模最大的能乐剧场，定期上演能乐等艺术表演。

<繁体字>

神能殿能樂堂

湊川神社能樂堂的建立，是為了紀念武將楠木正成（西元 1294－1336）與能樂師兼劇作家觀阿彌清次（西元 1333－1384）、其子世阿彌元清（西元 1363－1443）之間的家族關係，觀阿彌與世阿彌分別是楠木的外甥和外甥孫。

觀阿彌和世阿彌將民間表演藝術「猿樂」，昇華為高雅精緻的舞劇「能樂」。父子二人備受尊崇，經常受邀攜劇團為天皇獻藝。就歷史與規模而言，他們創立的「觀世流」為五大傳統能樂中最古老且規模最大，其名取自父子兩人姓名的首字。

這座能樂堂建於西元 1972 年，以檜木打造，呈現標準的能樂舞台佈局：主舞台位於右側，左側設有橋掛，舞台後方的背景板繪有青松圖案。場內共有 489 個座位（包括特別包廂席位），呈 L 字形環繞主舞台。舞台正對著奉祀楠木的神社本殿，演出也為向楠木致敬而舉行。此處是關西地區規模最大的能樂劇場，定期上演能樂等藝術表演。

＜日本語仮訳＞

神能殿/世界遺産「能楽」の祖の祖

湊川神社の能楽堂は、武将楠木正成（1294–1336）と能楽師兼作家の観阿弥清次（1333–1384）とその息子世阿弥元清（1363–1443）の血縁関係を記念しています。観阿弥は楠木の甥、世阿弥は楠木の大甥にあたります。

観阿弥と世阿弥は猿楽として知られる大衆演劇を、能と呼ばれる高度に洗練された舞踊劇に変貌させました。この父子は非常に尊敬され、しばしば一座とともに天皇のために公演するよう招かれました。彼らが創設した流派である観世は、能の伝統的五流派の中で最古かつ最大のもので、その名称は、彼らの名前の最初の部分を組み合わせたものです。

1972 年に檜で建てられたこの劇場は、典型的な能舞台の配置になっています。本舞台が右側、橋掛かりが左側にあり、舞台奥の羽目板には緑の松の絵が描かれています。特別な栈敷席を含む 489 席が、本舞台を囲んで L 字型に配置されています。舞台は楠木が神として祀られている神社の本殿に面しており、彼に敬意を表して公演が行われています。これは関西地方で最大の能楽堂です。この劇場では能楽をはじめとする様々な芸術的な催しが定期的に上演されています。

【タイトル】 神能殿/世界遺産「能楽」の祖の祖

【想定媒体】 その他

<簡体字>

能乐与湊川神社的神能殿能乐堂

能乐起源于 14 世纪，是日本最古老的表演艺术之一，将戏剧、音乐和舞蹈融于高度程式化的艺术形式之中。凭借舒缓的节奏、精心编排的动作，以及独特的声乐和器乐表现，传递深沉情感与丰富意蕴。能乐大多取材自古典文学作品、历史与志怪传说，旨在探讨责任、憧憬和生命无常等深刻主题。

能乐自古便与神道传统紧密相连。历史上，演出地点常在神社之内，作为祭典期间向神明献纳的仪式。这将戏剧艺术与宗教仪礼融为一体。故事本身也契合神道精神，即敬奉神灵、追思先祖、维系人间与神境的和谐共生。

湊川神社的神能殿

湊川神社的能乐堂旨在纪念 14 世纪的武将楠木正成与能乐师兼剧作者观阿弥清次、其子世阿弥元清之间的家族渊源。观阿弥与世阿弥分别是楠木的外甥和外甥孙。

观阿弥和世阿弥将民间表演艺术“猿乐”改造为高度精炼的舞剧“能乐”。父子二人备受尊崇，经常受邀携剧团为天皇献艺。就历史与规模而言，他们创立的“观世流”为五大传统能乐中最古老且规模最大，其名取自二人名讳首字。

这座能乐堂建于 1972 年，采用日本桧木建造，呈现标准的能乐舞台布局：主舞台位于右侧，左侧设有桥挂，舞台后壁绘有青松图案。堂内共有 489 个座位（包括特别包厢席位），呈 L 形环绕主舞台。舞台正对供奉楠木神位的神社主殿，演出也为向楠木致敬而举行。此处是关西地区规模最大的能乐剧场，定期上演能乐等艺术表演。

<繁体字>

能樂與湊川神社的神能殿能樂堂

能樂起源於 14 世紀，是日本最古老的表演藝術之一，揉合戲劇、音樂和舞蹈，呈現極為講究的藝術形式，並透過緩慢的節奏、精心編排的動作，以及獨特的聲樂和器樂表現，傳遞出深沉情感與豐富意蘊。能樂大多取材自古典文學作品、歷史與超自然傳說，深入探討

責任、思慕和生命無常等深刻主題。

能樂自古便與神道教傳統緊密相連。歷史上，演出地點常在神社內，作為祭典中獻給神明的奉納儀式，將戲劇藝術與宗教儀禮融為一體。故事核心亦契合神道教的精神，即敬奉神靈、緬懷祖先、維繫人間與神境的和諧共生。

湊川神社の神能殿

湊川神社能樂堂的建立，是為了紀念 14 世紀的武將楠木正成與能樂師兼劇作家觀阿彌清次、其子世阿彌元清之間的家族關係，觀阿彌與世阿彌分別是楠木的外甥和外甥孫。

觀阿彌和世阿彌將民間表演藝術「猿樂」，昇華為高雅精緻的舞劇「能樂」。父子二人備受尊崇，經常受邀攜劇團為天皇獻藝。就歷史與規模而言，他們創立的「觀世流」為五大傳統能樂中最古老且規模最大，其名取自父子兩人姓名的首字。

這座能樂堂建於西元 1972 年，以檜木打造，呈現標準的能樂舞台佈局：主舞台位於右側，左側設有橋掛，舞台後方的背景板繪有青松圖案。場內共有 489 個座位（包括特別包廂席），呈 L 字形環繞主舞台。舞台正對著奉祀楠木的神社本殿，演出也為向楠木致敬而舉行。此處是關西地區規模最大的能樂劇場，定期上演能樂等藝術表演。

<日本語仮訳>

神能殿/世界遺産「能樂」の祖の祖

能樂は、日本最古の舞台芸術の 1 つで、その起源は 14 世紀にまでさかのぼります。演劇、音楽、舞踊を高度に様式化された型で融合するものです。そのゆったりとした展開、入念に構成された動き、独特の歌声と楽器の表現が、深い感情と重層的な意味を伝えます。能は古典文学、歴史、そして怪談を題材とし、義務、憧憬、人生の儚さといった深遠なテーマを探究することが多いのが特徴です。

能は古くからずっと、神道の伝統と深く結びついてきました。歴史的には、演技は神社の境内で行われることが多く、祭事における神々への奉納として上演されてきました。これが、演劇芸術と宗教的儀式を融合したのです。物語そのものも、精霊などを敬い、祖先を称え、人間界と霊界の調和を保つという神道のテーマに沿うものです。

湊川神社の神能殿

湊川神社で行われる能樂は、14 世紀の武将、楠木正成と、能樂師兼作家の観阿弥 清次とその息子である世阿弥 元清との家門の絆を祝うものです。観阿弥は楠木の外甥、世阿弥は二世代違いの外甥にあたります。

観阿弥と世阿弥は、猿樂という名で知られる民間芸能を、能と呼ばれる高度に洗練された舞踊劇へ

と発展させました。この父子は非常に尊敬され、その劇団を率いて天皇のために演じるようたびたび招かれました。彼らが創設した流派の観世流は、5 つある伝統的な能の流派の中で最も古く、最大の流派です。流派の名は、2 人の名前の最初の部分を組み合わせた名称です。

1972 年にヒノキ材で建てられたこの舞台は、いかにも能舞台らしい配置になっています。主舞台は右側に、橋掛りは左側にあり、舞台後方の鏡板には緑の松の木が描かれています。特別ボックス席を含め、489 席が主舞台を囲むように L 字型に配置されています。舞台は楠木が神として祀られている神社の本殿に面しており、彼に敬意を表して公演が行われています。関西地方で最大の能楽舞台です。この舞台では能楽やその他の舞台芸術が定期的に上演されています。

【タイトル】 楠本稻荷神社/ご利益

【想定媒体】 Web

<簡体字>**楠本稻荷神社**

楠本稻荷神社历史悠久，早在 1336 年那场命运攸关的湊川之战前便已存在。数百年间，神社几经迁址，但自 19 世纪末湊川神社创建以来，就成为其不可分割的一部分。

楠本稻荷神社主祭稻荷大神，即日本最受尊崇的神明之一。这位神明司掌食物、丰收与谷物，尤以稻米为重，而稻米正是日本近代社会经济的根基。因此，信众常来此地参拜，祈愿作物丰收、生意兴隆、诸事顺遂。

正如日本各地的稻荷神社，楠本稻荷神社的入口也由狐狸石像守护。人们认为，狐狸是稻荷大神的神圣使者 and 守护者。稻荷狐狸往往口衔象征性物件，例如米仓钥匙、寓意赐福的宝珠、稻穗或经卷。

<繁体字>**楠本稻荷神社**

楠本稻荷神社歷史悠久，早在西元 1336 年那場命運攸關的湊川之戰前便已存在。數百年間多次遷址，但自 19 世紀末湊川神社創建以來，便是其不可分割的一部分。

楠本稻荷神社祭祀稻荷大神，即日本最受尊崇的神明之一。這位神明司掌食物、豐收與穀物，尤其是稻米，而稻米正是日本近世社會的經濟基礎。因此，信眾常來此地參拜，祈願作物豐收、生意興隆、諸事順遂。

如同日本各地的稻荷神社，楠本稻荷神社的入口也矗立著守護神社的狐狸石像。人們認為，狐狸是稻荷大神的神聖使者 and 守護者。稻荷狐狸口中常叨著具有象徵意義的物品，例如米倉鑰匙、寓意賜福的寶珠、稻穗或經卷。

<日本語仮訳>**楠本稻荷神社/ご利益**

楠本稲荷神社は古くから存在し、1336 年の運命的な湊川の戦いよりもさらに古い歴史があります。その所在地は数世紀の間に移り変わりましたが、湊川神社が 19 世紀後半に創建されて以来、その一翼を担ってきました。

楠本稲荷は、日本で最も広く崇敬される神様の 1 柱である稲荷大神を祀っています。稲荷大神は五穀豊穰、特に稲作の神様で、稲は近世日本社会の経済的基盤を形成しました。したがって、参拝者は豊作、商売繁盛、そして全般的な幸運をここで祈願します。

全国の稲荷神社でよく見られるように、石造りの狐の像が楠本稲荷の入口を護っています。狐は神様の神聖な使いであり守護者と考えられています。稲荷狐はよく、米倉の鍵や徳を授ける魔法の宝珠、稲束、経典の巻物といった象徴的な物を口にくわえている姿が描かれています。

【タイトル】 菊水天満神社/ご利益

【想定媒体】 Web

<簡体字>

菊水天満神社

菊水天満神社建于 1876 年，隶属于湊川神社。此处主祭菅原道真(845-903)，他不仅是杰出学者，也是宇多天皇（887 - 897 在位）的心腹近臣。道真品德高尚，对日本文化和政治亦有卓越贡献，因而备受尊崇。他推动教育和社会改革，主张注重才能，而非贵族特权。

然而，道真的巨大影响力却威胁到了权势滔天的藤原氏族，因此，他们策划阴谋，诬陷道真滥用职权。作为惩罚，道真被流放至远离帝都的九州太宰府。他在当地生活艰苦：财物尽失，无人支持，只能勉强维持温饱，居所和衣物也非常简朴。面对如此困境，道真仍然坚毅自持，并未在绝望之中就此沉沦。直到 903 年与世长辞，他对天皇的忠诚也未曾动摇。

道真去世后，世人在 10 世纪时将他奉为“天神”，如今更是将其尊为学问、文化与艺术之神。菊水天満神社是众多天満神社中的一座，每年吸引着无数学子与终身学习者前来向天神祈求学业有成。

<繁体字>

菊水天満神社

菊水天満神社建於西元 1876 年，隸屬於湊川神社。此處祭祀菅原道真（西元 845—903），他不僅是傑出學者，也是宇多天皇（西元 887—897 在位）深受信賴的近臣。道真品德高尚，對日本文化和政治均有卓越的貢獻，因而備受尊崇。他推動教育和社會改革，主張注重才能，而非貴族特權。

然而，道真巨大的影響力卻威脅到了權傾一時的藤原氏，因此，他們策劃陰謀，誣陷道真濫用職權。作為懲罰，道真被流放至遠離帝都的九州太宰府。他在當地生活艱苦：財物盡失，無人支援，只能勉強維持溫飽，居所和衣物也非常簡樸。面對如此困境，道真仍然堅毅自持，並未在絕望中就此沉淪。直到西元 903 年與世長辭，他對天皇的忠誠也未曾動搖。

道真去世後，於 10 世紀時被神格化為「天神」，如今被尊奉為學問、文化與藝術之神。

菊水天満神社是眾多天満宮中的一座，莘莘學子與終身學習者前來祈求天神保佑學業有成。

＜日本語仮訳＞

菊水天満神社/ご利益

菊水天満神社は 1876 年に創建され、湊川神社の一部を構成する神社です。菊水天満神社は菅原道真（845～903 年）を祀っています。卓越した学者であり、宇多天皇（在位 887～897 年）の信頼する側近であった道真は、彼の高潔な人柄と日本文化・政治への多大な貢献により崇敬されました。彼は教育と社会改革を推進し、貴族の特権よりも優秀な実力をもっていることを重視しました。しかし道真の大きな影響力は、権勢を振るう藤原氏を脅かしました。その藤原氏が道真に職権乱用という無実の罪をかぶせる政略を企てました。罰として彼は、朝廷から遠く離れた地である九州の太宰府へと追放されました。その地での彼の生活は過酷を極めました。富と支援は剥奪され、かろうじて足りる程度の食料と、最低限の住居や衣服があるばかりでした。こうした困難にもかかわらず、道真はその苦難を立派に耐え抜き、絶望に陥ることなく、903 年に亡くなるまで天皇への忠誠を貫きました。彼の死後、道真は 10 世紀に天神として神格化され、現在では学問・文化・芸術の神様として崇められています。菊水天満神社は、学生や生涯学習者が学業成就を願って天神様の御加護を求める数ある天満宮の 1 社です。

【タイトル】 楠本稻荷神社・菊水天満神社/ご利益

【想定媒体】 その他

<簡体字>

丰收、学问与忠义：湊川神社的摄末社

位于神户的湊川神社，主祭备受尊崇的日本名将之一楠木正成。神社坐落于湊川之战的遗址之上，这位名将正是在这场关键战役中为效忠天皇而殒身殉节。除主殿外，神社内还建有两座规模较小但颇具历史意义的神社：楠本稻荷神社和菊水天満神社。

楠本稻荷神社历史悠久，早在 1336 年那场命运攸关的湊川之战前便已存在，并于 19 世纪末自附近原址迁至湊川神社内。

该神社主祭稻荷大神，即日本最受尊崇的神明之一。这位神明司掌食物、丰收与谷物，尤以稻米为重，而稻米正是日本近代社会经济的根基。正如日本各地的稻荷神社，楠本稻荷神社的入口也由狐狸石像守护。人们认为，狐狸是稻荷大神的神圣使者和守护者。

菊水天満神社建于 1876 年，以纪念 9 世纪的学者菅原道真。道真曾是天皇的心腹近臣，因推行教育和社会改革而备受尊崇。然而，他的巨大影响力最终威胁到了同僚，导致一些人对他恶意构陷。道真被诬告滥用职权，之后被流放至九州太宰府，在艰苦环境中度过余生。尽管道真身处如此困境，直到 903 年与世长辞，他对天皇的忠诚也未曾动摇。

道真去世后，世人将他奉为“天神”，如今更是将其尊为学问、文化与艺术之神。因此，莘莘学子与终身学习者常来菊水天満神社参拜，祈求天神保佑学业有成。

<繁体字>

豐收、學問與忠義：湊川神社的攝末社

位於神戶的湊川神社主祭備受尊崇的日本名將之一楠木正成。神社坐落於湊川之戰的遺址之上，這位名將正是在這場關鍵戰役中為了天皇而捐軀。除本殿外，神社內另有兩座規模較小但深具歷史意義的神社：楠本稻荷神社和菊水天満神社。

楠本稻荷神社歷史悠久，早在西元 1336 年那場命運攸關的湊川之戰前便已存在，並於 19 世紀末從附近的原址遷至湊川神社境內。

楠本稻荷神社祭祀稻荷大神，即日本最廣受尊崇的神明之一。這位神明司掌食物、豐收與穀物，尤其是稻米，而稻米正是日本近世社會的經濟基礎。如同日本各地的稻荷神社，楠本稻荷神社的入口也矗立著守護神社的狐狸石像。人們認為，狐狸是稻荷大神的神聖使者和守護者。

菊水天満神社於西元 1876 年建立，以紀念 9 世紀的學者菅原道真。道真曾是天皇深受信賴的近臣，因推行教育和社會改革而備受尊崇。然而，他巨大的影響力卻威脅到同僚，最終遭人密謀誣陷濫用職權，之後被流放至九州太宰府，在艱苦環境中度過餘生。儘管道真身處如此困境，直到西元 903 年與世長辭，他對天皇的忠誠也未曾動搖。

道真去世後被神格化為「天神」，如今被尊奉為學問、文化與藝術之神。因此，莘莘學子與終身學習者常來菊水天満神社參拜，祈求天神保佑學業有成。

<日本語仮訳>

楠本稻荷神社・菊水天満神社/ご利益

神戸の湊川神社は、日本を代表し、崇敬される名将の 1 人、楠木正成を祀っています。この神社は、高名な武将が天皇のために自身の命を捧げた、重要な湊川の戦いの地に建てられています。本殿に加え、境内には規模は小さいながらも歴史的に重要な 2 つの神社があります。楠本稻荷神社と菊水天満神社です。

楠本稻荷神社は古くから存在し、1336 年の湊川の戦いよりもさらに古い歴史があります。19 世紀後半に湊川神社の近くから移築されました。楠本稻荷は、日本で最も広く崇敬される神様の 1 柱である稲荷大神を祀っています。稲荷大神は五穀豊穰、特に稲作の神様で、稲は近世日本社会の経済的基盤を形成しました。全国の稲荷神社でよく見られるように、石造りの狐の像が楠本稻荷の入口を護っています。狐は稲荷大神の神聖な使いであり守護者と考えられています。

菊水天満神社は、9 世紀の学者である菅原道真を祀るため、1876 年に建てられました。道真は天皇の信頼される側近で、教育や社会改革を推進したことで崇敬されました。しかし、彼の大きな影響力は次第に同輩の脅威となり、政略が企てられるに至りました。職権乱用という無実の罪をかぶせられ、道真は九州の太宰府へと流され、そこで過酷な環境の中で最期を迎えました。そのような困難にもかかわらず、彼は 903 年に亡くなるまで、天皇への忠誠を貫きました。

彼の死後、道真は天神として神格化され、現在では学問・文化・芸術の神様として崇められています。菊水天満神社は、学生や生涯学習者が学業成就を願って天神様の御加護を求める有名な場所です。

【タイトル】 本社社殿/本社社殿

【想定媒体】 Web

<簡体字>

主殿

主殿是湊川神社的精神核心，供奉 14 世纪名将楠木正成(1294-1336)。他因对天皇矢志不渝的忠诚，以及在 1336 年湊川之战中以身殉节的壮举，被尊为武士典范。

1945 年木造原主殿遭空袭摧毁，现存主殿于 1952 年采用钢筋混凝土结构重建。其建筑样式为“八栋造”，是与“权现造”风格相近的八脊式构造。该殿也被视作战后新神社建筑典范。殿内分为三座神龛：中央供奉楠木，右侧为其夫人，左侧供奉其子、胞弟及另外 16 位家族成员。楠木一族的男性均其为天皇效命时所表现出的殉节精神而备受敬仰。在湊川之战中，楠木正成及其亲族宁死不屈，毅然切腹自尽，其子亦在 1348 年的另一场战役中遭逢相近的命运。

主殿的方格天花板饰有工艺画作。中央呈现一幅巨龙图腾，四周环绕着 164 块装饰画板。这些画板均由日本各地的 150 余位艺术家捐赠。

<繁体字>

本殿

本殿是湊川神社的精神核心，供奉 14 世纪名将楠木正成（西元 1294—1336）。他因对天皇至死不渝的忠诚，以及在西元 1336 年湊川之战中以身殉节的壮举，被尊为武士典范。

目前的本殿采用钢筋混凝土结构于西元 1952 年重建，取代了西元 1945 年遭空袭摧毁的木造原建筑，采用的建筑样式为「八棟造」，是与「權現造」风格相近的八脊式构造。本殿也被视为战后新神社建筑典范。殿内分为三座神龛：中央供奉楠木，右侧为其夫人，左侧则合祀其子、胞弟及另外 16 位家族成员。楠木一族的男性均因效忠天皇、以身殉节而受后世尊崇。在湊川之战中，楠木正成及其亲族宁死不降，毅然切腹自尽，其子亦在西元 1348 年的一场后续战役中遭逢相近的命运。

本殿の格天井飾有藝術創作，在中央巨龍圖騰周圍，環繞著 164 面裝飾板，為日本各地 150 多位藝術家所捐贈。

＜日本語仮訳＞

本社社殿/本社社殿

本殿は湊川神社の信仰の中心であり、14 世紀の高名な武将、楠木正成（1294～1336 年）に捧げられています。彼は天皇への揺るぎない忠誠と 1336 年の湊川の戦いでの究極の自己犠牲により、理想的な武将として敬慕されています。

現在の本殿は 1945 年の空襲で破壊された木造建築を、1952 年に鉄筋コンクリートで再建したものです。様式は権現造に似た八棟造りとされ、戦後における新しい神社建築の一例として位置づけられています。内部は三つの神殿に分かれています：中央が楠木のため、右側がその妻のため、左側が息子、弟、そして他の 16 人の家族に捧げられています。一族の男性たちは天皇への奉仕における自己犠牲で称えられています；楠木とその一族は湊川の戦いで捕虜になることよりも切腹を選び、息子も後の 1348 年の戦いで似たような運命をたどりしました。

本殿の格天井は美術品で飾られています。中央の大きな龍の絵を、全国から 150 人以上の芸術家によって寄贈された 164 枚の装飾パネルが囲んでいます。

地域番号	016	協議会名	世界遺産大峰奥駟道多言語化事業推進協議会

解説文一覧

NO.	スポット名（タイトル）	中国語文字数	想定媒体
016-001	金峯山寺/木造童子立像 2 軀	605	アプリ QR コード
016-002	金峯山寺/木造釈迦如来立像	295	アプリ QR コード
016-003	金峯山寺/薬師如来坐像（日光菩薩・月光菩薩共） 3 軀	344	アプリ QR コード
016-004	金峯山寺/木造役行者と前鬼・後鬼 3 軀	582	アプリ QR コード
016-005	金峯山寺 /役行者と前鬼・後鬼の話	506	アプリ QR コード/ その他
016-006	金峯山寺/釈迦如来坐像	338	アプリ QR コード

【タイトル】 金峯山寺/木造童子立像 2 軀

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

木雕童子立像

重要文化财产

镰仓时代（1185—1333）

因年代久远，这对童子像的具体来历已不得而知。但关于他们的身份，主要存在两种说法。

普成与普建

根据寺院传说，这对童子是佛教居士傅大士（即傅翕，497—569）的两名儿子——普成和普建。傅大士白天耕田，晚上潜心研习佛法，并时常为梁武帝（464—549）讲法解惑，是深受人们尊敬的人物。他和两位儿子也被尊为佛教经典的守护者，但是他们与金峰山寺的确切关联，目前尚不明确。

殖栗皇子与山背大兄王

根据雕像的外观特征，近年来研究推测，这对童子像最初可能是与金峰山寺藏王堂的木雕圣德太子立像共同组成三尊像。圣德太子（574—622）是推动佛教在日本发展的关键人物。在本土神明崇拜（后称为神道）盛行的时期，圣德太子支持建立佛教寺院，撰写经文注释，并提倡佛教与神道并行。

以圣德太子为题材的绘画和雕像，大多是描绘他一生中的重要事迹。据说，藏王堂的木雕圣德太子立像，描绘的是其年轻时为生病的父亲用明天皇（540—587）祈求康复的情景。该圣德太子立像与这对童子像在风格上有许多相似之处，例如肃穆的神情、健壮的体格，因此有人推测，这三尊雕像原本为一组。

在其他著名的圣德太子画像中，圣德太子两侧站立着其弟弟殖栗皇子与长子山背大兄王。因此，这对童子也有可能是此二人，若是这样，则这组三尊像可能是在明治时代（1868—1912）的“废佛毁释”运动中分散的。在当时，有许多佛像被毁坏或流散各地。

〈繁體字〉

木造童子立像

重要文化財產

鎌倉時代（西元 1185—1333）

這兩尊童子像的許多相關細節，已隨歲月流逝而散佚。至於這兩尊童子像究竟象徵何人，目前主要存在兩種說法。

普成與普建

根據寺廟傳說，這兩尊童子像刻劃的是傅大士（即傅翕，西元 497—569）的兩名兒子——普成與普建。傅大士為佛教居士，白日於田間耕作，夜晚潛心研習佛法，後來成為備受敬重的佛教導師，經常為梁武帝（西元 464—549）講說佛法。傅大士與其子常被尊為佛教經典的守護者，然而，他們與金峯山寺之間是否確有關聯，至今仍未有定論。

殖栗皇子與山背大兄王

近年研究指出，從外觀細節的相似之處來看，這兩尊童子像可能原本與金峯山寺藏王堂的「木造聖德太子立像」為三尊一組的雕像。聖德太子（西元 574—622）是日本推廣佛教的關鍵人物。在當時以本土神靈信仰（後來稱為神道）為主流的背景，他透過興建寺院與撰寫佛經註釋等方式，積極推動了佛教發展。

關於聖德太子的繪畫與雕刻，多描繪其生平的重要事蹟。藏王堂的「木造聖德太子立像」，據說呈現的是太子年少時為父親——用明天皇（西元 540—587）祈求病癒的姿態。此像與兩尊童子像在風格上有諸多相似之處，例如嚴肅的神情與健實的體態，因此被提出新的假說，認為這三尊雕像可能本為一組。

另有一種廣為人知的聖德太子形象，是太子立於中央，身旁侍立兩人，分別為其弟殖栗皇子與長子山背大兄王。若依此構圖推論，這兩尊童子像可能即為殖栗皇子與山背大兄王。假設真是如此，這三尊雕像應是在明治時代（西元 1868—1912）遭到拆散。明治時代動盪不安，廢佛毀釋運動興起，許多神聖的雕像也因此被摧毀或流散各地。

〈日本語仮訳〉

木造童子立像

重要文化財

鎌倉時代（1185–1333）

この一対の像にまつわる詳細の多くは、時の流れとともに失われている。この童子たちが誰を象徴しているのかについては、主に2つの説が存在する。

普成と普建

寺伝によれば、これらの像は傳大士（497–569）の息子である普成と普建を表しているとされる。傳大士は、昼は農作業に従事し、夜は仏教の勉強に励み、梁武帝（464–549）に定期的に仏教の教えを説いた尊敬すべき人物であった。傳大士とその息子たちは、しばしば仏教聖典の守護者として崇められるが、金峯山寺との明確な関連については判然としていない。

殖栗皇子と山背大兄王

近年の研究では、これらの童子像はその像容の類似などから現在金峯山寺蔵王堂に安置されている「木造聖徳太子立像」とともに三尊像を構成していた可能性が示唆されている。聖徳太子（574–622）は、日本における仏教振興の中心となった人物で、在来の神々への信仰（後の神道）が主流であった時代に、寺院建立や経典注釈を通じ、仏教を推進した。

聖徳太子の絵画や彫刻の多くは、その生涯における重要な場面を描いたものである。蔵王堂の「木造聖徳太子立像」は、若き日の太子が父である用明天皇（540–587）の病氣平癒を祈る姿を表したものと考えられている。しかし、太子と童子たちの間に見られる様式的な共通点（厳しい表情やたくましい体格など）から、本来はこの三体が三尊形式として作られたのではないかという新たな仮説が立てられている。

聖徳太子の肖像として他に有名なものに、弟の殖栗皇子と長男の山背大兄王を両脇に従えた姿がある。この場合、童子たちは殖栗皇子と山背大兄王を表している可能性がある。もしそうであれば、この三尊像は明治時代（1868–1912）に引き離された可能性がある。明治時代は、廃仏毀釈運動によって多くの神聖な像が破壊・散逸された混乱の時代であった。

【タイトル】 金峯山寺/木造釈迦如来立像

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>**释迦牟尼立像**

县指定文化财产

镰仓时代（1185—1333）

这尊佛祖释迦牟尼像原本是吉野某寺院的本尊，但该寺院现已不存在，所以作为“客佛”供奉于藏王堂内。19 世纪 70 年代，明治政府推行尊崇神道、排斥佛教的政策，日本各地出现了“废佛毁释”运动，许多寺院被毁，众多珍贵的佛像遭到破坏或失散。当时为了保护这尊佛像，人们将其移至金峰山寺内，才使其得以保存至今。

释迦牟尼眉间的突起称为“白毫”，为一撮白色的卷毛，据传说能发出普照世间的光芒。白毫与头顶的朱色肉髻珠，一同象征着释迦牟尼崇高的精神境界。雕像的鼻子和嘴部轮廓分明，眉毛细长，发卷较大，下巴位置偏低，这些特征显示其制作年代可以追溯到 13 世纪晚期。

<繁体字>**釋迦如來立像**

縣指定文化財產

鎌倉時代（西元 1185—1333）

這尊釋迦如來立像刻劃的是釋迦牟尼，即歷史上的佛陀。此佛像原為吉野山一座寺院的本尊，但該寺現已不存，因此如今作為「客佛」供奉於金峯山寺藏王堂。西元 1870 年代，新成立的明治政府推行尊崇神道、抵制佛教的政策。這項政策掀起了全國性的「廢佛毀釋」反佛運動，造成許多寺院遭到破壞，無數珍貴文物也因此遺失或流落四方。這尊佛像因被搬移至金峯山寺妥善保存，方得以留存至今。

釋迦如來像眉間的突起，象徵「白毫」，為一撮白色的捲毛，傳說能夠散發出照耀世界的光芒。白毫和頭頂的肉髻珠，共同象徵著釋迦如來崇高的精神境界。這尊佛像擁有輪廓分明的鼻子與雙唇、細長的眉型、碩大的螺髮以及位置偏低的下巴。由這些特徵得以推

測，這尊佛像的製作年代約為西元 13 世紀後期。

<日本語仮訳>

木造釈迦如来立像

県指定文化財

鎌倉時代（1185–1333）

この釈迦如来像は、歴史上の釈迦牟尼仏を表している。本像はかつて吉野山に存在した寺院堂宇の本尊であったことから、現在は金峯山寺・蔵王堂に「客仏」として安置されている。1870 年代、神道を優遇する政策導入の影響を受け、日本各地で廃仏毀釈運動が広まり、多くの寺院や貴重な仏像が破壊・散逸した。本像はその際、保護のために金峯山寺へ移されたことで今日まで伝わっている。

釈迦如来像の額に埋め込まれた丸いふくらみは白毫（白い巻き毛）を表し、そこから放たれる光が世界を照らすと伝えられる。頭頂部の赤色の肉髻珠とともに、釈迦如来の高い精神性を示している。鼻や口はくっきりとし、眉は細長く、髪は大きく巻き、顎は低い。これらの特徴から、13 世紀後半の作と考えられている。

【タイトル】 金峯山寺/薬師如来坐像（日光菩薩・月光菩薩共） 3 軀

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

药师佛坐像及胁侍像

药师佛像：南北朝时代（1336—1392）

胁侍像：江户时代（1603—1867）

这尊药师佛坐像左右的胁侍，分别是象征着日月之光的日光菩萨和月光菩萨，三尊佛像合称为“药师三尊”，这是佛像中常见的形式。在日本，药师佛因能疗愈身心疾苦而广受信仰，尤其在 7 世纪到 13 世纪之间最为盛行。

此像中的药师佛为坐姿。右手结施无畏印，象征着抚慰和护佑，左手持的药瓶，现已遗失。据主像内的铭文记载，这尊药师佛像由佛师康成（生卒年不详）于 1353 年制作。康成曾为吉野南朝朝廷制作过许多佛像，其中包括金峰山寺二王门的仁王像。二王门目前正在修复中，预计 2028 年完工。

据寺院记载，该药师佛像原本是“峰之药师堂”的本尊。该堂位于金峰山寺的北侧，19 世纪被拆毁。胁侍像的制作年代较晚，为 18 世纪的作品。

<繁体字>

藥師如來坐像和脇侍

藥師如來：南北朝時代（西元 1336—1392）

脇侍：江戶時代（西元 1603—1867）

此尊為藥師如來，兩側侍立日光菩薩與月光菩薩。在日本，藥師如來被尊為能療癒病苦之佛，深受人們信仰。尤其自西元 7 世紀至 13 世紀之間，更備受崇敬。

在金峯山寺，此尊藥師如來為坐姿雕像。右手結「施無畏印」，象徵慰藉和庇佑；左手原持藥壺，現已佚失。兩側脇侍分別象徵日光與月光，三尊佛像合稱「藥師三尊」，為佛教藝術中常見的組合形式。

根據本尊內部殘留的銘文記載，藥師如來像由大佛師康成（生卒年不詳）於西元 1353 年製作。康成曾為設於吉野的南朝創作多件作品，其中之一便是金峯山寺二王門的仁王像，二王門現正修復中，修復工程預計至西元 2028 年完成。相傳此像原為峰之藥師堂供奉的本尊。兩尊脇侍則為後世之作，約於西元 18 世紀雕刻而成。

＜日本語仮訳＞

藥師如来坐像（日光菩薩・月光菩薩共）

藥師如来：南北朝時代（1336-1392）

両脇侍：江戸時代（1603-1867）

本尊は藥師如来で、両脇には侍者である日光菩薩と月光菩薩が安置されている。藥師如来は病苦を癒す仏として日本において広く信仰され、特に 7 世紀から 13 世紀にかけて厚く崇敬された。

藥師如来は坐像で、右手で安心の印を結んでいる。左手に持っていたはずの薬瓶は失われている。両脇侍の日光菩薩、月光菩薩は、太陽と月の光を象徴している尊格であり、三尊で「藥師三尊像」という仏教美術における典型的な尊像構成を成す。

本像の内部に残された銘文によれば、藥師如来像は 1353 年に大仏師・康成（生没年不詳）によって制作された。康成は吉野にあった南朝のために多くの作品を手がけ、金峯山寺二王門（2028 年まで改修中）の巨大な仁王像もその一つである。本像はかつて吉野にあった峰の藥師堂の本尊であったと伝えられている。両脇侍は後世の作で、18 世紀に制作されたものである。

【タイトル】 金峯山寺/木造役行者と前鬼・後鬼 3 軀

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

役行者、前鬼和后鬼木像

役行者像：江戸时代（1603—1867）

前鬼和后鬼像：鎌仓时代（1185—1333）

这些雕像刻画的是金峰山寺的开创者役行者，以及其忠仆前鬼、后鬼夫妻。尽管雕像上的颜料大多已褪色，但依然能辨认出前鬼的皮肤为红色，后鬼的皮肤为蓝色。

役行者

役行者（634—701）出生于现在的奈良县御所市，曾长期在葛城、熊野和大峰山地区修行。据传说，他在山上岳修行时，威猛的藏王权现显现在他面前，令他深受感动，便用山樱木雕刻其神像，供奉于藏王堂内。这被视为金峰山寺和山岳信仰修验道的起源。

役行者的典型形象是一位端坐石台的长者，身穿僧袍，头戴兜帽，脚穿木屐，外披蓑衣。据说他拥有号令鬼神的神通力，因此常与前鬼和后鬼一同出现。

前鬼和后鬼

前鬼和后鬼像拥有较大的鼻子和眼睛，表情生动活泼，与神情肃穆的役行者像形成鲜明对比。前鬼手持斧头，后鬼拿着水瓶，象征着他们为役行者砍柴打水，尽心侍奉的形象。

前鬼和后鬼像用日本榿木雕刻而成，其制作时期据说可追溯到 13 世纪晚期。这一时期的前鬼后鬼夫妻像较为罕见。据寺院记载，前鬼和后鬼像原本与另一尊役行者像共同组成三尊像，但中央的主尊像已遗失。如今的役行者像是后世重新制作的。

在藏王堂的役行者、前鬼和后鬼像前，会举行名为“护摩供”的古老火祭仪式。仪式中，伴随着诵经、击鼓和法螺声，人们会焚烧写有祈愿的木牌。该仪式每天正午举行，对公众开放。

＜繁体字＞

役行者和前鬼、後鬼木像

役行者：江戸時代（西元 1603—1867）

前鬼和後鬼：鎌倉時代（西元 1185—1333）

這組雕像刻劃的是金峯山寺的創始人役行者，以及隨侍在側的忠誠護法——前鬼與後鬼的鬼怪夫妻。雖然雕像上的顏料多已褪色，但仍可看出原本以紅色表現前鬼膚色、以藍色表現後鬼膚色的設計。

役行者

役行者（西元 634—701），又稱役小角，生於今奈良縣御所市。役行者是一位苦行僧，長年於葛城、熊野與大峯等山地修行。相傳，役行者在山上岳修行時，威猛的藏王權現曾經顯現在他面前。這次神聖的邂逅令他深受感動，遂以櫻木雕刻其神像，供奉於藏王堂內。此事被視為金峯山寺的起源，也被認為是役行者開創山岳信仰修驗道傳統的起點。

役行者通常被描繪成一位長者的形象，端坐於岩石之上，身著僧袍，頭戴兜帽，足踏木屐，外披蓑衣。傳聞役行者擁有號令鬼神的法力，因此常與前鬼、後鬼一同出現。

前鬼與後鬼

前鬼和後鬼的形象被塑造成大鼻大眼，表情活靈活現，與面容嚴峻的役行者形成鮮明對比。前鬼手持斧頭，後鬼捧著水瓶，象徵為役行者做著砍柴汲水等勞務。

前鬼與後鬼的雕像以日本榿木雕刻而成，據信製作年代可追溯至西元 13 世紀後期。在這個時代描繪這對夫妻的雕像相當稀有，依寺院紀錄，前鬼與後鬼曾經和另一尊役行者雕像組成一組三尊像，但當時置於中央的役行者像已下落不明，現今所見的役行者像為後世所補。

在藏王堂供奉的役行者、前鬼和後鬼雕像前，會舉行名為「護摩供」的火供儀式。儀式期間，在誦經聲、鼓聲和法螺貝號角聲的伴隨之下，焚燒寫有祈願的木牌。法會於每日正午舉行，並對外開放。

＜日本語仮訳＞

木造役行者と前鬼・後鬼像

役行者：江戸時代（1603-1867）

前鬼・後鬼：鎌倉時代（1185-1333）

本像は、金峯山寺を創建した役行者と、その忠実な従者である鬼の夫婦、前鬼と後鬼を表している。彩色の多くは退色しているが、前鬼は赤、後鬼は青い肌で表現されている。

役行者

役行者（634-701）は現奈良県御所市で生まれ、近隣の葛城、熊野、そして大峯の山々で長年にわたり修行を重ねた修行者である。伝承によれば、役行者が山上ヶ岳で修行していた際、金剛蔵王大権現の凄まじい姿を感得したといわれている。この神聖な出会いに深く感銘を受けた役行者は、その尊容をシロヤマサクラの木に刻み、蔵王堂を創建して安置した。これが金峯山寺の起源であり、役行者によって開かれた修験道の始まりであると伝えられている。

役行者は通常、岩座に腰掛けた老相の姿で表される。頭巾を被り、袈裟、蓑、そして高下駄を身に纏っている。役行者は、鬼神をも使役するほどの法力を持っていたと伝えられることから、本像のように前鬼・後鬼を従えた姿で多く表される。

前鬼と後鬼

前鬼と後鬼は、比較的大きな鼻と目を持ち、生き活きとした表情を見せる。厳しい面持ちの役行者とは対照的な造形である。前鬼は斧を、後鬼は水瓶を持ち、木を伐ったり水を運んだりといった、役行者のために行った仕事を象徴している。

前鬼・後鬼像は、日本の榎の木で13世紀末に制作されたと考えられる。この時期に作られた夫妻像は稀少である。寺院記録によれば、本来は別の役行者三尊像の一部であったが、当初の本尊像は現在行方不明である。現在の役行者像は後世の作である。

蔵王堂では、本像の前で護摩供と呼ばれる古来の法要が行われる。読経や太鼓、法螺貝の響きとともに、祈願を込めた木札が炎の中で焼かれる。法要は毎日正午に開催され、一般公開されている。

【タイトル】 金峯山寺 /役行者と前鬼・後鬼の話

【想定媒体】 アプリ QR コード / その他

＜簡体字＞

役行者及其忠仆前鬼和后鬼

这是关于一对鬼夫妻改过自新，侍奉金峰山寺的开创者、山岳信仰修验道之祖——役行者的故事。

很久以前，吉野的山里住着一对鬼夫妻和他们的五个孩子。由于没有食物，鬼父亲扬言“那就吃人类的孩子吧！”。不久，饥饿的鬼怪们就掳走了村民的孩子，村民们惊恐不已，哭喊声传到长年在山中修行，已修得神通法力的役行者耳中。

应村民们的请求，役行者前往鬼的巢穴。他念动咒语，挥舞法杖，捉住了最小的鬼孩子，将它变得只有手掌大小。随后循着被俘孩子的哭声，救出他们并带到了安全地带。

鬼父母回到巢穴，发现孩子们不见了，顿时怒火中烧，咆哮道：“快把我们的孩子还回来，否则你就大祸临头了！”。鬼怪们怒气冲冲地袭击役行者。但役行者法力高强，鬼怪们很快就败了下来，痛哭求饶。

“你们为什么要抓人类的孩子？”役行者严厉地问道。

鬼怪们颤抖着回答：“我们太饿了，请饶恕我们吧。”

役行者没有惩罚鬼，而是敞开衣袍，从中取出了毫发无损的幼子，将其交还给了鬼母。鬼怪们感激不已，俯首说道：“请让我们侍奉您吧。我们将保护百姓，决不再伤人。”

役行者答应了他们，赐名这对鬼夫妻为“前鬼”、“后鬼”。从此以后，前鬼和后鬼便忠心地侍奉新主人，守护着吉野的群山。

＜繁体字＞

役行者與忠誠隨從前鬼、後鬼

這是一則關於鬼怪夫妻悔過向善，轉而侍奉山岳信仰修驗道之祖——金峯山寺開山祖師役行者的傳說。

相傳很久以前，在吉野的深山裡，住著一對鬼怪夫妻與他們的五個孩子。當糧食匱乏之際，鬼父竟揚言：「那就吃人類的孩子吧。」飢餓驅使之下，鬼怪擄走了多名村童，村民的悲號迴盪山谷，也傳到了山中苦行僧役行者的耳中。當時役行者在荒野中修行多年，已練就了一身強大的法力。

應村民懇求，役行者踏入鬼怪的巢穴。他口誦咒語，揮動法杖，制伏了年紀最小的小鬼，將其縮至掌中大小。然後他循著孩童的哭聲，逐一救出被擄者，送往安全之處。

鬼怪夫妻返回巢穴時，發現裡面空空如也，怒不可遏，高聲吼道：「把我們的孩子還來，否則將付出慘痛代價！」他們怒火衝天，向役行者撲去。但鬼怪們終究不敵苦行僧的法力，很快就哭著求饒。

「為何擄走人類的孩童？」役行者厲聲斥問。

「我們只是飢餓難耐……請寬恕我們。」鬼怪顫聲答道。

役行者並未懲罰鬼怪，而是掀開衣袍，露出安然無恙的小鬼，將其歸還鬼母。鬼怪夫妻感激涕零，俯首致謝：「請讓我們追隨您。我們願守護世人，不再傷害他們。」

役行者應允，並為這對鬼怪夫妻命名為「前鬼」與「後鬼」。自此，前鬼與後鬼忠心侍奉役行者，守護著吉野群山。

＜日本語仮訳＞

役行者と二人の従者（前鬼・後鬼）

本作は、修験道の祖であり、金峯山寺の開祖でもある役行者に、鬼の夫婦が改心して役行者に仕えるようになった物語である。

昔、吉野の山中に、五人の子を持つ鬼の夫婦が住んでいた。食べ物が尽きると、父鬼は「人間の子どもを食べよう」と言い、飢えた鬼たちは村人の息子や娘を次々とさらっていった。人々の嘆きは、長年山

中で修行を重ね、験力を身につけていた役行者のもとに届いた。

村人の訴えに応え、役行者は鬼の巣へと向かった。呪文を唱え、杖を振ると、鬼の末子を捕らえ、手のひらほどの大きさに縮めた。さらわれていた子どもたちの泣き声を辿り、無事に救い出して安全な場所へと導いた。

巣に戻った鬼の夫婦は、何もない巣穴を見て激怒した。「我らのものを返さねば、恐ろしい報いを受けるぞ！」と叫び、役行者に襲いかかった。しかし鬼たちは役行者の力には敵わず、すぐに命乞いをした。

「なぜ人間の子供を連れ去るのか？」役行者は厳しく問いただした。

「お腹が空いていたのです」と震えながら鬼たちは認めた。「お許ください」

役行者は鬼を罰する代わりに、衣を開いて無傷の末子を見せた。そしてその子を鬼の母の腕に戻した。感謝の念に打ちひしがれた鬼たちは頭を下げた。「どうかお仕えさせてください。これからは人を傷つける代わりに守ります」

役行者は承諾し、鬼たちに「前鬼」「後鬼」という名を授けた。以来、鬼たちは新たな主に忠実に仕え、吉野の山々を見守るようになった。

【タイトル】 金峯山寺/釈迦如来坐像

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

释迦牟尼佛坐像

县指定文化财产

平安时代（794—1185）

这尊佛祖释迦牟尼像，制作于 1000 多年前，由整棵桧木雕刻而成，是金峰山寺中现存最古老的佛像，据传说原为实城寺的本尊。实城寺旧址位于藏王堂西侧，已于 19 世纪被毁。

雕像中，佛祖释迦牟尼结跏趺坐（双腿盘坐的佛教修禅姿势），右手结施无畏印，象征着抚慰和护佑。该像具有平安时代佛像的典型特征：双耳较长、双眼圆睁、面庞圆润，头顶的肉髻高高隆起。而在像的细节之处，则展现了制作者独特的风格，如头部背面省略了发纹的雕刻，衣摆无褶纹，颈部刻有三道皱纹等。

这尊释迦牟尼佛像现为金峰山寺南朝妙法殿的本尊。妙法殿是为祭祀在南北朝（1336—1392）的动荡时期曾暂居吉野的多位天皇而建。同时，这里也供奉着在第二次世界大战中丧生的十五万余人之灵。

<繁体字>

釋迦如來坐像

縣指定文化財產

平安時代（西元 794—1185）

此尊釋迦如來佛像，即歷史上的佛陀，約於千餘年前雕刻而成，為金峯山寺現存最古老的佛像。據傳此像原為實城寺的本尊，實城寺舊址位於藏王堂西側，已於西元 19 世紀拆毀。

佛像由日本扁柏一木雕成，刻畫出釋迦牟尼如來結跏趺坐，即雙腿盤坐的形象。右手

結「施無畏印」，象徵慰藉和庇佑。造型風格展現平安時代佛像的典型特色，修長的耳垂、張大的雙眼、圓潤的面頰，以及頭頂高隆的肉髻——代表崇高的精神境界。此外，後腦部省略了髮紋雕刻、衣袍下襬未刻衣褶，以及頸部雕出的三道紋線等細節，亦處處展現了作者獨特的藝術風格。

如今，此尊釋迦如來像為金峯山寺南朝妙法殿的本尊。妙法殿的興建，是為了紀念在動盪南北朝時代（西元 1336－1392）將首都定為吉野的數代天皇。殿內亦供奉著第二次世界大戰中犧牲的 15 萬餘位英靈。

＜日本語仮訳＞

釈迦如来坐像

県指定文化財

平安時代（794－1185）

この釈迦如来像は、歴史上の釈迦牟尼仏を表したもので、1000 年以上前に造立された。金峯山寺で最も古い仏像であり、かつては蔵王堂の西側に位置した実城寺の本尊であったが、この寺は 19 世紀に取り壊された。

像はヒノキの一木造であり、釈迦如来が結跏趺坐で座す姿を表している。右手は、人々を安心させる印を結んでいる。平安時代彫刻の特徴である長い耳、大きく張った目、丸みのある頬、そして頭頂の大きな隆起（悟りの象徴）が見られる。また、後頭部の髪を省略した表現、衣の裾に襷が見られない点、首元に刻まれた三本の皺などは、作者の個性を示している。

現在、この釈迦如来像は金峯山寺・南朝妙法殿の本尊となっている。同殿は、南北朝時代（1336－92）の動乱期に吉野に都をおいた南朝の天皇を顕彰する場所であり、第二次世界大戦において命を落とした 15 万人以上の霊位も祀られている。

地域番号	017	協議会名	長谷寺地域多言語解説整備推進協議会

解説文一覧

NO.	スポット名（タイトル）	中国語文字数	想定媒体
017-001	長谷寺/長谷寺とは（概要）	326	看板、アプリQRコード/Web
017-002	長谷寺/本堂	638	看板、アプリQRコード/Web
017-003	長谷寺/本尊十一面尊	798	看板、アプリQRコード/Web
017-004	長谷寺/内々陣の壁画と天井絵	496	看板、アプリQRコード/Web
017-005	長谷寺/難陀龍王	374	看板、アプリQRコード/Web
017-006	長谷寺/雨宝童子	331	看板、アプリQRコード/Web
017-007	長谷寺/阿弥陀如二十五菩薩来迎図	360	看板、アプリQRコード/Web
017-008	長谷寺/阿弥陀如二十五菩薩来迎図	703	アプリQRコード/Web
017-009	長谷寺/登廊	1113	看板、アプリQRコード/Web
017-010	長谷寺/花の御寺	798	看板、アプリQRコード/Web
017-011	長谷寺/長谷寺に見る神仏習合 （三社権現社よりタイトル変更予定）	694	看板、アプリQRコード/Web
017-012	長谷寺/五重塔	254	看板、アプリQRコード/Web

017-013	長谷寺/蔵王堂	458	看板、アプリQRコード/Web
017-014	長谷寺/観音大画軸	437	看板
017-015	長谷寺/観音大画軸	805	アプリQRコード/Web
017-016	長谷寺/長谷寺縁起絵巻 6 巻本	241	看板、アプリQRコード/Web
017-017	長谷寺/長谷寺縁起絵巻 6 巻本	1309	アプリQRコード/Web
017-018	長谷寺/「だだおし」法要	407	Web
017-019	長谷寺/本長谷寺	421	看板、アプリQRコード/Web
017-020	長谷寺/開山堂	486	看板、アプリQRコード/Web
017-021	長谷寺/朝の勤行、法要	695	アプリQRコード/Web
017-022	長谷寺/ほら貝	339	看板、アプリQRコード/Web
017-023	長谷寺/紀貫之と歌碑	368	看板、アプリQRコード/Web
017-024	長谷寺/おこもり	379	アプリQRコード/Web

【タイトル】 長谷寺/長谷寺とは（概要）

【想定媒体】 看板、アプリ QR コード/Web

<簡体字>

长谷寺

长谷寺是密教真言宗丰山派的总本山（日本佛教用语，指某个宗派中地位最高、最重要的中心寺院）。本尊是一座高 10 米的木雕十一面观音像。早在 727 年，这里曾供奉过另一尊观音像，并有许多旧观音像显灵的传说。虽然原像已不复存在，但人们相信，后世重制的观音像同样灵验。供奉观音像的正殿已被指定为国宝。

现在，寺内仍住有僧侣，他们每日在此修行。正午和晚上 8 点会吹响法螺报时。清晨，僧侣们会在可俯瞰山谷的大殿外舞台上，向周围群山的神明祈愿。

长谷寺也因有许多花卉而被称为“花之寺”。在通往正殿的 399 级阶梯“登廊（带屋顶的阶梯）”两侧，种有牡丹、绣球花等数千株花卉。寺内还有一座五重塔，在寺中的任何地方都能望见这座塔。每当春秋时节，樱花和红叶映衬着塔身，景色格外迷人。

<繁体字>

長谷寺

長谷寺為佛教真言宗密教豐山派的總本山（總寺）。寺中供奉的本尊，是高達 10 公尺的木造十一面觀音立像，被視為慈悲的化身。雖然最初的觀音像已不復在，但據傳早在西元 727 年便曾安奉於此，並流傳下來無數靈驗的奇蹟故事。人們深信，後世重製的觀音像，同樣承繼了那份神聖的力量。如今，這尊莊嚴的觀音立像供奉於被指定為國寶的本堂之中。

寺院內仍設有實際運作的僧院，是僧侶們日復一日修行的場所。每天正中午與晚上 8 點，寺方會吹響法螺貝報時。清晨時分，僧侶們會登上本堂外舞台，俯瞰整座山谷，面向群山，向眾神獻上祈禱。

長谷寺擁有「花之寺」的美譽。通往本堂的 399 階登廊兩側，花開如錦，數千株牡丹

與繡球花依時綻放，將參道點綴得色彩斑斕。寺院境內任何角落幾乎都能望見五重塔，在春櫻或秋楓的映襯下，顯得格外典雅動人，是長谷寺令人難忘的風景之一。

＜日本語仮訳＞

長谷寺

長谷寺は真言宗密教豊山派の総本山である。本尊は高さ 10 メートルの木造十一面観音像で、慈悲の菩薩である。本来の彫像は現在は失われているが、神亀 4 年（727 年）にここに安置され、多くの靈驗がそれに帰せられている。後世に作られた替えの像も、同様の神聖な存在感を宿していると信じられている。この観音像は国宝である本堂に安置されている。

この寺院には現在も使われている僧院があり、僧侶たちが日々の修行に従事している。正午と午後 8 時には、時刻を告げるために法螺貝（ほらがい）が鳴らされる。毎朝、僧侶たちは本堂の外舞台から谷を見下ろしながら、周囲の山々に鎮座する神々へ祈りを捧げている。

長谷寺は「花の寺」として知られている。本堂へと続く 399 段の屋根付き階段には、数千株の牡丹やアジサイをはじめとする花々が並んでいる。境内ほぼどこからでも見える五重塔は、紅葉や桜の景色に囲まれるとき、とりわけ美しい。

【タイトル】 長谷寺/本堂

【想定媒体】 看板、アプリ QR コード/Web

<簡体字>**正殿（观音堂）**

国宝

正殿最初建于 747 年，用以供奉本尊——木雕十一面观音像。观音像高约 10 米，由僧人德道（656—735）主持修建。据寺中资料记载，德道曾在梦中得到神的指引，让其到初瀬山南坡建造此像。他到达初瀬山南坡后，发现一块石台，上面有与观音像双脚完全吻合的凹槽。于是便围绕这块石台建立了正殿。如今旧的观音像已不复存在，供奉在正殿的是后来重建的观音像，与原先的观音像等高，也经过开光，被认为具有同样的神圣灵性。

正殿由两座平行的建筑组成：一座是定期向公众开放的礼拜堂，另一座是较少开放的主殿。本尊的观音像供奉于主殿的内堂，其周围的三面墙壁上绘有精美的整面壁画。虽然游客一般不能进入主殿，但可以从礼拜堂参拜观音像。

礼拜堂分为内堂和外堂。数百年前，参拜者常在内堂光洁的木地板上留宿，以期待在梦中得到观音菩萨的点化。如今，内堂主要用来举办音乐会、戏剧表演，以及由观音菩萨见证的佛教婚礼。

礼拜堂的外舞台建在悬崖上，是典型的悬造式建筑。这种建筑的特点是以梁和立柱构成的骨架来支撑建筑和舞台，木构件磨损或损坏时可以单独更换。长谷寺是日本最早采用这种结构的寺院之一。从舞台上可以俯瞰狭长的山谷，“长谷”这个地名即由此而来。人们相信，从舞台上可祭拜栖居在周围群山中的神明。

长谷寺的正殿经过多次修缮和重建。2003 年，主殿的屋顶在一场台风中被毁。在修理时，工人们发现了铭文，证实现存的建筑是由德川幕府第三代将军德川家光（1623—1651）资助，并于 1650 年竣工。于是次年，正殿被指定为国宝。

<繁体字>**本堂（觀音堂）**

國寶

本堂最初建於西元 747 年，是為了安奉長谷寺的本尊——木造十一面觀音立像。最初的觀音像如今已不復在，據說其高度超過 10 公尺，是由僧侶德道（西元 656—735）發願興建。依寺院記載，德道獲神明啟示，受命於初瀨山南坡建造觀音像。當他抵達山中時，發現一座石台，上面的凹槽恰好與觀音像雙足完美契合，彷彿早已為此而準備。本堂便是圍繞這座石台建造而成。現今供奉的觀音立像，在高度與規模上與原像相同，於佛殿落成時並曾舉辦「落慶供養」法會，被視為寄宿了與昔日相同的神聖靈性。

本堂實際上由兩座平行的建築構成，有定期對外開放的「禮堂」（外陣），以及偶爾才開放的「正殿」（內陣）。本尊觀音立像安奉於正殿的內陣之中，三面牆壁繪有精緻壁畫，自天花板延伸至地面，氣韻莊嚴。一般參拜者無法進入正殿，但能夠從禮堂仰望觀音菩薩的尊容。

禮堂又分為內舞台與外舞台。數百年前，香客常在內舞台潔淨光滑的木地板上留宿，期盼觀音菩薩能入夢賜予指引。時至今日，這些因歲月而磨得發亮的地板，成為在觀音面前舉辦音樂會、戲劇表演與佛教婚禮的舞台，靜靜承載著信仰與文化的交會。

禮堂外舞台，則是懸空於懸崖之上的經典建築範例。長谷寺是日本早期採用此類工法的寺院之一，透過木樑與支柱交錯構成的骨架來支撐建築與平台。這樣的結構，使木製構件在老化或受損時得以獨立更換，兼顧耐久與修復的彈性。自舞台俯瞰而下的景致，正是「長谷」一名的由來，意指「綿延而深長的山谷」。人們相信，棲息於四周群山之中的神祇，會在此平台上受到特別的敬仰與祭拜。

長谷寺本堂歷經多次修繕與重建。西元 2003 年，一場颱風摧毀了正殿屋頂。在修復期間，工作人員意外發現了書面史料，證實現存建築完成於西元 1650 年，並且是在德川幕府第三代將軍德川家光（西元 1623—1651）的資助下落成。這項重要發現的隔年，本堂正式被指定為國寶，成為歷史、信仰與建築技藝交織而成的珍貴見證。

<日本語仮訳>

本堂（觀音堂）

国宝

本堂はもとも、747 年に長谷寺の本尊である木造十一面観音菩薩像を安置するために建立された。本来の像は現在は失われているが、オリジナルの像は高さ 10 メートルを超え、僧・徳道（656-735）によって制作が依頼されたものである。寺伝によれば、徳道は「初瀬山の南斜面にこの像を建立せよ」との、指示を含む霊夢を受けた。初瀬山に到着した徳道は、像の足にぴったり合う溝が刻まれた石の台座を発見。本堂はその台座を囲むように建てられた。現在安置されている像は、オリジナルの像と同じ高さで、同じ神聖な存在を宿すよう落慶供養されたものである。

本堂は実際には二つの平行した構造物から成る：定期的に一般公開されている礼拝堂と、時折のみ開かれる正堂である。本尊の観音像は正堂の奥の内陣に安置され、三方を床から天井まで続く精緻な壁画に囲まれている。参拝者は通常、正堂の中に入ることはできないが、礼拝堂から観音像を拝観することができる。

礼拝堂はさらに内陣と外陣に分かれている。何世紀も前、巡礼者たちは礼拝堂の内陣にある磨かれた木製の床で夜を明かすことがよくあった。彼らは夢の中で観音様の導きを得ようと訪れていたのである。これらの磨かれた床は、現在、主にコンサートや演劇公演、観音様の御前で執り行われる仏教式の結婚式などに利用されている。

長谷寺の本堂外舞台は、懸造り・崖沿い建築の一例である。長谷寺は、建物や舞台を木製の梁と柱の骨組みで支えるこの建築様式を日本で最初期に採用した寺院の一つである。この骨組みにより、木部材は個別に交換が可能だ。長谷寺の舞台からは、長谷（はせ）の名の由来となった「長い谷」の景観を見渡すことができる。周囲の山々に鎮座すると信じられている神々は、この舞台から礼拝される。

長谷寺の本堂は、幾度も修復と再建を繰り返してきた。2003 年、台風により正堂の屋根が損傷した。修復作業中、作業員が発見した記銘（証拠）から、現在の建物が徳川家光（1623-1651）の支援を得て 1650 年に完成したことが判明した。この発見の翌年、本堂が国宝に指定された。

【タイトル】 長谷寺/本尊十一面尊

【想定媒体】 看板、アプリ QR コード/Web

<簡体字>

十一面观音像

重要文化财产

长谷寺的本尊是一尊高大的木雕十一面观音像。日本全国有上百尊观音像都以这座观音像的造型为蓝本，被统称为“长谷观音”。数百年来，关于这尊观音像的起源及其灵验有许多传说，吸引了无数信众前来祈求护佑与指引。

长谷寺的观音像最早制作于 727 年，此后屡次遭遇火灾并多次重塑，但人们相信，每尊重塑的观音像都承载着同一灵性。现存的这尊观音像制作于 1528 年，高 10.18 米，是日本最大的木雕观音像之一。其头部与躯干通过两根中心柱固定于地面，这种结构与日本传统佛塔的建造方式相似。

平时从礼拜堂只能看到观音像的上半部分，但在春秋两季的特别活动期间，游客可以进入主殿，亲手触摸菩萨的足部。据说这样能加深与观音菩萨的缘分。

观音菩萨是谁？

观音菩萨是慈悲的化身。与所有菩萨一样，观音早已证悟，本可涅槃成佛，但为了普渡众生，却发愿暂留尘世间。《妙法莲华经》中说，观音菩萨能听到众生祈愿，化身为僧侣、儿童、龙或天女等各种形象，来救助众生脱离苦难。观音菩萨最常见的化身之一是十一面观音。十一个佛面有的温柔，有的威严，表情各不相同。

观音像的由来

据传说，最早的长谷观音像由一棵被奉为神树的樟树雕刻而成。这棵树因一场洪水漂流到了琵琶湖畔，每当人们试图劈砍这棵树时，当地便会发生火灾和瘟疫。后来，僧人德道（656—735）希望将这棵树的神力转化为造福众生的力量，便请人将其雕刻成了一尊观音像。

别具一格的造型

观音像有多种造型样式，但长谷寺的观音像是第一尊手持锡杖的十一面观音像。这也成为了长谷观音的特征之一。长谷观音还具有以下特征：

- 右手持锡杖与念珠，左手持净瓶，瓶中插有莲花。
- 与大多数立于莲花座上的观音像不同，长谷寺的观音像立于简朴的石板之上。这代表观音菩萨尚未入佛地，仍留在世间普度众生。
- 右脚微向前踏，象征着随时准备救助众生。
- 两侧有胁侍：右侧是雨宝童子，左侧是难陀龙王。两尊胁侍像供奉于主殿祭坛两侧的壁龛内。

＜繁体字＞

十一面觀音

重要文化財產

長谷寺的本尊，是一尊巍然矗立的木造十一面觀音立像。遍布日本各地的觀音像，多以此尊觀音像獨有的造像特徵為典範而打造，這些觀音像統稱為「長谷觀音」。數百年來，關於這尊佛像的神聖起源與靈驗事蹟，吸引了無數信眾遠道而來，祈求長谷觀音的庇佑與指引。

自西元 727 年雕刻完成以來，長谷寺的觀音像曾多次遭逢火災而一再重建。每一尊重塑而成的觀音像，皆被視為承繼了同樣的神性。現今所供奉的這尊觀音像完成於西元 1528 年，高達 10.18 公尺，是日本規模最大的木造佛像之一。佛像內部以兩根中央立柱將頭部與身體穩固於地面，類似日本寶塔採用的傳統建築工法。

從禮堂參拜，只能仰望觀音像的上半部；但在春、秋兩季的特別開放期間，參拜者得以進入正殿，親手撫觸觀音像的雙腳。這種參拜方式據說能夠加深信眾與觀音菩薩之間的連結。

何謂觀音？

觀音，即觀音菩薩，是慈悲與救度的化身。如同所有菩薩一般，觀音菩薩早已證悟，走在成佛之道上，但卻發下宏願，為了救濟眾生證得佛果而暫不進入涅槃。《法華經》中描述，觀音菩薩會回應眾生的祈願，化身為各種形象伸出援手，例如僧侶、孩童、龍或天女。其中，觀音菩薩最常現化的形象便是十一面觀音，十一張面容表情各異，從慈祥到威

嚴，分別展現出不同的情感面貌。

佛像的神聖起源

傳說中，最初的長谷觀音是由一棵神聖的樟樹雕成。這棵樹在一場毀滅性的洪水後，漂流至琵琶湖一帶，每當民眾試著取用它，便會引發火災與瘟疫。後來，一位名為德道（西元 656－735）的僧侶，決定將這棵樹的神力轉化為濟世救人的善力，於是將樟樹雕成了觀音像。

獨特的造像特色

觀音像的雕刻風格多樣，但長谷寺的觀音像是最早手持錫杖（僧侶手杖）的十一面觀音立像。這也成為所有長谷觀音像的一大明顯特徵。此外，長谷寺觀音像還有以下知名的特徵：

- ・ 右手持錫杖並掛著念珠，左手握著插有蓮花的淨瓶。
- ・ 大部分的觀音像都立於蓮花座上，但長谷寺觀音像則站立於一塊簡樸的石板上，象徵觀音未入佛界，而是留在人間救度眾生。
- ・ 觀音像的右腳微微向前踏出，象徵隨時準備回應眾生的祈求。
- ・ 兩位脇侍伴於觀音左右。右側為幼童樣貌的兩寶童子，左側為難陀龍王，分別立於正殿主祭壇兩側的壁龕中。

<日本語仮訳>

十一面觀音

重要文化財

長谷寺で本尊とされるのは、そびえ立つ十一面觀音の木造像である。日本各地に数百体存在するこの像は、この像（イメージ）とその特異な図像様式を模したものである。これらの像（仏像）は、総称して「長谷觀音」像と呼ばれる。幾世紀にもわたり、この像の神聖な起源とその後もたらされた奇跡の物語は、多くの人々を惹きつけ、長谷觀音に救いと導きを求めるよう促してきた。

長谷寺の觀音像は、727年に初めて彫られて以来、火災で焼失し再造されることを繰り返してきたが、その後の像はいずれも同一の仏の靈性を宿すとみなされている。現在の像は1528年に造られ、その高さは10.18メートルで、日本最大級の木造仏像の一つである。頭部と胴体を地面に固定する二本の中心柱は、日本の塔にも用いられている伝統的な建築手法に類似している。

十一面觀音像は礼拝堂からは上半身のみが見えるが、春と秋に行われる特別行事の際には、参拝者は内拝堂に入り、像の足に触れることができる。この礼拝の行為は、巡礼者の觀音とのつながりを深

めると言われている。

観音とは誰か？

観音は慈悲の菩薩である。全ての菩薩と同様、観音も仏となる道歩んでいるが、すでに悟りに達しており、他者が仏となるのを助けるために涅槃に入ることを先送りすることを誓っている。『法華経』では、観音は人々の祈りに応え、僧侶、子供、龍、天女など、助けとなるあらゆる姿で現れる存在として描かれている。観音の最も一般的に描かれる化身の一つが十一面観音である。各頭部の表情は穏やかなものから猛々しいものまで様々で、それぞれ異なる感情を示している。

神聖なる起源（像の起源）

伝承によれば、最初の長谷観音は神聖なクスノキから彫られたという。この木は大洪水の後、琵琶湖の近くへ流れ着いたが、人々がその木材を伐採しようとするとき必ず火災や疫病が発生した。徳道（656–735）という名の僧は、この木の神聖な力を善なる力へと変えるため、（像を）彫らせることを決意した。

非伝統的な図像

観音像の表現方法は様々だが、長谷寺の観音像は十一面観音でありながら錫杖（修道僧の杖）を持つ姿を初めて描いた。これが長谷観音像の共通の特徴となった。長谷寺の観音像は次の特徴でも知られる：

- 右手に錫杖と数珠を、左手には蓮を挿した花瓶を持っている。
- 多くの観音像は蓮華座に立つが、長谷寺の観音像は簡素な石板の上に立つ。これは観音様がまだ仏の境地に入らず、信者を救うためにこの世に留まっていることを表している。
- 像の右足がわずかに前に出ている姿勢は、人々の祈りに応える準備ができていることを示している。
- 二体の脇侍が観音に付き添っている：稚児の侍者である雨宝童子（観音の右側）と、龍王である難陀龍王（観音の左側）である。彼らは正堂の中にある、主祭壇脇の壁龕（へきがん）に安置されている。

【タイトル】 長谷寺/内々陣の壁画と天井絵

【想定媒体】 看板、アプリ QR コード/Web

＜簡体字＞

墙壁与天花板的壁画

在长谷寺主祭坛的后面有一间狭小的佛堂，里面供奉着 10 米高的观音像。佛堂设有一个开口，透过这个开口可以从礼拜堂看到佛像的上半部分。佛堂的墙壁和天花板上绘有巨幅壁画，但只有进入佛堂内才能看到这些壁画。这些壁画的存在，在漫长的岁月中曾一度被人们所遗忘。

这间佛堂被视为神圣之地，禁止入内。即使偶尔有参拜者准许入内，但由于佛堂高大昏暗，即使站在观音像脚下，也只能看到墙上的壁画，无法看到天花板上的壁画。直到 2007 年安装了照明，人们才意外地发现了这些保存完好、技艺精湛的壁画。据推测，这些壁画制作于约 1650 年正殿建成时期。

墙上的壁画中绘有四大天王像，从各个方向护卫着观音菩萨。天花板上则绘有天女与乐器，仿佛天籁之音正从天而降，萦绕在观音的耳边。这些壁画营造出了一种立体而又神圣的空间氛围。

用色彩鲜艳的壁画来装饰这样一个昏暗而又不易进入的房间，似乎有些不可思议，但这样“隐秘的装饰”正是日本传统艺术的特点之一——即便是无人能见之处，也会用心装饰，就像是和服的内衬一样。对于神圣之物，无论是否会被看见，艺术家们都倾注全部心血去创作。

每年春秋两季，佛堂会特别对公众开放。参观需另付入场费。

＜繁体字＞

牆壁與天花板壁畫

長谷寺高約 10 公尺的觀音像，供奉於主祭壇後方的狹窄佛堂中。佛堂的開口處，讓

參拜者能從禮堂瞻仰觀音像的上半身。佛堂內部的牆面與天花板繪滿了大幅壁畫，但唯有身處佛堂內部才能一覽全貌。這些壁畫的存在，在漫長的歲月中曾一度被人遺忘。

在長谷寺漫長的歷史中，這處聖域長年被列為禁地。即使偶爾會允許信眾進入，但當他們站在觀音菩薩的腳下，瞥見牆面的畫作時，也往往因佛堂高聳且昏暗，而看不清天花板上的任何藝術細節。直到西元 2007 年，寺方於內部加裝照明設備時，才意外發現這些保存完善、畫工精美的壁畫，其年代被認為與本堂同樣古老，可追溯至約西元 1650 年。

佛堂牆面繪有四大天王的畫像，象徵自四方守護觀音菩薩的護法神祇。天花板則描繪了天女與樂器，彷彿仙樂從天而降，縈繞於觀音像的耳畔。牆面與天花板的壁畫相互呼應，營造出一個觀音菩薩所居住的神聖立體世界。

在昏暗且難以進入的空間裡，以如此色彩鮮豔的畫作裝飾，乍看之下似乎有些不可思議，但其實這種「隱而不顯」的裝飾手法，正是日本傳統藝術共有的特質。即使是在無人看見之處，依然會加入精緻的細節，例如和服的內襯便是如此。藝術家的用心，不僅在於眼前可見的神聖空間與器物，也同樣存在於看不見之處。

此空間會於春、秋兩季特別開放，屆時民眾可入內參觀，入內需另外支付入場費。

＜日本語仮訳＞

壁と天井の壁画

長谷寺の本堂奥の狭い仏堂には、高さ 10 メートルの観音像が安置されている。仏堂にある開口部により、礼拝堂から像の上半身を見上げることができる。内部の壁と天井は巨大な壁画で覆われているが、これらは仏堂内部からしか見ることができない。その存在は長い歴史の大部分において忘れ去られていた。

長谷寺の歴史の大半において、この聖域は立ち入り禁止であった。巡礼者が時折入ることを許されることはあったが、観音の足元に立って壁の絵を垣間見たとしても、背の高い仏堂内は暗く、天井の芸術作品を目にすることは不可能であったろう。しかし 2007 年、電気照明の設置により、本堂（1650 年頃）と同時代のものと推定される、驚くほど良好な状態で保存された壁画が予期せず発見された。

部屋の壁面には四天王の絵が描かれており、四方の方角を守護する彼らは観音菩薩を四方から護っている。天井の壁画には天女や樂器が、音楽が天から降り注ぎ、観音像の耳元近くまで届く様子を表現するかのよう描かれている。これらの壁画が一体となり、観音様が鎮座する神聖な立体的な世

界を創り出している。

暗く入り込めない部屋をこれほど色鮮やかな絵画で飾るのは奇妙に思えるかもしれないが、このような「隠れた装飾」は日本の伝統芸術に共通する特徴である。誰も目にすることのない場所、例えば着物の裏地にも細やかな細工が施される。芸術家たちは、目に見える聖なる空間や物だけでなく、目に見えないものに対しても等しく注意を払ったのである。

特別拝観期間中（春と秋の各回）、この施設は一般公開される。別途入場料が必要。

【タイトル】 長谷寺/難陀龍王

【想定媒体】 看板、アプリ QR コード/Web

<簡体字>**难陀龙王像**

重要文化财产

鎌倉時代（1185—1333）

难陀龙王是守护佛法的八大龙王之首。传说中，龙王们听闻佛祖释迦牟尼宣讲《妙法莲华经》后，便皈依了佛教。根据《长谷寺缘起文》记载，在长谷寺安置十一面观音像时，难陀龙王等龙王也在场。由于难陀龙王能呼风唤雨，带来丰收，因此也被尊为水神。

从参拜者所在的位置看，难陀龙王位于观音像的右侧。其形象是一位身穿中国古代朝服、头戴纱帽的老者。手托一供盘，盘中有龙显形，象征着其龙王身份。

难陀龙王像的面前有一面小圆镜，这种镜子通常出现在神道的神社中，被视为是神明寄宿的神体。长谷寺中出现这样的镜子，体现了其神佛合一的宗教传统。在神佛合一的信仰中，难陀龙王被视为春日大社之神——春日大明神的化身之一。与春日大社关系密切的藤原家族，曾帮助建立长谷寺。将佛像与神镜一同供奉，也象征着人们相信难陀龙王兼具神道与佛教的神圣身份。

<繁体字>**難陀龍王立像**

重要文化財產

鎌倉時代（西元 1185—1333）

難陀龍王為八大龍王之首，這八位龍王皆是護持佛法的護法善神。相傳，龍王們在聆聽釋迦牟尼佛——亦即歷史上的佛陀宣講《法華經》（妙法蓮華經）後，皆皈依了佛教。根據《長谷寺緣起文》記載，長谷寺供奉十一面觀音立像時，難陀龍王與其他龍王皆在場見證。難陀龍王同時也被尊為司掌雨水與豐收的水神。

從參拜者的視角來看，難陀龍王像立於觀音立像的右側。其形象被刻畫成一位身著中國古代朝廷官袍、頭戴紗帽的老者，而他手中供盤所浮現的龍形，則暗示了其真身。

難陀龍王像前方安置著一面小巧的圓鏡。在神道信仰中，鏡子常被視為神明寄宿的神體；長谷寺中亦保留此一配置，顯示寺院的宗教傳統融合了佛教與神道的元素。在這間寺院的神佛習合信仰中，難陀龍王被奉為春日大社之神（春日大明神）的化身。春日大社與協助興建長谷寺的藤原家族有著密切的關聯。佛像與鏡子一同安奉的形式，象徵著難陀龍王在信仰中兼具了神道與佛教兩種面向。

＜日本語仮訳＞

難陀龍王像

重要文化財

鎌倉時代 (1185-1333)

難陀龍王は八大龍王の首領であり、仏教の教えの守護神として広く崇敬される八神の一柱である。龍王たちは、歴史上の仏陀である釈迦が法華経を説くのを聞き、仏法に帰依したと言われている。長谷寺の歴史によれば、難陀龍王ら龍王たちは長谷寺に十一面観音像が安置された際、その場に列席していた。難陀龍王は、雨を降らせ豊作をもたらす水の神としても崇敬されている。

拝観者の視点から見て、観音像の右側に難陀龍王の像が立っている。この神は、古代中国宮廷の役人が着用する衣と綿布の帽子をまとった老人の姿で描かれている。その手に持つ供物台から龍が現れ、真の姿を示唆している。

難陀龍王の前には小さな丸い鏡が置かれている。こうした鏡は通常、神社の神々の具現として用いられ、長谷寺にこれがあることは、同寺の宗教的伝統が仏教と神道の要素を併せ持つことを示している。寺院の神仏習合の慣習において、難陀龍王は春日大社の神（春日大明神）の別の姿として祀られている。春日大社は、長谷寺の建立を助けた藤原氏と深い関わりを持つ。このように像と鏡を共に安置することは、難陀龍王が神道的側面と仏教的側面の両方の姿を併せ持つと信じられていることを示している。

【タイトル】 長谷寺/雨宝童子

【想定媒体】 看板、アプリ QR コード/Web

<簡体字>**雨宝童子像**

重要文化财产

室町时代（1336—1573）

雨宝童子，也被称作“祈雨童子”。其雕像立于长谷寺十一面观音像旁，是守护初瀬山及观音菩萨所立石台的八大童子之一。在长谷寺观音菩萨显灵的传说中，雨宝童子常常作为使者登场。

雨宝童子右手持锡杖，左手持如意宝珠，身穿朝服，头戴传统黑色礼冠，形似一位贵族少年。发型为“角发”，是曾在青少年男子中流行的环状发型。发环的长短象征着社会地位，地位较低者的发环较短，靠近耳处。雨宝童子的发环长及双肩，显示了其尊贵的身份。

长谷寺的信仰融合了佛教和神道的元素。雨宝童子不仅是佛教的神明，也是神道的太阳神——天照大神的化身。日本皇室被认为是天照大神的后裔，因此皇室也曾资助建造长谷寺正殿与十一面观音像，而雨宝童子像也正是皇室支持的见证。

<繁体字>**雨寶童子立像**

重要文化財產

室町時代（西元 1336—1573）

雨寶童子，意為「祈雨童子」，侍立於長谷寺十一面觀音立像旁。祂屬於八大童子之一，負責守護初瀬山以及觀音菩薩所立的石台。在與長谷寺觀音相關的顯靈事蹟中，雨寶童子通常扮演使者的角色。

雨寶童子右手持錫杖，左手捧如意寶珠。祂被塑造成貴族青年的形象，身著宮廷禮服，

頭戴傳統黑色冠帽。這種被稱為「美豆良（角髮）」的環狀髮型，在當時的青少年中相當普遍，髮環的長度則代表社會階級。地位較低的人會將髮環梳得更靠近耳朵，但雨寶童子的髮環及肩，顯示了祂的貴族身份。

長谷寺的宗教信仰融合了佛教和神道的元素。作為佛教神祇的雨寶童子，也被尊奉為神道太陽神——天照大神的化身，而日本皇室的血統正溯源於此。皇室曾資助建造長谷寺本堂與十一面觀音立像，而雨寶童子像的存在，也讓人們見證了當年皇室所施予的援助。

<日本語仮訳>

雨宝童子像

重要文化財

室町時代（1336-1573）

雨宝童子像、または「雨を降らせる子」は、長谷寺十一面観音の付き添いとして立っている。彼は、初瀬山と観音様が立つ石壇を見守る八童子の一人である。長谷寺観音にまつわる奇跡の物語において、雨宝童子は一般的に使者として務める。

雨宝童子は右手に錫杖、左手に如意宝珠（願いを叶える宝珠）を持っている。彼は、宮廷風の衣裳と伝統的な黒い冠をまとった高貴な少年として描かれている。角髪（みずら）と呼ばれる輪状の髪型は思春期の男の子に一般的で、その輪の長さが社会的地位（身分）を示していた。低い身分の者は髪の輪を耳の近くに作るものだが、雨宝童子の肩まで届く輪状の髪は貴族であることを示している。

長谷寺は、その宗教的信仰に仏教と神道の両方の要素を取り入れている。仏教の神である雨宝童子は、神道の太陽の神であり、皇室がその家系を遡る祖先とする天照大神がとった姿としても崇敬されている。皇室は長谷寺の本堂と十一面観音像の建立に資金援助を行い、雨宝童子像の存在はその支援を今に伝える証である。

【タイトル】 長谷寺/阿弥陀如二十五菩薩来迎図

【想定媒体】 看板、アプリ QR コード/Web

<簡体字>

迎往极乐世界的盛大队列

正殿后方有一扇小格子窗，透过这扇窗户，可以隐约看到极乐世界的情景。

在供奉十一面观音像的佛堂外墙上，绘有《阿弥陀佛与二十五菩萨来迎图》，描绘了阿弥陀佛带领菩萨，前来迎接刚刚离世之人前往极乐世界的情景，这被称为“来迎”。来迎图是佛教艺术中常见的题材，目的是安抚信徒，让他们相信死后能够得到救赎。据说，这幅壁画与正殿一样古老，大约建于 1650 年。

在壁画与格子窗之间，供奉着一尊小十一面观音像，被称为“里观音”，意思是“背后的观音”。这尊像建造于 1769 年，当时供奉在主殿高 10 米的本尊不向公众开放。前来参拜的信众无法亲眼看到本尊，但透过格子窗，他们可以看到这尊立于《来迎图》前的小观音像。

每年春秋两季，正殿的内侧会向公众特别开放，届时可以看到壁画的全貌。若想了解更多关于壁画的历史和细节，请点击以下链接。

<繁体字>

迎向極樂淨土的莊嚴景象

在正殿後方，透過木格柵的小窗，讓人一窺淨土重生的景象。

這幅壁畫繪於供奉十一面觀音立像的佛堂外牆上，題為《阿彌陀佛及二十五菩薩來迎圖》。畫中描繪阿彌陀佛及 25 位菩薩前來接引剛往生的人前往淨土的景象，此一景象被稱為「來迎」（意為「前來接引」）。來迎圖旨在傳達死後救度往生淨土的信念，用以撫慰信眾的心靈，是佛教藝術中常見的主題。這幅壁畫被認為與本堂（約西元 1650 年）本身一樣古老。

在壁畫與木格柵窗之間，供奉著一尊小巧的十一面觀音像。這尊觀音像被稱為「裏觀音」，意即「在後方的觀音」。西元 1769 年製作此尊縮小複製像時，高約 10 公尺的本尊觀音立像尚未對外公開。當時的參拜者無法瞻仰本尊等身大的莊嚴姿容，但只要隔著格子向內窺望，便能看見這尊小小的觀音像，靜靜佇立於來迎壁畫所描繪的天界景象之前。

每年春秋兩季的特定期間，本堂此一區域會特別對外公開，屆時便能欣賞這幅壁畫的全貌。欲了解更多壁畫歷史和描繪細節的資訊，請參考以下連結。

＜日本語仮訳＞

浄土への盛大な歓迎

本堂の奥、木製の格子窓から見える小さな隙間が、天上の浄土における再生の様子を垣間見せてくれる。

十一面観音を祀る堂の外壁に描かれた「阿弥陀仏と二十五菩薩来迎図」は、阿弥陀仏と菩薩の行列が、亡くなったばかりの者を浄土へ迎えに来る様子を描いたもので、これを「来迎（らいごう）」と呼ぶ。来迎図は、死後の救済を信者に伝えることで慰めを与えることを意図しており、仏教美術における一般的な主題である。この壁画は、本堂自体と同じくらい古い（約 1650 年頃）と考えられている。

壁画と格子窓の間に十一面観音の小像が祀られている。この像は「裏観音」、または「背後の観音」と呼ばれる。このミニチュアの複製が制作された 1769 年当時、高さ 10 メートルの本尊は一般公開されず隠され続けていた。参拝者は本尊の等身大の姿を拝むことは叶わなかったが、格子越しに覗き込むと、来迎壁画の天界という背景の前に立つ小さな観音像を目にすることができたのである。

この壁画は、春と秋の特定の期間に本堂の裏側が一般公開される際に、全体を見ることができる。壁画の歴史や描かれた詳細について詳しく知りたい方は、以下のリンクよりアクセスできる。

【タイトル】 長谷寺/阿弥陀如来二十五菩薩来迎図

【想定媒体】 アプリ QR コード/Web

<簡体字>

壁画《阿弥陀如来与二十五菩萨来迎图》

国宝

江戸时代 (1603—1867)

这幅壁画描绘了阿弥陀佛带领二十五位菩萨从天而降，迎接刚去世之人前往极乐世界的情景，被称为“来迎”。菩萨是已经开悟，但为了普度众生而暂不入涅槃的神明。来迎图的目的是安抚信徒，让他们相信死后可以获得救赎。在 12 世纪，这类题材在佛教艺术中十分常见。

该壁画位于长谷寺一座供奉观音像的佛堂后墙上，面对着观音像。这尊观音像高 10 米，是长谷寺的本尊。而画中的阿弥陀佛正好位于观音像背后。这种布置象征着信徒祈求在今世获得观音菩萨的保佑，在来世获得阿弥陀佛的救度。

通常在来迎画中，观音菩萨会与象征智慧的大势至菩萨，一起侍立在阿弥陀佛两侧。但在这幅壁画中，观音菩萨的位置由地藏菩萨取代。地藏菩萨在日本被认为是旅行者的守护神。地藏菩萨位于在阿弥陀佛左侧，一手持锡杖，一手持如意宝珠。大势至菩萨则位于右侧，双手合十。

在壁画的右下角，两位菩萨手捧莲台和天盖，迎接逝者前往极乐世界。其身后是一队盛装的菩萨，脚踩五彩莲花、衣袂飘飘、翩翩起舞。菩萨们还携带着钹、锣、笛子、手鼓、琵琶和琴等乐器，像是在奏起迎接逝者的乐曲。对于信仰阿弥陀佛的人来说，逝世并不是悲伤之事，而是通往极乐世界、获得开悟的喜悦时刻。

据说，这幅《阿弥陀如来与二十五菩萨来迎图》是正殿的一部分，制作时期与正殿建造时期（约 1650 年）相同，同为国宝。令人惋惜的是，由于长期暴露在高温潮湿的环境中，部分颜料已经剥落，许多菩萨的面容也模糊不清。为了让这幅壁画能流传后世，正在进行记录和保存工作。

注：除春季和秋季的特別開放期間外，壁畫所在的正殿區域不對外開放。但遊客全年都可以從正殿后面的窗戶觀看到部分壁畫。

〈繁體字〉

阿彌陀佛及二十五菩薩來迎圖

國寶

江戶時代（西元 1603—1867）

這幅壁畫描繪阿彌陀佛與 25 位菩薩從天而降的景象。菩薩雖已證悟，卻為救度眾生而選擇延後入涅槃。相傳，阿彌陀佛與隨行菩薩會接引剛往生的人前往極樂淨土，這種行為稱為「來迎」（意為「前來接引」）。來迎圖的用意，在於傳達死後得以蒙受救度、往生淨土的信念，以撫慰信眾的心靈。此類主題在 12 世紀的佛教藝術中尤為盛行。

長谷寺的本尊為高約 10 公尺的觀音菩薩立像，象徵慈悲的化身。這幅壁畫繪於觀音堂後方的牆壁上，畫中的阿彌陀佛正好位於觀音菩薩的身後。這種安排，反映出信眾在現世祈求觀音菩薩的守護，並期盼於來世獲得阿彌陀佛的救度。

在多數來迎圖中，觀音菩薩常與象徵智慧的大勢至菩薩一同現身，隨行於阿彌陀佛身側。然而在此壁畫中，地藏菩薩取代了觀音菩薩。地藏菩薩在日本被奉為旅人的守護神，畫中，祂立於阿彌陀佛左側，一手持錫杖，一手持如意寶珠。大勢至菩薩則立於阿彌陀佛右側，雙手合十，祈願眾生得度。

在壁畫右下角，兩位菩薩伸出蓮花座與傘蓋，接引往生者，並引導其前往極樂淨土。在祂們身後，菩薩們在盛大的行列中翩然起舞，其天衣飄揚，其足下盛開五彩斑斕的蓮花，並且手持鈸、鑼、笛、手鼓、琵琶與古箏。阿彌陀佛信眾的往生並非哀傷之事，而是值得歡慶的喜事，因為他們最終都能前往阿彌陀佛的極樂世界，證得開悟。

《阿彌陀佛及二十五菩薩來迎圖》這幅壁畫，被認為與本堂（約西元 1650 年前後）同樣古老，並與本堂同樣被指定為日本國寶。但很可惜的是，由於數百年來長期暴露於高溫與潮濕的環境，部分區域的顏料已出現剝落，許多菩薩的面容亦因此模糊，難以辨識。目前正進行相關的記錄與保存工作，以期能將這幅珍貴的壁畫傳承給後世。

備註：除了春、秋兩季的特別開放期間之外，本堂此區域不對外開放。不過，透過本堂後方的窗口，全年皆可欣賞到壁畫的一部分。

<日本語仮訳>

阿弥陀如来二十五菩薩来迎図（細部）

国宝

江戸時代（1603-1867）

この壁画は、天界から降り立つ阿弥陀仏と二十五尊の菩薩の随行団を描いている。菩薩とは、悟りを開いた存在でありながら、他者を救うために涅槃に入ることを見送りしている存在である。阿弥陀仏とその随行団は、亡くなったばかりの者を天上の浄土へ導く「来迎（らいごう）」の役目を担うと伝えられている。来迎の場面は、死後の救済を信者に伝えることで慰めを与える意図があり、1100年代には仏教美術の主要な題材となった。

長谷寺の本尊は、慈悲の菩薩である観音菩薩の10メートルの像である。この壁画は観音を祀る部屋の裏側の壁、つまり壁の反対側の、観音のちょうど後ろにあたる位置に描かれている。この配置は、信者が現世では観音の助けを求め、来世では阿弥陀の救済を期待できるという考えを反映している。

ほとんどの来迎図では、観音は智慧の菩薩である勢至菩薩とともに阿弥陀の随行として描かれる。しかしこの壁画では、観音の代わりに地蔵菩薩が配置されている。地蔵菩薩は日本で旅人の守護神として知られる。地蔵菩薩は阿弥陀の左側に立ち、片手に錫杖、もう片方に如意宝珠を持つ。勢至菩薩は阿弥陀の右側に立ち、両手を合わせて祈りを捧げている。

絵の右下では、二人の菩薩が蓮華台と天蓋を差し出し、亡き人を迎え浄土へ導く。その背後では、菩薩たちが華やかな行列の中で舞い、流れるような衣を翻し、足元には色とりどりの蓮の花が咲き乱れる。彼らはシンバル、ゴング、笛、手鼓、琵琶、箏を携えている。阿弥陀仏の信徒の死は悲しむべき出来事ではなく、喜びに満ちた祝いの契機なのである。それは、阿弥陀の極楽浄土では最終的な悟りが約束されているからだ。

「阿弥陀如来と二十五菩薩来迎図」は、本堂自体（約1650年）と同時代に制作されたとされ、建物の国宝指定に含まれている。長年にわたる高温多湿の影響で絵の具が所々剥がれ始め、多くの菩薩の顔は残念ながら判別不能となっている。後世に伝えるため、壁画の記録保存作業が進められている。

注：本堂のこの区域は、春と秋の特別拝観期間を除き、一般の方の入場はご遠慮いただいているが、壁画の一部は本堂裏側の窓越しに年間を通じて見ることができる。

【タイトル】 長谷寺/登廊

【想定媒体】 看板、アプリ QR コード/Web

<簡体字>**登廊**

登廊是通往长谷寺正殿的一条长长的带屋顶的阶梯，沿途挂有圆灯笼。登廊共 399 阶，分为三段，坡度逐渐变陡。近千年来，这里一直是长谷寺最有代表性的景观之一，沿途还能看到有许多知名的风景。

重病、蛇与乌鸦

登廊最早建于 1039 年，由春日大社的宫司（神社的最高负责人）中富信清主持修建。据长谷寺的历史记载，信清的儿子信近患重病，在长谷寺观音菩萨的保佑下得以康复，为表达感激之情，信清决定建造这条登廊。

当时，为了治愈信近脚上的恶疮，信清向春日大社的众神明祈求。神明告诉他，这场病是因信近前世的恶业所致。于是，神明赐给信清一根神圣的杨桐树枝，让他带着树枝前往长谷寺，向观音菩萨祈愿。信近祈愿的第三天，一只乌鸦俯冲下来，从他手中叼走了树枝。

就在信近奄奄一息之时，那只乌鸦飞落在了廊下，开始啄信近脚，并从患处叼出一条蛇飞走了。信近随后醒来，病也痊愈了。为了表达对观音菩萨的感激之情，信清决定在长谷寺修建一条登廊。

在登廊的最高处可以看到一块木牌，上面刻有叼着蛇的乌鸦图案。

通往观音之路

登廊由三段相互垂直的独立廊道组成，形似闪电。据传说，登廊是沿着菅原道真（845—903）最初开辟的通往寺院的道路修建而成。菅原道真是一位博学多才的官员，死后被神道奉为掌管学问的天神。过去，长谷寺的信众们多从东坡登山前往正殿，但传说中，道真曾以超凡的速度从南坡登上初濑山。这也隐喻了他是掌管雷电的天神。

上段的廊道是登廊现存最古老的部分，与正殿重建于同一时期（约 1650 年）。与下方的两段相比，装饰较为朴素，木材上还可以看到岁月留下的磨损痕迹。若仔细观察，会发现横梁与立柱相连接之处有凹陷的手印。这些凹痕是数百年来，众多参拜者在手扶横梁走下陡峭的阶梯时，留下的痕迹。

下段和中段的廊道重建于 1889 年，在最下端部分的横梁上，刻有葫芦图案。葫芦在道教中象征着的长生不老，在这里也代表着希望廊道能长存不朽的心愿。

天狗杉

登廊的上方尽头有一棵被称为“天狗杉”的树。天狗是日本民间传说中的妖怪，外貌似人，长着翅膀和长长的红鼻子，性格顽皮。据说，过去天狗曾栖居于长谷寺周围的杉树林中，时常恶作剧，比如推倒石灯笼，或把灯油洒在阶梯上，制造混乱。

一天，一位名叫英岳的年轻僧人建议砍掉所有杉树以驱赶天狗。但住持拒绝了他的建议，并斥责他不专心修行，执着于小事。从那以后，英岳便专心修行，下决心要在成为高僧后实现自己的想法。

后来，成为高僧的英岳召集了日本各地的伐木工人砍伐寺院周围的杉树，并扩建寺院。这时，几只懊悔的天狗出来向英岳道歉，恳求他重新考虑伐树之事。在将要砍伐最后一棵杉树时，英岳拦住了伐木工，说道：“如果没有天狗，我也不会专心修行，就留下一棵吧。”这棵树后来被称为“天狗杉”。

<繁体字>

登廊

通往長谷寺本堂的參道，是一條綿延而上的「登廊」，亦即設有屋頂的石階，沿途懸掛著又大又圓的燈籠提供照明。整條登廊共有 399 階石階，分為三段，越往上走越陡峭。大約千年以來，這座登廊始終是長谷寺最具代表性的景觀之一，途中亦分布著多處知名景點。

致命疾病、蛇與烏鴉

這條設有屋頂的登廊，最初由春日大社的宮司中臣信清於西元 1039 年建造。宮司是

神社中地位最高的負責人。根據長谷寺的記載，信清之子信近因蒙長谷寺觀音菩薩庇佑，從一場致命的疾病中奇蹟康復，信清為報答此恩德，因此建造了這條登廊。

相傳信清曾向春日大社的諸神祈求，盼能醫治兒子信近腳上的惡瘡。諸神告知，這場病痛源於信近前世所造的業障，並賜予信清一根神聖的紅淡比樹樹枝，指示他前往長谷寺祈求觀音菩薩的庇佑。當他祈求至第三天時，一隻烏鴉忽然俯衝而下，從信清手中叼走了樹枝。

就在信近奄奄一息之際，一隻烏鴉落在走廊上，開始啄他的腳，最後竟從傷口中拉出一條蛇，接著就叼著那條蛇飛走了。信近甦醒後，發現病痛竟然已經痊癒。信清為了表達感謝，因此下令於長谷寺建造這條帶屋頂的登廊。

至今，在登廊頂端仍可見一塊木製匾額，上面雕刻著一隻烏鴉叼著蛇，訴說著這段傳說。

通往觀音之路

這條設有屋頂的登廊，由三段直角排列的獨立走廊構成，整體形狀宛如一道閃電。根據傳說，這條登廊是沿著菅原道真（西元 845—903）最初開闢、通往寺院的道路而建。菅原道真是一位卓越的學者與官員，他逝世後被神格化為神道的學問之神。在這條道路形成之前，長谷寺的信眾多由東側道路前往本堂，但傳說中，菅原道真曾以超乎常人的速度登上初瀨山的南邊山坡。這一傳說，也暗示了他司掌雷電與學問的天神身分。

登廊最上段為現存最古老的部分，和本堂同時重建（約西元 1650 年）。其裝飾與下方兩段相比顯得樸素，木材表面清楚可見歷經數百年歲月洗禮的痕跡。若細心觀察，便會發現側樑與每根柱子相接之處留有手形凹痕。這些凹痕是數百年以來，信眾們在走下陡峭階梯時緊抓側樑所形成的。

中段與下段登廊則於西元 1889 年重建。在最下段登廊的部分側樑上，可見雕刻成葫蘆形狀的裝飾。葫蘆在道教中象徵長生不老，據說也寄託了人們祈求登廊永存的願望。

天狗杉

在登廊一側，矗立著一棵被稱為「天狗杉」的高大杉樹。天狗是日本民間傳說中性情頑皮的妖怪，外形貌似人類，長著翅膀以及長而鮮紅的鼻子。相傳，天狗曾棲息於長谷寺

周邊的杉樹之上，時常推倒石燈籠，或將燈油灑在階梯上惡作劇，製造許多麻煩。

某天，一位名叫英岳的年輕僧侶提議，乾脆將所有杉樹砍除，如此一來便可驅逐天狗。然而住持否決了這個想法，並斥責英岳荒廢修行，將心力耗費在這等瑣碎之事上。從此之後，英岳便潛心修行，立志日後能以自身力量實現心中的計畫。

他成為高僧之後，便召集日本各地的伐木工人，準備砍伐杉樹、擴建寺院。就在此時，幾隻悲痛欲絕的天狗現身，向英岳低頭認錯，懇求他重新考慮。當最後一棵杉樹將被砍伐之際，英岳忽然制止了伐木工人，並說道：「仔細想來，正因為天狗的緣故，我才開始專心修行。就留下其中一棵吧！」這棵被保留下來的杉樹，便被稱為「天狗杉」。

<日本語仮訳>

屋根付きの階段

長谷寺の本堂へ続く道は、大きな丸い提灯に照らされた長い屋根付き階段である。399 段の階段は三つの屋根付き区間に分かれており、区間が進むにつれて傾斜が次第にきつくなる。この階段は約千年にわたり長谷寺で最も象徴的な特徴の一つであり、沿道には多くの名所が点在している。

命に関わる病、蛇、烏

この屋根付き階段は、春日大社の宮司であった中臣信清によって 1039 年に初めて造られた。長谷寺の記録によれば、信清は息子の実親が命にかかわる病から奇跡的に回復した恩返しとして、この階段を建立したのである。

信清は春日大社の神々に、実親の足にできた有害な患部を治してほしいと願った。神々は、その病は実親の前世の悪業に起因すると説明し、信清に神聖な榊の枝を与え、長谷寺で観音様に向かって祈るよう指示した。祈りを始めて三日目に、一羽のカラスが飛んできて、信清の手からその枝を奪い取った。

一方、実親が死に瀕していた時、一羽のカラスが縁側に降り立ち、少年の足をつつき始めた。カラスは患部から蛇を引きずり出すと、くちばしに蛇をくわえたまま飛び去った。実親は目を覚ますと、完全に回復していた。感謝の念から、信清は長谷寺に屋根付きの階段を造らせた。

階段の頂上には、くちばしに蛇をつかむ烏が彫られた木の板が置かれている。

観音への道

屋根付きの階段は、稲妻のように直角に交わる三つの通路で構成されている。伝説によれば、この階

段は寺院への道を最初に切り開いた名高い学者官僚・菅原道真（845-903）の道を辿っている。没後に学問の神である天神として神格化された道真にちなむこの道ができるまで、長谷寺の参拝者は東側の道から本堂へアプローチしていたが、道真は超人的な速さで初瀬山の南斜面を登ったと伝えられる。これは雷や学問を司る天神としての彼の身分を暗示している。

上部の回廊は階段で最古の現存部分であり、本堂（約 1650 年）と同時に再建された。下部の二つの区間より装飾は控えめで、木材には何世紀にもわたる摩耗の跡が刻まれている。よく見ると、側梁が各柱と接合する部分に手の形をした窪みが確認できる。これらは何世紀にもわたり、参拝者が急勾配の階段を下りる際に梁を握ったことで形成された痕跡である。

下段と中段の回廊は 1889 年に再建された。最下段の回廊を縁取る側梁の一部にはひょうたん形が彫られている。ひょうたんは道教の不老不死の象徴とされ、回廊の永遠の存続を祈願する意味が込められているとされる。

天狗杉

天狗杉と呼ばれる木は屋根付きの階段を見下ろすようにそびえ立ち、本堂の縁側からも眺めることができる。天狗とは日本の民間伝承に登場する、翼と長い赤い鼻を持つ人間に似た悪戯好きな妖怪で、かつては長谷寺周辺の杉の木々に棲み、石灯籠を倒したり階段に灯明の油を撒いたりして悪戯をしたと伝えられている。

ある日、若き僧・英岳は天狗を追い出すため杉の木を全て伐採するよう提案した。住職はこの案を却下し、英岳を叱責した。それ以来、英岳は修行に専念し、出世して自らの計画を実行に移すことを決意した。

高僧となった英岳は、日本各地から木こりを集め、杉の木を伐採して寺院を拡張した。数人の嘆き悲しむ天狗が謝罪し、英岳に再考を懇願した。最後の杉が伐採されようとしたその時、英岳は木こりを止め、「考えて見れば天狗たちのおかげで勉強が好きになったのだ。一本くらい残してもいいだろう。」と宣言した。この一本が後に「天狗杉」として知られるようになった。

【タイトル】 長谷寺/花の御寺

【想定媒体】 看板、アプリ QR コード/Web

<簡体字>

花之寺

长谷寺被称为“花之寺”。寺中许多景点以花卉闻名，反映了长谷寺丰富多彩的历史和传说。

牡丹赠礼

在寺内的登廊和本坊（僧侶住所）周围等地方，种植了 150 个品种约 7000 株牡丹。牡丹花的花期在四月到五月，有些品种在冬季也会开花。

据说，这些牡丹是由中国唐朝（618—907）的皇妃马头夫人赠送的种子培育而成。

传说马头夫人长相奇特，脸和鼻子像马一样长，但她心地善良，举止优雅。皇帝被她的美德所打动，对她十分宠爱。但其他妃嫔却因此对她心生嫉妒，她们为了羞辱马头夫人，计划在白天举办宴会，想让皇帝借此看清她丑陋的容貌。

马头夫人曾求助于医生，但没有药物能改变她的容貌。后来，她得到指点，得知向大慈大悲、神通广大的长谷寺观音菩萨祈愿可以改变她的面貌。于是马头夫人在遥远的中国祈求了七天七夜。最终，一位化身僧人的神明现身，将香油洒在她的脸上，马头夫人的容貌瞬间焕发出内在所蕴藏的美。

在宴会上，马头夫人赢得了大家的称赞，皇帝对她也更加宠爱。为表达感激之情，马头夫人将珍贵的宝物和牡丹的种子放在小船上，祈求大海将其送往长谷寺。这些供品最终如她所愿，抵达了长谷寺。

如今，在长谷寺的钟楼东侧，有一座供奉马头夫人的小神社。

绣球花与岚之坂

每年五月下旬到七月中旬的梅雨季节，是观赏绣球花的最佳时期。在这段时间里，长谷寺内的约 3000 株蓝色、粉色、紫色绣球花竞相绽放，汇成一片绚烂的花海。寺中的名为“岚之坂”的石阶，是最佳赏花处之一。石阶两侧绣球花丛茂密，在特别活动期间时，还会展出约 300 盆绣球花盆栽，整条小道将化作一片五彩缤纷的绣球花瀑布。

岚之坂的名称，源自山坡上吹来的凛冽山风。这番景象激发了贵族诗人源俊赖（1055—1129）的灵感，曾创作过一首关于单相思的和歌。诗中表现的是，一位参拜者前往长谷寺（当时称为初濑）祈求获得心上人的芳心，而那位女子却对他更加冷漠。

那心冷之人，
让我心苦，
如初濑的山风，
本非我所愿，
却愈吹愈烈。

〈繁体字〉

花之寺

长谷寺素有「花之寺」的美誉，以下景点不仅因花卉之美而闻名，也反映了寺院精彩丰富的历史与传说。

牡丹献礼

寺院境内种植了大约 7000 株牡丹，主要分布于登廊与本坊（僧侣宿舍）一带。牡丹的花期为 4 月至 5 月，但也有部分品种于冬季绽放，整个寺院内一共栽培了 150 种不同品种的牡丹。

相传，长谷寺的牡丹源自唐朝（西元 618—907），是由皇帝的妃子马头夫人所赠之种子培育而成。

传说中，马头夫人有著长长的脸型和鼻子，貌似马脸，但她为人善良，气质典雅，因此连皇帝都为其品性所倾倒，宠爱有加，於是招来其他妃嫔的嫉妒，甚至密谋要揭发马头夫人的醜態。她们计划在白天举办宴会，好让皇帝认清马头夫人其貌不扬的臉孔。

馬頭夫人曾求助於醫師，卻發現無論何種藥物都無法改變她的容貌。後來，她獲得指示，向長谷寺具有奇蹟之力、慈悲無量的觀音菩薩祈求。馬頭夫人自遠方虔誠祈禱七日七夜後，一位化身為僧侶的神祇出現在她面前，將香露灑在她的臉上。剎那間，她的容貌便映現出內在所蘊藏的美與光采。

宴會當日，馬頭夫人備受眾人愛戴，皇帝對她的寵愛也愈加深厚。為了表達感謝，馬頭夫人將各式珍寶和牡丹種子放在一艘小船上，放流入海。在她的祈願之下，船上的供品終於順利抵達長谷寺。

今日，在鐘樓東側仍可見一座小祠堂，供奉著馬頭夫人。

繡球花與嵐之坂

繡球花的最佳觀賞時節為梅雨季，約在 5 月下旬至 7 月中旬。在此期間，長谷寺境內約 3000 株繡球花競相盛放，藍、粉、紫交織成一片繽紛的花海。欣賞美麗繡球花的最佳地點之一，是名為「嵐之坂」（暴風雨之坡）的石階。石階兩側長滿高大的灌木叢，在舉辦特別活動期間，這裡會擺放大約 300 盆繡球花，整條石階宛如五彩繽紛的繡球花瀑布，令人嘆為觀止。

「嵐之坂」之名，源於山坡吹落的寒冽山風。這番景象激發了朝廷官員兼知名詩人源俊賴（西元 1055－1129）的靈感，創作出一首關於單戀的著名和歌。歌中描寫，一位信眾為祈求女子的青睞而造訪長谷寺（當時稱為初瀨），卻反而遭到她更加冷淡的對待。

對我怨恨無情之女人

初瀨寺的山風啊

讓她更加冷冽無情

並非我祈求之願

然而事與願違.....

<日本語仮訳>

花のお寺

長谷寺は「花の寺」として知られている。以下に挙げる景勝地は、ただ花で知られているだけでなく、寺の色鮮やかな歴史や伝説を反映している。

牡丹の献花

境内には約 7,000 本の牡丹が植えられており、特に屋根付き階段と本坊（僧侶の住居）周辺に多く見られる。見頃は 4 月から 5 月だが、冬に咲く品種もある。境内全体では約 150 種類の牡丹が栽培されている。

長谷寺の牡丹は、唐王朝の時代の皇帝の妃である馬頭夫人（ばとうふじん、直訳：「馬の頭の婦人」）が送った種から育てられたと伝えられている。

伝説によれば、馬頭夫人の長い顔と鼻は馬に似ていたが、彼女は優しく優雅な女性であった。皇帝は馬頭夫人の人柄に魅了され、彼女は皇帝の唯一の寵愛の対象となった。これに対し、他の妃たちは嫉妬から馬頭夫人の醜さを暴き出そうと画策した。昼間に宴会を開くことで、皇帝に彼女の不細工な顔をはっきりと見せようとしたのである。

馬頭夫人は医者助けを求めたが、どんな薬も彼女の容貌を変えることはできなかった。そこで彼女は、奇跡の力を持つ慈悲深い菩薩である長谷寺の観音様に祈るよう教えられた。馬頭夫人は七日七晩、遠くから祈り続けた。すると、僧侶の衣をまとった神聖な姿が彼女の前に現れた。その人物は馬頭夫人の顔に香油を注ぎかけると、彼女の顔立ちは瞬く間に内面の美しさを映し出した。

宴席で、馬頭夫人は称賛を浴び、皇帝の愛情はさらに深まった。感謝の印として、馬頭夫人は様々な宝物と牡丹の種を小舟に乗せ、海に流した。彼女の祈りが届いたおかげで、その供物は長谷寺にたどり着いた。

小さな祠が、馬頭夫人を祀るために鐘楼の東側にある。

アジサイと嵐の坂

アジサイの見頃は梅雨の時期、5 月下旬から 7 月中旬にかけてだ。これらの月には、長谷寺には約 3,000 株のアジサイが咲き誇り、鮮やかな青、ピンク、紫で彩られる。最も見事な鑑賞スポットの一つが「嵐の坂」と呼ばれる石段だ。両側に生い茂るアジサイの茂みが、特別行事時には約 300 鉢のアジサイが飾られ、色とりどりの花々が連なる滝のように道全体を彩る。

嵐の坂は、斜面を吹き下ろす冷たい山風（やまおろし）に因んで名付けられた。この現象は、廷臣であり名高い歌人である源俊賴（1055-1129）による片想いを詠んだ有名な歌の題材となった。その歌では、巡礼者が女性の愛情を祈願するため長谷寺（当時は初瀬と呼ばれていた）を訪れるが、彼女はかえって冷たくあしらうという。

うかりける	“つらい、心ないあの人を
人を初瀬の	初瀬の
山おろしよ	山おろしのよう

はげしかれ	もっと激しくなれと
祈らぬものを	祈らなかったのに”

Translation by Joshua S. Mostow in *Pictures of the Heart: The Hyakunin Isshu in Word and Image* (University of Hawai'i Press, 1996).

【タイトル】 長谷寺/長谷寺に見る神仏習合

（三社権現社よりタイトル変更予定）

【想定媒体】 看板、アプリ QR コード/Web

<簡体字>

长谷寺的神道元素

信仰共存的历史

长谷寺是真言宗丰山派的总本山，但其宗教传统中也融合了神道元素。佛教自 6 世纪传入日本以来，便与本土的宗教神道信仰一同发展，逐渐交融。佛教寺院内建有神社，神社内建有寺院，两者的神明并列供奉的情况也并不少见。许多神明在两种信仰中都拥有崇高的地位。

明治时代（1868—1912）神道与佛教关系陷入混乱，1868 年，政府推行新政，提高神道的地位，强制与佛教分离。此后的几年间，“废佛毁释”的风潮席卷全国，许多寺院土地被没收，宝物被毁。但在这场排斥佛教的运动中，长谷寺不仅幸免于难，还保留了神道元素。直到如今，长谷寺的信徒们依然同时供奉着佛教与神道的神明。

佛与神栖居之地

登廊下方入口的两根柱子上，挂有写有“诸佛经行砌，诸天神祇在”的木牌。此文出自《长谷寺缘起文》，是藏王权现宣布长谷地区为功德圣地时所说之语。藏王权现是修验道的重要神明，修验道是融合了神道、佛教和山岳修行等元素的宗教传统。在长谷寺登廊中段的藏王堂内，供奉着藏王权现。

在正殿东侧的山丘上，有三座小神社，合称为三社权现。分别供奉着长谷地区的守护神：泷藏权现、新宫权现、石藏权现。每年二月，当地居民都会前来供奉清酒和年糕，并更换象征神圣的注连绳。注连绳是用来标明神社结界的特殊绳结。

在正殿内也能看到神道的影响，例如一些佛像的前面摆放着圆镜子。这种镜子在神社中常被视为神明寄宿的神体。十一面观音像两侧也供奉着持有镜子的佛像：雨宝童子和难陀龙王。二者虽为佛教神明，但同时也被视为神道神明。雨宝童子是侍奉不动明王的八大

童子之一，同时也是神道太阳神天照大神的化身。而难陀龙王是八大龙王之一，也被视为春日大社众神的化身。

〈繁体字〉

長谷寺的神道元素

共存信仰的歷史

長谷寺雖為真言宗豐山派的總本山，但其宗教實踐中也包含神道的元素。自 6 世紀佛教在日本普及以來，便與在地的神道信仰與生活習俗並存發展，且經常相互融合。在佛教寺院境內興建神社的情形屢見不鮮，反之亦然，神道神祇與佛教神祇並列供奉的情況亦非罕見。許多神祇同時在兩種信仰體系中，成為人們所崇敬的對象。

然而，這樣的共存關係在明治時代（西元 1868—1912）開始陷入混亂。西元 1868 年，日本政府實施了新的政策，提升神道地位，並且將神道與佛教分離。隨後數年間，日本各地掀起反佛教的風潮，許多寺院的土地被沒收，寶物亦遭到毀壞。所幸，長谷寺在這場變革中不僅倖免於難，更成功保留了寺院境內的神道要素。時至今日，前來參拜的信眾仍可在此同時參拜佛教和神道的神祇。

諸佛眾神鎮守

在登廊底部的兩根柱子上，懸掛著刻有「諸佛經行砌」、「諸天神祇在」字樣的木牌。這些文字直接引自《長谷寺緣起文》，其中記載了藏王權現宣告長谷一帶為神聖功德之地的話語。藏王權現是修驗道的重要神祇之一，修驗道是一種結合神道、佛教與山岳修行等要素的宗教傳統。在長谷寺，藏王權現供奉於登廊中段的藏王堂內。

在本堂東側的山丘上，有 3 座小神社，合稱「三社權現」。這三座小神社供奉長谷地區的守護神——瀧藏權現、新宮權現與石藏權現。每年 2 月，當地居民都會到各神社敬獻清酒和麻糬，並更換神聖的注連繩。注連繩是用來標明神社場所結界的特殊繩結。

神道的影響也反映在本堂內，在部分佛教神像前方擺放著圓形的鏡子。這類鏡子通常見於神社之中，被視為神道神祇的象徵。在十一面觀音立像旁，侍立著兩寶童子與難陀龍王，兩尊神祇前方亦安置了此類鏡子。這兩尊雖屬佛教神祇，卻同時具備神道神祇的身分。兩寶童子為八大童子之一，侍奉象徵佛教智慧的不動明王，同時也被視為神道太陽神天照大神的化身；難陀龍王則為八大龍王之一，亦是春日大社諸神的化身。春日大社正是昔日

權勢顯赫的藤原氏所奉祀的守護神社。

＜日本語仮訳＞

長谷寺における神道の要素

共存する信仰の歴史

長谷寺は真言宗豊山派の本山であるが、ここで実践される宗教的伝統には神道の要素が含まれている。6 世紀に普及して以来、日本の仏教は土着の神道信仰や慣習と共存し、しばしば混交してきた。仏教寺院の境内に神社の建立が頻繁に行われ、その逆もまた然りであった。神道の神々と仏教の神々が並んで祀られることも珍しくなく、多くの神々が両信仰において崇敬の対象となっていた。

この関係は明治時代（1868–1912）に混乱に陥った。1868 年に神道を仏教から切り離すための新たな国家政策が実施された。その後数年間、国を席卷した反仏教的な風潮により、多くの寺院が土地を没収され、宝物を破壊された。長谷寺はこうした破壊を免れただけでなく、境内の神道的な要素を維持した。今日、長谷寺の信徒たちは仏教と神道の両方の神々を崇拝し続けている。

仏と神が鎮座する地

屋根付き階段の下にある二本の柱には、「諸佛経行砌」、「諸天神祇在」と刻まれた木札が掲げられている。これは長谷寺縁起記に記された、蔵王権現が長谷の地を聖なる功德の地と宣言した言葉の直接引用である。蔵王権現は、神道、仏教、山岳修行の要素を組み合わせた宗教伝統である修験道の中心的な神の一柱である。長谷寺では、屋根付きの階段の中腹に位置する蔵王堂に祀られている。

本堂の東側の丘には、三社権現と呼ばれる三つの小さな神社が並んでいる。ここには長谷地域の守護神である瀧蔵権現、新宮権現、石蔵権現が祀られている。毎年二月には、近隣の住民が酒や餅を供え、各神社の神聖なしめ縄を新しいものと取り替える。

神道の伝統は本堂内にも反映されており、仏教の仏像のいくつかには丸い鏡が前に置かれている。このような鏡は神社の神々を表すためにしばしば用いられる。十一面観音の傍らには、このような鏡を持つ二柱の神が立っている。雨宝童子と難陀龍王である。彼らは仏教の尊像ではあるが、神道の神としての第 2 の身分も持つ。不動明王を補佐する八大童子の一人である雨宝童子は、同時に太陽神・天照大神がとった姿でもある。八大龍王の一人である難陀龍王は、強大な藤原氏の氏社（守護神社）である春日大社の神々がとった姿でもある。

【タイトル】 長谷寺/五重塔

【想定媒体】 看板、アプリ QR コード/Web

<簡体字>**五重塔**

長谷寺の五重塔建于 1954 年，是日本战后建造的第一座佛塔，其建设资金由日本全国三百万名捐赠者共同资助，反映了人们在二战后，希望建造世界和平纪念碑的心愿。由于其建于昭和时代（1926—1989），因此也被成为“昭和塔”。

佛塔是佛教寺院中常见的建筑，通常用于供奉圣物、经文或佛像。长谷寺的五重塔中供奉着代表宇宙的大日如来佛像。塔顶覆盖着棕色的日本桧木皮，与周围的自然环境协调统一。塔的位置也十分考究，从寺内各处都能看到此塔。长谷寺五重塔的高度虽在日本全国排在倒数第二，但其在山间却形成了格外引人注目的景观。

<繁体字>**五重塔**

長谷寺の五重塔，凝聚了第二次世界大戰破壞之後，全國約三百萬名捐獻者期盼建立世界和平紀念碑的心願。此塔於西元 1954 年落成，是日本在戰後興建的第一座寶塔。由於建於昭和時代（西元 1926—1989），因此也被暱稱為「昭和之塔」。

佛塔是佛教寺院中常見的建築形式，主要用以供奉聖物、經書或佛像。長谷寺的五重塔內安奉著宇宙佛——大日如來像。塔身覆以棕色的檜皮葺屋頂，與周圍的自然景觀相互映襯。此外，五重塔的選址也經過周密考量，從寺院境內的任何地方都能望見這座塔的身影。雖然長谷寺的五重塔在山坡景致之中格外顯眼，實際上卻是日本現存五重塔中高度排行倒數第二的一座。

<日本語仮訳>**五重塔**

長谷寺の五重塔は、第二次世界大戦による破壊の後、世界平和の記念碑を建立したいと願った全国三百万人の寄付者の願いを反映している。1954年に建立され、戦後に日本で最初に建てられた五重塔という特徴を持っている。この塔は、建立された時代である昭和（1926–1989）にちなんで「昭和の塔」という愛称で親しまれている。

仏塔は仏教寺院に多く見られ、通常は聖なる遺物、経典、または仏像を祀る。この塔には宇宙の仏である大日如来像が祀られている。茶色の檜皮葺きの屋根は周囲の自然景観と調和しており、境内どこからでも塔が見えるように敷地が選ばれた。山腹の景観の中でひととき目を引く存在であるが、長谷寺の塔は日本国内で二番目に低い五重塔である。

【タイトル】 長谷寺/蔵王堂

【想定媒体】 看板、アプリ QR コード/Web

<簡体字>**蔵王堂**

蔵王堂中供奉着修验道的重要神明之一，藏王权现。修验道是一种融合了神道、佛教和山岳信仰的修行方式。藏王权现被看作吉野地区的圣山，金峰山的守护神。金峰山位于长谷寺以南约 18.5 千米的地方。

据传，在长谷寺建成之前，藏王权现经常显现于初瀬山。长谷寺资料中便有藏王权现宣称初瀬山为圣地的记载。藏王权现这一神示，成为日后此地建造寺院の契机。传说，藏王权现通过一座连接初瀬山与吉野的金桥来到此地，并每天都沿此路线前往长谷寺参拜观音像。建于 17 世纪的蔵王堂，正是为了方便人们参拜藏王权现而建造的。

蔵王堂内供奉着三尊几乎一模一样的藏王权现像。分别象征着三位共同化身为藏王权现的佛教神明：中央是代表过去的佛祖释迦牟尼，右侧是代表现在的观音菩萨，左侧是代表未来的弥勒菩萨。

这三尊藏王权现像的姿态都充满动感，仿佛定格在跳跃的瞬间。藏王权现深蓝的皮肤，冲冠的怒发，忿怒的面相，旨在降伏阻碍修行悟道的邪恶势力。右手持一把三叉金剛杵，象征着佛法的坚不可摧，以及摧毁邪恶的力量。堂外还安置着一柄巨大的石制三叉金剛杵，相传触摸此物可以消灾招福。

<繁体字>**蔵王堂**

蔵王堂供奉著藏王權現，祂是修驗道的核心神祇之一。修驗道是一種結合了神道、佛教與山岳信仰的艱苦修行方式。藏王權現為金峯山的守護神，金峯山是一座聖山，位於南方約 18.5 公里處的吉野地區。

據說，在長谷寺建成之前，藏王權現便經常造訪初瀨山。根據寺院記載，藏王權現曾宣告初瀨山為聖地，這也成為日後在此建立寺院的契機。又相傳，藏王權現是經由與吉野相連的黃金橋抵達初瀨山，並且每日沿此路徑前往長谷寺，參拜觀音像。此堂建於 17 世紀，作為藏王權現駕臨時的奉祀場所。

藏王堂內供奉著三尊幾乎一模一樣的藏王權現像。三尊像分別代表了化身為藏王權現的三位神祇——代表過去的釋迦牟尼佛、代表現在的觀音菩薩（右側），以及代表未來的彌勒佛（左側）。

在這三種現化中，藏王權現皆以充滿動感的姿態呈現，彷彿被定格在跳躍的那瞬間。祂的肌膚呈深藍色，頭髮豎立，其威嚴而震懾的形象是為了降伏阻礙開悟之路的邪魔。祂右手所持的三叉金剛杵，即三鈷杵，象徵佛法的堅不可摧以及破除邪魔的力量。藏王堂外另置有一件巨大的石製金剛杵，據說觸摸即可消災解厄，招來福運。

<日本語仮訳>

藏王堂

この堂は、神道、仏教、山岳信仰の要素を組み合わせた修験道と呼ばれる修行における中心的な神の一柱である藏王權現を祀る。藏王權現は、南へ約 18.5 キロメートル離れた吉野地域にある聖なる峰、金峯山の守護神である。

彼はまた、長谷寺が建てられる以前から初瀨山に頻繁に現れていたと信じられている。寺伝によれば、藏王權現は初瀨山を聖地であると宣言し、これが後にここに寺院を建立する動機となった。權現は吉野と結ぶ黄金の橋を渡って初瀨山に至ったとされ、毎日この道を辿り、長谷寺の觀音像参拝に赴くと伝えられる。この堂は 17 世紀に、權現の巡礼時に祀るための場所として建立された。

藏王堂には三体のほぼ同一の藏王權現像が祀られている。各像は一体となって藏王權現として現れる神仏の一柱：過去を表す歴史上の仏である釈迦牟尼を中央に据え、右側に現在を表す観音、左側に未来を表す弥勒が配されている。

三つの表現すべてにおいて、藏王權現は躍動感あふれるポーズ、まるで跳躍の瞬間を捉えたかのような姿で描かれている。彼は紺碧の肌を持ち、髪は逆立っている。彼の憤怒の相は、悟りの道を阻む悪しき勢力を退けるためのものである。右手に三叉の金剛杵（三鈷杵）を握る。この法具は仏法の不滅性と悪を滅する力を象徴する。堂外には石造りの巨大な三鈷杵が安置されており、これに触れると災いを払い幸運を招くと信じられている。

【タイトル】 長谷寺/観音大画軸

【想定媒体】 看板

＜簡体字＞

长谷寺大观音大画轴（复制品）

长谷寺大观音大画轴描绘的是奈良县长谷寺的本尊——十一面观音菩萨雕像，其尺寸几乎与原像相同。这幅画轴的原件已有 500 多年的历史。

十一面观音菩萨位于画面中心，手持锡杖和净瓶，与其原型 10 米高的观音像造型相同。这一独特造型被称为“长谷观音”，受到后世推崇，成为众多作品的模仿对象。两位侍者立于观音菩萨两侧，面向菩萨，左侧是雨宝童子，右侧是难陀龙王。

最早的长谷观音像建造于 727 年，因多次显灵而广为人知。然而，这尊雕像在一次正殿的火灾中被烧毁，之后经历多次重制。而这幅画轴绘制于 1495 年，正是重新制作观音像的建造蓝本。与雕像不同，画轴便于运输和展示，后被广泛用于日本各地弘扬佛法的活动，这也推动了长谷观音的声名远扬。

本复制品由合成纤维制成，轻便且可以折叠，易于运输。据说，触摸观音像的足部能加深与观音菩萨的缘分，因此本复制品通常会与观音像足部的等比例模型一同展出，以供信众能触摸观音菩萨的足部。

若想了解关于画轴原件及其复制过程的更多信息，请扫描二维码。

＜繁体字＞

長谷寺大觀音 掛軸（複製品）

《長谷寺大觀音》掛軸所繪的是日本奈良縣長谷寺的本尊，尺寸接近實際的觀音像大小。原始掛軸已有 500 多年的歷史。

卷軸中央描繪的是十一面觀音，即大慈大悲觀音菩薩的化身。畫中的觀音法相，與其依據的 10 公尺高觀音像相同，手持錫杖與淨瓶。這種獨特的圖像特徵後來被稱為「長谷觀音」，並在後世作品中屢次被仿效。觀音菩薩身旁有兩位脇侍，從觀看者的角度來看，左側為雨寶童子，右側為難陀龍王。

最初的長谷觀音立像完成於西元 727 年，相傳曾顯現諸多靈驗事蹟。然而不幸的是，本堂曾發生火災，觀音像因而焚毀，並在歷史中數度被重新製作。寺方為協助這些重製工程，於西元 1495 年製作了這幅掛軸作為參考藍圖。與本尊不同，掛軸方便搬運和展示，因此後來在日本各地弘揚佛法時，便被作為輔助說明的視覺教材，這也成為長谷觀音聲名

遠播的原因之一。

現今展出的複製掛軸以合成纖維製成，可輕鬆捲收、便於運送。展出時，常與觀音菩薩御足的實物大小模型一同陳列，供信眾觸摸。相傳，透過這樣的方式，能使信眾與觀音菩薩之間的連結更加深厚。

如欲深入了解原作掛軸的相關內容以及複製方法，請掃描 QR 碼查詢。

<日本語仮訳>

長谷寺大観音 掛軸（複製品）

長谷寺大観音立像掛軸は、奈良県長谷寺における本尊をほぼ等身大で描いた作品である。原画は 500 年以上前のものとなる。

巻物の中央には、長谷寺本尊十一面観音菩薩が描かれている。この画の基となった 10 メートルの像と同様に、観音は錫杖と花瓶を手をしている。この特有の図像は「長谷観音」として知られるようになり、後の作品でもしばしば模倣された。観音の両脇には、童子（拝観者から見て左）の雨宝童子と龍王（右）の難陀龍王という二体の従神が配されている。

727 年に完成した初代の長谷観音像は、数多くの靈験がそれに帰せられている。悲劇的なことに、本堂で火災が発生した際に焼失し、歴史の中で幾度も再建を余儀なくされた。1495 年に、これらの再製作を助けるための設計図としてこの掛軸が制作された。本尊とは異なり、この掛軸は移動・展示が可能であったため、後に日本各地で仏教を説く際の視覚教材として用いられた。これが長谷観音が広く名声を得る一因となっている。

このレプリカの巻物は合成繊維製のため、運搬時に簡単に折りたたむことができる。参拝者が観音様の聖なる足に触れ、観音様との絆を深めると言われる慣習を行えるよう、十一面観音の足部の実物大模型と共に展示されることがしばしばある。

原本の巻物とその複製方法について詳しく知るには、QR コードをスキャンしてください。

【タイトル】 長谷寺/観音大画軸

【想定媒体】 アプリ QR コード/Web

<簡体字>

长谷寺大观音大画轴

这幅长谷寺大观音大画轴描绘的是长谷寺的本尊——十一面观音菩萨像。画中的观音像高约 10 米，几乎和本尊一样大，本尊的观音像最早制作于 8 世纪，因多次显灵而广为人知。僧侣们曾带着这幅画轴走遍日本各地，向人们传播观音显灵的传说。

图中的观音菩萨一手持念珠与锡杖，另一手持净瓶。这种造型的观音像最早出现在长谷寺，因此也被称为“长谷观音”。两位侍者分别站立在观音两侧，面向观音左侧是雨宝童子，右侧是难陀龙王。传说，十一面观音像被供奉于长谷寺时，这两位神明也都在场现身。

画轴的历史与形制

长谷寺大观音大画轴距今已有 500 多年历史。原本的观音像在 1495 年毁于一场大火，为了重建观音像，人们绘制了这幅画轴作为建造蓝本。最初，这幅画像只是 430 张纸拼接而成的简单线稿，直到 1665 年才被上色并装裱成画轴。此后，画轴被带往日本各地展示，成为传播长谷寺观音菩萨显灵的重要资料。现今这卷画轴被保存在收藏库中。

画轴长 16.46 米，宽 6.22 米。被认为是日本现存最大的绘画挂轴。

文化财产的复制

2019 年，人们采用高精度扫描技术进行数据采集，制作了长谷寺大观音大画轴的复制品。这项扫描工程任务极为艰巨。

原画轴重达 125.5 千克，需十五名僧侣合力将其从长谷寺的院内，抬至法堂，再小心展开，分区扫描。扫描仪是专门定制的，它被悬挂在特制的支架上进行操作，支架带动扫描仪在卷轴上左右移动，逐段采集数据。整个扫描过程历时三天才完成。

复制品在尺寸、色彩和细节上都忠实再现了原作。由于它使用了轻量合成纤维材料，可以折叠收纳进行李箱。使得长谷寺的僧侣们更轻松地将画轴带往日本全国甚至海外展出。

这幅画轴通常与观音像的足部复制品一同展出，观音像的足部有两个重要意义。一是右足略微前伸，象征观音菩萨主动踏出普渡众生的一步；二是能让无法亲自前往长谷寺的人们触摸观音足，以加深与菩萨的缘分。与原雕像一样，这双观音足的复制品由于被反复触摸，金箔脱落了许多。

〈繁体字〉

長谷寺大觀音立像大畫軸

《長谷寺大觀音》掛軸所繪的是接近實物大小的長谷寺本尊畫像——高約 10 公尺的十一面觀音立像，即大慈大悲觀音菩薩的化身。觀音像最初於 8 世紀雕刻完成，相傳曾多次顯現靈驗神蹟。僧侶們攜帶這幅以平面形式呈現的觀音像掛軸巡遊日本各地，藉此弘揚觀音菩薩的靈驗神蹟。

畫中的觀音菩薩一手持念珠和錫杖，另一手則持淨瓶。由於長谷寺觀音立像是第一尊以這些特徵描繪的觀音像，因此這種圖像特徵便被稱為「長谷觀音」。立於兩側的脇侍，從觀者的角度來看，左側為兩寶童子，右側為難陀龍王。相傳十一面觀音立像供奉於長谷寺時，這兩位神祇皆在場見證。

掛軸的歷史和物理特徵

《長谷寺大觀音》掛軸已有 500 多年的歷史。西元 1495 年，早期的觀音立像因火災燒毀，其後的重製作業，便以這幅掛軸作為藍本。最初，此畫以簡潔線條描繪於 430 張紙上，並於西元 1665 年加以塗色與裝裱，使其得以捲收、搬運，並帶往日本各地展示，成為宣揚長谷寺觀音菩薩顯靈事蹟的重要視覺教材。現今，這幅掛軸妥善收藏於庫房之中，予以保存。

此掛軸全長 16.46 公尺，寬 6.22 公尺，被認為是日本現存規模最大的繪畫掛軸。

文化財產的重現

西元 2019 年，寺方運用原作的高解析度掃描資料，製作了《長谷寺大觀音》掛軸的複製品。這項掃描作業耗費了相當大量的人力。

原作掛軸重達 125.5 公斤，需由 15 名僧侶合力搬運才能穿過寺院境內，運往長谷寺的講堂。之後再小心翼翼地展開掛軸，分段掃描。掃描時，使用的是一台特別訂製的掃描器，掃描器則懸掛於專用框架上，以便移動操作。透過框架引導掃描器左右移動，逐段掃描捲軸上的內容。整個過程耗時三天。

完成印製的複製品，忠實重現了原作的尺寸、色彩以及精緻細節。複製掛軸以合成纖維製成，質地輕巧，可捲收保存於行李箱中。如此一來，長谷寺的僧侶們就能輕鬆地將這幅掛軸運至國內外展出。

掛軸通常會與觀音菩薩御足の複製品一同展出，御足之所以重要，其原因有二。首先，觀音的右腳微微向前伸出，象徵菩薩主動走向眾生、施予援助；其二，複製品可以讓無法前往長谷寺的信眾，也能親手撫觸觀音像的雙腳。相傳，這樣的參拜行為能加深信眾與觀音菩薩之間的連結。正如原本的觀音立像一般，這件複製品上的金箔，也因人們反覆觸摸而逐漸剝落。

＜日本語仮訳＞

長谷寺大観音立像大画軸

長谷寺大観音大画軸は、同寺の主尊である慈悲の菩薩・十一面観音像（高さ 10 メートル）の、ほぼ等身大の絵を収めている。この像はもともと 8 世紀に彫られたもので、奇跡を起こしたと考えられていた。僧侶たちがこの二次元の複製を日本中に運び、像の霊験あらたかな効能を広めたのである。

観音は片手に数珠と錫杖（修道僧の杖）を持ち、もう一方の手には花瓶を捧げている。長谷寺に安置された像がこの属性で観音を描いた最初であったため、この図像は「長谷観音」として知られるようになった。両脇に控える侍者は、稚児の侍者である雨宝童子（拝観者から見て左）と、龍王である難陀龍王（右）である。両神は、長谷寺に十一面観音像が安置された際、その場に居合わせたといわれている。

巻物の歴史と物理的特性 長谷寺大観音掛軸は 500 年以上前の作品である。1495 年に火災で以前の姿の観音像が焼失した後、再建のための設計図として制作された。当初は 430 枚の和紙に線画のみで描かれていたが、1665 年に彩色され額装（マウント）された。これにより全国への巡礼展示が可能となり、長谷寺観音の霊験を広める重要な視覚資料となった。現在は保存の目的で収蔵庫に保管されている。

原画の巻物は長さ 16.46 メートル、幅 6.22 メートルである。日本最大の図解入り画軸と考えられている。

文化財の再現 2019 年、長谷寺大観音立像掛軸の複製が、原画の高解像度スキャンを用いて印刷された。このスキャン画像の取得には、かなりの肉体労働を要した。

原本の巻物は重量 125.5 キログラムあり、15 人の僧侶チームが寺境内を横断し、長谷寺の講堂まで運ぶ必要があった。その後、巻物は慎重に広げられ、部分ごとにスキャンされた。この作業には、専用フレームに吊り下げられた特注スキャナーが用いられた。このフレームはスキャナーを左右に誘導し、巻物を横断しながらデータを部分ごとに収集した。全工程には 3 日間を要した。

複製版は原画と同じ寸法、色彩、細部まで忠実に再現されている。軽量で合成繊維製のため折り畳むことができ、スーツケースに収納可能だ。これにより長谷寺の僧侶たちは画軸を国内外へ容易に運搬・展示できるようになった。

画軸はしばしば観音像の足部の立体レプリカと共に展示される。この足部が重要な理由は二つある。第一に、右足がわずかに前方に踏み出されており、観音様が積極的に救いの手を差し伸べる姿勢を示している点である。次に、この複製は、長谷寺を訪れることができない人々が、観音との絆を深めると言われる礼拝形式で、観音の足に触れることを可能にする。本尊と同様に、この複製も繰り返し触れることで金箔の大部分が剥がれ落ちている。

【タイトル】 長谷寺/長谷寺縁起絵巻 6 巻本

【想定媒体】 看板、アプリ QR コード/Web

＜簡体字＞

长谷寺縁起絵巻

《长谷寺縁起絵巻》共有六巻，全長約 53.8 米，由當時的宮廷畫家土佐光茂（1496—卒年不詳）繪製。繪巻以華麗的構圖、細膩的線條和鮮明的人物刻畫，讓長谷寺的歷史躍然紙上。

全巻的核心內容圍繞長谷寺所供奉的本尊——十一面觀音像的建立過程，描述了眾多神明與歷史人物參與其建造的故事。繪巻從右向左展開，生動描繪了三十三個場景，並以統一的雲霧圖案將各部分自然銜接。三十三這一數字，也象徵了觀音菩薩的三十三種化身。敘述方式通俗易懂，普通參觀者乃至兒童也能輕鬆理解長谷寺的起源與歷史。

＜繁体字＞

長谷寺縁起繪巻

《長谷寺縁起》是一套由 6 卷繪巻構成的作品，總長度大約是 53.8 公尺，由宮廷畫師土佐光茂（西元 1496 年—卒年不詳）繪製。其畫風以華麗的構圖、細緻的線條與生動的人物刻劃見長，栩栩如生地呈現長谷寺的歷史脈絡。

故事內容多圍繞著十一面觀音立像的建造過程，以及多位神祇與歷史人物如何參與其中。繪巻需由右向左展開閱讀，故事透過 33 個生動場景依序鋪陳，並以風格化的雲霧作為轉場，場景數量正好對應觀音菩薩的 33 種化身。觀音菩薩是慈悲的化身，也是這座寺院供奉的本尊。繪巻以淺顯易懂的敘事方式呈現寺院歷史，讓包含兒童在內的一般民眾也能輕鬆理解。

＜日本語仮訳＞

長谷寺縁起絵巻

長谷寺縁起絵巻は、長谷寺の創建を描いた六巻からなる巻物である。子供を含む一般の参拝者に

も分かりやすく、親しみやすい形で寺の歴史を伝えている。

巻物は右から左へ広げて読む。そこに描かれる物語は三十三の鮮やかな場面で構成され、様式化された霧の雲が場面転換を示す。場面の数は、この寺の本尊である慈悲の菩薩・観音の三十三の化身に一致する。巻物の全長は約 53.8 メートルである。

巻物は宮廷画家・土佐光茂（1496-?）によって描かれた。光持の装飾的な構図、繊細な線描、表現豊かな人物描写が長谷寺の歴史を生き生きと伝えている。物語の大半は、十一面観音像の建立と、いかに多くの神々や歴史的人物たちが、その過程に関わったかを中心に展開している。

【タイトル】 長谷寺/長谷寺縁起絵巻 6 巻本

【想定媒体】 アプリ QR コード/Web

<簡体字>

《长谷寺缘起绘卷》概要

第一卷

这一卷讲述了三位于长谷寺有着深厚渊源的人物：菅原道真（845—903）、道明（生卒年不详）和德道（656—735）。菅原道真是著名的政治家，诗人和学者，去世后被尊为掌管学问和艺术的“天神”。道明是一位僧人，他建造了本长谷寺，也就是现在的长谷寺的前身。而德道则是道明的弟子。本卷描绘的故事发生在初瀬地区，这里后来被称为“长谷”。

场景 1

一天，菅原道真伏案而眠，梦到圣山金峰山的守护神藏王权现。三位化身为藏王权现的神明渡过一座金桥，来到道真面前，传达神示：“初瀬乃积德圣地，众神汇聚之处。”受神示的启发，道真撰写了《长谷寺缘起文》，后续的绘卷中描绘了其细节。

场景 2

北方天王毗沙门天所持的宝塔落入河中，漂流到了初瀬。三百年后，道明挖掘出这座宝塔，并将其供奉在本长谷寺。画面中，道明站在铜板浮雕《法华说相图》前，《法华说相图》是为祈求天武天皇（约 631—686）病愈，由道明制作的。

场景 3 至 8

描绘了德道的出生，以及后来出家为僧的经历。德道苦行期间，一道金光引导他北上，来到初瀬山。他在此处受到启发，决心为观音菩萨雕刻塑像。德道告诉道明，他要寻找一块神木，用来雕刻观音像。

第二卷

场景 9 至 12

德道听说在一场毁灭性洪水后，一棵被奉为神树的樟树被冲到了琵琶湖畔的大津，也

就是今天的滋贺县大津市。村民们想将此树砍成木材，却招致了火灾和瘟疫。于是神树便被遗弃在了初濑。德道决定用此树来雕刻十一面观音菩萨像，以使其神力化为善途。本卷还描绘了神树的守护灵乘云而来，显灵人间的场景。

第三卷

场景 14 至 17

德道将神树运到与喜山，也就是今天的天神山，并在此祈福。贵族藤原房前（681—737）听说了他的行为，便向朝廷请求拨款，以资助德道建造观音像。

场景 18 至 19

描绘了一位僧人向神树祈愿的场景。菩萨化身为凡人雕刻师，仅用三天时间便完成了观音像的雕刻。

场景 20 至 23

德道在梦中得到神示，神明让他将此像供奉于初濑山。他醒来后，狂风大作，众神佛显灵重塑了山体，山中出现一块石台，上方的凹槽恰好与观音像的双足形状吻合。德道建造观音像的夙愿终于实现，他欣喜万分。

第四卷

场景 24 至 26

高僧行基（668—749）为观音像举行开光法会。仪式中，天空出现五色祥云，天花乱坠，一道金光从观音菩萨的眉间射出。当晚，八大童子拜访德道，向他承诺会守护初濑山，并将引导观音菩萨的信众前往极乐净土。

场景 27

八大童子之一拜见行基，向他指出初濑乃神佛汇集之地。

第五卷

场景 28 至 29

行基与童子进入神域，目睹诸神显形。在此，行基悟到，初濑山与邻近的与喜山分别象征着佛教的金刚界与胎藏界。

场景 30 至 31

行基向朝廷请愿，要为观音像建造佛堂。德道则四处化缘，筹集资金。佛堂于 747 年建成，并举行了落成法会。天女们奏起的仙乐，回荡在初瀬山间。

第六卷

场景 32 至 33

圣武上皇（701—756）亲临长谷寺，供奉他亲笔抄写的经文。数百名僧侣出席供养法会，法会上举行了宫廷舞乐的表演。当晚，圣武上皇在梦中得到神示，神明表示，观音像应该遮蔽起来，以便让所有众生都能平等感受菩萨的慈悲，而非仅让贵族和僧侣才能近前参拜。翌日，天皇命令僧侣在观音像前悬挂丝帘，以示菩萨普照天下、不偏不倚。

<繁体字>

長谷寺緣起繪卷 概要

第一卷

本卷介绍了长谷寺故事中極為關鍵的歷史人物——菅原道真（西元 845—903）、道明（生卒年不詳）和德道（西元 656—735）。菅原道真是一位知名的官員、詩人與學者，逝世後被尊奉為天神，即司掌學問與藝術的守護神。道明是一名僧侶，建立了「本長谷寺」，即現今長谷寺的前身。另一位僧侶德道，則是道明的弟子。本卷故事發生於初瀬地區，後來此地被稱為「長谷」。

第 1 幕

道真在書桌前入睡，於夢中獲得藏王權現的啟示。藏王權現是聖山金峯山的守護神。夢境中，化現為藏王權現的三位神祇經由黃金橋來到道真面前，並傳達了一個訊息——「初瀬乃功德之地，眾多天神居於此」。這場夢促使道真撰寫了《長谷寺緣起文》，詳細內容就如後續的畫中所繪。

第 2 幕

北方天王毘沙門天所持的佛塔墜入河中，順流而下，漂到了初瀬。300 年後，道明將佛塔挖掘出來，供奉於本長谷寺。畫面中，道明立於《銅板法華說相圖》（《法華經》教義圖解）前，此銅板是他為了祈求天武天皇（約西元 631—686）病癒而製作。

第 3 至 8 幕

德道誕生，後來出家為僧。在德道修行期間，一道金光指引他往北，前往初瀬山。在

那裡，他獲得了啟發，發願雕刻一尊大慈大悲觀音像。德道因此向道明表示，他要尋找一棵神木，雕刻成觀音菩薩像。

第二卷

第 9 至 13 幕

德道獲知，在大津（位於現今滋賀縣、琵琶湖畔的城市）發生一場毀滅性的洪水後，有一棵神聖的樟樹被沖上岸邊。村民試著取用此樹時，竟接連發生火災與疫病，於是這棵樹最終被棄置在初瀨。德道為了將這棵樹的神力轉化成為善的力量，決定雕刻成十一面觀音像。這棵樹的守護靈也在本卷中現身，乘雲駕霧而來，影響著下界所發生的種種事件。

第三卷

第 14 至 17 幕

德道將神木運往與喜山（今稱天神山），並於此進行祝禱。貴族藤原房前（西元 681—737）聽聞此事後，便奏請朝廷，希望獲得資金援助，建造觀音像。

第 18 至 19 幕

一位僧侶為神木舉行淨化儀式。隨後，菩薩們化身為工匠，僅用三天便將神木雕刻成觀音像。

第 20 至 23 幕

德道在夢中獲得神諭，被指示將觀音像供奉於初瀨山。當他醒來時，剎那間風雨交加，原來是諸天神佛正在重塑山貌，變出了一座石台，石台上正好有個凹槽，和觀音像御足的形狀完全契合。德道打造觀音像的願望終於實現，觀音像完成後，他欣喜若狂。

第四卷

第 24 至 26 幕

高僧行基（西元 668—749）為觀音像舉行開光儀式。儀式中，五色祥雲湧現，天花飄落，觀音像眉間放射金光。當夜，8 大童子造訪德道，承諾守護初瀨山，並接引觀音信眾前往淨土。

第 27 幕

八大童子之一拜訪行基，並揭示初瀨為神佛雲集之地。

第五卷

第 28、29 幕

行基與童子進入眾神顯現的世界。在此，行基意識到初瀨山和鄰近的與喜山，分別代表佛教的金剛界和胎藏界。

第 30、31 幕

行基向朝廷請願建造殿堂以供奉觀音像，德道則四處化緣募集資金。殿堂於西元 747 年竣工，並舉行了落成典禮。天女演奏的樂音迴盪整座初瀨山。

第六卷

第 32、33 幕

退位的聖武上皇（西元 701－756）駕臨長谷寺，供養親筆抄寫的佛經。數百名僧侶參與供養法會，並演出宮廷舞蹈的舞樂。當夜，聖武上皇於夢中獲得啟示，應將觀音像隱蔽，不再對外公開。此舉旨在改變過往僅限貴族與僧侶才能近距離瞻仰的特權，眾生皆能平等感受到觀音的存在。翌日，聖武上皇便命令僧侶們在觀音像前懸掛絲綢帷幔。

<日本語仮訳>

長谷寺図説史 概要

第一巻

本章では、長谷寺の物語において重要な三人の歴史的人物を紹介する：菅原道真（845－903）、道明（生没年不詳）、徳道（656－735）。道真は著名な官僚、詩人、学者であった。死後、学問と芸術の守護神である天神として崇敬されるようになった。道明は現在の寺の前身である元長谷寺を建立した僧侶である。徳道は道明の弟子であった別の僧侶である。本章の出来事は後に「長谷」と呼ばれるようになる初瀨地区で起こった。

シーン 1

道真は机で眠りにつき、金峯山と呼ばれる聖なる山の守護神である蔵王権現から神託を受ける。この夢の中で、蔵王権現の三つの化身が黄金の橋を渡って道真のもとに現れ、こう告げる。「初瀨は多くの天の御神々が住まれる功德の成就地なり」この啓示に触発された道真は『長谷寺縁起文』を執筆する。その詳細は以下の挿絵に描かれている。

シーン 2

北方の天王・毘沙門天が持つ仏塔が川に落ち、下流の初瀨へと流れ着いた。三百年後、道明が仏塔を発掘し、元長谷寺に安置する。道明は、天武天皇（ca. 631－686）の病氣平癒を祈願して

制作したブロンズの飾り板である「銅板法華説法図（法華經説法図）」の前に立つ。

シーン 3～8

徳道は生まれ、後に出家して僧となる。徳道の修行（苦行）中、黄金の光が彼を北の初瀬山へと導く。そこで彼は慈悲の菩薩・観音像を彫る靈感を得る。徳道は道明に、像を彫るための聖なる木を探すことを伝える。

第二巻

シーン 9～13

徳道は、大津（現在の滋賀県にある琵琶湖畔の都市）で起こった壊滅的な洪水の後、岸辺に打ち上げられた神聖なクスノキの存在を知る。村人たちがその木を伐採しようとする火災と疫病が発生し、木は初瀬に運ばれ放置された。徳道は、この神木の霊力を善なる力へと転化すべく、十一面観音像を彫ることを決意する。神木の守護霊もまたこの巻に現れ、雲に乗って下界の出来事に影響を及ぼしている。

第三巻

シーン 14～17

徳道は木を与喜山（現在の天神山）に運び、そこで祈祷を行う。これを耳にした藤原の房前（681-737）という貴族が、仏像建立のための資金援助を朝廷に請願する。

シーン 18～19

木は一人の僧侶によって加持が行われた。複数の菩薩が人間の彫刻家の姿で現れ、わずか三日で観音像へと彫り上げる。

シーン 20～23

徳道は霊夢を見て、初瀬山に像を祀るよう示される。目覚めると激しい嵐が吹き荒れ、仏神たちが山の形を変えて、観音の足形にぴったり合うように形作られた溝を持つ石台を現す。観音像を建立したいという徳道の願いはついに叶い、像が完成すると彼は歓喜にわいた。

第四巻

シーン 24～26

高僧・行基（668-749）が像を供養する。その儀式中、五色の雲が現れ、天から花が降り注ぎ、黄金の光が観音の額から放たれる。その夜、徳道は不動明王の八大童子に訪れられる。童子たちは初瀬山を守護し、観音の信者を浄土へ導くと約束する。

シーン 27

八大童子の一人が行基を訪問し、初瀬が神仏両方の神々が集う場所であることを明かす。

第五巻

シーン 28～29

行基と童子は、神々を見ることができる世界に足を踏み入れる。そこで行基は、初瀬山と隣接する与喜山がそれぞれ仏教の金剛界と胎蔵界を表していることに気づく。

第六巻

シーン 32～33

聖武上皇（701–756）が長谷寺を訪れ、写経を供養した。数百人の僧侶が供養の法要に参列し、舞楽が披露された。その夜、聖武上皇は霊夢の中で、観音像を人目から隠すよう示される。これにより、貴族や僧侶のみが至近距離で拝観できる特権を改め、全ての民衆が平等に仏の存在を感じられるようにするためであった。翌日、聖武上皇は僧侶たちに命じ、観音像の前に絹の幕を垂れ下げるよう指示した。

【タイトル】 長谷寺/「だだおし」法要

【想定媒体】 Web

<簡体字>**DADAOSHI 仪式**

毎年二月，长谷寺都会举行为期七天的法会，帮助人们消除罪业，净化身心，为迎接新的一年做好心灵上的准备。法会的最后一天会举行名为“DADAOSHI”的仪式，以驱邪避凶，祈求好运。

DADAOSHI 仪式分为三部分：忏悔仪式、主仪式和驱鬼仪式。在主仪式上，信众会向寺内的十一面观音像献上宝物。宝物中有一枚佛教地狱之主——阎魔大王托付给长谷寺开山祖师的印章。这枚印章不仅用来为护身符盖章，还会象征性地在信众的额头上盖章，以保佑其远离疾病和灾厄。

供养仪式临近尾声时，法螺贝与太鼓一齐奏响，三只分别戴着红、蓝、绿面具的鬼怪登场。僧侣们挥舞着贴有盖着印章符纸的法杖，将鬼怪驱赶出内堂。落败的鬼怪绕着正殿转圈，志愿参与者们手持巨大的火炬在它们身后追赶。火光飞舞、火星四溅的激烈追逐后，鬼怪们最终被赶到黑暗之中，直到来年的农历新年才会再次现身。

如今，DADAOSHI 仪式固定于每年 2 月 14 日举行，并欢迎民众前来参加。

<繁体字>**DADAOSHI**

每年 2 月，長谷寺會舉辦為期 7 天的法會，協助人們懺悔罪業、清淨身心，為迎接新的一年做好準備。法會最後一天，會舉行名為「DADAOSHI」的儀式，用以驅邪招福。

「DADAOSHI」分為三個部分，分別是懺悔儀式、主法會，以及驅除鬼怪。在主法會中，信眾會將聖物敬獻給寺院的十一面觀音立像。其中一項重要寶物，是佛教中掌管地獄的閻羅王託付給長谷寺開山祖師的印章。此印章不僅會蓋印於御守之上，也會象徵性地蓋

在信眾的額頭，以祈求遠離疾病與災禍。

主法會即將結束時，會響起法螺與太鼓聲，宣告戴著紅色、藍色與綠色面具的 3 隻鬼怪即將現身。僧侶們鎮定地揮舞貼有符紙的法器，將鬼怪逐出內陣。被擊退的鬼怪們圍著本堂奔逃，手持巨大火炬的志工緊追其後。經過一番火花四濺、驚心動魄的追逐後，鬼怪們退回黑暗之中，靜待下一個農曆新年的到來。

「DADAOSHI」法會目前定期於 2 月 14 日舉辦，歡迎民眾前來參加。

＜日本語仮訳＞

だだおし仏事

毎年 2 月、人々の罪を赦し、心身を清め、新たな年への精神的な備えをするため、7 日間にわたる仏教儀式が行われる。最終日には「だだおし」と呼ばれる儀式が行われ、悪霊を追い払い、幸運を招き入れる。

だだおしは三部構成である：懺悔の儀式、本尊供養、そして鬼祓い。本尊供養では、十一面観音像に御宝物が奉納される。その中には、閻魔大王（仏教における地獄の主）が長谷寺開祖に託した御印も含まれる。この印章は御守りに押印するほか、参拝者の額に病や災いから守る印として象徴的に押される。

本堂の法要が終わりに近づくと、法螺貝と太鼓の音が響き渡り、赤・青・緑の面をつけた三体の鬼が現れる。他の僧侶たちは刻印された紙のお札をつけた儀式用の杖を静かに振り、内陣から鬼を追い出す。敗れた鬼たちは本堂をぐるりと回り、巨大な松明を掲げた志願者たちに追い立てられる。炎がはげ、火花が飛び散る劇的な追跡劇の後、鬼たちは次の旧正月まで闇の中へ退散していく。

だだおしは現在、定期的に 2 月 14 日に開催されており、来訪者の参加を歓迎している。

【タイトル】 長谷寺/本長谷寺

【想定媒体】 看板、アプリ QR コード/Web

<簡体字>**本长谷寺**

初瀬山上最初の寺院是为供奉浮雕画《法华说相图》而建造的，而本长谷寺（意为“原本的长谷寺”）就位于该寺院的旧址之上，是一座简朴的木结构建筑。

铜板浮雕画《法华说相图》由僧人道明于 686 年监制完成。画中描绘的是《妙法莲华经》第十一品中的场景。佛祖释迦牟尼向众人宣讲《妙法莲华经》时，一座巨大的宝塔平地升起。宝塔中传出赞叹之声，宣示释迦牟尼所说教义真实无误。该声音来自多宝如来。相传，多宝如来曾发誓，凡是有人宣讲《妙法莲华经》，他必定现身证明其教义的真理。铜板上描绘的，正是多宝如来（左）和释迦牟尼（右）并排坐在宝塔里的情景。

这幅祥瑞的画作最初是为祈祷患病的天武天皇（约 631—686）痊愈而制作的。后来被供奉在附近一座三重塔中。1876 年，这座塔被毁于火灾，但《法华说相图》却幸免于难。

这副铜版浮雕的原件被指定为日本国宝，收藏于奈良国立博物馆，在本长谷寺，可以透过窗户看到其复制品。复制品表面贴有金箔，再现了《法华说相图》最初铸造时的样貌。

<繁体字>**本長谷寺**

本長谷寺（意為「原本的長谷寺」）是一座樸素的木造建築，為初瀬山上最早建立的寺院舊址。最初的長谷寺是為了供奉名為《法華說相圖》（《法華經》教義圖解）的浮雕而建造。

《法華說相圖》為一塊銅板，由僧侶道明於西元 686 年監督製作。銅板描繪的是《法華經》第十一品的場景。歷史上的佛陀，即釋迦牟尼佛，正在向眾人宣講《法華經》之時，一座巨大、鑲滿珠寶的寶塔從地底升起。塔中傳出讚頌之聲，宣告釋迦牟尼佛的教義為真理。這聲音來自多寶如來。相傳，多寶如來曾發願，凡有人宣講《法華經》，祂必現身證

明其教義為真理。銅板上刻畫了多寶如來（左）與釋迦牟尼佛（右）列坐於寶塔之中的景象。

這幅寓意吉祥的圖像，最初是為了病重的天武天皇（約西元 631—686）而製作，後來供奉於附近的一座三重塔中。西元 1876 年，寶塔因火災被燒毀，但《法華說相圖》銅板倖存了下來。

原作銅板被指定為國寶，現收藏於奈良國立博物館。而在本長谷寺，則可透過窗戶觀賞其複製品。這件複製品表面覆以金箔，重現了《法華說相圖》最初鑄造時的風貌。

＜日本語仮訳＞

本長谷寺

本長谷寺（「もとの長谷寺」の意）は、初瀬山に建てられた最初の寺院の跡を示す質素な木造建築である。その最初の寺院は、「法華説相図」（「法華經の説法の図」の意）と呼ばれるレリーフ彫刻（浮彫）を祀るために建立された。現在はその複製が本長谷寺に安置されている。

法華説相図は、686 年に僧・道明の監督の下で製作された銅板である。法華經第十一品の場面を描いている。歴史上のブツダである釈迦牟尼が群衆に法華經を説いていると、巨大な宝塔が地中から現れる。塔内から釈迦を讃え、その教えが真実であると宣言する声が響く。これは多宝如来の声であり、彼は法華經が説かれる度に現れてその真実を証する誓いを立てていた。銅板には塔内に並んで座す多宝如来（左）と釈迦（右）が表現されている。

この吉祥な画像は、もともと病床にあった天武天皇（ca. 631–686）のために作られた。後に、近くに立っていた三重塔に安置されたが、1876 年に塔は焼失。しかし法華説相図の銘板は無事であった。

国宝である元の青銅の銘板は、現在、奈良国立博物館に所蔵されているが、本長谷寺では窓越しに複製を見ることができる。この複製銘板は金箔で覆われており、法華説相図が最初に鑄造された当時の姿を伝えている。

【タイトル】 長谷寺/開山堂

【想定媒体】 看板、アプリ QR コード/Web

<簡体字>

开山堂与西国三十三所巡礼

开山堂是为纪念僧人德道（656—735）而建的佛堂。德道正是为长谷寺正殿建造十一面观音像的人。另外，开山堂还被视作日本最古老的观音朝圣路线——“西国三十三所巡礼”的微缩版。

相传德道曾一度病危，陷入昏迷。在昏迷之中，他见到了地狱之主阎魔大王。阎魔大王托付给他 33 枚印章，命其修建 33 座寺院，以供奉大慈大悲的观音菩萨。这一梦中的神示成为西国三十三所巡礼的起源。从此，信众们开始巡拜各处寺院，供奉亲手抄写的经文，以求死后前往极乐净土，摆脱痛苦与烦恼。作为巡礼的证明，信众们每来到一所寺院，就会盖上一枚寺院的印章。

巡礼活动在江户时代（1603—1867）盛极一时，至今仍吸引着众多信众。长谷寺是现今巡礼路线上的第八站。巡礼路线全长 1000 公里，跨越 7 个府县。

这条巡礼路线对于信众来说意义重大，但十分消耗体力，并非每个人都能完成这段漫长的旅程。为此，在开山堂内设置了这 33 座寺院巡礼路线的微缩版，提供了一种替代的巡礼方式。堂内前方系有一条五彩绳，连接着代表 33 座寺院的观音菩萨像。参拜者只要握住这条绳子，就可以象征性地完成巡礼之旅，获得往生极乐净土的功德。

<繁体字>

開山堂與西國三十三所巡禮

開山堂是為了紀念僧侶德道（西元 656—735）而建，德道曾於長谷寺本堂建造了十一面觀音立像。此外，開山堂亦被視為日本最古老的觀音巡禮——西國三十三所的縮影。

根據傳說，德道曾經病倒，陷入昏迷。他在沉睡時，夢見了佛教中掌管地獄的閻羅王。

閻羅王將 33 枚印章託付給德道，並要求他建立 33 座寺院，以供奉大慈大悲的觀音菩薩。這段帶有宿命色彩的夢境，成為了西國巡禮朝聖路線的起點。此後，朝聖者開始參拜一間又一間寺院，供奉手抄經文，祈願往生淨土、離苦得樂。朝聖者每到一寺，便蒐集該寺的印章，作為參拜的證明。

這項朝聖活動在江戶時代（西元 1603－1867）廣受歡迎，至今仍吸引眾多信眾前往。長谷寺為現行路線中的第 8 站，整條路線全長 1000 公里，橫跨 7 個縣。

由於這趟朝聖之旅對體力的要求甚高，所以並非人人皆能完成。開山堂因此提供了另一種選擇。在堂內設有 33 間觀音靈場巡禮的縮小版路線，堂前有一條五彩繩索，連接著代表 33 間寺院的觀音像。參拜者只要手握繩索，便可象徵性地完成朝聖之旅，獲得往生極樂淨土的功德。

＜日本語仮訳＞

開山堂（かいざんどう）と西国三十三所巡礼

開山堂は、長谷寺本堂に十一面観音像を建立した僧・徳道（656－735）を称える堂である。さらに、開山堂は国内最古の観音巡礼である西国三十三所（Saigoku Sanjūsansho）の縮図としての役割も担っている。

伝説によれば、徳道はかつて病に倒れ昏睡状態に陥った。眠っている間に、彼は仏教における地獄の主である閻魔の訪問を受けた。閻魔は徳道に 33 の印を託し、慈悲の菩薩である観音に捧げる 33 の寺を建立するよう命じた。この運命的なビジョン（霊視）が西国巡礼の礎となった。巡礼者たちは各寺を巡り、手書きの経文を捧げながら、浄土に生まれ変わり、痛みや苦しみから解放されることを願った。その寄進の証として、巡礼者たちは各寺院の印章の押印（朱印）を集めたのである。

巡礼の人気は江戸時代（1603－1867）に急上昇し、今日でも参拝者を惹きつけている。長谷寺は現在の霊場の本尊における第八番目の巡礼地であり、この霊場の本尊は 1,000 キロメートルに及び、七つの都道府県を跨いでいる。

この重大でありながら肉体的に過酷な巡礼を完遂できる者は限られている。開山堂は、そうした人々へ代わりの選択肢を提供している。堂内には三十三ヶ所の霊場の本尊を縮小した像が置かれている。三十三ヶ所の各寺院を代表する観音像が、堂の正面に設置された五色の縄と繋がっている。この縄を握ることで、参拝者は象徴的に巡礼を完遂し、浄土往生の功德を得ることができる。

【タイトル】 長谷寺/朝の勤行、法要

【想定媒体】 アプリ QR コード/Web

<簡体字>

长谷寺的日课

晨间仪式

长谷寺的晨间仪式已有一千多年的历史。除了元旦之外，每天清晨都会举行，并欢迎各宗教背景的人们参加。

清晨，僧侣们聚集在正殿，在寺院的本尊——高达 10.18 米的十一面观音像前诵经。长谷寺僧侣们的诵经以洪亮的声音和独特的节奏而闻名。诵经还伴随着雄浑的太鼓击打声，以及挂有金属环的僧杖敲击地面时发出的清脆响声。这是因为观音像高高在上，僧侣们必须发出洪亮的声响，才能将祈愿传到观音菩萨耳中。

诵经结束后，晨会的参与者会移步至正殿外的舞台，进行遥拜仪式。僧侣们整齐地排成一列，面向寺内的其他殿堂及长谷寺周围山中的神社，向供奉于各处的神明虔诚行礼。祈祷结束后，僧侣们回到正殿，进行名为“法话”的佛法宣讲活动。

晨间仪式通常持续至少 45 分钟。

4 月至 9 月：早晨 6:30

10 月至 3 月：早晨 7:00

仪式开始前 30 分钟开始报名。

参加费为 500 日元，在正殿接待处支付。

请穿着适合参加宗教仪式的得体服装。

钟声与法螺贝声

寺院的钟声常用来报时，长谷寺也不例外。不过，长谷寺在敲钟的同时还会吹响法螺贝。该习俗在《枕草子》的作者清少纳言（966—1025）的著作中有所提及。据她描述，自己在拜访长谷寺时，被正午突然响起的法螺贝声吓了一跳。

早上 6 点，敲响晨钟，宣告一天的开始。正午时分，钟声与法螺贝一同响起。晚上 8 点，则吹响法螺贝，宣告一天的结束。钟声与法螺贝声在山谷中回荡，有时甚至在长谷寺车站也能听到。

敲钟和吹奏法螺贝的任务通常由年轻僧侣负责。临近正午时，便能看到他们脚踏高齿木屐，敏捷地攀上钟楼陡峭的梯子。吹奏法螺贝是一项需要大量练习的技巧，游客们经常会聚集在钟楼周围，为僧侣们加油鼓劲。现场允许拍照和录像。

＜繁体字＞

長谷寺の日課

早課（晨間勤行）

一千多年來，長谷寺持續進行晨間勤行。除元旦外，每日清晨皆舉行，並歡迎任何宗教背景的人士參加。

清晨，僧侶們會聚集在本堂，在長谷寺本尊——高 10.18 公尺的十一面觀音立像前誦經。長谷寺的誦經以宏亮的音量與獨特的節奏聞名，誦經聲伴隨著敲打大太鼓的鼓聲，以及掛有金屬圓環的錫杖敲擊地面的鏗鏘聲。僧侶們必須提高音量，才能讓祈禱傳入高聳的觀音菩薩耳中。

誦經結束後，參加者移步前往本堂的外舞台遙拜，亦即「從遠處參拜」。僧侶們整齊排成一列，面向寺院境內的其他殿堂，以及長谷寺周圍群山中的神社，對供奉於各處的眾神低頭致敬。祈禱結束後，眾人返回本堂，進行佛法開示。

晨間勤行通常持續至少 45 分鐘。

4 月至 9 月 早上 6:30

10 月至 3 月 早上 7:00

儀式開始前 30 分鐘開放報到。

參加費用為 500 日圓，可至本堂接待櫃台繳交。

請穿著適合參加宗教儀式的端莊服裝。

鐘聲和法螺貝聲

寺院の鐘通常用於報時，長谷寺也是如此。不過在此處，鐘會與法螺貝一同使用。這項做法亦記載於《枕草子》中，平安時代的作家清少納言（西元 966－1025）提到，她造訪長谷寺時，曾被正午時分突然響起的法螺貝聲音嚇了一跳。

清晨 6 點，寺院的鐘聲獨自響起，開啟新的一天。正午時分，鐘聲和法螺貝聲音齊鳴。到了晚上 8 點，則僅吹響法螺貝，宣告一日結束。鐘聲與法螺貝聲在山谷間迴盪，有時甚至可在長谷寺站一帶聽見。

敲鐘與吹響法螺貝的任務，通常交由修行中的年輕僧侶負責。接近正午前的數分鐘，常可看見他們腳踩高高的木屐，身手敏捷地爬上鐘樓的陡峭梯子。吹響法螺貝是一項需要勤加練習的艱難任務，因此許多聚集在鐘樓周圍的訪客都會為僧侶加油打氣。此時可自由拍照與錄影。

＜日本語仮訳＞

長谷寺での日課

朝の勤行（あさのごんぎょう）

朝の勤行は、長谷寺で千年以上も続けられてきた。元旦を除く毎朝行われ、あらゆる宗教背景を持つ方々の参加を歓迎している。

早朝、長谷寺の僧侶たちは本堂に集い、高さ 10.18 メートルの十一面観音像という本尊の前で読経を行う。長谷寺の僧侶たちは、経文を唱える際の声の大きさと独特のリズムで知られている。その唱和には大きな太鼓と、金属の輪が地面に打ち付けられて鳴る錫杖（しゃくじょう）の響きが伴い、僧侶たちは、遥か高い場所にある観音様の耳に祈りが届くよう声を張り上げなければならない。

読経の後、参列者は本堂の外舞台に移動し、遥拝（遠くからの礼拝）を捧げる。僧侶たちは整然と列をなし、境内にある他の堂や長谷寺を取り囲む山々の神社に向かい、そこに祀られた神々へ敬虔に頭を垂れる。祈りが終わると、僧侶たちは本堂に戻り、法話を説く。

朝の勤行は通常少なくとも 45 分ほど続く。

4 月～9 月：午前 6 時 30 分

10 月～3 月：午前 7 時 00 分

受付は式典開始 30 分前より開始。

参加費 500 円は本堂受付にてお支払い。

宗教行事に参加するのにふさわしい、控えめな服装で。

鐘と法螺貝の音

寺では鐘が時刻を知らせるのに用いられる。長谷寺でも同様だが、鐘は法螺貝と共に用いられる。この慣習は『枕草子』の作者・清少納言（966–1025）の著述にも記されており、長谷寺を訪れていた際、正午に突然鳴り響く法螺貝の音に驚いたと記している。

午前 6 時、一日の始まりを告げるために寺の鐘だけが鳴る。正午には鐘と法螺貝が共に鳴らされる。そして午後 8 時、法螺貝だけが一日の終わりを告げる。鐘と法螺貝の音色が谷間に響き渡り、時には長谷寺駅まで聞こえることもある。

鐘や法螺貝を鳴らす役目は、通常修行中の若い僧侶に割り当てられる。正午直前になると、彼らは下駄を履き、鐘楼の急な梯子を軽やかに登っていく姿が見られる。法螺貝を吹くのはかなりの練習を要する難しい技であり、鐘楼の周りに集まる参拝客の多くが僧侶たちを声援で励ます。動画や写真の撮影は許可されている。

【タイトル】 長谷寺/ほら貝

【想定媒体】 看板、アプリ QR コード/Web

<簡体字>**法螺贝（海螺号角）**

法螺贝是一种海螺制作的号角，自古以来被用于宗教仪式、军事和通信用途。在日本，关于法螺贝最早的文字记载可以追溯到 11 世纪，但普遍认为，它早在几个世纪前便随佛教文化从亚洲大陆传入日本。在密教中，法螺贝所发出的深沉洪亮的声音代表着佛祖释迦牟尼的教诲。据说，听到法螺贝声音的人能够净化尘世的杂念，更容易来到觉悟的境界。

法螺贝也与修验道密切相关。修验道是一种融合了佛教、神道和山岳信仰的宗教修行方式。法螺贝是修验道不可或缺的工具，修行者常用它进行远距离交流。

如今，人们已很少使用法螺贝，但在奈良时代（710—794）建立的官造寺院，如长谷寺、东大寺和药师寺中仍能听到法螺贝的号角声。在长谷寺，每天中午和晚上 8 点都会吹响法螺贝来报时。诵经时和佛教仪式中，也会伴有法螺贝声。

<繁体字>**海螺號角的法螺貝**

稱為「法螺貝」的海螺號角，自古以來便被運用於宗教儀式、軍事行動與實際通訊。在日本，關於法螺貝使用的最早文獻記錄可追溯至 11 世紀；不過一般認為，這種樂器早在數個世紀之前，便隨著佛教文化自亞洲大陸傳入日本。在密教中，法螺貝低沉又悠揚的音色，被視為象徵歷史上的佛陀——釋迦牟尼的教誨；相傳凡聽聞其聲者，皆能洗滌俗念，更容易證得開悟。

法螺貝亦與修驗道關係密切。修驗道是一種融合佛教、神道與山岳修行的宗教，在修驗道之中，法螺貝是修行者在進行長距離聯絡、彼此傳達訊息時不可或缺的樂器。

如今，法螺貝的使用已相當罕見。不過，建於奈良時代（西元 710—794）的官營佛教寺院中，至今仍可聽見其聲響，例如長谷寺、東大寺與藥師寺等。在長谷寺，寺方會在

正午與晚上 8 點吹響法螺貝報時；在誦經與舉辦法會時，也會有法螺貝的聲音相伴。

＜日本語仮訳＞

法螺貝（ホラガイ）という巻貝の角笛

法螺貝と呼ばれる巻貝の角笛は、宗教儀式や軍事作戦、実用的な通信手段として古くから用いられてきた。日本における使用の最も古い文献記録は 11 世紀のものだが、その楽器は数世紀前にアジア大陸から仏教文化が伝来した際に導入されたと考えられている。密教においては、法螺貝の深く響き渡る音色は歴史上の仏陀である釈迦牟尼の教えを表し、その音を聞く者は俗世の思いを清められ、より悟りを得やすくなるとされている。

法螺貝は、仏教、神道、山岳修行の要素を融合した宗教である修験道と深く結びついている。修験道において法螺貝は、修行者が長距離にわたって意思疎通を図るために欠かせない楽器である。

今日、法螺貝が使われることは稀だが、奈良時代（710–794）に建立された国営仏教寺院、例えば長谷寺、東大寺、薬師寺などでは今も聞くことができる。長谷寺では正午と午後 8 時の時刻を告げるために法螺貝が吹かれる。長谷寺での読経や仏事にも法螺貝が伴奏として用いられる。

【タイトル】 長谷寺/紀貫之と歌碑

【想定媒体】 看板、アプリ QR コード/Web

<簡体字>

纪贯之故乡的梅树

纪贯之（868—945）是一位政治家，也是一位著名诗人，对日本古典文学有着很大的贡献。他是日本第一部敕撰和歌集《古今和歌集》的主要编纂者之一。当时大多数有学识者都使用汉文书写，他却积极倡导使用日语创作散文。

根据当地传说，纪贯之与长谷寺有着很深的渊源。直到十四岁前往京都入朝为官之前，年幼的纪贯之都在此地由叔父抚养长大。多年后，纪贯之重返长谷寺，叔父感慨他许久未归，纪贯之便望着身边的梅树，吟诵了下面这首和歌：

人心如何，
终未可测。
唯有故土，
梅花如昔，
清香依旧。

即“人心易变，但梅花清香依然如故。”叔父也作诗回应，表示自己也如同梅树，一如往昔。借此诗歌，两人重拾旧日亲情。

纪贯之的这首和歌后来被收录于 13 世纪编纂的著名和歌选集《百人一首》中。虽然为纪贯之带来吟诗灵感的那棵梅树已经枯死，但它的后代，仍然在藏王堂附近茁壮成长。

<繁体字>

紀貫之故鄉的梅樹

紀貫之（西元 868—945）是一名政治家兼傑出詩人，對日本古典文學的發展貢獻深遠。紀貫之是《古今和歌集》的主要編撰者之一，《古今和歌集》為日本第一部敕撰和歌集。在當時多數知識份子仍以漢文寫作的年代，他倡導以日文創作散文。

根據當地傳說，紀貫之和長谷寺有很深的淵源。他自小由叔父在此撫養長大，14 歲便進入京都任職於朝廷。多年後，紀貫之重返長谷寺時，叔父感嘆他久未來訪。紀貫之望向身旁的梅樹，遂作下這首和歌：

世人啊，
人心終究難捉摸
而我的故鄉
梅花依舊燦爛
綻放昔日芬芳

其大意为：「人心易變，唯有梅香一如往常。」紀貫之的叔父也做了一首詩回應，表達自己如梅樹般，始終如一，未曾改變。因此，兩人重修舊好。

這首和歌後來收錄於 13 世紀編纂的知名和歌選集《百人一首》。雖然當年那株梅樹早已枯朽，但激發此歌創作靈感的梅樹後代，至今仍生長於藏王堂旁。

<日本語仮訳>

紀貫之の故郷の梅の木

紀貫之（868-945）は、政治家であり名高い歌人であり、古典日本文学に多くの重要な貢献をした。貫之は日本初の宮廷詩歌選集『古今和歌集』の中心的な編纂者の一人であり、当時の知識人のほとんどが漢文で執筆していた時代に、日本語による散文を提唱した。

地元の伝承によれば、貫之は長谷寺と深い縁がある。十四歳で京都の朝廷に入る前、叔父に育てられた場所である。数年後に貫之が長谷寺を訪れると、叔父はいかに久しぶりの来訪であるかを述べた。それに対し貫之は近くの梅の木を眺め、次の歌を詠んだ：

人はいさ	人はさあ、どうでしょうか。
心も知らず	お気持ちはわかりません。
ふるさとは	でも、昔なじみのこの土地では、
花ぞ昔の	梅の花が昔のまま
香ににほひける	いい香りをただよわせています。

つまり「人は変わっても、梅の香りは相変わらず迎えてくれる」という意味だ。貫之の叔父はこれに応えて、

自分も梅の木ように変わらぬままであると詠んだ。こうして二人の友情は再び深まったのである。

貫之の歌は後に『百人一首』に収められた。この和歌集は 13 世紀に編纂された有名な歌集である。原木は枯れたが、この歌の題材となった梅の木の子孫が蔵王堂の脇に育っている。

【タイトル】 長谷寺/おこもり

【想定媒体】 アプリ QR コード/Web

<簡体字>**中世纪日本的寺院参拜**

至少自 10 世纪起，长谷寺的十一面观音菩萨像便因多次显灵而广为人知。来自各地不同背景的参拜者纷纷涌向长谷寺。他们相信，在观音菩萨像附近彻夜留宿，就能在梦中得到神示。

民间故事《稻草富翁》讲述的就是这样一位参拜者的故事。一个男孩来到长谷寺，在观音菩萨像前祈愿，发誓在梦中得到神示之前绝不离开。三周后，一位僧人出现在他梦中，并叮嘱他，离开寺庙时要捡起碰到的第一件东西。男孩照做了，他用捡到的一根稻草去不断交换更加高价物品，最终得到了一大笔财富。

由于长谷寺距离当时的都城京都只有几天的路程，许多贵族，尤其是女性，都会前来参拜。人们经常向观音菩萨祈求现世的利益，例如提升社会地位，或是缔结一段良缘。身份尊贵的参拜者，可在正殿内堂屏风围出的专属空间内休息，以免被他人窥视。但是，由于其他参拜者会彻夜交谈、大声向观音菩萨许愿，想要安然入睡恐怕并非易事。

<繁体字>**中世紀日本的寺社佛閣巡禮**

長谷寺的十一面觀音立像，至少自 10 世紀以來，便流傳著眾多與神蹟顯靈相關的故事。各方信眾紛紛湧入長谷寺，相信只要在觀音像旁過夜祈求，觀音菩薩便會入夢指點庇佑。

民間故事《稻草富翁》的主角，正是這樣的一位信眾。故事中，一名少年來到長谷寺，在觀音像前虔誠祈求，並立誓，若未得觀音入夢給予啟示，便絕不離開。三週後，少年夢見一位僧侶，指示他離開寺院時，要撿起隨手碰觸到的第一樣東西。少年遵從夢中指示，用撿到的一根稻草開始以物易物，想不到交換的物品愈來愈珍貴，最終累積了龐大的財富。

由於長谷寺距離當時的首都京都僅需數日行程，前來參拜的貴族絡繹不絕，其中尤以女性居多。她們經常向觀音菩薩祈求世俗利益，例如提升社會地位或尋得良緣等。對於身分特別尊貴的信眾，寺方特地在本堂內以屏風圍出小巧的空間，使他們能在不受旁人目光干擾的情況下休息。不過，由於其他信眾往往徹夜交談、高聲祈禱，或向觀音菩薩反覆傾訴心願，因此想在這樣的環境中安然入睡，並非一件容易的事。

＜日本語仮訳＞

中世日本の寺社巡礼

長谷寺にある十一面観音像は、少なくとも 10 世紀以来、奇跡と結びつけられてきた。あらゆる背景を持つ巡礼者が長谷寺に集い、観音のそばで夜を明かすことで、夢の中で神聖な導きを得られると信じていた。

民話『わらしべ長者』は、そんな巡礼者の一人を描いた物語である。物語の中で、一人の少年が長谷寺を訪れ観音像の前で祈りを捧げ、霊夢を授かるまでその場を離れようとしなかった。三週間後、夢の中で少年の前に現れた僧侶は「寺を出る時、最初に触れたものを拾え」と告げる。主人公はその言葉通り、見つけた一本の藁を次々と価値の高い品物と交換し、ついに莫大な富を授けられるに至った。

長谷寺は京都の都からわずか数日の旅路にあったため、多くの貴族、特に女性たちが、社会的地位の向上や良縁といった現世利益（世俗的な利益）を求めて観音様に祈願に訪れた。特に身分の高い巡礼者には、本堂の内舞台に屏風で作られた小さな囲いが設けられた。この囲いは、上流階級の人々が周囲の目を気にせず休むことを可能にした。しかし他の参拝者たちが夜通しおしゃべりしたり、声を出して祈ったり、観音様に願い事を捧げたりするため、眠るのはおそらく困難であっただろう。

地域番号	018	協議会名	西ノ京地域多言語解説整備推進協議会

解説文一覧

NO.	スポット名（タイトル）	中国語文字数	想定媒体
018-001	薬師寺/法相宗	415	看板/Web
018-002	薬師寺/薬師寺における写経	401	看板/Web
018-003	薬師寺/写経体験	644	看板/Web
018-004	薬師寺/写経道場	393	看板/Web
018-005	薬師寺/舍利和讃（東塔の心柱を削り取った木片を使った用紙の写経）	410	看板/Web
018-006	薬師寺/般若心経	426	看板/Web
018-007	薬師寺/薬師経	332	看板/Web
018-008	薬師寺/唯識三十頌	426	看板/Web
018-009	薬師寺/細川護熙と慈恩殿の壁画	408	看板/Web
018-010	薬師寺/壁画：東と西の融合	753	看板/Web
018-011	薬師寺/慈恩殿	632	看板/Web
018-012	薬師寺/祚蓮・行基像坐像	750	看板/Web
018-013	薬師寺/東塔：水煙相輪装飾	330	看板/Web
018-014	薬師寺/東塔：相輪の基部	436	看板/Web

【タイトル】 薬師寺/法相宗

【想定媒体】 看板/Web

<簡体字>**法相宗**

唯识宗在日本称为法相宗，是日本最古老的佛教宗派之一。唯识思想起源于约 5 世纪的印度。7 世纪，中国高僧玄奘（602-664）前往印度求法，历时 17 年，于 650 年将唯识典籍带回中国并翻译为中文，奠定了法相宗的理论基础。法相宗由日本僧人道昭（629-700）传入日本，道昭曾赴中国，师从玄奘学习唯识教义。

法相宗的教义探讨了意识的本质、各种形式及其在认知现实中所起的作用。法相宗认为，人的意识与所做的选择，塑造了人对外部世界的认知。每个人对世界的认知都源于其各自独有的经历，因此，在某人看来是真实之事，在另一人看来却未必如此。该教义还提出了两种识：末那识（意根）与阿赖耶识（藏识）。末那识执着于自我，影响人对世界的看法。阿赖耶识则将行为、经历和前世记忆储存为“业的种子”，影响人生的命运。这两种识都强调心在塑造现实中的作用，这一思想对禅宗等后世的佛教宗派产生了深远影响。法相宗的思想认为，通过细微观察与理解自身的意识，可达到涅槃境界。

<繁体字>**法相宗**

佛教的瑜伽行派，又稱唯識宗，在日本稱為法相宗，是日本最古老的佛教宗派之一。瑜伽行派的教義源自西元五世紀左右的印度。西元 7 世紀時，中國僧侶玄奘（西元 602 年至 664 年，於日本被尊稱為玄奘三藏）展開長達 17 年的印度取經之旅，並於西元 650 年將瑜伽行派的教義帶回中國。玄奘將這套思想系統性地翻譯為漢文，奠定了法相宗的理論基礎。其後，日本僧侶道昭（西元 629 年至 700 年）在中國於玄奘門下學習佛法，並將法相宗傳入日本。

法相宗的核心教義，著重於探究意識的本質、意識的各種型態，以及意識在我們感知的現實之中所扮演的角色。法相宗認為，人們的意識與所做出的選擇，形塑了對外在世界的感知。由於每個人對世界的感知源自其獨特的經驗，因此一個人所認定的真實，對另一個人而言未必相同。在教義中，法相宗提出了「末那識」和「阿賴耶識」兩種意識。末那識執著於自我，影響一個人看待世界的方式；阿賴耶識是儲存了人的行為、經驗以及前世

的層次，並以業力「種子」的形式，影響著一生的際遇。這兩種意識，皆強調了「心」在形塑現實中的關鍵角色，而這一觀念也對後來包括禪宗在內的各佛教宗派，帶來了深遠的影響。依據法相宗的思想，透過仔細覺察並理解自身意識，便能達到涅槃。

＜日本語仮訳＞

法相宗

日本の仏教宗派の中で最も古い歴史を持つうちの 하나가、法相宗です。これは、5 世紀頃のインドに起源を持つ瑜伽行唯識学派が日本に伝わったものです。7 世紀、日本では玄奘三蔵として知られる中国の僧侶、玄奘（602–664）は、17 年間にわたるインドへの旅に出て、650 年に唯識の教えと共に中国へ帰国しました。玄奘が中国語に訳した唯識の教えが、法相宗の礎となったのです。法相宗が日本に伝来したのは、日本人僧侶の道昭（629–700）によるものです。道昭は中国で玄奘のもとで学びました。

法相宗の教えは、意識の性質、その様々な形態、そしてそれが私たちが現実を認識する方法において果たす役割を探求することにあります。唯識派の教えでは、人々の意識と彼らの選択が、外の世界に対する認識を形作ることを説いています。なぜなら、一人ひとりの世界に対する認識は、彼ら自身の独自の経験から生まれるため、ある人にとって真実だと感じられることが、別の人にとってはそうではない場合があるからです。また、この教義には「末那識」と「阿頼耶識」という 2 つの識があります。末那識は、自己に執着し、世界の見方に影響を与えます。阿頼耶識は、行為、経験、そして過去の生涯が、カルマ的な「種子」（サンスクリット語名：bīja）という形で蓄えられる場所であり、これがその人の人生の出来事に影響を与えます。この二つの識は、現実を形作る上での心の役割を強調しており、これは後に禅宗を含む仏教の諸派に大きな影響を与える概念となりました。法相宗の思想では、自分自身の意識を注意深く観察し、理解することを通じてニルヴァーナに達することができるとされています。

【タイトル】 薬師寺/薬師寺における写経

【想定媒体】 看板/Web

<簡体字>

药师寺抄经

抄写经文（即抄经，日语也称作“御写经”）是一种佛教修行方式，于 6 世纪随佛教从中国传入日本。在批量印刷技术发明之前，佛经只能手工抄写，这对于佛教教义的传播至关重要。朝廷曾雇用专门的写经生，以快速高效地抄写经文。到了平安时代（794-1185），抄经也成为了贵族虔诚修行的一种方式。12 世纪时，贵族盛行用绀纸金泥等珍贵材料抄经。抄经既是一种修行，也是彰显虔诚、积累功德的方式。时至今日，抄经仍然被视为佛教修行的一种方式。

药师寺曾是一座宏伟的寺院。虽然在 16 世纪中叶，大部分建筑被烧毁，但其作为佛教信仰与修行中心的地位依然延续了数百年。1968 年，为了筹集重建药师寺的资金，时任住持高田好胤（1924-1998）发起了一场全国性抄经运动。他没有直接募集捐款，而是向抄写并奉纳经文的人们收取少量费用。他认为抄经的静心过程能让每个人受益。

如今，许多人通过抄经时的凝神专注，来获得内心宁静并进行自我反思。

<繁体字>

藥師寺抄經

抄寫經文的修行，稱為「寫經」或「抄經」，是在西元 6 世紀隨著佛教從中國傳入日本。在大量印刷術尚未出現之前，佛經必須仰賴人工手抄，而手抄佛經正是佛教教義得以廣泛流傳的重要關鍵。為此，朝廷聘請了專業的寫經生，以快速且有效率的方式抄寫佛經。到了平安時代（西元 794 年至 1185 年），抄經逐漸成為貴族之間的虔誠修行。進入西元 12 世紀後，使用金墨書寫於靛藍染紙上，以奢華材料等抄寫佛經的風氣，更是盛行一時。因此，抄經不僅是一種修行與鍛鍊，也是一種表達虔誠、累積功德的方式。時至今日，抄經依然被視為佛教重要的修行法門之一。

藥師寺曾經是一座宏偉的寺院建築群，但到了西元 16 世紀中期，其建築的大部分範圍都因火災而焚毀。即便如此，藥師寺作為佛教信仰和修行的中心，數個世紀以來，其地位仍然延續不墜。西元 1968 年，住持高田好胤（西元 1924 年至 1998 年）為了重建藥師

寺，發起了全國性的抄經運動以籌措資金。不過他並非直接募集捐款，而是收取少許費用，讓人們抄寫佛經並加以供奉。高田好胤相信，在抄經專注而靜謐的過程中，每個人都能獲得內在的體悟與收穫。

如今，許多人透過抄經來促進心靈健康、自我反省與安定心神，並在一筆一畫的專注之中，重新回歸內心的平靜與本質。

＜日本語仮訳＞

薬師寺における写経

經典を書き写すこと、すなわち「お写経」の実践は、6 世紀に仏教とともに中国から日本へ伝わりました。大量印刷技術が存在しなかった時代、經典は手で書き写さなければならず、仏教の教えを広く普及させる上で鍵となりました。朝廷は、この目的のために、迅速かつ効率的な写経を行う専門の写経生を雇用していました。しかし、平安時代（794～1185）に入ると、写経は貴族の間で信仰的な行いへと変わっていきます。12 世紀には、紺色の紙に金色のインクなど、豪華な材料を使って写経することが流行になるほどでした。写経は修行の一環であり、信仰心を表す方法であり、また功德を積む行いでもありました。今日でも、写経は仏教の修練の一種と考えられています。

16 世紀半ばまでに、薬師寺はその伽藍のほとんどを火災で失いました。しかし、仏教への信仰と修行の中心としての役割は、何世紀にもわたって続いてきました。1968 年、当時の管主であった高田好胤（1924–1998）は、薬師寺再建のための資金を集めるべく、全国的な写経勧進の運動を主導しました。高田管主は、単に寄付を募るのではなく、写経を行うのに小額の費用を納めてもらう方法をとりました。彼は、写経という瞑想的な過程が、誰にとっても有益であると考えたのです。

今日、多くの人々が精神的な安寧を求め、集中を通じて内省し、心を静め、自分自身を見つめ直すために写経を実践しています。

【タイトル】 薬師寺/写経体験

【想定媒体】 看板/Web

<簡体字>

抄经体验

药师寺欢迎所有的人前来体验抄写佛经，不限宗教信仰背景。抄经道场全年开放、无需预约，成人与儿童皆可参加，所需时间约为 90 分钟。

体验时，先在抄经道场的接待处领取申请表，并从《心经》、《药师经》、《唯识三十颂》、《舍利和赞》四部经文中，选择一部希望抄写的经文。其中，《舍利和赞》是献给佛祖释迦牟尼的特殊经文。

领取抄经纸后，前往位于建筑物后方的抄经室。抄经室门前的桌子上有一个铜制容器，从中取出一粒丁香，嚼碎或整粒吞下。早在公元前 300 年，中国就已开始使用丁香，据说吃丁香可以从内而外洁净身体。

抄经室内备有挂于颈上的轮袈裟。人们相信，佩戴轮袈裟可以净化身心，有助于静下心来抄经。房间中央有一座卧象姿态的香炉。跨过香炉可以进一步洁净身体，为接下来的抄经做准备。

入座后，关闭所有电子设备。无论宗教信仰为何，抄经时都需保持专注与诚心。每张桌子上都备有抄经所需文具，并附有研墨说明。研墨时，可专注于享受墨汁的香味及研磨的过程，以静心凝神，沉入宁静的抄经心态。从工作人员处领取选好的经文后，便可开始在抄经纸上抄经。由右至左、由上至下慢慢描摹。如果不慎写错，用两条线划掉错字，然后在旁边写上正确的字即可。经文的最后几行留有空白，可用任何语言在此写下心愿。最后写上姓名和日期。

抄写完毕后，将抄经纸送到抄经室前方的佛案前，借助香炉的烟雾净化经文后，放置于已堆放的经文之上。随后，可鞠躬或双手合十，以示敬意。次日，本寺僧侣将在正殿的药师佛前诵经，并逐一宣读每份抄经人的姓名与心愿。抄写的经文将被供奉在寺中。

〈繁體字〉

抄經

藥師寺歡迎所有人前來抄寫佛經，不分宗教或信仰。抄經道場 365 天全年開放，無需事先預約，歡迎大人與孩童一同參加。整個抄經流程約需 90 分鐘。

在抄經道場的櫃台，參加者會先領取一份表格，並從以下四部佛經中擇一抄寫，分別是《心經》、《藥師經》、《唯識三十頌》以及一部特別獻給歷史上的佛陀——釋迦牟尼佛的經典《舍利和讚》。接著領取抄經用紙，將其覆蓋在所選佛經的印刷版本上，依原字跡描摹抄寫。

領取抄經用紙後，請前往建築物後方的抄經室。在入口處的桌上擺放著一個銅製容器，請從中取一顆丁香，嚼碎或直接整顆吞下。相傳丁香具有由內而外淨化身軀的效果，早在西元前 300 年，中國便已以丁香作為淨化用途。

抄經室內準備了輪袈裟，這是一條以綢緞製成的環帶狀長布條，可披掛於頸部，象徵簡化版的僧袍。人們相信，配戴輪袈裟有助於淨化身心、調整心緒，為接下來的抄經做好準備。在抄經室的正中央擺放著一座大象造型的香爐，跨過香爐，象徵進一步淨化身心，迎接抄經的開始。

室內擺放著多張桌子，桌上備妥抄經所需的用具。入座後請關閉所有電子設備。抄經是一段靜心的過程，無論信仰為何，抄經時都必須保持專注與虔誠。

每張桌子上都附有調製墨水的說明，透過專注於筆墨的淡雅香氣，以及在硯台上反覆磨墨的動作，逐步讓心神沉靜，幫助聚精會神。從工作人員手中領到你所選擇的經文後，即可開始在抄經用紙上抄寫。請由右至左、由上至下，慢慢描摹，避免出錯。若不慎寫錯，請用兩條線劃去錯字，並在旁邊寫上正確的字。經文末尾留有空白處，可用自己偏好的語言寫下心願，最後記得寫上姓名與日期。

完成抄寫後，請手持抄經用紙，走到房間前方並將經文供奉在神聖的掛軸前。接著在香爐的煙霧上方輕輕揮動經文，以示淨化，再將其放置於堆疊好的經文之上。如有需要，也可以鞠躬或合掌，以表達敬意。

隔日，寺中僧侶會在本堂的藥師如來佛（掌管藥的佛陀）前誦經，並逐一唸出每份手

抄佛經上的姓名與所祈求的心願。這些完成的抄經，隨後將由寺院妥善保存。

＜日本語仮訳＞

写經体験（お写經）

薬師寺では、信仰や宗教を問わず、どなたでも仏教の写經を体験できます。所要時間は約 90 分です。

お写經道場の受付で申込用紙を受け取り、写經する經典を選びます。選択肢は、『般若心經』、『薬師經』、『唯識三十頌』、そして歴史上の仏陀である釈迦牟尼仏に捧げる特別な經典『舍利和讃』です。写經用紙を受け取り、これを、選んだ經典の印刷版の上に重ねて文字をなぞります。

写經用紙を受け取ったら、建物の奥にある写經室へ進みます。部屋の入り口前の台にある銅の容器から丁子の一つ取り、噛むか、あるいはそのまま飲み込みます。丁子を食べことは内側から身を清めると言われ、紀元前 300 年頃の中国でも浄化のために使われていました。

写經室に入ったら、首に掛ける輪袈裟があります。これは体の外側を清め、写經に取り組む心を整えると考えられています。部屋の中央には象の形をした香炉があります。この香炉をまたぐことは、写經という作業のために体をさらに清めることになります。

机にはすべての道具が用意されています。席に着いたら、電子機器の電源をすべて切ってください。写經は瞑想的な行いであるためです。どのような信仰をお持ちでも、心を込めて誠実に写經に取り組むことが大切です。

墨の磨り方が説明されていますので、墨の香りを楽しみ、墨を硯に磨る反復的な動きに集中することで、瞑想的な作業として写經に取り組む心を整えます。係員から選んだ經典を受け取ったら、写經用紙に文字をなぞり始めます。右から左へ、上から下へと文字をなぞり、間違いを避けるために、ゆっくりと書き進めましょう。もし間違えた場合は、その文字の上に二重線を引き、隣に正しい文字を書き直します。經典の最後の数行には空白があり、そこに任意の言語で願い事を書くことができます。最後に日付と自分の名前を記入して完成です。

完成した写經用紙を持って静かに部屋の正面へ進み、聖なる掛軸の前に捧げます。香炉の煙の上で写經用紙をかざして清め、積み重ねられた山の上に置きます。希望すれば、お辞儀をしたり、合掌したりして敬意を表しても構いません。

翌日、僧侶たちは本堂で薬師如来を前に読經し、それぞれの写經に書かれた名前と願い事を読み上げます。写經用紙は、その後も寺に保管されます。

お写経道場は年中無休で、予約は不要です。大人も子供も参加することができます。

【タイトル】 薬師寺/写経道場

【想定媒体】 看板/Web

<簡体字>**抄经道场**

抄经道场建于 1972 年，由当时的住持高田好胤（1924-1998）主导规划。室町时代（1336-1573）药师寺金堂被烧毁，在为其募集重建资金时，抄经起到了很大的作用。

高田好胤在 1967 年就任药师寺住持后，便着手对寺院进行了大规模翻修。因为缺少有力的资助者，他便转为向广大民众寻求帮助。他不是直接募集捐款，而是为支持者提供抄经奉纳的机会，同时收取少量的供养费。

他曾立下了募集抄经百万卷的目标。然而，药师寺并没有足够的空间容纳众多想要抄经的支持者。为此，高田决定建设抄经道场，他相信这座道场将成为寺院复兴工程的重要组成部分。同时，他也希望为信徒们提供舒适的抄经环境。

1976年金堂竣工，同年就达成了高田立下的募集抄经百万卷的目标。时至今日，抄经已经成为药师寺的一项传统。如今抄经道场已成为白凤伽蓝修复等寺院修缮和重建项目的筹款支柱。为了纪念高田好胤的贡献，抄经室外树立了他的雕像。

<繁体字>**抄經道場**

抄經道場是在西元 1972 年，依當時住持高田好胤（西元 1924 年至 1998 年）的指示所興建。藥師寺金堂早在室町時代（西元 1336 年至 1573 年）受到破壞，後來的抄經活動，便在金堂重建的募款過程中，發揮了極為重要的作用。

高田好胤於西元 1967 年就任藥師寺住持後，隨即展開寺院伽藍的大規模整修工程。當時，由於缺乏強而有力的贊助者，藥師寺轉而向社會大眾尋求支持。不過，高田並未採取直接募款的方式，而是收取少許香油錢，讓支持者透過抄寫佛經並加以供奉的方式參與重建。他並為此立下「抄經百萬卷」的宏大目標。

但是，藥師寺缺乏足夠的空間，無法容納日益增加、希望參與抄經的信眾。於是，高田決定投資興建專用的抄經道場，並深信此舉將成為寺院修復工程與日後發展中不可或缺的一環。同時，他也期盼能為信眾提供一個舒適、專心抄經的場所。

西元 1976 年，高田所提出的「抄經百萬卷」目標達成，金堂也於同年竣工。至此，抄經也成為了藥師寺的重要傳統。時至今日，抄經道場仍是寺院各項修繕與重建計畫的重要資金來源，例如白鳳伽藍的整修工程等。為表彰高田好胤對寺院的貢獻，抄經室外並豎立了他的雕像，以資紀念。

＜日本語仮訳＞

お写経道場

お写経道場は、高田好胤管主（1924–1998）の発案により 1972 年に建立されました。写経は、室町時代（1336–1573）に焼失した金堂をはじめとする伽藍の再建資金を賄う上で、薬師寺で重要な役割を果たしました。

高田が 1967 年に薬師寺の管主に就任すると、彼は寺の本格的な復興事業を主導しました。有力な支援者を欠いていたため、薬師寺は一般の人々に援助を求めました。しかし、高田は単に寄付を募るのではなく、少額の寄付と引き換えに、支援者が写経を行い、それを寺に奉納する機会を提供しました。彼は 100 万部の目標を設定しました。

多くの参加者が薬師寺で写経をしたいと望みましたが、施設が不十分でした。そこで高田は、お写経道場を建設することを決意し、これが復興事業と寺そのものの両方にとって不可欠な存在になると考えました。また、参拝者が快適に写経に取り組める環境を提供したいとも願っていました。

高田が掲げた 100 万部の目標は、金堂が完成したのと同じ 1976 年に達成されました。この頃までに、写経は薬師寺の伝統としてしっかりと根付いていました。今日でも、お写経道場は白鳳伽藍の復興などの寺の他の修復や再建のための資金集めの柱となっています。高田好胤の献身を顕彰し、写経室の外には彼の像が建立されています。

【タイトル】 薬師寺/舍利和讃（東塔の心柱を削り取った木片を使った用紙の写経）

【想定媒体】 看板/Web

<簡体字>

舍利和赞

《舍利和赞》是赞颂释迦牟尼舍利的诗歌，宣告其法身即佛教的终极真理永恒不灭。“舍利”是释迦牟尼的遗骨，而“和赞”则是用日语而非佛教经典常用的梵语或汉语所写的宗教诗歌形式。《舍利和赞》常在葬礼或临终之际吟诵。

在药师寺，抄写的《舍利和赞》会被保存在东塔的二楼。东塔拥有 1300 年的历史，为日本的国宝建筑。在 2020 年完成的大规模拆解修复过程中，工匠们发现塔心柱底部被蛀空。原计划将柱子腐朽部分更换后丢弃，但药师寺提议将其制成抄经纸，留存于塔内。于是寺院将木材运往以制造和纸而闻名的福井县越前市，制成抄经纸。如果您选择体验抄写《舍利和赞》，便可以使用这种抄经纸。

抄经完毕后，僧侣们会在次日将其供奉于药师佛前，并代您传达心愿。抄写的经文将被保存在东塔中，成为和纸的木材得以回归其原本之处。东塔中供奉着释迦牟尼的舍利，将抄写的《舍利和赞》存放于此，便能与佛祖结缘。

抄写《舍利和赞》时所捐献的善款，将用于东塔未来的维护与保存。

<繁体字>

舍利和讚

《舍利和讚》是一首讚頌歷史上的佛陀——釋迦牟尼佛遺身舍利的詩歌，其內容宣示了佛的本質（法身），亦即佛教所揭示的終極真理，具有永恆不變的意涵。所謂「舍利」，指的是釋迦牟尼佛的遺骨；「和讚」則是一種以日文創作的宗教詩歌形式，而非佛教經典中常見的梵文或漢文。《舍利和讚》多在葬禮或臨終之際誦唸。

在藥師寺，僅有《舍利和讚》的抄本會被存放於東塔二樓。這座擁有約 1300 年歷史的國寶東塔，曾在西元 2020 年完成的大規模修復工程中被全面拆解並進行修復。在修復過程中，工人發現中央柱的底部遭蟲蛀形成中空，因此加以替換。腐朽的木材被替換下來

後，原本計畫直接丟棄，但寺方提議將這些木材製成經文用紙，使其以另一種形式繼續留存在這座歷史悠久的古塔之中。於是，寺方將這些木材送往以和紙工藝聞名的福井縣越前市，委託製作成抄經用紙。如今，信眾抄寫《舍利和讃》時所使用的，正是由東塔舊材製成的紙張。

抄寫完成後，寺方僧侶會在隔日將經文奉納於佛前，並將經文末尾所書寫的心願轉達給藥師如來。隨後，這些手抄經文會被收納於東塔之中。如此一來，融入和紙中的古塔木屑，便能與塔身重新合而為一，回歸原本所在。由於東塔內供奉著釋迦牟尼佛的佛身舍利子，將眾人所抄寫的《舍利和讃》一同奉納於此，也象徵著與佛陀結下更深的因緣。

抄寫《舍利和讃》的捐獻款項，將作為未來維護與保存東塔的經費來源。

<日本語仮訳>

舍利和讃

『舍利和讃』は、歴史上の仏陀である釈迦牟尼仏の遺骨（仏舍利）を称え、その本質（サンスクリット語名：ダルマカーヤ）、すなわち仏教の究極の真理が永遠であると宣言する詩歌です。「舍利」は釈迦牟尼の遺骨を指し、「和讃」は、仏教經典の多くがサンスクリット語や中国語で書かれているのに対し、日本語で書かれた宗教的な詩歌形式を意味します。この和讃は、葬儀や臨終の床で読誦されることがよくあります。

薬師寺では、この舍利和讃の写経のみが、東塔の二階に納められることになっています。国宝である築1,300年の東塔は、2020年に完了した大規模な解体修理により修復されました。その際、職人たちは心柱の根元が虫に食われて空洞になっているのを発見しました。腐朽した柱の部分は交換され、廃棄される予定でした。しかし、薬師寺は、損傷した木材を写経用紙の形にして歴史ある塔に留めることを提案しました。寺はその木材を、和紙の生産で有名な福井県の都市、越前に送り、そこで写経用の紙に生まれ変わりました。舍利和讃の写経を希望すると、あなたが使う紙がこの紙となります。

翌日、僧侶たちは写経された和讃を薬師如来に捧げ、そこに書かれたあなたの願いを伝えます。その後、和紙に漉き込まれた古材の木片が、もともとあった東塔に戻る形で、写経は塔内に納められます。仏塔は釈迦牟尼仏の墓を象徴し、この東塔には釈迦牟尼の仏舍利が実際に納められています。そこに『舍利和讃』の写経が納められることで、仏陀と個人的な縁を結ぶことができるのです。

『舍利和讃』の写経に納められた志納料は、東塔の今後の維持管理と保存に役立てられます。

【タイトル】 薬師寺/般若心經

【想定媒体】 看板/Web

<簡体字>

《般若波罗蜜多心经》

《般若波罗蜜多心经》又称《心经》，成书于 2~4 世纪的印度，全文仅 266 字，却蕴含着释迦牟尼的“智慧到彼岸”的教义精髓，并阐明了大乘佛教中“空”与“悟”的思想。

僧人玄奘（602-664）在 650 年从印度将《心经》等数百卷梵文经卷带回中国，他所翻译的《心经》至今仍是在日本流传最广的版本，您可在药师寺内抄写这一版本。《心经》是东亚和中亚佛教宗派中诵读最多的经文，并且其篇幅短小，是药师寺抄经的热门之选。

《心经》中弟子舍利弗向释迦牟尼请教如何获得智慧。释迦牟尼入于禅定，由大慈大悲的观音菩萨代为回答。观音菩萨阐释了“空”的教义、现实的本质，以及如何修行悟道。

观音菩萨说，世间万物皆空。经文中最为人们熟知的名句“色即是空，空即是色”即体现了这一思想。菩萨还说，世间万物无论是物质、生命还是思想，都不独立自存。并否定了二元对立，认为生与死、有与无等看似对立的事物，实则本为一体。经文最后的真言阐述了如何从轮回中解脱——轮回是俗世众生的生死循环。

<繁体字>

般若心經

《般若波羅蜜多心經》，亦稱《般若心經》或《心經》，全文僅有 266 字。儘管篇幅精簡，卻涵蓋了釋迦牟尼佛般若智慧圓滿的教法精髓，並闡述了大乘佛教所重視的「空」與「覺悟」概念。大乘佛教是佛教的教派之一，強調普渡眾生、眾生皆能成佛。

《心經》約於西元 2 至 4 世紀間在印度編撰成書。這部經文，是僧侶玄奘（西元 602 年至 664 年，在日本被稱為玄奘三藏）於西元 650 年自印度帶回中國的數百卷梵文佛典之一。玄奘所翻譯的譯本，至今仍是日本最主要的流通版本，在藥師寺亦可抄寫此經文。

《心經》是東亞與中亞佛教世界中廣為誦讀的經典，而且因其篇幅短，所以也成為藥師寺

抄經體驗中的熱門選擇。

在這部經典中，弟子舍利弗向釋迦牟尼佛請示如何證得智慧。釋迦牟尼佛安住於深沉的禪定狀態之中，並未親自回應，而是由象徵慈悲的觀音菩薩代為說法。觀音菩薩闡述了「空」的教義、諸法實相，以及通往覺悟的覺醒之道。

觀音菩薩開示，一切萬物皆為「空」。這一思想也展現在《心經》最知名的經文中：「色即是空，空即是色。」菩薩進一步闡述此理，否定了一切萬物——無論是物體、人類或思想——具有獨立存在的概念。同時也否定了生與死、有與無等二元對立的觀點，指出這些看似相對的概念，在本質上其實是一體的。這部經文最後結尾的真言，則闡述了從輪迴中解脫，脫離將生命束縛於物質世界的生死循環。

<日本語仮訳>

般若心經

『般若心經』、正式には『般若波羅蜜多心經』として知られるこの經典は、わずか 266 文字のものです。それにもかかわらず、釈迦牟尼仏が説いた「智慧の完成」という教えの本質をとらえ、大乘仏教における空と悟りの概念を深く説いています。

この經典は、2 世紀から 4 世紀の間にインドで書かれました。日本では玄奘三蔵として知られる中国の僧侶、玄奘（602-664）が 650 年にインドから中国へ持ち帰った数百巻のサンスクリット語經典のうちの一つです。玄奘が翻訳したこの經典は今なお日本で主要な版として用いられており、薬師寺で写経することができます。その奥深さから、仏教学者や一般の人々が何世紀にもわたり、その意味について論書や注釈を著してきました。『般若心經』は、東アジアや中央アジアの仏教宗派で最も多く唱えられている經典であり、その簡潔さから、薬師寺での写経でも人気のある選択肢となっています。

この經典では、弟子の舍利弗が、智慧を得る方法について釈迦牟尼に問いかけます。釈迦牟尼は深い瞑想に入ったままで、代わりに観音という慈悲の菩薩がその問いに答えます。観音は、空の教え、現実のあり方、そして悟りへと至る発見の旅について説き明かします。

観音は、いかにすべてのものが空であるかについて語ります。經典の中で最もよく引用される「色即是空、空即是色」という一文は、この概念をさらに展開しています。観音は、物体、人間、思想など、いかなるものも独立した実体を持つという考えを否定します。また、生と死、有と無といった二元論も否定し、これらは別々のものではなく、本質的に同じものであると述べています。經典の最後の真言は、物質世界に縛り付ける死と再生のサイクルである輪廻からの解脫を説いています。

【タイトル】 薬師寺/薬師經

【想定媒体】 看板/Web

＜簡体字＞

《药师经》

《药师经》全称为《药师琉璃光如来本愿功德经》，是僧人玄奘（602-664）在 650 年从印度带回中国的佛教典籍之一，主要讲述药师佛的事迹。药师佛是药师寺的主尊。

佛教传说中，药师佛曾发下十二大愿，誓言在成佛后，将救拔众生病痛，赐予福寿，消除恐惧，免除灾祸，提供衣食，并引导众生加深对佛祖释迦牟尼的信仰。

药师佛广受尊奉，被视为能治愈身心疾病的佛。其中“心的疾病”包括贪欲、不诚实、多疑、愤怒和怨恨等负面情绪，这些都被认为是悟道的障碍。

《药师经》中，释迦牟尼向文殊菩萨述说药师佛的功德，并说明念诵药师佛名号，可以消除灾祸，使国土安宁。因此，在历史上《药师经》也被认为具有镇护国家之功效。

《药师经》的节略本约有 800 字。人们相信抄写此经可以治愈疾病，保佑身体安康。

＜繁体字＞

藥師經

《藥師經》是由僧侶玄奘（西元 602 年至 664 年）於西元 650 年自印度帶回中國的佛經之一。在日本，玄奘被稱為玄奘三藏。此經的全名為《藥師琉璃光如來本願功德經》，經文中所述的藥師如來，正是藥師寺主要供奉的本尊。

根據佛教傳說，藥師如來發下十二大願，誓願一旦成佛，便為眾生解除病痛之苦、延長壽命、消除恐懼、防止災難、提供衣食，並引導人們加深對歷史上的佛陀——釋迦牟尼佛的信仰。

藥師如來被視為能夠療癒身心疾病的佛陀，因此受到廣泛的尊崇。這裡所指的疾病，包括無盡的貪婪、不誠實、猜疑、憤怒與怨恨等負面情緒，這些都被認為是通往開悟的障

礙。

在《藥師經》中，釋迦牟尼佛向文殊菩薩說明了藥師如來的種種功德。祂聲明，只要念誦藥師如來的名號，便能消災解厄，為這片土地帶來和平。因此，《藥師經》在歷史上也被認為具有護國之作用。

《藥師經》的精簡版本約 800 字。人們相信，抄寫此經能祈求消除病痛，守護健康。

＜日本語仮訳＞

薬師経

『薬師経』は、650 年に僧侶の玄奘三蔵（中国名：Xuanzang; 602–664）がインドから中国に持ち帰った仏教経典の一つです。正式名称は『薬師瑠璃光如来本願功德経』といい、薬師寺のご本尊である薬師如来について説かれています。

仏教の伝承によれば、薬師如来は十二大願を立てました。悟りを開いた暁には、病苦を和らげ、寿命を延ばし、恐怖を取り除き、災害をなくし、食料や衣服を与え、釈迦牟尼仏への信仰を深めることを誓いました。

薬師如来は、身体的な病気と精神的な病気の両方を癒す仏として広く尊崇されています。飽くなき欲望、不誠実、疑い、怒り、恨みといったネガティブな感情もまた、悟りへの妨げであると考えられています。

『薬師経』の中では、釈迦牟尼が文殊菩薩に、薬師如来のこれらの功德について説いています。薬師如来の名号を称えて讃嘆することで、災害は防がれ、国に平和をもたらすことができると説いています。このため、歴史的に国家を守護する経典として崇められてきました。

『薬師経』の略本は、およそ 800 文字ほどの長さです。この経典を写経することは、病からの回復や、健康の約束をもたらすと信じられています。

【タイトル】 薬師寺/唯識三十頌

【想定媒体】 看板/Web

<簡体字>

《唯识三十颂》

法相宗是日本最古老的佛教宗派之一，而《唯识三十颂》则是其主要论书。该论书著于 4~5 世纪的印度，7 世纪中叶，由僧人玄奘（602-664）从梵文译成中文。全文 600 字，采用五言四句的偈颂形式。（“偈颂”是佛教术语，它是一种以诗歌形式表达的佛教教义或赞叹佛德的文字。）

这部偈颂阐述了法相宗的核心概念，包括影响我们认识世界的各种不同的“识”。书中提出的“阿赖耶识”（藏识）和“末那识”（意根）构成了法相宗思想的基础。阿赖耶识与记忆、经验和因果有关，而末那识与阻碍开悟的自我认知和错误认知有关。

偈颂中探讨心的本质及其运作方式，阐述了识与心如何产生种种幻相，以及为何人生的经历不过是生死等对立概念的幻相，旨在引导人们通过理解自身的识，达到涅槃境界。偈颂中蕴含着浓厚的哲学意味，因此产生了各种各样的解释，学者们至今仍在争论其真正含义。

在药师寺可供抄写的四部经文中，《唯识三十颂》与法相宗教义的关联最为紧密。若对意识与心的相关概念感兴趣，推荐抄写此经文。

<繁体字>

唯識三十頌

《唯識三十頌》是日本最古老的佛教宗派之一「法相宗」的根本論著。法相宗又稱為「唯識宗」。此論典撰寫於西元四或五世紀的印度，後由僧侶玄奘（西元 602 年至 664 年，日本稱玄奘三藏）自梵文翻譯為漢文，並於西元七世紀中期完成翻譯。全文約 600 字，採五言偈頌，即「每首四句、每句五字」的體裁形式。

這部論著闡述了法相宗的核心思想，例如影響人們理解世界的方式，稱之為「識」。當中定義包含了構成法相宗思想基礎的「阿賴耶識」和「末那識」等概念。阿賴耶識關乎

記憶、経験と因果；末那識則關乎阻礙開悟的我執和錯誤認知。

《唯識三十頌》深入探討心的本質與運作方式，說明識與心如何生起種種幻象，以及人們的種種經驗只不過是生死等二元對立的概念所構成的幻象。由於內容蘊含深奧哲理，因而衍生了各式各樣的詮釋，學者們至今仍在探究其真正意涵。這部論著被視為，引導人們透過理解自身意識達到涅槃的重要指引。

在藥師寺可供抄寫的四部經文中，《唯識三十頌》與法相宗教義的關聯最為密切。對於識和心的概念有興趣深究的人士，這是一部特別值得抄寫的經文。

<日本語仮訳>

唯識三十頌

『唯識三十頌』は、日本で最も古い仏教宗派の一つである法相宗の根本的な論書です。この論書は、4 世紀または 5 世紀にインドで書かれ、後に僧侶の玄奘三蔵（中国名：Xuanzang; 602–664）によって 7 世紀半ばにサンスクリット語から翻訳されました。この著作は、1 つあたり 5 文字の 4 行で構成される約 600 文字の作品です。

この詩的な論書は、私たちが世界を理解する方法に影響を与える、様々な識といった法相宗の核心的な概念を説いています。これには、法相宗の思想の基盤をなす「阿頼耶識」と「末那識」の概念が含まれます。阿頼耶識は記憶、経験、そして因果と結びついており、末那識は、悟りを妨げる自我意識と誤った認識と関連しています。

この偈頌は、心の性質とその働き、識と心がどのようにしてさまざまな錯覚を生み出すか、そして経験が生と死のような単なる対立概念の幻想に過ぎないということを説いています。この論書の持つ難解な哲学的性質から、様々な解釈が生まれ、多くの仏教学者は今なおその真の意味について議論を重ねています。この論書は、自身の意識の理解を通じてニルヴァーナに到達するための指針となります。

薬師寺で提供されている 4 つの写経用經典の中で、『唯識三十頌』は最も法相宗の教義と密接に関連しています。意識や心の概念に深く向き合いたいと考える人々におすすめの写経です。

【タイトル】 薬師寺/細川護熙と慈恩殿の壁画

【想定媒体】 看板/Web

＜簡体字＞

细川护熙和慈恩殿壁画

细川家族是曾经统治熊本藩（今熊本县）的武士世家，细川护熙（生于 1938 年）是该家族的第十八代家主。细川最初任职报社记者，后来步入政坛。1993 年他成为日本第 79 任首相。60 岁时退出政坛，专注于陶艺、书法、油画等艺术领域。2001 年，细川在日本、巴黎和纽约举办了首次个人艺术展。

细川与药师寺的渊源始于住持高田好胤（1924-1998）。细川参观药师寺时，高田向他解释了玄奘三藏院的佛塔入口牌匾上“不东”二字的含义。“不东”即“不东归”，是中国僧人玄奘（602-664）在前往印度时立下的誓言，表示“找到圣典之前绝不返回东土大唐”。如今，这句话象征着坚持不懈的毅力和坚定不移的决心。细川深受触动，便将自己神奈川的工作室命名为“不东庵”，意为“不东隐士之屋”。

为纪念药师寺东塔修复工程于 2020 年竣工，细川为慈恩殿绘制了名为《东与西的融合》的壁画。壁画灵感源于丝绸之路以及佛教从印度传播到东亚的过程。

＜繁体字＞

細川護熙與慈恩殿壁畫

細川護熙（西元 1938 年生）是細川一族的第十八代當家。細川一族為日本武士世家，曾統治熊本藩。細川護熙原是一名報社記者，之後踏入政壇，並於西元 1993 年成為第 79 任日本首相。他在 60 歲時退出政壇，轉身投入藝術創作，創作領域涵蓋陶藝、書法與油畫等。西元 2001 年曾於日本、巴黎與紐約舉辦首次個人藝術展。

細川護熙與藥師寺的淵源，始於住持高田好胤（西元 1924 年至 1998 年）。當年細川護熙造訪藥師寺時，高田住持向他說明了玄奘三藏院入口上方牌匾所寫的「不東」之意。

「不東」意指「不回東方」，源自僧侶玄奘（西元 602 年至 664 年，日本稱玄奘三藏）啟程前往印度時所立下的誓言。他發誓，在尚未取得神聖的佛教經典之前，絕不返回大唐。這句話如今象徵著堅持不懈的毅力與堅定不移的決心。細川護熙深受啟發，遂將他位於神

奈川的工作室命名為「不東庵」。

為了紀念西元 2020 年東塔修復完工，細川護熙於慈恩殿繪製了這幅壁畫。壁畫題名為《東與西的融合》，其創作靈感來自絲綢之路，以及佛教自印度傳播至東亞的歷史脈絡。

<日本語仮訳>

細川護熙と慈恩殿の壁画

細川護熙（1938 年生まれ）は、かつて熊本藩（現在の熊本県）を治めた武家、細川家の第 18 代当主です。細川氏は当初、新聞記者として活動していましたが、後に政界へと転身しました。1993 年には第 79 代内閣総理大臣に就任しました。60 歳で政界を引退した後、陶芸や書、油絵など、様々な芸術分野に専念しました。2001 年には、日本、パリ、ニューヨークで初の個展を開催しました。

細川氏が薬師寺と縁を持ったのは、高田好胤管主（1924-1998）がきっかけでした。細川氏が薬師寺を訪れた際、高田管主は玄奘三蔵院の塔の入り口に掲げられた扁額に書かれた「不東」という言葉の意味を説明しました。「不東」というのは、日本では玄奘三蔵として知られる中国の僧侶、玄奘（602-664）がインドへ出発する際に立てた誓いです。それは、「聖なる仏教経典を見つけるまでは、決して東（中国）へ戻らない」という決意を表すものでした。この言葉は、今では不退転の決意や揺るぎない覚悟を象徴しています。細川氏は深く感銘を受け、神奈川の自らのアトリエを「不東庵」と名付けました。

細川氏は、2020 年に完了した東塔の修復を記念する慈恩殿のための壁画の制作を決意しました。この壁画は、『東と西の融合』（Higashi to nishi no yugo）と題され、シルクロードと、インドから東アジアへと仏教が伝わった歴史から着想を得ています。

【タイトル】 薬師寺/壁画: 東と西の融合

【想定媒体】 看板/Web

<簡体字>

壁画《东与西的融合》

这幅名为《东与西的融合》的壁画由前首相细川护熙（生于 1938 年）耗时六年，于 2019 年完成。作品旨在庆祝次年东塔的修复竣工。该壁画由 66 个场景构成，共 113 张，全长 157.72 米，覆盖慈恩殿的整个墙壁。

细川的灵感源于中国僧人玄奘（602-664）的西行之旅。玄奘曾远赴印度求取佛经，他带回中国的佛经奠定了法相宗的思想基础。细川在壁画中，记录了玄奘穿越大陆的艰辛旅程。

壁画中央的菩提树象征着佛陀释迦牟尼。佛陀曾在这棵树下冥想，此树也因此成为其悟道的象征。佛陀左侧有带着供品的祈福者。在他们上方，是系着丝带的经卷，代表佛教的教义。佛陀右侧有动物和来自不同文化、正在演奏古代乐器的人们。在他们上方，飘浮着奥地利作曲家约翰·伯恩哈德·施陶特 (1654-1712) 为耶稣会戏剧《坚强的女人》谱写的乐谱。乐谱表现了细川的先祖细川伽罗奢（1563-1600）因皈依基督教而遭迫害，最终被迫自尽的生平。

上方和天花板上描绘了佛教的极乐之地“净土”，那里居住着飞翔的天女和名为“迦陵频伽”的神鸟，它们人首鸟身，有着飘逸的尾羽和美妙的歌喉。正面墙壁的两侧分别描绘着风神和雷神。外廊右侧的墙上描绘着负责审判亡魂的十大明王。

左后墙上画有法相宗创始人之一慈恩大师（中文名为窥基，632-682），该建筑名为慈恩殿，便是以其名命名。画中的他回头望向伫立在慈恩殿后面佛塔中的师父玄奘的雕像。

壁画还描绘了从夏到冬的季节的更迭。正面的墙上有春日飘零的樱花；殿堂中央是夏日的莲花；里侧的墙左右是秋日的红枫；最深处的墙壁则展现了冬日的幽暗与严寒。

细川采用了类似欧洲基督教堂湿壁画法的绘画法，将白色黏土涂抹在纸上，用产自意

大利的顏料作画。仔細觀察，就能發現最初草圖的輪廓。

該壁畫於四月下旬至五月初、十月下旬至十一月初向公眾開放。

〈繁體字〉

壁畫《東與西的融合》

名為《東與西的融合》這幅壁畫，由 66 幅畫板、共使用 113 片木板拼接而成。全長 157.72 公尺，覆蓋整個慈恩殿的牆壁。這件作品由前首相細川護熙（西元 1938 年生）歷時 6 年繪製，並於西元 2019 年完成，為慶祝東塔於隔年完成修復的紀念之作。

細川護熙的創作靈感，源自僧侶玄奘（西元 602 年至 664 年，日本稱玄奘三藏）遠赴印度取經的旅程。他帶回中國的佛經，成為法相宗思想的重要基礎。這幅壁畫記錄了玄奘橫越大陸、歷經艱辛的取經之路。

壁畫中央描繪一棵菩提樹，象徵釋迦牟尼佛。佛陀曾於神聖的菩提樹下冥想，因此菩提樹成為祂覺悟的象徵。佛陀左側畫著攜帶供品前來祈求的人們，其上方描繪以綁有絲帶的經卷，象徵佛法。佛陀右側描繪了各種動物以及來自不同文化的人們演奏著古代樂器。在他們上方飄浮著耶穌會戲劇《堅強的女人》（Mulier fortis）的樂譜，由奧地利作曲家約翰·伯恩哈德·史陶德（Johann Bernhard Staudt，西元 1654 年至 1712 年）譜寫，描繪細川一族的祖先細川伽羅奢（西元 1563 年至 1600 年）的一生。她因改信基督教而遭受迫害，最終被迫自盡。

上方的畫板與天花板描繪了佛教的淨土世界，居住著飛天仙女，以及人首鳥身的神鳥，名為迦陵頻伽，有著優雅長尾和美妙歌聲。正面的牆壁兩側分別描繪風神與雷神。外走廊右側牆面則是十殿閻王，負責審判死後的靈魂。

左後方的牆面上，描繪著法相宗創始者之一慈恩大師（中文名為窺基，西元 632 年至 682 年）的畫像，這座慈恩殿便是以他命名。畫中他回頭望向師父玄奘的雕像，該雕像設立於慈恩殿後方的寶塔之中。

這幅壁畫同時呈現了四季的流轉，正面牆面描繪春天飄落的櫻花；殿堂中央盛開象徵盛夏的蓮花；後方牆面左右兩側以逐漸轉紅的楓葉展現秋意；最內側牆面則描繪寒冬的幽暗與寒冷。

在繪畫技法上，細川護熙採用了類似歐洲基督教教堂濕壁畫的方式，先將白色黏土塗佈於紙張上，再以義大利顏料作畫。仔細觀察，仍可發現底層原始草稿的輪廓。

這幅壁畫每年於 4 月下旬至 5 月上旬，以及 10 月下旬至 11 月上旬對外開放參觀。

<日本語仮訳>

壁画『東と西の融合』

『東と西の融合』(Higashi to nishi no yugo) と題されたこの壁画は、66 枚のパネル、計 113 枚の板から構成され、全長は 157.72 メートルに及びます。この壁画は、慈恩殿の壁面全体を覆っています。元総理大臣の細川護熙氏（1938 年生まれ）が 6 年をかけて描き、2019 年に完成させました。この作品は、翌年に完了した東塔の修復を祝うものでした。

細川氏は、聖なる經典を求めてインドへ旅した中国の僧侶、日本では玄奘三蔵として知られる玄奘（602-664）の旅路から着想を得ました。玄奘は、法相宗の教学に貢献するもとなった經典を中国へ持ち帰りました。壁画を制作するにあたり、細川氏の作品は大陸を横断する玄奘の過酷な旅路を記録しています。

壁画の中央には、菩提樹によって釈迦牟尼仏が表現されています。この木は、仏陀が瞑想し、悟りを開いた菩提樹であり、彼の悟りの象徴として描かれています。仏陀の左側には、贈り物を携えた人々が描かれ、その上にはリボンで結ばれた經典の巻物が、仏教の教えを象徴しています。仏陀の右側には、古代の楽器を奏でる様々な文化の動物や人々が描かれています。彼らの上には、オーストリアの作曲家ヨハン・ベルンハルト・シュタウト（1654-1712）が作曲したイエズス会演劇『ムリエール・フォルティス（強勇敢な婦人）』の楽譜が浮かんでいます。この楽譜は、キリスト教に改宗したために迫害され、最終的に自害を強いられた細川氏の先祖、細川ガラシャ（1563-1600）の生涯を描いたものです。

上部のパネルと天井の絵は、浄土（仏教の樂園）を表しており、そこには、天女や、人間の頭、鳥の胴体、優雅な尾を持ち、美しい声を持つサンスクリット語で迦陵頻伽として知られる伝説の生き物が飛び交っています。正面の壁の両側には、それぞれ風神と雷神が描かれています。外回廊の右壁には、死後の魂を裁く十大明王が立っています。

左奥の壁には、この建物の名の由来となった法相宗の創始者の一人、慈恩大師（中国名：Kuiji; 632-682）の絵が描かれています。彼は、慈恩殿の背後にある塔に立つ師である玄奘の像の方向を向くような姿で描かれています。

壁画では、季節の移り変わりも描かれており、夏から冬へと徐々に変化します。正面には春の舞い散

る桜が描かれ、中央には夏の蓮の花が、奥の壁には左右に紅葉するカエデが秋を、そして一番奥の壁には冬の闇と寒さが描かれています。

細川氏は、ヨーロッパのキリスト教会でフレスコ画に使われる技法に似た描画法を採用しました。白い粘土を紙に塗り、イタリア産の顔料で描いたものです。近くで見ると、下書きのラフスケッチの輪郭が見て取れます。

この壁画は、4 月下旬から 5 月上旬、そして 10 月下旬から 11 月上旬にかけて一般公開されています。

【タイトル】 薬師寺/慈恩殿

【想定媒体】 看板/Web

<簡体字>**慈恩殿**

据推测，慈恩殿建于 17 世纪早期。其名源于中国僧人窥基（632-682），他与师父玄奘（602-664）共同创立了法相宗，在日本被称为慈恩大师。药师寺是当今日本法相宗的大本山。

2019 年，艺术家、前日本首相细川护熙（生于 1938 年）在慈恩殿中绘制了题为《东与西的融合》的壁画。该壁画由 66 个场景组成，环绕着宏伟的主殿。壁画的灵感源自丝绸之路以及玄奘为寻求佛经而前往印度的艰辛旅程。玄奘带回中国的佛经奠定了法相宗的基础，其弟子慈恩在此基础上进一步发展了法相宗。左后方的墙壁上画有慈恩像，画中的他回首望向安置在慈恩殿后佛塔中的师父玄奘之像。该佛塔内也供奉着玄奘的头骨碎片。

慈恩殿原是大阪长久寺的主殿。1962 年，因长久寺的大规模整顿，该建筑被迁至药师寺。1984 年，该建筑被再次迁移，成为药师寺新建的玄奘三藏院伽蓝的一部分。搬迁工程于 1988 年完工，建筑随之改名为“慈恩殿”。

根据其建筑风格和建造工法，专家认为慈恩殿最初建于 17 世纪初。覆盖铜板的歇山顶显示了建筑的显赫来历。根据长久寺的记录，这座建筑是由淀殿（1567-1615）资助建造，她是当时势力强大的武将丰臣秀吉（1537-1598）的侧室。据说，淀殿建此殿是为祈求其子丰臣秀赖（1593-1615）的武运昌隆建造过程中还使用了修筑大阪城所剩下的材料。虽然最初的大阪城已于 1615 年被毁，但其历史的残片至今仍留存在慈恩殿中。

慈恩殿在四月下旬至五月初、十月下旬至十一月初展出壁画《东与西的融合》时向公众开放。

<繁体字>**慈恩殿**

慈恩殿被認為建於西元 17 世紀初期。此建築以中國僧侶窺基（西元 632 年至 682 年）

命名，他在日本被尊稱為慈恩大師，並與其師父玄奘（西元 602 年至 664 年，日本稱玄奘三藏）共同創立了法相宗。現今，藥師寺為日本法相宗的總本山。

西元 2019 年，前首相細川護熙（西元 1938 年生）以藝術家的身分，在慈恩殿內完成了名為《東與西的融合》的壁畫。這件作品由 66 個面構成，環繞著寬敞的正殿。壁畫的靈感來自絲綢之路，以及玄奘三藏遠赴印度求取佛經的艱辛旅程。他帶回中國的佛經，奠定了法相宗的基礎，後由弟子慈恩大師加以弘揚。在左後方牆面上，繪有慈恩大師的畫像，畫中他回首望向師父玄奘的雕像；該雕像供奉於慈恩殿後方的寶塔之中，而寶塔內則安置著玄奘的頭骨碎片。

慈恩殿原為位於大阪的長久寺之本堂。西元 1962 年，因長久寺寺院規模大幅縮減，慈恩殿被遷移至藥師寺。其後於西元 1984 年再度遷移，成為藥師寺新建的玄奘三藏院伽藍的一部分。遷建工程於西元 1988 年完成，並重新命名為慈恩殿。

依據建築風格與工法，專家推斷慈恩殿最初建於西元十七世紀初期。慈恩殿傳統的入母屋造，中國稱為「歇山頂」，以銅板覆蓋的屋頂，顯示著這座建築的崇高地位。根據長久寺的紀錄，此殿為淀殿（西元 1567 年至 1615 年）所資助興建。淀殿是戰國名將豐臣秀吉（西元 1537 年至 1598 年）的側室，即妾侍。相傳，她委託建造此殿，是為了祈求其子豐臣秀賴（西元 1593 年至 1615 年）武運昌隆，建造時並使用了興建大阪城所剩餘的建材。雖然原大阪城已於西元 1615 年遭到毀壞，但其歷史片段至今仍保存在慈恩殿之中。

慈恩殿每年於 4 月下旬至 5 月上旬，以及 10 月下旬至 11 月上旬開放參觀，並展出壁畫《東與西的融合》。

<日本語仮訳>

慈恩殿

慈恩殿は、17 世紀初頭に建立されたと考えられています。この建物は、師である玄奘（602-664）、あるいは玄奘三藏とともに法相宗を創立した中国の僧侶、日本では慈恩大師として知られる窺基（632-682）にちなんで名付けられました。薬師寺は、現代における日本の法相宗の大本山です。

2019 年、芸術家で元総理大臣である細川護熙氏（1938 年生まれ）は、この慈恩殿に『東と西の融合』と題された壁画を制作しました。この作品は、66 枚のパネルからなり、広大な本堂を囲むように描かれています。壁画は、シルクロードと、仏教経典を求めてインドへ向かった玄奘三藏の過酷な旅

路から着想を得ています。玄奘が中国に持ち帰った経典は法相宗の礎となり、後に弟子の慈恩によって宗派が広められました。左奥の壁には、慈恩大師の絵が描かれており、彼は、慈恩殿の背後にある塔に安置された師、玄奘の像の方向を向いた姿で描かれています。この塔には、玄奘の頭蓋骨の破片が納められています。

慈恩殿は、もとは大阪にあった長久寺の本堂でした。1962 年の長久寺の大規模な区画整理に伴い、慈恩殿は薬師寺へ移築されました。さらに 1984 年には、薬師寺の境内から現在の場所に移され、新設された玄奘三蔵院伽藍の一部となりました。移築工事は 1988 年に完了し、建物は「慈恩殿」と改名されました。

その建築様式や工法から、専門家は慈恩殿が 17 世紀初頭に建立されたと推測しています。銅板で覆われた伝統的な入母屋造りの屋根は、この建物が格式高い起源を持つことを示唆する建築的特徴です。長久寺の記録によれば、この建物は、著名な武将豊臣秀吉（1537-1598）の側室である淀殿（1567-1615）の寄進によって建てられたとされています。淀殿は息子の豊臣秀頼（1593-1615）の武運を祈願するためにこれを建立させ、大阪城の建築で余った資材が使用されました。もとの大阪城は 1615 年に破壊されましたが、その歴史の一部は今日、この慈恩殿に現存しています。

慈恩殿は、壁画『東と西の融合』が展示される 4 月下旬から 5 月上旬と、10 月下旬から 11 月上旬に一般公開されています。

【タイトル】 薬師寺/祚蓮・行基像坐像

【想定媒体】 看板/Web

<簡体字>

祚蓮、行基像

在东院堂内的观世音菩萨像两侧，分别安置着两位高僧的雕像：右侧为祚莲（639 前后-710），左侧为行基（668-749）。

祚莲（像高 74.5 厘米，桧木制）

祚莲结跏趺坐，结禅定印。据古文献记载，他于 680 年受命创建药师寺，并为持统天皇（645-702）的康复祈祷。传说他在冥想时，看到了“龙宫”风格的寺院景象，“龙宫”是日本民间传说中龙王的海底宫殿。雕像内发现的一块木片上记载祚莲享年 71 岁，除此之外，人们对他的生平知之甚少。

行基（像高 78 厘米，桧木制）

行基是法相宗的僧侣，出生在大阪南部现在的堺市一带，据说有中国血统。当时大多数僧侣都只顾在寺院内闭关祈祷，行基却四处奔走传播佛法，投身于社会公益事业，救济苍生。他建立了慈惠院为贫穷者提供食物和住所，并帮助修建桥梁和道路。朝廷因惧怕他日益增长的影响力，下令禁止他传播佛法。

尽管如此，行基和其支持者并未停止活动，他推动开垦稻田等事业，并在畿内地区（奈良、大阪、兵库、京都、和歌山）建造了 40 多座寺院。百姓对行基十分尊敬，称他为行基菩萨。“菩萨”是对于已然开悟，却为助人开悟而推迟进入涅槃者的称号。朝廷最终也认可了行基的功绩，于 743 年委托他主持东大寺大佛的建造。行基于 749 年去世，大佛在他去世三年后建成。

相传，行基从师父处得到佛祖舍利，将其供奉于药师寺东塔之中。这座雕像是为了纪念他对药师寺和日本佛教的重大贡献而建。像中的行基右手持念珠，左手持如意。

北川运长

2010 年，人們在為了維修而拆解雕像時，在其內部發現了木片。據該木片記載，雕像是由北川運長（卒於 1755 年）於 1753 年制作。北川運長是京都的佛師，作品頗豐。在這兩座雕像中，北川使用了其擅長的寄木造技法。寄木造雕像不是由一整塊木头制作而成，而是分別制作出像的各个部分后，將其組合而成。

<繁體字>

祚蓮與行基坐像

東院堂主尊聖觀世音菩薩像的左右側，分別供奉著兩位德高望重的高僧雕像。右側為祚蓮（約西元 639 年至 710 年），左側為行基（西元 668 年至 749 年）。

祚蓮（74.5 公分、日本檜木）

祚蓮結跏趺坐，即盤腿坐，雙手結禪定印，為佛陀入於禪定時所結的手印。根據古代文獻記載，祚蓮曾為持統天皇（西元 645 年至 702 年）祈求康復，並於西元 680 年受命主持興建藥師寺。傳說他在靜坐冥想之際，曾目睹以「龍宮造」樣式建造的伽藍景象，令人聯想到日本民間傳說中龍王的海底龍宮。另於其坐像內部發現一塊木板，記載其享年 71 歲，除此之外，世間對於祚蓮的生平事蹟所知甚少。

行基（78 公分、日本檜木）

行基相傳具有中國血統，為法相宗僧侶，出生於大阪南部、現在的堺市一帶。在多數僧侶閉居寺院、潛心修行的時代，他卻選擇行腳四方，廣泛布教，並投身於社會救濟事業。行基創建救濟所，為貧困之人提供食宿，同時積極推動鋪橋造路等土木工程，實踐佛教關懷眾生的理想。然而，隨著其影響力日漸擴大，朝廷一度對其心生戒備，甚至下令禁止布教。

即便如此，行基與其追隨者仍未因此退卻。他一方面開墾稻田，一方面監督多項大型工程，在畿內地區（奈良、大阪、兵庫、京都與和歌山）興建了 40 多座寺院。民眾對他深懷敬仰，尊稱其為「行基菩薩」，此一稱號用以指稱已然證悟卻為了度化眾生而延後進入涅槃的菩薩。最終，朝廷亦肯定其功績，於西元 743 年委託他主持建造東大寺大佛，而行基於大佛完工前 3 年的西元 749 年圓寂。

相傳行基曾自其師父處獲得佛陀舍利子，並供奉於藥師寺東塔。此尊行基坐像，正是為紀念他對藥師寺及日本佛教所作出的重要貢獻而造。雕像中，行基右手持念珠，左手持著如意法器。

北川運長

在西元 2010 年の修復工程中，拆解這兩尊雕像時，於其內部發現一塊木牌。根據木牌上的記載，這些雕像由北川運長於西元 1753 年所雕刻。北川運長（卒於西元 1755 年）為一名京都出身、創作豐富的佛像雕刻師。北川擅長「寄木造」技法，這兩尊坐像亦採用了此一技術。寄木造的佛像並非由單一木材整體雕刻而成，而是先將像身的各個部位分別雕刻完成後，再加以組合而成。

<日本語仮訳>

祚蓮・行基像坐像

東院堂の聖観世音菩薩像の両脇には、二人の高僧、右に祚蓮（639 頃-710）、左に行基（668-749）の坐像が安置されています。

祚蓮（像高 74.5cm、ヒノキ）

祚蓮は、結跏趺坐し、禪定の象徴的な手印（ムドラ）を結んでいます。古文書によると、彼は持統天皇（645-702）の病氣平癒を祈願し、680 年に薬師寺の創建を託されたと記されています。伝説では、彼が瞑想中に、日本の民間伝承に登場する竜王の海中の宮殿を思わせる「竜宮造り」の伽藍のビジョンを見たと言われています。像の内部から発見された木片には、祚蓮が 71 歳で亡くなったと記されていますが、彼に関する詳しいことはほとんど分かっていません。

行基（像高 78cm、ヒノキ）

行基は、中国系であると伝えられる法相宗の僧です。彼は現在の堺市にあたる大阪の少し南で生まれました。ほとんどの僧侶が寺院にこもり、祈り以外で外に出ることが稀だった時代に、行基は広く布教活動を行い、社会事業に尽力しました。彼は貧しい人々に宿泊と食事を提供する慈恵院を建て、橋や道路の建設といった土木事業にも関わりました。朝廷は彼の増大する影響力を恐れ、布教活動を禁止しました。

しかし、行基と彼の支持者たちはひるむことなく活動を続けました。彼は、田畑の開墾などの大規模な事業を進めるとともに、畿内地方（奈良、大阪、兵庫、京都、和歌山部分にまたがる）に 40 以上の寺院を建立しました。一般の人々は彼を深く尊敬し、悟りを開いた後も他の人々が悟りを開くのを助けるために、涅槃に入ることをあえて遅らせた存在である菩薩（ぼさつ）に与えられる称号「行基菩薩」と呼びました。最終的に、朝廷も彼の功績を認め、743 年に東大寺の大仏造立を彼に託しました。彼は大仏が完成する 3 年前の 749 年に亡くなりました。

ある話によると、行基は師から仏舎利の一部を譲り受け、それを薬師寺の東塔に納めたとされています。この像は、薬師寺と日本仏教への彼の大きな貢献を記念するものです。ここで、行基は右手に数珠を、

左手には如意を持っています。

北川運長

2010 年の修理のために解体された際に、像内に木片が発見されました。その木片には、像が 1753 年に北川雲長（1755 年没）によって彫られたと記されていました。彼は京都を拠点に活躍した仏師でした。北川は、これら二体の像にも用いられている寄木造の技術に長けていました。寄木造の像は、一本の木材から彫り出すのではなく、像の各部分を別々に彫刻した後、それらを組み合わせて作られます。

【タイトル】 薬師寺/東塔：水煙相輪裝飾

【想定媒体】 看板/Web

<簡体字>**东塔：水烟相轮装饰**

东塔高 33.6 米，是 730 年在奈良重建的药师寺中唯一留存至今的建筑。佛塔象征着佛祖释迦牟尼之墓，传说东塔内安放着释迦牟尼的舍利。塔刹上装饰的相轮在 2020 年完工的大修中被更换成了复制品，复制品连原件的锈迹都进行了重现，十分逼真，原件则保存在寺内。

相轮顶部是称为“水烟”的装饰，由四片镂空铸金板构成，据说可以镇火消灾。人们相信“水烟”象征着充满音乐、鲜花和舞蹈的佛国净土。这四块铸板设计原型相同，但细节略有不同。每一面都描绘了三位飞天：一位吹奏横笛，一位手提似为花篮的器物，另一位手持莲蕾。飞天的衣裙与云雾交织，营造出飞翔的姿态。

历史上，熠熠生辉的鎏金相轮是佛教教义中心的标志。一般民众还不被允许进入寺院时，会面向佛塔，遥拜塔中的佛陀以示敬意。

<繁体字>**東塔：水煙相輪裝飾**

高 33.6 公尺的東塔，是藥師寺於西元 730 年在奈良重建時，唯一留存至今的原始建築。佛教寶塔象徵歷史上的佛陀——釋迦牟尼佛的陵墓，相傳東塔內供奉著釋迦牟尼佛的舍利子。寶塔最頂端的裝飾稱為「相輪」，於西元 2020 年完成的大規模修復工程中已被更換為複製品，原件則保存於寺院境內。新設置的相輪忠實重現原貌，甚至細緻呈現了原件的鏽蝕紋理。

相輪頂端的裝飾由四片鏤空的鑄金板塊構成，稱為「水煙」，被認為象徵防火。據說，水煙所描繪的是佛教中充滿音樂、鮮花與舞蹈的極樂世界。四片鑄造板的圖案主題相同，但細節略有差異。每一面皆描繪三位天人，一位吹奏笛子、一位手持被認為是花籃的器物，另一位則捧著蓮花花苞。牠們的長袍與縷縷雲霧交織纏繞，呈現出凌空飛翔的意象。

在歷史上，這件閃耀的鍍金銅裝飾，曾是佛學中心的知名地標。過去，當平民不得入寺時，他們便會面向佛塔，遙拜示禮。

＜日本語仮訳＞

東塔：水煙相輪裝飾

高さ 33.6 メートルの東塔は、薬師寺が 730 年に奈良で再建された時から唯一現存する建造物です。仏教の考えでは、仏塔は歴史上の仏陀である釈迦牟尼仏の墓を表しており、言い伝えによれば東塔には仏舎利が納められています。塔の頂部を飾る装飾である相輪は、2020 年に完了した大修理の際に新しいものに交換されましたが、元のは境内に保存されています。交換されたものは、鍍金の模様まで忠実に再現されたレプリカです。

相輪の最上部にある飾りは、透かし彫りの鍍金製で、四つの面からなる「水煙」と呼ばれるものです。これは（文字通りには「水の煙」を意味し）、火災からの象徴的なお守りとなっています。この水煙は、音楽、花、舞踏にあふれる仏教の楽園を表していると信じられています。四つの鑄造された板は、それぞれ同じモチーフですが、デザインは異なります。それぞれの面には三人の天人が描かれています。一人は横笛を吹き、一人は花かごとと思われるものを持ち、もう一人は蓮のつぼみを持っています。彼らの衣と雲は絡み合い、飛翔する様子が表現されています。

歴史的に、金銅製の輝く相輪は、仏教の教えの中心地を示す目印でした。当時は、一般の人は寺院の中に入ることを許されていなかったため、遠くから相輪に向かって手を合わせ、仏様に敬意を払っていました。

【タイトル】 薬師寺/東塔：相輪の基部

【想定媒体】 看板/Web

＜簡体字＞

东塔：相轮底座

天武天皇（卒于 686 年）于 680 年下令建造药师寺，以祈求患病的皇后鸕野赞良（645-703）康复。然而，在寺院选址尚未确定之际，天武天皇便已驾崩鸕野赞良在康复后继承了丈夫的天皇之位，成为持统天皇，并于 8 世纪初完成了药师寺的建造，完成了丈夫的遗愿。东塔是药师寺中唯一留存至今的 8 世纪建筑。

东塔塔刹的金属饰物——相轮，在 2020 年完工的大修中被更换为复制品，原有的相轮和底座被保存在寺内其他地方。光是相轮的底座就重达 150 多公斤。

底座上刻有持统天皇所撰写的铭文，用以颂扬天武天皇所立下的誓愿。铭文中以“铺金未遂，龙驾腾仙”一句，来提及天武天皇的驾崩，并写道，她已完成丈夫遗愿，为国家带来未来永劫的救度。随后，铭文转而向药师佛祈愿，大意是：“功德无量的药师如来，曾立誓广施慈悲与仁爱。我等祈求您的护佑。您的寺宇华美，教法得以奉行。宝刹高耸伫立，佛都安宁祥和。欢喜盈满人间，恩泽万世传颂。”

借此铭文，持统天皇将药师寺的意义，从为祈求自身康复，转变为祈愿万民幸福安康。

＜繁体字＞

東塔：相輪基座

天武天皇（卒於西元 686 年）於西元 680 年下令興建藥師寺，以祈求染病的皇后鸕野讚良（西元 645 年至 703 年）早日康復。然而，在寺院選址尚未確定之前，天皇便已駕崩。其後，鸕野讚良康復並繼承其位，成為持統天皇，於西元 8 世紀初完成藥師寺的建設。如今，東塔是藥師寺僅存的 8 世紀建築。

東塔最頂端的金屬裝飾，即相輪，在西元 2020 年完成的大規模修復工程中已更換為忠實重現的複製品，原本的相輪及其基座則保存於寺院境內其他場所。僅基座本身的重量便超過 150 公斤。

基座上刻有持統天皇の銘文，頌揚天武天皇所立下の誓願。文中以「鍍金未成，龍駕升天」一句，暗喻天武天皇的辭世，並述說持統天皇已完成其遺志，為國家帶來永世救贖。其後，銘文轉而向藥師如來祈願：「威嚴廣大的藥師如來，您誓願廣施慈悲與慈愛，我等懇求您的神聖庇佑。佛寺莊嚴，教義得以奉行；寺院巍然矗立，佛法之都安寧祥和。願喜悅充盈，您的恩澤世世代代讚頌。」

透過這篇銘文，持統天皇賦予了藥師寺新的意義，使其由原本為個人祈求康復的場所，轉變為祈願萬民幸福安康的信仰之地。

＜日本語仮訳＞

東塔：相輪の基部

天武天皇（686 年没）は、病に伏した皇后の鸕野讃良（645–703）の病氣平癒を祈願して、680 年に薬師寺の建立を発願しました。しかし、天皇は寺院の建立地がまだ議論されている最中に崩御されました。その後、病から回復した鸕野讃良は、夫の跡を継いで持統天皇となり、夫の遺志を継いで 8 世紀初頭に薬師寺を完成させました。今日、東塔は薬師寺で唯一現存する 8 世紀の建造物です。

東塔の頂部にあった相輪は、2020 年に完了した大規模な修理で、忠実に再現されたレプリカに置き換えられ、元の相輪と、その基部は現在、境内の別の場所に保存されています。基部だけでも 150 キログラム以上の重さがあります。

この基部には、持統天皇による、天武天皇が立てた誓いを称えるメッセージが記されています。銘文は「黄金の鍍金が未完成のまま、龍駕は天に昇った」という一文で夫の崩御に言及し、彼女が夫の願いを果たし、未来永劫にわたる国の救済をもたらしたと述べています。続いて、薬師如来への祈願が記されています。「広大な薬師如来よ、あなたは慈悲と慈愛を広めると誓われました。私たちはあなたの神聖な加護を求めます。あなたの寺は美しく飾られ、教えは守られています。寺は壮麗にそびえ立ち、仏法の都は穏やかです。喜びは溢れ、あなたの祝福は代々称えられるでしょう。」

この銘文を通じて、持統天皇は薬師寺の役割を、自身の病氣平癒を祈る場所から、すべての人々の幸福と健康を願う場所へと変えたのです。

地域番号	019	協議会名	古都奈良の文化財多言語解説整備推進協議会

解説文一覧

NO.	スポット名（タイトル）	中国語文字数	想定媒体
019-002	春日大社/古神宝太刀類（概説）	457	アプリ QRコード
019-003	春日大社/若宮御料古神宝類 毛抜形太刀	377	アプリ QRコード
019-004	春日大社/若宮御料古神宝類 銀鶴及磯形	344	アプリ QRコード
019-005	春日大社/古神宝銅鏡類（概説）	322	アプリ QRコード
019-006	春日大社/古神宝銅鏡類 牡丹唐草尾長鳥八稜鏡 藤花松喰鶴円鏡	353	アプリ QRコード
019-007	春日大社/本宮御料古神宝類 紫檀地螺鈿飾剣	281	アプリ QRコード
019-008	春日大社/八足案	395	アプリ QRコード
019-009	春日大社/本宮御料古神宝類 黒漆平文根古志形鏡台	275	アプリ QRコード
019-010	春日大社/鹿座仏舎利及び外容器	421	アプリ QRコード
019-011	春日大社/本宮御料古神宝類 黒漆平文唐櫛笥	291	アプリ QRコード
019-012	春日大社/若宮御料古神宝類 蒔絵弓（2張）	376	アプリ QRコード
019-013	春日大社/沃懸地獅子文毛抜形太刀	354	アプリ QRコード
019-014	春日大社/若宮御料古神宝類 銅造狛犬	275	アプリ QRコード
019-015	春日大社/若宮御料古神宝類 白磁獅子	334	アプリ QRコード

【タイトル】春日大社/古神宝太刀類（概説）

【想定媒体】アプリ QR コード

<簡体字>**12 世纪至 15 世纪的太刀**

太刀是日本刀的早期形态。在 9 世纪至 15 世纪期间，太刀既被用作战争中的武器，也是身份地位的象征。

太刀当初是为骑马作战时设计的，因此，佩戴方式与后来的日本刀有所不同。日本刀是刀刃朝上、插在腰带内，而太刀则是刀刃朝下，通过刀鞘金属配件上的挂钩挂在腰间。

最早的太刀刀鞘上，镶嵌着被称为“长金物”的长筒形配件。“长金物”上通常饰有镂空的雕刻或珍贵的宝石。这些华丽装饰后来逐渐被成对的细金属带所取代。13 世纪以后，又进一步演化为使用带有心形镂空图案，前端渐细的带状金属片来装饰太刀。

饰太刀（装饰用太刀）

在日本，是否有权佩刀取决于社会地位。太刀不仅是权威的象征，也是朝廷日常装束的一部分。朝廷官员佩戴的礼仪性饰太刀装饰华丽，刀鞘用紫檀木制作，并镶嵌螺钿、金银、加以雕刻和漆艺装饰。与日本的宫廷制度一样，饰太刀的造型与风格也深受中国文化的影响。

军用太刀

太刀原本是战场上的武器。这类军用太刀通常配以深色漆饰的刀鞘，与用于馈赠或出席正式场合用的饰太刀相比，装饰也较为简朴。春日大社国宝殿里就收藏有数把军用太刀。

<繁体字>**西元 12 世紀至 15 世紀的太刀**

太刀是日本武士刀的前身。自西元 9 世紀至 15 世紀，太刀不僅作為戰場上的武器，佩戴太刀更是種身分地位的象徵。

與刀刃朝上、插於腰帶之中的武士刀不同，太刀在佩戴時刀刃朝下，透過安裝於刀鞘上的金具懸掛於腰間。這是因為太刀最初是為了在騎馬時使用，所以形成這樣的設計。

早期的太刀刀鞘上，常鑲嵌細長的圓筒狀金具，稱為「長金物」，其表面多裝飾著鏤空雕刻或珍貴寶石。隨著時代演變，這些華麗的金具逐漸被成對的細金屬帶（足金物）取代；而自西元 13 世紀起，又進一步演化為帶有心形開口的錐形金屬帶（平地形）。

飾太刀

在日本，是否具備佩刀資格，取決於社會地位。太刀不僅是權威的象徵，也是朝廷日常服飾的一部分。所謂「飾太刀」，是朝廷官員佩戴的儀式用太刀，裝飾極為華麗，刀鞘多以紫檀木製成，表面裝飾著螺鈿、金銀鑲嵌，搭配精緻雕刻與漆藝工法。與朝廷制度相同，飾太刀的設計亦深受中國文化影響。

軍用太刀

太刀最初是為戰爭而誕生的武器。在春日大社國寶殿中，收藏了多把專為實戰而設計的太刀。這類太刀的刀鞘多為深色漆塗，和用於贈禮或正式場合佩戴的儀式用太刀相比，裝飾較為簡單樸實。

<日本語仮訳>

1100 年代から 1400 年代の太刀

太刀は刀の前身であり、9 世紀から 15 世紀にかけて、戦の武器や身分を示す象徴として広く用いられました。

刃を上にして帯に通して差す刀とは異なり、太刀は刃を下にして鞘の金具に取り付けられた掛金で腰から吊るして佩用されました。これは、太刀が馬上での使用を想定して設計されていたためです。

初期の鞘には長金物と呼ばれる細長い筒状の金具が象嵌されており、これらには透かし彫りや宝石が施されることが一般的でした。やがてこの装飾は細い足金物（はるびがた）で巻き留めるようになりました。

1200 年代以降は、ハート形の透かしを持つ、先細りの金属帯（へいじがた）が用いられるようになりました。

飾太刀（かざたち）

日本において、刀を帯びる権利は社会的地位と結びついていました。太刀は權威の象徴であり、宮廷に

仕える人々の日常的な装束の一部でもありました。宮廷官人が佩用した儀礼用の太刀は、精緻な装飾が施され、鞘は紫檀で作られ、螺鈿や金銀の象嵌、彫刻、精巧な漆工によって飾られていました。宮廷制度そのものと同様に、飾太刀の意匠もまた、中国文化から大きな影響を受けていました。

軍用太刀

太刀はもともと戦の武器として生まれ、春日大社宝物館にはいくつかの軍用太刀が所蔵されています。軍用太刀は、濃い漆で塗られた鞘を備えることが多く、儀礼や贈答用の装飾太刀に比べると装飾は控えめでした。

019-003

古都奈良の文化財多言語解説整備推進協議会

【タイトル】春日大社/若宮御料古神宝類 毛拔形太刀

【想定媒体】アプリ QR コード

<簡体字>

国宝

若宮神社御用古神宝

毛拔形太刀

据传，这把华丽的太刀曾为藤原赖长（1120—1156）所有。藤原一族是当时把持朝廷中枢的重臣，藤原赖长则是摄政藤原忠实（1078—1162）之子。目前，无法确切知道这把太刀何时为赖长所有，但据史料记载，他在 1131 年护送天皇出行时曾佩戴此刀。

这把太刀的一大特征是紫檀木刀鞘上的金银镶嵌装饰带。银饰带上刻有千鸟和笹竹纹样，并以黑漆着色，以突显其精湛的雕工。若宮神社的另一件神宝“**镀银紫檀木扁箭筒**”也采用了相同的纹样和装饰技法。由这些相似之处可以推测，此处展示的太刀和箭筒与**饰有千鸟、仙鹤和松枝纹样的弓**原本可能是一套武器装备。

宫中护卫的装束通常包括太刀、弓和箭袋。藤原赖长曾担任宫中护卫的要职，因此，他拥有这样一套武具也与其身份相符。宫中护卫所佩戴的太刀，刀柄上通常有一道纵向的槽口，因形似镊子（毛拔），故称为“毛拔形太刀”。

<繁体字>

國寶

若宮御料古神寶類

銀鑲嵌毛拔形太刀

相傳這把裝飾精美的太刀為藤原賴長（西元 1120—1156）所有。藤原一族深受朝廷重用，而藤原賴長則是攝政藤原忠實（西元 1078—1162）之子。關於此刀何時歸為藤原賴長所有，確切年代已不可考；但根據記載，他曾於西元 1131 年護衛天皇出巡視察時佩戴此刀。

此刀最為獨特的特徵，在於其紫檀木刀鞘上裝飾的金銀鑲嵌帶。銀色裝飾上刻有千鳥與

竹葉紋様，並施以黑漆加以襯托，使細膩的雕工更為突出。相同的紋樣與裝飾技法，亦可見於若宮神社所藏的另一件神寶「銀板紫檀平胡籙」。胡籙即箭筒。這些相似之處顯示，太刀、箭筒，以及飾有千鳥、鶴與松枝紋樣的弓，原本應構成一整套配備。

宮中の近衛武士通常隨身佩戴太刀、弓與箭筒，作為標準裝備的一部分。藤原賴長曾任宮中護衛的高階職位，擁有如此完整的一套裝備，正符合其身分。近衛所佩戴的太刀，刀柄上多設有一道細長開口，其外形近似鑷子。由於鑷子的日文為毛拔，因此此類太刀被稱為「毛拔形」。

<日本語仮訳>

国宝

若宮御料古神宝類 毛拔形太刀

この精巧に裝飾された太刀は、藤原賴長（1120-1156）の所持品であったと考えられています。藤原氏は朝廷の中樞を担う有力な一族で、賴長は摂政・藤原忠実（1078-1162）の子でした。この太刀がいつ賴長の手に入ったのかは正確には分かっていませんが、1131年の行幸を護衛した際、賴長がこれを佩用していたと伝えられています。

この太刀の最も特徴的な部分は、紫檀製の鞘に施されている、金で縁取られた銀象嵌裝飾です。銀の上には、チドリや笹といった景色が彫刻され、細やかな彫りの表現を際立たせるために黒漆が塗り込まれています。この文様や裝飾技法は、若宮神社のもう一つの神宝である銀鍍金紫檀製の平胡籙にも見られます。これらの類似性から、この平胡籙と太刀は、チドリや鶴に松枝文様の弓とともにセットで用いられた可能性が示唆されます。

宮中護衛は、装束の一部として太刀・弓・平胡籙を携行していました。賴長は近衛の中でも高位の地位にあったため、これらの品を所持していたことは妥当といえます。宮中護衛が佩用する太刀は、柄の部分に細長いスリットがあり、その拵の形が毛抜きに似ていたことから「毛拔形」と呼ばれていました。

019-004

古都奈良の文化財多言語解説整備推進協議会

【タイトル】春日大社/若宮御料古神宝類 銀鶴及磯形

【想定媒体】アプリ QR コード

<簡体字>

国宝

若宮神社御用古神宝

银鹤与海岸

这对仙鹤原本可能是筷架。据推测，当时的人们将两只仙鹤相对摆放，筷子横放在翅膀根部，仿佛一座小桥。然而，目前并无明确的文字记载可以确定这对仙鹤的用途。

平安时代（794—1185）的故事和日记中有类似装饰品的记载。根据这些史料推测，当时或许还有两只乌龟的摆件，与这对仙鹤成套相伴。鹤与龟是传统水墨画等日本艺术作品中常见的题材，象征着传说中的长生不老之岛——蓬莱山。相传，有仙鹤栖息于蓬莱山，而蓬莱山则坐落在古老的巨龟背上。由于鹤与龟都寓意长寿，这类装饰品很可能是用于宴会或其他纪念性场合。

这对仙鹤展现了精湛的金属加工技艺，尤其是颈部柔和流畅的曲线，以及再现羽毛和绒毛的细致刻工。当时的工匠只能在自然光或微弱的烛光下进行制作，完成这对仙鹤必然耗费了相当长的时间。

<繁体字>

國寶

若宮御料古神寶類

銀鶴及磯形

這對銀鶴被認為應是放置筷子的筷架。推測其使用方式為將兩隻鶴面對面擺放，並把筷子如橋一般橫放於翅膀的根部，宛如一座小橋。然而，關於其實際用途，並未留下明確的記載。

根據平安時代（西元 794—1185）描述類似裝飾品的故事和日記推斷，當時可能有一對

烏龜與這對銀鶴成套相伴。龜與鶴的組合，在日本藝術作品中例如傳統的水墨畫便是常出現的題材。這一意象源自一座與長生不老相關的神話仙島—蓬萊山。傳說中，仙鶴棲息於蓬萊山上，而蓬萊山本身則座落在一隻古老靈龜的背上。龜與鶴皆為長壽的象徵，因此這組裝飾非常適合用於祝賀的宴席或其他紀念性場合。

這對鶴展現了精湛的金工技藝，尤其可從其頸部優雅的曲線，以及羽毛與絨毛細膩入微的雕刻中清楚看出。若是在自然光或僅有微弱燭光的環境下進行製作，工匠完成這一對鶴，勢必耗費了極為漫長的時間。

＜日本語仮訳＞

国宝

若宮御料古神宝類

銀鶴及磯形

この一對の鶴は、箸を置くために作られた可能性が高いと考えられています。鶴を向かい合わせに配置し、翼の付け根の部分に、箸を橋のように渡して使われたと推測されています。ただし、実際の用途についての明確な記録は残っていません。

平安時代（794–1185）の王朝物語や貴族の日記には、同様の飾り物についての記述があり、鶴に合わせて亀の一對が添えられていた可能性も指摘されています。鶴と亀の文様は日本美術においてよく見られ、伝統的な墨絵などにも描かれます。これは、道教の伝説で不老不死の仙人が住むとされる蓬萊山に由来する寓意です。蓬萊山には鶴がとまり、その山自体は古い亀の背中の上にあるとされます。鶴と亀はともに長寿の象徴とされてきました。この飾り物は祝宴や記念行事にふさわしい装飾品であったと考えられます。

この鶴には金工の高度な技術が示されています。特に首のなだらかな曲線や、羽毛や綿毛の彫刻の精緻さにそれが見て取れます。自然光やわずかな蠟燭の明かりのもとで作業した場合、この一對の鶴を完成させるには、職人にとって非常に長い時間を要したと考えられます。

019-005

古都奈良の文化財多言語解説整備推進協議会

【タイトル】春日大社/古神宝銅鏡類（概説）

【想定媒体】アプリ QR コード

<簡体字>

重要文化财产

中国样式纹饰铜镜

1939 年，人们在春日大社宝物殿的天花板内发现了十五面铜镜。这些铜镜的样式起源于中国，日本在约两千年前开始制作。铜镜最初的用途已难以考证，但根据传统，铜镜在日本神道教里被视为神明寄宿的圣物。例如，一面被认为有太阳女神天照大神栖身的铜镜，就是日本皇室三大神器之一。

源于大陆的花鸟纹样铜镜

这些铜镜仿照来自中国大陆的铜镜样式制作。镜面经过打磨抛光，大多不加装饰。陈列时镜面朝下，以展示背面的装饰纹样。

部分铜镜背面带有八片花瓣状突起。数字“八”在东亚文化中具有特殊的意义。在日本神道信仰中，“八”代表着无限。有些铜镜饰以牡丹等吉祥花卉，并搭配精心设计的凤凰和错综复杂的漩涡纹样；有些铜镜则饰有口衔松枝的仙鹤，寓意长寿与和平。

<繁体字>

重要文化財產

中國風紋樣銅鏡

西元 1939 年，在春日大社寶庫的天花板夾層中，發現了 15 面銅鏡。這種風格的銅鏡源自中國，日本最早在兩千年前便已開始製作。關於銅鏡最初的用途，目前並無明確記錄；但是在傳統上，銅鏡向來被視為神聖之物，人們相信神道的神祇依附其中。例如，象徵太陽女神天照大神的銅鏡，就是日本皇室三神器之一。

源自亞洲大陸的花鳥紋銅鏡

這些銅鏡皆仿照亞洲大陸的風格鑄造而成。展示時鏡子以背面朝上，使鏡背的裝飾紋樣

得以清楚呈現；鏡子正面則多為素面，打磨平滑。

部分銅鏡的鏡背有 8 枚花瓣狀突起。數字「8」在東亞文化中具有特殊意義，在神道信仰裡，則帶有「無限」的含意。數面銅鏡上鑄有牡丹等吉祥花卉，搭配造形獨特的鳳凰以及層次繁複的螺旋紋樣。另外一些銅鏡則描繪了嘴銜松枝的鶴，象徵長壽與和平。

＜日本語仮訳＞

重要文化財

中国様式の文様を施した銅鏡

1939 年、春日大社宝庫の天井内部から十五面の銅鏡が発見されました。この様式の銅鏡は中国に起源を持ち、日本では 2000 年以上前から製作されていました。銅鏡が最初にどのように使用されたかについての記録は残っていませんが、伝統的に、神道の神々が宿と考えられる聖なる物としての意味を持ってきました。例えば、太陽神・天照大神を表す銅鏡は、日本の三種の神器の一つに数えられています。

大陸由来の花鳥文銅鏡

これらの銅鏡は、中国本土から伝わった作品を模して鑄造されたものです。ここでは装飾の意匠を見せるため、裏面を上にして展示されています。表面はほとんど装飾がなく、磨き上げられています。

一部の銅鏡には八枚の花びら状の突起があります。東アジア文化において「八」という数字は特別な意味を持ち、神道では無限の象徴としての意味合いがあります。鏡には、牡丹やその他の縁起の良い中国の花々、さらに意匠化された鳳凰や精巧な渦文が鑄込まれているものもあります。また、嘴に松の枝をくわえた鶴を描いたものもあり、長寿と平和の象徴とされています。

019-006

古都奈良の文化財多言語解説整備推進協議会

【タイトル】春日大社/古神宝銅鏡類 牡丹唐草尾長鳥八稜鏡

藤花松喰鶴円鏡

【想定媒体】アプリ QR コード

<簡体字>

重要文化财产

牡丹唐草尾长鸟八棱镜

这面铜镜是春日大社国宝殿内最精美的藏品之一。为展示背面的装饰纹样，陈列时特意将镜面朝下。镜面经过打磨抛光，没有装饰。使用时，可以用绳子穿过背面突起的镜纽，将铜镜悬挂起来。

镜背饰有长尾鸟和盛开的花卉。这类纹样称为“瑞花瑞鸟”，源自中国，象征着华贵与吉祥。

重要文化财产

藤花鹤衔松圆镜

这面铜镜是若宫神社的神宝之一，是在一个黑漆盒中被发现的。它有两个重要特征：一是镜面极为平坦的设计，二是制作年代能够精确判断，这在古代铜镜中极为少见。根据内缘的铭文记载，这面铜镜由附近兴福寺的僧人玄修于 1141 年供奉。

镜背面饰有紫藤花以及仙鹤衔松枝的“鹤衔松”纹样。“鹤衔松”纹样最早出现在*9 世纪，被认为是日本在中国唐代（618—907）金属器物上常见的“鸟衔花”纹样的基础上独自演绎而成的纹样。

<繁体字>

重要文化財產

牡丹唐草尾長鳥八稜鏡

這面銅鏡為春日大社國寶殿最精緻的館藏之一。展示時以鏡背朝上，呈現其背面的裝飾紋樣；鏡子的正面則沒有任何裝飾，經過打磨拋光便能反射，作為鏡面使用。使用時，會將

繩索穿過鏡背的鈕孔，把銅鏡懸掛起來。

鏡背上的鑄造紋樣受中國風格影響，用上長尾鳥與花卉紋樣，此類紋樣稱為「瑞花瑞鳥」，有富貴吉祥的意涵。

重要文化財產

藤花銜松鶴圓鏡

這面銅鏡是從一個黑漆盒中發現，原屬於若宮神社的神寶之中。此鏡的珍貴之處，不僅在於其異常扁平的設計，更在於它是少數能夠精確判定製作年代的銅鏡之一。鏡內記載有銘文，顯示這面銅鏡是在西元 1141 年由鄰近興福寺的僧侶玄修所奉納。

鏡子的背面除了紫藤花之外，還有嘴銜松枝的鶴（銜松鶴）裝飾點綴。此類圖案設計最早出現於西元 9 世紀，被認為是日本將中國唐朝（西元 618—907）金工中常見的「鳥銜花」紋樣加以詮釋，並在日本發展出來的在地表現。

<日本語仮訳>

重要文化財

牡丹唐草尾長鳥八稜鏡

この銅鏡は、春日大社宝物殿の収蔵品の中でも最上級の一つです。ここでは裏面を上にして展示されており、鏡の反対側は磨き上げられ鏡面として使用できるようになっていたと考えられます。使用時には、中央の突起部分に通した紐で吊るして用いられたと推測されます。

鏡の鑄造装飾は、中国に影響を受けた長尾鳥と花の文様です。この文様は「瑞花瑞鳥」と呼ばれ、壮麗さと吉兆を表しています。

重要文化財

藤花松喰鶴円鏡

こちらの銅鏡は、若宮神社の御神宝の一つとして、黒漆塗の箱の中から発見されました。極めて平らな形状という点と、正確に制作年代を特定できる数少ない銅鏡のひとつである点において重要です。内縁部には銘文が記されており、近隣の興福寺の僧・玄修によって、1141 年に奉納されたことが記されています。鏡の背面には、藤の花の他、松の小枝をくわえた鶴（松喰鶴）の姿があらわれています。この意匠は 9 世紀に初めて現れたもので、唐代中国（618～907）で盛んに制作された金工に見られる花喰鳥の文様を、日本独自に解釈・発展させたものと考えられています。

019-007

古都奈良の文化財多言語解説整備推進協議会

【タイトル】春日大社/本宮御料古神宝類 紫檀地螺鈿飾劍

【想定媒体】アプリ QR コード

<簡体字>

国宝

主神古神宝

紫檀地螺鈿饰太刀

这把太刀是目前已知唯一的、以紫檀木制作的平安时代（794—1185）饰太刀。

相传，这把太刀是摄政藤原忠实（1078—1162）赠予其子藤原忠通（1097—1164）之物。藤原一族与春日大社的创建有着深厚渊源，而刀上的华丽装饰体现了藤原一族的地位与权势。

刀鞘以紫檀木制成，装饰有精美的螺鈿漩涡纹样；金属配件上原本镶嵌有宝石，刀柄末端还镶嵌了一整块水晶。

在刀鞘两侧的金属配件之间，饰有螺鈿的鹦鹉纹样。鹦鹉并非日本本土鸟类，而是通过丝绸之路传入的工艺品装饰图案而为人所知。由于鹦鹉形象珍奇且富有异域风情，朝臣高官的佩刀上常用其纹样做装饰。

<繁体字>

國寶

本宮御料古神寶類

紫檀地螺鈿飾劍

相傳，這把太刀為攝政藤原忠實（西元 1078—1162）贈與其子藤原忠通（西元 1097—1164）的禮物。太刀的裝飾反映了藤原氏一族的地位與權勢，也反映出其對春日大社創建的重大貢獻。

紫檀木製的刀鞘上，飾有精緻的螺鈿螺旋紋樣，刀鞘上的金具曾經鑲嵌著寶石。刀柄末

端亦裝飾著一整塊水晶。

在刀鞘兩側金具之間，可見以螺鈿鑲嵌而成的鸚鵡圖案。鸚鵡並非日本原生物種，而是透過絲路傳入的工藝品裝飾紋樣而為人所知。由於鸚鵡很稀有且富有異國情調，因此成為達官顯要佩刀上深受喜愛的裝飾主題。

這把太刀是目前所知，唯一可追溯至平安時代（西元 794－1185）、以紫檀木製作的飾太刀。

<日本語仮訳>

国宝 本宮御料古神宝類 紫檀地螺鈿飾剣

この太刀は、藤原忠実（1078－1162）がその子・忠通（1097－1164）に贈ったものと伝えられています。精緻な装飾は、春日大社の創建に深くかかわった藤原氏一門の権勢と格式を示しています。鞘は紫檀製で、螺鈿による華麗な唐草文様が施されています。鞘に配された金具にはかつて宝石が嵌め込まれており、柄頭には大きな水晶が据えられています。

鞘の金具の間には、左右両面にオウムが螺鈿で象嵌されています。オウムは日本の在来種ではありませんが、シルクロードを経て渡来した工芸品の文様などを通じて知られていました。珍しく、また異国的な存在であったオウムは、高位の公家の太刀装飾として好まれたのです。

紫檀の装飾を施した平安時代（794－1185）の作例としては、本品が唯一のものとされています。

【タイトル】春日大社/八足案

【想定媒体】アプリ QRコード

<簡体字>**八脚供桌**

八脚供桌は神道教儀式“旬祭”中的主要器物，“旬祭”在春日大社已经持续举办 900 多年。供桌本身既不古老也不罕见，每 20 年会更换一次。然而，它象征着将春日大社与皇室紧密相连，以及世代传承的古老仪式。

旬祭于每个月 1 日、11 日和 21 日举行。清晨，神官们聚集在正殿外，向供奉于殿内的四位神明献上供品。祭祀时，会先铺上一块华丽的布帛，再将八脚供桌置于其上。随后，由一位神官献上时令水果、蔬菜、大米与清酒等供品。接着，由神社最高等级的神职人员“宫司”代表参拜者进行祈福，众人再齐声念诵净化身心的“祝词”。有时，还会由巫女在古琴、笛子和拍板的伴奏下表演神乐舞。旬祭于每月 21 日对公众开放，但如果想要参加，需要提前报名。

最初的旬祭于 1121 年由皇祀省的神官举行，当初使用的供桌很可能来自皇宫。旬祭旨在祈求皇室世代昌盛，国家安泰繁荣。这类仪式的举行，进一步巩固了春日大社、藤原一族与皇室之间的深厚联系。

<繁体字>**八足供桌**

這張八足供桌是春日大社舉行「旬祭」祭神儀式時的主要道具。這項儀式在春日大社已延續超過 900 年。就物品本身而言，這張供桌既非古物，也不屬稀有之作，每 20 年便會更換；但是，它代表著悠久的儀式傳承，象徵春日大社與皇室之間長久而緊密的連結。

「旬祭」於每月 1 日、11 日與 21 日舉行。清晨，神職人員齊聚本殿外，向殿內供奉的四位神祇敬獻祭品。首先，鋪上一塊華麗的飾布，將八足供桌置於其上。接著，神職人員會準備當季蔬果，還有米、清酒等傳統祭品一同敬獻。由宮司代表參拜者獻上祈禱，之後眾人

再齊聲唱誦淨化祝詞。宮司是日本神社中最高等級的神職人員。部分場合中，巫女會在箏、笛與拍板的伴奏下，演出「神樂」舞蹈。「神樂」是日本神道祭祀儀式中，為了祈福及奉獻神明而表演的舞蹈。這項儀式在每月 21 日開放民眾觀禮，但如果想參加 1 月 21 日的場次，必須事先預約報名。

首次「旬祭」是在西元 1121 年，由神祇官的神職人員舉行，而最初用於祭祀的供桌，據說亦是自皇居移來。神祇官是日本律令制中負責朝廷祭祀的官署名稱。舉行「旬祭」的目的，在於祈願皇室長久昌盛，進而庇佑國泰民安。因此，像「旬祭」這樣的儀式，也進一步鞏固了春日大社、藤原氏一族與皇室之間的緊密連結。

<日本語仮訳>

八足案

この八脚の机は、春日大社で 900 年以上にわたり行われてきた神事旬祭の中心的な道具です。物としては古代のものでも珍しいものでもなく、20 年ごとに新調されます。それでも、この台は春日大社と皇室を結ぶ長い儀礼の系譜を象徴しています。

旬祭は毎月 1 日、11 日、21 日に行われます。午前中、神職たちは本殿の外に集まり、そこに祀られた四柱の神々に供物を捧げます。まず華やかな布を敷き、その上にこの八足案が置かれます。次に神職が季節の果物や野菜を用意し、米や酒といった伝統的な供物とともに捧げます。宮司が参拝者を代表して祈りを捧げ、その後、参列者全員で浄めの言葉を唱えます。巫女たちは琴・笛・拍子木の演奏とともに神楽舞を奉納することもあります。この儀式は毎月 21 日に一般参観が可能ですが、1 月 21 日に参加する場合には事前の申し込みが必要となります。

最初の旬祭は 1121 年に皇祀省の神職によって執り行われ、最初の供御台はおそらく皇居から運ばれたものと考えられています。旬祭は皇室の安寧と繁栄、ひいては国全体の安泰を祈るものとされてきました。このような儀礼は、春日大社と藤原氏、さらに皇権との結びつきをより一層強固にする役割も果たしてきました。

019-009

古都奈良の文化財多言語解説整備推進協議会

【タイトル】春日大社/本宮御料古神宝類 黒漆平文根古志形鏡台

【想定媒体】アプリ QR コード

<簡体字>

国宝

本宮御用古神宝

黒漆平文根古志形鏡台

铜镜在宫廷贵族的宅邸中十分常见。由于金属镜十分沉重，有的重量达 3 公斤，因此需要这种镜台来支撑。铜镜以绳索绕过中轴悬挂，下方放有软垫，以调节角度。

贵族宅邸中的被褥、矮桌、火盆等家具需要根据时段进行摆放或收纳，因此要尽可能轻便紧凑。该镜架也采用了折叠式结构，便于收纳。上下两部分可沿中轴自由移动，支臂和支腿也能向主体方向折叠。展开后，各部位用金属销钉固定。此类造型的镜台在日语中被称为“根古志形”，意为形似一棵被连根拔起的树木。

镜架原本涂有黑漆，并以银象嵌装饰鸟、蝶与云纹图案。但是，这些装饰在漫长的岁月中已经剥落。

<繁体字>

國寶

本宮御料古神寶類

黒漆平文根古志形鏡台

銅鏡在宮廷貴族的宅邸中相當常見，而此類鏡台正是用來支撐沉重的金屬鏡。有些銅鏡重量可達 3 公斤，需以繩索懸掛於鏡台中央的支柱上，並在下方放置軟墊，以調整鏡面的角度。

在貴族的宅邸中，會依一天中的時段將棉被、矮桌、火盆和其他家具取出或收起，因此貴族宅邸的家具通常必須輕便且小巧。這座鏡台亦考量到收納的便利性，被設計為可折疊的形式。鏡台中央支柱上的上下部分可自由移動，讓支臂與支腳能沿著鏡台主體折疊。當展開

脚部時，各個部位則以金屬製栓固定。此類鏡台因中央支柱「形狀像一棵被連根拔起的樹」，故被稱為「根古志形」。

此鏡台原本施以黑漆，並鑲嵌有鳥、蝴蝶與白雲等銀製紋樣。歷經數百年歲月洗禮，表面的裝飾多已剝落。

<日本語仮訳>

国宝 本宮御料古神宝類 黒漆平文根古志形鏡台

銅鏡は、貴族の邸宅で日常的に使用されていました。このような鏡台は、重い金属製の鏡（中には3キログラムにもなるもの）を支えるために必要でした。鏡は、真ん中の柱に紐を掛けて吊るし、その下に座布団などを置いて角度を調整しました。

貴族の邸宅では、布団や低机、火鉢などの調度品を時間帯に応じて出したり片付けたりしていたため、一般的に調度品は軽量でコンパクトである必要がありました。この鏡台も収納の便を考えて折り畳めるように設計されていました。中央の柱にある上下の部分は自由に動き、腕や脚を本体に沿って折りたたむことができます。脚部分を広げると、各部が金属製の栓で固定されます。この種類の鏡台は、中心の柱が幹のように太く引き抜かれた木のような形をしていることから根古志形（ねこじがた）と呼ばれています。

かつてこの鏡台は黒漆で覆われ、鳥蝶雲文が銀象嵌で装飾されていましたが、年月の経過とともに装飾は剥落しています。

【タイトル】春日大社/鹿座仏舍利及び外容器

【想定媒体】アプリ QR コード

<簡体字>**鹿座佛舍利和漆面匣子**

这座端坐云端的鹿形木雕，象征着日本历史上的神佛习合（指融合佛教与神道原生神明的信仰）。白鹿、鹿背上的鞍具，以及枝头悬挂神镜的榊树，都与春日大社的主神建御雷神密切相关。虽然雕像采用了神道的形象，其目的却明显带有佛教性质。

鹿背上镜子内部安置着被尊奉为释迦牟尼佛圣遗物的舍利。舍利匣盖饰以漆面，上面绘有各种佛教图案。匣底部环绕着不同花期的莲花，一侧绘有灵鹫山，相传释迦牟尼曾在此说法。另一侧则绘有御盖山，是位于春日大社东边的神山。

神道和佛教形象的融合

佛教于 6 世纪中叶，经中国和朝鲜半岛传入日本。当时，以本地神明为中心的祭祀传统在日本已延续了数百年，佛教则逐步融入原有的神道信仰体系之中。通过这一融合，神道的神和佛教的佛逐渐被视为同一神性的不同显现。例如，释迦牟尼和观音菩萨都被奉为建御雷神在佛教中的化身。

舍利匣原为附近的兴福寺的一位僧人所有，于 1652 年捐赠给若宫神社。僧人捐赠的行为本身也体现了神道与佛教紧密交融的历史关系。

<繁体字>**鹿座佛舍利及黑漆舍利匣**

這件木雕作品刻畫著一隻端坐於雲上的鹿，象徵歷史上神佛習合（將佛教與日本神社信仰折衷融合而成的信仰）。白鹿、鞍以及枝頭懸掛銅鏡的「榊」樹，皆與春日大社主祭神武甕槌命有著深厚的關聯。然而，儘管採用了這些神道意象，此件雕刻的用途卻明確屬於佛教。

銅鏡内供奉著舍利子，這些舍利子是被尊崇為釋迦牟尼佛的聖遺物。舍利匣の漆製外蓋上繪有許多佛教圖像，底部環繞著不同盛開階段的蓮花，其中一面繪有靈鷲山の圖案，據說釋迦牟尼曾在此山宣揚佛法。而背面則繪有御蓋山，為位於春日大社東邊的神聖山岳。

神道和佛教圖案設計的結合

西元 6 世紀中葉，佛教經由中國與朝鮮半島傳入日本。當時，以當地神祇為中心的祭祀儀式已經進行了數個世紀，佛教也逐漸融入了既有的神道信仰之中。透過這段融合過程，神道和佛教的神祇最終被視為同一神祇的不同化身。例如，歷史上的佛陀釋迦牟尼，以及大慈大悲的觀世音菩薩，都曾被尊奉為武甕槌命的佛教化身。

此舍利匣原為鄰近的興福寺一位僧侶所有，後於西元 1652 年捐贈予若宮神社。這樣的奉納行為，也反映了神道與佛教之間密不可分的關係。

<日本語仮訳>

鹿座仏舍利及び外容器

雲上に座る鹿を木彫したこの作品は、歴史的な神仏習合を象徴しています。白鹿、鞍、枝に鏡を据えた神聖な神の木は、春日大社の主祭神である武甕槌命と強く結びついています。しかし、この神道的な意匠にもかかわらず、彫刻の目的は明確に仏教的です。

鏡の内部の空間には、釈迦牟尼仏の聖遺物として崇敬される舍利が安置されています。舍利容器の漆塗りの覆いにも多くの仏教的モチーフが施されており、底部には異なる開花段階の蓮華が円状に描かれ、一方の面には釈迦が説法を行ったとされる靈鷲山の図が描かれています。反対の面には、春日大社の東に位置する神聖な山である御蓋山が描かれています。

神道と仏教意匠の結びつき

仏教は 6 世紀半ばまでに、中国や朝鮮半島を経由して日本に伝来しました。その頃には、すでに地域の神々を中心とする祭祀は何世紀にもわたって行われており、仏教は徐々に既存の神道の慣習に取り込まれていきました。この取り込みを通じて、神道の神と仏教の仏は、同じ神性の異なる姿として捉えられるようになったのです。たとえば、歴史上の仏である釈迦如来と、慈悲の菩薩である観音菩薩は、武甕槌命の仏教的な姿として崇拝されました。

この舍利容器は、近隣の興福寺の僧侶が所有していたもので、1652 年に若宮神社へ寄進されました。この寄進行為自体も、神道と仏教が密接に結びついていた関係を示す例となっています。

019-011

古都奈良の文化財多言語解説整備推進協議会

【タイトル】春日大社/本宮御料古神宝類 黒漆平文唐櫛笥

【想定媒体】アプリ QRコード

<簡体字>

国宝

本宮御用古神宝

黒漆梳妆盒

这种双层梳妆盒在平安时代（794—1185）常用于放置宫廷贵妇的发饰和各种化妆用品。较浅的上层隔间里原本可能放有一面小手镜。梳妆盒常作为年轻女子出嫁时的嫁妆，是开启新婚生活的必需品之一。

这件梳妆盒是供奉给比卖神的，比卖神是春日大社主神之一。据推测，盒子里面曾盛放化妆用品，例如染黑牙齿的铁粉，以及含有铅、汞成分、用于涂白面部的化妆粉。盒子外部原本饰有银饰，如今仅残留下些许痕迹。

类似的梳妆盒也出现在紫式部（978—1014）创作的日本文学名著《源氏物语》中。据书中描述，这种梳妆盒在当时已略显陈旧。双层梳妆盒后来被结构更简单、体积更小的单层梳妆盒所取代。

<繁体字>

國寶

本宮御料古神寶類

黒漆平文唐式梳妝盒

這件雙層梳妝盒，曾用來收納平安時代（西元 794—1185）宮廷女性日常所需的化妝用品，包括髮飾與各類配件。上層較淺的一格，推測被用於放置小型手鏡。梳妝盒通常作為年輕女子的嫁妝之一，是她們展開新家庭生活時不可或缺的器物。

其特別之處在於，此梳妝盒曾被敬獻予春日大社的比賣神。據推測，盒內曾裝過用於染黑牙齒的鐵粉，以及以鉛或水銀製成、用來塗白臉部的化妝粉。盒身外側原本以銀裝飾，至

今僅残留些微痕跡。

日本經典文學《源氏物語》作者紫式部（西元 978－1014），亦曾在作品中提及類似的梳妝盒。根據書中描寫，這類樣式在當時已被視為過時的設計。像這類體量較大的梳妝盒，之後逐漸被設計更加簡約的小型單層梳妝盒所取代。

<日本語仮訳>

本宮御料古神宝類 黒漆平文唐櫛笥

この二段式の化粧箱は、かつて平安時代（794－1185）の貴婦人に必要な髪飾りや各種化粧道具を収めるためのものでした。浅い上段には小さな手鏡が入っていたと考えられます。このような化粧箱は、若い女性の婚礼道具の一つとして、新しい家庭での生活を始める際に用意されることが多くありました。特に本品は春日大社の主祭神の一柱である比売神に捧げられたものです。その中には、歯を黒く染めるための鉄粉や、顔を白くする鉛や水銀を用いた化粧料がかつて入っていたと考えられます。外装はもともと銀で装飾されていましたが、現在はその痕跡がわずかに残るのみです。

このような化粧箱は、紫式部（978－1014）が著した日本文学の古典『源氏物語』にも記述されています。当時ですでに、この箱の形式はやや古風と見なされていたことがわかります。大きな二段式の化粧箱は、最終的により小型で簡素な一段式の化粧箱に置き換えられていきました。

019-012

古都奈良の文化財多言語解説整備推進協議会

【タイトル】春日大社/若宮御料古神宝類 蒔絵弓（2 張）

【想定媒体】アプリ QR コード

<簡体字>

国宝

若宮神社御用古神宝

蒔絵弓 松喰鶴千鳥紋

相传，这把礼弓为参与创建春日大社的藤原氏族的后裔——藤原赖长（1120—1156）之物。弓身以榉木制成，为防潮而涂有多层黑漆。弓身的一部分曾用绳索紧紧缠绕，以加固柔韧的弓木。

弓身饰有蒔絵千鳥和仙鶴銜松枝（松喰鶴）纹样。该纹饰制作时是先用漆描绘出鸟形的留白，再撒上金粉，然后刷掉多余的金粉，便显现出金色的图案轮廓。该装饰与“银镀金紫檀制平胡簾”（箭袋）和“银带毛拔形太刀”相同，可以推测它们原为一套。

国宝

若宮神社御用古神宝

蒔絵弓 牡丹紋

这种礼弓仿照宫中护卫所用之弓制作，仅作为祭祀的供奉品。弓身以榉木制成，为防潮而涂有多层黑漆。弓身的一部分曾用红绳紧紧缠绕。

弓身饰有精美的蒔絵牡丹纹样。该纹饰制作时是先在牡丹图案轮廓的留白处涂漆，再撒上金粉，然后刷去多余金粉。未涂漆处不会附着金粉，于是便显现出金色的牡丹纹样的轮廓。

<繁体字>

國寶

若宮御料古神寶類

蒔繪弓 銜松鶴千鳥紋

據傳，這把弓為藤原賴長（西元 1120—1156）所有。藤原一族曾經協助興建春日大社。弓身以櫟木製成，表面塗覆多層黑漆，以防受潮；弓身局部曾以繩索緊密纏繞，用以強化柔韌的木材。

弓身施以蒔繪裝飾，描繪千鳥與仙鶴的圖樣。其製作方式為在鳥形輪廓外的留白處上漆，並撒上金粉，之後刷去多餘的金粉，使鳥形輪廓於金色底面浮現。此一設計手法，與「銀板紫檀平胡籙（箭筒）」及「銀鑲嵌毛拔形太刀」一致，因此被認為原本為同一套器物。

國寶

若宮御料古神寶類

蒔繪弓 沃懸地牡丹紋

此類儀式用弓，仿照宮中護衛所佩戴之弓製作而成，是專為祭祀奉納而製作。弓身同樣以櫟木為材，外覆多層黑漆以防潮，並曾以紅繩緊密纏繞於弓身局部。

弓身以撒上金粉的漆塗技法（蒔繪），施以精緻的牡丹螺旋形紋。牡丹的繪製方式，是在繪師的線稿周圍留白處上漆，撒上金粉、刷除多餘金粉後，在未上漆、金粉未附著的區域，便自然顯現出牡丹的輪廓。

<日本語仮訳>

国宝

若宮御料古神宝類 蒔繪弓 松喰鶴千鳥文

この儀式用の弓は、春日大社を創建した藤原氏一族の藤原頼長（1120-1156）の所有物と考えられています。櫟の丸木弓で、湿潤な日本の気候から守るために何層もの黒漆が施されています。弓の一部はかつて堅く組巻が施され、しなやかな木を補強していました。

弓の表面には、鶴と千鳥の蒔絵が施されています。これは、鳥の姿を余白空間として漆で描き、その上から金粉を撒き、余分な粉を払うことで、金地に鳥のシルエットが浮かび上がるように表現したものです。この意匠は平胡籙および毛抜形太刀と一致しており、一揃いの品であったことを示しています。

国宝

若宮御料古神宝類 蒔繪弓 沃懸地牡丹文

このような儀式用の弓は、かつて宮中護衛武官の弓を模して作られましたが、あくまでも儀式的献上品とし

てのみ用いられていました。弓の本体は櫟材を芯とし、湿潤な日本の気候から守るために何層もの黒漆が施されています。弓の一部はかつて赤い紙巻が堅く施されていました。

弓には、金粉を撒いた漆（蒔絵）による牡丹の文様が精緻に施されています。牡丹の文様は、輪郭の余白部分に漆を塗り、その上から金粉を撒き余分な粉を払うことで、漆のない部分に粉が定着せず、牡丹の姿が浮かび上がるという技法で表されています。

019-013

古都奈良の文化財多言語解説整備推進協議会

【タイトル】春日大社/沃懸地獅子文毛抜形太刀

【想定媒体】アプリ QR コード

<簡体字>

国宝

沃懸地獅子紋毛抜形太刀

这把太刀是在 1939 年于春日大社宝库的天花板内发现的。刀身的制作时间可追溯至平安时代（794—1185），原本应配有一个形似镊子（毛抜）的镂空刀柄。现存的刀柄为后期更换的装饰性刀柄，虽然保留了镊子形状的设计，但没有镂空。这种风格盛行于镰仓时代

（1185—1333），比刀身的制作年代晚了数百年。由此可推测，这把太刀可能是一件传家之宝，在供奉给春日大社前重新进行了装配。

刀鞘上饰有六只中国狮子，均以日语中称为“描割”的蒔绘技法绘制而成。制作时，先将绘制在薄纸上的狮子图案转印到刀鞘表面，然后沿图案轮廓的留白处细致地涂漆，并均匀地撒上金粉。刷掉多余的金粉后，狮子的轮廓便显现出来。

在靠近刀柄位置，刀鞘的一侧绘有狮子的正面，另一侧则绘有狮子的背面。从狮子朝向也可以看出制作者对细节的考究。

<繁体字>

國寶

沃懸地獅紋毛抜形太刀

西元 1939 年，於春日大社寶物庫的天花板內發現了這把太刀。刀刃的製作年代可追溯至平安時代（西元 794—1185），最初應是搭配形似鑷子的鏤空刀柄（鑷子的日文為「毛抜」）。現今刀刃所裝配的，則為裝飾性的刀柄（目貫），在造形上保留鑷子的外觀特徵，但已不具開口。此類風格於鎌倉時代（西元 1185—1333）一度盛行，距離刀刃鑄造完成已有數百年之隔。這顯示此太刀原本可能作為傳家之寶，在敬獻予春日大社之前，曾更換過新的裝具。

刀鞘上飾有 6 隻中國的神獸「石獅」。每隻獅子皆以「描割」的蒔繪技法繪製。這是一種裝飾性漆塗藝術，先於漆面灑上金粉，再透過留白來描繪圖樣輪廓。首先，將獅子圖案繪於薄紙上，再轉印至刀鞘表面，接著小心翼翼地描繪輪廓線周圍的空白處上漆，並均勻撒上金粉；待刷去多餘金粉後，下方獅子的線條便清晰浮現。

尤其是在靠近刀柄的位置，獅子的朝向更能看出細膩的設計巧思。刀鞘一側描繪獅子的正面，另一側則描繪了獅子背面的姿態。

<日本語仮訳>

国宝

沃懸地獅子文毛抜形太刀

この太刀は、1939 年に春日大社の宝物庫の天井裏から発見されました。刀身は平安時代（794–1185）に遡り、もともとは毛抜のような形状をした透かし柄を備えていたと考えられます。現在は、毛抜形の意匠を残しつつも透かしのない装飾的な柄（目貫）を備えています。この様式は、刀身が作られた時代から数世紀後の鎌倉時代（1185～1333）に流行したものであることから、刀身は代々家伝の宝刀として受け継がれ、のちに新たに拵が施され、春日大社に奉納されたと考えられています。

鞘には、中国由来の霊獣である獅子（しし）が六頭あしらわれています。獅子は精神的な強さや指導力の象徴とされます。これらの獅子は描割と呼ばれる精緻な蒔絵技法で表現されています。この技法では、模様を余白部分を用いて表現します。まず薄紙に獅子の図柄を描き、それを鞘の表面に写します。その後、線画の余白部分に漆を丁寧に塗り、金粉を均等に蒔きます。余分な粉を払うと、漆のない部分が文様として残り、獅子の力強い輪郭が浮かび上がります。

特に、柄に最も近い位置の獅子の向きには細部への工夫が凝らされています。鞘の片面には正面を向く獅子、反対の面には背面の獅子が描かれています。

【タイトル】春日大社/若宮御料古神宝類 銅造狛犬

【想定媒体】アプリ QR コード

<簡体字>**国宝****若宮神社御用古神宝****銅造狛犬（日本石獅）**

这座小型青铜像是日本现存最早的狛犬（日本石狮）雕像之一。狛犬是神话中的神兽，通常与中国狮子成对出现，用来镇守神社和寺院入口，因此该像可能原本是一对雕像中的一座。相传，它曾为鸟羽上皇（1103-1156）所有，而鸟羽上皇也被认为是与若宫神社的创建密切相关的人物。

雕像的腿部和尾部分别单独铸造，并用金属销钉固定在身体上。前腿则通过另一组销钉固定于青铜底座上。其头顶的独角代表雄性，紧闭的嘴表示“吽”的发音。与其成对的狮子应为无角，张开的嘴表示“阿”的发音。这两个发音分别代表着开始与终结，象征着世间的万事万物。

<繁体字>**國寶****若宮御料古神寶類****銅製狛犬**

這尊小型銅像，是日本目前所知最古老的「狛犬」之一。此類神話生物的雕像，經常鎮守在神社和寺廟的入口。狛犬通常與中國石獅相對而立，因此這尊雕像，很可能原本即為成對配置中的一件。據說銅像曾經為鳥羽上皇（西元 1103-1156）所有，而鳥羽上皇也被認為是與若宮神社創建有深厚關聯的人物。

雕像的腿部與尾巴是分別鑄造後，以金屬鉚釘接合於主體之上，並以另一組鉚釘將前腳固定在底座上。雕像的獨角代表其為雄性，緊閉的嘴巴象徵發出「吽（un）」的音節。與之相對的另一尊獅像，理應無角且張口，象徵發出「阿（ah）」的音節。「吽」

和「阿」就像希臘字母的「α」（alpha）和「ω」（omega）一樣，代表開始與結束，共同象徵著森羅萬象。

<日本語仮訳>

国宝

若宮御料古神宝類 銅造狛犬

この小像は、日本に現存する狛犬の作例として最古級の一つです。狛犬は、神社や寺院の入口を護る霊獣としてよく見られる存在です。通常は獅子と対で置かれ、この像も一對のうちの一体であったと考えられます。伝承によると、それはかつて鳥羽上皇（1103–1156）の所有であったとされ、鳥羽上皇は若宮神社の創建に深く関わった人物であると伝えられています。

狛犬の脚部と尾は別に鑄造され、金属の鉾によって胴体に取り付けられています。さらに、前脚は鉾で台座に固定されています。額の一本角は雄性を表し、閉じた口は「ウン」の音を示しています。対となる獅子像は角を持たず、開いた口で「ア」の音を示したと考えられます。「ア」と「ウン」はギリシャ語のアルファとオメガのように始まりと終わりを表し、両者で森羅万象を象徴するものです。

019-015

古都奈良の文化財多言語解説整備推進協議会

【タイトル】春日大社/若宮御料古神宝類 白磁獅子

【想定媒体】アプリ QR コード

<簡体字>

国宝

若宮神社御用古神宝

白瓷狮像

这座纯白瓷像为中国神话中的狮子形象，脚边放着一只绣球。表面可见因长期积尘与香烟熏染而形成的痕迹据推测，狮像的底座原本用于覆盖香炉，香烟会沿着狮子身体内的通道升腾，最终从狮口飘散而出。

这座白瓷狮像为中国制品，制作年代可追溯至中国宋代（960—1279），甚至更早。在公元 1220 年前的若宮神社供品账簿中，有一件与之类似的瓷像记录。这表明，这座狮像可能是在 1135 年供奉给若宮神，并自此一直保存在神社内。宋代的瓷器在当时的日本备受珍视，这座狮像想必也是供奉者的心爱之物。

自 8 世纪起，中国狮子在日本被视为力量和勇气的象征。尽管许多狮像将狮子塑造成威严的守护者，而这座狮像却透出调皮的气质。狮子臀部圆润、双眼圆睁，胸前还佩戴着几串叮当作响的铃铛。

<繁体字>

國寶

若宮御料古神寶類

白瓷獅子

這尊純白瓷雕描繪了一頭中國神獸「石獅」，腳邊置有一顆繡球。其表面可見斑駁污漬，推測為長年累積的灰塵與煤煙所致。其底座的設計，可能原本用以覆蓋香爐，使薰香的煙霧沿著獅身內部的通道上升，並自獅口逸出。

此件作品源自中國，年代可追溯至宋朝（西元 960—1279），甚至可能更早。於西

元 1220 年前若宮神社の敬獻物品紀錄中，亦曾提及一件相似的作品。由此推測，這尊雕像可能自西元 1135 年敬獻給若宮神祇後，便一直保存於神社之中。宋朝瓷器在當時極為珍貴，因此這件進口瓷雕，很可能在敬獻給神社之前屬於捐獻者的個人珍藏。

在日本，至少從西元 8 世紀以來，中國石獅便被視為威武與勇猛的象征，因此通常獅子像都被刻劃成威猛的守護者，但是這件雕像卻顯得不同，帶有一絲俏皮感，有著圓潤的臀部、又大又圓的雙眼，還掛了一串鈴鐺在胸前。

<日本語仮訳>

国宝

若宮御料古神宝類 白磁獅子

純白の磁器で作られたこの置物は、蹴鞠に足をかけた唐獅子を表しています。表面は長年にわたる埃や煤によって黒ずんだと考えられます。台座の形状から、この置物は香炉の上に据えられ、香煙が獅子の体内を通して口から立ちのぼるように設計されたと考えられます。

本作は中国製で、遅くとも宋時代（960–1279）にさかのぼるとみられます。1220 年以前に若宮神に捧げられた若宮一社御遷宮記にも類似の品が記されており、この置物が 1135 年に若宮神に奉納されて以来、若宮神社に所蔵されてきた可能性を示しています。宋代の磁器は当時きわめて珍重され、この輸入品も奉納者にとって特別に大切な宝であったと考えられます。

唐獅子は、日本において少なくとも 8 世紀以来、勇猛と武勇の象徴とされてきました。威厳のある守護者として表されることの多い獅子像の中で、この置物はむしろ愛らしく、丸みを帯びた腰つき、大きな目、胸に斜めにかけてられた鈴飾りなどが特徴的です。

地域番号	020	協議会名	三朝町日本遺産活用推進協議会

解説文一覧

NO.	スポット名（タイトル）	中国語文字数	想定媒体
020-001	三徳山/三徳山の歴史と特徴	630	アプリ QR コード /Web
020-002	三徳山/三徳山の行者道（ぎょうじゃみち）	820	アプリ QR コード /Web
020-003	三徳山/役行者と修験	508	Web
020-004	三佛寺奥院（投入堂）/投入堂（不動堂、愛染堂）	745	アプリ QR コード /Web
020-005	三徳山の建物/三佛寺 本堂	649	アプリ QR コード /Web
020-006	三徳山の建物/文殊堂	411	アプリ QR コード /Web
020-007	三徳山の建物/地藏堂	344	アプリ QR コード /Web
020-008	三徳山の建物/鐘楼堂	228	アプリ QR コード /Web
020-009	三徳山の建物/三佛寺納経堂、観音堂（胎内くぐり）、元結掛堂	427	アプリ QR コード /Web
020-010	木造蔵王権現立像（奥之院安置）、木造蔵王権現立像/蔵王権現	700	アプリ QR コード /Web
020-011	三佛寺 宝物殿/宝物殿の展示物	1,017	アプリ QR コード /Web
020-012	三朝温泉/三朝温泉の歴史と特徴	819	アプリ QR コード /Web
020-013	三朝温泉/三朝温泉のラドン泉	703	アプリ QR コード /Web

【タイトル】 三徳山/三徳山の歴史と特徴

【想定媒体】 アプリ QR コード/Web

<簡体字>**三徳山——修行之山**

三徳山是一处拥有一千多年历史的修行圣地。自古传承下来的山岳信仰，经过数百年的演变，逐渐形成了以“净化六根”为目的的修验仪式，吸引着来自日本各地的朝圣者。三徳山与登山前用于洁净身体的三朝温泉一同，成为首批入选“日本遗产”的地点之一。

从敬畏到修行

在日本，自史前时代起，山岳便被视为神圣之地。作为一个多山的国家，人们长期依赖山岳获取食物、水源及其他资源。久而久之，群山被视为值得感恩与敬畏的神明化身。公元一千年的后半叶，隐修者与修验者开始入山，通过仪式汲取山岳所蕴含的灵气。这种自然崇拜与苦修的传统随时间推移相互融合，逐渐发展成区域性乃至全国性的信仰与实践网络。

三徳山正是该网络的核心之一，其信仰中心为三位神明：藏王权现、胜手权现与子守权现。所谓“权现”，被认为是佛或菩萨化身的神明。该网络不仅包括至今仍在使用的区域，例如通往投入堂的行者道，也涵盖了位于三徳山南侧的冠岩等其他地点。三朝温泉被发现后，修行者便在此进行沐浴净身，而后才进入位于上方山坡的灵域。如今，考古学家仍在三朝一带不断取得新发现，为解读三徳山乃至日本全国山岳信仰历史提供了新的线索。

当代的灵性体验

时至今日，三徳山依然是一处修行之地。行者道并非仅仅通往山顶的小径，而是对“六根清净”这一内在修行之路的具象化呈现。“六根”指的是“眼、耳、鼻、舌、身、意”。据说在三徳山的自然美景中净化感知，能带来觉悟、与佛及神明的合一，以及精神上的重生，历经此境的求道者将以全新的使命感回归日常生活。

<繁体字>**三徳山——修養身心的修行之山**

三徳山は一處擁有逾千年歷史的靈性修行聖地。自古流傳的山岳信仰，歷經數世紀的演變，逐漸發展出以淨化六根為核心的修驗儀式，至今仍吸引著日本各地的參拜者前來朝聖。連同作為朝聖者登山前淨身之所的三朝溫泉，三徳山也因此成為首批入選「日本遺産」的地點之一。

從崇敬之地到修行道場

在日本，山岳自史前時代起便被視為神聖之所。由於國土多山，人們長久仰賴山林所賜的食物、水源與各種資源，因而對山岳心存感激與敬畏，並將其視為神明寄宿的「神體」。到了西元第一個千年後期，神秘主義者與修驗者開始入峰修行，透過儀式追求靈力。自然崇拜與靈性修行的傳統，也在時間推移中逐漸融合，發展成連結地方、甚至遍及全日本的信仰與修行網絡。

三徳山正是此一網絡的核心，主要信奉三位神祇：藏王權現、勝手權現與子守權現（「權現」意指佛或菩薩化現為神明、在世間顯現的樣貌。）這個網絡不僅包含通往投入堂、至今仍被使用的行者道，也涵蓋三徳山南側的冠巖等多處靈場。自三朝溫泉被發現後，修行者多會先在此進行禊祓（沐浴淨身）之儀，再前往上方山坡的靈域。如今，考古學者仍在三朝一帶陸續有新的發現，為三徳山以及日本山岳信仰的歷史，提供更多新的線索與視角。

現代的靈性體驗

時至今日，三徳山依然是一處靈性修行之地。行者道不只是通往山頂的登山路徑，更像是一條具體實踐「六根清淨」的內在之道。所謂六根清淨，是指把「五感」連同「意識」一併淨化。相傳，在三徳山的自然之美中洗滌感知，能引領人走向覺悟，與神佛相契，獲得精神上的重生；而達到此境界的求道者，往往能帶著全新的領悟回歸日常生活。

<日本語仮訳>

精神修行の山、三徳山

三徳山は（英語で「三徳山」）、千年以上の歴史を持つ精神修行の聖地です。古代から伝わる山岳信仰は、認知の6つの根源を清めて修験の儀式へと数世紀をかけて発展し、日本中から巡礼者を惹きつけています。巡礼者が登山前に体を清める場所となっている三朝温泉とともに、三徳山は日本遺産に登録された最初の場所の一つとなりました。

崇敬の場から修行の場へ

日本において山は先史時代から神聖な場所と考えられていました。日本は山が多い国で、人々は常

に山に食料、水、その他資源を依存しています。やがて、山は感謝と崇敬の対象となる神体（神々）として見なされるようになりました。1 千年紀の後半に、神秘主義者や修験者が儀式を通じて靈力を得ようと入峰するようになりました。こうした自然崇拜と精神修行の伝統が時間の経過とともに融合し、地域的、そして全国的な信仰と実践のネットワークへと発展していきました。

三徳山はそうしたネットワークの中心地で、次の三神を崇拝の中心としています：蔵王権現、勝手権現、そして子守権現です。（権現は仏や菩薩の化身と信じられている神。）このネットワークには、現在も使われている投入堂へと続く行者道のような場所だけでなく、三徳山南側にある冠巖（英語で「冠の岩」）のようなその他の場所も含まれていました。三朝温泉が発見されると、修行者はそこで禊をしてから、その上の斜面にある靈場に入るようになりました。考古学者は現在も三朝で新たな発見をしており、三徳山と日本全国の山岳信仰の歴史に新たな光を当てています。

現代の靈的体験

現在も、三徳山は精神修行の場です。行者道はただ山頂への登山道ではなく、六根清浄、つまり「認知の 6 つの根源の浄化」への内なる道を物理的に表現しており、認知の 6 つの根源とは「五感」の器官に「意識」を加えたものです。三徳山の自然の美しさの中で知覚を浄化することは、悟り、仏や神との融合、精神的な再生をもたらし、そうした境地に達した求道者は新しい目的意識を持って生活に戻ると言われています。

【タイトル】 三徳山/三徳山の行者道（ぎょうじゃみち）

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web

<簡体字>

三徳山の行者道

行者道是三徳山上从三佛寺到投入堂の登山道。走完行者道并原路返回，即是一场完整的仪式，象征着进入灵域、与神佛合一、在精神上获得重生后回归尘世。

宿入桥、文殊堂、地藏堂

行者道起点位于三佛寺后方的参拜登山接待处。工作人员会确认所有登山者着装合规，且须至少两人一组（禁止单独登山）。随后，每人会获发一条白色带子（轮袈裟），象征修验者传统上所穿的白色装束。

离开接待处后，登山者将经过注连挂杉——一棵系有神圣注连绳的杉树，并通过朱红色的宿入桥。这两处都象征着灵界的入口。

行者道的前段有“葛坂（树根攀爬段）”与“锁坂（铁索攀爬段）”等体力考验。传统上，登山者会在此段路程中诵念咒语以专注心神：“忏悔、忏悔！六根清净！”

随后，登山者会经过供奉文殊菩萨与地藏菩萨的文殊堂与地藏堂。沿着各堂外廊顺时针绕行一周，可感悟文殊菩萨的智慧与地藏菩萨的慈悲。从此处可饱览周边景致，眺望远处位于西边的大山。

抵达投入堂

在钟楼堂敲响悬钟宣告抵达，并跨过两块形似马背与牛背的大型平坦岩石——“马之背”与“牛之背”后，登山者便进入了行者道的最后阶段。

经过昔日供奉经文的纳经堂，登山者需侧身挤过供奉观音菩萨的观音堂后方一条狭窄的通道。这一过程象征着灵性的重生。接着经过“元结挂堂”，这是一座小型祠堂，过去新人修行者在剃发后，会将束发的发髻留下，以再现历史上的佛陀出离尘世的场景。

至此，登山者已進入靈界，證明了自身的勇氣與力量，並獲得了文殊的智慧與地藏的慈悲。他們已向神域宣告抵達，捨棄舊有的自我，在精神上獲得新生。行者道的終點，投入堂隨之映入眼簾——這是一座供奉藏王權現的微小拜殿，建築嵌入高聳斷崖的裂隙之中。投入堂將人類的技藝與可望而不可即的自然之美融為一體，令人心生敬畏。登山者在下方參拜後，沿原路返回，帶著此行所獲的蛻變重回俗世之中。

登山須知

禁止單獨登山。禁止使用帶釘鞋具、登山杖等任何可能損傷山體的裝備。登山過程中不得進食，但可飲水。往返投入堂全程約需三小時。

〈繁體字〉

三德山的行者道

行者道是自三佛寺攀登三德山、前往「投入堂」拜殿的修行之路。行走這段路徑並返回，是在儀式上實踐踏入靈性領域、達到與神佛感應合一，並在最終帶著靈性的重生回到世俗世界。

宿入橋、文殊堂、地藏堂

行者道的起點位於三佛寺後方的「參拜登山受理處」。工作人員會在此確保所有登山者的裝備符合規定，且必須至少兩人結伴同行（嚴禁獨自登山）。隨後，每位登山者會領取一條名為「輪袈裟」的白色披帶，象徵著修行者傳統的白色裝束。

通過受理處後，登山者會經過繫有神聖注連繩的「注連掛杉」，並跨越鮮紅色的「宿入橋」，這兩者象徵著正式進入靈性世界。

行者道初期包含如「葛蔓坡」（抓著樹根攀爬的陡坡）與「鎖鏈坡」（攀附鎖鏈而上的岩壁）等體能考驗。登山者依照傳統會口中念誦咒語以集中意念：「懺悔、懺悔！六根清淨！」（字面意思為「悔過、悔過！淨化六種感知能力！」）。

隨後，路線會經過供奉文殊菩薩與地藏菩薩的文殊堂與地藏堂。參拜者會沿著堂外的迴廊順時針繞行一周，象徵領受文殊的智慧與地藏的慈悲。堂宇的迴廊亦提供了絕佳的景觀，可遠眺西方的鳥取大山。

抵達投入堂

在「鐘樓堂」鳴鐘以稟告到來，並走過形似馬背與牛背的巨大平坦岩石（馬之背、牛之背）後，登山者將進入行者道的最高路段。

通過曾奉納經文的「納經堂」後，登山者需擠過供奉觀音菩薩的「觀音堂」後方的狹窄通道，這象徵著靈性的再生。接著會經過「元結掛堂」，相傳昔日修行者會在此剃髮後奉納其髮髻，象徵效法歷史佛陀捨離塵世的決心。

至此，登山者已正式進入靈性世界，證明了自己的力量與勇氣，並領受了文殊的智慧與地藏的慈悲；也象徵踏入神域、捨去前世，迎來靈性的重生。當最終抵達行者道的終點，「投入堂」便會映入眼簾——一座供奉藏王權現的小拜殿，巧妙地建在高聳斷崖的岩縫之中。投入堂是人類工藝與自然美景的動人結合，卻始終遠不可及；在下方遙拜後，登山者便循原路返回凡塵俗世，內心已因這段體驗而深刻洗鍊。

登山規範

為了安全與環境維護，嚴禁單獨入山。此外，禁止攜帶釘鞋、登山杖或其他可能損傷山體的裝備。山區內禁止進食，但允許飲水。往返投入堂的參拜行程約需三小時。

<日本語仮訳>

三徳山の行者道

行者道（ぎょうじゃみち）は、三佛寺から投入堂まで三徳山を登るコースです。行者道を歩いて往復することで、儀式的に精神の領域に入り、神仏と一体となって、精神的に生まれ変わって世に戻ることができます。

宿入橋、文殊堂、地藏堂

行者道は、三佛寺の裏手にある参拝登山受付所から始まり、ここでは、スタッフが登山希望者に装備が適切であることと、2人以上のグループであること（単独での登山は許可されていません）を確認します。その後、登山者には白い帯（輪袈裟）が渡されます。これは、修験者が着用していた伝統的な白い装束を表しています。

受付所を過ぎると、注連掛杉という神聖な注連縄が巻かれた杉の木があり、登山者はそこを通り過ぎて鮮やかな朱色の宿入橋を渡ります。これらは共に、霊界への入り口を意味します。

行者道の始めには、カズラ坂（根登り）とクサリ坂（鎖登り）といった肉体的な試練の場があります。伝統的に、登山者は掛け念仏を唱えてこの区間に意識を集中させます：「懺悔、懺悔！ 六根清浄！」（文字通りの意味は、「悔い改め、悔い改め！ 認知の6つの根源の浄化！」）

登山者は次に、文殊堂と地藏堂という、文殊菩薩（マンジュシュリ）と地藏菩薩（クシティガルバ）を祀った2つの礼堂を通ります。登山者は、それぞれのお堂の廻り縁を時計回りに歩いて一周することで、文殊菩薩の知恵と地藏菩薩の慈悲を授かります。お堂からは周囲の景色を一望でき、はるか西には大山も見えます。

投入堂に到着

鐘楼堂という鐘を吊るす塔で鐘を鳴らして到着を知らせ、馬の背、牛の背という、それぞれ馬と牛の背中のような形をした2つの大きな平らな岩を渡ると、登山者は行者道の最上段に入ります。

かつて経文が奉納されていた納経堂を過ぎ、登山者は観音菩薩（アヴァローキテーシュヴァラ）を祀ったお堂である観音堂の後ろにある狭い通路をくぐり抜けます。これは霊的な生まれ変わりを象徴します。次に、登山者は元結掛堂という、新しい修行者がかつて頭髪を剃った際の鬘を納めた小さな祠を通過しますが、これは歴史上の仏陀が現世を捨てたことを再現するものです。

この時点で、登山者は霊界に入り、自身の強さと勇気を証明し、文殊の知恵と地藏の慈悲を授かっています。彼らは神の領域に到着したことを知らせ、前世を捨て、霊的に生まれ変わっています。行者道の最終盤に入ると、投入堂が見えてきます；それは、蔵王権現を祀る小さな拝殿で、断崖の高い場所にある割れ目に建てられています。投入堂には、人間の芸術性と永遠に手の届かない自然の美しさが相まった魅力があります；下から参拝した後、登山者は行者道を戻って、経験を通して変化した俗世に戻ります。

登山の要件

単独での登山は許可されていません。スパイク付きの靴、トレッキングポール、その他山を傷つける可能性のある装備も禁止されています。食べ物を山で摂取することはできませんが、飲料水は許可されています。投入堂までは往復で約3時間かかります。

【タイトル】 三徳山/役行者と修験

【想定媒体】 Web

<簡体字>**役行者与修验道**

传统上认为，三徳山の修行历史始于 706 年，与传奇修行者役行者的来访相关。相传，役行者向空中抛撒三片莲花花瓣，并立誓前往花瓣飘落之地。一片花瓣落在爱媛县的石锤山，另一片落在奈良县的吉野山，第三片则落于三徳山。

历史上的役行者

役行者，是出生于 634 年的历史人物。本名为役小角，但其生平事迹多与传说交织，难以厘清。他似乎是曾居住在葛城山（今奈良县境内）的僧人，被认为拥有施展法术、驱使灵体之能。699 年，他因遭对手嫉妒与排挤，被流放至遥远的伊豆大岛，其后的命运则不得而知。

在诸多成就之中，役行者尤以修验道开山鼻祖的身份最为人所知。修验道是一种融合自然崇拜、神道、密教等要素的“神佛习合”的传统。修行者将特定的岩石、乃至整座山视为崇拜对象，通过仪式与苦修锤炼精神，以求觉悟。

本地垂迹：同一真理的显现

修验道也吸收了“本地垂迹”的思想，视神与佛是同一根本真理的不同显现。相传役行者供奉于三徳山の三尊权现（化身）分别是：胜手权现（被视为文殊菩萨的化身，关联雨水与旱情）；子守权现（被视为地藏菩萨的化身，关联溪流与饮用水）；以及藏王权现——此威严勇猛的形象集历史上的释迦牟尼、观音菩萨及弥勒于一身，象征过去、现在与未来。

<繁体字>**役行者與修驗道**

三徳山修驗道的歷史始於西元 706 年——傳說中的神祕修行者「役行者」曾造訪此地。

相傳役行者將三片蓮花瓣投向天際，並立誓前往花瓣落下之處修行：一片落在愛媛的石鎚山，另一片落在奈良的吉野山，第三片則落在三德山。

歷史上的役行者

役行者（役之行者），是一位出生於西元 634 年的真實歷史人物。他的真實姓名為役小角，但其生平事蹟已難以從眾多傳奇故事中釐清。他似乎是一位居住在今日奈良縣葛城山的僧侶，被認為具備施展法術及驅使靈體服從其意志的能力。西元 699 年，他因遭到心懷嫉妒的競爭對手陷害而被流放至遙遠的伊豆大島，其後的命運則不詳。

役行者最著名的成就是作為「修驗道」的開山祖師。這是一種將自然崇拜與神道教、密教及其他元素相融合的習合傳統。修驗者將特定的岩石構造甚至整座山岳視為信仰對象，透過儀式與苦行來磨練心志並追求開悟。

本地垂跡：同一真理的不同顯現

修驗道亦採納了「本地垂跡」思想，將日本的神明與佛菩薩視為同一個本質真理的不同顯現。相傳役行者在三德山供奉了三尊化身（權現）分別為：勝手權現，被視為文殊菩薩的化身，與雨水、乾旱等自然現象相關；子守權現，被視為地藏菩薩的化身，與溪流及飲用水相關；以及藏王權現，這是一位威猛且強大的神祇，被視為歷史佛陀（釋迦如來）、觀音菩薩與彌勒相應的結合，分別象徵著過去、現在與未來。

<日本語仮訳>

役行者と修驗道

三德山の修驗道の歴史が始まったのは、706 年に伝説的な呪術者である役行者が訪れたときからだとされています。伝説によると、役行者は三つの蓮の花びらを空中に投げ、それが着地した場所に行くことを誓いました。一つの花びらははるか北の羽黒山に、もう一つの花びらは奈良の吉野山に、そして 3 つ目の花びらは三德山に着地しました。

役行者に関する史実

役行者（行者の役（えん））は、634 年に生まれた歴史上の人物です。本名は役小角といいますが、彼の人生に関する事実を伝説から解き明かすのは困難です。彼は現在の奈良県にある葛城山に住んでいた僧侶だったようで、魔術を使って霊を意のままに操る能力があったとされています。嫉妬したライバルたちによって 699 年に伊豆大島という遠く離れた島に追放されましたが、その後彼がどうなった

かについては明確ではありません。

他にも実績はありますが、役行者はとりわけ修験道の開祖として知られており、修験道とは、自然崇拜に神道や密教などの要素を組み合わせた神仏習合の伝統です。修験者は、特定の岩や山全体を信仰の対象として扱い、精神を研ぎ澄ませ、悟りを得るための儀式や修行を行います。

本地垂迹：同じ真理の顕現

修験道は、神と仏を同じ本質的な真実の異なる顕現と見なす本地垂迹の思想も取り入れています。役行者が三徳山にお祀りしたとされている3つの化身（権現）は、勝手権現（文殊菩薩（マンジュシュリ）と同一視され、雨と干ばつに関連付けられている）；子守権現（地藏菩薩（クシテイガルバ）と同一視され、水流と飲料水に関連付けられている）；蔵王権現（歴史上の仏陀、観音菩薩（アヴァローキテーシュヴァラ）、弥勒（マイトレーヤ）と同一視され、過去、現在、未来を象徴し、恐ろしく、力強い姿をしている）です。

【タイトル】 三佛寺奥院（投入堂）/投入堂（不動堂、愛染堂）

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web

<簡体字>

投入堂

投入堂是一座建于行者道终点、高耸山腹岩壁裂隙中的拜殿。这里供奉的是三德山修验道三尊神祇中最重要的藏王权现。该建筑建于 12 世纪，是现存最古老的日本神社建筑之一，被指定为日本国宝，其建筑之美与选址之妙，历来备受赞誉。

人工技艺与自然之美

在投入堂左侧，坐落着一座小型的爱染堂；而在远处右侧的另一面悬崖上，则建有不动堂。这两座堂宇分别供奉作为藏王权现胁侍的爱染明王与不动明王。三座建筑相互呼应，构成了一幅独特的景观画面，人类的匠艺和巧思与周围粗犷而原始的自然之美融为一体。

在数百年前，投入堂内曾安放有七尊藏王权现的木质造像，以及两尊守护这里的狛犬。如今，出于安全考虑，这些文物被保存于三佛寺宝物殿。现存的藏王权现本尊像，部分仍保留着在漆层之上贴覆金箔的装饰，其体内曾发现一份文书，其年代可追溯至 1168 年左右，正值投入堂建造时期。

建筑奇迹

投入堂的建筑本身便是一项令无数参拜者与访客惊叹的工程奇迹。“投入堂”字面意为“被投掷而入的殿堂”，这源于一种传说——这样的建筑非人力所能完成，而是由役行者以超自然之力“投掷”至此。其正式名称为“奥之院”，意为三佛寺“最深处的殿堂”。

投入堂的建造记录虽已失传，但建造者显然兼顾了功能与美学。他们亦考虑到大多数人将从下方远处仰望，因此在设计时充分考虑了视觉效果。支撑殿堂的立柱在长度上经过巧妙排列，以营造空间纵深感，突出周围壮阔的自然景观。殿堂的屋檐向上翘起，且伸出长度超过同类建筑的常规做法，使其从下方也能清晰可见。同样地，爱染堂的位置稍向外突，以免被投入堂遮挡视线。

乍看之下，投入堂的选址似乎有悖常理，但实际上却暗藏巧思。岩壁的自然突出部分为建

筑遮挡了雨雪，下方的溪流则促进空气的流通，有效防止霉变与腐朽。这些环境条件共同助力投入堂自平安时代后期保存至今。

<繁体字>

投入堂

投入堂是一座建在高耸山腹岩缝中的拜殿，位于行者道的终点上方。这里供奉三德山修验道三神之中最重要的藏王权现。这座建筑的历史可追溯至 12 世纪，是日本现存最古老的神社建筑范例之一，已被指定为「国宝」，其建筑之美与惊人的选址皆令世人讚嘆。

人類工藝與自然之美

投入堂左側有較小的愛染堂，右側遠處的另一處崖壁上則有不動堂。這些堂宇分別供奉藏王權現的脇侍——愛染明王與不動明王。這三座建築共同構成了一幅場景，讓人類的工藝與創意與其險峻的自然環境完美交融。

在過去的數個世紀中，投入堂內曾安置了七尊藏王權現木造像以及兩尊狛犬（守護獅犬像）。為確保文物安全，這些珍貴遺產目前保存在三佛寺的寶物殿中。藏王權現的本尊像表面髹漆，至今仍保有部分金箔痕跡。佛像體內曾發現一份文書，其年代可追溯至 1168 年左右，約莫與投入堂落成的時期相同。

令人驚嘆的建築奇蹟

投入堂的建造是一項工程壯舉，數百年來令無數參拜者感到驚奇。「投入堂」字面上的意思即為「被投擲進去的殿堂」，這反映了人們認為此地過於險峻，非人力所能建成，因而傳說是由役行者以超自然力量將其投入岩縫的。（其正式名稱為「奧之院」，意為三佛寺最深處的堂宇）。

雖然投入堂的建造過程並無文獻記載留存，但建造者顯然同時兼顧了功能與美感。他們意識到多數人會從遙遠的山下仰望，並依此設計：支撐投入堂的支柱長短經過巧妙排列，用以營造出一種距離感，並襯托出周遭廣闊的自然環境。屋簷向上微翹且比標準結構更向外延伸，確保了從下方觀看時的能見度。同樣地，愛染堂的位置也稍微向前移動，以確保不會被投入堂遮擋。

投入堂的選址儘管看似不切實際，卻具備實質的效益。上方突出的岩石替堂宇遮擋雨雪，

下方的溪流帶動空氣流通，從而防止木材發霉與腐朽。正是這些特殊的環境條件，幫助投入堂得以自平安時代後期保存至今。

＜日本語仮訳＞

投入堂

投入堂は、行者道の終点の高い山腹の割れ目に建てられた拝殿です。三徳山に祀られた修験道三神の中で最も重要な蔵王権現を祀っています。12 世紀に建てられたこの建物は、現存する日本の神社建築のうち最も古いものの一つで、国宝に指定されており、その美しさと驚くべき立地が高く評価されています。

人間の芸術性と自然の美しさ

投入堂の左側には小さな愛染堂があり、はるか右側の別の崖には不動堂があります。これらのお堂には、蔵王権現の脇侍である愛染明王と不動明王が祀られています。これら 3 つの建造物が一体となって美観を作り出しており、人間の芸術性と独創性が周囲の荒々しい自然の美しさとシームレスに調和しています。

数世紀前、投入堂には 7 体の蔵王権現の木像と 2 匹の狛犬という守護獅子犬が安置されていました。これらは現在、安全のために三佛寺宝物殿に保管されています。蔵王権現の本尊は今も一部は漆の上に金箔が施されています。体内には、投入堂が建立された 1168 年頃の文書が発見されました。

驚異的な建造物

投入堂の建築は、何世紀にもわたって多くの参拝者を驚嘆させてきた工学的偉業です。「投入堂」は「投げ入れられたお堂」を意味し、役行者が人知を超えた方法で投げ入れたに違いないという考えを反映していますが、これは、人の手では建てられただろうとされたためです。（正式名称は奥の院で、三佛寺の「最も奥のお堂」を意味します。）

投入堂の建設に関する記録は残っていませんが、建築者は明らかに機能だけでなく美しさも重視していました。ほとんどの人がはるか下方から見ると意識した、工夫された設計になっています。お堂の支柱は、遠近感を演出するために巧みに長さが調整されており、広大な周囲の自然を強調しています。お堂の底は上向きにカーブしており、このような構造の一般的な庇よりも長く突き出ているため、下からもよく見えるようになっています。同様に、愛染堂は投入堂に遮られないように、少し前に出た位置に建てられています。

投入堂を建てるために選ばれた場所は実用性がないように見えますが、実用的な利点もあります。岩の張り出しがお堂を雨や雪から守り、下方の水流が空気を自由に循環させ、カビや腐食を防いでいま

す。こうした環境条件が、平安時代後期から現代まで、投入堂の保存を支えています。

【タイトル】 三徳山の建物/三佛寺 本堂

【想定媒体】 アプリ QR コード/Web

<簡体字>

三佛寺：本堂

三佛寺是三徳山上的天台宗佛寺，创建于 849 年。其本堂位于行者道的起点。该殿堂至少有三百年历史，其建筑形制与传统保留了三徳山修行史上典型的“神佛习合”特色。

兴盛的山岳寺院

三佛寺的开山祖师为僧人圆仁，他是天台密教发展史上的重要人物。自八世纪起，三徳山便是役行者追随者的修行之地，但最早在此建寺的正是圆仁。寺名“三佛寺”意为“三尊佛像之寺”，源于圆仁供奉于寺内的三尊圣像：阿弥陀如来、大日如来与释迦牟尼（历史上的佛陀）。

在随后的数百年间，三佛寺香火鼎盛。全盛之时，寺域面积约 8100 公顷，拥有 38 座堂宇与 3000 间僧房。寺院每年获得的俸米足以供养三千人，并拥有僧兵，曾与大山寺争夺领地。如今三佛寺的规模虽已大幅缩小，但本堂上方的广阔区域——包括行者道与投入堂——至今仍被视为寺院的一部分。

神佛习合与分离

修验道等山岳修行形式始终影响着三佛寺的历史。“御幸行列”仪式就是其中一个典型例子：人们将山岳神灵——藏王权现、胜手权现与子守权现——请入称为“神舆”的移动神龛，从三徳山抬下至三朝町内巡行。此类巡行通常属神道仪式，但在三佛寺，这些神舆却保存在本堂内，安放在祭坛两侧的专用隔间中。

19 世纪末，明治政府强制实行神佛分离政策，相比许多其他寺院，三佛寺得以保留更多“神佛习合”的传统，这是因为神佛两个领域之间早已存在一种隐性的区分：三佛寺的本堂，历来被视为上方山岳灵界与下方佛教寺院建筑群之间的界线。

准备踏上行者道的访客，建议在修行前后都进入本堂静思片刻，经历山间修行后，视角的转变或能带来新的启迪。

<繁体字>

三佛寺：本堂

三佛寺是一座位於三德山的天台宗寺院，創建於西元 849 年。其本堂坐落於行者道的山腳入口。這座建築擁有至少 300 年的歷史，其建築風格與傳統深刻保留了貫穿三德山歷史、以神佛習合為特徵的靈性修習特色。

曾經鼎盛的山岳寺院

三佛寺的開祖為圓仁和尚，他是發展天台宗密教的關鍵人物。雖然三德山自 8 世紀起就已是役行者追隨者的修行地，但圓仁才是首位在此建立寺院的人。「三佛寺」之名意為「三尊佛像之寺」，源於圓仁在寺中安置了三尊聖像：阿彌陀佛、大日如來與釋迦牟尼佛。

在接下來的幾個世紀裡，三佛寺曾一度極為繁榮。在全盛時期，寺院領地廣達約 8,100 公頃，擁有 38 座建築與 3,000 間僧房。寺院每年收到的米糧津貼足以供養 3,000 人。寺院曾維持著一支屬於自己的僧兵軍隊，曾為了領地主權與來自大山的僧兵發生武裝衝突。雖然現在規模已大為縮小，但自本堂上方包含行者道與投入堂在內的廣大山域，至今仍被視為寺院建築群的一部分。

神佛習合與分離

修驗道與其他形式的山岳修行在歷史上深深影響了三佛寺。其中最具代表性的例子是「御幸行列」巡遊：人們會將山神「藏王權現」、「勝手權現」與「子守權現」安置在「神輿」（移動式神龕）的轎子裡，抬下三德山並穿過三朝町。這類巡遊通常屬於神道教習俗，但在三佛寺，神輿卻被存放在本堂內部佛壇兩側的特別隔間中。

當明治政府在 19 世紀後期强行推動「神佛分離」政策時，三佛寺比許多其他寺院保留了更多神佛習合的遺產。這是因為兩個領域之間本就存在著一種隱然的區隔：傳統上，本堂被視為上方山域的靈性世界與下方佛教寺院建築群之間的分界線。

建議有意挑戰行者道的遊客，在修行前後都進入本堂靜思片刻。在經歷過山中的修行挑戰後，視角的轉變往往能帶給人深刻的體悟。

<日本語仮訳>

三佛寺：本堂

三佛寺は三徳山にある天台宗の寺院で、849年に創建されました。本堂は、行者道のふもとにあります。本堂築300年以上と推定されており、その建築と伝統は、三徳山の歴史を通じて修験道の特徴づけた神仏習合の信仰を色濃く残しています。

栄華を誇った山岳寺院

三佛寺の開祖は円仁という僧侶で、天台密教の発展に大きく貢献した重要人物です。三徳山は、8世紀から役行者の信奉者の修行の地となっていたましたが、寺を初めて建立したのは円仁でした。三佛寺という名前は「3体の仏像の寺」を意味し、円仁が寺に安置した3つの聖像に由来します；阿弥陀如来（アマタバ）、大日如来（ヴァイローチャナ）、釈迦如尼（歴史上の仏陀）です。

その後の数世紀にわたり、三佛寺は繁栄を極めました。最盛期には、寺域は約8,100ヘクタール20,000エーカーに広がり、38棟のお堂と3,000軒の僧房を有していました。寺には3,000人を養うのに十分な米が毎年納められ、大山寺と領地をめぐって争うための僧兵も擁していました。現在、三佛寺の規模は大幅に縮小されましたが、本堂より上のエリアの、行者道や投入堂を含む広域が今も境内の一部と見なされています。

神仏習合と分離

修験道をはじめとする山岳修行は、三佛寺の歴史に強い影響を与えてきました。この影響の一例が「御幸行列」です；これは、山の神々である蔵王権現、勝手権現、子安権現を、御輿と呼ばれる持ち運びできる神社に乗せて三徳山から三朝の町へと担ぎ下ろすものです。このような行列は通常は神道の行事ですが、三佛寺では、御輿は本堂内の祭壇の両側にある特別な区画に安置されています。

明治政府が19世紀後半に神道と仏教を強制的に分離した際、三佛寺は他の多くの寺院よりも多くの習合の伝統を守ることができました。これは、2つの領域の間にはすでに暗黙の分離が存在していたからです。三佛寺の本堂は伝統的に、上の山の霊的世界と下の仏教寺院の境内とを分ける境界線と見なされていました。

行者道を歩く参拝者は、道に入る前と後に本堂に入り、しばし瞑想にふけることが推奨されています。山での修行の前後で、物の見方が大きく変わるかもしれません。

【タイトル】 三徳山の建物/文殊堂

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web

<簡体字>

文殊堂

文殊堂是三徳山行者道上的第一处重要建筑，位于“锁坂（铁索攀爬段）”的尽头。堂内供奉着胜手权现，被视为象征智慧的文殊菩萨的化身。继续上山前，所有登山者需沿殿堂外廊顺时针绕行一周，寓意获得文殊菩萨的智慧——这并非仅是知识，而是明辨善恶并据此付诸行动的能力。

文殊堂建于 1580 年，是日本的重要文化财产。建筑呈简洁的长方形，约 4 米宽、6 米长，四面设有狭窄的外廊。其形制似乎刻意模仿了年代稍早的地藏堂，但二者基址迥异：地藏堂直接坐落于作为崇拜对象的巨岩之上，而文殊堂则建于从山腰延伸出的平台上，由高约 5.5 米、具有柔韧性的网格状支柱支撑。

在文殊堂的外廊可饱览周围乡野风光。北侧隔着三徳川相望的林区，曾是三徳山寺院建筑群中人口最为密集的区域之一，名为“千轩原”，意为“千栋房屋的平原”。极目西眺，越过起伏丘陵，还可望见船上山与被视为灵峰的大山。

文明登山须知

请脱鞋后再踏上外廊。请注意礼让，勿阻碍他人通行；外廊狭窄，无法两人并行。

<繁体字>

文殊堂

文殊堂是行者道上的第一座主要建築，位置緊鄰「鎖鏈坡」之後。堂內供奉著勝手權現，祂被視為象徵智慧的文殊菩薩之化身。在繼續向上攀登之前，所有登山者都會沿著堂外側迴廊順時針繞行一周，象徵性地領受文殊菩薩的智慧——這並非指單純的知識，而是指能明辨善惡並依此付諸行動的能力。

文殊堂建於 1580 年，被指定為日本「重要文化財」。這是一座簡潔的長方形殿堂，尺寸約為 4×6 公尺，四周設有狹窄迴廊。其建築樣式顯然是高度仿照年代稍早的地藏堂而成。然而，兩者的基礎構造截然不同：地藏堂直接坐落在作為信仰核心的巨大岩石上；而文殊堂則是坐落在由山腹向外伸出的平台上，並由一組約 5.5 公尺高、結構堅韌且具韌性的格柵支撐。

從文殊堂的迴廊望去，周圍群山的景色壯麗迷人。隔著三德川向北望去，那片茂密的森林地帶曾是三德山寺院中人口最稠密的區域，名為「千軒原」，意為「擁有千棟建築的平原」。向遠方西側眺望，越過起伏的山巒，還能清晰看見船上山以及神聖的靈峰大山。

登山禮儀

步入迴廊前請先脫鞋。由於迴廊非常狹窄，無法供兩人並肩交錯通行，請隨時留意其他登山者，切勿阻礙動線。

<日本語仮訳>

文殊堂

文殊堂は三徳山の行者道にある最初の主要建造物で、クサリ坂（鎖登り）の先にあります。勝手権現という、文殊菩薩（マンジュシュリ）の化身とされる知恵の菩薩が祀られています。引き続き山に登る前に、すべての登山者は、廻り縁を時計回りに歩いてお堂を一周し、文殊菩薩の知恵（単なる知識ではなく、善悪を区別し、それに従って行動する能力）を象徴的に授かります。

文殊堂は 1580 年に建てられた重要文化財です。シンプルな長方形のお堂で、広さは約 4×6 メートル、四方には狭い廻り縁があります。文殊堂より少し古い、地藏堂をよく模倣して建てられているようです。しかし、地藏堂が鎮座しているのが信仰を集めていた巨大な岩の上であるのに対し、文殊堂は山腹から突き出た台座の上に建てられ、高さ約 5.5 メートルの柔軟な格子状の支柱に支えられています。

文殊堂の廻り縁からは、山々に囲まれた絶景を眺めることができます。三徳川を挟んで北側の森林地帯には、かつては三徳山寺院群の中でも多くの人が住んでいました。その地域の名前は千軒原といい、「千軒の建物の平原」という意味です。はるか西には、起伏のある風景の向こうに、船上山と霊峰大山も見えます。

登山時のマナー

廻り縁に上がる前に靴を脱いでください。他の登山者に気を配り、歩行の流れを妨げないでください；廻り縁は 2 人がすれ違うには狭すぎます。

【タイトル】 三徳山の建物/地藏堂

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web

<簡体字>

地藏堂

地藏堂是行者道上的第二座主要建筑，位于文殊堂之后不远处。堂内供奉的是被视为地藏菩萨化身的子守权现。登山者绕地藏堂一周，可分沾地藏菩萨的慈悲。

与文殊堂相同，地藏堂宽约 4 米、长约 6 米，四周设有外廊。它同属日本重要文化财产，推测建于 16 世纪，与文殊堂年代相近。地藏堂直接建在一块巨大岩石之上，这块岩石很可能自古以来便是人们信仰的对象，绕行地藏堂外廊一周，即相当于环绕岩石一周，如同古代修验者们修行一般。

地藏堂的外廊可饱览周围乡野风光。北侧隔着三徳川相望的林区，曾是三徳山寺院建筑群中人口最为密集的区域之一，名为“千軒原”，意为“千栋房屋的平原”。极目西眺，越过起伏丘陵，还可望见船上山与被视为灵峰的大山。

文明登山须知

请脱鞋后再踏上外廊。请注意礼让，勿阻碍他人通行；外廊狭窄，无法两人并行。

<繁体字>

地藏堂

地藏堂是行者道上的第二座主要建築，位於文殊堂後方不遠處。堂內供奉著子守權現，祂被視為地藏菩薩化身。登山者透過繞行地藏堂一周的儀式，象徵性地領受地藏菩薩的慈悲。

與文殊堂相似，地藏堂的尺寸約為 4×6 公尺，四面皆設有狹窄的迴廊。地藏堂同樣被列為日本的「重要文化財」，推測建於 16 世紀，與文殊堂大約處於同一年代。不同於文殊堂的懸造支柱，地藏堂直接坐落在一塊巨大的岩石上，這塊岩石本身很可能曾是古代崇拜

的核心。因此，沿著迴廊繞行一圈，實質上等同於繞行岩石本身，這正與古代山岳修行者（修驗者）的傳統修行方式相呼應。

地藏堂迴廊提供了飽覽周圍鄉間絕景的絕佳視角。隔著三德川向北望去，那片茂密的森林地帶曾是三德山寺院群中人口稠密的繁榮區域，其地名「千軒原」，字面意思即為「擁有千棟建築的平原」。向遠方西側眺望，越過起伏的山巒景致，還能清晰看見船上山及神聖的靈峰大山。

登山禮儀

步入迴廊前請務必先脫鞋。由於迴廊非常狹窄，無法供兩人錯身而過，請隨時留意其他登山者，切勿阻礙動線。

<日本語仮訳>

地藏堂

地藏堂は行者道で 2 番目に大きな建物で、文殊堂を過ぎてすぐのところにあり、地藏菩薩（クシディガルバ同上です。）の化身と考えられている子守権現を祀っています。登山者は地藏堂を一周することで、地藏の慈悲を授かることができます。

文殊堂と同様に、地藏堂は約 4×6 メートルで、四方には廻り縁があります。重要文化財であり、16 世紀（おおそ文殊堂と同じ時代）に建てられたと考えられています。巨大な岩の上に直接鎮座しており、その岩が信仰を集めていた可能性が高いです；地藏堂の廻り縁を一周することは、古代の修験者が行ったように、岩自体を一周することになります。

地藏堂の廻り縁からは、山々に囲まれた絶景を眺めることができます。三德川を挟んで北側の森林地帯には、かつては三德山寺院群の中でも多くの人が住んでいました。その地域の名前は千軒原といい、「千軒の建物の平原」という意味です。はるか西には、起伏のある風景の向こうに、船上山と靈峰大山も見えます。

登山時のマナー

廻り縁に上がる前に靴を脱いでください。他の登山者に気を配り、歩行の流れを妨げないでください；廻り縁は 2 人がすれ違うには狭すぎます。

【タイトル】 三徳山の建物/鐘楼堂

【想定媒体】 アプリ QR コード/Web

<簡体字>**钟楼堂**

钟楼堂位于行者道，是一座安置着重达两吨的青铜钟的钟楼。所有登山者皆会鸣钟宣告抵达，方能继续前行至行者道的最高段——供奉藏王权现的投入堂。若过钟楼堂而不鸣钟，犹如入室不叩门。

最初的钟楼堂建于 12 世纪末，由镰仓幕府开创者源赖朝下令修建。现存铜钟铸造于 1691 年并悬挂于此。历史上，曾两次将重型青铜钟运上海拔近 500 米的山腰——这一史实表明此钟作为行者道重要一站的重要性。登山者静坐在横梁上，敲响钟声，聆听余韵渐消，正是安定心神、净化“六根”中听觉的修行。

<繁体字>**鐘樓堂（懸鐘塔）**

鐘樓堂是行者道上的一座建築，內部懸掛著一口重達 2 噸的青銅大鐘。所有登山者在繼續前往行者道最上段、供奉藏王權現的「投入堂」之前，都會敲響這口鐘以稟告自己已抵達。若不鳴鐘便直接通過鐘樓堂，就像進入別人家門卻沒有敲門一樣。

最初的鐘樓堂是於 12 世紀後半，奉鎌倉幕府創建者源賴朝之命興建。現存的梵鐘則是在 1691 年鑄造並安置於此。在三徳山の歴史中，如此沉重的青銅鐘曾兩度被運往海拔近 500 公尺高的山腰，這足以證明此鐘作為行者道中繼點的重要性。坐在橫木上敲響大鐘，並靜心聆聽餘音逐漸消散，是一個沉澱心靈並淨化「聽覺」（六根清淨之一）的絕佳機會。

<日本語仮訳>**鐘楼堂（鐘を吊るす塔）**

鐘楼堂は行者道の途中にある 2 トンもある青銅の鐘を収めている鐘楼です。すべての登山者はこの

鐘を鳴らして、蔵王権現が祀られている投入堂がある参道の最高地点に進む前に、到着したことを知らせます。鐘を鳴らさずに鐘楼堂を通過することは、ドアをノックせずに家に入るようなものです。

最初の鐘楼堂は、鎌倉幕府を開いた源頼朝の命により、12 世紀後半に建てられました。現在の鐘は 1691 年に鑄造され、設置されました。重い青銅の鐘が 500 メートル近くの山腹まで運ばれたことが、三徳山の歴史の中で一度だけでなく二度もあったという事実は、鐘が行者道の中継点としていかに重要であるかを示しています。横木に座って、鐘を突き、反響音が消えるのを聞くことで、心を静め、認知の 6 つの根源の一つである聴覚を浄化することができます。

【タイトル】 三徳山の建物/三佛寺納経堂、観音堂（胎内くぐり）、元結掛堂

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web

<簡体字>

納経堂、観音堂、元結掛堂

行者道の这一区段聚集着登山者抵达投入堂前的最后几座建筑。与建于开阔山腰的文殊堂、地藏堂不同，这些建筑隐于岩檐之下，形成被称为“磐座”的洞窟状空间。磐座是修验者冥想与举行仪式的重要场所，印证了今日行者道与三德山早期修行传统之间从未中断的联系。

納経堂是数世纪前朝圣者献纳佛经的场所。该建筑可追溯至 11 世纪末，约与投入堂同期，使其跻身于日本现存最古老的木结构神社建筑之列。经调查发现此处藏有来自全国各地的经卷，证明了三德山作为灵修圣地曾享誉四方。

観音堂建于 17 世纪初，供奉慈悲的观世音菩萨。登山者并非从堂前经过，而是绕至其后，侧身挤过殿堂与岩壁间的狭窄通道。此仪式称为“胎内潜行”，象征从山体本身获得精神上的重生。

元結掛堂字面意为“悬挂元结之堂”。元结是用来固定日本传统发髻（丁髷）的绳带。该小祠是新入寺的僧侣剃度后存放发髻之处。此建筑供奉释迦牟尼——他在出家时自剃须发，成为后世僧侣修行的典范。与观音堂相同，元结挂堂亦建于 17 世纪初。

<繁体字>

納経堂、観音堂與元結掛堂

這段行者道包含了抵達投入堂前的最後一組建築群。與建在開闊山腹上的文殊堂與地藏堂不同，這些建築坐落於形成洞窟狀空間（稱為「磐座」）的岩壁突出部下方。對山岳修行者而言，「磐座」作為冥想與舉行儀式的重要場所，見證了今日的行者道與三德山早期修行歲月之間不曾間斷的連結。

納經堂（即奉納經文之堂）是數世紀前的朝聖者存放佛經作為供品的地方。該建築可追溯至 11 世紀後半，與投入堂年代相近，使其成為日本現存最古老的木造神社建築範例之一。近代的調查發現了來自日本全國各地的經文，證明三德山作為靈性修行聖地的名聲廣為流傳。

觀音堂建於 17 世紀初，供奉象徵慈悲的觀音菩薩。登山者並不從堂前通過，而是繞到堂後，擠過建築與岩壁之間的狹窄通道。這被稱為「胎內潛越」（意指穿越身體），象徵著從大山母體本身獲得靈性的重生。

元結掛堂的字面意思為「懸掛元結之堂」。所謂「元結」，是過去多數男性用來固定傳統髮髻的細繩，而元結掛堂是一座小祠，供寺院的新入門修行者在剃髮後存放他們的髮髻。該建築供奉的是歷史上的佛陀——釋迦牟尼，祂在開悟後自行剃髮，成為後世僧侶的典範。與觀音堂同樣，此堂亦建於 17 世紀初。

<日本語仮訳>

納經堂、觀音堂、元結掛堂

行者道のこの部分には、登山者たちが投入堂に到達する前の最後の建物群があります。開けた山腹に建てられた文殊堂や地藏堂とは異なり、これらの建物は岩の張り出しの下にあり、磐座と呼ばれる洞窟のような空間を形成しています。この磐座は修験者が瞑想や儀式を行う場として重要であり、現在の行者道と三徳山における初期の修行との間に途切れることのないつながりがあることを物語っています。

納經堂（お経を納めるためのお堂）は、何世紀も前の巡礼者がお経を供物として納めた場所です。この建物は 11 世紀後半に建てられたもので、投入堂とほぼ同時期であり、日本で現存する木造の神社建築の最古の例の一つです。近代の調査では、全国から持ち込まれていたお経が見つかり、三徳山が精神修行の場として広く知られていたことを証明しています。

觀音堂は 17 世紀初頭に建てられ、慈悲の菩薩である觀音菩薩（アヴァローキテーシュヴァラ）を祀っています。登山者は觀音堂の前ではなく後ろを通り、お堂と岩壁の間の狭い通路をぐり抜けます。これは「体をぐる」という意味の胎内ぐりと呼ばれ、山そのものから靈的に生まれ変わることを象徴しています。

元結掛堂の文字通りの意味は「元結を吊るすお堂」です。元結とは、多くの男性がしていた伝統的な丁髷の髪型を固定するために使われる紐のことで、元結掛堂は寺院の新しい入門者が頭を剃った後に丁髷を残した小さな祠です。この建物は、悟りを開いた後に自らの頭髪を剃り、その後の僧侶の手

本となった釈迦牟尼（歴史上の仏陀）を祀っています。観音堂と同様に、17 世紀初頭に建てられました。

【タイトル】 木造蔵王権現立像（奥之院安置）、木造蔵王権現立像/蔵王権現

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web

<簡体字>

藏王权现

藏王权现是与胜手权现、子守权现并列的三德山主神之一。三佛寺宝物殿内供奉有七尊藏王权现木像，原安放于行者道尽头的投入堂。其中一尊至今仍为投入堂的主尊，七尊造像均被指定为日本重要文化财产，雕刻于 12 世纪末的平安时代末期。

正义之怒的化身

修验道秉承“本地垂迹”思想，将本土神祇视为来自大陆的佛或菩萨的化身（权现）。藏王权现被视为融合过去、现在、未来三世的三尊合体：即释迦牟尼、观世音菩萨，以及弥勒。

据传，藏王权现最初显现于修验道创始人役行者祈求救度众生之时。起初释迦牟尼、观音、弥勒三尊现于其前，但役行者认为其仪态过于温和仁慈。三尊隐去后，藏王权现赫然显现：其相貌威猛，怒目圆睁、獠牙外露、发丝倒竖。藏王权现造像常呈单臂高擎三股金刚杵（象征雷电），一足抬起作踢踏之势。据称，其忿怒所向，正是遮蔽“六根”的愚痴、妄念与怯懦。

藏王权现与投入堂

作为投入堂主尊的藏王权现像高 115 厘米，通体髹漆，局部仍残留金箔。与其余六尊一样，均以桧木雕成。其姿态极富动感且平衡得当：藏王权现昂然踏步向前，右足高抬，右手高举（原持金刚杵已佚），左手于腰间结剑印，象征无坚不摧的意志。20 世纪研究者于像内发现的文书证实此像造于 1168 年，属平安时代后期作品，并记载雕刻师为康庆——据信是著名佛师运庆之师。

投入堂内发现的其他六尊造像也被认为出自平安时代后期，使得这组七尊像成为现存最古老的藏王权现木雕像群。它们高度介于 84 至 140 厘米之间，姿态略有差异，部分造像头部后方有火焰形背光。

昔日，在投入堂內，這六尊佛像曾分為左右各三尊，侍立于金色的主尊兩側。對於歷經艱險攀登至此的修行者而言，這是一幅令人心生敬畏、震撼難忘的莊嚴景象。

<繁體字>

藏王權現

藏王權現與勝手權現、子守權現並列，是三德山所供奉的主要神祇。三佛寺寶物殿現安置了七尊木造藏王權現像，這些神像原本供奉於行者道終點的「投入堂」中。其中一尊仍作為投入堂的供奉本尊，這七尊神像皆雕刻於 12 世紀後半（平安時代末期），並被指定為日本的「重要文化財」。

正義之怒的化身

修驗道採納了「本地垂迹」的思想，將日本本土的神明視為來自大陸的佛菩薩之化身（權現）。藏王權現被視為與三位佛教人物相應，象徵著過去、現在與未來；即歷史上的佛陀——釋迦牟尼；在當今世間救苦救難的觀音菩薩；以及未來的佛——彌勒菩薩。

根據一項傳統說法，藏王權現最初是在修驗道開山祖師役行者為世人祈求救贖時，顯現於其面前。起初，釋迦牟尼、觀音與彌勒依次顯現，但役行者認為祂們的儀態過於慈祥溫和。隨後三佛隱去，取而代之的是藏王權現：一位雙眼圓睜、獠牙外露、怒髮衝冠的威猛形象。藏王權現的神像通常一手高舉著三叉金剛杵（象徵電光），另一隻腳則抬高，作勢踢向或踐踏腳底之物。據說，祂震怒的對象正是使「六根」蒙塵的無知、妄想與恐懼。

藏王權現與投入堂

作為投入堂本尊的藏王權現像高約 115 公分，表面髹漆且部分仍覆蓋著金箔。與其他六尊像相同，祂是由檜木雕刻而成。其姿態動感十足且極具平衡感：藏王權現大步向前、右腳高抬、右手高舉（原本持有的金剛杵已佚失），左手則置於腰際結「劍印」，象徵著不屈的意志。20 世紀的研究者在神像內發現了一份日期為 1168 年的文書，證明其雕刻於平安時代後期。文書亦指出作者為康慶，他被認為是著名雕刻大師運慶的老師。

投入堂發現的其他六尊神像同樣被認為出自平安時代後期，這使得整套七尊神像成為現存最古老的藏王權現木造像之一。神像的高度介於約 84~140 公分之間，姿勢略有不同，部分神像的頭部後方還帶有火焰狀的「光背」。

在投入堂内，這六尊像曾分成兩組、各三尊，排列在金色本尊的兩側，為任何辛勤攀登至此的人提供了一幅令人敬畏且肅然起敬的景象。

<日本語仮訳>

蔵王権現

蔵王権現は、勝手権現、子守権現と並ぶ三徳山の本尊です。三佛寺の宝物殿には 7 体の蔵王権現の木像が安置されており、これらはもともと、行者道の最後にある投入堂に安置されていました。1 体が投入堂の崇拜対象の像（本尊）として祀られ、7 体すべてが重要文化財であり、12 世紀後半の平安時代末期頃に彫られたものです。

正しい怒りの化身

修験道では、本地垂迹という思想を取り入れ、土着の神を大陸の仏や菩薩の化身（権現）として扱っています。蔵王権現は、過去、現在、未来を統合する次の三仏と同一視されています：釈迦牟尼（歴史上の仏陀）；観音（アヴァローキテーシュヴァラ、現世で苦しむ人々を助ける菩薩）；弥勒（マイトレーヤ、未来の仏陀）です。

ある伝承によると、蔵王権現が初めて修験道の開祖である役行者の前に現れたのは、彼が世界の救済を祈っていたときでした。最初は、釈迦牟尼、観音、弥勒が彼の前に現れましたが、役行者はこの三仏はあまりにも親切で穏やかな姿であると考えました。この三仏は姿を消し、蔵王権現に取って代わられました；燃えるような目、むき出しの歯、逆立てた髪の毛の恐ろしい姿です。蔵王権現像は、多くの場合、三叉の金剛杵（稲妻）を持った腕を振り上げ、片足を上げて足下の何かを蹴ったり踏みつけたりしています。その憤慨の対象は、認知の 6 つの根源を曇らせる無知、妄想、恐れであると言われています。

蔵王権現と投入堂

投入堂の崇拜対象の像（本尊）である蔵王権現像は高さ 115 cm で、漆塗りで一部はまだ金箔で覆われています。他の 6 体の像と同様に、檜を彫ったものです。そのポーズは非常にダイナミックでバランスがとれています：蔵王権現は大胆に前へ踏み出し、右足を上げ、右手を高く上げ（かつて手に持っていた金剛杵は失われています）、左手は腰の位置で不屈の意志を表す剣印を結んでいます。20 世紀の研究者によって発見された像内の文書は、この像が 1168 年に彫られたものであることを示しており、これは平安時代後期のものであることを意味します。また、その文書は、この像の作者を名高い仏師運慶の師と考えられている康慶としています。

投入堂で発見された他の 6 体の像も平安時代後期のものと考えられており、これら 7 体のすべてが、現存する蔵王権現の木像の中で最も古いものとなっています。高さは 84 センチから 140 センチで、少しずつ異なるポーズで立っています。頭の後ろに炎のような「光背」がある像もあります。

投入堂内で、かつてこれら 6 体の像は 3 体ずつ 2 組に分かれて金色の本尊の両側に並んでおり、お堂に上がった人にとっては、恐ろしく、畏敬の念を抱かせる光景を作り出していました。

【タイトル】 三佛寺 宝物殿/宝物殿の展示物

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web

<簡体字>

三佛寺宝物殿

三佛寺宝物殿陈列着寺内珍藏的佛像、工艺品及文献，涵盖佛教与神道物品。它位于通往寺院的主道旁，行者道入口下方。展品揭示了三德山的历史，也为理解数百年来绵延不绝的参拜者提供了新的视角。参观宝物殿的费用已包含于寺院门票内。

造像

馆藏核心是原供奉于投入堂的七尊藏王权现像。七尊造像均制作于平安时代后期（12 世纪末），是日本的重要文化财产。展览特别呈现了主尊内部结构的 X 光影像，以及在像内发现的文书。

同时展出的还有三尊原置于投入堂内的狛犬（日本石狮）。其中成对的两尊以榿木雕刻而成，推测制作于镰仓时代（1192—1333 年）；第三尊为单独造像，年代可追溯至平安时代后期。

其他造像还包括一尊等身大的十一面观音立像。该像同样出自平安时代后期，被列为日本重要文化财产，原为行者道终点附近观音堂的主尊。

馆内另藏有两尊身份未明的男女坐姿神像，以及分别制作于 1523 年与 1542 年的子守权现、胜手权现骑马木像。

文献与地图

宝物殿陈列多件重要文献，包括在藏王权现主尊体内发现文书的放大图像，以及来自纳经堂的佛经。原存放于投入堂的木制栋札（建筑铭牌）记载了 1376 年完成的修缮工程。这些史料因记载三德山曾以山峰为界分为“北座”与“南座”，具有重要历史价值。

展厅有一整面墙几乎被一幅手绘地图所覆盖，地图为复制品，描绘了行者道及其周边区域。地图本身并不古老，据说是依据更古老的文献绘制的，体现了前往投入堂修行这一传统的

历史传承。

青铜与木材

在古代日本，铜镜是政治与精神层面权力的象征。宝物殿中收藏有一面推测铸造于 10 世纪的中国铜镜。铜镜背面饰有唐代风格纹样：两只鹦鹉口衔花束环绕中央镜钮。铜镜正面刻有胎藏界曼荼罗局部，展现的是大日如来坐于莲座之上，周围环绕八尊佛与菩萨。菩萨的位置与标准曼荼罗略有不同：普贤菩萨的位置被调整，与文殊菩萨、大日如来共同构成“释迦三尊”——此处大日如来对应历史上的佛陀释迦牟尼。这体现了天台宗“圆密一致”思想，融合了《法华经》与密教的教义。

铜镜上的铭文记载，该镜于 997 年由“女弟子平山”捐赠。平山被认为曾是圆融天皇（在位 969—984 年）的妃嫔，后出家为尼。此件供品体现了三德山与日本皇室之间的密切联系。

宝物殿最独特的展品是一件“可触摸的国宝”——一段来自投入堂的木材。此木材原为支撑主殿底部的部分立柱，在 20 世纪为防止建筑倒塌而进行过局部更换。因此，参观三佛寺宝物殿的访客，得以亲手触摸这根曾支撑行者道终点投入堂近千年的木柱。

<繁体字>

三佛寺寶物殿

三佛寺寶物殿展出三佛寺相關的稀有佛像、工藝品與文書，內容涵蓋了佛教與神道的器物。寶物殿位於通往寺院主要參道的支路上，就在行者道入口的下方。這些展品揭示了名山的歷史，並為數世紀以來在朝拜的人們提供了新的信仰視角。寶物殿的入場費已包含在三佛寺的門票中。

神佛造像

館藏核心為原本安置於投入堂的七尊藏王權現木像。這七尊造像皆製作於平安時代後期（12 世紀末），且皆被指定為「重要文化財」。展覽亮點包括呈現本尊像內部構造的 X 光影像，以及在其像體內發現的歷史文書。

此外，館內亦展出原置於投入堂內的三尊狛犬（守護獅犬）像。其中兩尊為成對造像，以榿木雕成，推測製作於鎌倉時代（1192～1333 年）；第三尊則無成對配對，年代可追溯至平

安時代後期。

寶物殿的其他造像還包含一尊等身大的「十一面觀音」立像。這尊造像同樣可追溯至平安時代後期，並被指定為「重要文化財」，原本是行者道終點附近「觀音堂」的供奉本尊。

館內還收藏了兩尊身分不詳、坐姿的男女木造神像，以及分別製作於 1523 年與 1542 年的子守權現與勝手權現騎馬木雕。

文書與地圖

寶物殿展出多件重要文獻，包括在藏王權現本尊像內發現的文書放大圖像，以及來自納經堂的經卷。過去存放在投入堂內的木製「棟札」（建築修繕記錄牌）記載了 1376 年完工的修繕工程。這些棟札具備極高的歷史價值，因為它們記錄了三德山過去在山頂兩側曾分為「北座」、「南座」的史實。

館內的一面牆展示了行者道及其周邊地區手繪地圖的複製品。雖然地圖本身並非古物，但它被認為傳承了更古老文獻中的繪圖內容，呈現了通往投入堂靈性巡禮的歷史延續性。

青銅與木材

青銅鏡在古代日本象徵著政治與靈性的權力。寶物殿收藏了一面推測鑄於 10 世紀的中國製銅鏡。鏡背採用唐代風格設計，描繪了兩隻喙中銜著花綬的鸚鵡繞著中央鏡鈕旋飛。鏡面則刻有「胎藏界曼荼羅」的一部分，呈現大日如來被八尊佛與菩薩環繞在蓮瓣上的景象。

鏡內菩薩的配置與標準曼荼羅略有不同：普賢菩薩的位置經過移動，以便與文殊菩薩和大日如來共同構成「釋迦三尊」；在此大日如來與歷史上的佛陀——釋迦牟尼佛被視為一體。這反映了天台宗調和《法華經》與密教教義的「圓密一致」哲學思想。

鏡內的銘文記載，此鏡於 997 年由「女弟子平山」奉納。平山被認為在出家前曾是圓融天皇（在位期間：969～984 年）的妃子。這面銅鏡的奉納也顯示了三德山與朝廷之間曾經存在著密切的關聯。

寶物殿最獨特的展示品是一段被稱為「可觸摸的國寶」的投入堂木材。這段木構件原為支撐投入堂下方的支柱之一，在 20 世紀為防止建築倒塌而部分被替換下來。因此，來訪者有機會親手觸摸這根曾支撐投入堂屹立近千年的木柱。

<日本語仮訳>

三佛寺宝物殿

三佛寺宝物殿には、仏具と神具両方を含む、三佛寺の貴重な仏像、工芸品、文書が展示されています。宝物殿は三佛寺へのメインの参道から外れた、行者道への入り口の下にあります。この展示品は三徳山の歴史を明らかにし、何世紀にもわたって崇拝をしてきた人々に関する新たな観点を提示しています。宝物殿への入場料は、三佛寺の拝観料に含まれています。

像

所蔵品の中心は、投入堂にもともと保管されていた7体の蔵王権現像です。7体の像はすべて平安時代後期から12世紀末にかけてのもので、重要文化財です。展示は、本尊の内部構造を示すX線画像と、本尊の体内で発見された文書を特色としています。

また、もともとは投入堂内に設置されていた狛犬という守護獅子犬も3体展示されています。これらのうち対になっている2体はカヤ材から彫られており、おそらく鎌倉時代（1192～1333年）に作られたものです。3番目の像は対になっておらず、平安時代後期のものです。

宝物殿にある他の像には、等身大の十一面観音立像もあります。平安時代後期のもので、これも重要文化財に指定されており、もともとこの像は行者道の終点の近くにある観音堂の本尊でした。

宝物殿には、男女一体ずつの詳細不明な座位の神像と、それぞれ1523年と1542年に作られた馬に乗った子守権現と勝手権現の木像もあります。

文書と地図

宝物殿にはいくつかの重要な文書が展示されており、本尊の蔵王権現像の体内で発見された文書の拡大画像や、納経堂からのお経も含まれています。以前は投入堂内に保管されていた木製の札（棟札）には、1376年に完了した修理作業についての記述があります。これらは、三徳山がかつて山頂の両側に北と南の「座」―（北座と南座）―に分かれていたことについての情報を提供していることから、歴史的に興味深いものです。

壁の一面は、大部分が行者道とその周辺地域を描いた手書きの地図の複製で占められています。この地図自体は古いものではありませんが、古文書にあった絵図を伝えていると考えられており、投入堂への霊的な巡礼の歴史的継続性を示しています。

青銅と木材

銅鏡は、古代日本においては政治的・精神的権力の象徴でした。宝物殿には、10世紀に鑄造され

たと思われる中国製の銅鏡が 1 枚あります。鏡の背面には、唐の時代のデザインである、くちばしに花綬をくわえた 2 羽のオウムが中央の柄の周りを巡回している柄が施されています。鏡の面には、胎蔵曼荼羅の一部が刻まれており、大日如来（ヴァイロージャナ）が蓮の葉に乗った 8 体の仏と菩薩に囲まれている様子が描かれています。菩薩の配置は標準的な曼荼羅とは微妙に異なっています：普賢菩薩（サマンタパドラ）は、文殊菩薩（マンジュシュリ）と大日とともに「釈迦三尊像」をなすために移動しており、大日は歴史上の仏陀である釈迦牟尼と同一視されています。これは、法華経と密教の教えを調和させる円密一致という天台宗の仏教哲学を反映しています。

鏡の銘文には、997 年に「女弟子平山」によって寄進されたと記載されています。平山は円融天皇（在位：969～984 年）の元妃だと考えられており、後に出家しました。この鏡の寄贈は、三徳山と朝廷との密接なつながりを示しています。

宝物館で最もユニークな展示は、「触れることができる国宝」：投入堂の木材です。この木はもともと堂の下から支える支柱の一部でしたが、20 世紀に建物の倒壊を防ぐために一部交換されました。そのため、三佛寺宝物館を訪れた人は、行者道の終点にある投入堂を千年近くにわたって支えてきた木の支柱に触れることができます。

【タイトル】 三朝温泉/三朝温泉の歴史と特徴

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web

<簡体字>

三朝温泉及其历史

三朝温泉是位于灵峰三德山山麓的温泉小镇。这里的温泉被誉为“饮之、浴之、吸之皆宜”，发现于 12 世纪，自此，小镇的历史便与山上的修行传统紧密交织。

三朝温泉的发现

根据当地的传说，三朝温泉的发现源于一名到访此地的武士，他在一只白狼的指引下找到了温泉，而这只白狼其实是妙见菩萨的侍者。妙见菩萨是药师如来的化身，因此药师如来长期以来被奉为三朝温泉的守护佛与疗愈之源。

在温泉被发现之前，三德山上已连续数百年有修验者进行山岳修行。温泉最早的使用者正是这些修验者，他们在进入三德山的灵性领域之前，会在此进行禊（净身）仪式。由于三朝地处偏远，因此在随后数百年间，这里主要是修行者们的目的地。例如在江户时代初期的 1666 年，三朝并未被列入鸟取藩要求缴纳“接待税”的城镇名单之中，这表明它并不像地理位置更便利的温泉地那样，吸引大量挥金如土的游客。

近代的繁荣

随着江户时代的发展，日本进入长期和平时期，旅行与朝圣活动逐渐增多，三朝也开始迎来更多访客。鸟取藩发布政令，对三朝等温泉街设定价格上限，并要求当地居民平等接待外地来访者。在三朝本地，还留存着禁止年轻人赌博及其他恶习的文书。

到 19 世纪后期，三朝温泉已发展为繁荣的旅游胜地。“三朝”意指“岁之朝、月之朝、日之朝”，即三者同时开启的元旦清晨。另有说法称，在三朝连住三晚的访客，会在第三天清晨痊愈所有疾患。19 世纪末，随着放射性研究的发展，以及随后在三朝温泉水中发现氡元素，三朝开始宣称其具有与欧洲“氡温泉”相同的疗养功效。1929 年，民谣《三朝小调》红遍日本，使三朝的知名度进一步提升，甚至吸引了摄制组在此拍摄无声电影。

小镇与三德山的渊源始终深厚。正如朝圣者追求“六根清净”——净化五感器官和意识，

三朝溫泉則為訪客提供“六感療愈”——第六感指的是心靈。遊客受邀通過飲用、浸泡、吸入蒸汽的方式體驗溫泉。三朝町的景致、声响、味道、氣息與質感，在放鬆身心的效果加持下，被認為能夠在更深層次上促進身心療愈。

〈繁體字〉

三朝溫泉及其歷史

三朝溫泉位於靈峰三德山山麓，是一座歷史悠久的溫泉街。這裡自古便以「可喝、可泡、可吸入蒸氣」的溫泉療養方式聞名。自 12 世紀被發現以來，三朝溫泉的發展一直與三德山的修行傳統緊密相連。

三朝溫泉的發現

根據本地傳說，三朝溫泉的發現源於一名武士與一隻白狼的遇見，而那隻白狼其實是妙見菩薩的隨侍。由於妙見菩薩被視為「藥師如來」的化身之一，藥師如來也長久以來被奉為三朝溫泉的守護佛，被認為是溫泉療養之力的源頭。

當溫泉被發現時，修驗者已在三德山修行了數個世紀。三朝溫泉最早的訪客便是這些修驗者，他們在入峰修行前，會先在此進行潔淨身心的禊祓之儀。由於地處偏遠，往後數百年間，三朝多半仍是修行者的目的。例如 1666 年（江戶初期），鳥取藩曾要求部分城鎮繳納「接待稅」，名單中卻不包含三朝；這反映出當時的三朝尚未像其他交通便利的溫泉地那樣，成為能讓吸引旅人自由消費的繁華勝地。

近代的興盛

隨著江戶時代發展與社會更趨安定，旅行者與朝聖者的足跡也延伸到了三朝。鳥取藩發布告示規範收費上限，並要求對外地旅人與本地居民一視同仁。在此亦留有相關文書，記載禁止在地年輕人賭博等不良風氣的禁令。

到了 19 世紀後半，三朝溫泉已相當繁榮。「三朝」字面意思是「三個早晨」，指的是新年之晨，即日、月、年同時開啟的早晨。民間也流傳「在三朝連住三晚，第三天清晨百病皆癒」的說法。隨著 19 世紀末放射能研究以及在泉水中發現「氡」（Radon），這裡開始宣傳其養生效果，並與歐洲知名的「氡浴」相提論。1929 年，民謠《三朝小唄》紅極一時，讓三朝名氣更上一層樓，也帶動無聲電影前來取景拍攝。

小鎮與三徳山の連結始終深厚。正如朝聖者追求「六根清淨」（五感器官加上意識的淨化），三朝温泉也提出了「六感療癒」（六種感官的療癒，第六感指的是靈性）。鼓勵旅人透過飲泉、泡湯、吸入蒸氣體驗溫泉。據說透過結合放鬆效果及鎮上的街景、聲音、味道、香氣與觸感，能帶來最深層的身心修復。

<日本語仮訳>

三朝温泉とその歴史

三朝温泉は、霊峰三徳山（英語で「三徳山」）の麓にある温泉街です。「飲んでよし、浸かってよし、蒸気として吸ってよし」とされるこの温泉は 12 世紀に発見され、以来その歴史は三徳山での精神修行と結びついてきました。

三朝温泉の発見

地元の伝説によると、三朝温泉は、この地を訪れた武士に白狼が教えたことにより発見され、その白狼は実は妙見菩薩の従者であったとされています。妙見（バイシヤジャグル）は「薬の仏」である薬師如来の顕現であるため、薬師如来は三朝温泉の守護仏であり、ずっと温泉の治療力の源だと考えられてきました。

温泉が発見された頃までに、三徳山では何世紀にもわたって修験者が修行を実践していました。三朝温泉の最初の客は修験者で、彼らは三徳山の霊界に入る前の禊を行うために温泉を利用しました。三朝は結構な遠隔地にあるため、その後何世紀にもわたって主に修験者が訪れるための場所となりました。たとえば江戸時代初期の 1666 年に、鳥取藩が「接待税」を支払うよう命じられた町のリストに三朝は含まれておらず、より便利な場所にある他の温泉街のように自由にお金を使う観光客を惹きつけるような場所ではなかったことを示しています。

近代における繁栄

江戸時代がさらに進んで日本中が広く平和になると、旅行者や巡礼者の増加は三朝にまで及びました。鳥取藩は三朝のような温泉街に料金制限を設けるという布告を出し、他の地方からの訪問者を地元住民と同じように尊重するよう命じました。三朝では、地元の若者のギャンブルやその他の悪習を禁止する文書が見られます。

19 世紀後半まで、三朝温泉は観光地として栄えていました。「三朝」という地名は文字通り「3 つの朝」を意味し、日・月・年が同時に明ける新年の朝を指しています。三朝に 3 泊した訪問者は 3 日目の朝にはすべての病気が治っていると言われていました。19 世紀後半における放射能に関する科学研究と、その後三朝の水からラドンが発見されたことで、町はヨーロッパの「ラドン風呂」と同じ健康効果を謳うようになりました。1929 年に「三朝小唄」が全国的にヒットしたことで町の人気はさらに高まり、町内で無声映画が撮影されるきっかけにもなりました。

町と三徳山との強いつながりは保たれました。三徳山への巡礼者が六根清浄という「認知の6つの根源」、つまり五感の器官と意識の浄化の理想を追い求めるように、三朝温泉は訪問者に六感治癒、つまり「六つの感覚の癒し」（6つめの感覚は心）を提供しています。訪問者は、温泉を飲んだり、入浴したり、蒸気として吸い込んだりして、湯治を体験することが奨励されています。町の景色、音、味、香り、質感も、リラクゼーションの効果と相まって、深いレベルでの癒しをもたらすと言われています。

【タイトル】 三朝温泉/三朝温泉のラドン泉

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web

<簡体字>

三朝温泉的氡泉

三朝温泉是世界上最著名的氡温泉之一。自古以来，前往三德山的朝圣者在攀登灵峰之前，都会在三朝温泉进行沐浴净身；而今，来自日本乃至世界各地的游客也纷至沓来，寻求疗愈五感与心灵的“六感疗愈”。

三朝温泉的泉水属于高温（42℃以上）、pH 值中性的氯化物泉，并含有微弱的放射性。这种放射性源自氡。氡是由镭 226 发生α衰变所产生的一种无色无味的惰性气体。

氡的放射性远低于镭：在三朝温泉入浴一次所受到的辐射剂量仅为 0.001mSv（毫希沃特）。这相当于天然本底辐射（每日约 0.006 mSv）的几分之一，是一次胸部 X 光检查（0.06mSv）的六十分之一，以及一天乘坐飞机所受辐射量（0.1～0.3mSv）的百分之一左右。

近期研究指出，接受低剂量辐射可能会激活一种名为“超氧化物歧化酶”的酶，其抗氧化作用或有助于缓解某些疾病及衰老症状。此外，也有观点认为，较长时间的停留有助于相关效果的积累，从而增强人体的自然恢复能力。这或许就是“三朝温泉至少应连住三晚”这一说法的原由之一。

氡泉的三种体验方法

根据三朝温泉“氡浴专家”的介绍，体验泉水中氡元素的方式主要有三种：浸泡、饮用与吸入蒸汽。因泉温较高，建议游客仅进行两次全身浴，每次浸泡 1 至 4 分钟，其间休息 3 分钟，适当伸展身体并让体温稍作下降。足浴则可持续最长 30 分钟，或直至身体感到温热。

三朝温泉的泉水清澈无味，较易入口。多数温泉旅馆都提供可饮用的温泉水，“药师之汤”及町内其他场所也设有公共温泉饮水处。每日可饮用 1 至 3 杯。

入浴时人体会自然吸入蒸汽，部分温泉旅馆还设有桑拿或其他蒸汽设施。其中“Su-Ha 温泉”是一处公立的“天然氡热气浴泉”，备有可吸入氡泉蒸汽的设施。

<繁体字>

三朝溫泉的氡泉

三朝溫泉是世界知名的氡泉之一。自古以來，前往三德山修行或朝聖的人，常會在登上靈峰前先到此處行「楔祓」之儀以淨化身心。如今也有來自日本各地與海外的旅客，前來尋求能同時撫慰五感與心靈的「六感療癒」體驗。三朝泉水中氡的發現，為許多人報告的療效提供了科學依據：即「低劑量刺激效應」，指微量放射線其實對健康有益。

三朝溫泉的泉水屬於高溫（42°C 以上）、酸鹼值接近中性的氯化物泉，並帶有極微量的放射性特性。這種放射性來源主要是氡——這是一種由鐳（Ra-226）發生阿爾法衰變後所產生的無色、無味惰性氣體。

氡的放射性遠低於鐳。在三朝溫泉泡一次湯所受的放射線量約為 0.001 毫西弗，僅相當於地球天然背景輻射（每日約 0.006 毫西弗）的 1/6、胸部 X 光檢查（約 0.06 毫西弗）的 1/60。若與一天的飛行旅行（約 0.1~0.3 毫西弗）相比，則僅約為 1/100 左右。

這種微量放射線能刺激免疫系統與代謝，促進健康。研究指出低劑量放射線可活化「超氧化物歧化酶」（SOD），其抗氧化作用有助於緩解部分病症及老化現象。長時間停留可讓效果累積，這或許是當地「需連泊三晚」傳統說法的由來。

氡泉的三種體驗方式

依在地氡泉專家的說明，與溫泉中氡的接觸方式主要有浸泡、飲用，以及吸入蒸氣三種。由於水溫較高，建議全身浴分兩次進行，每次浸泡 1~4 分鐘，中間休息約 3 分鐘，進行伸展運動並讓身體降溫；足湯建議最長約 30 分鐘，或至身體開始暖熱為止。

三朝溫泉的泉水透明無味，較易入口。在當地的多數溫泉旅館內都可以飲用溫泉水，此外在「藥師之湯」以及鎮上的其他地點，也設有公共的飲泉處供民眾使用。根據建議，每日的飲用量大約為 1~3 杯。

泡湯時會自然吸入蒸氣，部分旅館也設有三溫暖或蒸氣設備。公營的「天然氡熱氣浴泉」Su-Ha 溫泉是一處提供了更深入蒸氣吸入體驗的設施，建議每次持續約半小時。

<日本語仮訳>

三朝温泉のラドン泉

三朝温泉は、世界で最も有名なラドン温泉の一つです。三徳山への巡礼者は昔から霊峰に登る前に三朝温泉で禊を行ってきました；最近では、日本中や世界中からの旅行者が、五感すべてと心を癒す六感治癒を求めて訪れています。三朝温泉水に含まれるラドンの発見は、多くの人が報告している湯治の効果の科学的根拠を示唆しています；それは、微量の放射線はかえって体に良いとするホルミシスという考え方です。

三朝温泉のお湯は高温（42℃以上）で pH 中性の塩化物泉に分類され、非常に穏やかな放射能の特性を含んでいます。この放射能はラドンに由来するもので、ラドンとはラジウム 226 のアルファ崩壊によって生成される無色無臭の希ガスです。

ラドンはラジウムよりもはるかに放射性が低いものです；三朝温泉の一度の入浴での放射線量はわずか 0.001mSv です。これは、地球のバックグラウンド放射線（1 日あたり約 0.006mSv）の数分の 1、胸部 X 線検査（0.06mSv）の 60 分の 1、1 日の飛行機旅行（0.1～0.3mSv）の 1000 分の 1 に相当する放射線量です。

ラドン温泉には有益な効果があると言われています。このメカニズムとして考えられているのが放射線ホルミシスで、微量の放射線によって免疫系と代謝が刺激され、健康を改善するという現象です。最近の研究では、低線量の放射線を浴びることで、スーパーオキシドジスムターゼという酵素が活性化し、その抗酸化作用によって一部の病気や老化の症状を緩和できる可能性があると言われています。さらに、長く滞在することで効果が蓄積され、体の自然治癒力が高まると考えられています。これが、三朝温泉には最低でも 3 泊するべきだと信じられている由来かもしれません。

三種類の入浴方法

三朝温泉の「ラジウムリエ」（ラドン風呂の専門家）の説明によると、温泉に含まれるラドンとの関わり方には、浸かる、飲む、蒸気として吸うという方法があるとされています。温泉の温度が高いため、訪問者は全身浴を 2 回だけ行い、1 回につき 1～4 分浸かり、その間に 3 分間の休憩を取ってストレッチし、クールダウンすることが推奨されています。足湯は最長で 30 分、または体が温まり始めるまで楽しめます。

三朝温泉のお湯は透明で無臭なので、飲みやすいです。ほとんどの温泉旅館では三朝温泉のお湯を飲むことが可能で、薬師の湯や町の他の場所には公共の温泉噴水があります。飲む回数は 1 日に 1～3 杯といわれて推奨されています。

入浴中は自然に蒸気を吸い込みますが、一部の温泉旅館にはサウナやその他のスチーム設備も用意されています。すーはー温泉は公営の「天然ラドン熱気浴泉」で、蒸気を深く吸い込むことのできる施設です。

地域番号	021	協議会名	石見銀山多言語解説協議会

解説文一覧

NO.	スポット名（タイトル）	中国語文字数	想定媒体
021-001	石見銀山遺跡/銀山絵巻 説明：準備する	300	Web
021-002	石見銀山遺跡/銀山絵巻 説明：間歩に入る	370	Web
021-003	石見銀山遺跡/銀山絵巻 説明：掘る	385	Web
021-004	石見銀山遺跡/銀山絵巻 説明：運ぶ	250	Web
021-005	石見銀山遺跡/銀山絵巻 説明：落盤を防ぐ	290	Web
021-006	石見銀山遺跡/銀山絵巻 説明：水を汲みだす	350	Web
021-007	石見銀山遺跡/銀山絵巻 説明：空気を送る	240	Web
021-008	石見銀山遺跡/銀山絵巻 説明：鉱石を選別する	290	Web
021-009	石見銀山遺跡/銀山絵巻 説明：品位を定める	200	Web
021-010	石見銀山遺跡/銀山絵巻 説明：輸送する	370	Web
021-011	石見銀山遺跡/銀：今と昔の価値と使われ方	870	Web
021-012	石見銀山遺跡/銀：まだ残っているのか	245	Web
021-013	石見銀山遺跡/視点場：町並みを眺めて	430	Web
021-014	石見銀山遺跡/視点場：町並みから山城と鉱山を遠望して	380	Web
021-015	石見銀山遺跡/石見銀山の地質	480	Web
021-016	石見銀山遺跡/石見銀山の文化的景観	540	Web
021-017	石見銀山遺跡/海外とのつながり：ベトナム（ホイアン）	640	Web
021-018	石見銀山遺跡/海外とのつながり：ポーランドの鉱山	625	Web
021-019	石見銀山遺跡/海外とのつながり：台湾の鉱山	685	Web
021-020	石見銀山遺跡/龍源寺間歩：坑道内の見どころ	160	看板
021-021	石見銀山遺跡/用語：ひおい坑	185	Web

021-022	石見銀山遺跡/ 用語：四つ留	160	Web
021-023	石見銀山遺跡/用語：螺灯	170	Web
021-024	石見銀山遺跡/用語：疏水	130	Web
021-025	石見銀山遺跡/用語：ヘビノネコザ	130	Web

【タイトル】 石見銀山遺跡/銀山絵巻 説明：準備する

【想定媒体】 Web

<簡体字>

矿工着装

在江户时代（1603-1867 年），石见银山的矿工与普通民众的服装截然不同。他们不穿常见的长袖和服，而是穿着长及膝盖的无袖灰色棉布衫，腰间系着绳子。这种着装轻巧且便于活动，还能在阴冷多尘的采矿坑道中提供一定的防护。

许多矿工头裹棉质头巾，腰间的绳子上挂着装有锤子、凿子等工具的草袋。他们还会在臀部绑上一块圆形草垫，以便可以在工作时坐下来。矿工们穿着仅覆盖前脚掌的半截草鞋，这种草鞋能够防止他们在矿内潮湿的岩面上滑倒。

矿工们一手拿着贝壳制成的油灯，在仅能照亮前方数米的微弱光线下进行所有作业。到了 19 世纪后期，有些矿工还会佩戴装着梅干的布制口罩。梅干中的柠檬酸有助于他们在井下保持清醒，同时面罩也能阻隔坑道中的粉尘。

<繁体字>

礦工著裝

不同於江戶時代（1603-1867）一般民眾常見的長袖和服打扮，石見銀山的礦工身著及膝無袖灰色工作服，並以繩子束於腰間。此類服裝不但輕便、易於活動，同時能在寒冷多塵的礦坑隧道中提供防護作用。

礦工們常以棉質頭巾包覆頭部，且在繫於腰間的繩子上懸掛著裝有鐵鎚、鑿子等工具的草袋。他們還會將圓形草席綁在臀部作為工作時的坐墊。腳上穿的半底草鞋僅覆蓋腳掌前半部，主要目的是防止礦工在礦坑內濕滑的岩石上滑倒。

礦工會單手提著貝殼製成的油燈，憑藉這些僅能照亮前方數公尺的油燈來完成礦坑內的所有工作。自十九世紀後半葉開始，礦工們有時會佩戴內含酸梅的布製口罩。酸梅中的檸檬酸

有助於他們在地下工作時維持警覺性，同時口罩也能阻隔隧道中的粉塵。

＜日本語仮訳＞

坑夫の服装

江戸時代（1603–1867）、石見銀山の坑夫は一般市民と容易に見分けがついた。通常の袖付き着物の代わりに、灰色の袖なし膝丈の綿製の服を身に着け、紐で締めていた。この服装は軽量で動きやすく、寒く埃っぽい坑道内である程度の保護も提供した。

多くの坑夫は頭に綿のバンダナを巻き、腰の紐にはトンカチやノミなどの道具を入れる藁袋を下げた。また、作業中に腰掛けるための丸い藁マットをお尻につけていた。足元には前足部のみを覆う藁製の半草履を履いていた。この履物の主な目的は、坑内の湿った岩盤で滑るのを防ぐことだった。

片手には貝殻で作られた油ランプを持ち、暗闇の中わずか数メートル先までしか届かないその灯火の下で全ての作業を行った。1800 年代後半には、梅干しを詰めた布製マスクを着用する坑夫も現れた。梅に含まれるクエン酸が坑内での覚醒を助け、マスクは坑道の粉塵から身を守る役割を果たした。

【タイトル】 石見銀山遺跡/銀山絵巻 説明：間歩に入る

【想定媒体】 Web

<簡体字>

进入矿坑

在石见银山的漫长历史中，进入矿坑意味着要踏入山腰处低矮、漆黑的洞口，其宽度仅容一名矿工勉强通过。进入矿坑堪称矿工一天中最危险的时刻，因为坑道口正是塌方风险最高的地方。

为防止坑道口坍塌，入口上方通常会架设由四根柱子支撑的粗加固梁。这一结构被称为四留（*yotsudome*，字面意为“四柱遮挡”），它划定了矿山与外界的界线。这既是一道物理界线，也是一道精神界线：四留上方通常会设置一座小神龛，矿工们会在踏入黑暗的矿山前，先向供奉于此的神明祈求平安。

此外，四留之名也指矿工进入坑道途中必须经过的另一道屏障。四留役所位于坑道入口旁，是由幕府直接管辖的关卡。驻守在此的官吏负责确认只有获得工作许可的人才能进入坑道，并称量矿工返回时所携带的银矿石重量。

除了祈祷，前往矿坑的矿工们还会在这里吸烟来缓解心情。从石见银山出土的烟斗数量可以看出，吸烟在当时颇为普遍。

<繁体字>

進入礦坑隧道

在石見銀山開採的絕大部分歷史中，要進入礦坑隧道意味著必須鑽進山壁中低矮漆黑、僅容一人勉強通過的狹窄開口。對礦工而言，進入礦坑是每日最危險的時刻，因為隧道入口處最容易塌陷。

為防止隧道入口坍塌，入口上方架設了由四根支柱支撐的加固橫樑。這種稱為四留（*yotsudome*，字面意為「四重阻擋」）的結構將礦坑與外界分隔開來。此結構不僅是實

體分界線，同時兼具精神意義：四留頂端通常設有小型神社，礦工在踏入黑暗的礦坑之前，總會向供奉的神明祈求庇佑。

四留這個名稱也用於礦工入坑前的另一道關卡：設於坑道入口旁的四留事務所（*yotsudome yakusho*）。此檢查站直接隸屬幕府管轄，駐守的官員會嚴格核驗入坑人員資格，並於礦工出坑時秤量其所攜帶的銀礦。

除了祈求庇佑外，入坑的礦工們也會透過吸菸來平復緊張心情。從石見銀山出土的大量煙斗可見，吸菸確實是當時普遍的習慣。

<日本語仮訳>

間歩に入る

石見銀山の歴史の大半において、間歩に入ることは山腹の低く真っ暗な開口部に足を踏み入れることを意味し、坑夫が辛うじて通り抜けられるほどの幅しかなかった。間歩への進入は坑夫にとって一日のうち最も危険な瞬間の一つであった。間歩の入口こそが崩落の危険が最高い場所だったからだ。

間歩の入口の崩落を防ぐため、入口上部には四本の柱で支えられた太い補強梁が設置された。この構造物は四ツ留（よつどめ）と呼ばれ、鉱山と外界の境界を画していた。これは物理的境界であると同時に精神的境界でもあった。通常、四ツ留の上部には小さな祠が設けられ、坑夫たちは山の闇へと足を踏み入れる前に、ここに祀られた神に安全を祈願した。

この四ツ留の名は、鉱山へ入る途中に坑夫が通過しなければならなかった別の障壁にも受け継がれた。四ツ留役所とは、幕府の直接管理下にある間歩の入口で運営された検問所である。ここに配置された役人は、山中で働く許可を得た者のみが入ることを確認すると同時に、帰還する坑夫が運ぶ銀鉱石の重量を量った。

祈りに加え、坑内へ向かう坑夫たちは煙草で気持ちを落ち着かせた。石見銀山で出土した煙管の数から、喫煙は広く行われていたことが窺える。

【タイトル】 石見銀山遺跡/銀山絵巻 説明：掘る

【想定媒体】 Web

<簡体字>

开凿坑道

在引进现代钻探设备和炸药前，开凿矿山坑道一直是一项异常艰苦且极为耗时的工作。当时坑道仅用锤子和凿子进行开凿，出于时间和工作量的考虑，坑道宽度仅容矿工单人侧身通过。石见银山的岩层相对松脆，即使如此，两名矿工全天挖掘也只能推进大约 30 厘米，但在当时的技术条件下已属可观的进度了。

挖掘用的铁凿磨损极快，必须频繁更换。如果铁凿的长度还够继续使用，驻守矿外的铁匠会对其进行修理。这些铁匠还负责制造和修理其他工具，例如用于固定凿子的钳具。制造新工具和维修旧工具是一项永无休止的工作。大量铁料会定期从中国山地（今岛根县南部边界）的冶铁工坊运来，以保障铁匠铺的原料供应。

在龙源寺间步的岩壁上，至今仍保留着数百年前矿工凿刻的痕迹。不过，这些手工开凿的岩壁显得相对平整。坑道其他地方还可以见到明治时代（1868-1912 年）拓宽通道时留下的痕迹，这些痕迹因采用了近代开凿技术而显得更为粗犷。

<繁体字>

挖掘礦坑

在現代鑽探設備與炸藥問世之前，開鑿礦坑隧道是項艱辛且極其耗時的工作。礦工只能使用鐵鎚與鑿子來挖掘隧道，由於耗費大量時間與精力，因此隧道僅能開鑿到容許單人單列通行的寬度。石見銀山的岩層相較之下較為脆弱，兩名礦工一整天工作下可鑿出約 30 公分的隧道，以當時的技術而言這已是相當驚人的成果。

礦工使用的鐵鑿磨損極快，需頻繁汰換更新。若鑿子長度夠長，尚可使用，會交由駐守在礦坑外的鐵匠修復。這些專職工匠同時也負責製作與修補其他工具：例如礦工用來固定鑿子的鉗具。新舊工具的持續生產與維護是永無休止的工作。為供應鐵匠工作坊的持續運作，大

量鐵材會由位於中國山地（現今島根縣南邊界）的煉鐵爐煉製後，再定期運送至此處。

龍源寺間歩礦坑の岩壁上至今仍保有數百年前礦工鑿子留下的痕跡，不過，這些經由手工開採的岩壁相對光滑。隧道其他區域則可見後來在明治時代（1868-1912）為拓寬通道而採用較粗糙挖掘技術所留下的痕跡。

＜日本語仮訳＞

坑道を掘る

近代的な掘削機やダイナマイトが導入される以前、鉦山坑道の掘削は過酷で非常に時間のかかる作業であった。坑道はトンカチとノミだけを用いて掘られ、その労力と時間のかかる性質から、坑夫が単列で通れるだけの幅しか確保されなかった。石見銀山の岩盤は比較的脆かったので、坑夫 2 人が丸一日掘削して、進捗は約 30 センチメートルに進めた。当時の技術ではなかなかできたことである。

彼らが使用した鉄製のノミは摩耗が激しく、頻繁に交換が必要だった。まだ使用可能な長さの工具は、鉦山外に常駐する鍛冶屋によって修理された。これらの専門家は、ノミを固定するための鉗子など、他の道具の製作・修理も担当した。新たな道具の製作と古い道具の維持は終わりのない仕事であった。中国山地（現在の島根県南端）の製鉄所から大量の鉄が定期的に運ばれ、鍛冶屋の工房に供給されていたと考えられる。

龍源寺間歩の坑道壁には、何世紀も前の坑夫のノミが刻んだ痕跡が今も残っている。ただし、手作業で削られたこの部分の壁は比較的滑らかだ。坑道の他の箇所には、明治時代（1868-1912）に通路を拡幅するために用いられた、より近代的で粗い掘削技術の痕跡が刻まれている。

【タイトル】 石見銀山遺跡/銀山絵巻 説明：運ぶ

【想定媒体】 Web

<簡体字>

搬运矿石

将矿石运出坑道是一项繁重而耗时的工作，根据矿石价值的不同由不同的工人负责。通常，矿工负责搬运自己开采出的高价值含银矿石，而认定为无价值的废石则由帮工们运出矿外，有些帮工年仅 12 岁。

在油灯的微弱光线下，工人们用绳索将重达 15 公斤的矿石绑在背上，有时需要在崎岖狭窄的坑道中跋涉数百米。他们还会用粗布制成的背囊搬运碎石和砂砾。

从 1858 年龙源寺间步的记录可见，这项作业实行昼夜两班制，由共计 39 名工人完成。其中包括矿工 24 人，运石工 5 人，以及 10 岁左右的儿童 10 人，后者承担了为矿工搬运工具、提灯照明等辅助工作。

<繁体字>

搬運礦石

從礦坑隧道中運出石塊是永無止境且傷筋動骨的工作，且會根據石塊的價值分配給不同搬運工人。礦工通常會親自搬運自己挖掘出的珍貴含銀礦石，而被視為毫無價值的石塊則由助手搬出礦坑，助手的年齡最小只有十二歲。

在微弱的油燈光下，這些工人用繩索將重達 15 公斤的石塊綁在背上，有時需穿越數百公尺的狹窄崎嶇礦道。較小的石頭與碎石則裝在粗布背包裡。

根據 1858 年龍源寺間步礦坑的工作日誌記載，採礦工作分為晝夜兩班，共計 39 名工人參與。其中 24 人為礦工，5 人為運石工，另有 10 名約十來歲的童工協助礦工搬運工具、持燈照明等雜務。

＜日本語仮訳＞

鉱石を運ぶ

間歩から鉱石を運び出す作業は、骨の折れる終わりのない仕事であり、岩石の価値に応じて異なる労働者に割り当てられた。坑夫たちは通常、自ら掘り出した貴重な銀を含む鉱石を運ぶことを引き受けたが、鉱山内で価値なしと見なされた石は、12 歳ほどの若い助手たちによって運び出された。

薄暗い灯油ランプの光の中で、労働者たちはロープで最大 15 キロの岩を背中に縛り付け、場合によっては狭く凹凸のある坑道を数百メートルも運んだ。小石や砂利を運ぶ際には粗い布製のリュックサックを使用した。

1858 年の龍源寺間歩の記録によれば、作業は昼夜二交替制で、総勢 39 名の労働者が従事していた。内訳は坑夫 24 名、岩石を運搬する者 5 名、そして 10 歳前後の子供 10 名で、彼らは坑夫の道具運搬やランプ保持などの補助業務を担当していた。

【タイトル】 石見銀山遺跡/銀山絵巻 説明：落盤を防ぐ

【想定媒体】 Web

＜簡体字＞

坑道防护

在石见银山，矿洞坍塌始终是一项重大隐患，在矿山的整个历史中，人们投入了大量精力防止塌方。木匠承担着制作坑道支柱的关键职责，他们会制作并安装可贴合坑壁凹凸表面的坚固支撑构件。这些支柱通常由栗木等结实耐用的木材制成。木匠还负责参与坑道的日常维护作业。

19 世纪上半叶，石见银山引入了新的坑道加固技术。当新坑道开凿完成后，木匠会先在内壁搭建一个木框架。然后，由专业的石工沿着木框架、从入口往坑道内部铺设事先切割成弧形的石材，这类石材类似现代修隧道加固内部用的混凝土环形砌块。

这项技术相当于现代隧道施工的“盾构法”，即先用名为“盾构”的临时支撑结构来固定作业区段，然后再用混凝土砌块来覆盖隧道。

＜繁体字＞

隧道加固工程

礦坑坍塌的威脅在石見銀山處處可見，所以歷年來礦場投入了大量心力來預防此類事故發生。木匠在鞏固礦坑隧道中扮演了重要角色，他們為礦坑不平整的壁面製作並安裝堅固的支撐結構。這些支撐架通常採用栗木或其他特別堅固的木材製成。木匠們也負責隧道內的定期維護工作。

十九世紀上半葉，石見銀山引進了新型礦道加固技術。在開鑿新隧道的同時，木匠會先架設好木製框架，然後專門的施工人員會從坑道口向內推進，將預先切割成合適弧度的石塊嵌入框架內；其原理類似現代隧道加固所用的混凝土環石。

現代隧道工程中也可見類似工法：先以稱為盾構的臨時支撐結構固定正在開挖的隧道段，

再舗設混凝土管片進行加固。

＜日本語仮訳＞

落盤を防ぐ

石見銀山では間歩の崩落が常に懸念され、鉱山史を通じてその防止に多大な努力が払われた。木工職人は坑道を支える支柱を作るという重要な役割を担った。これらの専門家は、鉱山の凹凸のある壁面に合う頑丈な支え材を製作・設置する任務を負っていた。支柱は通常、栗やその他の特に耐久性の高い木材で作られていた。木工職人は坑道内の定期的な保守作業も担当した。

19 世紀前半、石見銀山では坑道を補強する新たな手法が導入された。新たな坑道が掘削されると、木工職人はまず木枠で内壁を覆った。この枠組みの中で、坑道の入口から内側に向かって作業する専門の作業員が、あらかじめ適切な曲線形状に切断された石材を配置した。その形状は、現代のトンネル補強に用いられるコンクリート製の「リングストーン」にやや似ていた。

同様の技術は現代のトンネル工学にも使われている。現代では、掘削中のトンネル区間をコンクリートセグメントで覆う前に、しばしば「シールド」と呼ばれる仮設支持構造を用いて区間を固定する。

【タイトル】 石見銀山遺跡/銀山絵巻 説明：水を汲みだす

【想定媒体】 Web

＜簡体字＞

矿井排水

纵观石见银山的开采历史，矿井排水始终是矿工面临的最大挑战之一。随着坑道向山体内部延伸得更长更深，矿工不可避免地会触及岩层中的地下水体，导致坑道渗水，阻碍矿石的开采。

几个世纪以来，人们使用了多种水泵从坑道中排水。据推测最早的水泵于 17 世纪初引入，由木头和竹子制成。有些水泵采用虹吸管状结构，还有些水泵用一串方形水桶来组成阶梯式装置。这些水泵使工人能够将水提升至排水渠或集水坑，而无需实际肩挑手提，尽管有时也必须提桶排水。

应对水患的另一个方法是向下开凿竖井，使其与低于现有采掘点的横向坑道连接。水流会向下涌入这些新隧道，最终排入河流。龙源寺间步的排水井将水排入了地下约 100 米深处、被称为“永久坑道”的隧道和竖井网络中。这一排水网络修建于 1693 年至 1787 年间，是为支撑该地区多个采矿点而修筑的系统工程。

＜繁体字＞

排水作業

在石見銀山的開採歷史中，排水一直是礦工面臨的最大挑戰之一。隨著礦坑隧道向山體深處延伸，礦工難免會鑿穿岩層中的地下水層，導致礦坑積水並阻礙礦石開採進度。

數百年來，礦工使用過多種抽水裝置來排除坑道內的積水。最早的抽水裝置據信於十七世紀初問世，由木材與竹子製成。有些裝置採用類似活塞的結構，另一些則由階梯狀排列的方形水桶組成。這些裝置讓礦工得以將積水送往高處的排水溝或集水坑，而無需以人工方式搬運水桶（儘管有時仍需使用水桶）。

另一種解決淹水的方法是開鑿豎井，直接連結位於現有採礦場下方的水平隧道。水會順著這些新隧道流入河川。龍源寺間歩礦坑的排水井會將水排入位於地下約 100 公尺的「永久坑道」，這是由隧道與豎井組成的排水網路系統，建於 1693 至 1787 年間以支援當地多個礦區。

＜日本語仮訳＞

排水する

石見銀山の歴史を通じて、鉾山の排水は坑夫たちにとって最大の課題の一つであった。間歩が山深く長く掘られるにつれ、坑夫たちは岩盤内の地下水溜まりに必ず遭遇し、坑道が浸水して鉾石の採掘を妨げた。

数世紀にわたり、坑道から水を汲み出すために様々なポンプが使用された。最も初期のポンプは 1600 年代初頭に導入されたと考えられており、木と竹で作られていた。スポイトのような構造を持つものもあれば、四角いバケツを階段状に積み上げた構造のものもあった。これらのポンプにより、作業員は実際にバケツで運ぶことなく、水を排水路や排水ピットへ上方へ移すことが可能となった。しかし、バケツで運ぶこともあった。

水没問題への別の解決策は、既存の採掘場より低い標高で水平坑道と合流する立坑を掘削することだった。水はこれらの新たな坑道へ流れ込み、川へ放流された。龍源寺間歩の疏水坑は、さらに地下約 100 メートルに位置する「永久坑道」と呼ばれる坑道網へと繋がっていた。この坑道網は 1693 年から 1787 年にかけて掘削され、周辺地域の複数の間歩を支えるために整備された。

【タイトル】 石見銀山遺跡/銀山絵巻 説明：空気を送る

【想定媒体】 Web

＜簡体字＞

通风换气

矿坑深处往往氧气稀薄，充斥着矿石开采时释放的粉尘与矿工携带的油灯产生的煤烟。因此，呼吸系统疾病在矿工群体中十分普遍。

数百年来，石见银山的管理者采取了许多措施来改善矿坑内的空气质量。他们开凿通风孔和竖井，并从 18 世纪起使用改良型扬谷机（原为农业中用于分离谷壳和谷粒的机械）将新鲜空气泵入竖井。在绵长的坑道中，这些设备按精心测算的间距摆放，以确保空气能抵达坑道末端。

此外，利用沿坑道修筑的排水渠，也有助于改善空气质量。这些排水渠使用木板和黏土加以覆盖后，可以兼具排水和通风作用。

＜繁体字＞

通風

礦坑深處的空氣因採礦過程釋放的礦塵及礦工油燈產生的煤煙而受到污染，長年含氧量低且塵埃瀰漫，因此呼吸系統疾病在礦工之間十分普遍。

數百年來，石見銀山管理者陸續採取多項措施，以改善礦坑內的空氣品質。他們開鑿了通風孔與通風井，且自十八世紀起以改良過的揚穀機（農業中用於分離糠粃與穀粒的機器）將新鮮空氣泵送至礦井深處。這些機器按照精心計算的間隔距離放置，好讓氣流能送至漫長的隧道盡頭。

此外，沿著許多礦道兩側鋪設的排水溝渠同時兼具改善空氣品質的功能。溝渠表面覆蓋著木板與黏土，使其也能夠充當空氣管道。

<日本語仮訳>

空気を送る

間歩の奥深くの空気は、鉍石採掘時に放出される粒子や坑夫が携行する灯油ランプの煙により、酸素濃度が低く粉塵に満ちていた。呼吸器疾患は坑夫の間で蔓延していた。

何世紀にもわたり、石見銀山の管理者たちは坑内の空気質改善のために多くの対策を講じた。換気用の穴や坑道を掘削し、1700 年代以降は改良型唐箕（農業で粃殻と穀粒を分離するために使用される機械）を用いて新鮮な空気を坑道内に送り込んだ。長い坑道では、空気の末端まで届くよう、これらの機械を慎重に計算された間隔で複数設置した。

さらに、多くの坑道沿いに設けられた排水路を活用することで空気の質を改善した。排水路は板と粘土で覆われ、空気導管としての役割も果たした。

【タイトル】 石見銀山遺跡/銀山絵巻 説明：鉱石を選別する

【想定媒体】 Web

＜簡体字＞

矿石鉴定

每块运出矿山的矿石都由专职人员逐一鉴定。他们会首先剔除矿石表面的碎石泥沙，再用锤子与凿子进行破碎。然后筛选碎石，遴选出含银部分。

同时，居住在矿区的妇女和儿童则负责筛选被矿工认为缺乏价值而丢弃在矿坑外的矿石碎块。这项看似不起眼的工作实际上含有深意，它有助于培养下一代矿工鉴别矿石的能力。

在矿山的部分区域，矿石会在鉴定后进行分配。由独立采矿者管理的矿坑开采出的矿石被划分为两部分：一部分归开采者所有，另一部分则归管辖整个石见银山的政府机构——“代官所”所有。矿石分配的比例在历史上屡经变更。据 1747 年的文件记载，在产能最高的矿区，代官所会收取三分之一的矿石，开采者则获得剩余的三分之二。

＜繁体字＞

礦石評估

每塊運出礦坑的礦石皆由專業人員進行評估。他們首先會清除礦石中的碎石與泥土，接著以鐵鎚和鑿子敲碎礦石。隨後將碎塊過篩，以分離出含銀礦的部分。

與此同時，礦區內的婦女與兒童則被安排去處理那些被礦工認為低品位而堆放在礦道與礦井外的礦石碎屑。這項看似卑微的工作，在培養新一代礦工評估礦石的能力方面，發揮了重要作用。

在部分礦區，礦石會在評估後進行分配。由獨立採礦者管理的礦井會將開採出來的礦石分為兩部分，一份歸礦工所有，另一份則上繳管轄石見銀山的官署。分配比例隨礦場發展歷程而有所變化，根據 1747 年文獻記載，在部分產量最豐沛的礦區，官署會獲得三分之一礦石，礦工則分得三分之二。

＜日本語仮訳＞

鉾石を選別する

銀山から運び出された鉾石は、専門の作業員によって一つひとつ評価された。まず鉾石から小石や土砂を取り除き、トンカチやノミで砕いた。次に砕いた石をふるい分け、銀を含む部分を選別した。

一方、銀山の山内に住む女性や子供たちは、坑夫によって低品位と判断され、間歩の外に捨てられた鉾石の破片を選別する作業に従事させられた。この一見卑しい仕事は、次世代の坑夫を育成し鉾石を評価する能力を養うという重要な役割を果たしていた。

鉾山の一部では、鉾石が評価された後、分配が行われた。山師（独立採掘者）が管理する間歩から採掘された鉾石は、採掘者と石見銀山全体を管轄する政府機関である代官所との間で分けられた。この配分比率は鉾山の歴史を通じて変動した。1747 年の文書によれば、最も生産性の高い鉾区では代官所が鉾石の 3 分の 1 を受け取り、採掘者が 3 分の 2 を受け取っていた。

【タイトル】 石見銀山遺跡/銀山絵巻 説明：品位を定める

【想定媒体】 Web

＜簡体字＞

确定白银价值

白银在矿山冶炼提纯后被运往大森镇，由专职官吏称重以测定纯度。随后，白银会被加盖管辖石见银山的官吏——代官的印章，然后打包运往各地。

从石见银山运往京都和江户（今东京）铸币厂的白银是铸币的原材料。在江户时代（1603-1867 年），执政的德川幕府像现代政府运用货币政策一样，严格管控流通的白银数量与银币价值。幕府设定金、银、铜的固定兑换比率，在刺激经济时增发银币，在财政状况不佳时，降低货币银铜配比中银的含量。

＜繁体字＞

判定白銀的價值

白銀在礦場冶煉提純後，運往大森町由專責官員秤重以判定純度。隨後銀塊會加蓋石見銀山主管機關印章，並於包裝後準備運輸。

從石見銀山運往京都與江戶（今東京）鑄幣廠的白銀，是鑄造貨幣的原料。在江戶時代（1603-1867），執政的德川幕府透過貨幣政策來調節流通的白銀數量與銀幣價值，其運作模式與現代政府如出一轍。幕府制定黃金、白銀與銅的固定兌換率；在刺激經濟時增發銀幣；而當財政吃緊時，則降低貨幣中白銀與銅的鑄造比例。

＜日本語仮訳＞

品位を定める

鉱山で銀が精錬されると、大森の町へ運ばれ、専門の役人によって純度を測定するために計量された。その後、銀山を管轄する役人である代官の印が押され、輸送用に梱包された。

石見銀山から京都や江戸（現在の東京）の銀座（造幣局）へ運ばれた銀は、貨幣の原料となった。江戸時代（1603-1867 年）には、徳川幕府が流通銀の量と銀貨の価値を規制した。幕府は現代政府と同様の金融政策を駆使した。金・銀・銅の固定交換レートを設定し、景気刺激時には銀貨の発行を増やし、財政悪化時には貨幣における銀と銅の比率を引き下げた。

【タイトル】 石見銀山遺跡/銀山絵巻 説明：輸送する

【想定媒体】 Web

<簡体字>**白银运输**

运输石见银山开采的白银是一项持续数百年，由马、牛及人力共同完成的物流壮举。在矿山的早期历史中，这些辛苦的运输者所需跋涉的距离尚且较短。从 16 世纪 60 年代到 17 世纪初，石见银山的白银会从现今温泉津附近小海湾的港口运往国内外市场。这些港口通过一条 14 公里长的崎岖山路与矿山相连。对于这条起伏泥泞的道路，只有牛具备足够的耐力，能驮着满载白银的箱子行走。

17 世纪初，石见银山归以江户（今东京）为新中央政府所在地的德川幕府管辖。幕府废止了白银运往海岸的运输路线，改为经由陆路运往濑户内海的尾道港，再经大阪转运至京都与江户。山区路段仍使用牛来运输，其余大部分路程由马匹驮运白银，整个旅程共需四天。最初，这样的运输每年需要数次。然而，从 17 世纪 70 年代到 1865 年，运输改为每年一次，由多达 300 匹马和 400 人组成的运输队一次性运送全年产出的白银。

<繁体字>**運輸白銀**

幾百年來，產自石見銀山的白銀礦石經提煉後，由馬匹、牛隻與人力共同完成白銀運輸任務，堪稱一項物流壯舉。在礦場早期的開採史中，這些辛勤的工作者僅需短程運輸沉重的銀貨。自 1560 年代至十七世紀初，石見銀山的銀礦皆從現今溫泉津町附近的小海灣，運往日本國內及海外市場。港口與礦區之間僅由一條十四公里長、穿越丘陵地帶的道路相連。由於路途崎嶇且經常泥濘，唯有牛隻具備足夠的力量，能夠背負裝滿白銀的箱子通行其間。

十七世紀初，石見銀山納入德川幕府的統治，成為以江戶（今東京）為中心的新中央政府直轄的礦山。幕府廢止海路運輸，改由陸路將銀貨運往濑戶內海的尾道港，再經大阪轉運至京都與江戶。雖然在山區仍使用牛隻，但為期四天的運送旅程中，大部分路段由馬匹馱運白銀。最初，每年會多次運送銀貨。然而，自 1670 年代至 1865 年，每年僅有一次由三百匹

馬與四百人組成的隊伍，運送一整年所產出的銀礦。

＜日本語仮訳＞

銀を輸送する

石見銀山で採掘・精錬された銀の輸送は、何世紀にもわたり馬や牛、そして人間によって成し遂げられた物流上の偉業であった。鉱山の初期の歴史において、これらの働き者たちが重い荷物を運ぶために移動しなければならなかった距離は短かった。1560年代から1600年代初頭にかけて、石見銀山の銀は現在の温泉津付近の小さな入り江から国内外の市場へ出荷された。これらの港は丘陵地帯を横断する14キロの道で鉱山と結ばれていた。牛だけが、銀箱を背負ってこの起伏に富み、しばしばぬかるんだ道を移動できるほど強靱だった。

1600年代初頭、石見銀山は江戸（現在の東京）に本拠を置く新たな中央政府である徳川幕府の支配下に入った。幕府は銀の海岸輸送を廃止し、代わりに瀬戸内海の尾道港まで陸路で運び、そこから大阪を経て京都や江戸へ輸送するよう指示した。山岳地帯では依然として牛が使われたが、4日間の旅路の大半は馬が銀を運んだ。当初は年に数回の輸送があった。しかし1670年代から1865年まで、300頭もの馬と400人の人々が1年分の銀を運ぶ、年1回の行列のみとなった。

【タイトル】 石見銀山遺跡/銀：今と昔の価値と使われ方

【想定媒体】 Web

<簡体字>

白银的用途与价值

石见银山开采的白银汇入世界经济洪流，支撑了德川幕府长达 265 年的统治。白银在日本作为货币使用了数百年。

外贸用途

从国际视角看，石见银山历史上最重要的时期出现在 1527 年发现矿山后不久。从 16 世纪中叶起，管理该矿的当地大名家族就将白银用于对外贸易。对白银的需求源于中国明朝，当时，中国明朝的经济刚刚转向银本位制，需要大量的银子来支撑军费开支，抵御来自西北方向的蒙古部落的进犯。

最初白银直接从日本流向中国，但贸易很快被欧洲人掌控。驻澳门的葡萄牙商人购买中国的丝绸，用它换取日本的白银，然后卖给明朝。这种贸易模式使葡萄牙人获利丰厚，他们将日本称为“银岛”，让石见白银流通于其海上贸易网络。随着 16 世纪后期西班牙与葡萄牙帝国拓展世界贸易，白银逐渐成为全球需求最高的商品。据估计，当时全球交易的白银中约有 10%来自石见银山。

国内经济用途

石见白银的国际交易在 16 世纪末臻于鼎盛，但随着南美白银涌入世界经济，日本商人的利润率逐渐下降。这导致日本国内出现大量白银库存，促使丰臣秀吉（1537-1598 年）政府推行日本首批标准化银币。随后，丰臣秀吉的继任者德川家康（1543-1616 年）正式确立了银币的使用规范，并为金、银、铜设定了基于重量的固定汇率。银币在整个江户时代（1603-1867 年）一直是主要的交易媒介。然而，自 18 世纪 60 年代起，由于包括石见银山在内的日本矿山白银产量逐渐下降，德川幕府不得不进口白银以满足国内需求。

基于重量的货币体系及白银的主导地位，在 1868 年明治维新后走向终结。明治天皇（1852-1912 年）的新政府开始发行西式金银硬币，并于 1897 年正式采用金本位制。尽管如此，银币仍继续流通了数十年，最终止于 1966 年铸造的最后一批银币。

今日白銀

日本大规模的商业性白银开采在半个多世纪前就已终结，但如今国内产业对白银的需求依然旺盛。白银因其优异的导电性、抗菌性和反射性，被广泛用于电子产品、汽车部件和医疗设备领域。其他用途还包括净水处理、镜面镀层，以及更贴近生活的珠宝首饰与餐具器皿。如今，日本从墨西哥、秘鲁、韩国、澳大利亚等国进口白银。

<繁体字>

銀的使用與價值

石見銀山開採的白銀不僅流入世界經濟體系，同時也支撐了德川幕府長達 265 年的統治，並在日本作為流通貨幣使用數百年之久。

對外貿易中的用途

從國際視角來看，石見銀山歷史中最具關鍵意義的時期，出現在 1527 年礦山發現後不久。自十六世紀中葉起，掌控礦場的地方武士家族開始運用白銀進行對外貿易。當時的主要需求來自明朝中國，當時的明朝剛轉型為白銀本位經濟體系，需要大量貨幣以資助抵禦西北蒙古勢力入侵的國防開支。

白銀最初由日本直接流向中國，但此項貿易很快就被歐洲人接手。駐紮澳門的葡萄牙商人購入中國絲綢，換取日本白銀後再將白銀轉售明朝。在這種貿易模式下，葡萄牙人獲利豐厚。他們稱日本為「銀島」，並在海上帝國境內廣泛流通石見白銀。隨著西班牙與葡萄牙帝國在十六世紀後半葉擴展國際貿易，白銀成為當時全球最炙手可熱的商品。據估計，此時期全球白銀交易量約有 10% 源自石見銀山。

國內經濟用途

石見白銀的國際貿易持續蓬勃發展，直至十六世紀末，南美銀礦大量湧入世界經濟體系，壓縮了日本商人的利潤。大量白銀能供給日本國內使用，促使豐臣秀吉（1537–1598）政府推行日本首套標準化銀幣制度。繼任者的德川家康（1543–1616）正式確立銀幣流通體系，並制定以重量為基準的黃金、白銀與銅固定兌換率。銀幣在整個江戶時代（1603–1867）仍是主要交易媒介。然而，自 1760 年代起，由於石見銀山等日本礦場銀產量持續下降，德川幕府不得不進口白銀以滿足國內需求。

1868 年明治維新後、以重量為基準的貨幣體系及銀本位制宣告結束。明治天皇（1852–1912）新政府開始同時發行西式金幣與銀幣，並於 1897 年正式採用金本位制。儘管如此，銀幣仍持續流通了數十年之久，直到 1966 年最後一批銀幣鑄造入市為止。

今日白銀

在日本境內，具備商業規模的銀礦開採已於半個多世紀前結束，但日本國內工業對白銀的需求依然龐大。白銀因其卓越的導電性、抗菌特性及反射性，廣泛應用於電子產品、汽車零部件及醫療器材。其他用途包括水質淨化、鏡面鍍層，以及更為人熟知的珠寶首飾與餐具。如今，日本主要從墨西哥、秘魯、南韓及澳洲等國進口白銀。

<日本語仮訳>

銀の価値と使われ方

石見銀山で採掘された銀は世界經濟に流入し、徳川幕府の 265 年にわたる支配を支えた。銀は何世紀にもわたり日本の通貨として用いられた。

対外貿易における利用

国際的な観点から見ると、石見銀山の歴史において最も重要な時期は、1527 年の鉱山発見直後に訪れた。1500 年代半ば以降、鉱山を支配した地元の戦国大名は、この銀を対外貿易に活用した。需要は明の国から生じた。同国は銀本位經濟に移行したばかりで、北西から侵攻するモンゴル軍に対する帝国防衛の資金として膨大な資金を必要としていた。

当初、銀は日本から中国へ直接流れたが、この貿易はすぐにヨーロッパ人によって掌握された。マカオに拠点を置くポルトガル商人は中国絹を購入し、それを日本銀と交換して明に販売した。この貿易パターンはポルトガル人を大いに富ませ、彼らは日本を「銀の島々」と呼び、その海上帝国全体に石見銀を流通させた。1500 年代後半にスペインとポルトガルの帝国が世界貿易を拡大するにつれ、銀はおそらく世界で最も需要の高い商品となった。当時の全世界で取引された銀の約 10%が石見銀山産であったと推定されている。

国内經濟における利用

石見銀の国際取引は 1500 年代後半まで隆盛を極めたが、南米産銀の世界經濟への流入により日本商人の利益率が低下した。その結果、国内で大量の銀が利用可能となり、豊臣秀吉（1537–1598）政権は国内初の標準化された銀貨を導入した。秀吉の後継者である徳川家康（1543–1616）は銀貨の使用を正式に定め、金・銀・銅の重量に基づく固定為替レートを設定した。銀貨は江戸時代（1603–1867）を通じて主要な交易手段であり続けた。しかし、石見銀山を含む鉱山での銀産量の漸減により、1760 年代以降、徳川幕府は国内需要を満たすために銀を輸

入せざるを得なくなった。

重量基準の通貨制度、そしてそれに伴う銀の優位性は、1868 年の明治維新後に終焉を迎えた。明治天皇（1852–1912）の新政府は西洋式の金貨と銀貨の発行を開始し、1897 年には正式に金本位制を採用した。それにもかかわらず、銀貨は数十年にわたり流通を続け、最後の銀貨は 1966 年に鑄造された。

現代の銀

日本における商業規模の銀鉱山採掘は半世紀以上前に終了したが、国内産業における銀の需要は依然として大きい。銀は優れた電気伝導性、抗菌性、反射性を有するため、電子機器、自動車部品、医療機器などに広く使用されている。その他の用途には浄水、鏡面コーティング、そしてより身近な宝飾品や食器類が含まれる。日本はメキシコ、ペルー、韓国、オーストラリアなどから銀を輸入している。

【タイトル】 石見銀山遺跡/銀：まだ残っているのか

【想定媒体】 Web

＜簡体字＞

石见银山的遗存白银

即使历经约 400 年的开采，位于石见银山核心的仙之山内仍蕴藏着丰富的白银。然而，这些矿藏分布零散且难以开采。现已探明的所有丰沛矿脉均已采掘殆尽，要开采出大量白银将极其困难且成本高昂。

因此，石见银山的商业开采于 1923 年落下帷幕，第二次世界大战期间重启采矿的短暂尝试也无果而终。自 2007 年起，矿山本体及相关遗址，包括矿山聚落、运输路线、港口等设施，均作为联合国教科文组织世界遗产受到保护。石见银山的所有勘探权和采矿权均已到期或移交给当地政府，旨在确保这一遗址能为后世永久保存。

＜繁体字＞

石見銀山殘存銀礦

即使歷經了近四百年的開採，位於石見銀山核心的仙山仍蘊藏著豐沛的銀礦。然而，其礦脈不但分散且開採難度較高。礦區內所有已探明的礦脈早已開採殆盡，剩餘的銀礦開採艱難且成本高昂，已不具備經濟價值。

因此，石見銀山於 1923 年終止了所有商業開採工作；即便在第二次世界大戰期間，重啟礦場運作的提案也未能成功。自 2007 年起，礦場本身及相關遺址（從採礦聚落到運輸路線與港口）皆獲聯合國教科文組織列為世界遺產予以保護。如今，所有石見銀山的勘探與開採權均已失效或移交地方政府，以確保遺址得以完整保存並傳承後世。

＜日本語仮訳＞

石見銀山に残っている銀

約 400 年にわたる採掘後も、石見銀山の中心をなす仙ノ山には豊富な銀が残存している。しかし銀は分散しており、採掘が困難である。鉱山で発見された豊富な鉱脈はすべて既に掘り尽くされており、有意義な量の銀を採掘しようとする試みは極めて困難で、実施には莫大の費用がかかる。

こうした事情から、1923 年に石見銀山の商業採掘は終焉を迎え、第二次世界大戦中に短期間試みられた操業再開も阻まれた。2007 年以降、銀山そのものと鉱山集落から輸送路・港に至る直接関連施設は、ユネスコの世界遺産として保護されている。石見銀山における全ての探鉱権及び採掘権は失効、もしくは地方自治体へ移管されており、この遺跡が将来の世代のために確実に保存されることが保証されている。

【タイトル】 石見銀山遺跡/視点場：町並みを眺めて

【想定媒体】 Web

<簡体字>

俯瞰矿镇

位于山顶的观世音寺有一处观景台，从这里可以俯瞰大森镇银山历史街区的全貌。这座昔日的矿业城镇从 17 世纪初到 20 世纪初，一直是石见银山的行政和商业中心。

在大森镇，武士、商人与平民的房屋密集混杂，神社佛寺亦伫立其中。这种城市结构在江户时代（1603-1867 年）的日本实属罕见，当时通常按社会阶层划分居住区。尽管矿镇大部分区域在 1800 年的火灾中毁于一旦，但错落有致的土地格局至今仍是大森镇的鲜明特征。俯瞰全镇，可以看到大多数建筑的屋顶覆盖着用当地富含铁质的黏土烧制而成的红褐色房瓦，而一些规模较大的建筑则铺设灰色房瓦。这些建筑多为传统武士宅邸或行政机构，灰色房瓦因象征权威的特质而备受武士阶层青睐。

观世音寺东北方向有几处特征显著的建筑：一座是中世纪古刹“西性寺”，其藏经阁因装饰有吉祥动物石灰泥浮雕而闻名；一座是建于石见银山代官所旧址的博物馆，曾是德川幕府的代官们监管银山及周边地区的机构；还有一座位于城镇入口处的城上神社，因保佑城镇及居民的安宁而广受信仰。

<繁体字>

礦鎮風光

從山頂的觀世音寺觀景台可將大森銀山歷史街區盡收眼底。這座昔日礦鎮自十七世紀初至二十世紀初，一直是石見銀山銀礦的行政與商業樞紐。

在大森町，武士、商人與平民的住宅錯落分布、比鄰而居，神社寺廟也散布其間。此類城鎮結構在江戶時代（1603-1867）的日本實屬罕見，有別於當時各社會階級通常分居不同區域的情況。儘管 1800 年的大火摧毀了多數城區，這片拼布般的土地分布格局仍是大森的獨特標誌。從高空俯瞰城鎮，可瞥見多數建築屋頂覆蓋著由當地富含鐵質的黏土燒製而成的紅

褐色瓦片，而部分大型建築則為灰色瓦頂。後者多為傳統武士宅邸或行政設施，因為灰色瓦片象徵著權威而深受武士階級的青睞。

觀世音寺東北角有幾座特色鮮明的建築：中世紀的西性寺，其藏經庫以飾有吉祥動物灰泥浮雕而聞名；一座建於石見銀山官署舊址的博物館，此處曾是德川幕府代表監管銀礦及周邊區域的據點；以及鎮守城鎮入口的城上神社，相傳能庇佑城鎮與居民免於災厄。

＜日本語仮訳＞

町並みを眺めて

觀世音寺のある丘の頂上にある展望台からは、大森銀山重要伝統的建造物群保存地区の全景を一望できる。この旧鉾山町は 1600 年代初頭から 20 世紀初頭まで、石見銀山の行政・商業の中心地として機能していた。

大森では、武士・職人・庶民の家屋が神社や寺院と共に密集して混在していた。江戸時代（1603-1867）の日本では、通常は身分別に居住区が分かれていたため、このような都市構造は稀であった。1800 年の火災で町の大半は焼失したが、土地のパッチワーク状の分布は今も大森の特徴として残っている。町を上から見下ろすと、ほとんどの建物の屋根が地元の鉄分豊富な粘土で作られた赤みがかった瓦で覆われているのがわかる。一方、大きな建物の一部は灰色の屋根をしている。後者の建物は伝統的な武家屋敷や行政施設である傾向がある。灰色の瓦は権威の象徴として武士階級に好まれた。

觀世音寺の北東には特徴的な建造物が並ぶ。中世の西性寺は、吉祥の動物を漆喰浮き彫りで飾った経蔵で知られる。石見銀山の代官所（徳川幕府の代官が銀山と周辺地域を監督した場所）跡に建てられた博物館、そして町の入口にある、町とその住民を災いから守ると信仰されている城上神社がある。

【タイトル】 石見銀山遺跡/視点場：町並みから山城と鉱山を遠望して

【想定媒体】 Web

<簡体字>

远眺矿山

从观世音寺的观景台向西南望去，在大森镇背后，一座林木覆盖、缓缓攀升的山脉映入眼帘。这便是位于石见银山核心的古火山——仙之山。如今，绿植覆盖的斜坡几乎完全掩藏了矿山 400 年历史中遍布山体的数百处矿坑与竖井。在山顶附近，隐约可见一片相对平坦、遍布矮草的阶地区域。这就是石银村落遗址，17 世纪初，一个重要的采矿聚落曾在此繁荣，而环绕仙之山的众多狭窄山谷间，还星罗棋布着其他聚落群，其中不乏容纳千人的大型聚居点。

位于山前的大森镇内，两座大型建筑格外醒目。左侧的是旧河岛家住宅，江户时代（1603-1867）曾居住着大森最显赫的武士家族之一。河岛家族中不乏监管石见银山矿工事务的高级官吏。其住宅是在 1800 年那场焚毁大半城镇的火灾之后不久建造的。在右侧，银山川的对岸，矗立着建于 1888 年的旧大森裁判所，如今，它已作为博物馆使用，体现出当地为保护历史街区所做的努力。

<繁体字>

礦山一瞥

從觀世音寺的觀景台向西南眺望，可在大森町之外看見一座林木蓊鬱的山巒緩緩升起，此即仙山，一座位於石見銀山礦區核心的古老火山。如今山坡綠意盎然，幾乎完全掩蓋了四百年間礦場開鑿的數百條礦道與礦井。山頂附近隱約可見一片相對平坦的階梯狀台地，其上覆蓋著低矮草叢，此處名為石銀聚落，在十七世紀初曾是繁榮的礦區集散地。其他聚落則散布於仙山周邊的狹窄山谷間，包括幾個曾容納過數千人居住的聚落。

在大森町的前景處，有兩棟大型建築格外醒目。左側的河島家宅邸曾是江戶時代（1603-1867）當地最富庶的武士家族之一，其家族成員曾擔任監督石見銀山礦工的高階官吏。這座宅邸建於 1800 年一場大火幾乎焚毀全鎮後不久。右側的銀山川對岸矗立著 1888 年建造

的大森舊法院，現為博物館，展示著當地居民為保存歷史街景而付出的努力。

＜日本語仮訳＞

鉱山を遠望して

観世音寺の展望台から南西を見渡すと、大森の町を越えて、森に覆われた山の緩やかに登る尾根が見えてくる。これが石見銀山の中心にある古代火山、仙ノ山である。その斜面は緑に覆われ、400 年にわたる鉱山の歴史の中で山全体に掘られた数百もの間歩や坑口を今やほとんど隠している。山頂付近に部分的に見える、低い草に覆われた比較的平坦な段丘状の広地が石銀集落跡である。ここには 1600 年代初頭に主要な鉱山集落が栄えた。千人を擁する集落も含まれる他の集落群は、仙ノ山を取り囲む数多くの細い谷間に点在していた。

手前の大森町では二つの大きな建物が目を引く。左側が旧河島家住宅で、江戸時代（1603-1867 年）に大森で最も繁栄した武士家の一つが住んでいた。河島家には、石見銀山で坑夫を監督する高官も含まれていた。彼らの屋敷は、1800 年に町の大半を焼き尽くした火災の直後に建てられた。右側、銀山川の対岸には、1888 年に建てられた旧大森区裁判所が立っている。現在は博物館として利用され、歴史的な町並みを保存するための地域の取り組みを紹介している。

【タイトル】 石見銀山遺跡/石見銀山の地質

【想定媒体】 Web

<簡体字>**石见银山的地质**

石见银山能在 16 世纪中叶后成为世界级高产银矿，原因在于矿山所在地——古火山仙之山的独特的地质特征。这座火山大约形成于 150 万年前，当时火山喷发导致火山口周围堆积了超高温火山灰和部分固化的熔岩块等火山碎屑物。新形成的山体疏松多孔，犹如一片巨型沙丘。

火山活动在山体下方持续不断。岩浆从下方加热地下水，形成温度超过 200℃却因地下高压环境而无法蒸发的高温热液。这种高温热液流经岩石和岩浆，释放出银和铜等元素。含金属的流体随后沿基岩裂缝向上渗透，渗入山体多孔的岩石中，将银输送到整个山坡。随着温度和压力的变化，液体冷却固化，在粗砾岩层中形成了无数的银矿脉。

16 世纪，探矿者开始在仙之山勘探，他们发现几条勘探出的银矿脉都分布在地表附近——这是热液大量流经这座多孔性山体的结果。这些特性意味着许多矿脉不仅富含白银，而且相对易于开采，即使在炸药出现之前，也可以使用矿工常用的凿锤进行挖掘。

然而，数千年形成的多孔岩石虽然是造就石见银山繁荣的重要地质条件，但也因此在四百年的采矿史中屡次酿成灾祸。仙之山的地质特性使得雨水极易渗入山体汇入溪谷，屡屡引发毁灭性的洪水与山体滑坡。

<繁体字>**石見銀山的地質風貌**

自十六世紀中葉起，挖礦工作便圍繞著仙山這座古老火山而展開；其獨特的地質構造使石見銀山成為全球產量最豐沛的銀礦之一。約一百五十萬年前，火山爆發後的灼熱火山灰與半凝固熔岩碎塊開始堆積於火山口周圍，逐漸塑造出仙山的雛形。新形成的峰頂有如巨型沙堆般結構多孔。

同時，山體下方的火山活動仍持續進行。岩漿自下方加熱地下水，使其轉化為超過 200°C 的熱液，但地底深處的高壓環境使其不致蒸發汽化。這股高溫熱液從鄰近的岩石與岩漿中溶解並釋放出銀、銅等元素。富含金屬的流體隨後透過基岩裂隙向上滲透，穿透山體多孔岩層，將白銀送至山坡各處。隨著流體因溫度與壓力變化而逐漸冷卻凝固，粗糙的岩層之中便留下了無數銀礦脈。

當十六世紀的探礦者開始在仙山開採時，他們發現了多條分布在地表附近的銀礦脈，這正是大量熱液流經多孔山體所造成的現象。這些特性意味著許多礦脈不僅富含銀礦，且在炸藥尚未引進之前，礦工僅憑鑿子與鐵鎚，便能相對容易地開鑿山體，開採銀礦。

然而，這片歷經數千年地質作用形成的多孔岩層，雖是孕育石見銀山繁榮發展的先決條件，卻也在四百年的礦業歷史中屢次成為災害的根源。仙山的地質特性使雨水得以輕易滲透山體、匯入山谷，反覆引發具破壞性的洪水與土石流。

＜日本語仮訳＞

石見銀山の地質

石見銀山が世界有数の高生産性を誇る銀山となったのは、1500 年代半ば以降に鉾山と中心となった古火山・仙ノ山の特異な地質的特徴によるものである。この山は約 150 万年前に形成が始まった。火山噴火により火口周辺に高温の火山灰や部分的に固化した溶岩塊などの火砕物が堆積したのだ。新たに形成された山頂は巨大な砂の山のように脆さが特徴だった。

山体の地下では火山活動が続き、マグマが地下水を温め、200°C 以上の高温でありながら地下深部の高圧環境により蒸発しない熱水へと変化させた。この熱水の熱により、岩石やマグマから銀や銅などの元素が溶け出した。金属を含むこの流体は基盤岩の割れ目を上方に浸透し、多孔質の仙ノ山を貫通して銀を山全体に運んだ。温度と圧力の変化により液体が冷却・固化すると、粗い岩石中に無数の銀脈が形成された。

1500 年代に仙ノ山で採掘を始めた探鉱者たちは、発見した銀脈の多くが地表近くに存在することに気づいた。これは熱水が脆い山体を広く流れた結果であった。この特性により、多くの鉾脈は銀を豊富に含み、かつ比較的容易に採掘可能であった。鉾夫たちは火薬時代以前、山腹を掘削するためにノミやトンカチを使用していた。

しかし、この多孔質の岩盤は、石見銀山が繁栄する基盤となった数千年にわたる地質作用の前提条

件であった一方で、400年に及ぶ鉾山の歴史の中で幾度となく災いをもたらした。仙ノ山の地質的特性ゆえに、雨水は山体を比較的容易に浸透し、谷へ流れ込むことが多く、繰り返し壊滅的な洪水や土砂崩れを引き起こしたのである。

【タイトル】 石見銀山遺跡/石見銀山の文化的景観

【想定媒体】 Web

<簡体字>

石见银山的文化景观

2007 年，石见银山被列入联合国教科文组织世界遗产名录，理由主要有三点：石见银山在 16 世纪和 17 世纪初对世界经济的影响；整个区域内保存完好的银生产考古证据；以及矿山本体与相关遗址（采矿聚落、宗教设施、交通线路、山城、港口等）的完整性。矿山及其附属设施构成的有机整体，常被称为“石见银山文化景观”。

这一景观的所有关键要素至今保存完好。游客可以进入部分矿坑和竖井，沿着矿山通往日本海的百年古道徒步行走，或在大森镇参观昔日积累财富的商贾旧宅。这些遗址共同展示了从中世纪到 20 世纪 20 年代，矿山社会的历史变迁。它们揭示了矿山如何随着时间推移为适应各种需求而进行扩展和改造，高度专业化的经济体系如何围绕矿山发展起来，以及白银开采四百年间石见银山管理制度的演进。

探索这一文化景观，可以清晰地感受到地理条件如何促成了石见银山的繁荣。例如，借助毗邻日本海沿岸港口城镇温泉津的地理优势，得以在 16 世纪将白银直接运往国内外市场。这一时期，石见银山常被称为“温泉银山”。这一别名生动地揭示出矿山与温泉津之间的互利关系，在 1527 年银矿发现前，温泉津仅以温泉闻名。尽管到 17 世纪初，经由温泉津运输白银的历史已经终结，但纵观整个江户时代（1603-1867 年），该镇始终是矿山主要的物资供应地和当地海上贸易中心。

<繁体字>

石見銀山的文化景觀

石見銀山於 2007 年被聯合國教科文組織列為世界遺產，主要基於三大因素：其對十六世紀至十七世紀初世界經濟的影響力、區域內各處銀礦生產考古證據保存完好，以及礦場本身與相關遺址（從採礦聚落、宗教場所到運輸路線、山城及港口）的完整性。這座礦山及其附屬設施所構成的有機整體常被稱為石見銀山的「文化景觀」。

今日、這片景觀的所有關鍵元素仍保存完整。遊客不僅可探訪部分礦坑隧道與礦井、沿著通往日本海的數百年古道步行，更可在大森町參觀當年在此發家致富的商戶故居。這些遺址共同訴說著從中世紀至 1920 年代的礦業社區史。它們揭示礦場如何因應不同目標而擴建改造，如何催生高度專業化的礦業經濟體系，以及在四百年間的銀礦開採歷程中，管理體制的演變。

在探索文化景觀時，可以一目了然地發現石見銀山的地理條件如何促成礦場的繁榮。例如，其鄰近日本海港口城鎮溫泉津的地理優勢，使得十六世紀時礦場產出的白銀得以直接運往日本國內及海外市場。在此時期，石見銀山常被稱為「溫泉銀山」（*yunoginzan*）。此別稱源於礦區與溫泉津的互利關係，後者於 1527 年發現銀礦之前，僅以溫泉聞名。儘管十七世紀初已不再經由溫泉津運輸銀礦，但在整個江戶時代（1603–1867）該城鎮仍持續作為礦區主要物資供應的集散地，並維持著當地海上貿易的中心地位。

＜日本語仮訳＞

石見銀山の文化的景觀

2007 年に石見銀山がユネスコの世界遺産に登録された際、その評価は主に三つの理由に基づいていた。16 世紀から 17 世紀初頭にかけて世界經濟に与えた影響、地域全体に保存された銀生産の考古学的証拠、そして鉱山本体と関連遺跡（鉱山集落、宗教施設、交通路、山城、港湾など）の完全性である。この鉱山とその付属施設が一体となった有機的な全体は、しばしば「石見銀山の文化的景觀」と呼ばれている。

この景觀を構成する主要な要素は、今日でもそのまま残されている。間歩や坑道の一部には入ることができ、鉱山から日本海へと続く何世紀も前の道は今も歩むことができ、大森町ではここで富を築いた商人家族の旧宅を見学することができる。これらの遺跡群は、中世から 1920 年代に至る鉱山社会の変遷を物語っている。時代ごとに異なる目的のために鉱山が拡張・改変された経緯、鉱山を核とした高度に専門化された經濟の發展、そして銀が産出された 400 年間にわたる鉱山行政の変遷が浮かび上がる。

この文化的景觀を探求することで、石見銀山の地理的条件が鉱山の繁栄を可能にしたことが鮮明に浮かび上がる。例えば日本海に面した港町・溫泉津への近接性は、16 世紀に銀を国内・海外市場へ直接出荷することを可能にした。この時期、石見銀山はしばしば「湯の銀山」と呼ばれた。この異名は、鉱山と溫泉津の共生関係を指す。溫泉津は 1527 年に銀が発見されるまで、溫泉でしか知られていなかった町である。溫泉津経由の銀の輸送は 1600 年代初頭に終焉を迎えたものの、町は江戸

時代（1603-1867）を通じて鉱山の主要な物資供給源であり、海運貿易の地域拠点であり続けた。

【タイトル】 石見銀山遺跡/海外とのつながり：ベトナム（ホイアン）

【想定媒体】 Web

<簡体字>

石见银山与越南会安的渊源

16 世纪，石见银山开采的大量白银成为支撑由西班牙和葡萄牙帝国主导的世界经济的重要动力。白银流向海外市场的贸易枢纽之一，是当时南中国海最重要的商业港口——越南会安。

对白银的需求源于中国明朝，当时，中国明朝刚刚转向银本位制，并且于 1567 年解除了长期实施的海上贸易禁令。由于中日之间缺乏正式的贸易协定，葡萄牙人遂扮演起中间商的角色。他们用中国丝绸换取日本白银，并将白银运往会安出售给中国商人。这项贸易创造的财富使得会安这座秋盆河畔的城市发展成为繁荣的国际商贸中心。

17 世纪初，新成立的德川幕府限制白银外销，石见银山与会安的直接联系由此中断。然而，根据幕府与越南阮主政权签订的条约，会安与日本商业往来仍在继续。1604 年至 1635 年间，多达 70 艘“朱印船”（因其携带幕府授予的从事海外贸易的朱印许可证而得名）从长崎驶往会安。他们在那里采购丝绸、糖和沉香（一种因其芳香和药用价值而备受推崇的热带商品）等。

这种交流催生了会安的日本人聚居区。17 世纪上半叶，据信有数百名商人居住在这个城镇西侧街区，数十栋日式房屋沿河而立。17 世纪 30 年代末，德川幕府实行锁国政策，切断了与越南的直接贸易，日本人聚居区逐渐衰落。随后中国商人逐渐接管了街区并进行了改造，包括以中式风格改建了街区中心的日式桥梁。

2007 年，石见银山被联合国教科文组织列入世界遗产名录，石见银山与会安中断已久的关系也得以恢复。上述“日本桥”所在的会安古城，也于 1999 年列入世界遗产名录。截至 2024 年，会安每年都会举办日本文化节。

<繁体字>

石見銀山與會安的淵源

十六世紀於石見銀山開採出的大量白銀促進了以西班牙與葡萄牙帝國為主導的世界經濟。遠在越南的會安市便是石見銀山白銀流向海外市場的樞紐之一；這座城鎮堪稱當時南中國海最重要的商業港口。

當時對石見白銀的需求源自甫轉型為白銀本位經濟體系的明朝中國，其於 1567 年解除了長期海上貿易禁令。由於中日缺乏正式貿易協定，葡萄牙人遂擔任中介角色：他們以中國絲綢換取日本白銀，再將白銀運往會安售予中國商人。這項貿易創造的財富，使得秋盆江畔的會安城蛻變為繁榮的國際樞紐。

十七世紀初，石見銀山與會安的直接貿易關係因新成立的德川幕府限制白銀海外交易而中斷。然而，這座城市與日本的商業往來仍持續進行著，並以幕府與越南唐冲王國所簽訂的條約為綱領。自 1604 至 1635 年間，多達七十艘持有幕府核發的紅印外貿許可證的「紅印船」，自長崎駛往會安。船商在此採購絲綢、砂糖及沉香等商品，其中沉香作為熱帶珍品，因其芳香與藥用價值備受推崇。

這些貿易往來催生了會安的日本街區。據考證，有數百名商人在十七世紀上半葉聚居於城鎮西緣的區域，沿河排列了數十棟日式建築。1630 年代末，德川幕府採取鎖國政策並終止與越南的直接貿易往來後，會安的日本街區也隨之沒落。接管此區的中國商人逐步將其加建改造，包括將中心地帶的日式橋樑改為中式風格。

自 2007 年石見銀山獲列聯合國教科文組織世界遺產後，其與會安間沉寂已久的淵源得以重啟。前述「日本橋」所在地的會安古鎮早在 1999 年便已獲得相同殊榮。直至 2024 年，會安每年都會舉辦日本文化節。

＜日本語仮訳＞

石見銀山とホイアンの関係

1500 年代、石見銀山で採掘された膨大な量の銀は、スペインとポルトガルの帝国が支配する世界経済を支える原動力となった。銀が遠方の市場へと流れ込んだ交易拠点の一つが、当時の南シナ海で最も重要な商業港であったベトナムのホイアンであった。

石見銀への需要は、銀本位制経済へ移行したばかりの明の国から生じた。同国は 1567 年、長きにわたる海上貿易禁止令を解除した。中国と日本の間に正式な貿易協定が存在しなかったため、ポル

トガル人が仲介役を担うようになった。彼らは中国の絹で日本の銀を購入し、ホイアンへ輸送して中国商人に販売した。この交易が生んだ富により、トゥボン川沿いのこの都市は国際的な交易拠点として繁栄した。

1600 年代初頭、新たに成立した徳川幕府が海外への銀販売を制限したことで、石見銀山とホイアンの直接的な繋がりは断たれた。しかし、同市と日本の間の商業的交流は継続した。今度は幕府とベトナムのダンジョン王国との間の条約のもとである。1604 年から 1635 年の間に、最大 70 隻の「朱印船」――その名は、外国貿易に従事するための徳川家から発行された朱印の許可状を運んでいたことに由来する――が長崎からホイアンへと航海した。そこで彼らは絹、砂糖、そして芳香と薬効で高く評価された熱帯産品である沈香などの物品を調達した。

この交流によりホイアンに日本人街が出現した。1600 年代前半、町の西端に位置するこの地区には数百人の商人が居住し、川沿いに数十軒の日本家屋が並んでいたと考えられている。1630 年代後半、徳川幕府が鎖国政策を採用しベトナムとの直接貿易を断絶すると、日本人街は衰退した。この地区を引き継いだ中国商人たちは、日本人によって築かれた中心部の橋を中国様式に改築するなど、徐々にその様相を変えていった。

2007 年に石見銀山がユネスコの世界遺産に登録されたことを契機に、長らく途絶えていた石見銀山とホイアンの関係が再燃した。前述の「日本橋」が位置するホイアン旧市街は 1999 年に世界遺産となっていた。ホイアンでは 2024 年まで毎年「日本祭り」が開催されていた。

【タイトル】 石見銀山遺跡/海外とのつながり：ポーランドの鉱山

【想定媒体】 Web

<簡体字>

石见银山与波兰塔尔诺夫斯凯古雷银矿的联系

自从 1527 年石见银山发现银矿以来，该矿山一直运营到 1923 年。这段近 400 年的开采期，与 1526 年开矿、1913 年闭坑的波兰塔尔诺夫斯凯古雷银矿高度重叠。如今，两座矿山都已列入联合国教科文组织世界遗产名录，双方正积极推动两地官员和学者之间的交流。

从建矿到 16 世纪末，塔尔诺夫斯凯古雷银矿一直是铅和银的重要产地，它们都开采于方铅矿。开采出的白银主要用于当地统治者铸造钱币，约 80% 的铅则出口到中欧其他矿业中心，用于金银精炼等用途。

然而，无论是在塔尔诺夫斯凯古雷银矿还是石见银山，矿井排水都是一大难题。随着矿坑延伸得更长更深，矿工不可避免地会触及岩层中的地下水体，导致坑道渗水，阻碍矿石的开采。排水的问题在塔尔诺夫斯凯古雷银矿尤其严峻，其涌水量几乎是欧洲其他主要矿山的三倍。为了解决这个问题，人们开发了一个总长超 150 公里的排水系统网络，涵盖坑道、通道、竖井及运输巷道。这一保存完好的水管理系统也是该矿入选世界遗产的关键理由之一。

18 世纪末起，塔尔诺夫斯凯古雷银矿在普鲁士的统治下实现了现代化和机械化。这里开采的金属为 19 世纪德国重工业的崛起做出了贡献。到了 20 世纪初，方铅矿储量枯竭，矿山最终被迫关闭。

2017 年塔尔诺夫斯凯古雷银矿申遗成功，开启了与石见银山的交流合作。2023 年，石见银山所在地的大田市代表访问了塔尔诺夫斯克古雷银矿，旨在深化与“塔尔诺夫斯凯古雷乡土之友协会”的协作关系。这一非政府组织不仅负责管理矿山，还在保护方面发挥了关键作用。

<繁体字>

石見銀山與波蘭塔爾諾夫斯凱古雷銀礦的淵源

石見銀山於 1527 年發現銀礦後，開採工作持續至 1923 年。這段近四百年的開採歷史與波蘭塔爾諾夫斯凱古雷銀礦的營運時期大致重疊（該礦場於 1526 年啟用，1913 年關閉）。兩座礦場現均列為聯合國教科文組織世界遺產，目前正積極推動兩地官員與學者間的交流合作。

自開採至十六世紀末，塔爾諾夫斯凱古雷礦場一直是重要的鉛銀產地，其礦石皆提煉自方鉛礦（硫化鉛）。當地統治者主要將白銀用於鑄幣，約八成鉛礦則出口至中歐其他礦業中心，用於提煉金銀及其他用途。

然而塔爾諾夫斯凱古雷與石見銀山均面臨嚴峻的礦井排水難題。隨著礦坑隧道向山體深處延伸，礦工難免會鑿穿岩層中的地下水層，導致礦坑積水並阻礙礦石開採進度。塔爾諾夫斯凱古雷的排水困境尤為嚴峻，其滲水量幾乎是歐洲其他主要礦場的三倍之多。為解決此問題，礦場發展出一套全長逾 150 公里的排水系統，包含隧道、走道、豎井及運輸廊道。這套保存完好的排水管理系統，正是該礦區獲列世界遺產的主要原因之一。

自十八世紀末普魯士統治時期起，塔爾諾夫斯凱古雷礦場逐步實現現代化與機械化改造。十九世紀期間，該礦場產出的金屬資源對德國重工業的崛起具有重要貢獻。到了二十世紀初，由於方鉛礦儲量枯竭，礦場被迫關閉。

自 2017 年波蘭塔爾諾夫斯凱古雷礦場獲列世界遺產後，與石見銀山展開交流活動。2023 年，石見銀山所在地的尾田市代表團造訪塔爾諾夫斯凱古雷，深化與當地非官方組織「塔爾諾夫斯凱古雷土地愛好者協會」的合作關係。該協會負責管理礦場遺跡，並在遺產保護中發揮關鍵作用。

<日本語仮訳>

石見銀山とタルノフスキエ・グリ銀山の関係

1527 年、石見銀山で銀が発見され、鉱山は 1923 年まで操業を続けた。この約 400 年にわたる活動期間は、1526 年に開坑し 1913 年に閉山したポーランドのタルノフスキエ・グリ銀山とほぼ重なる。両鉱山は現在ユネスコの世界遺産に登録されており、両地域の行政関係者や学者の交流を促進する取り組みが進行中である。

タルノフスキェ・グリ銀山は創設から 16 世紀末まで、方鉛鉱（鉛光鉱）から鉛と銀を採掘する重要な鉱山であった。銀は主に地方支配者による貨幣鑄造に用いられ、鉛の約 80%は中央ヨーロッパの他の鉱山拠点へ輸出され、金銀精錬などの目的に使用された。

しかしタルノフスキェ・グリと石見銀山の両鉱山において、坑内の排水は困難な課題となった。坑道がより長く深く掘られるにつれ、坑夫たちは岩盤内の地下水溜まりに必ず遭遇し、坑道が浸水して鉱石の採掘が妨げられた。この水との闘いはタルノフスキェ・グリで特に顕著であり、同鉱山はヨーロッパの他の主要鉱山と比べて約 3 倍の湧水量を経験した。この結果、150 キロメートル以上に及ぶ坑道、通路、立坑、輸送路からなる排水システムが構築された。この鉱山の水管理システムが良好な状態で保存されていたことが、世界遺産登録の主要な理由の一つとなった。

タルノフスキェ・グリ鉱山は 18 世紀後半以降、プロイセン支配下で近代化・機械化が進められた。ここで採掘された金属は 19 世紀のドイツにおける重工業発展に貢献した。20 世紀初頭までに方鉛鉱の埋蔵量が枯渇し、鉱山は閉鎖を余儀なくされた。

2017 年にポーランドの銀山が世界遺産に登録されたことを受け、石見銀山とタルノフスキェ・グリ間の交流が始まった。2023 年には石見銀山のある大田市から代表団がタルノフスキェ・グリを訪問し、鉱山の管理と保存に尽力する NGO「タルノフスキェ・グリ土地愛好家協会」との連携を深めた。

【タイトル】 石見銀山遺跡/海外とのつながり：台湾の鉱山

【想定媒体】 Web

<簡体字>

石见银山与台湾矿山的联系

石见银山与台湾北部两座历史悠久的矿山之间的联系可以追溯到一个多世纪前，且至今依然联系紧密。19 世纪 80 年代末，日本的殖民政策为这种联系奠定了基础，如今，两地博物馆之间仍保持着合作研究与联合项目。

殖民背景

日本在甲午战争（1894–1895 年）中取得胜利后，获得了包括台湾岛在内的中国领土，成为殖民国家。这一时期，石见银山由藤田组经营，该公司于 1886 年获得了银矿的开采权，同时也在日本其他地方经营着矿山。然而，藤田组当时正因矿山利润不足而陷入财务困境。1896 年，急于开发新殖民地的日本政府，打算分配台湾两处前景看好的矿山的开采权。藤田组抓住这个机会，获得了台湾北部九份附近瑞芳金铜矿的开采权。

在台采矿

藤田组对台湾的产业大量投资，引入了先进的采矿和精炼设备及技术，其中一些正是来自于石见银山。许多在石见银山脱颖而出的工程师和专家也被调往瑞芳，在两地矿山之间形成活跃的人才交流。九份发展成为一座繁荣的小镇，但在 1923 年，也经历了一场危机，当时藤田组突然撤出其在台湾的业务。同年，世界市场上低廉的铜价迫使藤田组关闭了石见银山的业务。

日本在台湾的采矿活动在九份附近的金瓜石金矿继续进行。1935 年，金瓜石金矿成了日本帝国境内产能最高的金矿，每年可生产多达 2.6 吨黄金。该矿一直运营到 1987 年，现已被列为历史遗址。

友好关系

如今，位于瑞芳的新北市黄金博物馆展示了九份地区的采矿历史。自 2010 年以来，黄金博物馆的研究人员一直与石见银山世界遗产中心的研究人员保持着合作关系。近年来，两处遗址积极交流信息，并举办了多场联合展览及活动。2025 年 7 月，两家机构缔结了姐妹博

物館協議。

＜繁體字＞

石見銀山與台灣礦山

石見銀山與台灣北部兩座歷史礦山之間的淵源可追溯至百餘年前，且至今仍密切聯繫。1880 年代末期的日本殖民政策為這段關係埋下種子，現今已發展為兩國博物館間的歷史研究合作與聯合計畫。

殖民背景

日本於甲午戰爭（1894–1895）獲勝後成為殖民強權，並取得包括台灣島在內的中國領土。當時石見銀山由藤田組公司所掌控，該公司於 1886 年取得該銀礦開採權，同時也在日本國內其他地區經營礦場。然而，藤田組因礦場獲利狀況不佳而陷入財務困境。1896 年，急於開發新殖民地的日本政府釋出台灣兩處具潛力礦場的開採權。藤田組隨後把握良機，成功取得位於台灣北部九份附近的瑞芳金銅礦開採權。

日本在台採活動

藤田組對台礦業投入巨資，引進當時最先進的採礦與冶煉設備技術，其中部分技術源自石見銀山。許多已在石見銀山做出實績的工程師與技術專家亦被調派至瑞芳，兩座礦場間展開頻繁的人員交流。九份因此發展成為繁榮小鎮，並在 1923 年藤田組突然撤離台灣礦場後，仍得以存續。同年，全球銅價低迷迫使該公司關閉石見銀山礦場。

日本在台採礦事業於九份附近的金瓜石金礦持續進行。1935 年，金瓜石成為日本帝國產量最高的金礦，年產黃金量高達 2.6 噸。該礦場持續運作至 1987 年，現已被指定為歷史遺跡。

友好關係

如今，民眾可於瑞芳的新北市黃金博物館探索九份地區的採礦歷史。自 2010 年起，黃金博物館研究人員與石見銀山世界遺產中心的學者展開合作，兩地積極交流資訊，近年更舉辦多場聯合展覽與活動。雙方機構於 2025 年 7 月正式簽訂姊妹博物館協定。

＜日本語仮訳＞

石見銀山と台湾の鉱山

石見銀山と台湾北部の二つの歴史的鉱山との結びつきは、一世紀以上に遡り、今日まで強固に続いている。1880 年代後半の日本の植民地政策がこの関係の礎を築き、現在では両国の博物館間での共同歴史研究や共同事業など様々な形で結実している。

植民地時代の背景

日清戦争（1894-1895 年）における日本の勝利は、台湾島を含む中国領土の獲得をもたらし、日本を植民地支配国へと変えた。当時、石見銀山は藤田組によって運用されていた。同社は 1886 年に銀山の権利を取得し、国内の他の地域でも鉱山を運営していた。しかし藤田組は鉱山の収益性が低く財政難に陥っていた。1896 年、新たに獲得した植民地の開発を急ぐ日本政府は台湾の有望鉱山 2 か所の採掘権を分配。藤田組はこの機会を捉え、島北部九份町近郊の瑞芳金銅鉱山の採掘権を獲得した。

台湾における日本の鉱業

藤田組は台湾事業に多額の投資を行い、最先端の採掘・精錬設備と技術を導入した。その一部は石見銀山で開発されたものだった。多くの技術者や専門家も石見銀山で実績を積んだ後、瑞芳に転属し、両鉱山間で活発な人材交流が行われた。九份は活気ある町へと発展したが、1923 年に藤田組が突如として台湾事業から撤退した危機的状況も乗り越えた。この年は世界市場の銅価格低迷により、同社が石見銀山の操業を停止した年でもあった。

台湾における日本の鉱業は、九份近郊の金瓜石金鉱山で継続された。1935 年、金瓜石は帝国最大の金鉱山となり、年間最大 2.6 トンの金を産出した。1987 年まで操業を続け、現在は史跡に指定されている。

友好関係

現在、九份地域の鉱業史は瑞芳にある新北市立黄金博物館で学ぶことができる。同博物館の研究者らは 2010 年より、石見銀山世界遺産センターの研究者らと協力関係を築いている。両施設は積極的に情報を交換し、近年では数多くの共同展示やイベントを開催してきた。両機関は 2025 年 7 月に姉妹博物館協定を締結した。

【タイトル】 石見銀山遺跡/龍源寺間歩：坑道内の見どころ

【想定媒体】 看板

＜簡体字＞

龍源寺間歩

您即将进入的这座矿坑，是坚韧意志的历史见证。它历经百余载时光，仅凭锤凿开凿而成。矿工每日仅能推进约 30 厘米，但经过世代坚持，最终将矿坑推进至山体深处约 600 米处。

矿坑内部的岩壁上仍留存着工具的凿痕，以及当年矿工们找寻银矿脉的痕迹。这些银矿脉的颜色通常深于周边的岩层。在沿着银矿脉开凿，从主坑道延伸出来的小矿坑处尤为清晰可辨。

＜繁体字＞

龍源寺間歩礦坑

您即將踏入的礦坑見證了人們的堅韌精神。這條礦道歷經百餘年開鑿，僅憑鐵鎚與鑿子挖掘而成。礦工每日僅能推進約三十公分，但在世代相承、不懈努力之下，終將礦道延伸至山腹深處近六百公尺。

在礦坑內壁上，礦工所用工具留下的痕跡至今仍清晰可見，而他們所追蹤的白銀礦脈痕跡亦隱約可辨。這些礦脈通常比周圍岩層顏色更深，在主礦道分岔處、為追蹤礦脈而開鑿出的小型支道上尤為顯眼。

＜日本語仮訳＞

龍源寺間歩

これから入る間歩は、粘り強さの証だ。100 年以上の歳月をかけ、トンカチとノミだけで掘り進められた。作業員が 1 日で進めるのはわずか 30 センチほどだったが、何世代にもわたり掘り続け、ついに坑道を山の中へ 600 メートル近くまで延ばしたのである。

内部の壁には今も彼らの道具の痕跡が残っており、坑夫たちが探していた銀脈の痕跡も見られる。これらは通常、周囲の岩よりも色が濃く、銀脈を追って掘られた小坑道が本坑から分岐する地点で容易に見分けがつく。

【タイトル】 石見銀山遺跡/用語：ひおい坑

【想定媒体】 Web

＜簡体字＞

术语：支坑

在石见银山的间歩中，还有大量从主坑道延伸出来的水平或倾斜的坑道。挖掘这些坑道是为了追踪银矿脉，它们大多会斜向贯穿山体。这些坑道的宽度仅容矿工单人侧身或匍匐才能勉强通过，这表明矿工的工作条件极其狭窄。有些支坑长达数十米，说明那里可能存在特别富矿的矿脉，即使冒着坍塌的风险也值得开采。另一些支坑则离主坑道不远，很可能是为评估特定矿脉的品质而开凿的，在确认矿脉贫瘠后便被废弃。

＜繁体字＞

詞彙表：支井

石見銀山の礦坑隧道包含大量從主通道分岔出的水平或傾斜礦井。這些礦井為追蹤白銀礦脈而開鑿，多數呈斜向貫穿山體。其寬度往往僅容礦工單列擠身或匍匐通過，可見當時的工作環境十分狹窄。部分支井長達數十公尺，表示該處礦脈極為豐富，即使面臨塌陷風險仍值得開鑿。另有些支井幾乎未偏離主要通道，推測是為評估某些礦脈品質而開掘，一旦發現礦脈品質不佳便遭廢棄。

＜日本語仮訳＞

用語：ひおい坑

石見銀山の間歩には、主坑道から分岐する水平または傾斜した坑道が数多く存在する。これらの坑道は銀脈を追って掘られたもので、そのほとんどが山を斜めに貫いている。坑道幅は坑夫が一人ずつ這うか、かろうじて通り抜けられる程度にしかなく、坑夫たちが極めて狭隘な環境で働いていたことを物語っている。坑道の中には数十メートルに及ぶものもあり、崩落の危険を冒しても追跡する価値のある特に豊富な鉱脈があったことを示している。一方、本坑からほとんど離れていない坑道もあり、これらは特定の鉱脈の質を評価するために掘削され、鉱脈が期待外れだと判明すると放棄されたものと考えられる。

【タイトル】 石見銀山遺跡/用語：四つ留

【想定媒体】 Web

＜簡体字＞

术语：四留

石見銀山礦坑の入口都经过精心加固，因为坑道口是最容易塌方的位置。入口上方通常会架设由四根柱子支撑的粗加固横梁。这一结构被称为四留（*yotsudome*，字面意为“四柱遮挡”），它划定了矿山与外界的界线。这既是一道物理界线，也是一道精神界线：四留上方通常会设置一座小神龛，矿工们在踏入矿山前，会先向供奉于此的神明祈求平安。

＜繁体字＞

詞彙表：四留

石見銀山礦坑隧道入口處皆經過精心加固處理，因為坑道口最易發生塌陷。入口處可見四根支柱支撐著粗木樑作為加固結構。這種稱為四留（*yotsudome*，字面意為「四重阻擋」）的結構將礦坑與外界分隔開來。此結構不僅是實體分界線，同時兼具精神意義：四留頂端通常設有小型神社，礦工在入山之前，總會向供奉的神明祈求庇佑。

＜日本語仮訳＞

用語：四つ留

石見銀山の間歩入口は、崩落の危険が最も高いため入念に補強されていた。入口は四本の柱で支えられた太い木製の梁で補強されていた。この構造物は四つ留めと呼ばれ、鉱山と外界の境界を画していた。それは物理的境界であると同時に精神的境界でもあった。四つ留めの上には通常小さな祠が設けられ、坑夫たちは山に入る前に祀られた神に安全を祈願した。

【タイトル】 石見銀山遺跡/用語：螺灯

【想定媒体】 Web

<簡体字>**术语：油灯**

在石见银山的大部分历史中，油灯是矿工唯一的光源。这些油灯用蝾螺（一种可食用的海螺）的贝壳制成，内盛紫苏油或菜籽油。作业时，矿工们会将灯放在岩壁的孔洞中或壁架上，以照亮周围环境。灯火燃烧产生的煤烟，是矿工群体多发呼吸系统疾病的主因。不过，据说矿工们也会根据油灯燃烧产生的烟柱来判断是否缺氧。当空气中氧气含量低至危险水平时，油灯的烟柱便会摇曳示警。

<繁体字>**詞彙表：油燈**

在石見銀山的絕大部分開採歷史中，油燈是礦工唯一可用的光源。這些油燈是以可食用的角螺（一種於日本稱作「sazae」的大型海螺）外殼製成，燈內則注入紫蘇油或菜籽油。礦工工作時會將油燈置於坑道牆壁的孔洞或岩架上，藉此照亮周遭環境。燃燒油燈產生的煤煙是導致礦工之間常見呼吸道疾病的主要原因。然而，據傳礦工們也仰賴油燈散發的煤煙柱來避免在礦坑內窒息，因為當空氣中的氧氣含量降至危險低點時，這道煙柱便會開始飄動。

<日本語仮訳>**用語：螺灯**

石見銀山の歴史の大半において、坑夫が利用できる唯一の光源は油ランプであった。これらはサザエ（食用巻貝の一種）の貝殻を加工して作られ、紫蘇油または菜種油が注がれていた。作業中、坑夫たちはランプを坑道の壁面の穴や窪みに置き、周囲を照らした。灯りが燃える際に発生する煤は、坑夫に蔓延した呼吸器疾患の主要な原因であった。しかし一方で、坑夫たちは窒息から身を守るため、自らの灯りから立ち上る煤の煙柱を頼りにしていたとも伝えられる。空気中の酸素濃度が危険なほど低下すると、その煙柱が揺らめいたという。

【タイトル】 石見銀山遺跡/用語：疏水

【想定媒体】 Web

＜簡体字＞

术语：排水井

为防止地下水淹没坑道、阻碍采矿，石见银山的矿工在整个矿山内开凿了排水井。其中相对高效的方法是向下开凿垂直的排水井，使之与低于现有采矿点的水平隧道相接。水流会向下涌入这些新隧道，最终排入河流。龙源寺间歩的排水井就将水排入了地下约 100 米深处的隧道和竖井网络中。

＜繁体字＞

詞彙表：排水井

石見銀山礦工為防止地下水持續淹沒礦坑隧道、阻礙礦石開採，會在礦區各處挖掘排水井。其中較有效的方法是開鑿垂直排水井，連結位於現有採礦場下方的水平隧道。水會順著這些排水隧道流入河川。例如龍源寺間歩坑道的排水井會將水排入位於地下約 100 公尺、由隧道與豎井組成的排水網路系統。

＜日本語仮訳＞

用語：疏水

石見銀山の坑夫たちは、地下水が坑道を浸水させ鉱石の採掘を妨げるのを防ぐため、坑内全体に疏水坑を掘削した。比較的効果的な方法は、垂直の疏水坑を掘り進め、既存の採掘場よりも低い標高の水平坑道と接続させることだった。水はこれらの排水坑道へ流れ込み、河川へ放流された。例えば龍源寺間歩の疏水坑は、さらに約 100 メートル地下にある坑道網へと水を導いていた。

【タイトル】 石見銀山遺跡/用語：ヘビノネコザ

【想定媒体】 Web

＜簡体字＞

术语：禾秆蹄盖蕨 (*Hebino-negoza*)

禾秆蹄盖蕨 (*Athyrium yokoscense*) 是一种低矮的浅绿色植物，叶片呈拱形。它在富含锌、铅、铜、银等重金属的土壤中生长旺盛。石见银山的探矿者曾将这种植物作为指示矿脉的标志。即便在今天，这片区域仍生长着许多禾秆蹄盖蕨，标志着地下仍蕴藏着丰富的银矿。

＜繁体字＞

詞彙表：禾稈蹄蓋蕨 (*Hebino-negoza*)

禾稈蹄蓋蕨 (*Hebino-negoza*; 學名: *Athyrium yokoscense*) 是一種低矮的亮綠色植物，葉片呈拱形。此物種能在富含重金屬（如鋅、鉛、銅及銀）的土壤中茁壯生長。據記載，石見銀山的探礦者曾視其為潛在礦區的指標。時至今日，此植物在當地仍隨處可見，顯示地底仍蘊藏著豐富的銀礦資源。

＜日本語仮訳＞

用語：ヘビノネコザ

ヘビノネコザ (*Athyrium yokoscense*) は、低く茂る鮮やかな緑色の植物で、葉は弓形に反り返る。亜鉛、鉛、銅、銀などの重金属を多く含む土壤でよく育つ。石見銀山の探鉱者たちは、この植物を鉱脈の指標として信頼していたことで知られている。今日でもこの地域に広く見られることから、地中にまだ豊富な銀が残されていることを示している。

地域番号	022	協議会名	津山まちじゅう博物館コンソーシアム

解説文一覧

NO.	スポット名（タイトル）	中国語文字数	想定媒体
022-001	津山城跡/五番門と土堀	175	Web/その他
022-002	津山城跡/腰巻櫓	146	Web/その他
022-003	津山城跡/七番門と虎口	238	Web/その他
022-004	津山城跡/多聞櫓	183	Web/その他
022-005	津山城跡/長局と到来櫓	155	Web/その他
022-006	津山城跡/京橋門	215	Web/その他
022-007	津山城跡 天守閣内部再現 1/天守閣構造	170	Web/その他
022-008	津山城跡 天守閣内部再現 2/湯殿と便所	245	Web/その他
022-009	津山城跡 天守閣内部再現 3/貴重な資料 天守最上階にある珍しい上段の間	171	Web/その他
022-010	津山城跡 天守閣内部再現 4/重装備な天守	371	Web/その他
022-011	津山城跡 天守閣内部再現 5/天守への入り口	116	Web/その他
022-012	津山城跡 天守閣内部再現 6/天守最上階の南蛮鐘	320	Web/その他
022-013	津山城跡 天守閣内部再現 7/天守北側の七番門周辺/天守南側、五番門周辺の入り組んだ枡形虎口	236	Web/その他
022-014	津山城跡 8 天守閣内部再現太鼓壁/防弾と省力化から生まれた太鼓壁	180	
022-015	津山城跡 堀 1/壮大な一重の堀	229	Web/その他
022-016	津山城跡 堀 2/外堀の櫓	212	Web/その他
022-017	津山城跡 堀 3/大手門（京橋御門）及び両側の屏風折れ土堀	203	Web/その他
022-018	津山城跡 堀 4/田町門周辺の景観	215	Web/その他

022-019	津山城跡 堀 5/北門周辺の景観/宮川にかかる大橋の 景観/翁橋たもとの大番所	205	Web/その 他
022-020	中山神社/中山神社 概要	319	Web/その 他
022-021	中山神社/神門	197	Web/その 他
022-022	中山神社/拝殿	324	Web/その 他
022-023	中山神社/幣殿	162	Web/その 他
022-024	中山神社/本殿	223	Web/その 他
022-025	高野神社/高野神社 概要	280	Web/その 他
022-026	高野神社/木造隨身立像（国指定重要文化財）	217	Web/その 他
022-027	高野神社/木造神号額（国指定重要文化財）	269	Web/その 他
022-028	高野神社/木造獅子 2 対（国指定重要文化財）	199	Web/その 他
022-029	作楽神社/作楽神社 概略	198	Web/その 他
022-030	作楽神社/院庄館跡（児島高德伝説地）（国指定史 跡名勝天然記念物）	361	Web/その 他
022-031	作楽神社/太刀「銘国行」 （国指定重要文化財）	283	Web/その 他
022-032	本源寺/本源寺 概要	532	Web/その 他

【タイトル】 津山城跡/五番門と土堀

【想定媒体】 Web/その他

<簡体字>

五番門と土堀

津山城の五番門位于备中櫓北側，曾是通往天守閣の南側入口。古图纸显示其为瓦顶门楼，考古发掘也证明，当时城门确为山墙式瓦顶结构。

2006 年，为纪念津山城建城 400 周年，五番門南側的石墙经过细致地拆解与重建。根据历史照片资料，石垣顶部曾建有高约 2 米多的土墙。此次重建采用了“太鼓墙”的形式，即构筑两道相对而立的土墙，并在墙体之间填充碎石与瓦砾。

<繁体字>

五番門與土牆

津山城の五番門位於備中櫓北側，曾作為通往天守閣の南側入口。古地圖記載，這座城門採用覆瓦屋頂；考古發掘所出土的遺跡，也證實當時確實使用了瓦頂設計。

2006 年為紀念築城 400 週年，南側石牆經過細緻拆解後重新修復。由古照片可見，石牆頂端過去曾築有逾 2 公尺高的土牆。此次重建採用的是稱為「太鼓牆」的特殊構造，由兩面相對的土牆組成，中間填入碎石與瓦礫，因厚實如太鼓而得名。

<日本語仮訳>

五番門と土堀

津山城の五番門は備中櫓の北側に位置し、城の天守閣への南側の入口として使用されていました。

古い図面では瓦葺きの門として描かれおり、発掘跡地も門が瓦葺きだったことを示しています。

2006 年には築城 400 周年を記念して、門の南側にある石垣が慎重に解体・再建されました。古写真からは、石積みの頂上に高さ 2 メートル強の土堀が築かれていたことが分かっています。向かい合う

2 つの土堀と、堀の間の空洞に碎石や瓦礫を詰めた「太鼓」型の堀（太鼓堀）として再建されました。

【タイトル】 津山城跡/腰巻櫓

【想定媒体】 Web/その他

<簡体字>**腰巻櫓**

腰巻櫓是一座平顶的楼櫓，建于城堡核心区域（本丸）北侧的石垣之上。1890年，支撑此楼櫓的石垣发生坍塌。不久之后，石垣得以重建，但规模较原先有所缩小。此次坍塌事件引发了公众对城堡遗址保护的呼声，提升了人们对于遗址维护与保护必要性的认知。如今，游客仍可看到最底层的石砌结构，以及其后方的支撑部分。

<繁体字>**腰巻櫓**

腰巻櫓是一座平頂櫓樓（防禦塔），坐落於本丸（城池核心區域）北側的石牆上。1890年，支撐這座櫓樓的石牆發生崩塌；事後石牆雖以較小規模重建，卻也意外引發了各界對城跡保存的關注，讓更多人意識到文化資產維護的重要性。如今旅客來到此處，仍可清楚看見最底層的原始石牆，以及其後方的支撐結構。

<日本語仮訳>**腰巻櫓**

腰巻櫓は、平屋根の櫓で、城の中心区画（本丸）の北側の石垣の上に建てられている建物です。1890年に、この櫓を支えていた石垣が崩落しました。それから間もなく、石垣は元のものよりも小規模ながら再建がされました。この崩落が大衆からの城跡の保存を求める声を喚（よ）び、跡地の維持管理と保護の必要性に対する意識を高めました。現在では、入場者は、最下段の石積みと、その背後の支持構造を見学することができます。

【タイトル】 津山城跡/七番門と虎口

【想定媒体】 Web/その他

<簡体字>

七番门的防御设施

津山城的七番门位于比天守阁低一层的位置，坐落在石阶底部，朝西而立。经过考古发掘确认，如今仍可在原址看到该门的地基石。周围的石垣则依据史料中记载的尺寸进行了复原。

七番门曾与地势较低的第二区域（二之丸）相连，两层区域之间有约 3 米的高度差。当地财务官在 1811 年 6 月 8 日的日记中，曾提及“七番门外的梯子”，这很可能是指当时用于连接两层区域的木质阶梯。

据推测，该城门曾被藩主及其家臣频繁使用；而在遭受攻击时，这段阶梯可能会被拆除以切断通行，从而有助于加强天守阁的防御。

<繁体字>

七番門的防禦機制

津山城的七番門位於比天守閣低一層、朝西並坐落於石階基部。當年的礎石因考古發掘而重見天日，周圍的石牆也依史料記載的尺寸得以還原。

七番門原本通往地勢較低的第二層區域「二之丸」，兩個區域之間存在著約 3 公尺的高低差。勘定奉行（掌管財務的官員）於 1811 年 6 月 8 日的日記中曾提及「七番門外的梯子」，因此推測當時可能設有木製階梯以連接高低不同的兩側。

據傳七番門是藩主及其家臣平時經常出入的重要通道；一旦遭遇攻城，階梯可迅速拆除，切斷敵軍動線，發揮守衛天守閣的關鍵作用。

<日本語仮訳>

七番門の砦

城の七番門は天守閣より一段低いところに、石段の基部に西向きにそびえています。発掘により礎石が確認され、現在もその姿を見ることができます。周囲の石垣は、歴史の記録で確認される寸法に基づいて復元されています。

この門は、一段下がった第二の区画（二の丸）と通じていましたが、この二つの段は約 3 メートルの高低差で隔てられていました。勘定奉行が付けていた日記の 1811 年 6 月 8 日の記述には「七番門の外にあるはしご」と残されています。これはおそらく、二つの段をつなぐ木製の階段を指していた可能性があります。

この門は藩主や家臣が頻繁に使用していたと考えられます。しかし、攻撃を受けた時には、この階段を取り外して侵入を遮断し、天守閣の防衛に役立ったということもあり得ます。

【タイトル】 津山城跡/多聞櫓

【想定媒体】 Web/その他

<簡体字>**多聞櫓**

多聞櫓是一种建于城墙顶部的长屋式结构，主要用于防御与监视。在津山城内，天守阁的西南侧、西侧与西北侧共建有三处多聞櫓，均为单层结构。其中以西侧的多聞櫓规模最大，长约 43 米，宽约 5.5 米。

其南北两端曾各有一座歇山顶式双重楼櫓，整个建筑群均配备防御设施：设有供枪手和弓箭手使用的射击狭缝，以及用于向进攻者投掷石块的“石落”口。这些楼櫓共同构成了环绕天守阁的坚固屏障。

<繁体字>**多聞櫓**

多聞櫓是築於城牆之上的長屋式建築，主要用於防禦與監視。津山城的天守閣西南側、西側與西北側，過去曾設有三座多聞櫓；三者皆為單層建築，其中以西側的規模最大，長約 43 公尺、寬約 5.5 公尺。

南北兩端各建有採用「入母屋造（歇山頂屋脊）」風格的雙層櫓樓。建築內設有多種防禦機關，例如供火槍兵與弓箭手使用的狹間（射擊孔），以及可向下投擲石塊的「石落」開口。這三座多聞櫓共同構成環繞天守閣的堅固防線。

<日本語仮訳>**多聞櫓**

多聞櫓とは、防衛と監視を目的として城壁の上に築かれた、長屋形式の構造物です。津山城では、天守閣の南西側、西側、北西側にこの櫓が三基建っていました。いずれも平屋建てで、西の櫓が一番大きく、長さ約 43 メートル、幅 5.5 メートルでした。

北と南の端には、入母屋造りの二重櫓が築かれていました。建物全体に防衛機能が施されていました。銃兵や弓兵用の狭間や、攻撃者に石を落とすための石落としと呼ばれる開口部がありました。これらの櫓は全体として、天守閣を囲む非常に優れた障壁を形成していました。

【タイトル】 津山城跡/長局と到来櫓

【想定媒体】 Web/その他

＜簡体字＞

南向櫓

在本丸南端の石垣上，曾建有一座长条状的多闻櫓。其白灰墙面与其他防御建筑风格一致，但据史料记载，此处实为城内女眷居所。

该建筑西侧与备中櫓相连，推测此处曾是城主家族的私人起居空间。东侧则与一座两层高的瞭望塔“到来櫓”相连。“到来”一词正体现了此塔的功能：守城者能够从此制高点，清晰监视经城门通往本丸的主干道。

＜繁体字＞

朝南的櫓樓

過去在本丸南端の石牆上，曾建有一座長形的多聞櫓。雖然其白漆牆面與其他防禦建築外觀無異，但根據史料記載，這裡曾是城內女官（侍女）們的居所。

建築西側與備中櫓相連，據信曾是藩主家族所利用的私人空間；東端則連接一座雙層監視塔「到來櫓」。「到來」寓意「抵達、接近」，正好說明其功能：可讓守衛在視野開闊的制高點，嚴密監視由大門通往本丸的主要道路。

＜日本語仮訳＞

南向きの櫓

長い多聞櫓がかつて、城の本丸南端の石垣に建っていました。漆喰仕上げの壁は他の防衛建築物と同様ですが、歴史の記録によれば城の女中たちの居住室だったとされています。

西側ではこの建物は備中櫓に通じており、城主の家族の私室として使用されていたと考えられていま

す。東端は、（二重）二階建ての見張り塔（到来櫓）につながっていました。「到着」や「接近」を意味するこの到来という言葉はこの塔の役割を反映しています；この見晴らしの良い場所から、城番たちは門を通過して本丸へと続く主要道をはっきりと視界に納めることができました。

【タイトル】 津山城跡/京橋門

【想定媒体】 Web/その他

<簡体字>**京橋門**

此处是津山城正門——京橋門的原址。如今留存的石垣，曾是“枅形虎口”的一部分，这是日本城郭中常见的箱形防御性入口结构。

“枅形虎口”的设计特点，是将两座城门以直角方式布局，形成一个被高耸石垣及其上方楼櫓围合的空间。进攻者一旦突破外门，便会被困在狭窄的内庭之中，被迫急转方向才能继续前进。守城方则可对被困的敌军实施集中射击，或直接从上方投掷石块。与此同时，狭小的空间也极大限制了进攻者武器的有效使用，从而显著提升了城门的防御能力。

<繁体字>**京橋門**

此處是津山城正門「京橋門」的原址。現存石牆為枅形虎口的一部分——枅形虎口為日本城郭常見的箱形防禦入口設計。

枅形的特色在於配置兩座互成直角的大門，形成被高牆與上方櫓樓包圍的中庭空間。即使入侵者闖入外門，也會被困在狹窄的中庭，必須急轉彎才能繼續前進。守軍可在此集中反擊或從上方投擲石塊，而且狹窄的空間也讓入侵者難以施展武器，有利於防守。

<日本語仮訳>**京橋門**

この跡地は津山城の正門である京橋門が元々あった場所です。現在残っている石垣はかつて日本の城によくみられた箱型をした防衛線となる入口の枅形虎口の一部でした。

枅形設計は直角に配置された二つの門を特徴とし、高い石垣とその上に建つ櫓で囲まれた空間を形

成するものです。外門に侵入した攻撃者たちは狭い中庭に閉じ込められることになり、急転回して前進せざるを得ませんでした。城番側は閉じ込められた兵士に集中砲火を浴びせたり、直接石を落としたりできたと同時に、その狭い空間が攻撃者たちの武器の有効な使用を封じ込めたのです。

【タイトル】 津山城跡 天守閣内部再現 1/天守閣構造

【想定媒体】 Web/その他

＜簡体字＞

天守閣の構造

天守閣は津山城規模最大の建築。其主体高 22 米，建在高約 6 米の石砌基座之上，是日本现存最高的五层天守阁之一，也是城下町的地标性建筑。除最上层外，各层外部均无破风（山墙房檐护板）装饰，是典型的多层式天守阁结构。天守阁建于本丸西端，以石垣与周围相隔，需穿过两道城门才能进入。这种设计使得守军能在必要时退守至天守阁周边，进行最后的抵抗。

＜繁体字＞

天守閣的構造

天守閣是津山城內規模最大的建築，高度約 22 公尺，建於約 6 公尺高的石造基座之上。這座有五層樓的天守閣，不僅是日本國內少數規模宏大的高大天守閣之一，也是城下町的重要象徵。除了最上層之外，外觀幾乎看不到裝飾性的破風（山牆），屬於典型的層塔型天守閣。天守閣位於本丸西端，與其他區域之間以石牆相隔，僅能透過兩座城門進入。這樣的動線設計，讓守軍在緊急時能退守至天守閣周邊，作為最後防線展開抵抗。

＜日本語仮訳＞

天守閣の構造

天守（英語で「天守閣」）忠告は津山城で最も大きな建造物でした。その高さは 22 メートルで、石造りの基礎の高さは 6 メートルです；日本でも有数の高さを誇る五階建ての天守閣であり、城下町の象徴的建物です。最上階を除いて外に破風がない、典型的な多層構造の天守閣です。本丸の西端に築かれ、石垣で隔てられており、二つの門を通過のみたどり着くことができました。この設計により城番側は、必要に応じて天守閣周辺に退却して最後の抵抗をすることができました。

【タイトル】 津山城跡 天守閣内部再現 2/湯殿と便所

【想定媒体】 Web/その他

＜簡体字＞

城内的浴室与厕所

连接天守阁一层与二层的楼梯平台面积约有 12 张榻榻米大小，并设有一处夹层空间。在这处夹层下方，配置了两间厕所、一间浴室和更衣区。目前已知在日本的城郭中，仅有两座天守阁内同时设有浴室与厕所，分别是津山城，以及位于九州北部的小仓城。其他日本名城，如姬路城、松江城和熊本城等，则仅配置了厕所。这些设施意义重大，它们使津山城的天守阁在面对长期围城时具备更为完善的生活保障。如今，这些遗迹为了解紧急状态下天守阁内部人员的生活方式提供了珍贵线索。画面所示为首次以 CG 形式复原的天守阁浴室。

＜繁体字＞

天守閣內的浴室與廁所

連接天守閣一樓與二樓的樓梯間，面積約相當於 12 疊榻榻米，並設有一處夾層空間。夾層下方規劃了兩間廁所，另設有浴室（湯殿）與更衣室等設施。據目前所知，日本各地城郭中，同時在天守閣內設有浴室與廁所的僅有兩例，分別是津山城與九州北部的小倉城；而姬路城、松江城、熊本城等多數知名城郭的天守閣內，通常僅設廁所而已。這些設施顯示，津山城天守閣早已具備應對長期圍城的準備，意義非凡。相關遺跡至今仍提供了寶貴線索，讓我們得以一窺當時居於天守閣者在緊急狀況下的生活樣貌與應對方式。這是首次透過 CG 動畫，重現天守閣內浴室的空間樣貌。

＜日本語仮訳＞

城の湯殿と便所

天守閣の 1 階と 2 階とをつなぐ階段の踊り場は 12 畳ほどの広さで、中 2 階が設けられていました。この中 2 階の下には、二つの便所と、湯殿と更衣室がありました。日本の 2 つの城のみが唯一、天守閣

の中に湯殿と便所の両方を有していたと知られています：津山城と九州北部の小倉城です。その他の、姫路城、松江城、熊本城などの主要な城では、便所のみが設置されていました。これらの設備はとても重要でした；津山城の天守閣を長期にわたる籠城に万全の態勢に整えたからです。今日では、天守内部の人々が緊急時にはどのように生活していたかを知ることができる貴重な情報を提供しています。これは、天守閣の湯殿をCGで初めて再現したものです。

【タイトル】 津山城跡 天守閣内部再現 3/貴重な資料 天守最上階にある珍しい上段の間

【想定媒体】 Web/その他

＜簡体字＞

天守閣的最上层

津山城の天守閣と日本其他若干城堡一样，被认为是以九州北部的小仓城天守閣为范本建造的。由于其他城堡的相关记载留存甚少，津山城的文献资料成为理解“小仓城式”建筑结构的重要参考。其最显著的特征，是在最上层中央设置了一处抬高地板的房间，即“上段之间”。这一罕见的布局，与日本多数城堡的顶层设计有着明显不同，展现了天守閣建筑设计多样性。

＜繁体字＞

天守閣的最上層

津山城の天守閣，和日本其他幾座城郭一樣，一般認為是以九州北部の小倉城天守閣為藍本所建。由於同類型天守閣留存的資料並不多，津山城的相關文獻便成為理解「小倉城形式」的重要線索。其中最具特色的一點，是最上層中央設有一間地板抬高的房間，稱為「上段之間」。這種罕見的空間配置，和多數日本城郭天守閣頂層的格局明顯不同，也展現出天守閣建築形式的多樣性。

＜日本語仮訳＞

天守閣の最上階

津山城の天守閣は、日本のいくつかの他の城と同様に、九州北部の小倉城の天守閣を手本にしていることで知られています。他の城に関する記録がほとんど残っていないことから、津山城の資料は小倉城のような型を理解する上で重要な情報源となっています。一番の特徴は、最上階の中央に設けられた高床式の部屋（上段の間）です。この珍しい間取りは日本の多くの城の最上階の間取りとは大きく異なり、天守閣の設計における建築上の多様性を示しています。

【タイトル】 津山城跡 天守閣内部再現 4/重装備な天守

【想定媒体】 Web/その他

＜簡体字＞

天守閣の防御设施

津山城的天守阁是“层塔型”天守阁建筑的典型范例，除顶层外没有装饰性的破风结构。天守阁为高效防御而设计，配备了 101 个铁炮狭间与 59 个弓箭狭间，现存文献资料精确记载了这些防御设施的具体位置，天守阁的数字复原工作正是基于这些史料开展的。

在“层塔型”结构中，各层屋檐自下而上依次向内缩，只有顶层才能获得开阔的视野。这种设计在 17 世纪初建造时堪称当时最先进，兼具威严气势与强大防御功能。

然而，顶层才是津山城天守阁最引人注目的特色所在。与下层以防御为主的厚重墙体不同，最上层采用了罕见的开放式布局。障子窗引入充足自然光，榻榻米铺满整个地面，上方搭配了格子天花板。空间中央设有抬高地板的房间——“上段之间”，这是供城主使用的御殿。不过，在 1874 年城堡拆除前拍摄的照片中，可以看到建筑外缘一圈的外廊被简朴的木门所围绕，这一细节表明实用性优先于形式美感。

＜繁体字＞

天守閣的防禦設計

津山城天守閣是「層塔型」的經典代表。除了最上層之外，外觀幾乎看不到裝飾性的破風（山牆），整體線條俐落，氣勢莊重。為了強化防禦機能，天守閣共設有 101 處火槍狹間（射擊孔）與 59 處弓箭狹間。現存史料也清楚記錄了這些設施的配置位置，因此今日才能透過 CG 動畫，虛擬重現天守閣當年的外觀樣貌。

層塔型的特徵，是屋簷一層層向內退縮，能獲得開闊視野的區域主要集中在最上層。這種設計在 17 世紀初可說相當先進，不僅外觀醒目，也兼具優異的防禦能力。

而津山城天守閣最令人印象深刻的，正是其最上層空間。這裡不像下層以厚實的防禦牆體

為主，而採取相對開放的格局：障子（紙拉門）引入充足自然光，地面鋪設榻榻米，上方則為格天井，營造出明亮而端正的氛圍。中央設有「上段之間」，是供藩主使用、帶有御殿風格的設計。另一方面，根據 1874 年拆除前的舊照片可見，外側迴廊周圍裝設的是樸素的木製雨戸（防雨門板），也讓人感受到在實際運用上，實用性有時會凌駕於形式之上。

<日本語仮訳>

天守閣の防衛設備

津山城の天守閣は、層塔型（英語で「層型の塔」）天守閣設計の典型例で、（最上階を除いて）装飾的な破風がまったくありません。天守閣は非常に優れた防衛を発揮できるよう設計され、101 の鉄砲狭間と 59 の矢狭間を備えていました。現存する記録がこれらの防衛設備の正確な配置を示しており、天守閣の復元はこの歴史的な証拠に基づいてされています。

層塔型では、屋根層がそれぞれ一つ下の層より奥まる造りで、最上階からのみ開放的な眺望が得られます。これは 1600 年代初頭の建設当時では最先端の設計で、圧倒的な存在感と強力な防衛能力を兼ね備えていました。

しかし最上階こそが津山城天守閣の最も特筆すべき特徴でした。下層部に堅牢な防衛壁がなく、珍しい開放的な間取りを特徴としていました。障子窓が明るい光を多く採り入れる室内を作り出し、畳が床全体に敷き詰められ、その空間の上には格天井が張られていました。その中心には高床式の部屋（上段の間）がありました；城主が使用する御殿特有の特徴です。しかし、城が取り壊される 1874 年以前に撮影された写真には外側の廻縁を囲む簡素な木製の戸が写っており、この場合、実用性が形式性を上回っていたことを示唆しています。

【タイトル】 津山城跡 天守閣内部再現 5/天守への入り口

【想定媒体】 Web/その他

＜簡体字＞

天守閣的入口

津山城的天守阁曾矗立于本丸西端，如今仅存当年支撑高大天守阁的巨型石砌基座。这座方形的基座内部保留着一处地下空间，即天守阁的地下室，当年承托建筑结构的原始石砌工程至今仍清晰可见。根据史料记载，进入天守阁需要经由这处地下层。

＜繁体字＞

通往天守閣的入口

過去，津山城的天守閣位於本丸西端，如今僅留下曾支撐巨大天守閣的厚實石造基座。這座四方形基座內部設有地下空間，原本作為天守閣的地窖使用；現場至今仍可見支撐整體結構的原始石砌。根據史料記載，這處地下空間正是當年進出天守閣的入口所在。

＜日本語仮訳＞

天守閣への入り口

津山城の天守閣は本丸の西端に立っていましたが、今は、そびえ立つ櫓をかつて支えていた巨大な礎石だけが残っています。この四角い基礎の中には、天守閣の地階であった地下室があり、建築構造を支えていた当時の石積みが見られます。歴史文書によれば、天守閣への入城はこの地下室からされていました。

【タイトル】 津山城跡 天守閣内部再現 6/天守最上階の南蛮鐘

【想定媒体】 Web/その他

<簡体字>

南蛮钟

一件曾悬挂于天守阁顶层的“南蛮式”吊钟，成为津山城与小仓城之间关联的重要实证。

“南蛮”指受外国，尤其是西方艺术影响而形成的风格。这口钟外形宛如竹编斗笠，是在 1609 年津山城竣工时，由小仓藩藩主细川忠兴（1563-1646 年）赠予津山藩藩主森忠政（1570-1634 年）的贺礼。

钟身刻有细川家的九曜纹，让人忍不住联想到忠兴的基督徒妻子——细川伽罗奢。她于 1600 年遭遇悲剧：敌军企图挟持她以胁迫其丈夫，由于信仰原因，她无法切腹自尽，最终选择由家臣助其结束生命。

这口钟长期悬挂于城中，钟声世代回荡于城下町，直至 1874 年天守阁被拆毁。如今，南蛮钟被收藏于大阪的南蛮文化主题博物馆“南蛮文化馆”，其复制品则在城址南侧的津山乡土博物馆中展出。

<繁体字>

南蠻鐘

關於津山城與小倉城之間的淵源，其實可以從一口過去曾懸掛在天守閣最上層的「南蠻鐘」看出端倪。日本歷史上所謂的「南蠻」，指的是帶有異國情調、受到外來（尤其是西方）藝術影響的風格。這口鐘外形如編織斗笠，據說在 1609 年津山城落成之際，由小倉藩主細川忠興（1563-1646）贈予津山藩主森忠政（1570-1634），作為祝賀完工的賀禮。

鐘身鑄有細川家的「九曜紋」，也不禁讓人聯想到忠興之妻——基督徒細川伽羅奢（Gracia）。相傳在 1600 年，敵方企圖挾持她作為人質，以牽制忠興；而她因信仰緣故不願自裁，最終在家臣協助下走向生命的終點，成為一段令人感慨的歷史軼事。

這口鐘長年懸掛於城內，鐘聲迴盪在城下町之中，直到 1874 年天守閣拆除為止。如今原鐘收藏於大阪的「南蠻文化館」，而其複製品則展示於城跡南側的「津山郷土博物館」。

＜日本語仮訳＞

南蛮鐘

津山城と小倉城のつながりを示す証拠に、かつて天守閣の最上階に吊られていた南蛮様式の釣鐘がみられます（南蛮とは外国、特に西洋の芸術などに影響を受けた様式を指します）。編み笠のような形をしたこの鐘は、津山城が 1609 年に完成した折に、津山藩の藩主・森忠政（1570～1634 年）に小倉藩の藩主・細川忠興（1563～1646 年）から贈られたものです。

鐘には細川家の九耀紋が入っており、忠興のキリスト教徒の妻ガラシャを偲ばせます。彼女は 1600 年に悲劇的な最期を迎えました；敵が彼女ガラシャの夫に圧力をかける手段として彼女を人質に取ろうとしたのでした。彼女は信仰により切腹することが叶わなかったため、家臣の手で死ぬことを選びました。

この鐘は城に吊られ、1874 年に天守閣が取り壊されるまで世代にわたり町中に響き渡りました。現在は大阪の南蛮文化に関する博物館「南蛮文化館」の収蔵品の一つとなっています。鐘のレプリカが、城跡のすぐ南に所在する津山郷土博物館に展示されています

【タイトル】 津山城跡 天守閣内部再現 7/天守北側の七番門周辺/天守南側、五番門周辺の入り組んだ枡形虎口

【想定媒体】 Web/その他

<簡体字>

天守閣的防御门

津山城的防御体系包含多处精心设计的通道，其中有数个采用“枡形”样式的入口。位于天守阁南侧、靠近五番门的一处入口便是其中一例。“枡形虎口”通常是由石墙围合的方形空间，通过时须进行 90 度转向。这种结构能延缓敌军行进速度，并使其暴露于三面受击的境地。

另一处为防御而设的出入口，是位于北侧的七番门。其建造高度略低于本丸层，通过木质阶梯与之相连。遭受攻击时，可将阶梯拆除从而阻断敌军通往更高层的路径。这些结构特点与高大的石墙相结合，使得天守阁能与城堡其他区域完全隔绝。

<繁体字>

天守閣周邊的防禦門

津山城的防禦設計中，出入口的規劃相當講究，其中之一便是枡形虎口。位於天守閣南側、靠近五番門的枡形虎口，是守護天守閣的重要關口。所謂「枡形」，指的是由石牆圍起的方形防禦空間；進入後必須在其中轉彎約 90 度，才能繼續前進。這樣的設計能有效拖慢敵軍的行進速度，並讓入侵者暴露在三面攻擊之下，提高防禦效果。

北側的七番門，則是另一處具備防禦考量的入口。它設在略低於本丸的位置，平時以木製階梯連接通行；一旦遭到攻擊，只要撤除階梯，就能立即切斷敵軍通往上層的動線。再加上高聳的石牆屏障，必要時天守閣甚至能與城內其他區域完全隔離，成為最後堅固的防禦核心。

<日本語仮訳>

天守閣の防衛門

城の防衛設備には、複数の枡形様式の虎口など、うまく工夫された出入口がありました。天守閣を守っていたそうした虎口の一つが、五番門も近い天守閣南側にありました。枡形は正方形の空間で、通常石垣で囲まれており、ここを通過して前進するには 90 度転回する必要があります。この構造が敵の進行を遅らせて、三方からの攻撃にさらします。

防衛用に設計されたまた別の入口が、北側にある七番門です。本丸の段よりわずかに低い位置に築かれ、段をつなぐ木造階段があります。攻撃を受けた時には、階段を取り外すことで敵による上層段への侵入を阻止できました。これらの構造的特徴と高い石垣により、天守閣は城の他の区画から完全に隔絶することができたのです。

【タイトル】 津山城跡 8 天守閣内部再現太鼓壁/防弾と省力化から生まれた太鼓壁
【想定媒体】

＜簡体字＞

兼具省力与防弹性能的“太鼓墙”

在备中櫓西侧，矗立着一段为保护天守阁免受攻击而建的太鼓式墙体。它由两道相对较薄的平行墙组成，中间留有空隙，以填充小石子、碎瓦片及其他瓦砾。其名称源于其结构形似两面鼓皮之间留有的中空空间。这种建筑形式在 17 世纪初逐渐发展成型，不仅减少了人力投入，还可提供卓越的防护——枪弹的冲击力会被碎石填充的空腔吸收，从而减少了对城堡内部的破坏。

＜繁体字＞

太鼓牆

在備中櫓西側，矗立著一道稱為「太鼓牆」的防禦設施，主要用來保護天守閣免於遭受攻擊。太鼓牆由兩道較薄、相互平行的土牆構成，中間留有空隙，並填入小石、瓦片碎片與各種碎礫。之所以稱為「太鼓牆」，是因為它的結構就像太鼓的兩面鼓皮之間保留中空空間一般。這種工法大約在 17 世紀初逐漸成熟，優點是施工時所需人力較少，卻能提供良好的防護效果：當火槍射擊造成衝擊時，力量會被夾層中的碎礫吸收，從而降低對城內的損害。

＜日本語仮訳＞

省力化と防弾能力を備えた「太鼓」（英語で「ドラム」）塀

備中櫓の西側には、城の天守閣を攻撃者たちから守るために築かれた太鼓様式の塀が立っています。これは、小石、瓦の破片、その他の瓦礫で埋められた隙間で隔てられた、二枚の比較的薄い並行の塀で構成されています。（太鼓（英語で「ドラム」）という言葉は、2枚の太鼓の皮の間に空洞がある様子に似ていることに由来します。）この建設様式は 17 世紀初頭頃に開発されました。少ない労働力で済みつつも、優れた防御力を発揮しました；銃弾の衝撃を瓦礫が詰められた空洞に吸収させる

ことで城の内部への被害を最小限に抑えることができたからです。

【タイトル】 津山城跡 堀 1/壮大な一重の堀

【想定媒体】 Web/その他

＜簡体字＞

护城河结构

津山城是一座大型平山城，仅由一道人工护城河环绕，而同一时期建造的多数城堡都有两道或更多的护城河。采用一条护城河的设计，体现了主持筑城的藩主森忠政的战略规划。关键在于地理条件：城堡所在的鹤山周围有三条河流环绕，自然地构成了城堡的外围防线。东侧有宫川，西侧有为环绕武士宅邸而改道的藺田川，南面则有吉井川提供额外防护。城堡主墙的外侧，还开挖了一道人工的“内护城河”。根据历史照片与地图资料，这条内护城河的内侧以土垒加固，其上曾建有多座歇山顶式的双层楼橹。

＜繁体字＞

護城河的整體設計

津山城是一座規模宏大的平山城，外圍以人工護城河環繞；相較之下，同時期不少城郭往往設有兩條以上的護城河。津山城之所以採取單一護城河的設計，反映了主持築城的藩主森忠政在整體規劃上的戰略考量。關鍵在於地理條件：城址所在的鶴山周邊，原本就有三條河川環繞，自然形成外側防線——東側為宮川；藺田川則經改道後，沿著西側武家屋敷一帶形成防護；南側再由吉井川加強守勢。至於人工開鑿的「內堀（內護城河）」，則設在城的主要城牆外側不遠處。從舊照片與地圖可以看出，內堀的內側以土堤加固，土堤上曾建有多座二層櫓，並採用歇山頂屋脊，與周邊防禦設施相互呼應，構成嚴密的防線。

＜日本語仮訳＞

堀の構造

津山城は一重の人工堀に囲まれた大型の平山城でした；それとは対照的に、同じ時代に築かれた多くの城が二重以上の堀を設けていました。堀を一重だけ築くという設計の採用は、築城を監督した城主・森忠政の戦略的計画を織り込んだことでした。その位置が重要でした：3本の川が、城が築かれた丘である鶴山を囲むように流れており、これらが城の外堀として機能していたのです。東に向かっ

て宮川が流れ、藺田川が西側の武家屋敷を囲むように迂回し、吉井川が南から保護機能を強化しました。城の主たる堀のすぐ外側に人工の「内堀」が掘られました。歴史的な写真や地図からは、この堀の内側が土居で補強され、その上に入母屋造りの二重櫓が数多く建っていたことがわかります。

【タイトル】 津山城跡 堀 2/外堀の櫓

【想定媒体】 Web/その他

<簡体字>**护城河的楼櫓**

城堡上层各区的楼櫓各具特色，但沿护城河建造的楼櫓则全部采用统一尺寸与设计。每座皆为一层楼结构，并具备双重“切妻造”屋顶，作为外围防御设施，这样的规模堪称罕见。另一处显著差异在于，这一区域并非像城内其他部分那样使用石垣，而是以土垒来构筑护城河的防御。在城堡建造过程中，通常先完成上层区域的石垣工程，继而修筑天守阁与居所。护城河区域很可能是城堡防御体系中最后完成的部分，采用土垒代替石砌结构，可能是受工期或预算所限。

<繁体字>**護城河畔的櫓**

城內上層區域的各座櫓各有特色，但沿著護城河設置的櫓，尺寸與設計幾乎一致。這些櫓多為單層建築，屋頂採用二重屋簷的切妻造（人字形）形式；以外圍防禦設施而言，如此一致且頗具規模的配置相當罕見。另一個明顯差異，則是護城河周邊的防護以土堤為主，而非石牆。一般築城多會先完成上層石牆，再興建天守閣與主要建築，因此推測護城河一帶可能屬於較後期的工程。至於採用土堤而不是石牆，據信與工期緊迫或預算限制有關。

<日本語仮訳>**堀の櫓**

城の上部区画の櫓にはそれぞれ独自の特徴がありました。しかし堀沿いに立っていた櫓はすべて、同じ大きさかつ同じ設計で建てられていたのです。それぞれが二重一階切妻造りで、外郭の防御を目的とする設備としては珍しい大きさでした。もう一つの対照的な特徴は、城の他の部分で使用されている石垣ではなく、堀に土居が使用されていたことです。城の建設では通常、上層区画の石垣が最初に完成し、続いて天守閣と本居が建設されます。堀周辺区域は城の防衛設備の中でも特に最後に築

かれた可能性が高く、石垣ではなく土居が使用されたのは工期や予算の削減によるものだと考えられています。

【タイトル】 津山城跡 堀 3/大手門（京橋御門）及び両側の屏風折れ土堀

【想定媒体】 Web/その他

＜簡体字＞

京橋門の防御設計

此处曾是津山城正门——京桥门的所在地，设有一座作为正门通行使用的木桥。如今所见的石垣遗迹，则是为阻断直线通行而设的“枅形”防御入口。进攻者过桥后必须右转 90 度才能通过，此举可延缓其推进速度，并使守军能从三面发起攻击。石垣遗迹南侧曾有一条约 24 米宽的护城河。河岸沿线筑有土墙，并以类似屏风折叠般的急角度反复转折，形成所谓的“屏风折”式防御结构。这种墙体设计使守军得以实现大范围的交叉火力覆盖。

＜繁体字＞

京橋門的堅固設計

這裡過去是津山城正門「京橋門」的所在地，當時設有一座正式の木橋，橫跨護城河通往城內。如今可見的石牆遺跡，屬於枅形虎口的一部分，主要目的在於防止敵軍長驅直入。可以想像，攻擊者一旦渡橋而來，進入枅形空間後必須向右轉約 90 度，才能繼續前進；因此行動自然會被迫放慢，也讓守軍得以從三面發動攻擊，形成包夾之勢。此外，石牆遺跡南側過去曾有一條寬約 24 公尺的護城河，河岸沿線築有土牆，並採用「屏風式」的折角設計，使防線急轉彎向外延伸。這種折角配置能讓守軍形成交叉火力，涵蓋更廣的射擊範圍，進一步提升整體防禦效果。

＜日本語仮訳＞

京橋門の堅固な設計

ここはかつて城の正門である京橋門があった場所で、堀を渡る公式の木造の橋が架かっていました。今日残っている石垣は直接の通過を遮断するように設計された枅形式の防衛虎口跡です。橋を渡った攻撃者たちは通過するために右に 90 度転向する必要があり、これが前進を遅延させ、城番側に三方からの攻撃を許してしまうのです。石垣跡の南側には、幅約 24 メートルの堀がありました。縁に沿って土堀が築かれており、屏風折れ（英語で「屏風」）様式で急角度で曲がっていました。この急角度

の塀により、城番側は広範囲にわたって集中砲火を浴びせることができたのです。

【タイトル】 津山城跡 堀 4/田町門周辺の景観

【想定媒体】 Web/その他

<簡体字>

田町門一帯

津山城西側靠近田町門の護城河基本呈直线，仅在接近城门处转折绕行。城门外是田町地区，这里的武家宅邸与商户街区布局井然有序。附近的藺田川在 17 世纪初被人工改道，使河道沿田町地区外侧蜿蜒流淌。这一人工曲流也成为城堡“外护城河”的组成部分，守卫城镇与城堡的西侧。江户时代（1603-1867 年）从南侧抵达城门的访客，想必会看到令人印象深刻的景象：护城河土垒之上，楼櫓依次排列，其间以“屏风折”式土墙相连，而天守阁在远处巍然矗立。

<繁体字>

田町門周邊

城郭西側、靠近田町門一帶的護城河幾乎呈直線延伸，只有在繞過城門時才略微轉向。門外便是田町地區，過去武士宅邸與商家街區規劃整齊，井然有序。鄰近的藺田川在 17 世紀初曾進行改道工程，使河道轉彎繞行田町外側，並成為城郭的「外堀（外護城河）」之一，用以守護城下町以及城郭西側的安全。可以想像，江戶時代（1603-1867）從南方接近田町門的旅人，應該能看見一幅令人難忘的景象：護城河的土堤上櫓樓（防禦塔）一字排開，並以屏風式土牆連成一線；遠方天守閣高高矗立，氣勢磅礴。

<日本語仮訳>

田町門周辺

田町門に近い城の西側にある堀は、ほぼ直線状で、転進して門を迂回するだけの造りになっています。門の外には田町地区があり、武家屋敷や商家の区画が整然と造られていました。近くの藺田川は 1600 年代初頭に、田町地区の外側を曲がるように流路が変更されました。この人工的な曲流工事によって川は城の「外堀」の一部となり、町と城の西側を防衛しました。南から門へと到着した江戸時

代（1603～1867 年）の来訪者たちは、堀の土居の上に屏風折れ土塀と櫓が建ち並び、そして遠くには城の天守閣がそびえ立つという印象的な光景を目にしていたことでしょう。

【タイトル】 津山城跡 堀 5/北門周辺の景観/宮川にかかる大橋の景観/翁橋たもとの大番所

【想定媒体】 Web/その他

<簡体字>

宮川門一帯

宮川門は通往城内の六座城門之一，它位于城堡东南侧的宫川沿岸，与相邻城門共同构成一处用于防御的“枡形虎口”。这种箱形空间的设计，旨在将入侵者困于其中，从而延缓其行动。

沿城东侧流淌的宫川本身就是一道天然防线。河上有宽阔的宫川桥可供通行，桥西端设有岗哨，有卫兵在此驻守以维持城下町的秩序。

现场至今仍保留着部分当年的石垣。据津山藩的记载，藩主一家有时会聚集在这座城門的石垣之上，俯瞰城下町秋季祭典的热闹景象。

<繁体字>

宮川門周邊

宮川門是通往城内核心區域的六座城門之一，位於東南側、靠近宮川河畔，並與鄰近城門共同構成枡形虎口的防禦入口——用來困住並拖慢入侵者的箱型防禦空間。

宮川沿著城郭東側流過，形成天然的防線。當時人們可透過大型的宮川橋渡河，而橋的西端設有番所（崗哨），安排守衛駐防，以維持城下町的秩序與治安。

如今現場仍可見部分原始石牆遺跡。根據津山藩的記錄，藩主家族有時也會登上宮川門的石牆，眺望城下町秋季祭典的熱鬧景象。

<日本語仮訳>

宮川門周辺

宮川門は城内に通じる6つの門の1つでした。南東側の宮川沿いに位置し、隣接する門と共に防衛

設備となる枡形の虎口を形成していました；侵入者を閉じ込めて足止めする目的で設計された箱型空間です。

城の東側を流れる宮川は、天然の防衛線となっていました。川は大きな宮川橋で渡ることができましたが、橋の西端には番所が設けられ、城下町の秩序を維持する目的で見張りが配置されていました。

当時の石垣の一部は今でも残っています。津山藩が残した記録によれば、藩主一家は時にはこの門の石垣の上に集まり、町の秋祭りで行われる祭事を眺めていたのだそうです。

【タイトル】 中山神社/中山神社 概要

【想定媒体】 Web/その他

<簡体字>

中山神社参道

中山神社位于津山市区北侧，这里长久以来被视为“美作国”最具历史渊源的神社。其主祭神为司掌制镜与金属加工的神明，被奉为工匠及其行业的守护神。

参拜者进入通往神社的参道前，会经过一株树龄约 800 年的榉树，参道入口有一座特征鲜明的鸟居，其横梁并未贯穿立柱，十分少见。参道右侧矗立着一尊巨大的青铜牛像，反映出神社作为牛马守护神的历史定位——牛马等牲畜在农业生产与运输中发挥重要作用，该地区曾是牛马交易中心，城门外的市集曾闻名遐迩。继续前行，越过传统的“手水舍（净手处）”，可以看见一对被称作“狛犬”的狮形神兽镇守于此。

神社的神门是 1874 年从津山城迁至此地的，其坚固的木构框架、多层桧树皮葺成的缓坡顶部，为整个神社增添了庄重肃穆的氛围。

<繁体字>

中山神社參道

中山神社長久以來被視為美作國最具代表性的神社之一，位置就在津山市區北側不遠處。主祭神為掌管製鏡與金屬加工的神祇，因此也被尊奉為工匠與技藝的守護神。

前往參拜時，首先會經過一棵樹齡約 800 年的巨大櫟木，接著踏上通往神社的參道（參拜步道）。入口處的鳥居造型十分特別——橫樑並未貫穿兩側支柱，是其辨識度極高的特色。沿著參道前行，右側可見一尊巨大的青銅牛像，象徵神社過去曾作為牛馬守護神的歷史角色。牛馬在農耕與運輸上曾扮演重要角色，而此地一帶也曾是牛馬交易的集散地，神社門前過去常舉行市集活動。再往前走，通過傳統的手水舍後，一對守護神獸「狛犬」映入眼簾，為參道增添莊嚴肅穆的氛圍。

境內的「神門」則於 1874 年自津山城移築而來，結構厚實穩重；屋頂採用檜皮葺（以檜

木樹皮層疊鋪設) 的傳統工法，使整體更顯沉穩與莊嚴。

＜日本語仮訳＞

中山神社参道

美作国で最も由緒ある神社と長く考えられてきた中山神社は、津山市街地のすぐ北に在ります。主祭神は鏡作りと金属加工の神様で、職人とその仕事の守り神として奉られています。

参拝者は樹齢 800 年のケヤキの脇を抜けて神社へと続く参道に入ります；支柱を貫通していない珍しいいつなぎ梁の鳥居が目印です。参道右側には巨大な青銅製の牛の像が立っており、農業や運搬において重要な役割を果たした家畜である牛馬の守護神として神社の歴史的役割を映し出しています。この地域は牛馬取引の中心地として知られ、門の外では市が開かれていました。さらに進んで、伝統的な手水舎の先に、一對の像があります；狛犬と呼ばれる伝説上の獅子の姿をした守護動物です。

1874 年に津山城からここに移築された神門は、頑丈な支持構造と檜皮葺の緩やかな傾斜の屋根がある建造物で、神社境内には格式を感じる厳粛な雰囲気漂っています。

【タイトル】 中山神社/神門

【想定媒体】 Web/その他

<簡体字>**中山神社概况**

数个世纪以来，中山神社始终是美作地区的精神与文化象征。据传其历史可追溯至公元 707 年，并在 9 世纪获朝廷授予较高的神社等级。本殿曾毁于火灾，于 1559 年重建。

中山神社以其独特的建筑样式——“中山造”而闻名，是该样式中最古老且规模最大的实例。“中山造”主要见于津山地区，其特点包括：三间见方的正方形布局、宏伟的桧树皮葺的歇山顶，以及正面入口为山墙朝向，并设有带“唐破风”曲线屋顶的门廊。

<繁体字>**中山神社概覽**

數個世紀以來，中山神社一直是美作地區重要的信仰中心，也是當地的文化象徵。相傳神社創建可追溯至 707 年，並在 9 世紀獲朝廷授予更高的神社社格；現存本殿則是在火災後，於 1559 年重建而成。

中山神社同時以獨特的建築樣式「中山造」聞名。這裡被視為中山造中歷史最悠久、規模也最大的代表作，主要分布於津山一帶。其建築特色包括：正面三間（開間）的方正格局、氣勢鮮明的檜皮葺歇山式屋頂，以及入口處線條優美、帶有弧度的唐破風門廊造型，極具觀賞價值。

<日本語仮訳>**中山神社の概要**

何世紀にもわたり、中山神社は美作国の心と文化の象徴として扱われてきました。その起源は 707 年にまで遡ると言われています；そして、9 世紀に朝廷から高い社格を授けられました。本殿は、火災で消失した後、1559 年に再築されました。

この神社は中山造として知られる独特の建築様式で有名です。神社はこの様式の中で、最古かつ最大規模の例であり、主に津山地域で見られます。その特徴には、正方形の三間造り、印象的な檜皮葺の入母屋造屋根、そして妻入の唐破風造の向拝が挙げられます。

【タイトル】 中山神社/拝殿

【想定媒体】 Web/その他

＜簡体字＞

中山神社の三座社殿

中山神社の主体建筑由三座社殿构成。第一座是拝殿，向所有参拜者开放，人们在此祈愿并供奉祭品。拝殿采用桧树皮葺的歇山顶，正面有线条优美的“唐破风”门廊。殿内天花板以凹入的板格装饰，木质方格交错排列，呈现出井然有序的格状纹理。

第二座是币殿，连接着拝殿与本殿，是神职人员进行祝祷仪式的场所。拝殿与币殿均建于1922年本殿修缮工程期间，并于2021年被指定为日本有形文化财产。

第三座是本殿，建于1559年，供奉着三位神明。最初本殿曾饰有鲜艳的彩绘，并装饰有贴金的神像。后来受茶道崇尚岁月之美的审美理念影响，日本的风尚发生转变，建筑物也任其显露历经时光洗礼的样貌。如今仅能在局部看到昔日华丽装饰的痕迹。1914年本殿被指定为日本重要文化财产。

＜繁体字＞

中山神社の三座社殿

中山神社的主要建築由三個相連的部分構成。最前方是「拜殿」，對所有參拜者開放，大家可在此祈願並奉上供品。拜殿屋頂採用歇山式，覆以檜皮葺，正面門廊線條優雅；殿內天花板也可見細緻的格狀裝飾（格天井）。

拜殿與本殿之間則由「幣殿」相連，神職人員會在此進行祝詞與祈禱儀式。拜殿與幣殿皆於1922年建成（配合本殿修復工程），並於2021年被認為有形文化財。

位於最深處的「本殿」建於1559年，供奉三位神祇。據說本殿最初曾以鮮豔色彩與金色神像裝飾，後來日本審美逐漸受到茶道所重視的「歲月留下的自然風貌之美」影響，建築保留自然風化後的質地與色澤，因此如今只能從些微痕跡，想像當年曾有的華麗風貌。本殿已於1914年被認為重要文化財。

＜日本語仮訳＞

中山神社の三つの社殿

中山神社の主要な構造は、三つの建物で構成されています。最初の建物は拝殿（英語で「参拝堂」）です。すべての参拝者に開放されており、参拝者はここで祈りを捧げ、お供え物を捧げます。拝殿は、檜皮葺で覆われた入母屋造屋根、そして正面の優美な唐破風造の向拝が特徴です。拝殿の天井には木を正方形に組んで格子状に仕上げた埋め込み式の仕切りが施されています。

幣殿（英語で「奉納殿」）は拝殿と本殿をつなぐ建物で、神職が祈祷を行う場所です。拝殿と幣殿はどちらも 1922 年に本殿の修復工事を行った際に建てられ、2021 年に有形文化財に指定されました。

本殿（英語で「本殿」）には、三柱の神様が祀られています。1559 年に建てられ、当初は鮮やかな彩色と金箔が施された神像で飾られていました。その後、経年変化の美を重んじる茶道と関連する美意識が影響して日本の嗜好が変わり、建物は年季の風合いを残したままになりました。現在の本殿はかつての輝きの痕跡をわずかにのみ見ることができます。本殿は 1914 年に重要文化財に指定されました。

【タイトル】 中山神社/幣殿

【想定媒体】 Web/その他

<簡体字>**中山神社的猿神社**

在中山神社境内的神圣森林深处，沿着本殿后方陡峭而狭窄的山道上行，便可抵达猿神社。这是一座小巧的茅草屋顶建筑，依岩壁而建，相传其中供奉的是出现在 12 世纪佛教故事集中的猿之灵。

自古以来，猿神社所奉之神被视为守护牛马顺利生产的守护神。即便在今天，仍有参拜者向这位守护神献上用布或黏土制成的小猿像，作为象征性的供品。

<繁体字>**中山神社的猿神社**

在神社境内的神圣森林深处，沿著本殿後方陡峭而狹窄的山徑往上走，便可抵達「猿神社」。這座小巧的神社採用茅草屋頂，依傍岩壁而建；相傳供奉的是一位出現在 12 世紀佛教故事集中的「猿之靈」。

猿神社的神祇自古以來被視為守護牛馬平安生產的守護神。直到今日，仍有許多參拜者會奉上以布料或黏土製作的猴子造型小飾品作為象徵性的供品，祈求平安與庇佑。

<日本語仮訳>**中山神社の猿神社**

神社の境内にある神聖な森の奥深く、本殿の裏手にある険しく狭い山道を登ると、猿神社（英語で「猿の神社」）があります。この小さな茅葺屋根の建物は岩肌に建てられており、12 世紀の仏教説話集に出てくる猿の霊が祀られていると信じられています。

猿神社の神は、牛馬の安産を司る守護神として古くから信仰されています。今日でも、参拝者は布や

粘土で作られた小さな猿の像を、この守り神への象徴的なお供え物として捧げています。

【タイトル】 中山神社/本殿

【想定媒体】 Web/その他

<簡体字>**中山神社の建筑影响**

美作地区现存十余处独特的“中山造”建筑，其中五处位于津山。中山神社本殿建于1559年，是这一样式中最古老的一例，其余均为后世所建。这类建筑均采用正方形的平面布局，配以歇山式屋顶、“唐破风”前廊等共同特征。

这种建筑样式的具体起源尚不明确，但普遍认为其设计受到出云大社的“切妻”式屋顶的影响。出云大社位于岛根县，是日本最古老、最重要的神社之一。这种建筑样式很可能是在曾统治津山藩的森氏家族的统一宗教政策推动下，传播至整个津山地区的。

<繁体字>**中山神社の建築影響**

在美作地區，採用「中山造」建築樣式的神社超過十座，其中就有五座位於津山。中山神社本殿建於1559年，是現存最古老的代表作，其餘四座則為後世陸續興建。這些建築普遍具有相似特徵，例如方正的平面配置、歇山頂屋脊，以及入口處帶有優美曲線的門廊設計等。

至於這種樣式的起源，至今仍未有定論。不過一般認為，可能受到島根縣出雲大社雙坡式（人字形）屋頂的影響；也有人推測，在過去統治津山藩的森氏推動宗教政策的背景下，這類建築形式才逐漸在津山地區一帶擴散並普及。

<日本語仮訳>**中山神社の建築的な影響**

美作国には特徴的な中山造の建築様式が10例以上あり、その内5つは津山にあります。中山神社の本殿は1559年に建てられた最古のもので、ほかの4例はその後の時代に建てられました。どれも正方形の間取り、入母屋造屋根、唐破風造の向拝を有し、その他にも同様の特徴があります。

この様式がいつ、どこで生み出されたかは定かではありません；しかし、日本最古かつ最も由緒ある神社の 1 社である、島根県の出雲大社の切妻屋根の影響を受けていると思われます。この様式は、かつて津山藩の統治者であった森家の統一的宗教政策の下で、津山地域全体に浸透したと考えられています。

【タイトル】 高野神社/高野神社 概要

【想定媒体】 Web/その他

＜簡体字＞

高野神社

位于津山西部吉井川河畔的高野神社历史悠久，被视为美作地区第二高等级的神社。据社传记载，其创建可追溯至 534 年，并在 9 世纪获封特殊的神社等级。

自 14 世纪起，随着武士阶层逐渐掌握社会主导权，许多核心武将纷纷为神社的营建出资，并支持其祭祀活动，使神社的地位进一步提升。现存的本殿建于 1663 年，采用“中山造”建筑样式，配有歇山式屋顶和“唐破风”门廊。屋顶用多层桧树皮葺成，其屋脊较中山神社更高，坡度也更陡，或许有意在与这座典雅的古社一较高下。作为该地区建筑特色的原始桧树皮葺屋顶，已于 1929 更换为铜板。神社曾一度被广袤的森林环绕，如今只剩数棵参天榉树留存。

＜繁体字＞

高野神社

位於津山西部、吉井川畔的「高野神社」歷史悠久，被尊為美作國地位僅次於中山神社的神社。根據神社傳承，其創建年代約可追溯至西元 534 年，並於 9 世紀獲朝廷授予特殊的神社社格。

隨著 14 世紀武士階級崛起，許多重要武將紛紛資助神社的修建與祭祀活動，也進一步提升了其地位。現存本殿建於 1663 年，採用「中山造」樣式，擁有歇山頂屋脊，搭配入口處線條優美的唐破風門廊。屋頂原本以檜皮葺層層鋪設，坡度比中山神社更陡、更顯高聳，或許正是為了在氣勢上不輸古社的莊嚴風采。這種帶有地方特色的檜皮葺屋頂，於 1929 年改為銅板屋頂。過去神社曾被廣大的神聖森林所環繞，如今卻只剩下幾株高聳的榉木，靜靜見證著歲月流轉。

＜日本語仮訳＞

高野神社

津山西部の吉井川畔にあるのは由緒ある高野神社で、美作国で二番目に位の高い神社とされています。社伝によると、534 年頃に建てられ、9 世紀に特別な社格を授かりました。

14 世紀以降武士階級が影響力を持つようになるにつれて、多くの中心的武将たちがこの神社の建設に寄進し、神社の祭祀を支援し、社格をさらに高めました。現存する本殿は 1663 年に建てられた中山造様式で、入母屋造の屋根と優美な唐破風造の向拝があります。屋根板は檜皮葺でできています。屋根は中山神社のものよりも急勾配で高さがあり、もしかすると古社の優雅さを凌駕しようとしたことが窺えます。この地域の様式の特徴である元の檜皮葺の屋根は、1929 年に銅板葺に取り替えられました。神社はかつて広大な神聖な森に囲まれていましたが、現在は数本のケヤキの木が残るばかりです。

【タイトル】 高野神社/木造隨身立像（国指定重要文化財）

【想定媒体】 Web/その他

<簡体字>

高野神社の宝物：木制神号匾

在通往高野神社的林间山丘石阶底部，矗立着一座“随身门”。随身门建于 1191 年，取代了此前的旧门。曾悬于门上的精美木制神号匾，现为神社珍藏之一。牌匾高约 76 厘米，宽约 60 厘米，两侧边框雕刻着对称的漩涡纹样。中央镶嵌有一块仅约 3 毫米厚的铜板，铜板上刻有神社主祭神“高野大明神”的神名，以及象征其神阶的“正一位”字样。这是神明所能获得的最高位阶，代表其拥有无上的神威。这块木造神号匾已经被认定为日本的重要文化财产。

<繁体字>

高野神社之寶：木造神號額

通往高野神社的石階入口處，矗立著一座隨身門（神像門），建於 1191 年，用以取代更早期的舊門。過去懸掛於門上的精緻木製匾額（神號額），如今已成為神社的重要珍藏。這面匾額外框約高 76 公分、寬 60 公分，左右雕刻著對稱的渦卷紋樣。中央嵌有一片厚度僅約 3 公釐的薄銅板，上面刻著主祭神「高野大明神」之名，以及「正一位」的尊稱。「正一位」是神祇所能獲得的最高位階，也象徵其靈威與神格。這件神號額已被認定為日本重要文化財。

<日本語仮訳>

高野神社の宝物：木造神号額

高野神社へと続く、木が生い茂る丘の石段の麓には、1191 年に旧門に代わって建てられた隨身門が立っています。かつてこの門に掲げられていた見事な木造神号額は、神社の宝物の 1 つとなっています。神号額は縦約 76 センチ、横約 60 センチで、両側に左右対称の渦巻き模様が彫られています。その中央には厚さわずか 3 ミリの薄い銅板がはめこまれています。銅板には神社の主祭神である高野

大明神の名と、その位階を表す上級第一位という意味の正一という文字が刻まれています。これは神が授かる最高位の位階で、そしてその霊的権威の証です。この神号額は重要文化財に指定されています。

【タイトル】 高野神社/木造神号額（国指定重要文化財）

【想定媒体】 Web/その他

＜簡体字＞

高野神社宝物：隨身門木制守护神像

高野神社の珍藏包括一对曾立于隨身門两侧的木制守护神立像。与许多神社和寺院の守护神像相似，其中一尊张口若发"阿"音，象征开端；另一尊闭口如诵"吽"音，象征终结。这一“阿吽”组合源自梵文字母的首音与尾音，其蕴含的佛教思想，与《圣经》中用“阿尔法”和“欧米伽”指代万物始末的观念颇为相似。

两尊守护神均身着宫廷式样的帽饰、衣袍与鞋履，推测原本是手持弓箭，摆出守卫门户的姿态。这对神像于 1162 年以桧木雕成，最初施有鲜艳的彩绘，但如今大部分颜料已经剥落。根据碑文记载，神像由一位佛像雕刻家在当地信众的资助下制作完成。

＜繁体字＞

高野神社之寶：隨身門の木造守護神像

高野神社珍藏的一對木造守護神立像，過去曾分立於隨身門兩側。和多數寺社の守護像一樣，其中一尊張口，彷彿發出「阿（a）」的音，象徵開始；另一尊則閉口，如同發出「吽（un）」之音，象徵終結。這組「阿吽」意象源自梵文音節的首尾發音，呈現佛教對萬物始終的理解；若以西方概念類比，也可聯想到象徵起始與終結的「Alpha 與 Omega」。

兩尊神像皆頭戴宮廷帽，身著袍服與鞋履。相傳其原本手持弓箭，展現守護姿態；以檜木雕刻於 1162 年，起初施有鮮豔彩繪，但如今多已剝落。碑文記載，這對神像由地方捐助者出資，並由佛師製作完成。

＜日本語仮訳＞

高野神社の宝物：隨身門の木造守護神像

高野神社の宝物には、かつて隨身門の両脇に立っていた一対の守護神の木造立像が含まれます。

多くの神社や寺の守護神像と同様に、一方の像は「ア」の音を表すかのように口を開けて始まりを象徴し、もう一方は「ウン」の音を表すかのように口を閉じて終わりを象徴しています。これらはサンスクリット音節文字の最初と最後の音を表し、聖書の「アルファ」と「オメガ」が万物の始まりと終わりを示すのとよく似た仏教概念を表現しています。

どちらの守護神も宮廷の帽子、衣、靴を身につけており、かつては弓矢を構え守護の姿勢をとっていたと考えられています。1162年にヒノキ材で彫刻され、鮮やかな彩色が施されていましたが、その大部分は剥落してしまっています。碑文によれば、仏師が地元の勸進者たちの支援を得て制作したとされています。

【タイトル】 高野神社/木造獅子 2 対（国指定重要文化財）

【想定媒体】 Web/その他

＜簡体字＞

高野神社宝物：木制守护狮子像

高野神社の宝物中、还有两对传统的木制守护狮子像。这些狮子以桧木雕刻而成，与同样常见于神社和寺院中的“狛犬”不同，它们没有标志性的独角，因此可以明确判定为狮子形象。

与其他守护造像类似，每对狮子中，一尊张口，另一尊闭口，分别象征梵文音节中的首音"阿"与尾音"吽"，寓意万物的开始与终结。其中较大的一对高约 70 厘米，年代可追溯至 9 世纪；较小的一对高约 30 厘米，制作于 12 世纪。

＜繁体字＞

高野神社之寶：木造守護獅子像

高野神社珍藏眾多寶物，其中有兩對木造「獅子」，屬於傳統的守護獅子像。這些神獸以日本檜木雕刻而成，由於不具部分狛犬常見的角狀特徵，因此可明確辨識為「獅子」造型。

和其他守護像相同，每對獅子皆由一尊張口、一尊閉口構成，象徵梵文音節的「阿」與「吽」，代表開始與終結。較大的一對約高 70 公分，可追溯至 9 世紀；較小的一對約高 30 公分，則為 12 世紀的作品。

＜日本語仮訳＞

高野神社の宝物：木造守護獅子像

高野神社の宝物の中には、伝統的な守護獅子である 2 対の木造獅子があります。ヒノキ材で彫られたこの像は、神社や寺の境内を守る狛犬として知られる伝説の獅子のような守護獣が持つ 1 本の角がないことから、明確に獅子であると判別できます。

他の守護像と同様に、それぞれ、対の獅子像の片方は口を開けて、もう片方は口を閉じています。これはサンスクリット音節文字の最初と最後の音である「ア」と「ウン」を表し、始まりと終わりを象徴しています。高さ約 70 センチの大きな方の 1 対は 9 世紀、30 センチの小さな方の 1 対は 12 世紀のもので

【タイトル】 作楽神社/作楽神社 概略

【想定媒体】 Web/その他

＜簡体字＞

院庄館遗址

院庄館遗址位于津山市西端、吉井川沿岸的一片开阔平原上。这里曾是美作国“守护职”的宅邸，约建于 14 世纪。当时，这类馆舍兼具住所与行政中心的双重职能，守护职在此执行将军政令并监督地方事务。

如今仅有一片空地作为宅邸遗址被保存下来。不过东门的石碑上刻有传说中的十字文，据说是写给 14 世纪被流放的天皇的信息。正是这段传说，让此处遗址以及与之相邻、气势不凡的作乐神社，在约七百年后的今天依然被传颂。

＜繁体字＞

院庄館跡

位於津山市西端、吉井川沿岸廣闊平原上的「院庄館跡」，相傳曾是美作國守護職（相當於地方的軍事與行政最高負責人）的居館，約建於 14 世紀左右。當時這類居館兼具居住與行政中樞的功能，守護職在此執行將軍的命令，並統管地方政務。

如今，遺址僅留下的一片空地，作為歷史的見證。不過，在東門的石碑上，仍刻有一段傳說中的十字碑文；據說這段文字是在 14 世紀為獻給一位遭流放的天皇而寫。也因此，這處遺址與旁邊宏偉的作樂神社，即使歷經近 700 年的歲月，至今仍為人廣為傳頌。

＜日本語仮訳＞

院庄館跡

津山市西端、吉井川沿いの広い平野に、院庄館跡があります。ここは美作国の守護職の居館で、14 世紀頃に建てられました。当時、この種の居館は、守護職が將軍の命を履行し地方の行政事情を監督する、住居と行政の中心地両方の役割を果たしていました。

今日、更地となった一画のみが居館跡として保存されています。しかし東門の石碑には、14 世紀に配流された天皇に向けたとされている 10 字の伝説上のメッセージが刻まれています。この伝承が、その後約 700 年を経た今でも、この地（と隣接する見事な作楽神社）が称えられている所以です。

【タイトル】 作楽神社/院庄館跡（児島高德伝説地）（国指定史跡名勝天然記念物）

【想定媒体】 Web/その他

<簡体字>

后醍醐天皇与忠臣的传说

传说是这样的：1331年，后醍醐天皇策划推翻镰仓幕府的计划失败。天皇被迫退位并被流放至偏僻的小岛，途中，押送队伍在院庄的守护职宅邸停留过夜。

天皇的一位忠臣——儿岛高德决心营救君主。他潜入宅院后发现守备森严，难以实施救援。进退维谷之际，他采取了一个极具象征意义的举动：在院内一株樱花树的树皮上，刻下了取自中国古典诗文的十个汉字表达矢志不渝的忠心。这是一段传递希望的暗号，让天皇知晓自己没有抛弃。

这一忠义故事被记载于叙事性历史文学《太平记》中，并在其后数百年间广为传颂。1869年，为纪念这一传说，当地官员向政府请愿兴建了作乐神社。

据史料记载，后醍醐天皇最终确实逃离了流放地，并于1333年一度重登帝位。儿岛之名虽载于《太平记》，但两人是否曾重逢——乃至这段戏剧性事件是否真实发生——至今仍是未解之谜。

<繁体字>

後醍醐天皇與忠臣的傳說

相傳在1331年，後醍醐天皇策畫推翻鎌倉幕府失敗，被迫退位，並遭流放至偏遠島嶼。在押解途中，一行人曾於院庄的守護職居館留宿一夜。

傳說中，效忠後醍醐天皇的武將之一——兒島高德決心營救主上，潛入居館後卻發現戒備森嚴，難以強行救出。無計可施之下，他做出一個象徵性的舉動：在院內一棵櫻樹的樹皮上，刻下十字漢詩（相傳為「天莫空勾踐，時非無范蠡」），以表明自己的堅定志向。這段詩文也被視為寄託希望的暗號，讓天皇知道自己並未被遺棄。

這段事蹟後來被收錄於軍記物語《太平記》之中，並在此後數百年間廣為流傳、備受讚頌。1869 年，當地官員更向政府請願建立作樂神社，以紀念這段傳說。

從史實來看，後醍醐天皇最終確實逃離流放地，並於 1333 年短暫重掌政權。《太平記》雖提及兒島高德之名，但兩人是否曾再度相逢、事件是否完全如傳說所述，至今仍是歷史上的未解之謎。

＜日本語仮訳＞

後醍醐天皇と忠臣の伝承

伝承ではこのように伝えられています：1331 年に後醍醐天皇は鎌倉幕府の倒幕計画に失敗しました。同天皇は廃位を余儀なくされ、島流しを命じられました。その途中、彼の護送者らは院庄にある守護職の居館で夜を明かすことにしました。

天皇の忠臣の 1 人である児島高德は、天皇を奪還しようと決意しました。彼は居館に潜入しましたが、警備が厳重すぎるために救出は不可能だということが分かりました。途方に暮れた彼は、ある象徴的な行動に出ました。敷地の桜の樹皮に、変わらない誠忠を詠んだ漢詩を 10 字で刻んだのです。それは、見捨ててはいないということを天皇に知らせる、希望の暗号文でした。

この忠義の物語は、叙事詩的な歴史物語『太平記』に記され、その後何世紀にもわたって称賛されました。1869 年、地元の役人たちはこの伝承を称えて、作樂神社を建てるよう政府に請願しました。

歴史によれば、後醍醐天皇はついに島流しの地から脱し、1333 年に権力を一時的に奪還したとされています。児島は『太平記』で言及されていますが、その 2 人が再会したかどうか（あるいはこの劇的な出来事が実際にあったかどうか）は今もなお推測の域にとどまっています。

【タイトル】 作楽神社/太刀「銘国行」（国指定重要文化財）

【想定媒体】 Web/その他

<簡体字>

作乐神社的宝刀

作乐神社珍藏着一把被指定为日本重要文化财产的刀。这把被称为“太刀”的刀，是后来更为人熟知的“日本刀”的前身。太刀刀身弧度较大，佩戴时刀刃朝下。全长约 70 厘米，刀身纤长而弧线遒劲，折射出其所处时代典雅威严的风格。

刀身上铭刻着 13 世纪刀匠的名字——“国行”。像他这样的名匠，世代传承着独特的锻造技艺，所打造的刀剑不仅用于战斗，也被视为护身符与和平的象征。无论在当时还是今日，这些刀剑都被誉为卓越的艺术品。

此刀于 1710 年由第六代将军德川家宣赐予津山藩主。1869 年作乐神社创建时，刀被供奉于神社之中。如今，刀虽仍归作乐神社所有，但目前保存于冈山县立博物馆。

<繁体字>

作樂神社的珍藏寶刀

作樂神社珍藏眾多寶物，其中有一把被認定為日本重要文化財的寶刀。此刀屬於「太刀」，是較為人熟知的「打刀」出現之前的刀劍形式。太刀的弧度更為明顯，並以刀刃朝下的方式佩帶。這把刀全長近 70 公分，刀身纖細卻曲線有力，展現出當時兼具優雅與威嚴的風格。

刀身上刻有 13 世紀刀匠「國行」之名。名匠們代代相傳獨到技藝，鍛造刀劍不僅用於戰鬥，也常被視為護身符與和平的象徵。他們的作品無論在當時或今日，都因卓越的藝術價值而備受推崇。

這把太刀於 1710 年由第六代將軍德川家宣賜予津山藩主。作樂神社在 1869 年創建時，這把刀也隨之奉納至神社。寶刀至今仍歸神社所有，目前寄藏於岡山縣立博物館，並由館方

妥善保存。

＜日本語仮訳＞

作楽神社の宝剣

作楽神社の宝物の中には日本の重要文化財に指定された刀剣があります。太刀と呼ばれる刀剣で、より広く知られている刀の前身となるものです。きつく弧を描くような曲線を持ち、刃を下に向けて佩（は）きます。全長約 70 センチ、細身でありながら力強い湾曲のあるこの刀剣は、当時の優雅でありながら威厳ある様式を映しだしています。

刀身には 13 世紀の刀工の名、「国行」が刻まれています。彼のような名匠たちは独自の技術を継承し、戦のためだけでなく、お守りや平和の象徴としても、刀剣を鍛造しました。彼らの刀剣は、当時も今も、傑出した芸術作品として称賛されています。

この刀剣は 1710 年に、第 6 代将軍・徳川家宣より津山藩主に贈られました。作楽神社が 1869 年に建てられた際、同神社に奉納されました。刀剣は今も神社の所有物ですが、現在は岡山県立博物館に預けられています。

【タイトル】 本源寺/本源寺 概要

【想定媒体】 Web/その他

<簡体字>

本源寺

本源寺位于津山市区西部，是自 17 世纪初起统治津山藩长达 94 年的森氏家族的家族寺院。该寺隶属于日本禅宗三大宗派之一的临济宗。数百年来，临济宗寺院不仅是宗教场所，也在艺术、建筑与文化生活中扮演着重要角色。

前来参拜的游客需依次穿过外门与内门，这样的布局在津山地区并不多见。早年两门之间的通道两侧设有石垣与土墙，使整个寺院宛如一座要塞。内门采用 17 世纪常见的四根立柱支撑的“切妻”式屋顶，旁边还立有一座曾悬挂过大钟的钟楼。

本堂由津山藩初代藩主、津山城的建造者森忠政于 1607 年兴建。1683 年，寺院以藩主的法名命名为“本源寺”。

本堂建筑面积超过 400 平方米，格局仿照禅宗住持的居所设计，将礼佛空间与日常居室相结合，包含铺设了榻榻米的厅堂与木质檐廊。堂内尊位供奉着主佛像与森忠政的木像。木梁上仍可见森氏家纹钉饰等细节，保留着其作为森氏家族寺院的历史痕迹。1607 年上梁时题写在栋木上的墨书文字，是目前已知最早记载“津山”这一地名的史料。

本堂东侧是 18 世纪重建的僧房，西侧则为森氏灵庙。灵庙前门雕刻繁复，曾施以鲜艳彩绘，与院内其他建筑同被指定为日本重要文化财产。灵庙后方北侧，矗立着为森忠政及其家族建造的七座石造塔墓，这些塔墓面向灵庙，并与东侧的津山城天守阁呈直线排列。

<繁体字>

本源寺

本源寺位於津山市中心西側，是森氏家族的菩提寺；該家族自 17 世紀初起統治津山藩長達 94 年。本源寺隸屬日本禪宗三大流派之一的臨濟宗。歷經數百年，臨濟宗寺院不僅是

宗教場所，也逐漸成為藝術、建築與文化生活的中心。

參訪本源寺時，旅客會依序穿越外門與內門，這樣的格局在津山相當少見。過去兩道門之間的參道兩側曾有石牆與土牆夾道，使寺院整體呈現如堡壘般的氛圍。內門採用 17 世紀常見的四腳門形式，並搭配切妻造（人字形）屋頂。旁側則矗立著一座鐘樓，過去曾懸掛巨大的梵鐘。

本堂於 1607 年由津山藩初代藩主、同時也是津山城築城者的森忠政所建。到了 1683 年，寺院依據藩主的法號，正式命名為「本源寺」。

本堂面積超過 400 平方公尺，設計以禪宗住持居所（方丈）為藍本，將參拜空間與日常起居結合在同一建築中，包含鋪設榻榻米的廣間，以及木造緣側（走廊）等。殿內最尊貴之處供奉主佛像與森忠政木像。木樑上至今仍可見森家家徽的釘隱等痕跡，見證其作為家廟的歷史。棟木上的墨書記載了 1607 年的日期，據傳也是現存史料中最早提及「津山」地名的記錄。

本堂東側為 18 世紀重建的僧房，西側則設有森家靈廟。靈廟正面的唐門雕刻精緻，昔日曾施以鮮豔彩繪，並與境內其他建築一同被認定為重要文化財。靈廟後方北側矗立著 7 座為森忠政及其家族所建的石造五輪塔；塔墓面向靈廟，並與東方津山城天守閣呈一直線排列，彷彿至今仍在守望著曾經統治的領地。

＜日本語仮訳＞

本源寺

本源寺は津山市街地の西部に在ります。17 世紀初頭から 94 年間にわたって津山藩を統治した森氏の菩提寺です。本源寺は日本の禪宗三大宗派の 1 つである臨済宗に属しています。何世紀にもわたり、臨済宗のお寺は宗教的な場所というだけでなく、芸術や建築、文化生活の中心地となっていました。

本源寺を訪れる参拝者は外門と内門をくぐります；津山では珍しい設計です。かつては両門の間の道が石垣と土塀で挟まれており、寺はまるで砦のような雰囲気を持っていました。内門は 17 世紀によ

く見られた四本柱の切妻屋根様式が特徴で、かつて大鐘を納めていた鐘楼が近くに立っています。

本堂は 1607 年に、津山藩初代藩主であり津山城築城者でもある森忠政によって建てられました。

1683 年に、藩主の法名に因んで「本源寺」と命名されました。

延べ面積 400 平方メートル以上の本堂は、禅宗の住職の住居をモデルにしています。参拝のための空間と通常の部屋、畳の広間や木造の縁側などが組み合わされています。栄誉ある場所に主仏像と忠政公の木像がそれぞれ安置されています。家紋をあしらった釘隠など、森家の菩提寺だった頃の名残を木造の梁にみることができます。1607 年に上棟された棟木の墨文字は、「津山」の名を示す現存する最古の記録です。

本堂の東側には 18 世紀に再築された僧房があり、一方で西側には森家の霊屋が建っています。霊屋の正面の門は、精巧な彫刻がされかつては鮮やかな彩色が施されていたもので、境内にある他の建造物と同様に重要文化財に指定されています。霊屋背後には、北側に忠政とその一族のために建てられた七基の石造の塔墓が立っています。塔墓は霊屋に向いて、東に津山城の天守閣と直線に並んでいます。

地域番号	023	協議会名	こんぴら文化観光推進協議会

解説文一覧

NO.	スポット名 (タイトル)	中国語文字数	想定媒体
023-001	金刀比羅宮全体、由緒等	913	Video/ WEB
023-002	金刀比羅宮 旭社の解説	810	Video/ WEB
023-003	金刀比羅宮 表書院の解説	936	Video/ WEB
023-004	奥書院の解説	683	Video/ WEB
023-005	旧金毘羅大芝居の全体説明	845	Video/ WEB
023-006	参拝についての概要、一段目 あと 785 段	625	WEB
023-007	一の坂/灯明堂	397	WEB
023-008	琴陵宥常銅像	293	WEB
023-009	大門 あと 420 段	338	WEB
023-010	宝物館	431	WEB
023-011	桜馬場 あと 415 段	288	WEB
023-012	こんぴら狗	507	WEB
023-013	神馬舎	309	WEB
023-014	高橋由一館	393	WEB
023-015	表書院(社務所門)、白書院、奥書院	570	WEB
023-016	神椿 あと 285 段	298	WEB
023-017	旭社	530	WEB
023-018	賢木門あと 143 段/ 一段下がる石段	443	WEB
023-019	お手水について/ 御前四段坂あと 134	332	WEB
023-020	展望台	252	WEB
023-021	御本宮	763	WEB

023-022	白峰神社 奥社まで 445	501	WEB
023-023	厳魂神社(奥社)	327	WEB
023-024	旭社の概要、建立経緯と特徴	621	WEB
023-025	旭社 テキスト解説 2 -6	1061	WEB
023-026	旭社 テキスト解説 7-10	710	WEB

【タイトル】 金刀比羅宮全体、由緒等

【想定媒体】 Video/WEB

<簡体字>

金刀比羅宮：朝圣者与艺术家的灵感圣殿

日本香川县的金刀比羅宮，静静伫立于象头山的山腰之上。这里所信仰的守护神在民间被称为“金毗罗”，是在日本民间广受爱戴的航海安全之神，因此金刀比羅宮也被亲切地称为“金毗罗先生”。神社正式供奉的是大物主神以及崇德天皇的神灵。数百年来，无数朝圣者不辞辛劳前来参拜，祈愿五谷丰登、商贸兴隆、祛病延寿以及海上平安。直到今天，游客们仍可循着昔日朝圣者的参道徒步前行，踏着岁月留下的足迹拾级而上。

通往主殿的参道，共设有 785 级蜿蜒而上的石阶。这段艰辛的攀登路程，被视为净化身心、以虔诚之姿参拜神明的修行过程。

参道沿途分布着许多名胜古迹。例如，在第 477 级石阶处，坐落着一座名为“表书院”的接待殿。该建筑约建于 1659 年，原为贵宾们等候拜见住持的场所。书院内的墙面与横拉门，绘有仙鹤、猛虎与飞瀑等图案。这些笔势奔放、栩栩如生的杰作，均出自 18 世纪名画家圆山应举之手。相邻的“奥书院”接待殿墙面上，则由另一位 18 世纪艺术大师伊藤若冲绘满了各色花卉。奥书院仅在一些特殊场合开放，如若得以入内一观，尤为难得。

行至第 628 级石阶处，便可见“旭社”。这座精美的木构建筑完工于 1845 年。汇聚日本全国数千人捐献者的资助方得以落成，营建前后历时四十年。其檐下的垂木与木雕构件上，可见精心雕刻的祥云、飞龙以及其他或取自现实、或源于想象的灵兽。

金刀比羅宮的正殿采用歇山式屋顶，并覆以传统的桧树皮屋瓦。殿内外装饰以洒金工艺的漆绘樱花图案。

自正殿向外眺望，绿意盎然的赞岐平原尽收眼底。极目远眺，濑户内海波光与圆锥形的饭野山相映成景，因山形酷似富士，饭野山亦被称作“赞岐富士”。

金刀比羅宮一年四季都有丰富多彩的祭典与文化活动。每年十月，为期三日的秋祭期

间，有两日会举行神轿巡游，金刀比罗宫的诸位神明将乘轿巡行于街巷之中。元旦 1 月 1 号至 3 号期间，约有五十万参拜者前来攀登石阶，进行新年参拜。在表书院的庭院中，神职人员会演示“蹴鞠”——一种以脚踢球、保持球不落地的传统游戏。蹴鞠在一千多年前曾深受宫廷贵族喜爱，并于 1974 年被指定为日本香川县非物质文化遗产。无论是对于朝圣者还是当地居民而言，金刀比罗宫至今仍是宗教与文化活动的繁荣中心。

〈繁体字〉

金刀比羅宮：激發朝聖者與藝術家靈感的聖地

香川縣的金刀比羅宮又稱「Konpira-san」，座落在象頭山的山坡上。御本宮中供奉著大物主神與被神格化的崇德天皇。數百年以來，朝聖者跋山涉水到此祈求農業、貿易、醫藥及航海等的興盛。現今，遊客可以沿著他們曾經走過的路徑遊賞。

通往御本宮的道路是一條多達 785 級的石階。艱苦的攀爬是為了淨化身心，為接近神做準備。

這條路通往多個著名地標。例如，在第 477 級石階上有一個稱為表書院的接待堂。該堂建於西元 1659 年左右，是供重要賓客等候謁見住持的地方。建築牆壁及滑門上繪有鶴、老虎與奔騰瀑布的圖案。這些充滿活力的傑作出自 18 世紀畫家圓山應舉之手。鄰接的奧書院接待殿堂牆上，飾有另一位 18 世紀大師伊藤若沖手繪的各種花卉圖案。奧書院只在某些特殊場合開放，因此每一次參觀機會都彌足珍貴。

在第 628 級石階上有一座名為「旭社」的神社。這棟優雅的木造建築於西元 1845 年完工。這棟建築是靠數千名贊助者的捐助完成，歷時 40 年。屋簷下的尾椽和木工部分有精雕細琢的雲紋、龍以及其他真實或虛構生物的圖案。

御本宮的屋頂為重檐歇山頂，頂上鋪設傳統的檜柏樹瓦。殿堂內外整體飾有漆繪櫻花圖案，並撒上金粉。

從御本宮望出去可以俯瞰蔥鬱的讚岐平原。遠方是瀨戶內海，還有圓錐狀的飯野山，因其外形酷似富士山，被稱為「讚岐富士」。

金刀比羅宮全年都會舉辦各種節慶與文化活動。在 10 月舉行為期三天的秋季祭典期

間，神社の神祇會被安置在移動式神龕中，有兩天會出巡街頭。每年 1 月 1 日至 3 日，約有 50 萬人跋涉前往御本宮進行新年參拜。在表書院の寺院內，僧侶們會表演「蹴鞠」，這是一種用腳踢球讓球不著地的儀式。一千多年前，這種習俗流行於宮廷成員中。西元 1974 年，這種習俗被指定為香川縣無形民俗文化資產。無論是對朝聖者或當地社區而言，金刀比羅宮一直以來是宗教與文化活動的中心。

＜日本語仮訳＞

金刀比羅宮：参拝者と芸術家の心を動かす場所

「こんぴらさん」と親しまれる香川県の金刀比羅宮は、香川県の象頭山の斜面に位置している。金刀比羅宮では大物主神と崇徳天皇の神霊が祀られている。数世紀に渡って、農業・殖産・医療・海上安全の成就を祈願する巡礼者が訪れてきた。今なお来訪者は、幾世紀にも渡って参拝者たちが歩んだのと同じ道を辿ることができる。

御本宮への道は 785 段の石段が続く。この厳しい登坂は、神々に近づく準備として心身を清める意味合いを持つ。

この参拝路は数々の名所を通る。例えば 477 段目には表書院と呼ばれる応接の場がある。ここは住職との謁見を待つ要人の待合所として 1659 年頃に建てられた。建物の襖や壁には鶴、虎、流れ落ちる滝が描かれている。これらの躍動感あふれる傑作はいずれも 18 世紀の画家・円山応挙の作品である。隣接する奥書院の壁面には、同じく 18 世紀の巨匠・伊藤若冲により様々な花の絵が描かれている。奥書院は特別な場合のみの公開となっており、拝観できる機会は貴重である。

628 段目には、旭社（「あさひのやしろ」だが、「あさひしゃ」とも通称される）がある。この風格ある木造建築は 1845 年に建てられたものである。数千人からなる寄進による資金援助によって実現したこの建造には 40 年を要した。軒下の尾垂木や木工細工には、雲や龍や、実在するものから想像上のものまで様々な生物が、精巧に彫り込まれている。

御本宮は入母屋造り屋根で、伝統的な檜皮葺きが施されている。御本宮の内外には、金粉を散らした漆塗りで描かれた桜の花が装飾されている。

御本宮からは、緑豊かな讃岐平野を見渡すことができる。遠くには瀬戸内海とともに、円錐形の飯野山が見える。飯野山はその姿が富士山に似ていることから「讃岐富士」とも呼ばれる。

金刀比羅宮では年間を通じて様々な祭事や文化的な行事が催される。3 日間かけて行われる 10 月の例大祭では、二日間に渡って祭神を乗せた神輿の渡御が行われる。正月三が日には、およそ 50 万人ほどの参拝者が訪れ、御本宮まで登り、お詣りをする。表書院の境内では、神職による蹴鞠

（けまり）の実演が行われる。これは千年以上前に宮廷で親しまれた鞠を蹴る遊神事であり、1974年に香川県の無形民俗文化財に指定された。参拝者にとっても地域の人々にとっても、金刀比羅宮は今なお宗教や文化が息づく場所であり続けている。

【タイトル】金刀比羅宮 旭社の解説

【想定媒体】 Video/WEB

<簡体字>

旭社：雕刻精美的神社建筑

旭社是日本四国岛上规模最大的木结构神社建筑之一，位于香川县著名的金刀比罗宫境内，是金刀比罗宫的附属神社。由日本全国 13 万 8 千 名捐赠者共同捐资，于 1845 年修建而成。

旭社主体高达 25 米。其宽敞通透的主殿与曲线优美的屋顶，明显受到中国佛教建筑风格的影响。事实上，旭社最初本为供奉佛教中的药师佛而建，直至 19 世纪末才改为神道神社。如今，这里供奉着多位神明，其中包括被视为神道教中最古老神明之一的“天之御中主神（日本神话中的开天辟地之神）”。

旭社在建造之初原计划采用陶瓦铺顶，但因担心重量过大，最终改用约一万片轻质铜瓦覆盖。每一片铜瓦都由工匠手工锻造，形似传统瓦片。

旭社的可见之处，几乎遍布精美雕刻。飞檐下平整处刻有翻涌的云纹，尾垂木上伸出龙等各种灵兽的雕刻，装饰板上又见游鱼穿梭其间。与水相关的动物常被作为避火护符，因而被广泛用于木构建筑的装饰之中。旭社的山墙顶端亦装饰着吉祥图案。一侧雕刻仙鹤，另一侧则为灵龟。二者皆为长寿的象征。

木板拼合的门扉上，雕刻着体现天人合一境界的道教仙人图案。此类图案常被用于宗教建筑，寄托着人们对长生不老与超然神力的向往。在此，能工巧匠们运用镂空浮雕的手法，留出通气透光的孔隙。殿内，环绕主殿的横梁之间，雕刻着中国的十二生肖动物形象。这些动物朝向殿内，仿佛静静注视着进入殿中的参拜者。

旭社精妙的构架，使用了百余根从遥远的秋田县运来的巨大榉木。这座多层建筑的巨大重量并非仅由立柱承担，而是借助巧妙嵌入上层的“桔木”结构（日本的一种利用杠杆原理的独特屋顶内部支撑系统）来支撑。这一设计使得中央的参拜空间显得高大开阔，且因没有中心柱的阻隔，参拜者与所祭神明之间更无隔阂。

旭社于 1982 年被指定为日本重要文化遗产，金刀比罗宫亦竭力守护其卓越的建筑与雕刻艺术。如今，针对这座历经近两百年风雨洗礼的建筑，一项旨在修复白蚁侵蚀与潮湿所致损伤的为期 18 年的大规模修缮工程，正稳步推进中。

〈繁体字〉

旭社：一座滿滿精美雕刻的神社

旭社是四國島上最大的木造神社建築之一，建於西元 1845 年，位於香川縣著名的金刀比羅宮內。該建築由來自全國各地 13 萬 8 千位贊助者的捐助建造完成。

神社建築高 25 公尺。通風良好的御本宮及弧形屋頂呈現了源自中國佛教建築的特色。事實上，旭社最初是為了供奉佛教的藥師如來而建的，但在 19 世紀末轉身為神道神社。現在這裡供奉著許多神祇，包括被視為神道萬神殿中最古老神祇之一的天之御中主。

本來的計劃是以陶瓷瓦片來鋪蓋旭社屋頂，但因為陶瓷瓦片可能會太重，所以改用大約 1 萬片輕質銅片來覆蓋，每一片瓦片都是以手工打造。

這棟建築整體的木質表面都經過精雕細琢。懸挑屋簷下的平坦表面刻有旋狀的雲紋，龍與其他生物的雕刻從尾椽跳脫出來，魚兒游過側板。與水有關的動物經常被應用到這類木造建築中，當作防火護身符。屋頂山牆上也刻有祥瑞圖案，一邊雕著鶴，另一邊則雕著烏龜，這兩種動物都是長壽的象徵。

鑲板門上有道教仙人與自然調和的意象雕刻。這類的人物形象常被納入宗教建築元素中，作為超越人類理解的不朽之力，啟發靈感的象徵。在此，雕刻師們透過鏤空浮雕，打造出通風和透光的縫隙。他們在殿內環繞御本宮的橫樑間雕刻了中國的十二生肖動物。這些動物面朝殿內，彷彿在觀察著進門的遊客。

神社精心採用來自遙遠的秋田縣的 100 多根巨大檫木樑，這座多層建築的巨大重量以巧妙的懸臂系統來支撐，該結構隱藏在上層樓板中。如此一來，中央祈禱空間就變得高挑開闊，朝聖者和供奉的神像之間不會有任何中央立柱阻隔。

旭社於西元 1982 年被指定為日本重要文化財，金刀比羅宮則致力於保護其卓越的建築與雕刻。近兩個世紀以來，這座建築歷經歲月洗禮，目前正在進行為期 18 年的大規模

修復工程，以修復白蟻和濕氣所造成的損壞。

＜日本語仮訳＞

旭の社：彫刻の施された社

旭社（あさひのやしろ）は、四国最大級の木造社寺建築の一つである。「あさひしゃ」とも呼ばれるこの末社は、1845年に香川県の名所・金刀比羅宮境内に建立された。建立にあたっては、全国から13万8千人もの寄進が寄せられた。

社殿は25メートルの高さになる。開放的な主殿と曲線を描く屋根は中国仏教建築様式の影響を受けている。というのも、旭社はもともと医療と医薬の仏尊を祀るため建立されたが、19世紀末に神社の様式に改められている。現在では、神道神話において最古の神々の一柱とされる天之御中主をはじめ、多くの神々が祀られている。

旭社は建築当初は瓦葺きが計画されていたが、重量過多を懸念し約1万枚の軽量銅板で葺くことに替えられた。一枚一枚が瓦の形に手作業で成形されている。

建物の見える部分のほぼ全てには精巧な彫刻が施されている。張り出した軒下の空間には渦巻く雲模様が施され、尾垂木からは龍など様々な生物の彫刻が伸び、装飾板では魚が泳いでいる。水に関連する動物は、火除けのお守りとしてこうした木造建築に加えられることが一般的であった。屋根の妻飾りにも縁起の良い意匠が配されている。一方には鶴が、もう一方には亀が彫られている。どちらも長寿の象徴である。

板張りの扉には、自然との調和を体現した道教の仙人の姿が彫られている。こうした図像は、不老長寿や人智を超越した力への憧れとして、宗教建築にしばしば取り入れられた。ここでは、名工たちが浮き彫りに空洞を設け、空気と光を通す穴を創り出した。内部では、主殿を取り囲む横梁の間に十二支の動物が彫られている。動物たちは内側を向き、参拝者が入る様子を観察するかのように見える。

社殿の精巧な構造には、遠く秋田県から運ばれた100本以上の巨大なケヤキ材が用いられている。この多層建築の重みは柱ではなく、上階に巧みに組み込まれた桔木の仕組みによって支えられている。これにより中央の参拝スペースは高く開放され、中央の柱がないことで参拝者と祀られた神々の間を隔てるものがなくなっている。

旭社は1982年に国の重要文化財に指定され、金刀比羅宮はその特筆されるべき建築様式と彫刻の保存に尽力している。現在は、約2世紀にわたる歳月の影響を受けた建物に対し、シロアリや湿気による損傷を修復するための18年間に及ぶ大規模な改修プロジェクトが進行中である。

【タイトル】 金刀比羅宮 表書院の解説

【想定媒体】 Video/WEB

<簡体字>

表书院：名作荟萃的接待殿

表书院位于日本香川县金刀比罗宫内，是一座用于接待宾客的书院建筑。过去，前来参拜的重要来客需在此等候拜见住持。为了让等候本身也成为一段赏心悦目的时光，当时的名画家在此创作了沉浸式的艺术作品。如今，表书院向公众开放，游客可在建筑与自然环境交融之中欣赏这些艺术杰作。

表书院约建于 1659 年。其建筑采用歇山式屋顶，屋面坡度陡峭，覆盖桧树皮屋瓦，是日本传统建筑的典型样式。室内由横拉门分隔成七个房间。各个房间既可合上拉门，让游客沉浸于艺术作品之中；亦可尽数敞开，将庭院景致融入观赏体验。

前厅入口处悬挂着一幅鹰图：一只鹰停于柏树之上，振翅欲扑，仿佛马上要俯冲扑向猎物。这幅栩栩如生的作品由森宽斋绘制，以水墨绘于金箔之上。其风格与题材承袭前辈圆山应举，而其后的五个房间的装饰正是由应举亲自绘制。

18 世纪的日本美术多趋于程式化，以固定格调与象征意象为主流。然而，圆山应举通过对自然的直接观察，开创了兼具写实与优雅的新画风。他在表书院创作的绘画被指定为日本重要文化遗产。

在“鹤之间”中，应举描绘了水畔踱步的鹤、振翅高飞的鹤、伏眠歇息的鹤。细看可知，这些鹤属于不同的本土品种，却每一只皆以博物学家般的精确笔触呈现。

相邻的另一个房间中，猛虎在墙面间游走。老虎也并非日本本土动物，在应举所处的时代，日本国内亦无活虎可供写生。但他以虎皮及老虎的近亲——猫为参照，创作了这幅画作。

在“七贤之间”中，画面描绘了中国的“竹林七贤”吟诗作画、探讨哲理的场景。竹林以水墨浓淡铺陈出空间的层次与深度。观者仿佛被置于竹林深处，恍若也参与了这场贤士们的对话。

“山水之间”设有高台，唯有最尊贵的宾客方可入座。壁画生动描绘了瀑布飞溅的瞬间，是应举最具代表性的杰作之一。墙上水势似与户外花园池水相接，仿佛自画中奔涌而出，流入现实景致。

另有两间陈设日本画家邨田丹陵画作的房间，同样营造出沉浸式体验感。当两室之间的横拉门打开时，一侧骑马武士的画面与另一侧薄雾笼罩的富士山景相互呼应，共同勾勒出山麓狩猎的生动场景。

表书院的艺术陈设，至今仍保持着武士时代的原貌。所有艺术品未被隔离于博物馆的玻璃柜中，而是与建筑、自然景观浑然一体。每个房间不仅可供观赏，更是一场融合了微风、水声、风吟与地板吱响的完整体验。

〈繁体字〉

表書院：充滿藝術傑作的殿堂

表書院是香川縣金刀比羅宮內的接待堂。過去，訪客們會在這裡等候謁見住持。等待期間，欣賞當時繪畫大師所創作，宛如身歷其境的藝術作品令人倍感愉悅。表書院現已對外開放，遊客可以在欣賞建築與自然景觀的同時，欣賞其中的藝術作品。

表書院建於西元 1659 年左右。建築屋頂為重檐歇山頂，陡峭的屋頂上鋪設檜柏樹瓦，這是日本傳統建築中常見的特色。內部 7 個廂房以滑動隔板隔開。每個廂房都可以關閉，將參觀者環繞在畫作中；也可以打開，享受花園景觀。

前庭最吸睛的是一幅畫，畫中老鷹棲息在柏樹上，展開雙翼彷彿隨時準備俯衝捕食獵物。森寬齋這幅充滿活力的作品是用墨水在金箔上繪製的。他的風格和主題與其前輩圓山應舉相似，圓山應舉共繪製了另外 5 個廂房。

18 世紀的日本畫通常採用標準格式及代表性圖案。然而，圓山應舉開創了一種優雅、寫實的風格，靈感則來自於對大自然的直接觀察。他在表書院的畫作被指定為日本重要文化財。

在鶴之間裡，圓山應舉畫了鶴涉水、飛翔和睡覺的場景。仔細觀察會發現這些是不同

的原生物種，所有物種的描繪精準度都不輸博物學家。

隔壁廂房內，老虎潛行在牆上。老虎並非日本原生種，在那個時代，日本國內沒有活的老虎。因此，圓山應舉以保存完好的虎皮和其隨處可見的遠親—家貓—為畫作基礎進行描繪創作。

在七賢之間中，描繪出中國七賢創作藝術與進行哲學討論的場景。透過墨跡的濃淡運用營造出竹林深度的錯覺。這種效果使觀眾彷彿置身在竹林當中，宛如親身參與智者的對話中。

山水之間設有一個高台座位，只有身分最高的客人才能入座。這幅壁畫描繪了瀑布奔落的壯闊景觀，是應舉最傑出的作品之一。牆上描繪的溪流彷彿與外面花園裡的池塘無縫接軌。

兩間掛有邨田丹陵畫作的廂房營造出類似的沉浸式效果。打開這些廂房之間的屏風時，一個廂房裡會出現武士騎馬的場景，另一個會出現霧氣繚繞富士山景，兩者結合並勾勒出在山麓進行狩獵的場面。

表書院的藝術風格保留了武士時代的風貌。這些作品融入建築與景觀中，而非隔絕在博物館的玻璃後面。每個廂房不僅可供觀賞，更可以親身感受，與輕柔的微風、水聲、風聲和地板吱吱作響聲融為一體。

<日本語仮訳>

表書院：芸術的傑作が並ぶ境内建築

表書院は、香川県の金刀比羅宮の境内にある迎賓館である。かつては重要な来賓が住職との謁見のためここで待機した。待機時間は、当時の名匠による没入感あふれる芸術作品によって和まされた。現在表書院は一般公開されており、建築と自然環境と調和した芸術作品を鑑賞できる。

表書院は 1659 年頃に建てられた。入母屋造の屋根に檜皮葺きという、日本の伝統建築に共通する特徴を備えている。内部は七つの部屋が襖で仕切られた構成になっている。各部屋は、閉じて彫刻や襖絵などの芸術作品に囲まれることも、開け放って庭の景色を鑑賞体験に取り込むこともできるようになっている。

入口には、檜に止まり、獲物に襲いかかるかのように翼を広げた鷺の絵が飾られている。この躍動感あ

ふれる構図は、森寛斎による金地墨絵である。彼は先人である円山応挙と同様の作風と画題を用いており、次の5つの部屋にはその応挙の描いたものがある。

18世紀の日本の美術は、標準的な形式と象徴的なイメージで様式化されるのが一般的となっていた。しかし、円山応挙は直接自然を観察した際の閃きから、優雅で写実的な画風を開拓した。表書院に描かれた彼の作品は国の重要文化財に指定されている。

鶴の間では、応挙は水辺を歩く鶴、飛翔する鶴、眠る鶴を描いた。よく見ると、これらは異なる在来種であり、いずれも博物学者のような正確さで表現されている。

隣の部屋では、虎が壁を徘徊している。虎は日本に生息しておらず、応挙の時代には生きた個体は存在しなかった。そのため、彼は毛皮や身近な近縁種である猫をモデルにしてこの絵を描いた。

七賢の間では、中国の賢人たちが芸術を創作し、哲学的な議論を交わす様子が描かれている。竹林の濃淡を墨で表現することで奥行き感が創出され、鑑賞者はまるで賢人たちとの対話に加わっているかのように、竹林の中心に置かれる効果を生んでいる。

山水の間には、最高位の賓客のみ着席できる高座が設けられている。壁画に描かれた滝とその激しい飛沫は、応挙の最高傑作の一つである。壁に描かれたこの水流は、外の庭園の池へと途切れることなく流れ込むかのようにも見える。

邨田丹陵の絵が飾られた二つの部屋は、同様の没入感を生み出す。両室の間にある屏風を開けると、片方の部屋に描かれた騎乗姿の武者と、もう片方の部屋に描かれた霧に包まれた富士山の風景が融合し、山麓での狩猟の様子が表現されている。

表書院の芸術作品は、武士の時代の姿を留めている。それは博物館のガラスケースに隔離されることなく、建物と景観に溶け込んでいる。各部屋は単に見るだけでなく、そよ風や水音、風の音、きしむ床板の音と不可分な体験として感じられる。

【タイトル】 奥書院の解説

【想定媒体】 Video/WEB

<簡体字>

奥书院：珍宝私藏之所

香川县的金刀比罗宫，珍藏着众多艺术大师与工匠的传世杰作。其中仅奥书院内的珍宝会特定时期向公众开放展示。书院内几乎所有墙面与门扇都绘满了精致画作。

奥书院约建于 1659 年，最初为住持的住所。相较于接待各阶层宾客的表书院，奥书院空间更小，也更为私密。住持通常在此款待亲朋挚友。

奥书院中最负盛名的是主室，其中装饰着 18 世纪绘画大师伊藤若冲的作品。该作品名为《百花图》。画中描绘了 201 种盛放的花卉，包括绣球、莲花、牡丹与菊花，其中甚至包含若冲故乡京都并不常见的扶桑花。这些花朵最初绘于纯白背景之上，而后又在白底上洒上了闪耀的金粉。

伊藤若冲以落笔前对自然对象的细致观察而闻名。若细看他笔下的花卉，还能发现枯萎的树叶、虫蚀等自然瑕疵，真实而生动。

奥书院东侧的两间房，描绘了恬静的水畔风光。这些作品出自 19 世纪初画家岸岱，其以飞禽走兽题材见长。其中一室绘有《柳与白鹭图》，白鹭振翅起飞，穿过垂柳叶影翩然翻舞，继而落入浅滩伺机觅食，姿态灵动。

相邻一室则以岸岱的《菖蒲花与水禽图》装点。岸边菖蒲花盛放，水鸟群动，铺展出盛夏水畔的热烈生机。翠鸟俯冲入水捕食，鹈鸟踏过覆苔的地面从容踱步；其余鸟雀或蹒跚而行，或振翼穿梭，使画面更添跃动之势。

该房间的上部四扇画面，还细密描绘了四百余只蝴蝶结群飞舞。据推测，岸岱以当地博物学家采集的标本为参考，方能描摹得如此准确精微。画中的蝴蝶栩栩如生，仿佛正成群翩跹，飞向一处可俯瞰平原与远山的真实庭园。

奥书院于 1955 年被指定为日本重要文化遗产。书院绘画中的自然风景与书院外的真

实风景相互映衬，使奥书院成为金刀比罗宫中最美的宝库之一。

〈繁体字〉

奥书院：珍藏私密瑰寶的殿堂

香川縣金刀比羅宮是藝術大師和工匠偉大作品的收藏寶庫。在此眾多非凡的藝術品中，這個名為奥书院的堂內收藏只在某些特殊場合展出。幾乎所有廂房的牆壁和門上都繪有精美的壁畫。

奥书院建於西元 1659 年左右，最初是住持的居所。相較於隔壁用來接待從平民到高階武士賓客的表书院，這裡空間更小，更為隱密。而住持則在奥书院接待私人訪客。

奥书院中最著名的空間是講壇室，裡面飾有 18 世紀繪畫大師伊藤若沖的作品。該畫作名為《百花圖》。畫中包含 201 種生動的花卉圖案，勾繪出盛開的群花，包括繡球花、蓮花、牡丹和菊花，甚至有伊藤若沖的故鄉京都罕見的花種，例如木槿。這些花朵原本畫在純白色背景上，之後在白色背景上塗滿閃亮亮的金粉。

伊藤若沖以其對繪畫物件的觀察入微而聞名。仔細觀察他畫的花朵，會發現其保留逼真的缺陷，例如枯萎的葉子和飢餓的昆蟲所留下的啃咬孔。

奥书院東側兩個廂房描繪了風光明媚的水岸風情。這些畫作出自 19 世紀初期畫家岸岱之手，其以鳥類和其他動物畫作聞名。在一廂房中，《水岸枝柳與白鷺》描繪了白鷺展翅飛翔，掠過垂柳的枝葉滑翔到淺水中棲息的場景。

隔壁廂房飾有岸岱的《水岸花鳥》畫作。畫中，水生鳶尾花和活潑的水禽構成一幅色彩鮮明的仲夏景象。翠鳥俯衝水面，全力捕食獵物，而磯鷗則在滿佈苔蘚的地面上昂首闊步。其他鳥類蹣跚地來回踱步或飛來飛去，增添了些許動感畫面。

在同一廂房四個頂板上，繪有超過 400 隻蝴蝶，細節勾勒得非常細微。據稱，岸岱是以當地一位博物學家收集的標本為基礎創造了該蝴蝶畫作。畫中的蝴蝶栩栩如生，成群結隊飛向俯瞰下方平原和山脈的真實花園。

奥书院於西元 1955 年被指定為日本重要文化財。奥书院的畫作將自然風光與牆外的

景色納入畫中，是金刀比羅宮匯聚美的珍貴寶庫之一。

＜日本語仮訳＞

奥書院：秘蔵の宝が眠る館

香川県の金刀比羅宮には、芸術家たちの傑作が数多く収められている。数ある優れた芸術品の中でも、奥書院と呼ばれる境内建築にある宝物は特別な機会にのみ公開される。その中のほとんど全ての壁や襖が精巧な絵画で飾られている。

1659 年頃に建立された奥書院は、元々は住職の住居として使用されていた。表書院が庶民から高位の武士まで客人を迎える場であったのに対し、奥書院はより小規模で親密な空間となっている。住職の個人的な友人は、この奥書院で歓待された。

奥書院で最も有名なのは主室で、18 世紀の巨匠・伊藤若冲の作品を飾っている。この作品『百花の図』には、アジサイ、ハス、シャクヤク、キクなど、201 点もの鮮やかな開花植物が描かれている。そこには、京都出身の若冲には珍しかったはずの熱帯のハイビスカスなども含まれる。これらの花々は当初真っ白な背景に描かれていたが、後にその白地にきらめく金砂子が施された。

若冲は描く前に対象を丹念に観察することで知られていた。彼の花々を注意深く観察すると、枯れかけた葉や虫食いの跡といった、自然のままの不完全さが表現されている。

奥書院の東側にある二つの部屋には、のどかな水辺の情景が描かれている。これらは 19 世紀初頭の画家・岸岱による作品で、彼は鳥や動物を描くことで知られていた。ある部屋では『柳に白鷺の図』が描かれており、鷺が飛び立ち、しだれ柳の葉の間を舞い抜け、浅瀬に降り立って狩りをする様子が表現されている。

隣接する部屋は、岸岱の『花菖蒲に水禽の図』で彩られている。水辺には菖蒲が咲き、水鳥たちが躍動する真夏の情景が広がる。カワセミが獲物を狙って水面に飛び込み、シギが苔むした地面を闊歩する。他の鳥たちがよちよち歩いたり飛び回ったりする様子が、画面に躍動感を与えている。

同じ部屋の上部四枚には、400 匹以上の蝶の群れが緻密に描かれている。岸岱は地元の自然研究者が収集した標本を基にこれらの蝶を描いたと考えられている。絵の中では蝶たちは生き生きと群れを成し、眼下に広がる平野と山々を見下ろす実在の庭園へと飛んでいくように見える。

奥書院は 1955 年に重要文化財に指定された。絵画に描かれた自然の情景と、その壁の外に広がる風景との間で、奥書院は金刀比羅宮の美の宝庫の一つである。

【タイトル】旧金毘羅大芝居の全体説明

【想定媒体】Video/WEB

<簡体字>

金丸座：日本现存最古老的歌舞伎剧场

旧金毘羅大芝居，当地人称“金丸座”，位于日本香川县金刀比罗宫附近，是一座历史悠久的歌舞伎剧场。金丸座建于 1835 年，是日本现存最古老的歌舞伎剧场，至今仍用于重要演出。

18 世纪前后，金刀比罗宫已成为日本全国闻名的朝圣胜地，香客云集。该神社附近每年举办三次市集祭典，并搭建临时戏棚供人娱乐。然而，要吸引顶级艺人并呈现复杂舞台效果，亟需一座固定剧场。这种规模的舞台因“剧场宏大”而被称为“大芝居”。由于修建大芝居需得到地方大名（日本封建时代的地方领主）的许可，因此日本全国数量并不多。幸运的是，琴平町居民请求建造“大芝居”时，当地大名欣然应允，这便是金丸座（最初称“金毘羅大芝居”）的开端。

经过 20 世纪 70 年代初与 2003 年的修复，金丸座基本保留了 19 世纪的原貌。观众至今仍需在入口脱鞋，再进入包厢或铺着榻榻米的斜坡席地而坐。游客不仅可参观观众席，还能踏上舞台、探访后台，包括演员化妆室、乐师席位以及舞台下方如迷宫般的暗道区域。

观众席之间设有一条名为“花道”的通道，演员可在距离观众仅数厘米处完成戏剧性的登场与退场。花道中设有升降台，可悄然将演员托起，使其在饰演精灵或忍者时如同凭空现身；而舞台前方的活板门则能让演员瞬间“消失”。主舞台装有旋转式装置，用于场景切换与特效呈现。在现代剧场中，这类功能装置多已电动化，但金丸座至今仍由当地志愿者人力操作。

舞台与观众席上方纵横交错的竹制格架，用以悬挂灯笼与背景布景。有时演出时，象征雪花或樱花的剪纸会从格架飘向观众席。此外，剧场还设有被称为“掛筋”的滑轨装置，演员可借吊具飞越观众头顶——这是日本现存为数不多的“掛筋”之一。

这座古老的剧场，至今仍是当代歌舞伎名伶向往的舞台。每年 4 月，这里都会举办庆

祝春日来临的大歌舞伎公演。由于能在此体验日本最古老的舞台技艺与名家演绎，演出门票可谓一票难求。

金丸座为人们提供了探索歌舞伎幕后运作奥秘的机会。无论是对传统戏剧爱好者，还是历史迷而言，金丸座都是琴平町最令人珍视的文化遗产。

＜繁体字＞

金丸座：日本现存最古老的歌舞伎劇場

舊金毘羅大芝居，當地人稱為「金丸座」，是香川縣金刀比羅宮附近一家歷史悠久的歌舞伎劇場。金丸座建於西元 1835 年，是日本現存最古老的歌舞伎劇場，至今仍用來上演大型公演。

大約在 18 世紀時，金刀比羅宮是日本各地朝聖者熱門的目的地。神社附近每年舉辦三次節慶，也會搭建臨時劇場提供娛樂活動。然而，為了吸引最優秀的演員並表演需要高度舞台技術的公演，需要一個常設舞台。這種規模的舞台被稱為「大芝居」，也就是大型劇場的意思。全國大芝居的數量相對較少，因為開設大芝居需要當地大名領主的正式核可。幸好，當琴平的居民要求建造一座大芝居時，當地大名給了正面回應。這就是金丸座的由來，其最初被稱為金毘羅大芝居。

歸功於西元 20 世紀 70 年代初期與 2003 年的修復，金丸座基本上保留了 19 世紀的樣貌。觀眾們仍須在入口處脫鞋後才能前往包廂座位，或加入斜坡榻榻米地板上的人群中。遊客可以參觀這些空間，還可以走上舞台及探索幕後環境，更包括探索演員更衣室、樂手休息室和舞台下方迷宮般的空間等區域。

一條名為「花道」的走道穿過觀眾席，演員們可以近距離在觀眾席上方幾公分處進行戲中出場和退場。走道上的平台可以將演員悄悄升到地面，讓幽靈和忍者等角色如同變魔術般出現。同樣，舞台前方的陷阱式開口可以讓演員消失。主舞台設有旋轉平台，可以旋轉方式進行場景切換和其他特效。在現代劇場裡，這些設施都是電動的，但在金丸座劇場仍需靠當地志工以人力來操作。

舞台和觀眾席上方的竹架掛著燈籠和背景布幕。在某些場景中，代表雪或櫻花的剪紙會從這個竹架灑落到觀眾席。還有一種稱為「掛繩」的滾動軌，可以讓演員們繫上安全帶

飛越觀眾群。這是日本僅存的幾座掛繩之一。

這個歷史悠久的場所至今仍是歌舞伎精英們夢寐以求的舞台，每年 4 月都會舉行專業演出，以慶祝春天的到來。這是一個能親身體驗早期歌舞伎舞台表演方式和最著名演員演出的難得機會，因此這些活動也一票難求。

金丸座為人們提供親身體驗歌舞伎幕後運作的機會。對於傳統戲劇迷和歷史愛好者來說，金丸座是琴平的文化遺產中備受歡迎的一部分。

＜日本語仮訳＞

金丸座：日本最古の現存する歌舞伎劇場

旧金毘羅大芝居（通称・金丸座）は、香川県の金刀比羅宮近くにある歴史的な歌舞伎劇場である。1835 年に建てられた金丸座は現存する日本で最も古い歌舞伎劇場であり、現在も主要な公演に使用されている。

18 世紀頃、金刀比羅宮は全国から参拝客が集まる主要な巡礼地であった。年に三度、金刀比羅宮周辺で開催される市祭りでは、娯楽を提供するため仮設の芝居小屋が建てられていた。しかし、一流の役者を招き、複雑な舞台装置を必要とする演目を上演するには、恒久的な舞台が必要だった。このレベルの舞台は大きな劇場という意味で「大芝居」と呼ばれた。大芝居の設立には地元の藩主による公認が必要とされており、全国に存在する大芝居の数は比較的少なかった。幸いにも、琴平の住民が大芝居建設の許可を求めた際、地元の藩主は快諾した。これが金丸座（当初は金毘羅大芝居として知られていた）の始まりである。

1970 年代初頭と 2003 年の修復により、金丸座は 19 世紀当時の姿をほぼ保っている。観客は今も入口で靴を脱ぎ、敷席席へ向かうか、傾斜した畳の客席に混じる。来訪者はこれらの空間を見学し、舞台の上を歩き、舞台裏にも足を踏み入れることができる。この見学には、役者の楽屋や楽師の小部屋、舞台下の迷路のような場所の探索も含まれる。

「花道」と呼ばれる通路が客席の間を通っており、観客のすぐそばで、役者の劇的な登場や退場が行われる。花道に設けられた昇降台は役者を静かに舞台へ上げ、彼らが精霊や忍者を演じる際に魔法のように現出させることができる。同様に、舞台前方の落とし戸は役者を消え去らせる。本舞台には回転式の舞台装置があり、場面転換や特殊効果に活用される。現代の劇場ではこうした機構は電動化されているが、金丸座では今も地元のボランティアによる人力で操作されている。

舞台と客席の上には竹製の格子が張り巡らされ、提灯や背景幕を支えている。雪や桜を表現した切り紙が、この格子から観客席に散りばめられる演出もある。さらに「かけすじ」と呼ばれる滑車式軌道が

設置され、俳優が吊り具を使って観客の上を飛翔する演出が可能だ。こちらは、日本に現存する僅かなかけすじの一つである。

この歴史ある劇場は、現代の歌舞伎界の名優たちにとっては今も憧れの舞台であり、毎年 4 月に春の訪れを祝う大歌舞伎の公演が行われる。最古の舞台技法と名優たちによる歌舞伎を体感できる貴重な機会であるため、公演のチケットは貴重な商品となっている。

金丸座は歌舞伎の隠された仕組みに触れる貴重な機会を提供する。伝統芸能の愛好家にも歴史ファンにも、金丸座は琴平の文化的遺産として愛され続けている。

【タイトル】 参拝についての概要、一段目 あと 785 段

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

金刀比罗宫：语音导览 1

导言

您好，欢迎光临。本语音导览将陪伴您走进金刀比罗宫，观赏沿途诸多名胜古迹。金刀比罗宫也被亲切地称为“金毗罗先生”（金毗罗是深受日本广大民众爱戴的航海安全之神）。该神社坐落在象头山东侧山腰高处，此山因形似象头而得名“象头山”。从琴平町出发，通往主殿的参道，共设有 785 级蜿蜒而上的石阶。再向上走 583 级石阶，便可抵达严魂神社，也称“奥社”（即后殿，位于主殿后面）。那里将是您今日旅程的终点，也是整个金刀比罗宫区域内海拔最高的建筑。

沿途您将经过形形色色的博物馆和古迹等，甚至还能遇见悠然生活的动物，处处皆有风景。拾级而上，当您接近各个景点时，本语音导览将自动播放，为您讲解。

迈出第一步，您便踏上了无数朝圣者曾走过的古道。金刀比罗宫的创建年代已经难以考证。据推测，这里可能已有约三千年的历史。自古以来，这里吸引了许多日本各地的香客前来参拜，尤以 17～19 世纪为盛。那时期，朝拜是人们出行的主要目的之一。时至今日，金刀比罗宫仍是四国岛的热门旅游景点。

金刀比罗宫供奉的是日本神道教的神明。这些神明有的源自日本古代神话，有的源自自然精灵或历史人物。主殿里供奉的神灵，一位是昔日天皇的神灵，另一位则是海上守护神。此外，金刀比罗宫区域内还有多座末社，也就是本社の附属神社，用以供奉其他神明。此地也曾供奉过佛教神明，因此沿途所见部分建筑带有佛教寺院的风格。

希望您能一边欣赏沿途风光，一边享受这段向上攀登的旅程。接下来将为您介绍参道的第一段行程。

<繁体字>

金刀比羅宮：語音導覽 1

簡介

您好，歡迎來到金刀比羅宮。這段語音導覽將跟您一同踏上旅程，探索被稱為「Konpira-san」（金比羅公）的金刀比羅宮。這座神社坐落於外形酷似大象頭部的象頭山東側山腰處。從琴平町出發，抵達御本宮前需攀登 785 個石階，之後再上行 583 階，便可到達所謂的奧社，也就是位於御本宮後面的嚴魂神社。這裡將是今日參拜行程的終點，也是神社境內地勢最高的建築。

沿途有豐富多樣的風景，有博物館、歷史遺跡，甚至有機會遇到動物。在攀登石階的過程中，只要接近各個景點，語音導覽就會自動播放，為您介紹相關內容。

參道，意思是參拜的路線的。當您踏上這段參道時，也就是走在無數參拜者曾經走過的道路上。金刀比羅宮最早的建造年代已難以考究，但一般認為其歷史可追溯至三千年前左右。自古以來，這裡便吸引日本各地的信眾前來參拜，尤其在 17 世紀至 19 世紀之間，參拜更是日本人出遊的主要目的之一。時至今日，金刀比羅宮在四國地區依舊是極具人氣的觀光與信仰勝地。

金刀比羅宮供奉的是神道中的神祇「大物主神」。日本的所謂神祇之中，有源自日本古代神話的存在，也有象徵自然現象的神靈，甚至包含歷史人物的形象。金刀比羅宮御本宮所供奉的神祇，分別是一名過往天皇的神靈，以及人們視為海上守護神的神祇。此外，金刀比羅宮境內還設有多座末社（本社の附屬神社），用於供奉其他神明。在過去，這裡同時也是佛教信仰的重要場所，因此您沿途所見的部分建築亦有佛教建築風格的痕跡。

祝您一路攀登愉快，盡情欣賞豐富的景色。在下一段導覽中，我們將為您介紹這條參拜道上的第一個區段。

<日本語仮訳>

金刀比羅宮：音声ガイド 1

イントロダクション

ようこそこんにちは。このオーディオガイドは、「こんぴらさん」と金刀比羅宮の数々の名所を巡る旅を

ご案内します。この神社は、象の頭のような形をしたことから象頭山と名付けられた山の東斜面高台に位置しています。琴平の町から御本宮まで 785 段の階段があります。さらに 583 段の階段を上ると、奥社とも呼ばれる厳魂神社に到着します。ここが本日の巡礼の最終地点であり、境内で最も高いところにある建物です。

道中には博物館や史跡、さらには生きた動物など、見るべきものが数多くあります。階段を登っていき、興味深い場所に近づくとこのオーディオガイドは自動で再生されます。

あなたがこれから歩み始めるこの道は、かつて幾多の巡礼者たちが歩んできた道です。こんぴらさんがいつからあるかは正確には分かっていませんが、3000 年もの歴史があると考えられています。金比羅宮には、17 世紀から 19 世紀にかけて、巡礼を旅の主目的とする日本全国から多くの巡礼者が訪れました。以来、金比羅宮は四国を訪れる人々にとって人気の目的地であり続けています。

こんぴらさんには「神」と呼ばれる神道の神々が祀られています。神々の起源は古代日本の神話に遡るものもあれば、自然現象の精霊や歴史上の人物に由来するものもあります。こんぴらさんの御本宮に祀られているのは、過去の天皇の神格化された霊と、海の守護神として信仰されている神です。こんぴらさんには他の神々を祀る末社も多くあります。かつては仏尊も祀られていたため、参道沿いの建造物の中には仏教建築の例も見られます。

どうぞ景色を楽しみながら、登り道をお楽しみください。次のセクションでは、この巡礼路の最初の区間について、詳しくご紹介します。

【タイトル】 一の坂/灯明堂

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**金刀比罗宫：语音导览 2****一之坂**

这段两旁林立着伴手礼商店与餐馆的坡道，称为“一之坂”。数百年来，商贩们一直在石阶周边摆摊，向来访香客出售茶点与纪念品。几家店铺在售卖金刀比罗宫最有名的甜点——加美代饴糖。这种硬糖呈扇形，带有柚子的清香。相传此糖能带来好运。每包糖内还附一把小木槌，用于把糖果敲成小块，与他人分享好运。

参道左侧有一座带有屋顶的木质长廊。廊内悬挂着成排的灯笼，用以照亮夜间的参道。该建筑于 1858 年由一群工匠们捐建，他们来自濑户内海对岸，涵盖木匠、木工、石匠、泥瓦匠、屋顶匠等各行各业。这些捐赠者的姓名被刻录在铭牌之上。整个建筑由顶级的匠人以日本传统的榫卯结构搭建而成，未使用任何铁钉。尽管沿阶地势起伏，梁柱接口却严丝合缝，足见匠人技艺之精湛。建筑材料取自船体的木材，象征金刀比罗宫与航海、海洋之间有着深厚的历史渊源。

从此处到主殿还有 617 级石阶。下一段导览内容将在前方的休息处为您播放。

<繁体字>**金刀比羅宮：語音導覽 2****一之坂**

這一帶沿路有各式伴手禮店與餐廳林立，稱為「一之坂」。幾百年來，商家在這段石階周邊設攤，為前來參拜的信眾販售茶點與紀念品，有些店家販售金刀比羅宮最具代表性的點心，名字叫做加美代饴。這種扇形的硬糖果有柚子的清香，是人們視為象徵好運的吉祥糖果。每包加美代饴內附一把方便敲碎糖果的小木槌，可分享給他人，寓意著與他人分享好運。

沿著參道左側走去，可以看到一座宛如有屋頂步道般的木造長廊。其內部懸掛著整齊排列的燈籠，在夜晚時為參道提供照明。這座建築於西元 1858 年由一群工匠捐贈興建，其中包括來自瀨戶內海另一側的木匠、木工、石匠、泥水匠和屋頂工匠。一旁的牌匾上，刻有所有捐贈者的姓名。整座結構體由名匠以日本傳統榫接工法打造，組裝期間未使用任何釘子。即使石階地面高低不平，接合處依然緊密服貼，展現出高超的工藝技術。建材更取自船體的木材，象徵神社、船員及海洋之間深厚的淵源。

從此處起，距離御本宮尚有 617 階石階。下一段語音導覽將在前方的休息區播放。

<日本語仮訳>

金刀比羅宮：音声ガイド 2

一之坂

この土産物店や飲食店が並ぶ一角は「一之坂」と呼ばれています。何世紀にもわたり、参拝者に軽食やお土産を売る露店が階段周辺に軒を連ねてきました。いくつかの店舗ではこんぴらさんで最も有名な菓子「神代飴」を販売しています。この扇形の硬い飴は柚子の風味が特徴です。縁起物とされるこの飴には、幸運を分かち合えるよう小さく割るための小さな槌が添えられています。

小道の左側には屋根付きの通路のような木造建築物があります。内部には、夜道を照らすための釣り灯籠がずらりと並んでいます。

この建物は 1858 年に瀨戸内海の対岸に住む大工、木工職人、石工、左官、屋根職人らを含む職能者達によって寄贈された。こんぴらさんは庶民から深く信仰され、寄進者の名前は銘板に記されています。この建物は、熟練の大工の手で、釘を使わず骨組みを組み立てる日本の伝統的な工法によって建造されました。階段沿いの地面は平らでないにもかかわらず、接合部がぴったりと合っていることから、彼らの技量が伺えます。建造には船体の木材が利用されており、金刀比羅宮が船乗りや海と深く結びついていることを反映しています。

この建物から御本宮まで、あと 617 段です。次のセクションは、この後にある休憩所で再生されます。

【タイトル】 琴陵宥常銅像

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

金刀比罗宫：语音导览 3

琴陵宥常銅像

参道右侧有一片小空地，设有休息区。这里是为纪念金刀比罗宫的第十九代宫司琴陵宥常（1840-1892）而设。19 世纪后期，日本与多个西方国家签订通商条约，海上航路随着外国船只的来访日益拥挤。在致命的海难事故接连发生后，宥常在 1889 年创立了“大日本帝国水难救济会”。该组织后更名为“日本水难救济会”，至今仍在持续开展活动。空地的尽头，伫立着宥常的铜像，仿佛俯瞰着一旁陈列的 19 世纪救援装备。

如今，日本水难救济会的成员、海上保安厅职员以及其他海事相关从业者，也会专程前来参拜，以表达对宥常的敬意。

从此处到主殿还有 497 级台阶。下一段语言导览将在大门处播放。

<繁体字>

金刀比羅宮：語音導覽 3

琴陵宥常銅像

參道右側有一處小空地設有休息區，這裡是為了紀念金刀比羅宮第十九代宮司，琴陵宥常（西元 1840 年-1892 年）。19 世紀後半，日本與多個西方國家簽訂通商條約，海上航線出現了往來頻繁的外國船隻。在接連多艘船舶失事後，琴陵宥常於西元 1889 年創立了「大日本帝國水難救濟會」。該組織後來更名為「日本水難救濟會」，且至今仍持續運作。琴陵宥常的青銅雕像矗立在空地另一側，俯瞰著一組 19 世紀的海難救援器具展示。

日本水難救濟會的成員、日本海上保安廳人員，以及其他從事海事相關工作的民

眾，都會前來此地參拜並向琴陵宥常致敬。

從此處起，距離御本宮尚有 497 階石階。下一段語音導覽將在大門前播放。

＜日本語仮訳＞

金刀比羅宮：音声ガイド 3

琴陵宥常像

この小道の右側には休憩所のある小さなスペースがあります。この場所は金刀比羅宮第 19 代宮司の琴陵宥常（1840 年～1892 年）を称える空間です。1800 年代後半、日本は複数の西洋諸国と通商条約を締結し、その海路は外国船で混雑するようになった。一連の致命的な難破事故の後、広恒は 1889 年に帝国海上救助協会を設立した。この組織は後に海上救助日本と改称され、現在も活動を続けている。開けた場所の向こう側にある広恒の銅像は、19 世紀の救助装備の展示を見下ろしている。

この時代に、日本の港湾は次々と外国船を受け入れるようになっていきました。混雑するようになった海上で相次いだ致命的な難破事故を受け、宥常は 1889 年に大日本帝国水難救済会を設立し、海難事故における人命救助に尽力しました。この組織は現在も日本水難救済会として活動しています。宥常の銅像は、歴史的な救助装備の展示を見下ろすように立っています。

日本水難救済会の会員たちをはじめ、海上保安庁職員や他の海事関係者も宥常への敬意を表すためこの地へ参拝に訪れます。

ここから御本宮まで、あと 497 段です。次のセクションは大門で再生されます。

【タイトル】 大門 あと 420 段

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**金刀比罗宫：语音导览 4****大門**

这座大门标志着通往神明圣域的分界处。与大部分神道教派的神社一样，门上悬挂着被称为“注连绳”的稻草绳，用来划分神域与俗世的界限。在这种宏伟精致的双层结构大门上悬挂注连绳的做法则实属罕见。金刀比罗宫的大门为佛教寺院风格的山门，建于 1649 年。当时此地仍同时信仰佛教和神道，佛教诸尊与神道神明被供奉在一起。金刀比罗宫区域内的佛教建筑随处可见，这座门就是其中的第一处。直到 19 世纪，金刀比罗宫转为纯粹的神道场所后，才在大门上加挂注连绳。

尽管通往大门的参道两旁摊铺林立，但唯有五家商户获准在神域内售卖纪念品，摊车设在大门内侧。他们正是数百年前最早制作金刀比罗宫著名特产——加美代饴糖的五户人家的后代。

从大门到主殿还有 420 级台阶。下一段语音导览将在宝物馆播放。

<繁体字>**金刀比羅宮：語音導覽 4****大門**

大門象徵著神明神聖領域的邊界。如同多數神社，一條稱為「注連繩」的稻草繩用來劃出神聖空間與俗世的分界，「注連繩」表示著神域的邊界，但像這樣懸掛在華麗的兩層樓建築上的注連繩，實屬罕見。金刀比羅宮的大門為佛寺樣式的山門。此門建於西元 1649 年，當時此地同時供奉著神道神祇與佛教神明。因此，這扇門也是境內多座佛教建築中的第一座。到了 19 世紀，金刀比羅宮轉為純神道信仰中心，門上也在此時加掛了注連繩。

雖然通往大門的參道兩側可見商家林立，但神社境內僅有五個家族獲准販售紀念品。他們的攤車設置在大門內側。這些商家正是幾百年前開始製作金刀比羅宮知名糖果「加美代飴」的五個家族後代，稱為「五人百姓」。

從大門出發，距離御本宮尚有 420 階石階。下一段語音導覽將在寶物館播放。

＜日本語仮訳＞

金刀比羅宮：音声ガイド 4

大門

この大門は、神々の聖域との境界であることを示しています。神社の例に倣い、しめ縄と呼ばれる藁縄が境界線を描いています。しかし、このような複雑な造りの二階建て構造の大門に縄が掛けられることはあまりありません。金刀比羅宮の大門は仏教寺院式の門です。1649 年に建立された当時、この地では神道の神々と共に仏尊も祀られていました。この門は、境内随所に見られる仏教建築群の最初のものとなります。大門に注連縄が掛けられたのは 19 世紀、金刀比羅宮が神道だけの地となった時期です。

大門へと続く参道には露店が並んでいますが、神域内で土産物を販売できるのは五つの家に限られています。彼らの屋台は大門の内側に設置されています。これらの商人は、数百年前に金刀比羅山の名物「神代飴」を作り始めた五家門の子孫です。

大門から御本宮まではあと 420 段です。次のセクションは宝物館で再生されます。

【タイトル】 宝物館

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**金刀比罗宮：语音导览 5****宝物館**

参道の右侧是宝物館。館内陈列着各类珍贵文物、捐贈艺术品及其他藏品。

馆藏之中，也包括昔日曾吸引无数朝圣者前来参拜的佛像。其中最值得一看的，当属象征慈悲的观音木雕像。这尊神像曾与诸神明一同供奉在主殿中。

宝物館最负盛名的藏品之一，是一幅描绘 18 世纪神社参道景象的画作。这幅作品以精巧笔触勾勒出蜿蜒参道，各色人物熙熙攘攘，往来纷忙的景象。例如，画中描绘了一些香客在参拜前沐浴净身的场景。

其他展品还包括武士甲冑、刀剑等珍贵器物。因金刀比罗宮与航海渊源深厚，宝物館内还收藏了大量与海洋相关的物品，例如由造船工匠敬献的精致船只模型。

宝物館建筑本身融合了日式与西洋的建筑风格，比如，传统歇山顶式门廊与花岗岩外墙相得益彰。宝物館由久留正道设计，于 1905 年竣工。久留正道曾设计了 1893 年芝加哥世博会的日本馆，据说正是这座建筑，引发了著名美国建筑师弗兰克·劳埃德·赖特对日本建筑的浓厚兴趣。

欢迎您入馆参观。语音导览的后续内容，将在您返回参道后继续播放。

<繁体字>**金刀比羅宮：語音導覽 5****寶物館**

沿著參道右側走去可看到寶物館，館內展示了各種珍貴文物、捐贈的藝術品，以

及其他重要收藏。

館藏中包含曾吸引無數朝聖者前來的佛教造像。其中最具代表性的是一尊木造觀世音菩薩像。這尊神像過去曾與神道神祇一同供奉在御本宮之中。

寶物館最知名的藏品之一，是一幅描繪神社參道景象的 18 世紀畫作。畫中細緻呈現參拜路線，且有熱鬧的人群穿梭其間，以及各類人物從事不同活動。例如，有些朝聖者正在沐浴淨身，為即將開始的登階參拜做準備。

館內亦展示多項珍貴文物，像是武士鎧甲與刀劍。由於金刀比羅宮與航海文化關係密切，因此館中收藏了許多與海洋相關的物件，包括造船工匠所捐贈的精緻船隻模型。

寶物館本身的建築風格融合日式與西式元素，像是以傳統日式破風屋頂入口搭配花崗岩外牆。此建築由久留正道設計，並於西元 1905 年完工。據說，久留正道於西元 1893 年芝加哥世界博覽會中設計的日本館，啟發了知名建築師法蘭克・洛伊・萊特對日本建築的興趣。

歡迎您自由入內參觀寶物館。當您回到參拜路線時，語音導覽將繼續播放。

<日本語仮訳>

金刀比羅宮：音声ガイド 5

宝物館

この道の右側には宝物館があり、貴重な工芸品、寄進された美術品など様々な品々が展示されています。

収蔵品には、かつて無数の巡礼者がお詣りした仏像も含まれています。最も注目すべき例は、慈悲の菩薩である観音の木像です。この像はかつて、御本宮の神々と近いところで祀られていました。

宝物館で最も有名な品の一つは、18 世紀に描かれた参道の絵です。この作品では様々な活動に励む人々が賑わう参道の様子が細く描き込まれています。例えば、参拝前に身を清めるため沐浴する巡礼者も描かれています。

その他の展示品には、武士の鎧や刀といった貴重な品々も並んでいます。こんぴらさんは海事とのゆか

りがあるため、造船業者から寄進された精巧な模型船など、海に関連する品も多く収蔵されています。

宝物館の建物自体は、伝統的な切妻造りの玄関と花崗岩の外壁が組み合わされるなど、日本と西洋の建築様式の融合が見られます。設計は久留正道が手掛け、1905 年に完成しました。久留が 1893 年のシカゴ万国博覧会に設計した日本館は、著名な建築家フランク・ロイド・ライトが日本建築に興味を持つきっかけとなったと言われています。

宝物館へどうぞお入りください。オーディオガイドの続きは、参拝路に戻ってからとなります。

【タイトル】 桜馬場 あと 415 段

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**金刀比罗宫：语音导览 6****桜馬場**

从金刀比罗宫的大门延伸而出、长约 150 米的石板路，被称为“樱马场”。每年春季，道路两侧绵延的樱花树繁花盛开，吸引了成千上万的游客慕名前来赏樱。事实上，宝物馆收藏的那幅 18 世纪景象的画作中，便描绘了人们在这里的樱花树下喝清酒、悠然休憩的场景。

樱花树的道路两侧，还可见一排排刻有文字的石柱与石灯笼。这些石柱和石灯笼是为了铭记对金刀比罗宫的重要捐赠而设，上面刻有捐赠者的姓名、所在地区、捐赠金额以及捐赠年月等信息。大多数的石柱年代较新，但也能遇见一些历经岁月磨蚀、青苔丛生的古老石碑。

走到樱马场尽头，前方又是一段向上的石阶。登至阶顶，请留意那座犬形铜像。

<繁体字>**金刀比羅宮：語音導覽 6****櫻馬場**

從金刀比羅宮大門向前延伸的 150 公尺石板路，稱為「櫻馬場」。每逢春季，道路兩旁的櫻花樹盛開，吸引了成千上萬的遊客前來賞花。事實上，寶物館中那幅描繪 18 世紀神社境內景象的畫作，也呈現出人們在櫻花樹下喝酒、悠然休憩的情景。

櫻花樹間及參道兩側林立著刻有文字的石柱與石燈籠。這些紀念物都是為了記錄對神社的重要捐獻而立，上面刻有捐贈者的姓名、所在地、捐獻金額與日期等。此處多數石柱屬於近代所立，留心細看的話也可見到年代久遠、歷經歲月洗禮並覆滿青苔的古老石碑。

走到櫻馬場盡頭，前方將迎來另一段石階。抵達最頂端之前，請留意上方的一尊
狗狗銅像。

<日本語仮訳>

金刀比羅宮：音声ガイド 6

桜馬場

こんぴらさんの大門から延びる 150 メートルの石畳の道は桜馬場と呼ばれています。道の両側の桜並木を楽しみに、毎年の春になると数千もの人が訪れます。実際、宝物館にある 18 世紀の境内を描いた絵には、この場所で酒を酌み交わし、桜の木陰でくつろぐ人々の姿が描かれています。

桜並木沿いには文字が彫られた石柱や灯籠も並んでいます。これらは神社への主な寄進を記したもので、寄進者の名前と地域、寄進額、寄進年月日などが刻まれています。桜馬場には比較的新しいものが多いですが、歳月で磨耗し苔に覆われた古い石柱もまた見られるでしょう。

桜馬場が終わると、また登りの階段です。頂上では、犬の銅像に注目ください。

【タイトル】 こんぴら狗

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**金刀比罗宫：语音导览 7****金刀比罗犬像**

在一排石阶之下，一座“金刀比罗犬”的铜像静候着游客的到来。这座造型乖巧可爱，带有卡通风格的铜像由插画家汤村辉彦设计，用来纪念那些忠诚的小狗。所谓“金刀比罗犬”，指的是一群“四足朝圣者”，它们代替无法亲自前来的人们进行参拜，并送上供奉钱。主人会在狗项圈上写下神社名称与自家住址，并系上一只装着路费与供奉钱的小袋子。小狗们与其他朝圣者结伴同行前往，完成供奉之后，又在旅人之间的接力照顾下，最终回到主人身边。

汤村塑造的这尊小狗名叫“Gon”。它的项圈上写着“金刀比罗参拜 祈愿考试合格”。表示是有位忙于学业、无法脱身的学生，将心愿托付给忠犬，替自己完成参拜朝圣之旅。金刀比罗犬的形象也被融入金刀比罗宫的护身符、绘马（为了祈愿或者还愿而向神社献纳的带有绘画的木制匾额）以及各种纪念品中。

正因为这段独特的历史渊源，金刀比罗宫成为一座对狗友好的神社。虽然禁止犬只进入殿内，但只要系好牵引绳，它们便可进入神社区域内。

这片空地周边看点不少，登阶前不妨稍作停留，在周围走走看看。接下来两段语音导览将分别在高桥由一美术馆与神马厩附近播放，两处景点都在此区域。参观完这两处后，下一处参观景点位于石阶顶端。

<繁体字>**金刀比羅宮：語音導覽 7****金比羅狗銅像**

金比羅狗是代替無法親自前來參拜的人，前往神社奉納的「四足朝聖者」。在一段石

階下方，一尊金比羅狗的青銅雕像靜靜守候著。這尊造型可愛、卡通風格的雕像，由插畫家湯村輝彥所設計，用以紀念這些忠心的狗狗。日本神社的拜殿前寫有「賽錢」或「奉納」字樣的長方形木箱稱為「賽錢箱」，參拜時需要投入「賽錢」，以表示對神明的敬意，也是為了感謝神明讓願望成真的回禮。飼主會在狗狗的項圈上寫下神社名稱與自家地址，並繫上裝有旅費與賽錢的錢袋。隨後金比羅狗會與其他朝聖者一同旅行，在完成奉納後由旅人接力照料，最終平安返回家中。

湯村筆下這隻金比羅狗名為「GON」。頸部掛著的牌子上寫著：「前往琴平參拜，祈願考試順利。」這段文字暗示，這隻忠誠的狗狗是代替忙於課業、無法離開書桌的學生踏上參拜之旅。金比羅狗的故事同樣延續至各式御守、繪馬（祈願或還願用的木製匾額）和紀念品之中。

正因這段獨特的歷史背景，人們認為金刀比羅宮是對狗十分友善的神社。只要繫上牽繩，犬隻即可進入神社境內，但不得進入建築物內部。

這一帶有許多值得細細欣賞之處，在登上石階前，不妨在此稍作停留參觀。接下來的語音導覽將在高橋由一館，以及同樣位於此區域的神馬舍播放。在這兩處景點之後，下一個參拜點便位於石階頂端。

<日本語仮訳>

金刀比羅宮：音声ガイド 7

こんぴら狗

階段の下には「こんぴら狗」の銅像が待ち構えています。イラストレーターの湯村輝彦氏が、忠実な犬たちを記念するために、親しみのあるコミカルなデザインを手がけました。こんぴら狗とは、自ら金刀比羅宮へ参拝できない人々に代わって寄付を届けるため派遣された四本足の巡礼者です。飼い主は犬の首輪に神社名と自宅住所を記し、旅費と神社への寄付金を入れた袋を付けました。こんぴら狗は他の巡礼者と共に旅をし、寄付を届けた後は旅人から旅人へと預け渡され、最終的に飼い主の元へ帰還したのです。

湯村氏が作った像の犬の名前は「ゴン」。首輪には「金刀比羅参り 受験合格祈願」と記されています。これは、机から離れられない学生に代わって、忠実な犬が巡礼の旅に出たことを示唆しています。金刀比羅の犬たちは、お守りや絵馬など、神社が提供する様々な授与品にもかたどられています。

こうしたユニークな歴史から、金刀比羅宮は犬に優しい神社です。社殿内への入場こそ禁止されているものの、境内はリードにつながれた状態であれば犬の立ち入りが可能となっています。

この広場周辺には見どころが多数あります。階段を上る前にぜひ周囲をご覧ください。次のオーディオガイドは高橋由一館と神馬舎付近で再生されます。いずれもこのあたりに位置しています。これら二か所を過ぎた先の階段頂上が次の見学スポットとなります。

【タイトル】 神馬舎

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**金刀比罗宮：语音导览 8****神馬**

这里供奉着金刀比罗宫的神马。所谓神马，是指专门侍奉神道神明的特殊马匹。当需要举行仪式，将神明移驾至他处之时，马背上会被放上马鞍，象征神明乘坐其上。神马之鞍从不允许任何人类乘坐。

这样的传统在过去较为常见，但现在仍饲有神马的神社不多，金刀比罗宫便是其中之一。神马并没有特定品种，而是从供奉给神社的马匹之中挑选而出。供奉马匹的习俗，可追溯至约 1300 年前，常为纪念重大事件或配合重要祈愿而举行。

后来，人们逐渐以马的雕像或画像来取代活马供奉。这也正是如今广为流传的“绘马”（一种供奉用的木牌）的起源。“绘马”意为“画出来的马”。绘马上常绘有马或其他图案，包括金刀比罗宫在内的许多神社都能看到这类绘马。

<繁体字>**金刀比羅宮：語音導覽 8****神馬**

這裡安置了金刀比羅宮所供養的神馬。神馬僅供神道中的神祇使用。在神明需依儀式移駕至其他地點時，神馬會配上馬鞍，表示神祇乘坐其上。而且，神馬的馬鞍從不給人乘坐。

雖然這個傳統在過去較為常見，但現在還在飼養神馬的神社已不多，金刀比羅宮便是其中之一。神馬並沒有特定的品種，而是從信眾捐贈給神社的馬匹中挑選。捐獻馬匹的習俗可追溯至 1,300 年前左右，且通常象徵重要事件或伴隨著重大的祈願。

到了後期，信眾開始以馬的雕像或圖像來取代實際的馬匹。這樣的轉變逐漸發展成今日廣為流傳的奉納木牌，繪馬，其字面意思為「繪製的馬」。如今，印有馬匹或其他設計的繪馬，在包含金刀比羅宮在內的許多神社中都可看到。

<日本語仮訳>

金刀比羅宮：音声ガイド 8

神馬舎

ここには、金刀比羅宮の神馬——「しんめ」がいます。神馬とは、神道の神だけに仕える特別な馬のことです。神が儀式的に別の場所へ渡御される際、この馬に鞍が据えられ、その上に神が乗られるとされています。神馬の鞍に、人が腰かけることは決してありません。

こうした慣習は以前はより一般的であったものの、金刀比羅宮は今も神馬を有する数少ない神社の一つとなっています。神馬は特定の品種と決まっているわけではなく、神社に奉納された馬の中から選ばれます。馬を奉納する習慣はおよそ 1300 年前に遡り、大きな出来事の記念としてや重要な祈願に合わせて行われてきました。

後世になると、本物の馬に代わって馬の像やその他の形のを奉納するようになりました。これが現在広く普及している「絵馬」（えま）と呼ばれる奉納板の起源です。絵馬とは「描かれた馬」を意味します。馬や他の図柄が描かれた絵馬は、金刀比羅宮を含む多くの神社で授与されます。

【タイトル】 高橋由一館

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**金刀比罗宫：语音导览 9****高桥由一美术馆**

这座美术馆展出了高桥由一的部分油画作品。高桥由一生于 1828 年。当时日本已闭关锁国将近两百年，与海外交流几乎中断，西洋美术也鲜为人知。然而，随着高桥步入青年时代，局势开始转变，来自欧美的文化影响逐渐落地生根。接触到多个崭新的艺术形式后，高桥对油画产生了特别浓厚的兴趣。相较于日本传统绘画中常见的程式化表现，他更倾心于油画所能呈现的写实魅力。

因此，高桥成为了日本油画领域的先驱。在到访日本的外国画家指导下，他潜心学习油画技法，不断精进画艺。此外，他还以日本名胜以及鱼干、豆腐等日常事物为题材，创作了许多风景画与静物画，为推动油画在日本的传播贡献了力量。

1880 年至 1881 年间，高桥曾旅居琴平町。这期间，他不仅为金刀比罗宫的宫司绘制肖像，还通过《琴平山远望图》等作品描绘了当地风光。如今，高桥由一美术馆珍藏其画作共 27 幅。参拜途中，您可以随时入内观赏。

<繁体字>**金刀比羅宮：語音導覽 9****高橋由一館**

這座美術館展示了日本畫家高橋由一的精選油畫作品。高橋由一於西元 1828 年出生。當時的日本歷經近兩百年鎖國時期，因此多數民眾對西方藝術並不熟悉。但在高橋成年後，來自歐洲與北美的文化影響，西方藝術逐漸傳入日本，情況也開始有了改變。在接觸到新的藝術形式後，他特別鍾情油畫。相較於偏向風格化表現的傳統日本繪畫，油畫所能呈現的寫實效果讓他深深著迷。

在多位海外藝術家的指導下，高橋學習油畫技法並不斷精進創作實力，最終成為日本油畫領域的先驅之一。他也透過描繪日本知名景點，以及鹹魚、豆腐等日常題材的風景畫與靜物畫，讓油畫逐漸為日本民眾所接受與喜愛。

西元 1880 年至 1881 年間，高橋曾居住在琴平町，為神社歷代宮司繪製肖像並創作如〈琴平山遠望圖〉等描繪在地風光的作品。

目前，神社收藏了他的 27 件畫作。在繼續您的參拜行程前，歡迎入館參觀欣賞這些珍貴的作品。

＜日本語仮訳＞

金刀比羅宮：音声ガイド 9

高橋由一館

この美術館では高橋由一による油絵作品を常時展示しています。高橋は 1828 年に生まれました。当時、日本は約 200 年に渡って海外との交流をほぼ断っていたため、西洋美術はほとんど知られていませんでした。しかし高橋が青年になった頃には状況は変わり始め、欧米からの文化的影響が根付き始めていました。新たな芸術の形に触れた高橋は特に油絵に興味を抱きました。日本の伝統美術は様式化された表現が多いのに対し、高橋は油絵具で表現できる写実性に魅力を感じていました。

彼はこうした表現における日本人画家の先駆者となりました。海外から訪れた画家の指導のもと、油彩技術を学び、その腕を磨きました。また、日本の名所や干物・豆腐といった身近なものを題材にした風景画や静物画を制作しており、油絵が国内に広まる一助となりました。

高橋は 1880 年から 1881 年にかけて琴平町に滞在しており、その間、宮司の肖像画を描き、『琴平山遠望図』などの作品で地域の風景を描きました。現在、神社は彼の絵画 27 点を所蔵しています。ご参拝の途中で、どうぞお気軽に中に入ってご覧ください。

【タイトル】 表書院(社務所門)、白書院、奥書院

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

金刀比罗宫：语音导览 10

表书院

金刀比罗宫最负盛名的几件艺术珍品，珍藏在前方参道右侧的一组建筑群之中。这组建筑群由表书院、奥书院、白书院三座相连的建筑组成，建于 17 至 19 世纪，曾作为神社的最高负责人宫司的迎宾之处和起居空间使用。

目前，定期对外开放的只有表书院。表书院内各房间的墙壁与拉门上，都饰有根据房间特点专门绘制的精美画作，与周围景致相映成趣。例如，其中一间房间绘有流水瀑布，宛若室外池水的自然延伸。

这些画作均出自以高超技艺著称的画家之手。入口处可见森宽斋绘于金色背景之上的雄鹰图，气势凛然；内室则可见邨田丹陵所绘的，数十名骑猎者奔腾驰骋的狩猎场面，以及云雾缭绕的富士山远景。中间的几个房间装饰则出自 18 世纪画家圆山应举之手，他开创了更趋写实的画风。譬如在“鹤之间”房间中，两种日本本土鹤被这位画家细腻区分刻画，各自特征精准呈现。不过应举的写实风格在“虎之间”略有例外——房中描绘的猛兽竟意外圆润敦厚，颇有憨态。据说这是因为当时无法观察真实的老虎，只能参照了家猫的形象进行创作。

表书院的室外空间会不时举行名为“蹴鞠”的活动。这是与踢毽子游戏略有相似的踢球活动。蹴鞠场四周种植有四种不同的分叉树种，相传神明会降临此处，静坐观赏蹴鞠。

欢迎您前往表书院细细观赏。从此处到主殿还有 308 级台阶。下一段语音导览将在咖啡馆中播放，你可在那休息或用餐。

<繁体字>

金刀比羅宮：語音導覽 10

書院接待廳

在參拜路線右側，您即將看到一處建築群，收藏了金刀比羅宮多件最知名的藝術作品。這座建築群由三棟彼此相連的建築所構成，分別為表書院、奧書院和白書院。這些建築於 17～19 世紀建造，過去曾作為歷代宮司的接待空間與起居之所。

目前僅有表書院定期對外開放參觀。在表書院的牆面和拉門上，繪有為各個空間量身打造的精緻畫作，巧妙融入周圍自然景觀。例如，其中一間房間描繪了河川與瀑布景象，彷彿與室外的池塘自然銜接著。

這些藝術作品的創作者皆以精心繪製的畫風聞名。入口處可見森寬齋所繪的畫作，以金色背景襯托出氣勢凌人的老鷹。後方房間中，邨田丹陵描繪了幾十位騎馬獵人奔馳的動態場景，以及籠罩薄霧的富士山遠景。中間區域的畫作則出自 18 世紀畫家圓山應舉之手，他是開創自然寫實風格的重要人物。例如在「鶴之間」，應舉細膩描繪了兩種日本原生鶴，準確呈現出各自的外型特徵。但他在「虎之間」的作品卻一反寫實風格，老虎形象意外地圓潤可愛。由於當時無法親眼觀察老虎活體，應舉只能參考家貓進行描繪。

表書院外的庭院空間，偶爾會用來舉行名為蹴鞠的傳統儀式。蹴鞠是一種以球為主，類似踢毽子的活動。場地四角種有不同樹種、呈分叉狀的樹木，人們視為神祇觀看儀式時的座位。

歡迎您放慢腳步，細細參觀表書院。從此處起，距離御本宮尚有 308 階石階。下一段語音導覽將在咖啡廳播放，您可在此休息或用餐。

<日本語仮訳>

金刀比羅宮：音声ガイド 10

表書院

金刀比羅宮で最も有名な美術品のいくつかは、参道右側に控える施設に収められています。この施設は表書院・奥書院・白書院と呼ばれる三つの連なった建物となっており、いずれも 17～19 世紀に建立され、迎賓施設兼別当の住居として機能していました。

現在、一般公開されているのは表書院だけです。各部屋に合わせて特別に描かれ、周囲の景観と調和した見事な絵が部屋の壁や障子に施されています。例えば、ある部屋では外の池の自然な延長として川や滝が描かれています。

これらの作品は、いずれも卓越した技法で知られる画家達によるものです。入口には森寛斎による金地に猛々しい鷲を描いた作品が、奥の部屋には、邨田丹陵が描いた数十人の騎乗した狩猟者の躍動的な情景と、霧に包まれた富士山の眺めがあります。中間にある部屋は、18世紀に写実的な画風を開拓した円山応挙によるものです。例えば鶴の間では、二種類の日本の鶴が丁寧に描き分けられ、それぞれの特徴が正確に表現されています。応挙の写実は「虎の間」ではやや例外で、部屋に描かれた猛獣達は存外に丸々と愛らしい姿をしています。実物の虎を観察することができなかったため、応挙は猫を参考に描いたと言われています。

表書院の屋外では、蹴鞠という神事が行われることがあります。ハッキーサックにも似たこちらの神事は、毬を用いて行われます。蹴鞠場は四種類の枝分かかれた木で区切られており、神々がそこに座って蹴鞠を見守ると考えられています。

どうぞ表書院に訪れ、ゆっくりご覧ください。ここから御本宮までは308段の石段があります。次のオーディオガイドは、休憩や昼食をとることができるカフェで再生されます。

【タイトル】 神椿 あと 285 段

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**金刀比罗宫：语音导览 11****神椿咖啡馆与餐厅**

前来金刀比罗宫参拜的访客沿着参道拾级而上时，常常会在此稍作歇息。早在 1797 年，这里就已建成供参拜者歇息的茶馆。这座现代风格的咖啡馆“神椿”，于 2007 年正式开业。店内提供的各种轻食与缤纷甜点，灵感源于法式料理，并采用当地食材制作。这处餐饮空间依山坡建造，位于下坡侧，无论从参道还是从咖啡馆内，都可眺望开阔的景致。店内明亮通透，热闹非凡；透过窗户，可见一片郁郁葱葱的森林，其中栖息着名为“山雀”的小鸟，身披橙黑相间的羽毛。这里留下了许多游客的深刻记忆，也深受当地人喜爱。

从咖啡馆到主殿，还有 285 级石阶。下一站是旭社，为金刀比罗宫景区内规模最大的建筑之一。

<繁体字>**金刀比羅宮：語音導覽 11****神椿咖啡廳與餐廳**

長久以來，造訪金刀比羅宮的參拜者經常在登上參道途中在此稍作歇息。早在西元 1797 年，這裡便為參拜者設立了一座茶屋。現今所見的現代化設施，則是於西元 2007 年開幕的神椿咖啡廳。餐點以輕食與精緻甜點為主，靈感來自法式料理並大量使用在地食材製作。用餐空間建於山坡側的地下層，巧妙的設計讓參道與咖啡廳內部都能享有開闊視野。室內空間熱鬧且明亮，還有大片窗景可眺望鬱鬱蔥蔥的森林，這裡也是橘黑相間的小鳥「山雀」的棲息地。這裡不僅是讓許多參拜者留下深刻印象的休息地點，也有不少在地的居民經常前來。

從咖啡廳出發，距離御本宮尚有 285 階石階。接下來的景點是旭社，也是神社境內規

模最大の建築之一。

＜日本語仮訳＞

金刀比羅宮：音声ガイド 11

神椿 カフェ&レストラン

金刀比羅宮参りの巡礼路を登る参拝客は、しばしばここで休憩をとりました。1797年に参拝者のための茶屋が建てられ、現在のモダンな姿は2007年にオープンしたカフェ「神椿」です。メニューはフランス料理に着想を得た軽食や彩り豊かなデザートが並び、地元産の食材を使用しています。店舗施設は斜面の下に地下式に造られており、参道からもカフェからも広々とした眺望を楽しめます。賑わう店内は明るく開放感にあふれ、窓からはヤマガラと呼ばれる小さなオレンジと黒の鳥が生息する緑豊かな森が見渡せます。多くの参拝者にとって印象深い場所であると同時に、地元民にも親しまれるスポットです。

カフェから御本宮までは285段の階段が続きます。次の見所は旭社で、境内随一の規模を誇る建物です。

【タイトル】 旭社

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**金刀比罗宫：语音导览 12****旭社**

眼前这座装饰精美的建筑，便是旭之社，通常被称为旭社。该建筑高达 25 米，气势非凡，许多参拜者误以为这座附属神社便就是参道的终点。

旭社历时 40 年建成，于 1845 年竣工。最初供奉的是一尊大型佛像，然而建成仅数十年后，金刀比罗宫就转为只供奉神道教的神社，大量佛教元素被移除。旭社并未遭到拆除，而是被改造为神道教神社沿用至今。如今，这里供奉着多位神明，其中包括被视为神道教中最古老神明之一的“天之御中主神（日本神话中的开天辟地之神）”。

建筑的整个外观几乎遍布精美雕刻。比如，檐下铺展着翻涌的云纹图案；屋檐外侧的垂木与墙面上，则刻有现实与神话中的各类动物形象。这些图案多数都是吉祥如意，如两侧山墙上的仙鹤与灵龟，都寓意着延年益寿。还有一些，例如侧面的鱼形图案，可能因为与“水”有关，所以被寄托以护佑木构建筑免遭火患的象征意义。

建筑物一层是开阔宽敞的拜殿。殿内并没有设立中央立柱去承载由木结构屋顶与一千万片铜瓦带来的巨大重量。这一隐藏于上层的一种巧妙的悬臂式杠杆结构可以实现分散承重。

从旭社到主殿，还有 157 级石阶。下一段语音导览将于贤木门处播放。

请注意：旭社目前正在进行大规模修缮工程，主要为修复潮湿和白蚁造成的损伤。预计将于 2043 年重新开放。

<繁体字>**旭社**

前方這座極為華麗的建築，名為旭之社，但一般更常稱為旭社。建築高達 25 公尺，其宏偉氣勢常讓不少參拜者一開始誤以為這座神社就是參道的終點。

旭社歷時 40 年才完成，並於西元 1845 年正式竣工。最初供奉的是一尊大型佛像，但在完工後的幾十年間，金刀比羅宮改為純神道信仰，移除了許多佛教元素。當時，旭社並沒有被拆除，而是改造為供奉神道神祇的神社。現在這裡供奉著許多神祇，包括被視為神道萬神殿中最古老神祇之一的「天之御中主」。

這棟建築整體的木質表面，幾乎都經過精雕細琢。舉例來說，屋簷下方分佈著漩渦形狀的雲紋設計。垂脊尾端和牆上有著動物的雕刻，現實中以及神話中存在的動物都能看見，當中許多都是吉祥的象徵，例如兩邊山花上的白鶴與烏龜都代表著長壽。其他動物則是與水的形象有關，例如側牆板上的魚，象徵著保護這座木造建築免於火災。

一樓是寬敞的開放式大殿。木質屋頂和 10,000 塊銅瓦相加起來的巨大重量，沒有中央立柱支撐。重量其實是由隱藏在上方樓板的精巧枯木系統分散。

從旭社到御本宮共有 157 階。下一段語音導覽將在賢木門播放。

請注意，旭社目前為了修復受潮和白蟻造成的損壞，正在進行大規模翻修，預計在西元 2043 年重新開放。

<日本語仮訳>

金刀比羅宮：音声ガイド 12

旭社

目の前に聳える精巧な装飾の施された建物は、旭の社（通称・あさひしゃ）です。高さ 25 メートルに及ぶその壮麗さゆえ、多くの巡礼者がうっかりこの末社こそ旅の目的地と勘違いしてしまうほどです。

旭社はもともとは大きな仏像を祀っていました。本堂の建設には 40 年を要し、1845 年によりやく完成しました。しかし完成から数十年のうちにこんぴらさんは神道のみを祀る神社となり、多くの仏教的要素が取り除かれました。旭社は、取り壊されるのではなく神社へと転用されることとなりました。現在では、神道の神々の中でも最も古い神の一人とされている天之御中主神をはじめとする多数の神々を祀っています。

建物の外装はほぼ全面にわたって精巧な彫刻が施されています。例えば軒裏には渦巻く雲の文様が広がっています。尾垂木や壁面には実在の動物から神話上の生物までが彫刻されています。多くは縁起の良い象徴であり、対となる破風に刻まれた鶴と亀は共に長寿を表しています。側面に描かれた魚など他の彫刻は、水に関連する意匠として、木造建築を火災から守る象徴として施された可能性があります。

一階は広々とした開放的な拝殿です。巨大な木造屋根と 1 万枚の銅板瓦を支える中央柱はありません。その重量は上層階に隠された巧妙な桔木構造によって分散されています。

旭社から本宮までは 157 段の階段が続きます。次のオーディオガイドは賢木門で再生されます。

なお旭社は現在、湿気やシロアリによる被害の修復を目的とした大規模な改修工事を実施中です。2043 年の再開を予定しています。

【タイトル】 賢木門あと 143 段/ 一段下がる石段

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

金刀比罗宫：语音导览 13 和 14

贤木门

这座建筑拥有优雅的波浪形屋顶，是“唐门”的一种。“唐门”是神社寺庙中规格最高的传统门样式。此门由当地一位大名，也就是日本封建时代的大领主于 16 世纪下令建造。施工期间，其中一根立柱被误装成倒置的状态，这一意外让它被称为“逆木门”，意为“倒置之门”。1879 年修缮时，将门名中的“逆”字改写为“贤”字，以取吉意。虽字形已改，读音却沿用至今。

从贤木门到主殿，还有 143 级石阶。离终点已不远，沿途仍有不少值得探访之处。

一级向下的石阶

目前为止，一路都是向上通往主殿的石阶，而在前方，却设有一级向下的石阶。这多出的一级，似乎是为了避开不吉的数字特意设置的。最初修建通往主殿的参道时，石阶总数为 786 级。在日语中，7、8、6 的数字组合可谐音读作“nayamu”，与“烦恼”的发音相同。为避开这种不祥的联想，人们便加了一级向下的石阶，石阶总数最终变为“向上的 786 级减去向下的 1 级”。于是才有今日人们所称“785 级”的说法。

从此处起，只需再攀登几级石阶便可抵达主殿。

<繁体字>

金刀比羅宮：語音導覽 13、14

賢木門

迎面而來的結構有著優雅的波浪狀屋頂，是唐門的一種範例，唐門是神社、寺廟

中最正式の門型。這座門是在 16 世紀由當地一位大名領主委託建造。建造過程中，其中一根柱子被裝錯，倒置了。這個意外使這座門得到「逆木門」的名稱，意思是「柱子倒置的門」。西元 1879 年修繕時，門名也隨著更改，將「倒置」的漢字換成「智慧」。雖然寫法有所改變，但門名的日語發音還是一樣。

從這道門到御本宮共有 143 階。距離終點已不遠，但途中還有更多值得了解的細節。

消滅煩惱的台階

到目前為止通往御本宮的台階逐漸向上延伸，但前面有一個向下的一階。這額外的一階似乎是為了避開不吉利的數字而特意增加的。當初建造通往御本宮的道路時，有 786 階。在日語，數字 7、8、6 的讀法是「nayamu」，恰好是「煩惱」的讀音。增加這額外往下的一階正是為了避免這種不吉利的聯想，台階總數從往上的 786 階減去往下的 1 階，這樣一來就變成「785 階」。

從這裡到御本宮就只剩下幾段台階的路程了。

<日本語仮訳>

金刀比羅宮：音声ガイド 13 と 14

賢木門

優雅な波打つ屋根を持つこの建造物は、神社や寺院で使われる最も格式高い門である唐門の一例です。この門は 16 世紀に地元の大名によって建立されました。建設中、柱の一つが誤って逆さに設置されてしまいました。この事故が「逆さの門」を意味する「逆木門」という名称の由来となりました。1879 年に修復された際、名称は「逆さ」を表す漢字を「知恵」の字に改められました。表記は変わりましたが、依然として読み方は変わっていません。

この門から御本宮までは 143 段の階段が続きます。あと少しですが、道中にはまだ見どころが残されています。

一段下がる石段

ここまでの階段は御本宮へ少しずつ上っていくものでしたが、この先に一段だけ下がる階段があります。この余分な一段は、不吉な数字を避けるために意図的に設けられたようです。本宮への参道が最初に造られた時、階段は 786 段でした。日本語では 7、8、6 の数字の並びは「なやむ（心配する）」と読めます。この不吉な連想を避けるため、余分な一段下がる段が設けられたと考えられます。これにより階段の総数は「786 段上り + 1 段下り」となり、結果として「785 段」と言われる所以です。

ここから御本宮まで、残る上り階段はわずか数段です。

【タイトル】 お手水について/ 御前四段坂あと 134

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

金刀比罗宫：语音导览 15 和 16

手水舎

在前往金刀比罗宫主殿参拜前，参拜者通常需要先在被称为手水舎的水池里以圣水净手漱口。此处的手水舎原位于主殿北侧，1930 年修建观景台时迁至现址。

只差最后一段石阶，您即可到达参拜神明的主殿。

最陡石阶

通往主殿的最后 133 级石阶，也是最为陡峭的一段。在这段石阶的中途，可以见到两座小型神社。其中一座供奉保佑生意兴隆之神，另一座供奉庇佑五谷丰登之神。它们是抵达主殿前最后的附属神社。

登上石阶顶端，主殿就在正前方。左侧道路通往下山方向，右侧则是观景台。越过观景台，山路仍向上延伸，可通往金刀比罗宫的另一个附属神社——奥社，那里与传说中的山神“天狗”有着很深的渊源。

石阶顶端有着包括主殿在内的各处景点，语音导览将继续为您讲解。终点就在眼前！

<繁体字>

金刀比羅宮：語音導覽 15、16

手水舎

神道的神社鼓勵訪客在進入御本宮建築前，先用聖水潔淨雙手和口部。手水舎以前在御本宮北側，但在西元 1930 年建造觀景台時被移到現在的地點。

您就快要到御本宮參拜神明了，前方只需要再爬一段台階。

最陡峭的台階

通往主神社的最後 133 階最為陡峭。在爬上這最後幾階的途中有兩座小神社。一座供奉著生意興隆之神，另一座則供奉著五穀豐收之神。這兩座小神社是御本宮前的最後兩座附屬神社。

台階頂端正前方就是御本宮了。左邊的小路通往山下。右邊有一個觀景台。穿過觀景台，小路繼續向上延伸，可通往奧社，供奉著傳說中的山神天狗。

到達台階頂端的景點後，包括御本宮，語音導覽將繼續播放。就快到了，加油！

<日本語仮訳>

金刀比羅宮：音声ガイド 15 と 16

手水舎

神社では、本社に近づく前に参拝者は神聖な水で手と口を清めることが推奨されています。このための手水舎は、以前は御本宮の北側に位置していましたが、1930 年に展望台が建設された際に現在の場所へ移設されました。

いよいよ御本宮の神様にお詣りに向かいます。あともう少し階段を上るだけです。

御前四段坂

御本宮までの最後の 133 段は最も急勾配です。この最後の階段の中腹には、二つの小さな祠があります。一つは商売繁盛の神様を祀り、もう一つは五穀豊穰の神様を祀っています。これらが御本宮手前の最後の末社となります。

階段の頂上では、正面に御本宮が見えます。左側の道は山を下りる道です。右側には展望台があります。展望台の向こうはさらに上へと続き、天狗と呼ばれる伝承上の山の精霊を祀る奥社へと続きます。

御本宮をはじめとする、この階段の上にある場所に到着したら、オーディオガイドは続きを再生します。もうすぐそこです！

【タイトル】 展望台

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**金刀比罗宫：语音导览 17****观景台**

观景台面向东北，可将濑户内海尽收眼底。越过赞岐平原的成片稻田与城镇景观，饭野山那线条凌厉的圆锥山体清晰可见。因其外形酷似日本最高峰、也是最为著名的富士山，故又被称为“赞岐富士”。

站在混凝土筑成的观景台上或许不易察觉，其实主殿附近便是陡峭的自然断崖。此处空间狭小，难以容纳大批游客与信众驻足，也让他们难以继续前往奥社。因此，1930年，人们便沿着断崖狭窄的边缘修建了这座观景台。

从这里前往奥社，还要再攀登 583 级石阶。当您沿着林木繁盛的小径前行，抵达奥社时语音导览将继续播放。

<繁体字>**金刀比羅宮：語音導覽 17****觀景台**

觀景台面向東北方，朝著瀨戶內海，能夠一覽讚岐平原的稻田和城鎮，還可以看到呈圓錐狀的飯野山。由於酷似日本最高、最著名的山「富士山」，因此也被稱為「讚岐富士」。

雖然站在混凝土觀景台上很難看出來，但御本宮其實緊鄰著天然懸崖。這種地形無法為信徒或民眾提供充份的空間繞行繼續前往奧社。因此在西元 1930 年，沿著懸崖的狹窄邊緣打造了這座觀景台。

從這裡到奧社還有 583 階。當您沿著林蔭小路到達另一座附屬神社後，語音導覽將繼

續播放。

＜日本語仮訳＞

金刀比羅宮：音声ガイド 17

展望台

この展望台は北東向きで、瀬戸内海を見渡せます。讃岐平野の田園や町並みを越えて、飯野山の鋭い円錐形が見えます。日本最高峰にして最も有名な山に形が似ていることから、「讃岐富士」とも呼ばれます。

コンクリートの展望台に立つと分かりませんが、御本宮のすぐそばには自然の断崖が迫っています。このため、かつては多くの参拝客や群れを縫って奥社へ進む人々にとって、十分なスペースはありませんでした。1930 年、この断崖の狭い縁に沿って展望台が建設されました。

ここから奥社まではさらに 583 段の階段が続きます。このオーディオガイドは、木々の生い茂る小道に沿って、奥社に差し掛かるまで続きます。

【タイトル】 御本宮

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

金刀比罗宫：语音导览 18

主殿

欢迎来到主殿。数百年来，无数朝圣者跋涉千里，只为奔赴这片神圣之地。

相传这处悬崖上的圣地已有三千多年的历史。现存建筑建于 1878 年，当时日本正处于急剧变革与现代化时期。此前，许多宗教场所都兼具神道与佛教的元素，但在政府推行神佛分离政策后，金刀比罗宫便转为只供奉神道的神社。主殿以神社的建筑样式重建，并融入了当时颇为新颖的设计元素，这被认为是神社当时的领导者有意与过去划清界限。建筑整体采用了沉稳雅致的蔓草纹铸铜饰件，取代了以往精巧的雕刻与鲜艳的彩绘。檐下斗拱木材也不再是圆润形状，而是被切成分明的棱角。整座建筑所用的桧木因岁月沉淀而色泽转深，但最初却是近乎纯白，象征着清静圣洁。屋顶采用传统构造，以厚厚的桧皮层层堆叠而成，每 33 年更换一次。

金刀比罗宫区域内许多早期的建筑多以动物图案装饰，但此殿却以植物，尤其是樱花，来作为装饰主题。主殿内的天花板上饰有漆绘工艺的樱花，并撒以金粉点缀，显得深邃而熠熠生辉。外壁同样以漆绘技法，描绘出绚烂盛放的樱花树。

主殿内供奉有两位神明。一位是大物主神，掌管诸多自然之力，尤其受航海者敬仰，祈求海上平安。另一位是崇德天皇，他在 12 世纪发动政变失败后被流放至此。传说这位被流放的天皇去世后化为怨灵，引发多次天灾。直到其灵被奉为日本的守护神，才终于得以安息。崇德天皇也被供奉在名为“白峰神社”的附属神社，再登 138 级石阶即可到达。

主殿左侧有一条长廊，通往一座别宫。这座别宫在主殿修缮时，用来暂时安置主祭神。过去，金刀比罗宫仍供奉佛教众神的时代，这座别宫曾是祭祀慈悲菩萨观世音的寺院。如今，这里供奉的是神道教神明三穗津姬命——大物主神的配偶神。

参拜完主殿，便完成了金刀比罗朝圣之旅重要行程。您可以继续向上攀登，探访更多

附属神社，接下来的语音导览将在观景台与白峰神社为您播放。

〈繁体字〉

金刀比羅宮：語音導覽 18

御本宮

歡迎來到御本宮。幾個世紀以來，眾多信眾長途跋涉來到這個聖地。

據說，這座矗立在懸崖邊的神社已經有至少 3,000 年了。現在的建築建於西元 1878 年，正值日本快速變革與現代化的時期。在此之前，許多宗教場所都有結合神道教和佛教的元素。不過，在政府推行神佛分離政策後，金刀比羅宮便成為了一座純粹的神道神社。御本宮依照神道建築風格重建，融入了當時的一些新穎元素，意味著神社管理人企圖與過去劃分一乾二淨的願景。神社管理人沒有採用華麗雕刻和鮮豔色彩，而是選用有著藤蔓圖案的優雅鑄銅配件，在整座建築結構都能看見。屋簷的支撐梁被切割成銳角，而非圓角。建築結構使用的柏木隨著時間變深，但最初幾乎是純白色，象徵純潔。屋頂是經典形式，由厚實的檜木片構成，每 33 年更換一次。

神社早期的許多建築都以動物為主題，這座建築則以植物裝飾，特別是櫻花樹。御本宮的天花板上裝飾著漆藝繪製的櫻花，並撒上珍貴的金粉，突顯出圖案深度和光彩奪目的效果，在外牆上也同樣描繪著漆藝繪製的櫻花樹。

御本宮奉著兩尊神明。一尊是大物主神，掌管諸多自然力量的神祇，水手會特別祈求大物主神的庇佑。另一尊供奉的神祇是崇德天皇，他在 12 世紀發動叛亂，但最終失敗，被流放到此地。傳說，遭到流放的崇德天皇死後化作怨靈復仇，造成多起天災。後來，崇德天皇被奉為日本的守護神，他的亡靈才得以平息。崇德天皇也供奉在稱為白峰神社的附屬神社，從這裡再爬 138 階就可到達白峰神社。

御本宮左邊的廊道通往一座附屬神社，御本宮修繕期間，主祭神會暫時安置於此。金刀比羅宮以前供奉佛教神祇時，這座附屬神社原本是供奉觀音菩薩的寺院。現在供奉的神道神明是三穗津姬命，她是大物主神的妃子。

參拜御本宮是金刀比羅宮朝聖之旅的重點行程；不過，如果您想繼續往上爬參觀

更多附屬神社，下一段語音導覽會在觀景台和白峰神社播放。

<日本語仮訳>

金刀比羅宮：音声ガイド 18

御本宮

本宮へようこそ。何世紀にもわたり、巡礼者たちはこの尊い地を目指して旅をしてきました。

この崖の地に信仰が寄せられたのは、3000 年以上前からと言われています。現在の建物は 1878 年に建てられました。当時は日本が急速な変化と近代化を遂げていた時代です。それまでは多くの宗教施設が神道と仏教の要素を併せ持っていました。しかし政府が両者を分離する政策を実施した際、こんぴらは神道のみを祀る神社の姿となりました。御本宮は神社の建築様式で再建され、当時としては斬新な要素を取り入れており、当時の神社の指導者達が過去との違いを明確に図ったためと考えられています。精巧な彫刻や鮮やかな彩色に代わって、蔓模様の鋳銅金具を用いた落ち着いた意匠が建物全体に施されました。軒下の支え木は縁で丸みを帯びるのではなく鋭角に切り出されています。構造全体に使われた檜材は経年により黒っぽくなっていますが、当初は純白に近い色調で、清浄さを象徴していたとされています。屋根は伝統的な構造で、厚く重ねた檜皮葺で、33 年ごとに葺き替えられます。

境内には動物をモチーフにした建造物が数多く建てられていますが、この建物は植物、特に桜を装飾に用いています。御本宮内部の天井には、深みと輝きを出すために金砂子を散りばめた漆塗りの桜の花が描かれています。外壁にも漆を用いて咲き誇る桜の木が描かれています。

御本宮には二柱の神が祀られています。一柱は大物主神（おおものぬしのかみ）で、多くの自然の力を司る神です。特に船乗り達はこの神の加護を求めてきました。もう一柱は崇徳上皇で、12 世紀に乱を起こして敗れ、この地に流されました。追放された上皇は没後に怨霊になり、数々の天災をもたらしたと伝えられています。崇徳上皇の霊は日本の守護神とされたことでようやく鎮まったと言われています。崇徳上皇は、さらに 138 段の階段を上ったところにある白峯神社という摂社にも祀られています。

御本宮左側の屋根付き通路は、御本宮改修時に主祭神を一時安置する別宮へと繋がっています。こんぴらさんがかつて仏教の神々を祀っていた時代には、この別宮は慈悲の菩薩である観音を祀る寺院でした。現在、この別宮は大物主神の配偶神である三穂津姫命（みほつひめのみこと）を祀っています。

御本宮参拝はこんぴら詣での中心です。しかし階段を上りさらに多くの末社を見学したい場合は、展望台や白峰神社で次の音声ガイドが再生されます。

【タイトル】 白峰神社 奥社まで 445

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

金刀比罗宮：语音导览 19

白峰神社

这座神社建于 1913 年，供奉 12 世纪的崇德天皇。他是一位权力斗争的牺牲者。传说其怨灵曾令日本皇室数百年不得安宁，直至被神格化为神道的神明。

崇德天皇于 1123 年至 1141 年在位，之后被迫退位。数年后，他为夺回权力策划政变，却以失败告终。随后，他被流放出京都，来到白峰地区，也就是如今的香川县。白峰也就是这座神社名称的由来。

流放期间，崇德天皇潜心佛法，耗费多年抄写约 190 卷经文。他本希望这些经卷能供奉于京都，但当时朝廷认为经卷中附有诅咒，而拒绝接纳，令他悲愤不已。

相传，崇德天皇去世后不久，京都的皇宫大殿意外失火，朝廷中多人因此殒命。此后数百年间，每逢其忌日前后，灾祸与纷争便频频发生，崇德天皇的怨灵之说因而广为流传。直至 1868 年，明治天皇将崇德天皇尊为日本守护神，并在京都立祠祭祀，其灵方得安抚。金刀比罗山的白峰神社，正是香川县内众多供奉崇德天皇的神社之一。

这座神社采用红白相间的配色，是日本神社的典型特征。传统的红漆中含有朱砂，这种矿物不仅色泽鲜红艳丽，还能保护木材免遭虫蛀腐朽，并被认为具有驱邪之力。白色则象征洁净与神圣。

从白峰神社前往奥社，还需再登 445 级石阶。

<繁体字>

金刀比羅宮：語音導覽 19

白峰神社

這座神社建於西元 1913 年，供奉著崇德天皇。崇德天皇是 12 世紀政權鬥爭的犧牲者，根據傳說，崇德天皇憤怒的靈魂折磨了日本皇室好幾個世紀，在他被奉為神道神明之後才得以平息。

崇德天皇在位期間是西元 1123 年至 1141 年，後來被迫退位。幾年後，他發動政變企圖奪取政權。政變失敗後，他從當時的首都京都被流放到香川縣的白峰町，也就是這個神社名稱的由來。

在流亡期間，崇德天皇皈依佛教，花了許多年抄錄了大約 190 卷佛經。他想把這些佛經供奉在京都，但當時的天皇認為佛經中含有詛咒而拒絕，此舉激怒了崇德天皇。

在他死後，皇宮正殿焚毀，多名朝廷官員喪生。在此之後，有好幾個世紀，每逢崇德天皇的忌日，災難和衝突頻頻發生，於是衍生出關於他怨靈復仇的傳說。西元 1868 年，明治天皇為了平息崇德天皇的靈魂，將他供奉到京都，奉為日本的守護神。香川縣有許多間供奉崇德天皇的神社，金刀比羅宮的白峰神社便是其中一間。

建築的紅白配色是神道神社的典型配色。傳統上，紅漆含有硃砂，這種礦物賦予木材鮮豔的紅色，還能幫助保護木材免於蟲害和腐壞，據說也能驅邪避兇。白色則象徵純潔和神聖。

從白峰神社前往奧社，還有 445 階。

<日本語仮訳>

金刀比羅宮：音声ガイド 19

白峯神社

こちらは 1913 年に建てられたもので、12 世紀の権力闘争の犠牲者となった崇徳上皇を祀っています。伝承によると、崇徳上皇の怨霊は何世紀にもわたって日本の皇族を苦しめた後、神として祀られたといえます。

崇徳天皇は 1123 年から 1141 年まで在位し、その後退位を余儀なくされました。数年後、権力奪取のためクーデターを企てました。失敗に終わった後、京の都から現在の香川県内にあたる白峯という

町に流され、その町がこの神社の名の由来となっています。

流された先で、崇徳上皇は仏教に傾倒し、長年かけて約 190 巻の経典を写経しました。彼は経典が京都に安置されることを望みましたが、経典に呪いがあると信られ、当時の天皇からは拒否されてしまい、崇徳上皇は激怒しました。

彼の死後、御所の大広間は焼失し、朝廷では数名が亡くなりました。数世紀にも渡り、崇徳上皇の命日付近に災厄や争いが頻繁に発生したため、怨霊伝説が広まっていきました。1868 年、明治天皇は崇徳上皇を日本の守護神として京都に祀ることで、その霊を鎮めました。金刀比羅山の白峰神社は、香川県内に点在する崇徳上皇を祀る数多くの神社の一つです。

この神社の紅白の配色は、神社の典型的な特徴です。伝統的に赤漆には辰砂（しんしゃ）が含まれており、この鉱石は鮮やかな赤色を呈するだけでなく、木材を害虫や腐朽から守る役割を果たしました。また邪気を祓うとも信じられていました。白は清浄さと神聖さを象徴する色です。

白峯神社から奥社までは、あと 445 段です。

【タイトル】 嚴魂神社(奥社)

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**金刀比罗宫：语音导览 20****严魂神社**

恭喜您！您已抵达金刀比罗宫景点内的最高处。这里是严魂神社，也被称为“奥社”。

此处供奉的神明是“严魂彦命”，曾是 16 世纪金刀比罗宫的一位宫司，去世后，被神格化为神明。他生前曾立誓，即便死后也要守护挚爱的金刀比罗宫。传说他后来化为天狗——一种栖居山中的强大神灵。天狗常被描绘为背生双翼、拥有长着鸟嘴或赤红长鼻的面容。严魂神社左侧峭壁的高处悬挂着两副天狗面具，代表了这两类天狗的形象。

多数神社都朝向东方，为了迎接旭日升起；而这座神社却朝向南方，正对金刀比罗宫主殿的方向。这样的朝向，正体现了严魂彦命永远守望挚爱神社的誓愿。

至此，您的攀登之旅已抵达终点。希望本次语音导览能为您带来感悟与收获。下山途中请注意安全，期待您的再次光临。

<繁体字>**金刀比羅宮：語音導覽 20****嚴魂神社**

恭喜！您已到達金刀比羅宮境內的最高點。這裡是嚴魂神社，又稱為奧社。

這裡供奉的是嚴魂彥命，他是 16 世紀金刀比羅宮的一位住持，後來被奉為神明。在他生前，他曾經發誓死後也要守護他珍愛的金刀比羅宮。根據傳說，他化身為天狗，成為住在山裡的強大神明。天狗通常被描繪成長著翅膀、鳥臉或長長的紅鼻子。神社左側的懸崖上就高掛著呈現這兩種天狗形象的臉譜。

雖然大多數神社都面向東方，朝著東升的旭日，但這座神社卻面向南方，朝著金刀比羅宮。這反映了嚴魂彥命永遠守護著他心愛神社的誓言。

登階之旅就到此結束。希望您喜歡這次語音導覽。下山途中請注意安全。

<日本語仮訳>

金刀比羅宮：音声ガイド 20

嚴魂神社

おめでとうございます！ 金刀比羅宮境内の一番高い場所までたどり着きました。ここは嚴魂神社（いづたまじんじゃ）、別名奥社です。

ここに祀られているのは、16 世紀に金毘羅山の別当を務めた人物を神格化した嚴魂彥命（いづたまひこのみこと）です。生前に彼は、愛する金毘羅山を死後も守ると誓いました。伝説によると彼は、山に住む強力な存在である天狗に変身したとされています。天狗は翼と鳥のような顔、あるいは長い赤い鼻で描かれることが多く、この二種類の天狗の顔を表す仮面が、神社の左側にある崖壁の高い位置に掛けられています。

ほとんどの神社は東、日の出の方角を向っていますが、この神社は南、こんぴらさんの御本宮の方を向いています。これは、嚴魂彥命が愛する神社を永遠に見守るという誓いを反映しています。

これで登りは終わりです。オーディオガイドをお楽しみいただけたなら幸いです。下り道は気をつけて、道中の数々の名所を再訪してお楽しみください。

【タイトル】 旭社の概要、建立経緯と特徴

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

旭社：建筑与木作奇迹

旭社，是金刀比罗宫境内的一座附属神社，并被指定为重要文化遗产。这座木构建筑高达 25 米，其结构繁复精巧，建造过程前后耗时近四十年。当时，来自日本全国约 13 万 8 千名 民众慷慨解囊，共同捐资成就了这一宏大工程。

旭社的历史

旭社创建的年代，神道与佛教在诸多宗教场所常常并存。香客来到金刀比罗宫，向两种传统的神明祈祷；而旭社于 1845 年落成时，最初供奉的是药师佛。其建筑形制汲取禅宗样式的佛寺风格，繁复精妙的木雕之中，更融入绵延数百年的佛教传统图案。然而，1868 年日本政府颁行神佛分离令，金刀比罗宫遂转为纯粹的神道神社。在这一转折时期，剔除神社中佛教元素的行动蔚然成风。旭社并未被拆毁，而是改作供奉神道神明之所。

旭社的未来

旭社主要采用耐湿防虫性能优异的榉木建造而成。历经了近两个世纪的风雨，这座坚固的木造建筑因雨水与白蚁侵蚀遭受了严重损坏。金刀比罗宫目前正在推进一项大规模的修复工程，预计将至少对建筑的一半进行拆解、修缮与重建。在拆解过程中，研究者亦将获得难得的契机，得以深入了解诸如屋顶内部精巧的“桔木”结构（日本的一种利用杠杆原理的独特屋顶内部支撑系统）等历史建造工艺。

该项工程预计于 2043 年完工。在此修缮期间，游客虽无法直接观赏旭社外观，但金刀比罗宫已设置数字导览屏，详细介绍其突出的艺术与建筑特色。观众可通过该导览屏，欣赏关键部位的详细视图，包括平时难得一见的细节部位。有关旭社的精彩看点与神圣艺术，敬请通过导览屏细细观赏。

<繁体字>

旭社：建築與木作工藝的奇蹟

旭社は金刀比羅宮内の小神社，也被指定為重要文化財。這座木造建築高 25 公尺，其錯綜複雜的建造過程耗時近 40 年。約有 13 萬 8000 名來自全國各地的人士集資捐助了這項龐大的工程。

旭社の歴史

旭社建於神道教與佛教通常並存於宗教場所的時期。朝聖者來到金刀比羅宮，向兩種傳統的神祇祈福。西元 1845 年旭社建成時，最初供奉的是佛教的藥師如來。建築的設計擷取了佛教禪宗的建築風格，其精美的木工融入了幾世紀前的佛教圖像。然而在西元 1868 年時，政府下令「神佛分離」，嚴格分離神道與佛教，金刀比羅宮成了純粹的神道神社。在這段過渡時期，神道神社將佛教元素移除是很常見的現象。當時，旭社沒有被拆除，而是改造為供奉神道神祇的神社。

旭社の未來

旭社主要以防腐及防蟲機能良好的櫟木所建造。然而，經過大約兩個世紀，這座堅固的木造建築已遭受嚴重的水害和白蟻侵蝕。金刀比羅宮正在進行一項大規模的修復工程，以拆除、修復和重建建築物至少一半的部分。拆除這座建築物的過程也將為研究人員提供一個了解歷史建築工法，例如屋頂下巧妙平衡的懸臂系統的絕佳機會。

本修復計畫預計於西元 2043 年完成。由於此次修復期間無法參觀旭社的外觀，因此金刀比羅宮製作了這個數位介面，以突顯該建物獨特的藝術與建築特色。該介面提供了主要區域的詳細視角，包括某些平常難以看到的部分。請瀏覽本介面，以了解更多關於這座建築的特色和神聖藝術。

<日本語仮訳>

旭社：建築と木工の妙技

旭社（あさひのやしろ、またはあさひしゃ）は金刀比羅宮の末社であり、重要文化財に指定されています。木造建築の高さは 25 メートルに及び、その複雑な構造の建設には約 40 年を要しました。全国から約 13 万 8 千もの人々がこの大規模な事業の支援に寄進を行いました。

旭社の歴史

旭社は、神仏習合が一般的だった時代に建立されました。1845 年に完成した旭社では当初、薬師如来が祀られ、金刀比羅宮の参拝者は神仏両方にお詣りしました。建築は禅宗寺院の様式を基調としており、精巧な木彫りには仏教の伝統的な図像が用いられています。しかし 1868 年、政府が神仏分離を厳格に命じたため、金刀比羅宮は神道のための地となりました。この過渡期には、神社から仏

教的要素を取り除くことが広範に行われました。旭社は取り壊されるのではなく、神道の神々を祀るために転用されることとなります。

旭社の今後

旭社は主に耐湿性・耐虫性に優れた檜材で建造されています。しかし約 2 世紀を経た今、この頑丈な木造建築は水害やシロアリ被害により甚大な損傷を受けてしまいました。金刀比羅宮では建物の少なくとも半分を解体・修復・再建する大規模な改修プロジェクトを進めています。解体作業では、屋根裏の巧みな枯木構造など歴史的建築技法を研究する貴重な機会にもなっています。

プロジェクトは 2043 年の完了を予定しています。修復期間中は旭社の外観を直接ご覧いただけないため、金刀比羅宮ではその際立った芸術的・建築的特徴を紹介するデジタルサイネージを用意しました。通常は見えない部分を含む主要箇所の詳細な映像をご覧いただけます。建物の見どころや神聖な芸術について、ぜひインターフェースをご覧ください。

【タイトル】 旭社 テキスト解説 2 -6

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

改造后的正殿

初建之时，旭社一层的主殿供奉着一尊大型佛像。在寺院建筑的其他形制中，主尊通常被支撑高耸天花的立柱所环绕。然而旭社通过不设中心柱的设计，营造出开阔通透的空间，使参拜对象毫无遮挡、一览无余。这一效果得益于建筑上的一系列巧妙构思——如上层隐藏的“桔木”等，将主殿屋顶的荷载分散至四周。靠近天花的梁架由主殿外圈立柱承托，而这些立柱又以穿枋相连，形成稳固整体。

与供奉佛像的佛堂不同，神道社殿通常设有稍高且幽深的内阵（主要指佛教建筑或仪式中供奉主尊的核心区域）空间，为神明提供隐秘的驻座之所。1868 年金刀比罗宫改为纯神道社后，旭社内的佛像及其基座被移除，并在殿后改设神道式内阵。

这些转变的痕迹，至今仍可在内阵周边看到。台阶两侧的立柱，恰位于原本佛像台座的边缘位置；柱身上还留有当年为安设台座而凿切的痕迹。另一个转变的痕迹则藏在装饰之中。主殿周围横梁间原本雕有中国的十二生肖，但细数之下却仅余十一尊。缺失的那尊酉鸡雕像被移至内阵屋顶上方，安置于阁楼之中。

名贵榉木

旭社的大部分用材皆为上等榉木。榉木纹理细密，质地坚硬且耐虫蚀，是极佳的建筑材料；旭社在榉木采办上不惜工本，将百余根古木原材由遥远的日本北部秋田经船运而来。抵港之后，这些巨木还需翻山越岭，方能运达建造现场。

罕见的重檐屋顶

旭社采用重檐歇山屋顶：上层屋顶比下层高出 10.5 米。歇山屋顶以正脊为中轴，四面出檐倾斜，相对两侧各起一面三角山墙，这一形制在日本各地神社寺院中十分常见。然而，像旭社这般重檐形制，在 19 世纪初却颇为罕见。该结构依托于一层天花板与二层楼板间架设的复杂梁架，其上再增设立柱予以支撑。

万片铜瓦

正殿屋顶原本计划铺设传统的叠置弧形陶瓦。但陶瓦过重，超出旭社重檐歇山顶结构的承载。工匠们遂改用仿瓦形制的铜板。共需约一万枚，每一枚皆须单独成形，并依瓦当叠置的纹理逐片铺设。铜板新制时鲜亮橙红，历经约两百年的风雨，已渐渐转为青绿铜锈。

精妙的平衡

屋顶宽大的飞檐远远伸出墙体之外。其重量由上层隐藏的“桔木”结构（日本的一种利用杠杆原理的独特屋顶内部支撑系统）巧妙分担。

走入旭社内，屋顶下方可见直梁与曲梁交错相缠，看似繁复无序。然而，其间却维系着极其精妙的平衡。桔木自檐口延伸至屋顶中央，在中央与作为支点的水平梁垂直交叉。屋顶重量压向“桔木”内侧端时，外端便如跷跷板般向上抬起，从而托住沉重的出檐部分；而中央水平梁的荷载，则由分布于全建筑的承重立柱共同支撑。

与采用坚硬榉木的梁柱不同，“桔木”构件选用更细韧的松木制作，利用杠杆原理灵活应对荷载变化，更有效地调节受力。

<繁体字>

改造後的殿堂

神社完成之初，旭社的一樓主殿內供奉了一尊大型佛像。在其他風格的寺院建築中，主雕像周圍通常環繞著支撐高聳天花板的樑柱。然而，旭社的設計沒有中央立柱，因此創造了一個寬敞的空間，讓信徒可以毫無遮蔽地看到膜拜的神像。這是透過隱藏在上層的懸臂系統，以及主殿周圍一系列利於轉移屋頂重量的建築特性來實現的。靠近天花板的承重支架複合體由廂房邊緣的樑柱所支撐，這些樑柱透過一系列水平樑連接起來。

相較於供奉雕像的佛教殿堂，神道殿堂通常有一個高聳的內殿，為神祇提供了安座的隱密空間。西元 1868 年，金刀比羅宮成為一座純粹的神道神社，旭社的佛像及其安座的基壇被移除，並在殿堂後方建置了神道風格的內殿。

殿堂內部已顯示出這種轉變的跡象。階梯兩側的柱子立於基壇的邊緣，柱上一部分的木頭被削去，為基壇騰出空間。在裝飾中還可以得到另一個線索，殿堂最初的設計是在環繞主殿的橫樑之間雕刻十二生肖動物，但仔細數了一下，卻只發現 11 種動物，缺少的動

物（雞）被內殿的屋頂所取代，並存放在閣樓內。

珍貴的櫟木

建築大部分結構都以優質的櫟木建造，這種紋理細緻的硬木具有高強度、高防蟲的特性，是一種優良的建築材料。旭社在採購櫟木的花費上可說是不惜成本，一百多根古樹原木從遙遠的日本東北的秋田縣用船運來。到達港口後，必須將這些巨大的原木運上山，送到建築工地。

罕見的雙層屋頂

旭社有重檐歇山頂，上屋頂比下屋頂高 10.5 公尺。重檐歇山頂在日本各地的寺廟和神社中很常見，其特色是中央有一條屋脊線，四面有傾斜的屋簷，對應的兩側各有一個三角形山牆。然而，像這樣的雙層屋頂建築在 19 世紀初實屬罕見。這種結構是由設置在一樓天花板和二樓樓板之間的樑柱所組成的複合體上的附加柱來支撐。

一萬片銅瓦

主殿最初計畫採用傳統的屋頂設計，由重疊排列的弧形粘土瓦片鋪設構成。但事實證明這樣的屋頂太重，建築結構無法支撐。因此，建造者改用外形酷似傳統黏土瓦片的銅片。所需銅片數量約一萬片，每片都必須單獨成形，並依照重疊的排列方式逐一安裝上去。約兩百多年過去了，新銅晃亮的橘色調已經褪成銅綠色。

巧妙的平衡

巨大的弧形屋簷遠遠超出建築的牆壁。屋頂重量由稱為「桔木」（一種輕質木材）的長木製懸臂所支撐，這些懸臂隱藏在上層。

建築物內部，屋頂下的空間看來就像直線和曲線樑所交織的結構。事實上，這是一種非常巧妙的平衡。桔木從屋簷延伸到屋頂中心。中間與發揮支點功能的水平樑柱相互垂直。屋頂重量向下壓在桔木的內側末端，使其如同蹺蹺板般將對應的末端向上撬起。外側末端支撐著屋簷的重量，而位於系統中心的水平樑則由貫穿整個結構的承重柱支撐著。

相較於堅硬櫟木材質的樑柱，這種由更細、更柔韌的松木原木所製成的桔木更能承受懸臂系統的變化的荷重。

＜日本語仮訳＞

変遷のあった本堂

建立された当初、来訪者は一階の本堂に安置された大仏像を参拝しました。寺院建築の他の様式では、本尊は高い天井を支える柱に囲まれるのが一般的です。しかし旭社では中央柱を設けないことで、参拝対象を遮るものなく見渡せる広々とした空間を創出しました。これは上層部に隠された桔木構造など、本殿周囲の屋根荷重を分散させる建築的工夫によって実現されました。天井付近の梁組は本殿外周の柱で支えられ、これらの柱は貫で連結されています。

仏像を祀る仏堂に対して、神道の社殿には通常、神が鎮座するための少し高さのある奥まった空間があります。1868年に金刀比羅宮が神道のみの社となった際、旭社の仏像とその台座は撤去され、この建物の後方に神道様式の内陣が設置されました。

こうした変遷の痕跡は内陣周辺に見られます。階段両側の柱は、元の台座があった位置の端に立っており、その柱には台座を設置するために切られた跡が残っています。美術品にも痕跡が残っています。本殿を囲む横梁には十二支の彫刻が施されていましたが、よく数えると十一体しか確認できません。欠けた動物（酉）は内陣の屋根に置き換えられ、屋根裏に安置されました。

高級材の檜

建物の大部分は、良質な檜材で作られています。きめ細かく硬い木材である檜は強度と耐虫性に優れ、建築材として有用であり、旭社では檜材の調達に費用を惜しみませんでした。100本以上の古木の丸太が、遠く北日本の秋田から船で運ばれてきました。港に到着した後、巨大な丸太は山を越えて建設現場まで運ばれました。

二重入母屋

旭社には切妻屋根が二重に重なっており、上層の屋根は下層より10.5メートル高い。中央に棟木を配し、四方に傾斜した軒、対角線上に二つの三角形の破風を持つ切妻屋根は、日本全国の寺院や神社でよく見られます。しかし、このような二重屋根構造は19世紀初頭には稀でした。この構造は、一階の天井と二階の床の間に設置された複雑な梁の上に追加の柱を立てて支えられています。

銅瓦 1万枚

当初、本堂は曲面瓦を重なり合わせる伝統的な屋根構造で設計された。しかし、この構造では瓦の重量を支えきれませんでした。そこで建設者らは、瓦を模した形状の銅板を採用しました。約1万枚の銅板が必要で、それぞれが個別に成形され、瓦の重なり模様に合わせて配置されました。真新しかった銅の鮮やかな橙色は、およそ200年程度の歳月の影響で、緑青へと変化しています。

天井と多数の桔木

屋根の大きく弧を描く軒は、建物の壁をはるかに超えて突き出ています。その重量は、上層階に隠された「桔木」と呼ばれる長い木材によって支えられています。

建物の内部では、屋根の下の空間でまっすぐな梁と自然な曲線を描く梁が絡み合ったように見えます。しかし、実際には繊細なバランスが保たれています。桔木は軒から屋根の中央まで伸びています。中央部では、支点となる水平梁に対して垂直に交差しています。屋根の重みが桔木の内側の端を押し下げると、反対の端はシーソーのように押し上げられます。外側の端は軒の重みを支え、中央の水平梁は、建物全体に配置された荷重支持柱によって支えられています。

梁と柱が強固な檼材で作られているのに対し、桔木はより細く柔軟な松材で作られているため、てこの原理により変動する荷重をより効果的に受け止めることができます。

【タイトル】 旭社 テキスト解説 7-10

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

云纹雕檐

旭社二层檐下，雕刻着一片片云纹装饰。在寺院和神社建筑中，云纹是常见的装饰题材，象征将人间的建筑与天界相连。这些雕纹的凹槽有数厘米之深，纹样甚至延伸到从下方根本看不见的背面。正因如此，更能看出匠人对这座神圣建筑倾注的心力与工本。连不易入眼之处的装饰，也毫不吝惜地精雕细琢。

尾垂木上的瑞兽

檐下层层斗拱之间，尾垂木向外伸展。它们与屋内暗藏的“桔木”同理，以杠杆之势悬挑而出，承担起托举檐部重量的职责。

这本是佛教建筑中常见的形制，旭社也采用了两排尾垂木。两排上面都刻着精美的图案：上排刻着猛龙，下排刻着瑞象。其中一些张口如发“阿”音，另一些闭口似念“吽”声。这两个音源自日本佛教所用的梵语音节表，分别为首尾之音，共同象征着万物的开始与结束，以及生死轮回。

镇火之鱼与诸般瑞兽

旭社外墙上遍布着细密雕刻。例如一层壁面上部，刻有各类游鱼的场景。这或许源于金刀比罗宫与海洋的深厚渊源，也可能寄托着禳火避灾之意。自古以来，与水相关的动物与神话生灵，常被用于木构建筑之上，以作镇护辟邪。

旭社一侧的山墙刻有巨鹤，另一侧则饰以巨龟。相传鹤寿千年，龟寿万年，因而鹤与龟作为长寿祥瑞的象征，广泛出现在日本艺术之中。

仙人

旭社的一层设正门一处、侧门两处。三处门皆为禅宗样式常见的“栈唐户”推拉式双开门。在旭社，每扇门中部另设折叠合页，开启时可整齐对折收拢。每个门扇上部的镶板皆饰以镂空雕刻，兼具引入光线与空气流通之功用。

門扇雕板共刻中國民間傳說中的三十六位道教仙人。仙人題材在中日宗教藝術中反復出現，常被描繪為與自然相和、求道悟真的超然之士形象。相傳他們已遁出塵世，修得凌空飛行等諸般神通。旭社以這些仙人形象裝飾門扉，可視為對神明庇佑的虔誠祈願。

〈繁體字〉

雲雕屋簷

二樓屋簷的下方有造型雲紋雕刻圖案。雲紋是寺院和神社建築中常見的圖案，象徵人世建築與天界間的連結。雕刻中的凹槽深達數公分，圖案延伸到從下方看不到的區域。這座殿堂在建造與成本上可說不遺餘力，甚至在裝飾物品上也屬罕見。

尾椽上的動物

尾椽從屋簷下的階梯式支架向外延伸。如同隱藏在屋頂下的枯木般，這些屋椽就像蹺板一樣懸臂式支撐著屋簷的重量。

一如佛教建築中常見的特色，旭社具有兩排尾椽。兩排尾椽都雕刻得相當精美。上排刻的是猛龍，下排則是大象。有些動物嘴巴張開，形成音節 a（梵文音節），有些動物嘴巴閉合，代表 un。這些是日本佛教中使用的梵文音節文字第一個和最後一個音，兩者共同象徵著開始與結束，生與死的循環。

防火魚與其他動物

旭社的外牆上有許多精美的雕刻。例如，一樓牆壁上方刻有各種魚類的圖案。這可能源於金刀比羅宮與海洋的淵源，也可能是為了寓意防火。與水有關的動物與神話生物，長期以來一直被用在木造建築的裝飾上，以作為守護的象徵。

其中一面山牆上雕刻著巨大的鶴，另一面山牆上刻有巨大的龜。相傳鶴可活一千年，龜可活一萬年。因此，經常出現在日本藝術作品中，作為長壽的吉祥象徵。

永恆的聖賢們

一樓設有正門和兩個側門。三邊都裝有鉸鍊式雙扇門，稱為「棧唐戶」，這是禪宗建築的典型特色。在旭社，每扇門中間都有一個額外的折疊鉸鏈，打開時可以整齊地對折。每一部分的門板都有鏤空雕刻，可以通風並讓光線從縫隙透進來。

這些門板共描繪了 36 位中國民間傳說中的道教仙人。這些仙人是中國和日本宗教藝術中經常出現的題材，通常用來表達與自然和諧共處，同時尋求開悟。據說，他們超越了凡塵俗世，修練出飛行等神秘力量。將這些元素納入旭社被認為是祈求神祇庇佑的一種方式。

<日本語仮訳>

雲形軒裏

2 階の軒裏には、様式化された雲の彫刻が施されています。雲は寺院建築や神社建築において、地上の建造物と天空を象徴的に繋ぐ普遍的なモチーフとして広く用いられています。彫刻の溝は数センチの深さがあり、その模様は下から見えない部分にも及んでいます。こうした装飾が通常は目につかない場所にさえも、この神聖な建築のため惜しみなく労力や費用がかけられています。

尾垂木の動物

軒下には、段状の支柱群から外側に伸びる尾垂木があります。屋根裏に隠れた桔木のように、これらの垂木は軒の重量を支える役割を果たすテコのように張り出しています。

仏教建築に共通する様式ですが、旭社にも 2 列の尾垂木があります。どちらにも精巧な彫刻が施されています。上段には獠猛な龍が、下段には像が刻まれています。中には、口を開けて「ア」の音節を表わすものもあれば、口を閉じて「ウン」の音節を表わすものもあります。これらは日本仏教で使用されるサンスクリット音節表の最初と最後の音であり、共に始まりと終わり、生と死の循環を象徴しています。

懸魚 妻飾り

旭社の外壁には精緻な彫刻が施されています。たとえば 1 階の壁上部には、様々な種類の魚が泳いでいる様子が刻まれています。これは、金刀比羅宮が海と結びついていることに由来するか、あるいは火災を祓う意図のものかもしれません。水に関連する動物や神話上の生き物は、古くから木造建築物に魔除けとして用いられてきました。

大きな鶴の彫刻が片方の破風に、そしてもう片方には大きな亀が飾られています。これらの動物はそれぞれ千年と万年生きると言われています。そのため、鶴と亀は長寿の縁起物として、日本の美術において広く用いられています。

棧唐戸の仙人

1 回には正面と両脇に入口があります。三方全てには、禅宗建築に典型的な「棧唐戸（さんからど）」と呼ばれる両開きの扉が取り付けられています。旭社では、それぞれの扉の中央に折り畳み式の蝶番が設けられており、開いた際にきれいに半分に折り畳めるようになっています。各部位の上部板に

は透かし彫りが施され、それが空気と光を室内に取り込む役割を果たしています。

扉全体には中国の民間伝承に登場する 36 人の道教の仙人が描かれています。これらの仙人は中国と日本の宗教美術で繰り返し描かれるモチーフであり、しばしば自然と調和し悟りを求める存在として表現されます。彼らは俗世を超越しており、飛翔能力など神秘的な力を培ったと伝えられています。旭社に仙人を配したことは、神々の加護への祈りの表現と考えられています。

地域番号	024	協議会名	大洲市観光施設多言語推進協議会

解説文一覧

NO.	スポット名（タイトル）	中国語文字数	想定媒体
024-001	大洲歴史探訪館/大洲歴史探訪館の歴史・役割 （ガイドンス）	194	看板/Web
024-002	大洲歴史探訪館/城下町の歴史・産業・特徴	463	看板/Web
024-003	大洲歴史探訪館/大洲の自然（肱川や富士山、霧など）	355	看板/Web
024-004	大洲歴史探訪館/明治～昭和の大洲城下町	504	看板/Web
024-005	大洲歴史探訪館/城下町再生のストーリー	417	看板/Web
024-006	大洲城/木造復元のストーリー	406	Web
024-007	大洲城/日本の城郭の仕組み	459	Web
024-008	大洲城/キャスルスステイなどの取組み	499	Web
024-009	大洲城/天守閣	483	Web
024-010	大洲城/台所櫓	252	Web
024-011	大洲城/高欄櫓	250	Web
024-012	大洲城/その他櫓	322	Web
024-013	大洲城/暗がり門	346	Web
024-014	臥龍山荘/日本庭園とは	374	Web/その他
024-015	臥龍山荘/建築当初の時代背景	383	Web/その他
024-016	臥龍山荘/臥龍院	395	Web/その他
024-017	臥龍山荘/清吹の間	247	Web/その他
024-018	臥龍山荘/壺是の間	209	Web/その他
024-019	臥龍山荘/霞月の間	357	Web/その他
024-020	臥龍山荘/知止庵	210	Web/その他

024-021	臥龍山莊/不老庵	223	Web/その他
024-022	臥龍山莊/庭園	312	Web/その他
024-023	臥龍山莊/蓬萊山	226	Web/その他
024-024	盤泉莊/盤泉莊パンフレット	803	パンフレット
024-025	盤泉莊/日本の建築	358	Web
024-026	盤泉莊/和洋折衷の文化	565	Web
024-027	盤泉莊/コンクリートの部屋	545	Web

【タイトル】 大洲歴史探訪館/大洲歴史探訪館の歴史・役割

(ガイドンス)

【想定媒体】 看板/Web

＜繁体字＞

大洲歴史探訪館

來到大洲歴史探訪館，您可以透過展示的歷史照片與圖片，了解大洲城下町的故事。此設施原為 19 世紀蠟商的倉庫，下方建有 120 公分高的石造基座，以防河川氾濫造成淹水。這樣的建築構造體現了蠟製品貿易發展為大洲帶來的繁榮。館內的展覽梳理了這座城下町的發展軌跡：起源於 14 世紀，至 19 世紀的鼎盛及隨後的沒落，再到近年由社區主導的振興工作。探訪館提供在地景點的資訊和導覽手冊，並設有休息區。

＜日本語仮訳＞

大洲歴史探訪館/大洲歴史探訪館の歴史・役割（ガイドンス）

大洲駅観光案内所では、歴史的な写真や映像の展示を通して、大洲の城下町の物語を学ぶことができます。この施設は 19 世紀の蠟商人の倉庫を利用しており、川の氾濫から倉庫を守るための高さ 120 センチの石造りの基礎の上に設置されています。この構造は、蠟製品の取引の発展によって大洲が遂げた繁栄を象徴しています。内部の展示は、14 世紀の町の始まりから、19 世紀の好況期、その後の衰退、そして近年の地域主導による再生への取り組みまで、この町の発展をたどっています。この案内所では、地元の観光スポットに関する情報やパンフレットを提供しており、休憩所も併設されています。

【タイトル】 大洲歴史探訪館/城下町の歴史・産業・特徴

【想定媒体】 看板/Web

<繁体字>**大洲：城下町の話**

大洲の歴史は大洲城息息相关。在歴代大名の統治下，大洲作為城下町蓬勃發展，並崛起為區域政治和文化中心，肱川沿岸的貿易活動更進一步推動了城下町的成長。儘管運輸方式和行政體系變遷，導致大洲在區域中的地位逐漸式微，但這座城下町仍保留著具有歷史意義的城市格局，並成為保護與振興工作的重點。

大洲城起源於西元 1331 年，最初是坐落於高地、俯瞰肱川的一座小型要塞。在之後的幾個世紀，大洲城幾經易主，直到西元 1617 年加藤家族接管，並長期統治這片領地直到 19 世紀末。在加藤家族統治期間，武士、商人和工匠紛紛在大洲城周圍定居，城下町日益繁榮。大洲靠著四周的森林資源與河運之便，發展出強大的商業基礎，其中又以木材和蠟最具代表性。

肱川沿岸貿易在 20 世紀早期達到鼎盛。然而，隨著運輸方式變遷，不再仰賴河運，大洲的區域地位逐漸式微。人口不斷流失，城堡和其他歷史建築荒廢，最終年久失修。儘管歷經這些變遷，大洲的歷史風貌依然深深烙印在市中，並透過一系列的振興工作，特別是堅持用傳統建造工法來修復城堡天守閣，讓這座城下町的歷史原貌得以延續。

<日本語仮訳>**大洲歴史探訪館/城下町の歴史・産業・特徴**

大洲の歴史は、大洲城と密接に結びついています。その大名領主の治世下、大洲は城下町として発展し、この地域の政治と文化の中心地となりました。また、肱川沿いの交易もこの町の発展を支えました。交通や統治の変化により、地域における大洲の役割は時代とともに縮小したものの、この町は歴史的な都市構造を今も残し、保存と再生への取り組みの中心となっています。

大洲城の起源は、1331 年に肱川を見下ろす台地に築かれた小さな要塞でした。その後、何世紀にもわたり城主が交代を繰り返し、1617 年、加藤家が大洲に入封しました。彼らは支配力を維持し、19 世紀後半までこの領地を統治し続けました。加藤家の統治下、武士、商人、職人たちが砦の周辺に定住したことで、この城下町は繁栄しました。森林に囲まれ、河川舟運に支えられた大洲は、木

材と蠟を中心とした強力な商業基盤を発展させました。

20 世紀初頭、肱川沿いの交易は最盛期を迎えます。しかし、交通手段が河川ルートではなくなるにつれ、地域での大洲の存在感は薄れていきました。人口は減少し、城やその他の歴史的建造物は廃墟と化し、町は荒廃の一途をたどりました。こうした変化にもかかわらず、大洲の町並みには歴史的な特徴が色濃く残っており、伝統的な建築工法による天守閣の復元をはじめとする継続的な復興の取り組みにより、今なおこの町の景観は守られています。

【タイトル】 大洲歴史探訪館/大洲の自然（肱川や富士山、霧など）

【想定媒体】 看板/Web

＜繁体字＞

大洲の豊富自然資源

大洲市坐落在四面環山の盆地中，其城市風貌深受地形景觀的影響，特別是貫穿市中心的肱川，與這座城市的特質密不可分。自 19 世紀末起，肱川便扮演主要貿易要道的角色，將木材及其他自然資源運往北岸的長濱，再經海路輸往日本其他地區。

大洲的行政範圍不僅涵蓋盆地，還延伸至瀨戶內海，多樣化的地貌孕育了豐富的自然資源，支撐起多元產業。茂密的森林出產木材，河流促成了和紙的生產，從漆樹科植物採收的果實則用於生產蠟。

這片自然環境也讓大洲成為休閒與觀光的絕佳去處。大洲盆地內有一座標高 320 公尺的「富士山」(Mt. Tomisu)山丘，山坡上點綴著精心栽培的杜鵑花田，登上山頂可將城市景致盡收眼底。在較涼爽的月份，晨霧常籠罩著低地。肱川至今仍是休閒活動的熱門地點，例如雙槳獨木舟與釣魚，還有傳統「鵜飼」（鷺鷥捕魚）活動。

＜日本語仮訳＞

大洲歴史探訪館/大洲の自然（肱川や富士山、霧など）

大洲市は、山々に完全に囲まれた盆地に位置しており、その景観がこの町の特徴を形作ってきました。特に、町の中心を流れる肱川は、大洲のアイデンティティと切っても切れない関係にあります。19 世紀後半から、この川は重要な交易の大動脈として、木材などの天然資源を北岸の長浜へと運びました。そこから、それら天然資源はこの地域と日本各地を結ぶ航路へと輸送されました。

大洲市境は盆地を越えて瀨戸内海にまで広がり、この町の多様な景観は豊かな天然資源を供給し、さまざまな産業を支えました。生い茂った森は木材を供給し、河川の水は和紙の生産を可能にし、収穫されたハゼの実を蠟を製造する原料となりました。

大洲の自然環境は、レクリエーションや景観を楽しむ機会も提供しています。大洲盆地には、標高 320 メートルの富士山がそびえ立っています。その斜面にはツツジ畑が点在し、山頂からは市街地が一望できます。涼しい季節には、低地に朝霧が立ち込めることもあります。肱川は今でも、カヤックや釣りといったレジャーアクティビティ、さらには伝統的な漁である鵜飼（鵜を使った漁）の中心的存在となっています。

【タイトル】 大洲歴史探訪館/明治～昭和の大洲城下町

【想定媒体】 看板/Web

<繁体字>

大洲の興盛與沒落

大洲在 19 世紀末至 20 世紀中葉前後進入鼎盛期。昔日城下町の街道熱鬧非凡，各種店鋪和工場林立，商人階層十分活躍。

此時期大洲有 30 多家工場和工廠，支援著製蠟和絲綢等產業的發展，並維繫逐漸壯大的中產階級。這裡展示的照片，留存了那段經濟和文化繁榮的記憶，許多當時的建築至今仍屹立於此，成為今日城鎮景觀的一部分。

隨著現代運輸不再仰賴河運，大洲作為貿易中心的地位日漸式微。人口不斷減少，部分歷史建築隨之荒廢。但如今，一系列振興工作正致力於守護這座城鎮的建築遺產。

鷺鷥捕魚

鷺鷥捕魚又稱鵜飼，西元 1957 年為了推廣當地旅遊業於肱川再度興起，其靈感源自江戶時代（西元 1603—1867）的文獻記載，當中描述了城主帶著鷺鷥沿河捕魚的場景。大洲鷺鷥捕魚與岐阜縣長良川和大分縣三隈川並列，合稱為日本三大鷺鷥捕魚傳統。

每年 6 月 1 日至 9 月 20 日的傍晚，都能欣賞鵜飼表演。受過訓練的海鷺鷥會下水捕魚，牠們脖子上繫著繩環，以免將捕到的魚吞下肚。漁夫們乘坐點燃篝火的漁舟，頭戴布帽以防飛濺的火星燒到頭髮，身穿草編蓑衣（腰蓑）以免操控鷺鷥時被水花濺濕身體。觀眾可以在附近的船隻上觀看鷺鷥入水、捕魚和返回漁船，漁獲會收集在竹籠中。

<日本語仮訳>

大洲歴史探訪館/明治～昭和の大洲城下町

大洲は 19 世紀後半から 20 世紀半ばにかけて最盛期を迎えました。旧城下町の通りは商店や工房、活気に満ちた商人層の人たちで賑わっていました。

この時期、大洲には 30 を超える工房や工場があり、蠟や絹の生産などの産業を支え、成長する中産

階級を支えていました。ここに展示されている当時の写真に、この経済的・文化的繁栄の記憶が残されています。また、当時の建築物が町並みの一部として今なお数多く存在しています。

近代の交通手段が河川ルートではなくなったことで、大洲の交易拠点としての役割は縮小していきました。人口は減少し、一部の歴史的建造物は使用されなくなりました。しかし今日では、再生への取り組みにより、この町の建築遺産が守られています。

鵜飼

鵜を使った漁、鵜飼は、1957 年に地元の観光振興の一環として、肱川で復活しました。これは、領主が鵜を連れて川釣りに行ったという江戸時代（1603～1867）の記録から着想を得たものです。大洲のうかいは、岐阜県長良川、大分県三隈川と並び、日本三大鵜飼に数えられています。

6 月 1 日から 9 月 20 日までの夕方には、訓練された海鵜を使って魚を捕る鵜飼の実演を見ることができます。海鵜の首には、獲物を飲み込まないようにロープで作られた輪が付けられています。漁師は松明を灯した船に乗り、松明からの火の粉から髪を守るために布帽子を被り、海鵜を操る際に水しぶきで濡れないように藁の腰蓑を巻いています。観客は、海鵜が川に放たれ、魚を捕まえ、船に戻って吐籠に集める様子を、近くの船から見守ります。

【タイトル】 大洲歴史探訪館/城下町再生のストーリー

【想定媒体】 看板/Web

<繁体字>

城下町の振興

在過去數十年間，大洲發生了巨大的變化。在 20 世紀中葉人口達到頂峰之後，這座城市經歷了人口減少、建築老化和產業萎縮的困境。因應上述狀況，當地居民和團體發起了一系列以社區為核心的振興計畫，致力於保護城市歷史風貌，並促進社區公共生活。

這些振興工作的重點是修復長期荒廢的建築，改造為商店、餐廳和住宿設施。修繕具有重要歷史意義的建築，不僅有助於保留昔日城下町的歷史風貌，還能將商業活動帶回市中心。其中一個關鍵項目，是西元 2004 年以傳統建造工法完成的大洲城天守閣重建工作。西元 2020 年推出了大洲城城泊體驗方案，在限定條件下為賓客提供夜宿城堡的機會。與此同時，天守閣則繼續作為歷史地標開放大眾參觀。此舉讓人們重新開始關注大洲市。

隨後，這些振興工作在日本國內外都獲得肯定。西元 2023 年，大洲在柏林的「綠色旅遊目的地故事獎」中榮獲文化和遺產類別的第一名，這是肯定大洲振興工作的多項殊榮之一。如今，大洲市每年接待超過 70,000 名遊客。

<日本語仮訳>

大洲歴史探訪館/城下町再生のストーリー

大洲は、この数十年間で大きな変化を遂げていきました。20 世紀半ばに人口がピークに達してからは、人口減少、建物の老朽化、経済産業の縮小などを経験しました。これを受けて、住民や地域団体は、歴史的な町並みを保存し、市民生活を強化することを目的とした、地域密着型の一連の再生プロジェクトを開始したのです。

こうした取り組みでは、長く放置されていた建造物を修繕し、店舗やレストラン、宿泊施設として再利用することに重点が置かれました。歴史上重要な建造物を修繕することで、かつての城下町の歴史的価値を維持しながら、町の中心部に商業活動の賑わいを取り戻すことができました。その中の重要なプロジェクトが大洲城天守閣の再建で、伝統的な建築工法を用いて 2004 年に完了しました。そして 2020 年、「大洲城キャッスルステイ」として知られる取り組みが開始され、天守閣は一般公開される記念碑としての機能を保ちつつ、期間・人数限定で宿泊できるようになりました。この取り組みは、大洲への新たな関心の高まりに貢献しています。

こうした復興への努力は、その後、国内外から認められるようになりました。2023 年には、町の再生に向けた取り組みを認定する賞の一つである、ベルリンで開催された「グリーン・デスティネーションズ・ストーリー・アワード」の「文化・伝統保全」部門で、大洲市は世界 1 位を獲得しました。この町は現在、年間 7 万人を超える観光客を迎え入れています。

【タイトル】 大洲城/木造復元のストーリー

【想定媒体】 Web

<繁体字>**大洲城的修復**

14 世紀初以來，大洲城便一直矗立在俯瞰肱川的山丘上。然而，到了 19 世紀末，這座城堡已陷入嚴重失修。天守閣於西元 1888 年遭到拆除，此後一百多年間，城內僅存石造地基和幾座角樓建築。西元 2002 年至 2004 年，天守閣在當地社區的努力下修復，此後成為大洲市復興與重生的象徵。

1990 年代後期推動的市民運動，促成以傳統工法來重建天守閣。整個規劃與準備工作歷時超過七年，期間參考了歷史地圖、19 世紀的照片，以及曾經與城堡有淵源的家族所保存的木造模型。此外，還聘請了擅長建造神社和寺廟的專業木匠，力求盡可能精確還原建築結構。這項工程耗資 13 億日圓，部分經費來自社區捐款。

工程於西元 2002 年動工，使用了在地出產的木材、手工鍛造的鐵釘、傳統灰泥工藝和燒製陶瓦。天守閣共有四層，於西元 2004 年完工，正值大洲市由多個市町村合併建市的 50 週年。這座天守閣還是日本首座按照四層四階結構重建的木造天守閣，規模位居全國前列。

<日本語仮訳>**大洲城/木造復元のストーリー**

大洲城は 14 世紀初頭から、肱川を見下ろす丘の上に建っています。しかし、19 世紀後半には深刻な荒廃に陥っていました。天守閣は 1888 年に取り壊され、1 世紀以上にわたり、石造りの土台と現存する数棟の櫓だけが残されました。2002 年から 2004 年にかけて、天守閣は地域住民によって修復され、以来、この町の復興と再生の象徴的存在となっています。

1990 年代後半に始まった市民運動により、伝統的な工法で天守閣を再建することが決定されました。歴史的な地図、19 世紀の写真、そしてかつて城にゆかりのあった一族が保存していた木製の模型を参考に、7 年以上をかけて構想と準備が進められました。神社仏閣の建築を専門とする宮大工が招かれ、その構造を可能な限り忠実に再現しました。このプロジェクトの総工費は 13 億円で、資金の一部は地域住民の寄付によるものでした。

建設作業は2002年に開始され、地元で調達した木材、手打ちで鍛造した鉄釘、伝統的な漆喰細工、焼成した粘土の屋根瓦が使用されました。2004年、4階建ての天守閣が完成し、時を同じくして、現在の大洲市が誕生した自治体合併50周年を迎えました。四層四階建ての木造天守の復元は日本初であり、日本最大級の大きさを誇ります。

【タイトル】 大洲城/日本の城郭の仕組み

【想定媒体】 Web

<繁体字>**日本城堡的結構**

日本城堡既是軍事要塞，也是行政中心，其設計目的在於展現統治者權威，同時掌握有利的防禦位置。城堡的建築佈局嚴謹有條理，多個曲輪（丸）以城堡為中心，呈同心圓狀層層向外擴展。

正中央是主曲輪（本丸），當中矗立著數層樓高的大型塔樓——天守閣。天守閣不僅是抵禦攻擊時的最後堡壘，也象徵著統治者的權威。環繞本丸的是第二曲輪（二之丸），這裡設有家臣的居所和重要的行政建築。再往外是第三曲輪（三之丸），通常用來設置糧倉和工坊，以及下級武士的活動空間。

城堡採用層層疊加防禦設計，結構相當複雜。曲輪外環繞著護城河，部分城堡甚至設有多道水壕或乾壕溝，用於拖慢敵人的進攻速度。向內傾斜的彎曲石牆（稱為「武者返」，意為「令武者退卻」）不僅能防止敵人攀爬，還能吸收攻城武器的衝擊力。設在銳角轉折處的狹窄城門，可將敵人暴露在側翼火力射程內。城牆上的櫓兼具瞭望台、軍械庫以及弓箭手和火槍手據點的多重用途。

這種佈局不僅構建了嚴密的防禦屏障，也體現了等級制度：越接近本丸的居住者地位越高。由此可見，城堡建築融合了軍事智慧、政治象徵和社會秩序。

<日本語仮訳>**大洲城/日本の城郭の仕組み**

日本の城は要塞であると同時に行政の中心地でもあり、防御陣地を指揮しながら権力を誇示できるように設計されました。その構造は、城の中心を囲むように同心円状に配置された「丸」（曲輪）と呼ばれる、極めて整然とした様式に沿ったものでした。

中央に一の曲輪（本丸）があり、その中に数階建ての巨大な塔である天守閣がありました。この天守閣は攻撃に備えた最後の砦の役割を果たし、支配者である領主の権威を象徴していました。本丸

を囲むように二の曲輪（二の丸）があり、家臣の屋敷や重要な管理棟が建てられました。さらにその外にあるのが三の曲輪（三の丸）で、多くの場合、穀物庫や作業場、下級武士のスペースなどがありました。

防御設備は、重層的かつ複雑な構造をしていました。堀は曲輪を囲んでおり、一部の城では、攻撃者を足止めするために、何重もの環状の水堀や空堀が掘られました。内側に傾いた曲線の石垣（「武者返し」）は、攻撃者の登攀を防ぎ、攻城兵器の衝撃を吸収しました。狭い門は鋭角に配置されており、敵は側面からの攻撃にさらされました。城壁沿いには櫓が建ち並び、見張り台、武器庫、弓兵や鉄砲兵の拠点となっていました。

こうした配置は、手強い防御を作り出しただけでなく、階層も反映していました。本丸に近いほど、そこに住む者の地位は高くなっていました。このように、城郭建築は軍事的計略、政治的象徴、社会的秩序を体現していたのです。

【タイトル】 大洲城/キャッスルスティなどの取組み

【想定媒体】 Web

<繁体字>

大洲城城泊體驗

大洲城城泊體驗是一項尊榮的住宿方案，讓賓客在重建的天守閣內，代入大洲城城主或城主夫人的身分過夜。這項計畫於西元 2020 年啟動，目的是希望加深大眾對大洲市歷史的了解，並分享其文化遺產。

在這項沉浸式體驗中，「家臣」會身穿符合當時時代背景的鎧甲，在預先安排的接送點（例如松山機場）迎接賓客。隨後，賓客將被載往城堡，在那裡換上傳統服飾，並參加按歷史記載重現的歡迎儀式，包括太鼓表演、吹奏法螺貝和鳴放火繩槍。

在這項體驗中，賓客可以獨享重建的天守閣空間、還有坐擁大洲城景觀的休息室和浴室，現代化的設施以確保入住舒適。夜晚的娛樂活動包括傳統神道教舞蹈神樂，隨後供應包含多道料理的懷石料理晚餐。晚宴菜單靈感源自地方誌《大洲秘錄》中所記載的江戶時代菜單，採用在地當季食材製作，並盛放在砥部燒陶器中。賓客還可以使用城內的私人浴場，在夜晚眺望點燈的天守閣。翌日早餐則安排在被《米其林綠色指南》日本版中評為一星的 20 世紀初庭園別墅「臥龍山莊」享用，可以俯瞰肱川美景。

賓客還可以選擇參加例如茶道、城下町導覽散步，以及肱川遊船之旅等體驗文化的活動。大洲城城泊體驗每晚僅接待一組賓客，人數最多 6 人，每年開放 30 次。

<日本語仮訳>

大洲城/キャッスルスティなどの取組み

「大洲城キャッスルスティ」は、ゲストが復元された天守閣内で大洲城の城主や城主夫人になりきって一夜を過ごすことができる、他に類を見ない特別な宿泊体験です。同プログラムは、大洲市の歴史への理解を深め、その遺産を共有してもらうことを目的に、2020 年に開始されました。

この没入型体験は、松山空港など事前に手配した出迎え場所で、その当時さながらの甲冑を身にまとった「家臣」がゲストを迎えるところから始まります。その後、ゲストは城まで車で移動し、用意された伝

統的な衣装に着替えてから、歴史上の記録の記述に基づいた儀式によって歓迎を受けます。儀式では、太鼓の演奏、法螺貝の響き渡る合奏、火縄銃の祝砲などが催されます。

この体験では、再建された天守閣や大洲城を目前に眺めるラウンジや浴場を専用で利用することができます。快適な滞在を約束する最新設備が整っています。ゲストは、伝統的な神道の歌舞である神楽などの夜の余興を楽しんだ後、地誌『大洲秘録』に記された江戸時代の献立構成を踏まえ、地元の旬の食材を用い、砥部焼の器で提供される複数コースの会席料理の夕食を堪能します。また、城内にある貸切浴場も利用でき、夜にはライトアップされた天守閣を眺めることができます。朝食は、川上にある、ミシュラン・グリーンガイドジャポンで一つ星に選定されている「臥龍山荘」でいただきます。ここは 20 世紀初頭の庭園別荘で、肱川を見下ろす場所にあります。

オプションで、茶道などの文化プログラム、城下町のガイド付き散策、肱川舟下りなどのアクティビティが用意されています。大洲城キャッスルスティは、1 泊 1 組 6 名様まで、年に 30 回限定で実施されています。

【タイトル】 大洲城/天守閣

【想定媒体】 Web

<繁体字>**大洲城天守閣**

大洲城の主天守閣在重建時，參考了天守閣的建築模型，以及明治時代（西元 1868－1912）拍攝的照片，力求還原江戶時代後期（西元 1853－1867）的原貌。許多在二戰後重建的城堡採用混凝土建造，但這座天守閣以木材重建而成，並採用了與原建築同時期的工法和材料。其高度為 19.15 公尺，是日本最高的重建木造天守閣。

重建計畫始於 1990 年代，涉及超過七年以上的研究，包括考證歷史文獻和古地圖，以及分析 19 世紀的照片、保存下來的構造材料，和江戶時代（西元 1603－1867）留存的木造比例模型。因為有豐富的史料留存下來，讓重建工作達到超乎尋常的精確度。來自全國各地的專家和工匠齊聚一堂，運用傳統技法重現了建築的樑卯結構、多層灰泥牆面、手工瓦片和鐵件。

重建工程選用了當地檜木及其他木材，並經過精心挑選與乾燥處理，以符合當時的標準，其中許多支柱由社區團體捐贈。主柱略微偏離中心，據信這種設計有助於抵禦強烈的北風。另一個獨特之處是一樓與二樓之間設有兩層樓高的挑空中央空間，在其他城堡中幾乎不見此類設計。此空間的用途至今仍無定論，有推測指可能是為了展示主柱或增加儲物空間。

<日本語仮訳>**大洲城/天守閣**

大洲城の天守閣は、天守の建築模型や明治時代（1868～1912）に撮影された写真を参考にして再建され、江戸時代後期（1853～1867）の姿に復元されました。戦後に復元された城の多くはコンクリート製でしたが、この建物は、当初の天守閣と同時代の技術や資材を用いて木造で再建されました。高さは 19.15 メートルで、木造再建城郭としては日本でも有数の高さを誇ります。

復元計画は 1990 年代に始まり、7 年以上にわたり、歴史上の記録や古地図の調査に加え、19 世紀の写真、保存されている構造資料、江戸時代（1603～1867）から保存されている木製模型などを調査しました。現存する資料が多いことから、類を見ない精密さでの復元が実現しました。全国

から専門家や職人が集まり、伝統的な手法を用いて、建造物の建具や何層にも重ねた漆喰、手製の瓦、鉄製建具などを再現していきました。

地元大洲産のヒノキをはじめとする木材は、当時の基準に合うように慎重に厳選され、乾燥処理されました。支柱の多くは地域団体から寄贈されたものです。主柱はやや中心からずれた位置にあり、これは強い北風に対する耐久性を高める設計要素だと考えられています。もうひとつの特徴は、1 階から 2 階にかけて 2 階分の吹き抜け構造になっていることで、他の城には見られない、高さのある中央の空間を作り出しています。この構造の理由は今なお不明ですが、主柱を目立たせるため、あるいは収納スペースを増やすためだったとする説があります。

【タイトル】 大洲城/台所櫓

【想定媒体】 Web

<繁体字>**台所櫓**

台所櫓は城主と家臣が食事の準備をする場所、天守閣の隣にあり、天守閣以外最大の建物で、城内で実用と象徴的な役割を果たしていました。

構造上は伝統的な厨房空間によく見られる土間、換気用の格子窓、壁には銃器用の四角い開口部があり、家事と防衛機能を兼ね備えた構造になっています。天守閣に隣接しているため、肱川を挟んで対岸から見ると城がより大きく映し出され、城郭の威容を高めていました。この建物は1857年の地震で甚大な被害を受け、1859年に再建されました。その後、約1世紀間放置され、1970年に再び修復されました。大洲城の現存する4つの櫓の1つで、重要文化財に指定されています。

<日本語仮訳>**大洲城/台所櫓**

台所櫓は、城主や家臣たちの食事を準備する場所でした。天守閣の隣に位置し、天守閣に次ぐ大きな建物で、城郭内で実用的かつ象徴的な役割を果たしていました。

伝統的な厨房空間によく見られる土間、換気用の格子窓、壁には銃器用の四角い開口部があり、家事と防衛機能を兼ね備えた構造になっています。天守閣に隣接しているため、肱川を挟んで対岸から見ると城がより大きく映し出され、城郭の威容を高めていました。この建物は1857年の地震で甚大な被害を受け、1859年に再建されました。その後、約1世紀間放置され、1970年に再び修復されました。大洲城の現存する4つの櫓の1つで、重要文化財に指定されています。

【タイトル】 大洲城/高欄櫓

【想定媒体】 Web

<繁体字>**高欄櫓**

高欄櫓位於城郭西側，最鮮明的特徵在於二樓的廊台設有護欄，可俯瞰城內景象。此種護欄結構常見於天守閣，在櫓上則並不常見。高欄櫓也具備防禦功能，牆體設有用於向下投擲石頭的開孔，可攻擊試圖攀爬城牆的敵人。

這座建築在西元 1857 年的地震中嚴重損毀，於西元 1860 年重建。現在的天花板仍能看到當時重建時所用的木材。當時選用了粗大的松木原木，因為這種木材富含樹脂，有更佳的柔韌性和抗震性。到了 20 世紀，更進一步使用從台灣進口的結實檜木樑加固。高欄櫓是大洲城現存四座原始櫓建築之一，目前已被指定為重要文化財產。

<日本語仮訳>**大洲城/高欄櫓**

城郭の西側にある高欄櫓の最も際立った特徴は、高欄のある 2 階の縁側で、ここから城の敷地を見下ろすことができます。高欄櫓は天守閣によく見られるため、櫓に欄干が設置されているのは珍しいことです。また、この櫓には防御機能も組み込まれており、下の城壁を登ろうとする敵に向けて石を落とすための開口部もあります。

この建造物は 1857 年の地震で甚大な被害を受け、1860 年に再建されました。その再建時の木材が天井に残っているのを目にすることができます。太い松の丸太が使用されたのは、樹脂を多く含むその組成により、柔軟性と耐震性が向上するためです。20 世紀には台湾から輸入した頑丈なヒノキの梁で、さらに補強されました。高欄櫓は大洲城に現存する 4 つの櫓の 1 つで、重要文化財に指定されています。

【タイトル】 大洲城/その他櫓

【想定媒体】 Web

<繁体字>**其他櫓建築**

大洲城在鼎盛時期的規模遠大於今日，腹地也遠超現今的範圍。從兩座現存櫓建築的位置，可見大洲城原有的規模，一座是舊時外護城河沿岸的三之丸南隅櫓，另一座則是肱川岸邊的芋綿櫓。三之丸南隅櫓與芋綿櫓為大洲城現存四座原始櫓建築當中的兩座，均被指定為重要文化財產。

三之丸南隅櫓位於原城郭南緣，距離天守閣約 300 公尺，其最初的建造時間已不可考，但於西元 1766 年重建，是大洲城現存最古老的建築。設置的防禦設施包括用於投擲石頭攻擊敵人的開孔，以及隱藏在灰泥牆後的射擊孔。

芋綿櫓位於肱川近岸，坐落在天守閣東南方約 150 公尺，據信建於 17 世紀，之後於西元 1843 年重建。該建築在西元 1959 年經過拆除並修復，當時為了抵禦洪水侵襲，將石牆加高了約 2.6 公尺。

<日本語仮訳>**大洲城/その他櫓**

最盛期の大洲城は、現在よりもはるかに広大な城郭を擁し、その敷地は現在の配置を大きく上回るものでした。当時の規模は、2 つの現存する櫓の位置から明らかです。旧外堀沿いに位置する三の丸南隅櫓と、肱川の堤防に位置する芋綿櫓です。これらは大洲城に当初から現存する 4 棟の櫓のうちの 2 つで、重要文化財に指定されています。

三の丸南隅櫓は、天守閣から 300 メートルほど離れた、旧城敷地の南端に建っています。創建年代は不明ですが、1766 年に再建されたもので、大洲城に現存する最古の建造物です。防御機能としては、敵に向けて石を落とすための開口部や、漆喰の後ろに隠された射撃口などが設けられています。

芋綿櫓は、肱川の堤防近くに位置し、天守閣から南東に 150 メートルほど離れています。17 世紀に創建されたと考えられており、1843 年に再建されました。この建造物は 1959 年に解体修理され、その際、洪水による被害を防ぐために石垣が約 2.6 メートルかさ上げされていました。

【タイトル】 大洲城/暗がり門

【想定媒体】 Web

<繁体字>

大洲城的其他防禦工事：暗門、彎曲城牆和水井

大洲城的建築中設有多種用於保護內城的設施。

在天守閣附近通往內庭的斜坡頂端，研究人員發現一處疑似暗門的設施遺跡。這道門是最後的防禦關卡，也是城內最大的門。通道上設有急轉彎，上方原有一座類似走廊的櫓，形成昏暗且封閉的空間。這種佈局是為了拖慢敵人的進攻速度並擾亂其行進方向。這樣一來，在庭院周圍的櫓建築內防守的士兵就更容易用火槍和弓箭攻擊。

城堡的主曲輪位於階梯狀山丘上，部分區域由向內傾斜的彎曲石牆所包覆，這種結構由石塊精心堆砌而成，稱為「武者返」（意為「令武者退卻」）。在主要的護牆上，仍能看到地震後修復的痕跡。

在下層曲輪、天守閣西側有一口大型石砌水井。在遭遇圍城戰時，城內擁有內部水源是一大關鍵。這口水井直徑約 3.8 公尺，是日本國內最大的城堡水井之一。

<日本語仮訳>

大洲城/暗がり門

大洲城の建造物には、城郭内を守るために設計された、様々な種類の施設が備わっています。

天守閣の近く、中庭に続く坂の頂上で、研究者たちは「暗り門」と思われる遺構を発見しました。これが最終の防御門で、城の敷地内で最大の門でした。入口は、廊下のような櫓に覆われた急曲線があり、暗く閉ざされた空間を作り出していました。この配置は、敵の侵入を遅らせ、方向感覚を失わせ、中庭を囲む櫓に配置された守備隊からの銃撃や弓矢の攻撃を受けやすくするよう設計されました。

城の主郭は段々になった丘の上にあり、その一部は「武者返し」と呼ばれる内側に傾いた曲線の石垣で覆われています。この壁は石を丁寧に積み上げて造られています。主要な擁壁には、地震後に補修された跡が見られます。

曲輪の下層、天守閣の西側には、石積みの大きな井戸があります。城内での水源の利用は、攻城戦に耐えるために不可欠でした。この井戸は直径約 3.8 メートル、国内最大級の城郭の井戸です。

【タイトル】 臥龍山莊/日本庭園とは

【想定媒体】 Web/その他

<繁体字>

什麼是日式庭園？

傳統日式庭園的設計宗旨並非忠實複製自然景致，而是捕捉自然的神韻，其重要特徵在於將建築空間與周圍景致融為一體。庭園透過微妙細節與自然元素的平衡，引發觀者的省思。

「借景」是日式庭園造景的重要概念，具體做法是引入河流、山脈和天空等背景元素，藉此拓展空間感，使庭園融入更廣闊的自然環境。石頭具有界定空間佈局的作用，既可構成依循地形自然起伏的石牆和踏腳石步道，也能製造視覺焦點。在別墅入口附近有棵從擋土牆長出的樹木，正是地形與建築交融的例子。

選擇植物時講究季節感與和諧感。臥龍山莊內種植了日本金松、朴樹和樟樹。大面積的苔蘚增添了低調的層次質感，讓整個庭園看起來更加協調統一。這些元素共同構築一處兼具美感與靜思的空間，人們可以在這裡感知時間流轉，體會自然的深層秩序。

為了將庭園留存給後代，來訪時請配合沿著石徑行走，共同守護脆弱且容易受損的苔蘚。

<日本語仮訳>

臥龍山莊/日本庭園とは

伝統的な日本庭園は、自然を忠実に再現するというよりは、その本質を捉えるように設計されています。建築空間と周囲の景観との融合は重要な特徴となっています。精緻な細部と自然要素の入念なバランスによって、訪れる人々の内省を促します。

日本庭園の構成において重要なコンセプトとなっているのが借景で、川や山、空といった背景要素を取り入れています。これにより、空間感覚が広がり、より広大な自然環境の中に庭園を位置づけることができるのです。石は空間構造を定義し、地形の自然な輪郭に沿った壁や飛び石の通路を形成すると同時に、注目点も作り出します。こうした地形と建築の相互作用の一例は、別荘の入口近くの擁壁から成長を続けている木々に見ることができます。

植栽は季節感と調和に重きを置いて選出されます。臥龍山莊には、コウヤマキ、エノキ、クスノキなどが

あります。苔が一面に生い茂ることで、控えめで陰影のある外観が生じ、庭園に統一感を生み出しています。こうした要素が相まって、移りゆく時間のリズムや自然の深い秩序を感じ取れる、美的景観と瞑想の場が創出されています。

この庭園を未来の世代に向けて残していくために、来園者は石畳の小道から踏み出さず、繊細で傷みやすい苔の保護に協力するよう求められています。

【タイトル】 臥龍山莊/建築当初の時代背景

【想定媒体】 Web/その他

<繁体字>

臥龍山莊の起源

臥龍山莊建於 20 世紀初，由大洲出身的富裕蠟商河內寅次郎（西元 1853—1909）所建。他從位於神戸的商業總部發送詳細指示，交代建材選用和設計細節，耗時約十年打造這座別墅及庭園。

河內著手進行這項計畫時，正值日本快速近代化時期，當時江戶時代（西元 1603—1867）以來根深蒂固的文化傳統似乎正逐漸消逝。河內本人研習茶道，鍾情於能樂和江戶時代的建築，希望透過臥龍山莊體現並保留這些傳統。

山莊處處的精心設計展現了河內的理念。建築採用與茶文化相關的數寄屋造風格，其中以茶室不老庵最具代表性。主樓臥龍院內的一間房間設計更見巧思，掀開榻榻米後便呈現能樂表演舞台。

別墅的所在地名為臥龍，與河中的小島「蓬萊山」形狀貌似臥龍有關。主樓臥龍院、附樓文庫和茶室不老庵均被指定為重要文化財產。臥龍山莊在《米其林綠色指南》日本版中獲得一星評價，其庭園亦獲指定為日本國家指定名勝。

<日本語仮訳>

臥龍山莊/建築当初の時代背景

臥龍山莊は 20 世紀初頭、大洲出身の裕福な蠟商人であった河内寅次郎（1853～1909）によって築造されました。彼は神戸にある彼の事業本部から、資材や設計の特徴を詳細に指示しながら、およそ 10 年かけて山莊とその庭園を築き上げました。

河内がこのプロジェクトに取り組んだのは、日本の近代化が急速に進み、江戸時代（1603～1867）から長く続いてきた文化的慣習が色あせつつあると思われる時期でした。茶道を実践し、能楽、江戸時代の建築を愛好していた彼は、臥龍山莊にこれらの伝統を体現し、保存することを企図していました。

敷地全体を通して入念に選定された設計は、河内の理想を反映しています。建物は茶文化に関連する数寄屋造りの様式で建てられており、茶室の不老庵はその代表例です。本邸である臥龍院の一室は、畳を外すと能舞台が現れるように造られています。

この別荘の所在地は臥龍（「臥せる龍」）と呼ばれ、その名は川に浮かぶ小島である蓬莱山の形状と結びついています。本邸の臥龍院、別邸の文庫、茶室の不老庵は重要文化財に指定されています。また、臥龍山荘はミシュラン・グリーンガイド・ジャポンにおいて一つ星を獲得、庭園は国指定名勝に指定されています。

【タイトル】 臥龍山荘/臥龍院

【想定媒体】 Web/その他

<繁体字>**臥龍院**

臥龍院於西元 1905 年建成，採用與江戸時代（西元 1603－1867）茶文化相關的數寄屋造建築風格。其建造者河内寅次郎（西元 1853－1909）是大洲出身的富裕蠟商。他召集了一群技藝精湛的工匠來實現自己的構想，即建造一處體現江戸時代美學與傳統的隱居之所。臥龍院的茅草屋頂靈感源自京都桂離宮等知名建築的設計元素。

臥龍院的主要特色包括傳統茅草屋頂、廊台（日文為縁側，即榻榻米房間外圍帶有屋簷的走廊）和室內陳設，這些設計均遵循江戸時代的美學和文化理念。廊台以其特別寬闊，且全無垂直立柱分隔的特徵，而格外引人注目。隱藏在屋架內的樑木支撐著屋簷的重量，因此從室內向外望時，視線不會受到遮擋。

仔細觀察廊台，會發現做工十分講究。鐵杉木地板的末端經過精心切割與拼接，確保原始粗糙的端紋不外露。接合處有一片薄板覆蓋在另一塊木板的端部，保護內部木材不受風雨侵蝕。這種精湛的工藝，在建築的各處細節中均有體現。

<日本語仮訳>**臥龍山荘/臥龍院**

1905 年に完成した臥龍院は、江戸時代（1603～1867）の茶文化に関連する数寄屋造りの建築様式で築造されました。大洲の裕福な蠟商人であった河内寅次郎（1853～1909）は、江戸時代の美意識と伝統を体現した隠れ家という構想を実現するために、名工たちを集結させました。茅葺き屋根の構造には、京都の桂離宮などの名建築から着想を得た設計要素が取り入れられています。

その主な特徴は、伝統的な藁葺き屋根、縁側（畳部屋を囲む屋根付きのベランダ）や調度品を含み、江戸時代の美意識と文化的理想を受け継いでいます。縁側は、眺望を遮らないように垂直の支柱を設けず、幅が広く設計されている点で、特に注目に値するものです。屋根トラスに隠された梁が軒の重量を支え、内部から遮ることのない景観を実現しています。

縁側をよく観察すると、細部まで行き届いた職人技が見てとれます。米母の床板は、木材端部の木

目が露出しないように、慎重に切断され接合されています。その接合部分は、片方の木板の薄い部分がもう片方の端部と重なり合い、内側の木材を風雨から守っています。こうした職人技が、建物全体の細部にまで表現されているのです。

【タイトル】 臥龍山莊/清吹の間

【想定媒体】 Web/その他

＜繁体字＞

清吹之間

這個房間融入多種建築元素來營造水的意象和清涼感，目的在於消解夏季的炎熱。清吹之間原意為「夏日微風吹拂之室」。房間朝北而建，以引入較為涼爽的北風，其天花板也高於臥龍院的其他房間。

四面牆均飾有四季水景主題的雕刻圖案。神棚下方的裝飾性欄間刻有櫻花和木筏圖案，讓人聯想到春季和昔日沿著肱川漂流而下的木材。光線穿過雕花輪廓，將圖案投射到前方的障子上。

對面的牆上有一扇六角窗，造型宛如象徵冬季的雪花。北側的欄間刻有象徵夏季的水波圖案，而與壹是之間相鄰的欄間則飾有菊花浮於水面的圖案，令人聯想到秋季。

＜日本語仮訳＞

臥龍山莊/清吹の間

この部屋には、水と涼を連想させる建築的特徴が取り入れられており、夏の暑さを和らげることを想定して設計されています。清吹の間は「夏のそよ風の部屋」を意味します。涼しい北風を受けるため北向きで、臥龍院の他の部屋よりも天井が高くなっています。

四方のすべての壁には、季節ごとの水にちなんだ彫刻が施されています。神棚の下飾り欄間には、桜の花と丸太の筏が彫刻され、春の季節と当時肱川を流れ下っていた木材を連想させます。彫刻の輪郭から光が差し込み、正面の障子にその情景が映し出されます。

反対側の壁の窓は、雪の結晶に似せた六角形で、冬を表現しています。北側の欄間には夏を象徴する水紋が彫刻され、壹是の間とを仕切る欄間には水面に浮かぶ野菊が描かれ、その描写は秋を連想させます。

【タイトル】 臥龍山莊/壺是の間

【想定媒体】 Web/その他

＜繁体字＞

壹是之間

壹是之間，即「會客室」，是接待賓客的主要場所，從室內可以欣賞庭園風光和遠處的河景。房間內設有圓窗、格天井和裝飾著掛軸的大型和式壁龕。

室內的木工工藝展現了臥龍山莊木匠的精湛技藝。天花板與襖（和式橫拉門）均採用了春日杉板，床之間的杉柱經過切割與刨削，展現四面筆直、均勻的木紋。橫拉門上方的裝飾性欄間刻有菊花和鳳凰圖案。

這個房間的獨特之處在於掀開榻榻米後便呈現能樂表演舞台。地板下放置了 12 個備前燒壺，用於增強聲效。

＜日本語仮訳＞

臥龍山莊/壺是の間

壺是の間（「応接室」）は客人を迎える主室で、庭園とその向こうの川の景色を一望できる造りとなっています。丸窓、格天井板、そして掛軸のある広い床の間を特徴としています。

室内の木工細工には、臥龍山莊の名工の技が反映されています。天井板や襖には春日杉の板が使用され、床の間の杉柱は、四方すべてに均等な木目がまっすぐ現れるように切断され、鉋がかけられています。障子の上の飾り欄間には野菊と鳳凰の透かし彫りが施されています。

この部屋の特徴は、畳を外して能楽の舞台として使用できることです。また、床下には備前焼の壺が 12 個置かれ、音響効果を高めています。

【タイトル】 臥龍山莊/霞月の間

【想定媒体】 Web/その他

<繁体字>

霞月之間

霞月之間意為「月色朦朧之室」，其設計靈感源自黃昏和夜色主題。室內牆壁呈現深淺不一的灰色，空間內融入了多種巧妙的視覺巧思，吸引訪客細細觀察，增添遊賞之趣。

和式壁龕裝飾著描繪富士山的掛軸，掛軸前設有多層錯落的置物架，宛如輕掩富士山的雲霧。掛軸旁有一個圓形開口，表面覆有木格。從不同角度觀看時，木格後方玻璃上的陰影會隨之變化，如同漸圓或漸缺的月亮。從正面看，則宛如一輪滿月。

黃昏主題貫穿整個空間。橫拉櫃門上貼著灰色調紙，金屬指孔拉手鑄成蝙蝠造型。小橫拉門、置物架和木雕中融入了葫蘆圖案；葫蘆的花會在夜間綻放。室內共有六個葫蘆圖案。

北牆的部分牆面刻意保持未完成的狀態，以體現侘寂之美，呈現無常與殘缺之美。天花板以手工和紙裱糊，在幽暗的光線下更顯柔和。面向肱川の格子窗經過精心設計，讓人聯想到從河上的漁船投下的漁網。

<日本語仮訳>

臥龍山莊/霞月の間

「霞月の間」は「おぼろ月の部屋」を意味し、夕暮れや夜というテーマに着想を得て設計されています。壁は濃淡のある鼠色で塗装され、その空間には、様々なさりげない視覚的な仕掛けが取り入れられており、訪問客の目を惹きつけて愉しませています。

床の間の掛け軸には富士山が描かれており、その前に違い棚が置かれ、富士山を部分的に隠している霞に似せて作られています。掛け軸の横には木製の格子で覆われた丸窓があります。見る角度を変えると、背後のガラスに映る影が、満ち欠けする月のように変化します。真正面から見ると、まるで満月のようにです。

夕暮れの演出は、この空間全体に満ちています。押入れの襖は鼠色を基調とした襖紙で仕上げられ、コウモリの細工が施された金属製の引手が付いています。小さな引き戸や棚、木彫り細工には、夜に

なると花を咲かせる瓢箪の透かし彫りが見られます。瓢箪は全部で 6 つあります。

北側の壁は、侘び寂びの美学を反映させるために、漆喰の一部が意図的に塗り残されており、はかなさや不完全さの中に存在する美を表現しています。天井は手漉きの和紙で仕上げられ、薄暗い光の中に柔らかな要素を添えています。肱川に面した格子窓は、水上の船から投げられた漁網を思わせるよう設計されています。

【タイトル】 臥龍山莊/知止庵

【想定媒体】 Web/その他

<繁体字>

知止庵

這座小型建築原本是作為浴場而建，西元 1949 年經過翻修改造為茶室，反映了茶文化在臥龍山莊設計中的重要性。遊客無法進入知止庵，但可以從外觀賞內部空間。

匾額上的「知止」二字出自大洲藩第十代藩主加藤泰濟（西元 1787－1826）之手。「知止」引用自儒家教誨，意指具備「懂得適可而止、行事有度」的智慧。

護牆板上貼有取自《茶方日記》的古老紙張，《茶方日記》是大洲藩第三代藩主加藤泰恒（西元 1674－1715）所著的茶會日記。

<日本語仮訳>

臥龍山莊/知止庵

この小さな建物はもともと浴室として建てられました。1949 年に改装され茶室となり、臥龍山莊の設計における茶文化の重要性を反映しています。訪問客は知止庵に入ることはできませんが、中の様子を見ることができます。

額装された「知止」の書は、大洲藩第 10 代藩主、加藤泰濟（1787～1826）の作品です。「知止」は物事の止め時や、ほどよく行うという知恵を持つという儒教の教えを表しています。

壁の羽目板には、大洲藩第 3 代藩主、加藤泰恒（1674～1715）が記した茶会の日記である『茶方日記』の古紙が貼られています。

【タイトル】 臥龍山莊/不老庵

【想定媒体】 Web/その他

<繁体字>**不老庵**

茶室不老庵建於西元 1901 年，是臥龍山莊第一座落成的建築。這間茶室被譽為建築傑作，隈研吾和伊東豊雄等當代建築師，以及藝術家們都對其進行了研究。

與京都的清水寺類似，不老庵是一座依崖而建的懸造建築，由數根約 7 公尺高的柱子支撐，其中一根支柱是一棵活的樹。這座建築懸於崖頂之上，設計意在營造小船浮於肱川水面的意境。

室內天花板由竹子編織而成，形如船底。其弧形表面同時也是天然的投影幕：陽光和月光經河面反射到竹編天花板上，粼粼閃爍，柔和地照亮整個房間。

<日本語仮訳>**臥龍山莊/不老庵**

茶室である不老庵は 1901 年に臥龍山莊で最初に建てられた建物です。建築の傑作と評され、隈研吾や伊東豊雄といった現代の建築家や芸術家たちによって研究されてきました。

京都の清水寺と同様、崖の上に位置し、高さ 7 メートルほどの柱で支えられた懸り造りの建築様式です。そのうちの 1 本は、実際に生きた木を使用しています。崖の上に張り出したこの建造物は、肱川に浮かぶ船を想起させるようデザインされています。

室内の天井は竹で編まれており、船底のような形をしています。天井の曲面は、自然の映写幕にもなっており、日光や月明かりが川面に反射して竹の天井に揺らめき、室内を優しく照らします。

【タイトル】 臥龍山莊/庭園

【想定媒体】 Web/その他

<繁体字>**臥龍山莊庭園**

臥龍山莊庭園體現了傳統日本設計美學，將自然之美與精心設計的細節巧妙融合，與周圍的景觀和諧相映。庭園充分利用肱川沿岸的景觀優勢，不僅借此延伸了空間感，還將鄉野風光融入構圖之中。

踏腳石步道順應地形的自然起伏鋪設，串聯起一系列觀景點，並刻意運用借景手法，將河中小島「蓬萊山」納入視野中。島上的岩石和植物經過精心排列，營造出微縮山岳景觀；從庭園遠眺，這座小島令人聯想到某處遙遠而神聖之地。

庭園植栽經過悉心挑選，兼顧四季之美與視覺和諧。這些植物包括日本金松、朴樹、樟樹和杜鵑花，以對比鮮明的色彩與質感妝點著庭園的四季。為了保護地面上的脆弱苔蘚，請配合僅沿踏腳石步道上行走；這些步道的石頭包含從日本全國各地收集而來的舊石臼。

<日本語仮訳>**臥龍山莊/庭園**

臥龍山莊の庭園は、日本の伝統的な設計美学を反映しています。自然の美しさと、深く配慮が行き届いた細部が融合し、周囲の景観と調和しています。この庭園は肱川沿いの風光明媚な立地を最大限に生かして、空間を広げるとともに、田園風景を庭園内の構図に取り入れています。

飛び石の小道は地形の自然な輪郭に沿っており、川の小島である蓬萊山などの借景を意識的に用いた景観が次々に現れます。この小島の岩石や植栽は、山の風景の縮図を思わせるよう巧みに配置されており、庭園から眺める蓬萊山は、人里離れた神聖な空間を感じさせます。

庭園には、季節感と視覚的調和に重きを置いて厳選された、さまざまな植栽が取り入れられています。コウヤマキ、エノキ、クスノキ、ツツジなど、一年を通して対照的な色彩と質感で庭園を彩ります。敷地を覆う繊細な苔を保護するため、国内各地から収集された古い石臼などの飛び石が設置されており、訪問客はその上のみを歩くよう求められます。

【タイトル】 臥龍山莊/蓬萊山

【想定媒体】 Web/その他

<繁体字>**蓬萊山**

在肱川上，臥龍山莊旁有一座被名為「蓬萊山」的小島，因其形狀又被稱為「臥龍」。過去曾有一座用紫藤編成的裝飾橋樑連接小島與河岸，如今依然能看到支撐橋體的石柱。

臥龍山莊庭園的設計採用了「借景」設計原則，將蓬萊山和周圍景致融入整體構圖中。從別墅眺望時，小島增加了視覺深度，營造出超越庭園邊界的開闊感。小島狹長且低矮的輪廓與主建築的線條相呼應，在自然環境和別墅建築之間達成平衡。小島上的岩石和植物經過精心排列，營造出微縮山岳景觀，讓人聯想到遠離塵世的仙島。

<日本語仮訳>**臥龍山莊/蓬萊山**

蓬萊山とは、臥龍山莊に隣接する肱川に浮かぶ小さな小島に付けられた名前です。その形から、臥龍とも呼ばれています。は藤の蔓でできた飾り橋が蓬萊山と川岸を結んでおり、橋を支えた石柱は現在も残っています。

臥龍山莊の庭園は、蓬萊山と周囲の風景をその構図に取り入れ、借景の原理を用いて設計されています。この別荘から眺める小島は、庭園の境界を超えて、視覚的な奥行きと広がりを感じさせます。長く低いその姿は母屋のシルエットと調和し、自然環境と別荘建築の間に、バランスの取れた関係を築いています。この小島の岩石や植栽は、山の風景の縮図を思わせるよう配置されており、人里離れた神仙の島を彷彿とさせます。

【タイトル】 盤泉莊/盤泉莊パンフレット

【想定媒体】 パンフレット

<繁体字>

盤泉莊宣傳手冊

歡迎來到盤泉莊

盤泉莊又名舊松井家住宅，是一座建於 20 世紀初的別墅，體現大洲繁榮的鼎盛時期。這棟宅邸以融合外國和日本元素的獨特建築風格聞名。

盤泉莊由松井國五郎（西元 1875—1945）和松井傳三郎（西元 1870—1920）兄弟於西元 1926 年建造。他們經營一家貿易公司，並在菲律賓開設店鋪，專門服務日本移民。前庭旁的一間舊倉庫已改造成陳列館，展出與松井家歷史相關的器物、照片和其他資料。

這座宅邸後來捐贈給大洲市，並於西元 2021 年開放大眾參觀。其名「盤泉莊」意思為「岩盤泉水別墅」，典故源於從屋後小山坡湧出的天然泉水。

外觀和石造結構

盤泉莊是一棟依陡峭山坡而建的三層木造建築，以當地石材縱橫交錯堆砌而成的擋土牆支撐。此處地勢較高，可俯瞰柚木町，並眺望肱川及周圍景觀。二樓設有現代風格的寬敞陽台，屬於當時罕見的設計。

前庭

通往盤泉莊的大門面向一座庭園，園內設有傳統日式石燈籠、以大塊石材疏落鋪設的小徑，還有一尊陶獅。這尊陶獅是以當地的「新柳瀨燒」製作，這是一種在 20 世紀初復興的古老陶藝。陶獅的設計體現了松井兄弟對海外文化的興趣，採用的材料則展現他們對地區傳統的支持。

走廊

主走廊鋪設了約 20 塊太平洋鐵木板，這是一種高密度熱帶硬木。每塊木板的尺寸約為 2.5 公尺 x 1 公尺，使地面看起來連貫統一，與起居空間多塊窄板拼接而成的地板形成對比。這種設計上的區隔，表明主走廊是接待和引導賓客的正式空間。

一樓和室

接待賓客的房間設有襖（和式橫拉門），拉開後可以欣賞後庭及周圍景觀。室內的挑高天花板、欄間和和式壁龕均塗有黑漆。

茶室

位於建築後方的茶室展現了精湛的工藝，例如當中的編織家具。室內另有一處由壁柱支撐的小型突出和式壁龕，據說是為了致敬臥龍山莊的不老庵。不老庵同樣以懸造形式建

於肱川上方的懸崖之上。

横井

在山坡上的金屬門後方，有一口向岩壁內側延伸約 50 公尺的橫井。井水流向盤泉莊廚房附近的蓄水槽，再經引流供屋內使用。

<日本語仮訳>

盤泉莊/盤泉莊パンフレット

盤泉莊へようこそ

旧松井家住宅としても知られる盤泉莊は、20 世紀初頭の別荘で、大洲の繁栄の最盛期を象徴する建造物です。当施設は、外国と日本の要素を融合させた異彩を放つ建築として有名です。

盤泉莊は、松井國五郎（1875～1945）と松井傳三郎（1870～1920）の兄弟によって 1926 年に建てられました。彼らは貿易会社を經營し、フィリピンで日本人移民向けの百貨店を操業していました。前庭に隣接するかつての蔵は、松井家の歴史に関する工芸品や写真、その他の資料を展示する展示室に改装されています。

この建物は、大洲市に寄贈され、2021 年に一般公開されました。邸宅の裏山から流れ出る天然の泉にちなみ、「岩盤の泉の別荘」、すなわち「盤泉莊」と名付けられました。

外観と石造り

盤泉莊は、急斜面に建てられた木造 3 階建ての邸宅で、地元で調達した石を X 字状に積み上げた擁壁で支えられています。高台に位置し、柚木の町を見下ろし、肱川とその周辺の景観を一望できます。2 階には現代風の大きなバルコニーがあり、当時としては珍しい設計です。

前庭

盤泉莊に通じる正門は、伝統的な日本式の石灯籠、大きな石を広い間隔で敷き詰めた道、土器製のライオン像などがある庭園に面しています。このライオン像は、20 世紀初頭に復活した太古の工芸である地元の新柳瀬焼で作られています。ライオン像のデザインは、海外文化に対する兄弟の興味を反映しており、素材は地域の伝統に対する彼らの擁護を示しています。

廊下

メインフロアの廊下には、イピールという高密度の熱帯硬木の一枚板が、約 20 枚敷き詰められています。それぞれの板の大きさは約 2.5 メートル×1 メートルで、居住用に使用されている幅の狭い複数の板からなる床材とは対照的な、一続きの表面を作り出しています。この区別により、メインの廊下は客人を迎え、案内するためのフォーマルな空間となっています。

1 階座敷

客人を迎える部屋は襖で仕切られており、襖を開けると後庭とその周辺の景色が広がります。高い天井、欄間、床の間は、すべて黒漆塗りで仕上げられています。

茶室

建物の奥にある茶室は、網代建具の調度品など、手の込んだ細工が施されています。壁柱で支えられた小さな突き出た床の間は、肱川の崖に張り出した臥龍山荘の茶室「不老庵」へのオマージュだとされています。

横井戸

丘の中腹にある金属製の扉の向こうには、岩肌から奥に約 50 メートル伸びる水平の井戸があります。その水は、汲み上げて家の生活用水として使用され、盤泉荘の台所の近くにある貯水槽に向かって流れています。

【タイトル】 盤泉荘/日本の建築

【想定媒体】 Web

<繁体字>**松井傳三郎對盤泉莊的願景**

盤泉莊的落成代表大洲出身企業家松井傳三郎（西元 1870—1920）願景的實現。他希望建造一座俯瞰肱川の河畔別墅，既承襲日本建築傳統，又融合他在菲律賓各地生活時汲取的靈感。

傳三郎和弟弟國五郎（西元 1875—1945）累積的財富來自其海外貿易公司「松井商會」，以及為服務日本移民社群而在菲律賓開設的商店。回到日本後，這對兄弟購買了土地，並開始根據海外經歷建造鄉村別墅。

傳三郎於西元 1920 年西班牙流感大流行期間去世，導致建造計畫一度暫停。國五郎隨後於西元 1926 年建成了盤泉莊，根據哥哥的規劃打造了一座典雅的宅邸。其部分設計受到臥龍山莊影響；這棟河畔別墅由一位大洲出身的富裕蠟商於西元 1907 年竣工。

盤泉莊的前庭旁有一間由舊倉庫改造而成的陳列館，展出與松井家相關的物品，包括照片、文獻和個人物品。

<日本語仮訳>**盤泉莊/日本の建築**

盤泉莊は、大洲出身の実業家、松井傳三郎（1870～1920）の構想を具現化したものです。彼は肱川を見下ろす川辺に、日本の建築の伝統と、フィリピン時代に暮らしていた場所から着想を得た特徴を融合させた別荘を建てることを望んでいました。

傳三郎と弟の國五郎（1875～1945）は、フィリピンの移民コミュニティに輸入した日本製品を供給していた、彼らの海外貿易会社である松井商会とフィリピンの百貨店を通じて、海外で富を築きました。帰国後、兄弟は土地を購入し、海外での経験を生かし、田園地域の別荘建設に着手しました。

1920 年に傳三郎がスペイン風邪の流行で亡くなり、この計画は一時中断しました。國五郎はその後、1926 年に盤泉莊を完成させ、兄の設計に基づいた優雅な邸宅を造り上げました。この設計は、

1907 年に大洲の裕福な蠟商人が築造した川沿いの別荘、臥龍山荘の影響も一部受けています。

前庭の横には、かつての蔵を再利用した展示室があり、写真や文書、身の回り品など、松井家ゆかりの品々が展示されています。

【タイトル】 盤泉荘/和洋折衷の文化

【想定媒体】 Web

<繁体字>**盤泉荘の建築和美学**

雖然盤泉荘外觀看似傳統日式別墅，但其設計融合了日本和國際元素。這座建築建於西元 1920 年代後期，體現了悠久的建築傳統和松井家與海外的聯繫。透過寬闊的廊台和大面積窗戶，可欣賞庭園、柚木町和周圍的景致。

盤泉荘從西元 1907 年落成的臥龍山莊汲取靈感，同樣坐落在陡峭的山坡上，以堅固的石牆支撐地基。最明顯的借鑑體現於茶室的設計，該空間直接仿照臥龍山莊的茶室不老庵而建。茶室的和式壁龕略微突出於外牆，由壁柱支撐，構造類似於不老庵向外延伸、懸於肱川之上的結構。

盤泉荘包含前庭和後庭，皆體現了傳統景觀設計元素。前庭有一座石燈籠和一尊陶獅。這尊陶獅採用當地的「新柳瀨燒」製成，這種源自大洲的古老工藝在 20 世紀初復興。後庭則設有龜鶴形態的石頭與雕塑，象徵長壽與吉祥。建築內部的主和室等房間均融入了突顯傳統工藝和正式感的元素，包括挑高天花板和黑漆飾面。

別墅隨處可見異國材料和設計元素。主走廊鋪設了約 20 塊寬大的太平洋鐵木板，每塊尺寸約為 2.5 公尺 x 1 公尺；太平洋鐵木是一種熱帶硬木，又稱婆羅洲鐵木。在面面向前庭的屋頂上，鬼瓦刻有羅馬字母的姓名縮寫「K.M.」，這代表了盤泉荘的設計者，松井兄弟之一的松井國五郎（西元 1875—1945）。其他受外國影響的設計還包括大面積窗戶，以及二樓寬敞的陽台，後者在當時的日本住宅建築中是罕見的元素。

<日本語仮訳>**盤泉荘/和洋折衷の文化**

盤泉荘の外観は伝統的な日本の別荘のように見えますが、その設計は日本と国際の要素が融合したものとなっています。1920 年代後半に建てられたこの建造物は、古くから続く建築の伝統と松井家の海外とのつながりを反映しています。広いベランダと大きな窓からは、庭園や柚木の町、周囲の景色を眺めることができます。

1907 年に建てられた臥龍山荘から着想を得た盤泉荘も、急峻な丘の中腹に建ち、その基礎部分は頑丈な石垣で支えられています。もっとも顕著な着想は茶室に見られ、臥龍山荘の不老庵の茶室を直接模倣して設計されました。その床の間は外壁からわずかに突き出ており、壁柱に支えられています。これは、肱川に張り出した不老庵の茶室と似た構造です。

敷地内には前庭と後庭があり、どちらも伝統的な造園様式の要素を取り入れています。前庭には、石灯籠と土器製のライオン像があります。このライオン像は、20 世紀初頭に復活した大洲発祥の古代工芸である新柳瀬焼で造られています。後庭には長寿と幸運の象徴である亀や鶴をかたどった石や彫刻があります。建物内の大座敷をはじめとする各部屋には、高い天井や黒漆塗りの仕上げなど、伝統的な職人技と格式を強調する要素が施されています。

別荘内の至る所に、外国の素材や設計を取り入れていることが見てとれます。メインの廊下には、ボルネオチーク材とも呼ばれる、熱帯硬木のイピールという大きな一枚板が約 20 枚敷き詰められています。それぞれの板の大きさは約 2.5 メートル x1 メートルです。その他、東南アジア産の熱帯硬木が建物の随所に使用され、自生する米桐や黒檀とコントラストをなしています。前庭に面した屋根の鬼瓦 には、ローマ字で「K.M.」のイニシャルが刻まれており、これは盤泉荘の設計を手掛けた 2 人の兄弟のうちの 1 人、松井國五郎（1875～1945）を指しています。外国の影響を受けたその他の特徴としては、広々としたガラス、大きな窓、そして当時の日本の住宅建築では珍しい要素であった 2 階の広いバルコニーなどがあります。

【タイトル】 盤泉莊/コンクリートの部屋

【想定媒体】 Web

<繁体字>**盤泉莊的莊園**

盤泉莊（意為「岩盤泉水別墅」）的莊園將別墅與周邊景致融為一體。園內包括前庭和後庭、倉庫及幾棟附屬建築。

通往盤泉莊的大門面向一座庭園，園中有一座傳統石燈籠，旁邊是採用當地「新柳瀨燒」製作的陶獅，這是一種源自中世紀、並於 20 世紀初復興的古老工藝。陶獅的形象比傳統的守護石獅更加寫實，既體現了松井家對這項工藝的支持，也為入口處增添了異國風情。

莊園內的其他雕塑包括一尊手持章魚的狸貓像，這是象徵生意興隆的俏皮吉祥物；屋頂上則刻有神話故事中的蓑龜，象徵著長壽與吉祥。別墅後方的房間面向後庭，庭園內的仙鶴雕塑和龜形岩石進一步突顯了長壽與富貴的主題。

屋後小山坡上有一處泉水，盤泉莊的名稱正是由此而來。在一扇金屬門後方，有一口向岩壁內側延伸約 50 公尺的橫井。這口井曾是重要的家庭用水來源，可能是別墅選址於此的重要考量。

井旁有一間房間直接嵌入山坡上，並用混凝土加固。門上方有一扇半圓形窗戶，天花板上則有金屬掛鉤和孔洞。房間由構思盤泉莊的企業家松井傳三郎（西元 1870—1920）設計，是莊園內最早建造的建築，但用途仍不明。

在主屋對面、越過前庭，有一座由倉庫改造而成的陳列館，展出與松井家相關的照片、器物及其他資料。透過此空間，遊客可以了解松井家的經商活動，以及他們在興建盤泉莊的過程中扮演的角色。

<日本語仮訳>**盤泉莊/コンクリートの部屋**

盤泉荘（「岩盤の泉の別荘」）の敷地は、この別荘を周囲の景観と一体化させています。敷地内には、前庭と後庭、蔵、その他いくつかの付属建造物があります。

盤泉荘に通じる正門は、伝統的な石灯籠が地元の新柳瀬焼で造られた土器製のライオン像のそばに立つ、庭園に面しています。新柳瀬焼は、20 世紀初頭に復活した古代工芸です。このライオン像は伝統的な石造りの狛犬ではなく、より写実的に造られており、松井家の工芸品への庇護を反映しつつ、入口に外国の雰囲気添えています。

敷地内の彫像には他にも、タコを抱いたタヌキの像（遊び心をプラスした商売繁盛の象徴）や、屋根の上には長寿と幸運の象徴であるミノガメの像などがあります。別荘の奥の部屋は、鶴の像や亀の形をした岩が長寿と富というテーマを象徴する、後庭に面しています。

この邸宅の裏手の丘の斜面には、泉の湧く場所があり、そこから「盤泉荘」と名づけられました。金属製の扉の向こうにある横井戸は、岩肌の奥に約 50 メートル伸びています。この井戸はかつて、家庭用の重要な水源であり、別荘の立地に影響を与えた可能性があります。

井戸の隣には、丘の斜面に直接切り込みを入れ、コンクリートで補強した部屋があります。ドアの上に半円形の窓があり、天井には金属製の留め金と穴があります。盤泉荘を構想した実業家、松井傳三郎（1870～1920）の設計によるもので、別荘敷地内に建てられた最初の建造物ですが、この部屋の用途は未だ不明です。

本邸の向かい側、前庭の向こう側には、蔵を改装した展示室があり、松井家ゆかりの写真や工芸品、その他の資料が展示されています。この空間では、松井家の事業活動や、この別荘の建造における彼らの役割についての背景を感じ取ることができます。

地域番号	025	協議会名	徳島県文化振興課

解説文一覧

NO.	スポット名（タイトル）	中国語文字数	想定媒体
025-001	徳島県立阿波十郎兵衛屋敷/三業（太夫・三味線・人形遣い） 一体の表現（解説・インタビュー）	1,855	アプリ QR コード /Web/その他
025-002	徳島県立阿波十郎兵衛屋敷（概要・インタビュー）/人形師の仕事 （解説・インタビュー）	1,499	アプリ QR コード /Web/その他
025-003	徳島県立阿波十郎兵衛屋敷/農村舞台（歴史、構造、村）	1,292	アプリ QR コード /Web/その他
025-004	徳島県立阿波十郎兵衛屋敷/人形浄瑠璃の国、徳島吉野川と藍、そして人形浄瑠璃	1,693	アプリ QR コード /Web/その他
025-005	徳島県立阿波十郎兵衛屋敷/人形の操り方（かしら、腕、足）	1,167	アプリ QR コード /Web/その他
025-006	徳島県立阿波十郎兵衛屋敷/長屋門	729	看板/アプリ QR コード/ Web
025-007	徳島県立阿波十郎兵衛屋敷/辰巳座敷	324	看板/アプリ QR コード/ Web
025-008	徳島県立阿波十郎兵衛屋敷/「傾城阿波の鳴門 巡礼歌の段」あらすじ	583	アプリ QR コード /Web
025-009	徳島県立阿波十郎兵衛屋敷/「阿波人形浄瑠璃」概要	1,131	アプリ QR コード /Web

【タイトル】 徳島県立阿波十郎兵衛屋敷/三業（太夫・三味線・人形遣い）

一体の表現（解説・インタビュー）

【想定媒体】 アプリ QR コード/Web/その他

<簡体字>

木偶、说唱与伴奏

作为一门综合性艺术，阿波人形净瑠璃是一支在德岛县发展起来的人形净瑠璃的地方流派，配合和歌说唱（净瑠璃）操纵木偶表演。木偶的每个动作都是在说唱与三味线（源自中国三弦的日本弦乐器）音乐的伴奏下进行的。这门艺术于江户时代（1603-1867 年）在阿波国（今德岛县）得到了蓬勃发展，传承至今。

这门艺术起源于说唱故事。说唱故事是一种早期的音乐叙事形式，将带有韵律的叙事吟诵声与音乐相结合。说唱故事起初由太夫（说唱者）与琵琶（日本弦乐器）演奏者共同演绎。后来，三味线取代了琵琶，并加入了操偶师。

阿波人形净瑠璃对太夫、三味线演奏者与操偶师之间的表演默契要求极高。在表演中，这三者相互联动，各自承担着独特的艺术责任。通过丝丝入扣的默契配合，将故事娓娓道来，再加上行云流水的动作，细腻地展现了人与人之间的情感。

太夫

拥有五十余年艺龄、同时也是人形净瑠璃重要无形文化遗产保持者的著名太夫——竹本友和嘉说过，太夫才是舞台真正的核心。由太夫引领故事发展，三味线演奏者负责伴奏，而操偶师与木偶共同完成对故事的演绎。

太夫通过说唱故事，并区分演绎所有登场人物，承担着酝酿舞台感情的重任。这需要高超的发声表现力与节奏掌控力。尽管修习之路严苛异常，但从小在充满净瑠璃音韵的家庭环境中长大的竹本，始终觉得是命运牵引自己步入此道。她说：“与其说是自己主动选择，不如说是随缘而至、水到渠成地走到了今天这一步。”

然而，练到技艺精湛并非易事，过程十分漫长。太夫必须掌握被称为“音遣（发声方式、旋律走向等技巧的综合称谓）”的发声技法，而这一技法的习得有时甚至需要数十年的时间。情感方面的成熟也同样不可或缺。“常有人说，太夫要到 60 岁才算真正的独当一面。”竹本如此说道，她指出，岁月的沉淀能够让表演者更加细腻地传达悲伤、喜悦与失落等情感。

团队协作极为重要。她表示：“太夫与三味线演奏者必须心息相通。”追求的目标并非机械式的严丝合缝，而是在情感高涨之处自然迸发的直觉性和谐。与此同时，操偶师需要“感知领会”这种节奏，并据此配合动作，而太夫与三味线演奏者则须在互不干扰的前提下彼此支撑。

三味线演奏者

三味线演奏家鹤泽友辅拥有近三十年艺龄，亦为阿波人形净琉璃的新作创作过乐曲。她认为自己的乐器既是引导太夫的存在，也是太夫的伙伴。“既要引导太夫，又须给予太夫自由叙事的空间，这十分重要”，她说道。三味线不仅是支撑背景的声音，更承担着营造氛围、提升紧张感、为静默留白的功能。

三味线演奏者必须熟记故事内容，深刻理解太夫的气韵流转。鹤泽表示，在呼应太夫细微信号的同时，既要保持所需的情感表达，又需为观众呈现恰如其分的音韵——这种专注始终是一项挑战。

然而，正是在这种挑战之中，她体会到了喜悦。“当观众被太夫与操偶师之间的默契配合打动时，便能体会到那种融合为一的感受”她说道。当表演的三要素不靠刻意设计，而是通过自发的团队协作融为一体时，就能迸发出震撼人心的力量。她还补充道，这种演出的成功并非源于某个人的卓越才华，而是来自彼此间深刻的默契与感知。

操偶师

对于阿波人形净琉璃剧团——胜浦座而言，木偶操纵是一门既需要表现力又需要操纵者之间高度协调的、历经了千锤百炼的艺术。每具木偶由三位操偶师共同操纵。第一位操纵头部与右臂，第二位操纵左臂，第三位操纵脚部。这项工作需要团队成员之间绝对的信任与全神贯注的配合。操偶师的工作是，通过木偶将太夫与三味线演奏者所营造的情感世界呈现出来。

多数剧团成员在高中时通过胜浦民艺俱乐部第一次接触到阿波人形净琉璃，之后在师长们的鼓励下投身到这一行。其中，有人被观众真挚的情感共鸣所触动，五十年来一直在坚持研习。一位成员坦言：“每当看到观众因表演而热泪盈眶或展露笑颜，都会更加坚定我们精进技艺的决心”。

三人操偶师的团队协作至关重要。有成员指出：“关键在于左臂与足部的操纵者能否精准呼应头部操纵者的动作”。他们不仅需要预判彼此的节奏，更要灵活地应对舞台上的突发状况。

浑然一体的表演

在阿波人形净琉璃中，三种独立的艺术形式融为一体，共同构建出浑然天成的演出。每位表演者在打磨个人技艺的同时，还需要倾听彼此的韵律与呼吸，培养相互支撑的默契与能力。同时，所有的阿波人形净琉璃表演者都必须能够察觉净琉璃音律中蕴含的细微差别，以及登场人物微妙的心理变化，紧扣说唱节奏，在演绎故事中承担起自己的那份责任。

“只有太夫、三味线演奏者与操偶师彼此在演出中竭尽所能，才会在某个瞬间陡然达到水乳交融的契合。那一瞬间，正是阿波人形净琉璃最具魅力之处”竹本如是总结道。

<繁体字>

木偶、說唱與伴奏

作為一門綜合性藝術，阿波人形淨琉璃是一支在德島縣發展起來的人形淨琉璃的地方流派，配合和歌說唱（淨琉璃）操縱木偶表演。木偶的每個動作都是在說唱與三味線（源自中國三弦的日本弦樂器）音樂的伴奏下進行的。這門藝術於江戶時代（1603-1867 年）在阿波國（今德島縣）蓬勃發展，傳承至今。

這門藝術起源於說唱故事。說唱故事是一種早期的音樂敘事形式，將帶有韻律的敘事吟誦聲與音樂相結合。說唱故事起初由太夫（說唱者）與琵琶（日本弦樂器）演奏者共同演繹。後來，三味線取代了琵琶，並加入了操偶師。

阿波人形淨瑠璃對太夫、三味線演奏者與操偶師之間的表演默契要求極高。在表演中，這三者相互聯動，各自承擔著獨特的藝術責任。透過絲絲入扣的默契配合，將故事娓娓道來，再加上行雲流水的動作，細膩地展現了人與人之間的情感。

太夫

擁有五十餘年藝齡的著名太夫，同時也是人形淨瑠璃重要無形文化遺產保持者的竹本友和嘉說過，太夫才是舞台真正的核心。由太夫引領故事發展，三味線演奏者負責伴奏，而操偶師與木偶共同完成對故事的演繹。

太夫透過說唱故事，並區分演繹所有登場人物，承擔著醞釀舞台感情的重任。這需要熟練的高超發聲表現力與節奏掌控力。儘管修習之路極其嚴苛，但從小在充滿淨瑠璃音色的家庭環境中長大的竹本，始終覺得是命運牽引自己步入此道。她說：「與其說是自己主動選擇，不如說是隨緣而至、水到渠成地走到了今天這一步。」

然而，練到技藝精湛並非易事，過程十分漫長。太夫必須掌握被稱為音遣（發聲方式、旋律走向等技巧的綜合稱謂）的發聲技法，而這一技法的習得有時甚至需要數十年的時間。情感方面的成熟也同樣不可或缺。「常有人說，太夫要到 60 歲才算真正的獨當一面。」竹本如此說道，她指出，歲月的沉澱能夠讓表演者更加細膩地傳達悲傷、喜悅與失落等情感。

團隊合作極為重要。她表示：「太夫與三味線演奏者必須息息相通。」追求的目標並非是機械式的嚴絲合縫，而是在情感高漲之處自然迸發的直覺性和諧。與此同時，操偶師需要「感知領會」這種節奏，並據此配合動作，而太夫與三味線演奏者則須在互不干擾的前提下彼此支撐。

三味線演奏者

三味線演奏家鶴澤友輔擁有近三十年藝齡，亦為阿波人形淨瑠璃的新作創作過樂曲。她認為自己的樂器既是引導太夫的存在，也是太夫的夥伴。「既要引導太夫，又須給予太夫自由敘事的空間，這十分重要。」她說道。三味線不僅僅是背景音樂，更承擔著營造氛圍、提升緊張感、為靜寂留白的功能。

三味線演奏者必須熟記故事內容，深刻理解太夫的氣韻流轉。鶴澤表示，在呼應太夫細微信號的同時，既要保持所需的情感表達，又需為觀眾呈現恰如其分的音色，這種專注時時充滿挑戰。

然而，正是在這種挑戰之中，她體會到了喜悅。「當觀眾被太夫與操偶師之間的默契配合打動時，便能體會到那種融合為一的感受。」她說道。當表演的三要素不靠刻意設計，而是透過自發的團隊合作融為一體時，就能迸發出震撼人心的力量。她還補充道，這種演出的成功並非源於某個人的卓越才華，而是來自彼此間絕佳的默契與感知。

操偶師

對於阿波人形淨瑠璃劇團之一的勝浦劇團而言，木偶操縱是一門歷經了千錘百鍊的藝術，既需要表現力又需要操偶師之間的高度協調。每具木偶由三位操偶師共同操縱。第一位操縱頭部與右臂，第二位操縱左臂，第三位操縱腿部。這項工作需要團隊成員之間絕對的信任與全神貫注的配合。操偶師的工作是，透過木偶將太夫與三味線演奏者所營造的情感世界呈現出來。

多數劇團成員在高中時透過勝浦民藝俱樂部第一次接觸到阿波人形淨瑠璃，之後在師長們的鼓勵下投身到這一行。其中也有人被觀眾真摯的情感共鳴所觸動，五十年來一直在堅持研習。一位成員坦言：「每當看到觀眾因表演而熱淚盈眶或展露笑顏，都會更加堅定我們精進技藝的決心。」

三人操偶師的團隊合作至關重要。有成員指出：「關鍵在於左臂與腿部的操偶師能否精準呼應頭部操偶師的動作。」他們不僅需要預判彼此的節奏，更要靈活地應對舞台上的突發狀況。

渾然一體的表演

在阿波人形淨瑠璃中，三種獨立的藝術形式融為一體，共同構建出渾然天成的演出。每位表演者在打磨個人技藝的同時，還需要傾聽彼此的韻律與呼吸，培養相互支撐的默契與能力。同時，所有的阿波人形淨瑠璃表演者都必須能夠察覺淨瑠璃音律中蘊含的細微差別，以及登場人物微妙的心理變化，緊扣說唱節奏，在演繹故事中承擔起自己的那份責任。

「只有太夫、三味線演奏者與操偶師彼此在演出中竭盡所能，才會在某個瞬間陡然達到水乳交融的契合。那一瞬間，正是阿波人形淨瑠璃最具魅力之處。」竹本如是總結道。

<日本語仮訳>

人形、語り、そして伴奏

阿波人形浄瑠璃は徳島県で発展した人形浄瑠璃の一つの地域流派で、人形を歌語り（浄瑠璃）に合わせて操る総合芸術です。人形の動きには、語りと三味線（中国の三弦（サンシェン）にルーツを持つ日本の弦楽器）の音楽が伴奏として付きます。この芸術は、江戸時代（1603-1867年）に阿波国（現在の徳島県）で大きく発展し、今日まで受け継がれています。

この芸術は、語り物を起源としています。語り物とは、物語に節をつけて語る声と音楽を組み合わせたもので、初期の音楽物語になります。語り物は、太夫（語り手）と琵琶（日本の弦楽器）の奏者によって演じられました。後に、琵琶は三味線に置き換えられ、人形遣いが加わりました。

阿波人形浄瑠璃では、太夫、三味線奏者、そして人形遣いの息の合った演技が求められます。この互いに連動している三者の役割には、それぞれに独自の芸術的責任があります。完璧に息の合った演技によって、物語が語られ、動きがダイナミックに表現され、人間の感情が表現されます。

太夫

芸歴 50 年以上で、人形浄瑠璃の重要無形文化遺産保持者でもある著名な太夫、竹本友和嘉氏は、太夫こそが舞台の核であると語ります。太夫が物語をリードし、三味線奏者が伴奏をし、人形遣いと人形が物語を演じます。

太夫は物語を語り、登場人物全員を演じ分けることで、舞台の感情的な重みを担います。それは、高度な発声表現力と間の取り方の習熟が求められる役割です。その厳しさに関わらず、家庭で浄瑠璃の音色に囲まれて育った竹本氏は、この道に導かれたと感じていました。「自分から始めたというよりは、自然とやることになったんです」と彼女は言います。

しかし、熟練への道のりは長いものです。太夫は音遣い（声の出し方や節回しなどの技法を総合的にいうもの）と呼ばれる発声技法を習得しなければならず、その習得には数十年かかることもあります。感情面の成熟も同様に重要です。「太夫は 60 歳で一人前になると言われています」と竹本氏は説明し、人生の積み重ねが悲しみ、喜び、喪失感を伝える能力を豊かにすると指摘します。

チームワークは極めて重要です。「太夫と三味線奏者は互いの呼吸を感じ取らなければなりません」と彼女は言います。目指すのは、機械的にぴったりあわせることなく、特に感情が高まる場面での

直感的なハーモニーを生み出すことです。一方、人形遣いはそのリズムを「感じ取り」、それに応じて動きを合わせなければならず、太夫と三味線奏者は互いを邪魔することなく支え合う必要があります。

三味線奏者

三味線奏者の鶴澤友輔氏は、30年近い芸歴で、阿波人形浄瑠璃の新作も作曲してきました。彼女は自身の楽器を太夫の導き手であると同時にパートナーでもあると考えています。「太夫を導きながらも、太夫に自由に語らせることが大切です」と彼女は言います。三味線は背景を支える音としてだけでなく、雰囲気をつくり、緊張感を高め、静寂に余白を与えます。

三味線奏者は物語を暗記し、太夫の呼吸とリズムを理解しなければなりません。鶴澤氏は、太夫の僅かなサインに応じながら、求められる感情表現を維持しつつ、観客に向けてふさわしい音色を届けることを意識している、それは常に挑戦だと説明します。

しかし、その挑戦の中にこそ、彼女は喜びを見出します。「太夫と人形遣いの調和に観客が反応してくれると、一体感を感じます」と彼女は言います。演技の3つの要素すべてが、計画されたものではなく、自然発生的なチームワークで一体になった瞬間、そこには圧倒的な力が生まれます。このような演技の成功は、誰か一人の卓越した才能からではなく、お互いを意識し合うことから生まれると彼女は付け加えます。

人形遣い

阿波人形浄瑠璃の一座である勝浦座にとって、人形遣いは表現力と操る者の協調性が求められる、磨きぬかれた芸術です。一体の人形を3人の人形遣いが操ります。1人目が頭と右腕、2人目が左腕、3人目が足を操ります。この作業には、完全な信頼関係と細心の注意が必要です。人形遣いの役割は、太夫と三味線奏者が奏でる感情を人形で表現することです。

座員の多くは、高校生の時に勝浦民芸クラブで初めて阿波人形浄瑠璃に接し、そこで先生方にこの芸術に携わるよう勧められたことがきっかけです。中には、観客の感動的な反応に突き動かされ、50年間も稽古を続けている人もいます。ある座員は、「観客が泣いたり、喜んだりする姿を見ると、私たちももっと上達したいという気持ちになります」と語ります。

3人の人形遣いのチームワークは非常に重要です。ある座員は、「左腕と足の操り手らが、頭の操り手の動きをどれだけうまくサポートできるかが鍵です」と言います。彼らは互いのタイミングを予測するだけでなく、本番での予期せぬ変化にも対応しなければなりません。

一体感のあるパフォーマンス

阿波人形浄瑠璃では、3つの独立した芸能が一体となり、ひとつの流れるようなパフォーマンスを生み出します。それぞれの演者は、各自の技を磨きながら、互いの音や呼吸に耳を傾け、支え合う能力を磨かなければなりません。また、阿波人形浄瑠璃の演者全員が、浄瑠璃の音に込められたニュア

スや登場人物の微妙な機微を理解し、語りに合わせてテンポを取り、物語を伝える役割も担わなければなりません。

「太夫、三味線奏者、人形遣いの三者がそれぞれの役割をきちんと演じていると、あるときピタッと完全に息が合う瞬間があります。その瞬間こそが、阿波人形浄瑠璃の魅力なのです」と竹本氏は語ります。

【タイトル】 徳島県立阿波十郎兵衛屋敷（概要・インタビュー）/人形師の仕事
（解説・インタビュー）

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web / その他

<簡体字>

木偶师的工作

阿波人形净瑠璃，是诞生于江户时代（1603-1867 年）阿波国（今德岛县）的一种日本传统木偶戏。

阿波人形净瑠璃的木偶师中，许多人最初并非是在木偶戏的相关领域工作。德岛的一位木偶师，最初的职业是雕塑人物与动物像的雕刻师。他在 26 岁时邂逅了传统的木雕人偶（木偶）。当他造访第三代天狗久（1858-1943 年）的工作室时，天狗久无需草稿即能直接创作的精湛技艺令他震撼不已。

他深受触动，在继续日常雕刻工作的同时开始学习木偶制作。大约五年后，他加入了为培养新木偶师而成立的阿波木偶制作保存会。自那时起，他便开始专职制作木偶。

这样的跨界成长路径在业内并不罕见。许多工匠都是在经历木工、竹艺，乃至运用现代化工具的数字建模等相关领域后，最终踏入阿波人形净瑠璃的世界。木偶制作是传统智慧与创新思维的融合，新一代的工匠们可以不断地从古老技法中汲取灵感，续写传承。

木偶制作的技术

阿波人形净瑠璃所使用的木偶，需根据剧目和需求调整各部位细节，分阶段逐步制作。每个木偶的头部都内置精密机关，可实现丰富的动作与表情。单是头部制作便至少耗时一个月。

由于并未采用量产化制作，每具木偶都需要精心调整。木偶师需要综合考虑木偶的动作方式、操纵方法，乃至在舞台上使用的耐久性等诸多因素。

木偶师亦需定期承接德岛县外的木偶修复委托。其中不乏江户时代中期制作的木偶，至今仍在舞台服役。在修复这些古老木偶的过程中，木偶师们得以研究过去名匠们所用的技法，以及对材料与造型的选择方式，并从工具留下的痕迹与结构变化等细节中，学到有关设计与制作流程的珍贵知识。

修复被视为一种学习的机会。在木偶师之间流传着这样一句话：“修复中藏着学习的机会，因此要尽可能多地去修复木偶”。通过修复工作，当代工匠能够学习那些如今已很难在正式场合获得传授的技法。

传统与系谱

自古以来，德岛县便以精湛的木偶制作技艺享誉四方。这里制作的木偶，不仅外观精美，更以高度的实用性而闻名。即使使用了数十年，甚至数百年，仍然功能良好的木偶，往往倍受珍视。

许多老木偶所藏机关较少，反映了 16 世纪至 17 世纪古净瑠璃（和歌说唱）初期的艺术特征。尽管结构简朴，这些木偶至今仍能灵活动作。在漫长的使用岁月中，虽然不少木偶都被不断修补，但它们依旧活跃于舞台之上。木偶经久耐用的特性，不仅彰显了彼时工匠的超凡技艺，更成为评判当代工匠技术水准的重要标尺。

传统的传承

在阿波人形净瑠璃传统的传承过程中，与木偶师同等重要的，还有操偶师、太夫和三味线演奏者。随着人口减少以及投身传统艺术的新生力量不断下降，越来越难招募到承担这些角色的表演者，这门艺术究竟还能传承多久，令人担忧。

然而，木偶师们依然保持着乐观的态度。他们表示，如今有来自各行各业的人正投身于这项传统事业。擅长使用 3D 打印机等数字工具的人，或许能在木偶制作领域发挥所长。编剧和小说家，或许能以剧作家的身份做出贡献。而音乐家，则可能会发现成为太夫或三味线演奏者的新道路。

德岛县立阿波十郎兵卫宅邸是一座专门用于阿波人形净瑠璃的木偶戏剧场兼博物馆，也是这门艺术的保护活动核心据点。来访者不仅可以欣赏舞台演出，还能了解木偶的构造，并与木偶相关工艺品的指导者进行交流。这一点尤为重要。因为木偶师们认为，唯有

亲手接触木偶、亲临现场观赏舞台演出，并理解每一件作品中倾注的心血，才能真正领会这一门艺术的价值。

所有参与阿波人形净瑠璃的人们，都在为技艺的传承而不懈努力。他们希望通过亲身体验、教育培训和共同创作，让新一代继承并守护这门艺术，使其在未来得以长久存续，继续作为宝贵的文化遗产焕发生机。木偶师们也将通过制作、修复与教育，让这门跨越数个世纪的艺术生生不息。

＜繁体字＞

製偶師的工作

阿波人形淨瑠璃，是誕生於江戶時代（1603–1867 年）阿波國（今德島縣）的一種日本傳統木偶劇。

阿波人形淨瑠璃的製偶師中，許多人最初並非是在木偶劇的相關領域工作。德島的一位製偶師，最初的職業是雕塑人物與動物像的雕刻師。他在 26 歲時邂逅了傳統的木雕人偶（木偶）。當他造訪第三代天狗久（1858–1943 年）的作坊時，天狗久無需草圖即能直接創作的精湛技藝令他震撼不已。

他深受觸動，在繼續日常雕刻工作的同時開始學習木偶製作。大約五年後，他加入了為培育新世代製偶師而成立的阿波木偶製作保存會。自那時起，他便開始專職製作木偶。

這樣的跨界成長路徑在製偶師業內並不罕見。許多製偶師都是在經歷木藝、竹藝，乃至運用現代化工具的數位建模等相關領域後，最終踏入阿波人形淨瑠璃的世界。木偶製作是傳統智慧與創新思維的融合，新世代的製偶師們可以不斷地從古老技法中汲取靈感，續寫傳承。

木偶製作的技術

阿波人形淨瑠璃所使用的木偶，需根據劇目和需求調整各部位細節，分階段逐步製作。每具木偶的頭部都內置精密機關，使之呈現豐富的動作與表情。單是頭部製作便至少需耗時一個月。

由於並未採用量產化製作，每具木偶都需要精心調整。製偶師需要綜合考慮木偶的動作方式、操縱方法，乃至在舞台上使用的耐久性等諸多因素。

製偶師亦定期承接德島縣外的木偶修復委託。其中不乏江戶時代中期製作的木偶，至今仍在舞台上發光發熱。在修復這些古老木偶的過程中，製偶師們得以研究過去名匠們所用的技法，以及對素材與造型的選擇方式，並從工具留下的痕跡與構造變化等細節中，學到有關設計與製作工序的珍貴知識。

修復被視為一種學習的機會。在製偶師之間流傳著這樣一句話：「修復中藏著學習的機會，因此要儘可能多地去修復木偶。」透過修復工作，當代製偶師能夠學習那些如今已很難獲得正統傳授的技法。

傳統與系譜

自古以來，德島縣便以精湛的木偶製作技藝享譽四方。這裡製作的木偶，不僅外觀精美，更以高度的實用性而聞名。即使使用了數十年，甚至數百年，仍然功能良好的木偶，往往倍受珍視。

許多老木偶內置的機關較少，反映了 16 世紀至 17 世紀古淨瑠璃（和歌說唱）初期的藝術特徵。儘管構造簡樸，這些木偶至今仍能靈活動作。在漫長的使用歲月中，雖然不少木偶都被不斷修補，但它們依舊活躍於舞台之上。木偶經久耐用的特性，不僅彰顯了當時製偶師的超凡技藝，更成為判斷當代製偶師技術水準的重要標尺。

傳統的傳承

在阿波人形淨瑠璃傳統的傳承過程中，與製偶師同等重要的，還有操偶師、太夫和三味線演奏者。隨著人口減少以及投身傳統藝術的新力軍也不斷減少，越來越難招募到承擔這些角色的表演者，這門藝術究竟還能傳承多久，令人擔憂。

然而，製偶師們依然保持著樂觀的態度。他們表示，如今有來自各行各業的人正投身於這項傳統事業。擅長使用 3D 打印機等數位工具的人，或許能在木偶製作領域發揮所長。編劇和小說家，或許能以劇作家的身份做出貢獻。而音樂家，則可能會發現成為太夫或三味線演奏者的新道路。

徳島県立阿波十郎兵衛宅邸是一座專門用於阿波人形淨瑠璃的木偶劇場兼博物館，也是這門藝術的保護活動核心據點。來訪者不僅可以欣賞舞台演出，還能了解木偶的構造，並與木偶相關工藝品的指導者進行交流。這一點尤為重要。因為製偶師們認為，唯有親手接觸木偶、親臨現場觀賞舞台演出，並理解每一件作品中傾注的心血，才能真正領會這一門藝術的價值。

所有參與阿波人形淨瑠璃的人們，都在為技藝的傳承而不懈努力。他們希望透過親身體驗、教育和共同創作，讓新世代繼承並守護這門藝術，使其在未來得以長久存續，繼續作為寶貴的文化遺產煥發生機。製偶師們也將透過製作、修復與教育，讓這門跨越數個世紀的藝術生生不息。

＜日本語仮訳＞

人形師の仕事

阿波人形淨瑠璃は、江戸時代（1603–1867 年）に阿波国（現在の徳島県）で生まれた日本の伝統的な人形芝居です。

阿波人形淨瑠璃の人形師は、人形芝居とは関係のない分野からこの仕事を始める人も多いです。徳島のある人形師は、人物や動物の像を彫る彫刻師としてキャリアをスタートさせました。彼は 26 歳の時に伝統的な木彫り人形（デコ）について知りました。三代目天狗久（1858–1943 年）の工房を訪れた際、天狗が下絵を一枚も使わずに制作していることに衝撃を受けました。

この仕事に感銘を受けた彼は、普段の彫刻制作と並行して人形制作も始めました。約 5 年後、彼は新たな人形師を育成するために設立された阿波木偶制作保存会に入会しました。その時から、人形作りが彼の専業となりました。

こうした道筋を経て人形師になるのは、珍しくありません。多くの職人が、木工、竹工芸、あるいは現代の道具を使ったデジタルモデリングなど、関連分野を経て阿波人形淨瑠璃の世界へと足を踏み入れます。人形作りは伝統と革新が融合したものであり、新しい職人たちは古来の技法から学ぶことができます。

人形作りの技術

阿波人形淨瑠璃で使われる人形は、演目やニーズに合わせて各パーツを調整しながら段階的に作られます。各人形の頭には、動きや表情を可能にする複雑な仕掛けが組み込まれています。1 つの頭を作るのに少なくとも 1 ヶ月かかります。

大量生産ではないため、人形 1 体 1 体には細心の注意を払って調整する必要があります。人形師は、人形の動き方や操作方法、さらに舞台上で使ううえでの耐久性などを考慮しなければなりません。

人形師は、徳島県外からも人形の修理依頼を定期的に受けます。中には江戸時代中期に作られた人形が、現在でも使われていることがあります。古い人形を修理しながら、人形師たちは過去の名工たちが用いた技法や素材・形の選び方を研究し、道具の跡や構造の変化などから、デザインや製作工程に関する貴重な知見を得ます。

修理は学びの機会と捉えられています。人形師には「修理から学ぶことができる。だから、できるだけ多くの人形を修理しなさい」という言い伝えがあります。現代の職人たちは、修理を通して、もはや正式な場では教えてもらえない技法を学ぶことができます。

伝統と系譜

徳島県は古くから、人形作りの高度な技術と結びついてきました。ここで作られる人形は、その見た目だけでなく、実用性の高さでも知られています。何十年、あるいは何世紀も使用されてもなお、機能を維持する人形は、特に高く評価されています。

古い人形は、仕掛けが少ないものが多く、1500 年代から 1600 年代の古浄瑠璃（歌語り）の初期の時代を反映しています。簡素であるにもかかわらず、これらの人形は今でもしっかり動きます。長い年月を経て手を加えられたものも多いものの、今なお舞台での役割を果たし続けています。長く使われ続けることは、その製作に込められた技術の高さを物語り、現代の職人技の基準を形作っています。

伝統の継承

阿波人形浄瑠璃の伝統を継承する上で、人形師と同様に重要なのは、人形遣い、太夫、そして三味線奏者です。人口減少と伝統芸能への新規参入者の減少により、これらの役割を担う演者を集めることがますます困難になっており、この芸能がどれだけ長く受け継がれていけるかが懸念されています。

しかし、人形師たちは楽観的な見方を崩していません。彼らは、今日では様々な方面からこの伝統に参入する人がいると指摘しています。3D プリンターなどのデジタルツールを扱ってきた人は、人形作りの現場で活躍できるかもしれません。脚本家や小説家なら、劇作家として貢献できるかもしれません。音楽家なら、太夫や三味線奏者という新たな道を見つけるかもしれません。

徳島県立阿波十郎兵衛屋敷は、阿波人形浄瑠璃に特化した人形劇場兼博物館で、この芸能の保存活動の拠点となっています。来場者は、舞台を鑑賞したり、人形の仕組みを学んだり、人形関連の工芸品の指導者と交流したりすることができます。これは重要なことです。なぜなら、人形師たちは、この芸能を真に理解するには、人形に触れ、舞台を鑑賞し、一つ一つの製作に込められた労力を理解することが大切だと考えているからです。

阿波人形浄瑠璃に関わる人々は、技術の伝承に尽力しています。彼らは、体験や教育、共同制作を通じて、新しい世代がこの芸能を継承し、守り続けることで、これからもずっと大切なものとして残ることを願っています。人形師たちは、製作、修復、教育を通じて、この数世紀にわたる芸術を生かし続けるでしょう。

【タイトル】 徳島県立阿波十郎兵衛屋敷/農村舞台（歴史、構造、村）

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web / その他

<簡体字>

阿波人形浄瑠璃の乡村舞台

徳島県立阿波十郎兵衛宅邸，是一座专门展示配合和歌说唱（浄瑠璃）操纵木偶的日本传统木偶戏——“阿波人形浄瑠璃”的木偶戏剧场兼资料馆。阿波人形浄瑠璃是一种由说唱、三味线与操偶师三要素构成的综合性艺术，被指定为国家重要无形民俗文化遺産。江戸时代（1603-1867 年）在阿波国（今徳島县）发展起来。

这座剧场与资料馆，建在江戸时代的村吏——板东十郎兵衛旧宅的遗址上。他的名字也被用作在浄瑠璃木偶戏中登场的主人公的姓名。

徳島県立阿波十郎兵衛宅邸，通过定期举办演出和体验课程，在城市地区开展阿波人形浄瑠璃的保护与传播活动。然而，这种木偶戏的根源其实在乡村。村民们搭建简易舞台，通过人形浄瑠璃的演出来赞颂神明、表达对丰收的感恩。

以神社为舞台

尤其是在吉野川流域等村落中，居住着相对富裕的村民。他们会邀请巡回演出的木偶戏剧团到村里或家中进行表演。但对于居住在山区或交通不便地区的人们来说，则没有这样的机会。虽然当地的大名（领主）会限制公共集会，但由于神社区域是宗教性质的地区活动场所，所以集会是允许的。因此，神社便成为了徳島县内人形浄瑠璃的主要演出地点。

舞台通常设在神社区域内的树林中。木偶戏被视为对神明的献礼，多供奉给当地的守护神。由此，木偶戏集取悦神明和娱乐大众的双重作用于一身。人们为了欣赏木偶戏、感恩丰收，并加深地区社会的情感链接而聚集在一起。

吉野川承担了运送操偶师们及其道具的关键作用。作为四国地区最大的河流，吉野川是物资与人员往来不可或缺的交通要道。徳島的主要产业——蓝染（以靛蓝作为染料进行

染色的染物)，同样是沿河发展起来的。许多富有的蓝染商人通过提供演出资金、允许在自己的土地上演出等方式，支持了包括阿波人形净琉璃在内的艺术的发展。此类河川贸易、农业与文化交流相互交织，使阿波人形净琉璃得以传播到整个乡村地区。

舞台的结构与设计

乡村的木偶舞台通常是搭建在户外的木结构剧场，设有供操偶师表演的高台舞台以及观众看不见的后台空间。其中最具特色的是被称为“袄络操”（内置绳索和各种机关、绘有画面的多扇拉门）的装置，用以增强演出效果。正是因为有了这些机关，对于很少有机会观看表演的人们而言，舞台便成为了充满动感、令人印象深刻的特殊存在。舞台设计简单质朴，旨在体现与神明及自然的深层联结。通过将舞台设置在神社区域，更强化了演出本身的神圣性。

从历史上看，木偶戏最为盛行的季节是秋季，因为这恰与丰收庆典重合，是村民们表达感恩的时节。春季则会举行祈求下一季丰收的演出。这些活动标示了农事历（记载农事活动所需事项及年度节庆等内容的历法）中的重要节点，承担了强化地区联结与加深信仰的作用。

当地居民的保护活动

如今，德岛县内各地仍保留着许多阿波人形净琉璃的舞台，乡村木偶舞台的数量居日本之首。很多舞台至今仍在年度节庆活动中发挥作用，其中约有 12 处仍有木偶戏演出。

这些乡村舞台能存续至今，很大程度上得益于当地居民的不懈努力。许多传承者已是年过古稀的老人，他们从先辈那里学到了与木偶戏相关的技艺，凭借热情与训练将传统守护至今。然而，传承者日益减少，未来的演出能维持多久已成为令人忧虑的现实问题。

<繁体字>

阿波人形淨琉璃的農村舞台

德島縣立阿波十郎兵衛宅邸，是一座專門展示配合和歌說唱（淨琉璃）操縱木偶的日本傳統木偶劇「阿波人形淨琉璃」的木偶劇場兼資料館。阿波人形淨琉璃是一種由說唱、三味線與操偶師三要素構成的綜合性藝術，被指定為國家重要無形民俗文化遺產。江戶時代（1603-1867 年）在阿波國（今德島縣）發展起來。

這座劇場與資料館，建在江戶時代的村役人板東十郎兵衛舊宅的遺址上。他的名字也被用作在淨瑠璃木偶劇中登場的主角姓名。

德島縣立阿波十郎兵衛宅邸，透過定期舉辦公演和體驗課程，在城市地區開展阿波人形淨瑠璃的保護與傳播活動。然而，這種木偶劇的根源其實在農村。村民們搭建簡易舞台，透過人形淨瑠璃的演出來讚頌神明、表達對豐收的感恩。

以神社為舞台

尤其是在吉野川流域等村落中，居住著相對富裕的村民。他們會邀請巡迴演出的木偶劇團到村裡或家中進行表演。但對於居住在山區或交通不便地區的人們來說，則沒有這樣的機會。雖然當地的大名（領主）會限制公共集會，但由於神社區域是宗教性質的地區活動場所，所以集會是被允許的。因此，神社便成為了德島縣內人形淨瑠璃的主要演出地點。

舞台通常設在神社區域內的樹林中。木偶劇被視為對神明的獻禮，多供奉給當地的守護神。由此，木偶劇兼具了取悅神明和娛樂大眾的雙重作用。人們為了欣賞木偶劇、感恩豐收，並加深地區社會的情感連結而聚集在一起。

吉野川承擔了運送操偶師們及其道具的關鍵作用。作為四國地區最大的河流，吉野川是物資與人員往來不可或缺的交通要道。德島的主要產業藍染（以靛藍作為染料進行染色的染物），同樣是沿河發展起來的。許多富有的藍染商人透過提供演出資金、允許在自己的土地上公演等方式，支持了包括阿波人形淨瑠璃在內的藝術的發展。此類河川貿易、農業與文化交流相互交織，使阿波人形淨瑠璃得以傳播到整個農村地區。

舞台的結構與設計

農村的木偶舞台通常是搭建在戶外的木結構劇場，設有供操偶師表演的高台舞台以及觀眾看不見的後台空間。其中最具特色的是被稱為「襖絡操」（內置繩索和各種機關、繪有畫作的多扇推拉門）的裝置，用以增強演出效果。正是因為有了這些機關，對於很少有機會觀看表演的人們而言，舞台便成為了充滿動感、令人印象深刻的特殊存在。舞台設計簡單質樸，旨在體現與神明及自然的深層連結。透過將舞台設置在神社區域，更強化了演出本身的神聖性。

從歷史上看，木偶劇最為盛行的季節是秋季，因為這恰與豐收慶典重合，是村民們表達感恩的時節。春季則會舉行祈求下一季豐收的演出。這些活動代表著農民曆（記載農事活動所需事項及年度節慶等內容的曆法）中的重要節慶，承擔了強化地區連結與加深信仰的作用。

當地居民的保護活動

如今，德島縣內各地仍保留著許多阿波人形淨瑠璃的舞台，農村木偶舞台的數量居日本之首。很多舞台至今仍在年度節慶活動中發揮作用，其中約有 12 處仍有木偶劇演出。

這些農村舞台能存續至今，很大程度上得益於當地居民的不懈努力。許多傳承者已是年事已高的居民，他們從老一輩那裡學到了與木偶劇相關的技藝，憑藉熱情與訓練將傳統守護至今。然而，傳承者日益減少，未來的演出能維持多久已成為令人擔憂的現實問題。

<日本語仮訳>

阿波人形淨瑠璃の農村舞台

徳島県立阿波十郎兵衛屋敷は、歌語り（浄瑠璃）にあわせて人形を操る、日本の伝統的な人形芝居「阿波人形浄瑠璃」を専門とする人形劇場兼資料館です。阿波人形浄瑠璃は、国指定重要無形民俗文化財で、語り、三味線、人形遣いという三つの要素から成る総合芸術です。江戸時代（1603～1867 年）に阿波国（現在の徳島県）で発展しました。

この劇場と資料館は、江戸時代の村役人・板東十郎兵衛の旧邸の跡地に建てられています。彼の名は、浄瑠璃の人形芝居に登場する主人公の名前として使われています。

徳島県立阿波十郎兵衛屋敷は、定期公演や体験教室を通じ、都市部で阿波人形浄瑠璃の保存と発信を行っています。しかし、この人形芝居のルーツは農村にます。村人たちは簡素な舞台を作り、神々を称え、豊作への感謝を表すために人形浄瑠璃を上演していました。

神社を舞台として

特に吉野川流域などの村には、比較的裕福な住民が住んでいました。彼らは旅回りの人形一座を村や自宅に招いて上演させることもありましたが、山間部や交通の不便な地域に住む人々にはそのような機会がありませんでした。当地の大名（領主）によって公共の集会は制限されていましたが、神社の境内は宗教的な地域活動の場であったため、集まりは許されていました。そのため、神社は徳島県内における人形浄瑠璃の主要な上演場所となったのです。

舞台は通常、神社の境内の森の中に設けられました。人形芝居は神々への奉納と見なされ、多くは鎮守の神に捧げられました。こうして人形芝居は、神々と人々の双方を楽しませる娯楽として機能していました。人々は人形芝居を楽しみ、収穫に感謝し、地域社会の絆を深めるために集まりました。

吉野川は、人形遣いたちとその道具を運ぶ中心的な役割を担っていました。四国最大の河川である吉野川は、物と人には欠かすことのできない交通路でした。徳島の主要産業である藍染（藍を染料として用いた染物）もこの川沿いで発展しました。裕福な藍商人たちの多くは、上演資金を提供したり、自らの土地での公演を許可するなど、阿波人形浄瑠璃を含む芸術を支援しました。こうした河川交易・農業・文化交流が相まって、阿波人形浄瑠璃は農村地域全体に広まっていきました。

舞台の構造とデザイン

農村の人形舞台は、たいてい屋外に設けられた木造の劇場で、操り手が演じる高床の舞台と、観客には見えない裏方スペースが設けられていました。なかでも特徴的なのが「襖からくり」（内部に紐やさまざまな仕掛けが施され、絵が描かれた複数の引き戸）と呼ばれる装置で、演出効果を高めるものでした。こうした仕掛けのおかげで、芝居をめったに観られない人々にとって、舞台は躍動感があり心に残る特別なものになりました。舞台のデザインは簡素で、神々や自然との深いつながりを表すためのものでした。神社の境内に舞台を置くことで、上演そのものの神聖さを強調する役割を果たしていました。

歴史的に見て、人形芝居が最も盛んに行われたのは秋で、それは、収穫祭と重なり、村人たちが感謝を捧げる時期だったからです。春には、次の季節の豊作を願う上演が行われました。こうした催しは農事暦（農作業に必要な事柄や年中行事などを注記した暦法）における重要な節目を示すものであり、地域の結びつきや信仰を強める役割を担っていました。

地元住民による保存活動

現在、徳島県内には阿波人形浄瑠璃の舞台が各地に残されており、農村の人形舞台の数は日本一です。舞台の多くは年中行事として今でも使われており、そのうち約 12 か所では人形芝居が上演されています。

こうした農村舞台が今日まで存続できたのは、地元住民の尽力によるところが大きいです。多くの担い手は高齢の住民で、先代から人形芝居に関連する技術を学び、熱意と訓練によって伝統を守り続けてきました。しかし、担い手の減少は進んでおり、今後どの程度まで上演を継続できるのか懸念が高まっています。

【タイトル】 徳島県立阿波十郎兵衛屋敷/人形浄瑠璃の国、徳島
吉野川と藍、そして人形浄瑠璃

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web / その他

<簡体字>

吉野川与蓝染孕育的木偶戏

徳岛数个世纪以来的社会与经济发展，始终与木偶戏、农业、蓝染这些彼此紧密相连的文化遗产息息相关。

木偶戏的中心

徳岛县立阿波十郎兵卫宅邸是一座旨在保护与传承当地木偶戏——“阿波人形浄瑠璃”的剧院兼资料馆。来访者可以现场观赏演出、参观关于阿波人形浄瑠璃历史的展览，并观摩木偶的制作工艺。

此外，这里还承担着培养新一代操偶师的职能，作为研修机构支持传统的传承。徳岛县的木偶戏剧团数量位居日本首位。

木偶戏的传统

由于阿波人形浄瑠璃拥有悠久的传统，徳岛县常被称为“木偶之国”。阿波人形浄瑠璃是一种配合和歌说唱（浄瑠璃）操纵木偶的表演艺术，起源于江户时代（1603-1867年）的阿波国（今徳岛县）。

这门戏剧艺术既承载着民众的娱乐需求，也肩负着传递历史记忆、道德训诫与文化价值的使命。每具木偶都由三位操偶师共同操纵。第一位操纵头部与右臂，第二位操纵左臂，第三位操纵脚部。这项协作需要多年的修炼与高度精密的配合。舞台一侧坐着太夫与三味线演奏者，由太夫负责所有台词与说唱，三味线的伴奏则强化情感表达，突出紧张、悲伤、喜悦等情感瞬间。

特别是在十九世纪蓝染业的鼎盛时期，富有的蓝染商人作为赞助者，以财力支持推动了德岛人形净瑠璃地位的提升。如今，演出仍作为重要的文化活动得以延续，成为当代人重新认识自身传统与历史脉络的契机。

吉野川

吉野川作为日本三大暴川（水患频繁的河流）之一，纵贯德岛县中心地带，自江户时代起便对该地区的经济产生了深刻影响。当时河堤与水坝建设尚不完善，每逢暴雨便河水泛滥，却也将富含矿物质的土壤从山地冲刷至河流沿岸的低地农田。泛滥的河水成为天然肥料，不仅提升了农业生产力，更孕育出了养分丰富的土壤，这恰好满足了阿波蓝（德岛县特产的传统天然靛蓝染料）的栽培所需。由此，德岛得以发展成为这种天然染料生产与销售的重要据点。

吉野川为蓝染相关物资的运输提供了便利，周边地区也因此成为活跃的贸易地带。河岸边蓝染仓库林立，船只日常穿梭，将靛蓝及其制品运送给买家。德岛经济由此迅速发展，至 1890 年已成为人口达 6 万、位居日本第 11 位的城市。

这份繁荣为阿波人形净瑠璃与阿波舞等文化活动提供了强有力的支持。特别是因蓝染致富的商人们，是这一艺术的有力赞助者，为文化发展做出了重要贡献。同时，吉野川还为广阔的农业区域提供了便利，将粮食源源不断地运往北部和东部城市。如今，除靛蓝外，这里还盛产红薯、莲藕、香菇等，产量位居日本前列，因而该地区也被誉为“关西的厨房”。在河口附近，还可以捕捞鳗鱼幼鱼、蛤蜊等。此外，这里还生产有青海苔中最高级品种之称的“筋青海苔（细长条状的青海苔）”，约占日本全国总产量的九成。

如果没有吉野川，蓝染产业与地区木偶戏传统的发展都会失去依托，无法发展到如今的规模。

蓝染（以靛蓝作为染料进行染色的染物）

在德岛的传统工艺中，蓝染尤为著名。蓼蓝（学名：Persicaria tinctoria）经过精细的发酵过程，转化为深邃的蓝色染料。阿波蓝的特点在于色泽深沉却不显晦暗，呈现鲜明而富有光泽的色调。这种独特的色调作为“Japan Blue”在国际上享有盛誉，被视为蓝染文化的象征，为日本国内外友人所熟知。江户时代，德岛发展为日本屈指可数的蓝染产地，蓝色不仅与地区紧密相连，更成为德岛制造业与身份认同的核心象征。

染色需反复将布料浸入染液，并暴露于空气中使其氧化，如此往复，使得色彩层层叠加。经验丰富的工匠会精准计算每一道工序，以确保呈现理想的色调。这些跨越世代的技法，至今仍通过家族经营的作坊和小规模作业场代代相传。

许多蓝染作坊开放参观与体验，使人们能够近距离感受传统技法的魅力。在传统与观光的融合中，蓝染工艺不断创新发展。在坚守古老技艺精髓的同时，也积极探索符合现代市场需求的新材料与新设计。

相互支撑的关系

木偶戏、吉野川、蓝染——这三者构成了德岛文化生活的核心支柱。吉野川孕育了农业，而农业又支撑起了蓝染产业与木偶戏艺术的发展。德岛县立阿波十郎兵卫宅邸至今仍在上演着木偶戏，传递着艺术的震撼力与生命力。通过深层次地维系与自然的联系、支持文化教育，德岛至今依然在延续并守护其丰厚的传统底蕴。

<繁体字>

吉野川與藍染孕育的木偶劇

德島數個世紀以來的社會與經濟發展，始終與木偶劇、農業、藍染這些彼此緊密相連的文化遺產息息相關。

木偶劇的中心地

德島縣立阿波十郎兵衛宅邸是一座旨在保護與傳承當地流傳至今的木偶劇「阿波人形淨瑠璃」的劇場兼資料館。來訪者可以現場觀賞公演、參觀關於阿波人形淨瑠璃歷史的展覽，並觀摩木偶的製作工藝。

此外，該設施還承擔著培育新世代操偶師的職能，作為研修機構支持傳統的傳承。德島縣的木偶劇團數量位居日本首位。

木偶劇的傳統

由於阿波人形淨瑠璃擁有悠久的傳統，德島縣常被稱為「木偶之國」。阿波人形淨瑠璃是一種配合和歌說唱（淨瑠璃）操縱木偶的表演藝術，起源於江戶時代（1603-1867年）的阿波國（今德島縣）。

這門戲劇藝術既承載著民眾的娛樂需求，也肩負著傳遞歷史記憶、道德訓誡與文化價值的使命。每具木偶都由三位操偶師共同操縱。第一位操縱頭部與右臂，第二位操縱左臂，第三位操縱腿部。這項協作需要多年的修煉與高度精密的配合。舞台一側坐著太夫與三味線演奏者，由太夫負責所有台詞與說唱，三味線的伴奏則強化情感表達，突出緊張、悲傷、喜悅等情感瞬間。

特別是在十九世紀藍染業的鼎盛時期，富有的藍染商人作為贊助者，推動了德島人形淨瑠璃地位的提升。如今，演出仍作為重要的文化活動得以延續，成為當代人重新認識自身傳統與歷史脈絡的契機。

吉野川

吉野川作為日本三大暴川（水患頻繁的河流）之一，縱貫德島縣中心地帶，自江戶時代起便對該地區的經濟產生了深刻影響。當時河堤與水壩建設尚不完善，每逢大雨便河水氾濫，卻也將富含礦物質的土壤從山地沖刷至河流沿岸的低地農田。氾濫的河水成為天然肥料，不僅提升了農業生產力，更孕育出了養分豐富的土壤，這恰好滿足了阿波藍（德島縣特產的傳統天然靛藍染料）的栽培所需。由此，德島得以發展成為這種天然染料生產與銷售的重要據點。

吉野川便捷了藍染相關物資的運輸，週邊地區也因此成為活躍的貿易地帶。河岸邊藍染倉庫林立，船隻日常穿梭，將靛藍及其製品運送給買家。德島經濟由此迅速發展，至1890年已成為人口達6萬、位居日本第11大的城市。

這份繁榮為阿波人形淨瑠璃與阿波舞等文化活動提供了強有力的支持。特別是因藍染致富的商人們，是這一藝術的有力贊助者，為文化發展做出了重要貢獻。同時，吉野川還為廣闊的農業區域提供了便利，將糧食源源不斷地運往北部和東部城市。如今，除靛藍外，這裡還盛產番薯、蓮藕、香菇等，產量位居日本前列，因而該地區也被譽為「關西的廚房」。在河口附近，還可以捕撈鰻魚幼魚、蛤蜊等。此外，這裡還生產有青海苔中最高級品種之稱的「筋青海苔（細長條狀的青海苔）」，約佔日本全國總產量的九成。

如果沒有吉野川，藍染產業與地區木偶劇傳統的發展都會失去依托，無法發展到如今的規模。

藍染（以靛藍作為染料進行染色的染物）

在德島的傳統工藝中，藍染尤為著名。蓼藍（學名：Persicaria tinctoria）經過精細的發酵過程，轉化為深邃的藍色染料。阿波藍的特點在於色澤深沉卻不顯晦暗，呈現鮮明而富有光澤的色調。這種獨特的色調作為「Japan Blue」在國際上享有盛譽，被視為藍染文化的象徵而聞名於日本國內外。江戶時代，德島發展為日本屈指可數的藍染產地，藍色不僅與地區緊密相連，更成為德島製造業與身份認同的核心象徵。

染色工序需反復將布料浸入染液，並暴露於空氣中使其氧化，如此往復，使得色彩層層疊加。經驗豐富的製偶師會精準計算每一道工序，以確保呈現理想的色調。這些跨越世代的技法，至今仍透過家族經營的作坊和小規模的作業場代代相傳。

許多藍染作坊開放參觀與體驗，使人們能夠近距離感受傳統技法的魅力。在傳統與觀光的融合中，藍染工藝不斷創新發展。在堅守古老技藝精髓的同時，也積極探索符合現代市場需求的新素材與新設計。

相互支撐的關係

木偶劇、吉野川、藍染，這三者構成了德島文化生活的核心支柱。吉野川孕育了農業，而農業又支撐起了藍染產業與木偶劇藝術的發展。德島縣立阿波十郎兵衛宅邸至今仍會舉辦木偶劇公演，傳遞著藝術的震撼力與生命力。透過深層次地維繫與自然的聯繫、支持文化教育，德島至今依然在延續並守護其豐厚的傳統底蘊。

<日本語仮訳>

吉野川と藍染が育んだ人形芝居

何世紀にもわたる徳島の社会的・経済的な発展は、人形芝居、農業、藍染という相互に結びついた文化的遺産と関係しています。

人形芝居の中心地

徳島県立阿波十郎兵衛屋敷は、地域に伝わる人形芝居「阿波人形浄瑠璃」を保存・継承するための劇場兼資料館です。来館者は公演を生で鑑賞したり、阿波人形浄瑠璃の歴史に関する展示を見学したり、人形の制作工程を見ることができます。

また、この施設は新しい人形遣いを育成する研修施設としても機能しており、伝統の継承を支えています。徳島県には、日本で最も多くの人形座が存在します。

人形芝居の伝統

阿波人形浄瑠璃の長い伝統から、徳島県は「人形の国」と呼ばれることがあります。阿波人形浄瑠璃は、歌語り（浄瑠璃）に合わせて人形を操る芸能で、江戸時代（1603～1867 年）の阿波国（現在の徳島県）を起源とします。

この演劇的な芸能は、娯楽であるとともに、歴史的出来事、道徳的教訓、文化的価値を伝える役割も担ってきました。1 体の人形は 3 人の人形遣いによって操作されます。ひとりとは頭と右腕を動かし、二人目は左腕、三人目は脚を動かします。この共同作業には、長年の修練と緻密な連携が求められます。舞台脇には太夫と三味線弾きが座り、太夫がすべての台詞と語りを担い、三味線の伴奏は感情表現を高め、緊張や悲しみ、喜びといった瞬間を強調します。

特に 19 世紀の藍商が最盛期だった頃は、裕福な藍商人が後援者となり、徳島の人形浄瑠璃の地位が高まりました。今日でも上演は重要な文化的活動として続いており、今の世代が、自分たちの伝統や歴史を再認識する機会となっています。

吉野川

日本三大暴れ川（洪水や氾濫による水害の頻度が高い川）の一つとされる吉野川は徳島県を中心に流れ、江戸時代以来、この地域の経済に大きな影響を与えてきました。当時は堤防やダムが十分でなく、大雨のたびに川が氾濫しましたが、これにより山からミネラルを多く含んだ土壌が、河川沿いの低地の農地へと運ばれました。氾濫した川の水は天然の肥料となり、農業の生産性を高め、栄養豊富な土壌を必要とする阿波藍（徳島県で生産される伝統的な天然藍染料）の栽培に適した土地を作り出しました。こうして、徳島はこの天然染料の生産と販売の重要な拠点として発展しました。

吉野川は藍染のために用いられる資材の輸送を可能にし、周辺地域は活発な交易地帯となりました。川岸には藍の倉庫が立ち並び、舟は日常的に藍やその製品を買い手へと運びました。徳島の経済は急速に発展し、1890 年には人口 6 万人を擁する国内第 11 位の都市となりました。

この繁栄は阿波人形浄瑠璃や阿波踊りといった文化活動を支えました。特に藍染めで財を成した商人たちは、芸術を支える後援者となり、文化の発展に貢献しました。また、吉野川によって広範な農業地帯が支えられ、食料を北や東の都市部へと運ばれました。今でも藍のほか、サツマイモ、レンコン、シイタケなどが栽培され、その生産量は全国有数を誇ることから、この地域は「関西の台所」と呼ばれています。河口付近ではウナギの稚魚やアサリなどが漁獲されています。また、青のりの中でも最高級品種といわれる「すじ青のり（筋状になって成長する青のり）」も、全国の約 9 割を生産しています。

吉野川がなければ、藍産業も地域の人形芝居の伝統も、今日ほど発展することはなかったでしょう。

藍染（藍を染料として用いた染物）

徳島の伝統工芸の中でも特に知られているのが藍染です。蓼藍（学名：Persicaria tinctoria）は丹念な発酵の過程を経て深い藍色の染料となります。阿波藍の特徴は、深みのある青色ながらも暗さを感じさせず、鮮やかで輝くような色合いを持つ点です。この色合いは「ジャパンプルー」として海外でも高い評価を受け、藍染文化の象徴として日本国内外で知られています。江戸時代、徳島は日本有数の藍染の産地となり、藍色は地域と密接に結びつき、徳島のものづくりやアイデンティティの象徴となりました。

染色は染液に何度も浸し、空気にさらして酸化させる工程を繰り返すことで色が重なっていきます。熟練の職人は求める色合いを出すために工程を緻密に計算しながら作業します。その技法は世代を超えて受け継がれ、今日も家族経営の工房や小規模な作業場を通して存続しています。

多くの藍染工房は見学や体験を受け入れており、人々が伝統技法に直接触れることができます。伝統と観光が関わり合うことで、藍染は進化を遂げました。製法は古くからのものを受け継ぎつつも、現代の市場に合わせた新しい素材やデザインの試みも行われています。

支え合う関係

人形芝居、吉野川、藍染——これら三つは徳島の文化的生活を支える柱です。川は農業を育み、農業は産業と芸術を支えています。徳島県立阿波十郎兵衛屋敷は、人形芝居の公演における迫力を伝えています。自然との深いつながりを保ち、文化教育を支えることで、徳島は今日もその豊かな伝統を守り続けています。

【タイトル】 徳島県立阿波十郎兵衛屋敷/人形の操り方 （かしら、腕、足）

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web / その他

<簡体字>

阿波十郎兵衛宅邸の操偶师

徳島県立阿波十郎兵衛宅邸是一座木偶戏剧场兼资料馆，目的是保护与传承诞生于江戸时代（1603-1867 年）阿波国（今徳岛县）的日本传统木偶戏艺术——“阿波人形浄瑠璃”。来访者可以现场观赏演出，参观有关该艺术的历史展览，还可以近距离观摩木偶的制作工艺。此外，作为培养新一代操偶师的场所，也在传统传承中扮演着重要角色。

设施名称源于名为“十郎兵卫”这一虚构的木偶角色。该角色以江戸时代一位真实存在过的村吏——板东十郎兵卫为原型，而这座设施正建于历史上十郎兵卫的宅邸遗址上。

关于木偶

阿波人形浄瑠璃的木偶高约 85~140 厘米，主要为木制。手脚及面部部件均采用可动式关节设计，能够细腻地表现悲伤、喜悦等各种情感。木偶身着精巧的传统服饰，通过手动操控可展现细腻生动的动作。阿波人形浄瑠璃的最大特征在于木偶头部很大。文乐（大阪的传统木偶戏）使用四寸（约 12cm）型，而阿波则以六寸（约 18cm）型为基本规格。这是明治时代为提升乡村舞台的呈现效果而独创的地方特色设计。使用这种大型头部，可以实现更为夸张而富有动感的操纵效果，从而发展出别具一格的表演风格。

每具木偶都由三位操偶师共同操纵。三人分别负责木偶身体的不同部位。通过高度默契的配合与精准操作，共同为木偶注入生命活力。

主操手

主操手负责木偶的头部和右臂。通过操控内部的杠杆与机关，表现木偶的点头、转头以及眼、口的动作。借此，木偶能够传达出故事中蕴含的细腻情感与动作神态。头部装有操纵用的手柄，其作用在于稳定木偶的躯体重心，并联动整体的动作。

由于主操手需从高于其他两人的位置进行操作，因此需穿着高齿屐。承担这一角色，不仅需要多年积累的经验，更需要在技术与情感层面对故事有深刻的理解。

左操手

左操手使用长杆负责木偶的左臂和左手。左操手对于呈现逼真的动作来说不可或缺，特别是在需要双臂协同的动作（如拥抱、拾物等）中作用尤为关键。为避免遮挡观众视线，左操手多从木偶后方进行操作，且需要根据主操手时机，达成精准配合。

足操手

足操手负责木偶的腿部和脚部，表现行走、下跪、舞蹈等动作。演出期间，足操手需要始终保持半蹲姿势，承受较大的身体负荷。木偶通常维持在距舞台地面约 80 厘米的高度，通过技巧使行走动作看上去自然流畅。足操手必须与其他两人在步幅和平衡上完全同步，从而营造出木偶仿佛自主行动的感觉。

三人的配合

三位操偶师虽处于观众视野之中，但通过身着黑色的服装与头巾，在舞台上被视为“不存在的存在”。舞台一侧坐着说唱者（太夫）与三味线演奏者，太夫负责所有台词与说唱，三味线的伴奏则强化情感表达，突出紧张、悲伤、喜悦等瞬间。

在阿波十郎兵卫宅邸，除演出外，还开展体验型工作坊、木偶实物展示，以及介绍阿波人形净瑠璃历史与发展的展览等活动，也发挥着教育设施的功能，让来访者能够学习并亲身感受这门传统艺术。

<繁体字>

阿波十郎兵衛宅邸的操偶師

德島縣立阿波十郎兵衛宅邸是一座木偶劇場兼資料館，目的是保護與傳承誕生於江戶時代（1603-1867 年）阿波國（今德島縣）的日本傳統木偶劇藝術「阿波人形淨瑠璃」。來訪者可以現場觀賞公演，參觀有關該藝術的歷史展覽，還可以近距離觀摩木偶的製作工序。此外，作為培育新世代操偶師的場所，也在傳統傳承中扮演著重要角色。

設施名稱源於名為「十郎兵衛」這一虛構的木偶角色。該角色以江戶時代一位真實存在過的村役人板東十郎兵衛為人物原型，而這座設施正建於歷史上十郎兵衛的宅邸遺址

上。

關於木偶

阿波人形淨瑠璃的木偶高約 85～140 公分，主要為木製。手腳及臉部均採用可動式設計，能夠細膩地表現悲傷、喜悅等各種情感。木偶身著精巧的傳統服裝，透過手動操控可展現細膩生動的動作。阿波人形淨瑠璃的最大特徵在於木偶的頭部很大。文樂（大阪的傳統木偶劇）使用四寸（約 12 公分）型，而阿波則以六寸（約 18 公分）型為基本規格。這是明治時代為提升農村舞台的呈現效果而獨創的地方特色設計。使用這種大型頭部，可以呈現更為誇張而富有動感的操縱效果，從而發展出別具一格的表演風格。

每具木偶都由三位操偶師共同操縱。三人分別負責木偶身體的不同部位。透過高度默契的配合與精準操作，共同為木偶注入生命活力。

主操手

主操手負責木偶的頭部和右臂。透過操控內部的槓桿與機關，表現木偶的點頭、轉頭以及眼、口的動作。借此，木偶能夠傳達出故事中蘊含的細膩情感與動作神態。頭部裝有操縱用的手柄，其作用在於穩定木偶的軀體重心，並聯動整體的動作。

由於主操手需從高於其他兩人的位置進行操作，因此需穿著高木屐。承擔這一角色，不僅需要多年積累的經驗，更需要在技術與情感層面對故事有深刻的理解。

左操手

左操手使用長桿負責木偶的左臂和左手。左操手對於呈現逼真的動作來說不可或缺，特別是在需要雙臂協同的動作（如擁抱、拾物等）中作用尤為關鍵。為避免遮擋觀眾視線，左操手多從木偶後方進行操作，且需要根據主操手時機，達成精準配合。

足操手

足操手負責木偶的腿部和足部，表現行走、下跪、舞蹈等動作。公演期間，足操手需要始終保持半蹲姿勢，承受較大的身體負荷。木偶通常維持在距舞台地面約 80 公分的高度，透過技巧使行走動作看上去自然流暢。足操手必須與其他兩人在步伐和平衡上完全同步，從而營造出木偶彷彿自主行動的感覺。

三人的配合

三位操偶師雖處於觀眾視野之中，但透過身著黑色的服裝與頭巾，在舞台上被視為「不存在的存在」。舞台一側坐著說唱者（太夫）與三味線演奏者，太夫負責所有台詞與說唱，三味線的伴奏則強化情感表達，突出緊張、悲傷、喜悅等瞬間。

在阿波十郎兵衛宅邸，除公演外，還舉辦體驗型工作坊、木偶實物展示，以及介紹阿波人形淨瑠璃歷史與發展的展覽等活動，也發揮著教育設施的功能，讓來訪者能夠學習並親身感受這門傳統藝術。

＜日本語仮訳＞

阿波十郎兵衛屋敷における人形遣い

徳島県立阿波十郎兵衛屋敷は、江戸時代（1603～1867 年）に阿波国（現在の徳島県）で生まれた日本の人形芝居の伝統芸能「阿波人形浄瑠璃」を保存・継承するための人形劇場兼資料館です。来館者は実演公演を鑑賞したり、この芸能の歴史に関する展示を見学したり、人形の制作工程を間近で見ることができます。また、後継の人形遣いを育成する場としても機能し、伝統の継承に重要な役割を果たしています。

施設名は、「十郎兵衛」という架空の人形キャラクターにちなんで名づけられました。このキャラクターは、江戸時代に実在した村役人・板東十郎兵衛をモデルとし、当時この地にあった十郎兵衛の屋敷跡に施設が建てられています。

人形について

阿波人形浄瑠璃の人形は高さ 85～140 センチで、主に木製です。手足や顔の部位は可動式で、悲しみから喜びまで幅広い感情表現が可能です。精巧に作られた伝統衣装を身につけた人形は、繊細で生きているかのような動きができるよう手動で操られます。阿波人形浄瑠璃の最大の特徴は、人形の首（かしら）の大型化です。文楽（大阪の伝統的な人形芝居）は四寸（約 12cm）型ですが、阿波では六寸（約 18cm）型を基本としています。これは明治時代に農村舞台での見栄えを良くするために考案された地方独自の工夫です。この大型の首を使用することで、大振りでダイナミックな人形操作が可能となり、独自の演出法が生まれました。

1 体の人形は 3 人の人形遣いによって操作されます。3 人がそれぞれ人形の体の各部位を担当します。見事な連携と正確な操作を持つこの共同作業によって人形に命を吹き込みます。

主遣い

主遣いは人形の頭と右腕を担当します。内部のレバーや仕掛けを操作することで、人形のうなずき、首の回転、目や口の動きを表現します。これにより人形は、物語に込められた細やかな感情や仕草を

伝えることができます。頭部には操作用の柄（え）が取り付けられており、これが人形の体幹を安定させるとともに、全体の動きを連動させる役割も果たします。

主遣いはほかの二人より高い位置から操作するため、高下駄を履きます。この役割を担うには長年の経験と、物語の技術的・感情的要素を深く理解する力が必要です。

左遣い

左遣いは長い棒を使って人形の左腕と左手を担当します。左遣いは、リアルな動作を見せるのに不可欠で、特に両腕を同時に動かす必要がある場面（抱擁、物を拾うなど）では特に重要な役割です。観客の視界を遮らないよう、左遣いは人形の後方から操作することが多く、主遣いとの完璧なタイミング合わせが求められます。

足遣い

足遣いは人形の脚と足元を担当し、歩く、ひざまずく、踊るなどの動作を表現します。この役割は身体的にも負担が大きく、演者は公演中ずっと中腰の姿勢を維持します。人形は舞台床から約 80 センチの高さに保たれ、自然な歩行に見えるよう工夫されています。足遣いは他の二人と歩幅やバランスを完全に合わせ、あたかも人形が自立しているかのような錯覚を生み出します。

三人の連携

三人の人形遣いは観客の視界に入っていますが、黒い衣装と頭巾を身につけることで舞台上では「存在しないもの」として扱われます。舞台脇には語り手（太夫）と三味線弾きが座り、太夫がすべての台詞と語りを担当し、三味線の伴奏は感情表現を高め、緊張や悲しみ、喜びといった瞬間を際立たせます。

阿波十郎兵衛屋敷では公演に加えて、体験ワークショップ、人形の実物展示、阿波人形浄瑠璃の歴史や発展を紹介する展示なども行われており、来館者が伝統芸能を学び体感できる教育施設としても機能しています。

【タイトル】 徳島県立阿波十郎兵衛屋敷/長屋門

【想定媒体】 看板/アプリ QR コード/Web

<簡体字>

长屋门与蓝染商人的繁荣

徳岛县立阿波十郎兵卫宅邸（专门用于阿波人形净瑠璃的木偶戏剧场兼资料馆）入口处，矗立着一座被称为“长屋门”的传统大门。长屋门是常见于农家或武士宅邸入口的建筑样式，其特点在于不仅具备大门的功能，还可兼作仆役、佣人居住的简易房间或储藏空间。

徳岛县立阿波十郎兵卫宅邸的长屋门，原本是位于徳岛市以南约 13 公里的小松岛市一户蓝染商人宅邸的正门。根据专家推定，该建筑建于江户时代（1603-1867 年）后期。当时，小松岛一带气候温暖、土壤肥沃、水资源丰富，正值蓝染产业的鼎盛时期。吉野川支流新町川的沿岸，林立着与蓝染产业相关的仓库。这条河流被用于向生产者运输物资，以及将靛蓝染料和蓝染制品运送给买家。

从事蓝染贸易的商人们积累了丰厚财富与社会地位，其宅邸也建得庄严考究，以彰显其成功。因而长屋门不仅发挥实用功能，也是彰显家族繁荣与社会地位的象征性存在。

拥有这座长屋门的蓝染商人，在江户时代的小松岛经济中发挥了重要作用。蓝染广泛用于日本国内各地的纺织物，具有很高的商业价值。徳岛是日本首屈一指的靛蓝产地，像该长屋门主人这样的商人们，通过统筹栽培、加工到流通的各个环节而繁荣发展。长屋门的规模与精巧构造，至今仍诉说着当年家主在贸易上的成功。

1954 年，为保护这座面临老化与损毁危险的长屋门，并作为徳岛的文化遗产留存，而将其迁移到了现在的位置。为了尽可能地忠实再现原有的结构与布局，迁移过程中花费了极大心力。

门基使用的“青石（绿片岩）”是其特征之一。青石因挖掘地不同而有品类之分，徳岛所产的青石被称为“阿波青石”，因其耐久性与色泽清丽而被广泛用于徳岛的传统建

筑。长屋門中，青石作为坚固基座支撑着木结构骨架。

目前，这座长屋門已被指定为“国家登录有形文化遗产”。

＜繁体字＞

長屋門與藍染商人的繁榮

德島縣立阿波十郎兵衛宅邸（專門用於阿波人形淨瑠璃的木偶劇場兼資料館）入口處，矗立著一座被稱為「長屋門」的傳統大門。長屋門是常見於農家或武士宅邸入口的建築樣式，其特點在於不僅具備大門的功能，還可兼作僕役、傭人居住的簡易房間或儲藏空間。

德島縣立阿波十郎兵衛宅邸的長屋門，原本是位於德島市以南約 13 公里的小松島市一戶藍染商人宅邸的正門。根據專家推定，該建築建於江戶時代（1603-1867 年）後期。當時，小松島一帶氣候溫暖、土壤肥沃、水資源豐富，正值藍染產業的鼎盛時期。吉野川支流新町川的沿岸，林立著與藍染產業相關的倉庫。這條河流被用於向生產者運輸物資，以及將靛藍染料和藍染製品運送給買家。

從事藍染貿易的商人們積累了豐厚財富與社會地位，其宅邸也建得莊嚴考究，以彰顯其成功。因而長屋門不僅發揮實用功能，也是彰顯家族繁榮與社會地位的象徵性存在。

擁有這座長屋門的藍染商人，在江戶時代的小松島經濟中發揮了重要作用。藍染廣泛用於日本國內各地的紡織物，具有很高的商業價值。德島是日本首屈一指的靛藍產地，像該長屋門主人這樣的商人們，透過統籌栽培、加工到流通的各個環節而繁榮發展。長屋門的規模與精巧構造，至今仍訴說著當年家主在貿易上的成功。

1954 年，為保護這座面臨老化與損毀危險的長屋門，並作為德島的文化遺產留存，而將其遷移到了現在的位置。為了儘可能地忠實重現原有的結構與佈局，遷移過程中花費了極大心力。

門基使用的「青石（綠片岩）」是其特徵之一。青石因挖掘地不同而有品類之分，德島所產的青石被稱為「阿波青石」，因其耐久性與色澤清麗而被廣泛用於德島的傳統建築。長屋門中，青石作為堅固基座支撐著木結構骨架。

目前，這座長屋門已被指定為「國家登錄有形文化遺產」。

＜日本語仮訳＞

長屋門と藍商人の繁栄

徳島県立阿波十郎兵衛屋敷（阿波人形浄瑠璃に特化した人形芝居劇場・資料館）の入口には、「長屋門」と呼ばれる伝統的な門があります。長屋門は農家や武家屋敷の入口でよく見られる建築様式で、門としての機能とともに従者や使用人が住む簡素な部屋や収納スペースを兼ねた造りが特徴です。

徳島県立阿波十郎兵衛屋敷にある長屋門はもともと、徳島市の南約 13 キロに位置する小松島市にあった藍商人の屋敷の正門でした。専門家の推定では、江戸時代（1603～1867 年）の後期の建築とされています。当時、小松島周辺は温暖な気候、肥沃な土壌、豊富な水資源に恵まれ藍産業が最盛期を迎えていました。吉野川の支流である新町川沿いには藍産業に関連した倉庫が並んでいました。この川は、生産者へ物資を輸送したり、藍の染料や藍製品を買い手へ運搬するのに使われていました。

藍取引に関わる商人たちは富と社会的地位を築き、その邸宅もその成功を反映する格式ある造りでした。それゆえ、長屋門は実用的な役割を果たすだけでなく、家の繁栄や社会的地位を示す象徴的存在でもありました。

この長屋門を所有していた藍商人は、江戸時代の小松島経済において重要な役割を担っていました。藍染は日本全国の織物に使われる非常に価値の高い商品でした。徳島は日本有数の藍産地であり、この長屋門の所有者のような商人たちは、栽培から加工、流通までを統括することで繁栄しました。長屋門の規模や精巧な造りは、当主の交易における成功を今に伝えています。

1954 年、この長屋門は、老朽化や取り壊しの危険から保護し、徳島の文化遺産として保存する目的で、現在の場所に移築されました。移築の際には、元の構造や配置を可能な限り忠実に再現するよう細心の注意が払われました。

特徴の一つとして、門の基礎に使われている「青石（緑泥片岩）」が挙げられます。青石は採掘される地域によってブランドがあり、徳島で採れるものは「阿波青石」と呼ばれ、耐久性と美しい色合いから徳島の伝統建築に用いられてきました。長屋門では、青石が木造の骨組みを支える頑丈な土台として機能しています。

現在、この長屋門は「国の登録有形文化財」に指定されています。

【タイトル】 徳島県立阿波十郎兵衛屋敷/辰巳座敷

【想定媒体】 看板/アプリ QR コード/Web

＜簡体字＞

辰巳座敷

位于德岛县立阿波十郎兵卫宅邸（木偶戏剧场兼资料馆）内的“辰巳座敷”，是一间铺设有榻榻米的和室。该座敷建于江户时代（1603–1867 年）后期，原为小松岛市蓝染商人宅邸的一部分，1954 年迁移至此。同时迁移过来的，还有同一宅邸的长屋门。

该座敷在设计上有数寄屋造（日本建筑样式的一种）的特点。数寄是指欣赏和歌、茶道、插花等风雅之事，而数寄屋则是依个人趣味爱好建造的房屋。数寄屋造是适用于茶室或待客建筑的住宅样式，其特征在于兼具简素与优雅。因此，这间座敷更可能是用作接待宾客的空间，而非日常起居的地方。

清简的直线设计、精巧的木结构，以及匠心独运的空间布局，至今仍传递着江户时代传统的建筑理念。

目前，这座辰巳座敷已被指定为“国家登录有形文化遗产”。

＜繁体字＞

辰巳座敷

位於德島縣立阿波十郎兵衛宅邸（木偶劇場兼資料館）內的「辰巳座敷」，是一間鋪設有榻榻米的和室。該座敷建於江戶時代（1603–1867 年）後期，原為小松島市藍染商人宅邸的一部分，1954 年遷移至此。同時遷移過來的，還有同一宅邸的長屋門。

該座敷在設計上有數寄屋造（日本建築樣式的一種）的特點。數寄是指欣賞和歌、茶道、插花等風雅之事，而數寄屋則是依個人興趣愛好建造的房屋。數寄屋造是適用於茶室或待客建築的住宅樣式，其特徵在於兼具簡素與優美。因此，這間座敷更可能是用作接待賓客的空間，而非日常起居的地方。

清簡的直線設計、精巧の木結構，以及匠心獨運的空間佈局，至今仍傳遞著江戸時代傳統的建築思想。

目前，這座辰巳座敷已被指定為「國家登錄有形文化遺產」。

＜日本語仮訳＞

辰巳座敷

徳島県立阿波十郎兵衛屋敷（人形芝居劇場・資料館）内にある「辰巳座敷」は、畳敷きの和室です。江戸時代（1603～1867 年）後期に小松島市の藍商人の邸宅の一部として建てられ、1954 年に現在の場所へ移築されました。移築の際には、同じ邸宅にあった長屋門も一緒に運ばれました。

この座敷のデザインには数寄屋造（日本の建築様式の一つ）の特徴が見られます。数寄とは和歌や茶の湯、生花といった風流を楽しむことで、数奇屋とは好みに任せて作った家を指します。数寄屋造は、茶室や来客をもてなす建物に用いられる住宅様式で、簡素さと優美さを兼ね備えた造りが特徴です。そのため、この座敷は日常生活の場というよりも、来客を迎えるための空間として使われていたと考えられます。

すっきりとした直線的なデザイン、木造構造、考え抜かれた間取りは、江戸時代の伝統的な建築思想を今に伝えています。

この辰巳座敷は、「国の登録有形文化財」に指定されています。

【タイトル】 徳島県立阿波十郎兵衛屋敷/「傾城阿波の鳴門 巡礼歌の段」あらすじ

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web

<簡体字>

倾城阿波之鸣门

徳島県立阿波十郎兵衛宅邸是一座保护与传承日本传统木偶戏艺术——“阿波人形浄瑠璃”的剧院兼资料馆。

在这里演出的代表剧目之一是诞生于江户时代（1603-1867 年）的名作《倾城阿波之鸣门》。整个故事共分十段，其中描绘母女离别与重逢的“顺礼歌之段”尤为著名。巧妙的说唱（太夫）与三味线演奏融为一体，赋予作品深沉的情感。

该作品创作于 18 世纪徳川幕府统治时期，当时日本实行严格的身份等级制度。因此，当时的故事中常能看到义务、自我牺牲以及在人情之间的纠葛等主题。

《倾城阿波之鸣门》的主人公为十郎兵卫及其妻子弓。二人为寻找主公被盗的名刀，离开故乡阿波（今徳岛县），年幼的女儿鹤则被留在家中。此后，他们假扮盗贼，隐姓埋名在大阪生活。然而岁月流转，两人竟真的沦为盗贼，最终成为了法外之徒。

此时，长大成人的鹤开始了朝圣之旅，离开阿波踏上寻找父母之路。她偶然来到了父母居住的房屋。但鹤并不知道那是父母的家，而母亲弓虽确信眼前就是女儿，却因担心二人的处境会连累女儿，犹豫是否要说出真相。弓强忍泪水，没有表明身份，只是劝鹤回家。

看着鹤哼唱着朝圣歌渐渐远去的背影，弓再也无法压抑内心的情感，冲出家门唤回了女儿。

这一名场面表现了母女别离的悲痛与再会的渺茫。刻画了亲子之情、思念与悔恨等普世情感。同时，这部剧也映射出当时的道德观念，展现了“个人幸福常因义务或生存需要而被牺牲”的现实。

＜繁体字＞

傾城阿波之鳴門

德島縣立阿波十郎兵衛宅邸是一座保護與傳承日本傳統木偶劇藝術「阿波人形淨瑠璃」的劇場兼資料館。

在這裡演出的代表劇目之一是誕生於江戶時代（1603-1867 年）的名作《傾城阿波之鳴門》。整個故事共分十段，其中描繪母女離別與重逢的「順禮歌之段」尤為著名。巧妙的說唱（太夫）與三味線演奏融為一體，賦予作品深沉的情感。

該作品創作於 18 世紀德川幕府統治時期，當時日本實行嚴格的身份等級制度。因此，當時的故事中常能看到義務、自我犧牲以及在人情之間的糾葛等主題。

《傾城阿波之鳴門》的主角為十郎兵衛及其妻子弓。兩人為尋找主公被盜的名刀，離開故鄉阿波（今德島縣），年幼的女兒鶴則被留在家中。此後，他們假扮盜賊，隱姓埋名在大阪生活。然而歲月流轉，兩人竟真的淪為盜賊，最終成為了法外之徒。

此時，長大成人的鶴開始了朝聖之旅，離開阿波踏上尋找父母之路。她偶然來到了父母居住的房屋。但鶴並不知道那是父母的家，而母親弓雖確信眼前就是女兒，卻因擔心兩人的處境會連累女兒，猶豫是否要說出真相。弓強忍淚水，沒有表明身份，只是勸鶴回家。

看著鶴哼唱著朝聖歌漸漸遠去的背影，弓再也無法壓抑內心的情感，衝出家門喚回了女兒。

這一名場面表現了母女別離的悲痛與再會的渺茫。刻畫了親子之間的情感、思慕與悔恨等普世情感。同時，這部劇也映射出當時的道德觀念，展現了「個人幸福常因義務或生存需要而被犧牲」的現實。

＜日本語仮訳＞

傾城阿波の鳴門

徳島県立阿波十郎兵衛屋敷は、阿波人形浄瑠璃という日本の伝統的な人形芝居の芸術を保存・継承する劇場兼資料館です。

ここで上演される代表的な演目の一つが、江戸時代（1603～1867 年）に生まれた名作『傾城阿波の鳴門』です。10 段からなる物語で、母と娘の別離と再会を描いた「順礼歌の段」が有名です。巧みな語り（太夫）と三味線の演奏が一体となり、物語に深い情感を与えます。

この作品が書かれた 18 世紀当時、日本は徳川幕府の支配下であり、身分制度が厳格に定められていました。そのため当時の物語には、義務、自己犠牲、そして人情との板挟みといったテーマが多く見られます。

『傾城阿波の鳴門』の主人公は、十郎兵衛とその妻・お弓です。二人は主君の盗まれた名刀を探すために故郷・阿波（現在の徳島県）を離れ、幼い娘・お鶴を置いて旅に出ます。やがて二人は盗賊のふりをして、大阪で偽名を使いながら暮らすようになります。しかし年月とともに、二人は本当の盗賊となり、ついに無法者へとなってしまいました。

一方、成長したお鶴は巡礼の旅に出て、両親を探しに阿波を後にします。偶然にも両親の住む家を訪れます。しかしお鶴はそこが両親の家とは知らず、母・お弓は娘であることを確信しながらも、二人の置かれた状況が娘に迷惑をかけることを恐れ、真実を明かすことをためらいます。涙をこらえながら、お弓は身元を明かさずお鶴に家に帰るよう伝えます。

お鶴が巡礼歌を口ずさみながら去っていくのを見て、お弓は抑えきれず家を飛び出し、娘を呼び戻します。

この名場面は、母子の別れの悲しみと再会へのかすかな希望を表現しています。親子の愛情、思慕、そして悔恨といった普遍的な感情を描いています。また、この芝居は、当時の道德観も映し出しており、「義務や生き延びるために個人の幸福がしばしば犠牲にされていた」ことを示しています。

【タイトル】 徳島県立阿波十郎兵衛屋敷/「阿波人形浄瑠璃」概要

【想定媒体】 アプリ QR コード / Web

<簡体字>

守护与传承阿波人形浄瑠璃的传统

阿波人形浄瑠璃，是诞生于徳岛县（古阿波国）的一种传统木偶戏。由操偶师、说唱与音乐伴奏三要素构成。

说唱故事的人被称为“太夫”，以情感丰沛、抑扬顿挫的腔调说唱，这种说唱形式被称为“义太夫节”（该名称源自开创此形式的著名说唱者——竹本义太夫 [1651-1714 年]）。

“太夫”一词原本是指中国古代的官职称号。在古代日本，位居五位（日本古代官阶）的“太夫”常掌管艺术与仪式之事，因此逐渐被沿用为说唱者的称谓。音乐由三味线演奏者负责，此外还有三人一组的操偶师共同操纵一具木偶。通过三人的精密配合，木偶得以展现出栩栩如生、自然流畅的动作，以及丰富多彩的感情。

阿波人形浄瑠璃的起源可追溯至江户时代（1603-1867 年），彼时木偶戏盛行于日本各地。历经时光沉淀，徳岛的木偶戏逐渐发展出自己独特的风格。徳岛的人形浄瑠璃，尤其以木偶写实的动作以及极具感染力的故事性为特色。剧目常取材于历史事件、道德训诫、地方传说等。

与其他地区的木偶戏不同，阿波人形浄瑠璃的一大特色是三人共同操纵大型木偶。主操手负责头部与右手，两位助手分别负责左手和双脚。借助这种手法来实现多样而丰富的动作表演。

作为木偶戏演出的核心，太夫在不更换站位的情况下，一人负责整个故事的的说唱、区分演绎所有登场人物的台词。这种技法需要经年累月的严苛训练与技术沉淀。三味线增添音乐的深度，通过音调与节奏的变化来展示情境转换。说唱、音乐与木偶动作三者融为一体，造就了浄瑠璃独有的深邃情感。

阿波人形浄瑠璃在徳岛县立阿波十郎兵衛宅邸演出。该设施既是演出场所，也是专门

展示当地艺术的博物馆。这里是江户时代的村吏板东十郎兵卫的宅邸旧址，他的名字亦为著名剧目中的登场人物所用。

在阿波十郎兵卫宅邸，访客可在设施内的专用剧场现场观赏阿波人形净琉璃的演出。演出经过精心编排，以便观众能更容易理解阿波人形净琉璃的构成。剧目演出的间隙，有时也会结合实景演示，讲解木偶的构造、表演者各自的分工以及故事的精彩看点等内容。

此外，馆内的资料展示室中还陈列有木偶、服装及相关资料。说明面板以通俗易懂的方式介绍木偶的构造、操纵方法及阿波人形净琉璃的历史背景，让观众进一步了解孕育滋养了阿波人形净琉璃的德岛文化土壤。

全年均会策划多种多样的体验活动与工作坊。来访者可亲手尝试操纵木偶、挑战简单的说唱，亲身体验传统艺术的技巧与奥妙。还有专为儿童设计的教育项目，着力推动这项文化向新一代的传承。

阿波人形净琉璃的保护活动，离不开当地剧团与文化团体的支持。尽管活跃剧团数量较往昔有所减少，但仍有众多热忱的表演者勤练不辍，坚持开展演出。阿波十郎兵卫宅邸在维系与推广这项传统方面发挥着核心作用，已然成为学习、保护与观赏阿波人形净琉璃的重要据点。

＜繁体字＞

守護與傳承阿波人形淨琉璃的傳統

阿波人形淨琉璃，是誕生於德島縣（古阿波國）的一種傳統木偶劇。由操偶師、說唱與音樂伴奏三要素構成。

說唱故事的人被稱為「太夫」，以情感豐沛、抑揚頓挫的腔調說唱，這種說唱形式被稱為「義太夫節」（該名稱源自開創此形式的著名說唱者竹本義太夫 [1651-1714 年]）。「太夫」一詞原本是指中國古代的官職稱號。在古代日本，位居五位（日本古代官階）的「太夫」常掌管藝術與儀式之事，因此逐漸被沿用為說唱者的稱謂。音樂由三味線演奏者負責，此外還有三人一組的操偶師共同操縱一具木偶。透過三人的精密配合，木偶得以展現出栩栩如生、自然流暢的動作，以及豐富多彩的感情。

阿波人形淨瑠璃的起源可追溯至江戶時代（1603–1867 年），當時木偶劇盛行於日本各地。歷經時光沉澱，德島的木偶劇逐漸發展出自己獨特的風格。德島的人形淨瑠璃，尤其以木偶寫實的動作以及極具感染力的故事性為特色。劇目常取材於歷史事件、道德訓誡、地方傳說等。

與其他地區的木偶劇不同，阿波人形淨瑠璃的一大特色是三人共同操縱一具大型木偶。主操手負責頭部與右手，兩位助手分別負責左手和雙腳。藉助這種手法來呈現多樣而豐富的動作表演。

作為木偶劇演出的核心，太夫在不更換站位的情況下，一人負責整個故事的說唱、區分演繹所有登場人物的台詞。這種技法需要經年累月的嚴苛訓練與技術沉澱。三味線增添音樂的深度，透過音調與節奏的變化來轉換情境。說唱、音樂與木偶動作三者融為一體，造就了淨瑠璃獨有的深邃情感。

阿波人形淨瑠璃在德島縣立阿波十郎兵衛宅邸演出。該設施既是演出場所，也是專門展示當地藝術的博物館。這裡是江戶時代的村役人板東十郎兵衛的宅邸舊址，他的名字亦為著名劇目中的登場人物所用。

在阿波十郎兵衛宅邸，訪客可在設施內的專用劇場現場觀賞阿波人形淨瑠璃的演出。公演經過精心編排，以便觀眾能更容易理解阿波人形淨瑠璃的構成。劇目演出的間隙，有時也會結合實際演示，講解木偶的構造、表演者各自的分工以及故事的精彩看點等內容。

此外，館內的資料展示室中還陳列有木偶、服裝及相關資料。說明面板以淺顯易懂的方式介紹木偶的構造、操縱方法及阿波人形淨瑠璃的歷史，讓觀眾進一步了解孕育了阿波人形淨瑠璃的德島文化之背景。

全年均會策劃多種多樣的體驗活動與工作坊。來訪者可親手嘗試操縱木偶、挑戰簡單的說唱，親身體驗傳統藝術的技巧與奧妙。還有專為兒童設計的教育項目，著力推動這項文化並傳承新世代。

阿波人形淨瑠璃的保護活動，離不開當地劇團與文化團體的支持。儘管活躍中的劇團數量較往昔有所減少，但仍有眾多熱忱的表演者勤練不輟並持續舉辦公演。阿波十郎兵衛宅邸在維繫與推廣這項傳統方面發揮著核心作用，已然成為學習、保護與觀賞阿波人形淨

瑠璃的重要據點。

<日本語仮訳>

阿波人形浄瑠璃の伝統を守り継ぐ

阿波人形浄瑠璃は、徳島県（旧・阿波国）で生まれた伝統的な人形芝居です。人形遣い、語り、そして音楽の伴奏の三つの要素が一体となって構成されています。

物語を語るのは「太夫」と呼ばれる語り手で、感情豊かな節回しで語る「義太夫節」という語り口を用います（この様式の名称は、これを作り出した名語り手・竹本義太夫〔1651–1714 年〕に由来します）。もともと「太夫」は、中国の官位の称号です。古代日本では五位（古代日本の官職）の位である「太夫」が、芸能や儀式を司ることが多かったことから、語り手の呼称として使われるようになりました。音楽的に支えるのは三味線奏者で、さらに三人一組の人形遣いが一体の人形を動かします。三人の緻密な連携によって、人形がまるで生きているかのような自然な動きと感情豊かな表現を見せるのです。

阿波人形浄瑠璃の起源は、日本各地で人形芝居が盛んだった江戸時代（1603–1867 年）にさかのぼります。年月とともに、徳島の人形芝居は独自の進化を遂げました。徳島の人形浄瑠璃は、特に人形の写実的な動きと、観る者の心を打つ物語性の強さが特徴です。演目には、歴史的イベントや道徳的教訓、地域の伝説などが題材としてよく取り上げられます。

他の地域の人形芝居と異なり、阿波人形浄瑠璃では、大型の人形を三人で操るのが大きな特色です。主遣いが頭と右手を、二人の助手が左手と両足をそれぞれ担当します。この手法によって、多様な動きの演技をすることができます。

芝居の中心的役割を担う太夫は、物語全体の語り手であり、登場人物全員の台詞も、立ち位置を変えずに一人で演じ分けます。この技法は、技術と長年の訓練が求められます。三味線は音楽的な深みを加え、音のトーンやテンポで変化を合図します。語り・音楽・人形の動きが一体となることで、浄瑠璃ならではの深い情感が生まれます。

阿波人形浄瑠璃は、徳島県立阿波十郎兵衛屋敷で上演されます。この施設は、上演を行う場所であり、地域の芸能に特化した博物館として機能しています。ここは江戸時代の村役人・板東十郎兵衛の旧邸跡にあり、彼の名は人気演目の登場人物にもなっています。

阿波十郎兵衛屋敷では、施設内の専用劇場で、阿波人形浄瑠璃の上演を生で鑑賞できます。公演は、来場者が阿波人形浄瑠璃の仕組みを理解しやすいように構成されています。演目の合間に人形の構造や演者のそれぞれの役割、物語の見どころなどを、実演を交えて解説することもあります。

また、館内の資料展示室では、人形や衣装、関連資料が展示されています。説明パネルでは、人形の構造や操作方法、阿波人形浄瑠璃の歴史がわかりやすく紹介されており、阿波人形浄瑠璃を育んだ徳島の文化的背景を知ることができます。

年間を通して、さまざまな体験型イベントやワークショップも開催されています。来館者は実際に人形を操作してみたり、簡単な語りに挑戦したりすることで、伝統芸能の技や奥深さを体感できます。子ども向けの教育プログラムもあり、次世代への文化継承に力を入れています。

阿波人形浄瑠璃の保存活動は、地元の人形座や文化団体によって支えられています。かつてより活動する劇団は減ったものの、今も熱心な演者たちが稽古を重ね、公演を続けています。阿波十郎兵衛屋敷は、こうした伝統を維持・普及していく上で中心的な役割を果たしており、阿波人形浄瑠璃を学び、保存し、鑑賞するための拠点となっています。

地域番号	026	協議会名	板野町

解説文一覧

NO.	スポット名（タイトル）	中国語文字数	想定媒体
026-001	四国霊場 3 番 金泉寺（こんせんじ）	217	パンフレット
026-002	四国霊場 4 番 大日寺	269	パンフレット
026-003	四国霊場 5 番 地藏寺	289	パンフレット
026-004	あせび温泉やすらぎの郷	445	看板
026-005	道の駅「いたの」	539	看板
026-006	あせび温泉やすらぎの郷	270	パンフレット
026-007	道の駅「いたの」	402	パンフレット
026-008	あせび公園	293	パンフレット
026-009	岡の宮の大クス	269	パンフレット
026-010	愛染院	250	パンフレット
026-011	大坂口御番所跡	306	パンフレット
026-012	あすたむらんど徳島	620	パンフレット
026-013	板野町（全体概要）	257	パンフレット
026-014	あせび公園	418	Web
026-015	岡の宮の大クス	382	Web
026-016	愛染院	889	Web
026-017	大坂口御番所跡	748	Web

【タイトル】 四国霊場 3 番 金泉寺（こんせんじ）

【想定媒体】 パンフレット

＜簡体字＞

金泉寺

圣武天皇于公元 8 世纪上半叶创建此寺。9 世纪初，真言宗开山祖师空海大师到访此地时，在寺内掘了一口井，寺院遂从“金光明寺”改为“金泉寺”。相传，任何人只要能在井水中清晰照见自己面容，皆可获得长寿。

有关金泉寺的一个传说则与 12 世纪后期著名的武僧弁庆有关：源平合战期间，源氏的将领源义经前往屋岛（今香川县高松市）途中，曾在此寺休整。其家臣弁庆以力大无穷闻名，当地民众请他展示力量，弁庆便将一块巨石高举过顶。此石至今仍静置于寺院庭园一隅。

＜繁体字＞

金泉寺

金泉寺係奉聖武天皇之命，創建於 8 世紀上半葉。9 世紀初，真言宗開山祖師空海大師造訪此地時，曾在寺內挖掘一口水井，寺名也因此從原本的「金光明寺」改名為現在的「金泉寺」。在地流傳著一則傳說：只要能從這口井的水面清楚看見自己的倒影，就能獲得長壽的福報。

此外，金泉寺還流傳著另一則關於 12 世紀後半葉著名武僧——弁慶的傳說。在源平合戰（源氏與平家爭奪霸權）期間，源氏將領義經在前往屋島（位於現在的高松）途中，曾在此地休憩。當時其家臣弁慶以力大無窮聞名，在地居民請求他施展力量，他很輕易地就將一塊巨石高舉過頭。這塊岩石至今仍保留在寺內供人參觀。

＜日本語仮訳＞

金泉寺

聖武天皇が 8 世紀前半にこの寺を建立しました。空海（真言宗の開祖）が 9 世紀初頭にこの寺を訪れた際に、寺の境内に井戸を掘り、寺の名が「金光明寺」（「金色の光の寺」）から「金泉寺」

（「金色の井戸の寺」）へと変わりました。言い伝えによると、井戸の水にはっきりと映った自分の顔を見た者たちは長寿を授かるのだそうです。

もう一つの金泉寺の言い伝えは弁慶に関するものです；12 世紀後半の著名な武僧です。平家と源氏との間で繰り広げられた源平合戦の際、源氏の将軍・義経が屋島（現在の高松）へ向かう途中、金泉寺で休息を取りました。源義経の家臣の 1 人である弁慶は、その強さで知られていました。地元の人たちは、彼に力を披露するよう求め、弁慶は当然大きな岩を頭上に持ち上げたのです。この岩は現在も寺の庭の片隅に置かれています。

【タイトル】 四国霊場 4 番 大日寺

【想定媒体】 パンフレット

＜簡体字＞

大日寺

大日寺坐落于群山环抱之中，直至近年，这里依然交通不便难以抵达。寺院最引人注目的特征之一是其正门，门由两层构成，其中的上层兼做钟楼使用。寺中供奉的主尊是大日如来，寺名亦由此而来。相传，真言宗开山祖师空海曾于公元 815 年亲自雕刻了主尊佛像，不过现存的造像制作于 1407 年。

江戸时代（1603-1867 年），大日寺成为统治德岛藩的蜂须贺氏的家族寺院。在其屋脊上，至今仍可见到饰有蜂须贺家纹的瓦片。

连接本堂与大师堂的 L 形回廊中，供奉着 33 尊大慈大悲的观世音像。这些像是西日本“西国三十三所观音巡礼”中各灵场寺院观音像的复制品，制作于 18 世纪末期。

＜繁体字＞

大日寺

大日寺坐落於群山環繞之間，直到近代，這裡仍因交通不便而難以抵達。本寺最引人注目的特色之一，便是兼具鐘樓功能的二層樓式正門（鐘樓門）。這裡供奉的本尊為大日如來（又稱毗盧遮那佛，意為「光明普照」），寺名即由此而來。相傳真言宗開山祖師空海大師曾於 815 年親手雕刻了本寺的本尊像，不過現今供奉的佛像是於 1407 年所製作的。

江戸時代（1603～1867 年），大日寺成為統治德島藩的蜂須賀氏族的菩提寺（供奉歷代祖先的寺院）。在屋脊的瓦片上，至今仍可見到飾有蜂須賀家家紋的瓦片。

連接本堂與大師堂的 L 型迴廊內，安置著 33 尊象徵慈悲的觀音菩薩像。這些觀音像是仿照西日本「西國三十三所觀音巡禮」各靈場的觀音像，於 18 世紀末製作而成的。

＜日本語仮訳＞

大日寺

大日寺は山々に囲まれており、つい最近まで行くのが困難な場所でした。このお寺のひと際目を引く特徴の一つが 2 階部分が鐘楼を兼ねるその正門です。この寺で祀られる本尊は大日如来（マハーヴァイローチャナ、「大いなる太陽」の仏）です；寺の名前は大日如来が由来となっています。空海（真言宗の開祖）が 815 年にこの寺の本尊を彫像したと伝えられていますが、現在の像は 1407 年に作られたものです。

江戸時代（1603～1867 年）には大日寺は徳島藩を治めた蜂須賀氏の菩提寺となりとなりました。屋根の棟には、蜂須賀氏の家紋が施された瓦が見られます。

本堂と大師堂をつなぐ L 字型の回廊には、慈悲の菩薩である 33 体の観音（アヴァローキテーシュヴァラ）像が安置されています。これらは西日本の「西国三十三所観音巡礼」の各札所にある観音像のレプリカで、18 世紀の終わり頃に造られたものです。

【タイトル】 四国霊場 5 番 地藏寺

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>

地藏寺

地藏寺供奉的主尊为地藏菩萨。与常见的守护孕妇、旅人和孩童的地藏形象有所不同，此处供奉的是“将军地藏”——呈现身披铠甲、骑马持兵的战士之姿。本堂外廊的红色坐像为宾头卢尊者，在日本被视为能够治愈病痛的尊者。相传宾头卢因曾醉酒而被逐出释迦牟尼的僧团，因此塑像被供奉在室外。

大师堂建于 18 世纪后期。堂前矗立着一棵巨大的银杏树，据说树龄已超过 800 年，许多人相信只要触摸这棵银杏便可延年益寿。山坡高处的五百罗汉堂由三座建筑通过回廊相连，堂内陈列着色彩鲜艳、等身大小的罗汉像（即已证悟的佛陀弟子）。原计划塑造 500 尊罗汉像，但因第二次世界大战爆发，工程中断，最终仅完成了不足 200 尊。

<繁体字>

地藏寺

本寺供奉的本尊為地藏菩薩（又稱地藏王菩薩）。有別於一般常見守護孕婦、旅人以及孩童的慈悲形象，這裡供奉的地藏被稱為「將軍地藏」，以身披甲冑、騎乘戰馬的武將英姿示人。露台上的紅色坐像是賓頭盧尊者，在日本被視為能治癒病痛的尊者，許多人會前來祈求身體安康。相傳尊者之所以被安置於戶外，是因為他過去曾因飲酒過度，遭釋迦牟尼佛逐出僧團（僧伽）的緣故。

寺內的大師堂建於 18 世紀後半葉。堂前矗立著一棵巨大的銀杏樹，據說樹齡已超過 800 年，許多人相信只要觸摸這棵樹便能延年益壽。位於後方高台上的「五百羅漢堂」，是由迴廊連接的三座建築所組成。堂內安置著色彩鮮豔、真人大小的羅漢像（羅漢為已證悟的佛弟子）。這裡原本要設置 500 尊羅漢像，惜因二次大戰爆發而導致計畫中斷，最終完成的僅不到兩百尊。

<日本語仮訳>

地蔵寺

地蔵菩薩（クシティガルバ）はこの寺に祀られている本尊です。妊婦、旅人、子供の守り神である一般的な地蔵の姿をしてはおらず、この地蔵は「將軍地蔵」として知られ、武装した騎馬武者の姿をかたどっています。外陣に座っている赤い像は、癒しの仏・賓頭盧尊者です。賓頭盧が外に安置されているのは、酔っぱらっていたことが原因でお釈迦様の僧伽から追放されたという事実を映し出しています。

大師堂は、18世紀後半に建てられました。正面にある大きなイチョウの木は、樹齢800年を超えると言われ、触れる人に長寿をもたらすと多くの人が信じています。上の高台には、五百羅漢堂が建っており、鮮やかな色で塗られた、（仏の弟子で悟りを開いた）羅漢の等身大の彫像が並べられている回廊でつながった3つの建物で構成されています。第二次世界戦争の勃発によりプロジェクトが中断される前に、500体の羅漢像の内約200体弱しか完成しませんでした。

【タイトル】 あせび温泉やすらぎの郷

【想定媒体】 看板

＜简体字＞

欢迎光临马醉木温泉

本温泉设施于 2002 年开业，名称取自板野町的町树——马醉木（学名 *Pieris japonica*）。温泉坐落在高尾山脚下，大坂谷川从旁流过。马醉木温泉为硫磺碱性温泉，泉水从 1.4 公里外的源泉引入，天然水温约为 21℃，在馆内加热至 40℃以上供入浴使用。

馆内设有五种浴池：露天温泉（41℃）、温泉瀑布（打汤），以及三处室内浴池——“源泉直送”浴池（43℃）、大浴场（42℃）和冷水浴池（15℃-18℃）。右侧浴场设有桑拿房，左侧浴场为蒸汽房，男女区域每日轮换使用。无论在哪个浴场都能欣赏到以岩石与松树点缀、传统白墙瓦顶围合的日式庭园。

考虑到多数顾客自驾前来，馆内仅提供软饮料、无酒精啤酒及自助绿茶。来客可自带饮食，请在走廊尽头的榻榻米休息室内享用。馆内还备有围棋、将棋等传统棋类游戏。走廊区域轮换展示当地美术社团的摄影绘画作品，并设有介绍地区历史、活动及工艺美术的展板。

马醉木温泉

成人：600 日元

儿童：400 日元

营业时间：10:00-21:30（最晚入馆 21:00）

纹身者谢绝入馆

＜繁体字＞

歡迎光臨馬醉木溫泉

本溫泉設施於 2002 年開幕，名稱源自板野町的町樹——馬醉木（學名：*Pieris japonica*）。設施坐落於高尾山腳下，旁有大坂谷川潺潺流經。這裡的泉質屬於鹼性硫磺泉，泉水引自 1.4 公里外的源頭。源泉湧出時的溫度約為 21℃，引入館內後會加熱至 40℃以上供賓客享受。

館内設有 5 種不同類型的浴池：戶外浴池（露天風呂，41℃）、溫泉瀑布（打湯），以及三種室內浴池——「源泉放流」浴池（源泉湯，43℃）、大浴場（42℃）與冷水池（水風呂，15℃～18℃）。右側浴場區設有三溫暖烤箱，左側浴場區則設有蒸氣室，採男女每日輪替制。在兩側浴場，皆可眺望由傳統白壁瓦頂圍繞且岩石與松樹點綴其中的日式庭園美景。

由於多數顧客皆開車前來，館內飲品僅販售無酒精飲料、無酒精啤酒及自助式綠茶。我們非常歡迎各位攜帶外食及飲料，於走廊盡頭的榻榻米休息室內享用。館內亦備有圍棋、日本將棋等傳統棋類遊戲。此外，走廊上會輪流展出在地藝術社團的攝影與繪畫作品，並設有介紹本地歷史、活動與傳統工藝品的解說看板。

馬酔木溫泉

成人：600 日圓

兒童：400 日圓

營業時間：上午 10:00～晚上 9:30（最後入場時間 晚上 9:00）

謝絕帶有刺青、紋身人士入浴

<日本語仮訳>

あせび温泉によこそ

2002 年にオープンしたこの温泉施設は、板野町の町木である馬酔木という低木（ピエリス・ジャポニカ、英語で「Temple Bells」）にちなんで名付けられました。この施設は、大坂谷川がそばを流れる高尾山の麓にあります。あせび温泉のアルカリ性イオウ泉は、1.4 キロメートル離れた源泉から引き込まれ、自噴する温度約 21℃から施設内で 40℃を超える温度に加熱されています。

施設内には 5 種類の浴場があります：屋外浴場（露天風呂、41℃）、温泉の滝（打たせ湯）、3 つの屋内浴場——「源泉から直接流れる」浴場（源泉湯、43℃）、大きな浴槽（大浴場、42℃）、冷水浴場（水風呂、15℃～18℃）です。右側の浴場エリアのサウナと左側エリアのsteam room は交互の日程で男女の利用が切り替わります。両方の浴場エリアからは、伝統的な白壁と瓦屋根に囲まれた、岩と松の木をあしらった日本庭園が見渡せます。

あせび温泉利用者のほとんどが車で来館するため、飲物はソフトドリンク、ノンアルコールビール、そしてセルフサービスの緑茶のみがあります。利用者は、廊下の奥の畳部屋で、食べ物や飲み物を持ち込んでご飲食いただいて構いません。囲碁や将棋（日本式チェス）などの伝統的なボードゲームもあります。廊下には、入れ替わりで地元の美術クラブの写真や絵画の展示、また、地域の歴史、活動、美術・工芸品を紹介するパネルもあります。

あせび温泉

大人：600 円

子ども：400 円

営業時間：午前 10:00～午後 9:30（最終入場午後 9:00）

タトゥーお断り

【タイトル】 道の駅「いたの」

【想定媒体】 看板

<簡体字>

欢迎光临道之驿・板野

道之驿・板野是四国地区第 88 处开业的道之驿（公路驿站：一种将休息、信息与地方交流功能集于一体的公路综合服务设施），因此标识中标出了数字“88”。标识的主色调选用了橙色，灵感来自春季胡萝卜——这是板野町引以为傲的代表性农作物之一，当地的其它代表性农作物还有稻米、莲藕以及腌渍用的白瓜等。

这里与当地农户以及食品加工企业携手合作，通过推广本地生鲜农产品及其加工品，向到访者展现板野地区独特的饮食文化。春季胡萝卜便是典型范例：除销售新鲜胡萝卜外，这里还有胡萝卜冰淇淋、胡萝卜汁、胡萝卜蛋糕、胡萝卜风味蘸酱、胡萝卜沙拉酱以及胡萝卜天妇罗等产品。

购物区天花板上悬挂着本地农民与食品生产者的巨幅照片，配有展示他们有关饮食理念的寄语。购物区深处的玻璃厨房内，厨师们现场使用新鲜的本地食材制作便当。

主入口旁设有冰淇淋售卖窗口，口味会随季节更替。馆内的餐厅“惠食堂”也秉持同样的理念，均选用本地产的新鲜食材烹制料理。

二楼设有儿童游乐区，室外还有露天足浴场以及宠物狗活动区。

紧邻道之驿还设有自然灾害避难所，配备了直升机停机坪、收容避难者的大厅、淋浴间、卫生间，并储备了应急食品与饮用水。

营业时间

道之驿・板野：8:30-18:00

惠食堂：11:00-18:00（最后点单 17:30）

＜繁体字＞

歡迎光臨道之驛板野

道之驛板野是四國地區第 88 處開幕的道之驛（日本道路休息站），因此我們的標誌設計特別採用了數字「88」。標誌的主色調選用橙色，正是為了讓人聯想到本地的特產——春季紅蘿蔔。板野町除了紅蘿蔔外，也以盛產稻米、蓮藕以及傳統醃漬用的白瓜（越瓜）而馳名。

我們與在地的農家及食品業者攜手合作，不僅推廣天然的農產品，更致力於開發高附加價值的加工食品，藉此讓消費者認識板野町獨特的飲食文化。春季紅蘿蔔就是一個很好的例子，我們除了販售新鮮的紅蘿蔔外，還推出了紅蘿蔔霜淇淋、紅蘿蔔汁、紅蘿蔔蛋糕、紅蘿蔔風味沾醬、紅蘿蔔沙拉醬以及紅蘿蔔天婦羅等多樣商品。

這裡的天花板上懸掛著在地農家與食品生產者的巨幅照片，並附有他們對於食材堅持的信念與話語。而在賣場深處角落的透明玻璃廚房內，則使用新鮮的在地食材製作美味便當。

正門旁設有販賣霜淇淋的窗口，口味會隨著季節而更換。附設的餐廳「惠食堂」也秉持著相同的理念，堅持只用新鮮的在地農產品來烹調料理。此外，主建築二樓設有兒童遊戲區，戶外則備有足湯以及室外犬隻活動空間。

道之驛板野旁還設有災害避難中心，配置了直升機停機坪、可收容避難者的大廳、淋浴間、廁所以及儲備糧食與飲用水，以備不時之需。

營業時間

道之驛板野：上午 8:30～下午 6:00

餐廳惠食堂：上午 11:00～下午 6:00（最後點餐時間 下午 5:30）

＜日本語仮訳＞

道の駅いたのによこそ

道の駅いたのは四国で 88 番目にオープンした休憩所です；したがって、ロゴに 88 という数字が採用されています。オレンジ色は、春にんじんを連想させる色として選ばれました；板野町が有名であるいくつかの作物の一つで、他には米、蓮根、漬物用シロウリがあります。

地元の農家や食品メーカーと連携し、私たちは、板野町の独自の食文化を紹介する方法として、地

元の農産物を自然なままの形でだけでなく、付加価値の高い加工品としても宣伝しています。春人参はよい例です。新鮮な人参に加え、私たちは人参ソフトクリーム、人参ジュース、人参ケーキ、人参風味のディップソース、人参サラダドレッシング、人参天ぷらなども販売しています。

地元の農家や食品生産者の大判の写真が天井から吊り下げられており、彼らの食への理念を伝える言葉と一緒に掲げられています。ショッピングエリアの奥にあるガラス張りのキッチンでは、新鮮な地元食材を使ったお弁当が作られています。

メインエントランスのそばには、ソフトクリームを販売する窓口があり、そのフレーバーは季節に合わせて変わります。レストラン恵食堂も同様の理念を掲げ、新鮮な地元産食材のみを使用しています。

ほかの施設として、子供の遊び場（2 階）、屋外の足湯とドッグランがあります。

道の駅いたの隣には自然災害時の避難所もあります。ヘリポート、避難者を保護するための広間、シャワー、トイレ、食料品と水の備蓄が整備されています。

営業時間

道の駅いたの：午前 8:30～午後 6:00

レストラン恵食堂：午前 11:00～午後 6:00（ラストオーダー 午後 5:30）

【タイトル】 あせび温泉やすらぎの郷

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>

马醉木温泉

马醉木温泉是以板野町の町樹——马醉木（学名 *Pieris japonica*）命名的温泉设施。这里的温泉属于硫磺碱性温泉，泉水引自附近泉源，天然水温约 21℃，经加热后达到 40℃以上。

馆内设有五种浴池：露天温泉（41℃）、温泉瀑布（打汤），以及三处室内浴池——“源泉直送”浴池（43℃）、大浴场（42℃）和冷水浴池（15℃-18℃）。右侧浴场设有桑拿房，左侧浴场为蒸汽房，男女区域每日轮换使用。无论在哪个浴场都能欣赏到以岩石与松树点缀、传统白墙瓦顶围合的日式庭园。

馆内提供软饮料、无酒精啤酒及自助绿茶。客人可自带饮食，在榻榻米休息区享用。

<繁体字>

馬醉木溫泉

馬醉木溫泉這座溫泉設施的名稱源自板野町の町樹——馬醉木（學名：*Pieris japonica*）。這裡的泉質屬於鹼性硫磺泉，泉水引自 1.4 公里外的源頭。源泉湧出時的溫度約為 21℃，引入館內後會加熱至 40℃以上供賓客享受。

館內設有 5 種不同類型的浴池：戶外浴池（露天風呂，41℃）、溫泉瀑布（打湯），以及三種室內浴池——「源泉放流」浴池（源泉湯，43℃）、大浴場（42℃）與冷水池（水風呂，15℃～18℃）。右側浴場區設有三溫暖烤箱，左側浴場區則設有蒸氣室，採男女每日輪替制。在兩側浴場，皆可眺望由傳統白壁瓦頂圍繞且岩石與松樹點綴其中的日式庭園美景。

館內飲品僅販售無酒精飲料、無酒精啤酒及自助式綠茶。來訪者可攜帶外食及飲料，於走廊盡頭的榻榻米休息室內享用。

＜日本語仮訳＞

あせび温泉

温泉施設あせび温泉は、板野町の町木である馬酔木という低木（ピエリス・ジャポニカ、英語で「Temple Bells」）にちなんで名付けられました。アルカリ性イオウ泉は、近くの源泉から引き込まれ、自噴する温度約 21℃から 40℃を超える温度に加熱されています。

施設内には 5 種類の浴場があります：屋外浴場（露天風呂、41℃）、温泉の滝（打たせ湯）、3 つの屋内浴場—「源泉から直接流れる」浴場（源泉湯、43℃）、大きな浴槽（大浴場、42℃）、冷水浴場（水風呂、15℃～18℃）です。右側の浴場エリアのサウナと左側エリアのスクリーンルームは交互の日程で男女の利用が切り替わります。両方の浴場エリアからは、伝統的様式の白壁と瓦屋根に囲まれた、岩と松の木をあしらった日本庭園が見渡せます。

ソフトドリンク、ノンアルコールビール、セルフサービスの緑茶をご利用いただけます。利用者は、畳のラウンジで、食べ物や飲み物を持ち込んでご飲食いただいても構いません。

【タイトル】道の駅「いたの」

【想定媒体】パンフレット

<簡体字>

道之驿・板野

道之驿・板野是四国地区第 88 处开业的道之驿（日本的一种集休息、信息与地方交流功能于一体的公路综合服务设施），因此标识中标出了数字“88”。标识的主色调选用了橙色，灵感来自春季胡萝卜——这是板野町引以为傲的代表性农作物之一，当地的其它代表性农作物还有稻米、莲藕以及腌渍用的白瓜等。

我们与当地农户及食品加工企业携手，通过推广本地生鲜农产品及其加工品，向到访者展现板野地区独特的饮食文化。春季胡萝卜便是典型范例：除新鲜胡萝卜外，这里提供胡萝卜冰淇淋、胡萝卜汁、胡萝卜蛋糕、胡萝卜风味蘸酱、胡萝卜沙拉酱以及胡萝卜天妇罗等产品。馆内的餐厅“惠食堂”也秉持同样的理念，只选用本地产的新鲜食材烹制料理。

紧邻道之驿还设有灾害避难所，配备了直升机停机坪、可收容避难者的大厅、淋浴间、卫生间，并储备了应急食品与饮用水。

营业时间

道之驿・板野：8:30-18:00

惠食堂：11:00-18:00（最后点单 17:30）

<繁体字>

道之驛板野

道之驛板野是四國地區第 88 處開幕的道之驛（日本道路休息站），這也是標誌上數字「88」的由來。標誌的橙色象徵著本地特產「春季紅蘿蔔」；此外，板野町也以盛產稻米、蓮藕以及傳統醃漬用的白瓜（越瓜）而馳名。

道之驛板野與在地農家及食品生產者合作，不僅推廣新鮮農產，更致力於開發高附加價值的加工食品，藉此介紹板野町獨特的飲食文化。春季紅蘿蔔便是最好的例子，除了新鮮紅蘿

萄外，亦販售紅蘿蔔霜淇淋、紅蘿蔔汁、紅蘿蔔蛋糕、紅蘿蔔風味沾醬、紅蘿蔔沙拉醬以及紅蘿蔔天婦羅等多樣商品。附設的餐廳「惠食堂」也秉持相同的理念，堅持只用新鮮的在地農產烹調。

道之驛板野旁還設有天然災害避難中心，配備了直升機停機坪、可收容避難者的大廳、淋浴間、廁所以及儲備糧食與飲用水。

營業時間

道之驛板野：上午 8:30～下午 6:00

餐廳惠食堂：上午 11:00～下午 6:00（最後點餐時間 下午 5:30）

<日本語仮訳>

道の駅いたの

道の駅いたのは四国で 88 番目にオープンした休憩所です；したがって、ロゴに 88 という数字が採用されています。ロゴのオレンジ色は、春にんじんを連想させます；板野町が有名であるいくつかの作物の一つで、他には米、蓮根、漬物用シロウリがあります。

地元の農家や食品生産者と連携し、私たちは、板野町の食文化を紹介する方法として、地元の農産物を自然なままの形でだけでなく、付加価値の高い加工品としても宣伝しています。春人参はそのよい例です。新鮮な人参に加え、私たちは人参ソフトクリーム、人参ジュース、人参ケーキ、人参風味のディップソース、人参サラダドレッシング、人参天ぷらなども販売しています。レストラン惠食堂も同様の理念を掲げ、新鮮な地元産食材のみを使用しています。

道の駅いたの隣には自然災害時の避難所もあり、ヘリポート、避難者を保護するための広間、シャワー、トイレ、食料品と水の備蓄が整備されています。

営業時間

道の駅いたの：午前 8:30～午後 6:00

レストラン惠食堂：午前 11:00～午後 6:00（ラストオーダー 午後 5:30）

【タイトル】 あせび公園

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>**马醉木公园**

板野町の町樹馬酔木（学名 *Pieris japonica*）是一种常绿灌木，早春时节会垂挂铃铛状的白色或粉色花朵。“马醉木”即是其字面的意思“使马醉倒的灌木”。

马醉木公园海拔约 400 米，沿着阿讃山脉的龙王山山脊延展。园内两处观景台均可饱览壮丽景色。从停车场步行约 10 分钟，即可抵达公园北端的大阪峠观景台，在此向西可远眺濑户内海。纵贯四国、全长 1600 公里的自然步道“四国之路”也途经此处。

停车场南侧设有一处小型休憩点，由此延伸的步道可通往马醉木公园观景台。步道穿过一片生长着约 2000 株马醉木的灌木区，其亮点在于沿途可眺望板野町一带以及向东延伸的群山景色。这段步道单程约需 10 分钟。

<繁体字>**馬醉木公園**

板野町の町樹は馬酔木（學名：Pieris japonica）。這是一種常綠灌木，每年早春會開出白色或粉紅色、狀似下垂鈴鐺的花朵。由於馬酔木全株有毒，馬匹誤食後會出現如酒醉般的中毒症狀，故得此名。

馬酔木公園位於海拔約 400 公尺處，沿著阿讃山脈的龍王山稜線延伸。園內設有兩處展望台，可將周圍的壯麗景色盡收眼底。從停車場步行約 10 分鐘，即可抵達位於公園北端的大阪峠展望台，由此向西眺望，濑戶內海的美景一覽無遺。這也是全長 1,600 公里、縱貫四國的長距離自然步道「四國之道」的必經之處。

停車場南側設有一座小型休憩區，從這裡有一條通往馬酔木公園展望台的步道。途中會經過一片生長著約 2,000 株馬酔木的灌木區。步道的亮點在於展望台的視野，能俯瞰板野町的部分街景及向東綿延的群山。這趟散步行程單程約需 10 分鐘。

<日本語仮訳>

あせび公園

板野町の町木は、馬酔木（ピエリス・ジャポニカ、英語で「Temple Bells」）です；春のはじめ頃に鐘の形をした下垂する白またはピンクの花がつく常緑低木です。馬酔木は文字通り「馬を酔わせる低木」を意味します。

約 400 メートルの標高にあるあせび公園は、阿讃山脈の龍王山の尾根沿いに広がっています。その 2 つの展望台では絶景を望めます。駐車場から徒歩約 10 分の場所にある、公園北端の大坂峠展望台は、瀬戸内海を西に望みます。「四国のみち」は四国を縦断する 1,600 キロメートルの長距離自然歩道で、この地点を通過します。

駐車場から南には、小さな休憩所があり、そこからあせび公園の展望台に続く道が延びています。途中、道は約 2,000 本の馬酔木の低木が育つエリアを通過します。見どころは、板野町の一部と、東に向かって連なる山々を望める景色です。この散策路は片道約 10 分ほどです。

【タイトル】 岡の宮の大クス

【想定媒体】 パンフレット

＜簡体字＞

冈之宫神社与大樟树

冈之宫神社建于公元 900 年，供奉着一位无名神祇，相传能驱除虫害、庇佑五谷丰登。神社境内矗立着一株大樟树，于 1973 年被指定为日本天然纪念物。此树的根部周长 25 米，树高约 35 米，树冠东西延展约 27 米、南北延伸约 37 米。其树龄估计约 700 年，可追溯至镰仓时代（1185-1333 年）末期或室町时代（1336-1573 年）初期。

当地居民自古以来便将此树奉为神木。早在 1768 年，其巨木之姿就引起了藩内海军事务官员的注意。当地信众们担心这棵古树会被伐作船材，向藩主请愿，恳请保留此树。如今，树后所立石碑，正是这次请愿成功的纪念。

＜繁体字＞

岡之宮神社與大樟樹

岡之宮神社創建於西元 900 年。這裡供奉著一位具體名諱不詳，但能驅除害蟲、庇佑五穀豐收的神祇。矗立於神社境內的這棵大樟樹，於 1973 年獲指定為天然紀念物。其樹圍達 25 公尺，樹高約 35 公尺，樹冠東西向延伸 27 公尺、南北向更達 37 公尺。推估樹齡約有 700 年，可追溯至鎌倉時代（1185～1333 年）後期或是室町時代（1336～1573 年）初期。

這棵樟樹長久以來深受在地居民虔誠供奉。早在 1768 年，它就已經生長得極為巨大，甚至受到了當時統治此地的德島藩水師官員的覬覦。信眾們深恐這棵大樹可能被砍伐作為造船木材，於是向藩主請願希望能保住此樹。位於大樹後方的石碑，正是為了紀念當年那場成功的請願而設立的。

＜日本語仮訳＞

岡の宮神社と大クス

岡の宮神社は 900 年に建立されました；そして害虫を寄せ付けないようにして豊作をもたらす無名の

神を祀っています。境内にそびえるこの大クスは、1973 年に天然記念物に指定されました。根回りは 25 メートル、木自体の高さは 35 メートル、枝張りは東西方向に 27 メートル、南北方向に 37 メートルあります。樹齢は推定約 700 年で、鎌倉時代（1185～1333 年）後期または室町時代（1336～1573 年）初期に遡ります。

地元の人たちは長い間ずっとこの木を崇めています。1768 年には、この木は地元藩の海軍省事務官の目を引くほどに大きく成長していました。木が船の木材にされることを恐れた氏子たちは、地元藩主に伐採しないよう請願しました。木の後ろにある石碑は、その請願が成功したことを記念しています。

【タイトル】 愛染院

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>**爱染院**

这座古朴的寺院是四国遍路（四国八十八所巡礼）第三处灵场——金泉寺的奥之院。通往爱染院的狭窄土路，是巡礼古道上现存最早的、保持了原始土路原貌的路段。

正门两侧悬挂着巨大草鞋，用以供奉给守护寺院的两位仁王。本堂内供奉着两尊明王：一尊是通体赤红、三目六臂的爱染明王，另一尊则是面容威赫的不动明王。

本堂左侧的庙里供奉的是 1582 年战死的当地城主赤泽信浓守。相传其兵败原因竟是出征时未能系好草鞋。这座建筑的入口两侧同样悬挂着大草鞋，室内还堆放着许多普通尺寸的草鞋。据说在此供奉草鞋能护佑足、腿及腰部的健康。

<繁体字>**愛染院**

這座古樸的寺院是四國遍路第 3 番札所「金泉寺」的奧之院（位於主寺深處的聖地）。通往愛染院的狹窄土路，是整條遍路道中，第一段至今仍保留自然原貌、未鋪砌的路段。

正門兩側懸掛的巨大草鞋，是用以供奉守護寺院的兩尊仁王（金剛力士）。本堂內供奉著兩尊明王：分別是擁有三眼六臂、全身赤紅的愛染明王，以及面露忿怒之相的不動明王。

本堂左側是一座靈廟，供奉著 1582 年戰死的在地城主——赤澤信濃守。相傳他當年之所以戰敗，是因為出征時未將草鞋的帶子繫好所致。靈廟入口兩側同樣懸掛著巨大的草鞋，內部則堆滿了信眾供奉的眾多一般尺寸草鞋。據說只要在此供奉草鞋，便能保佑足部、腿部及腰部的健康。

<日本語仮訳>

愛染院

この質素な寺は、四国遍路の第 3 番札所の寺である金泉寺の本殿です。愛染院へと続く狭い土道は、遍路の道で自然のまま未舗装の状態に残っている最初の区間です。

正門の両側に付けられている巨大なわらじは、寺を護る二体の守護の王（仁王）に奉納されています。二体の明王が本堂に祀られています：全身赤色で三目六臂の愛染明王と、忿怒顔の不動明王です。

本堂の左は、1582 年に討死した地元城主の赤沢信濃守を祀る廟です；言い伝えでは彼が負けた原因はわらじをきちんと結ばなかったためだと言われています！この建物も、入り口の両側には大きなわらじが、そして内部には通常のサイズのわらじが積まれています。わらじを奉納すると、足、脚、腰の健康を高めると言われています。

【タイトル】 大坂口御番所跡

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>

大坂口御番所遗址

江戸时代（1603-1867 年），各藩在藩境设立“番所”，用以监管人员往来与物资流动。大坂口御番所遗址是德岛藩境内 49 处番所之一，主要负责监察通往邻近高松藩（今香川县）的山道。

守卫在此盘查逃犯以及试图前往大城市谋求更好生活的农民。往来人员需出示证明品行端正的通行证。当地的村濑家与久次米家，受幕府统治下的德岛藩主——蜂须贺氏委托，共同管理此番所。至今屋檐瓦片仍可见蜂须贺家的家纹。

这座番所最初于 1644 年建成时，位置比现址稍高。1773 年遭火灾后，迁至现址重建。现存建筑中最古老的部分是 1790 年修筑的一段石阶。

大坂口御番所遗址

开放时间：偶数月的第一个周日 10:00-16:00 （亦接受预约参观）

<繁体字>

大坂口御番所遺跡

在江戸時代（1603～1867 年），各藩皆在其領地的邊界處設置番所（關卡），用以管控人員往來與物資流通。大坂口御番所遺跡為當時德島藩內 49 座御番所之一，主要負責監視通往鄰國高松藩（今香川縣）的山路關口。

當時的守衛負責查緝逃亡的罪犯，或是企圖離鄉背井到城市謀求更好生活的農民。往來的旅人都必須出示能證明自身品行的通行證，方能通關。這座御番所是當時幕府體制下德島藩的統治者——蜂須賀氏託付在地的村瀬與久次米兩大家族代為管理的。至今在屋簷的瓦片上，依然可見蜂須賀家的家紋。

據傳這座御番所在 1644 年創建之初，位於地勢較高處。1773 年因火災而燒毀後，才遷至現址重建。現存建築中年代最久遠的部分，是一段可追溯至 1790 年的石階。

大坂口御番所遺跡

開放時間：雙數月的第一個週日 上午 10:00～下午 4:00（亦可依預約開放）

<日本語仮訳>

大坂口御番所跡

江戸時代（1603 年～1867 年）には、番所が藩の境界線に設置され、人の往来や物資の移動を監視していました。大坂口御番所跡は、徳島藩にある 49 ある同様の番所の一つで、隣の高松藩（現在の香川県）へと通じる山道を監視しました。

番人は逃亡犯や大都市のよりよい生活を求める反抗的な農民を見張っていました。旅人たちは、自身の品行を保証する通行手形を見せる必要がありました。地元の村瀬家と久次米家の両家が、幕府の支配下にあった徳島藩の統治者である蜂須賀氏に代わって、この番所を預かりました。軒先の瓦には、蜂須賀氏の家紋が施されています。

番所は、1644 年に初めて建てられた当時、もう少し高台に立っていたとされています。1773 年の火災の後、現在の場所に再建されました。現在の構造物で最も古い部分は、1790 年に建造された石段の部分です。

大坂口御番所跡

偶数月の第 1 日曜日の午前 10:00～午後 4:00 に開館（または要望に応じる）

【タイトル】 あすたむらんど徳島

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>

明日多梦乐园

明日多梦乐园 (Asutamu Land) 是一座由多个主题区域组成的游乐园, 部分区域免费开放, 部分区域仅需少量入园费用。免费设施包括: 宽阔的草坪区、带有可运转风车的山丘, 以及冒险游乐园——这里有多层探险堡垒、人工小山、以及配备戏水池和水枪游戏的“水上乐园”。

需购票进入的儿童科学馆分为三个主题展区, 均设有互动展览与体验项目。展区说明文字极少, 旨在鼓励儿童自主探索发现。

在“宇宙与地球”展区, 可以体验用压缩空气将球射入篮筐的“空气篮球”; 在“月球漫步”可通过失重体验装置感受低重力状态; 而在“闪电剧场”里, 人造闪电会将竖立的木棒劈成两半。

“生命与环境”展区展示了多种活体爬行动物, 孩子们可以给鬣蜥、白色玉米锦蛇、球蟒等喂食。展出的鱼类中还有拥有独特腹鳍的黑魔鬼刀鱼。倾斜小屋与全黑迷宫则让孩子们在部分感官混乱或受限的状态下展开探索。

“科学・技术与人类”展区则包含广受欢迎的项目 VR 时空旅行剧场“阿尔法 21”, 以及可供儿童观摩实验过程的“科学厨房”。

户外的吉野川游船(需购票)带游客穿行于点缀着狸猫雕塑的河道之中, 途中还包含几段刺激的俯冲, 为旅程增添乐趣。

明日多梦乐园 (Asutamu Land)

开放时间: 全年 9:30-17:00 (每周三闭园)

儿童科学馆

普通票: 510 日元/中小学生: 200 日元/学龄前儿童: 免费

吉野川游船

普通票：310 日元/中小學生：100 日元/學齡前兒童：免費

餐廳

營業時間：11:00-15:00（最後點單 15:00）

<繁體字>

明日多夢樂園

明日多夢樂園是一座結合多種主題區的休閒遊樂園，其中部分區域免費入園，部分則收取少許入場費。免費的遊樂設施包括大草坪廣場、設有轉動風車的山丘、內有多層樓高的冒險堡壘與人造山的冒險遊樂區，以及設有戲水池與水槍遊戲的親水廣場。

兒童科學館（需購票）分為三大主題區，每一區皆以互動式展示與體驗為主軸。館內的說明文字力求精簡，目的是為了鼓勵孩子們透過動手操作與觀察，自行探索並發現答案。

在「宇宙與地球」區，孩子們可以感受利用壓縮空氣投籃的樂趣；坐上「月球漫步機」後，身繫重力調節裝置，可以體驗在月球上行走的感覺；於「雷電劇場」，則能親眼目睹人造閃電將豎立的木頭劈成兩半的震撼場景。

在「生命與環境」區，孩子們可以近距離觀察，甚至餵食綠鬢蜥、白化玉米蛇與球蟒等爬蟲類動物。魚類展示區中，有以獨特腹鰭著稱的黑魔鬼（Black Ghost Knifefish）。此外，傾斜的房間與黑暗迷宮，則讓孩子們在感官受限或產生錯覺的情況下，挑戰自我、探索環境。

「科學技術與人類」區擁有高人氣的體驗設施，例如 VR 時光旅行劇場「阿爾法 21（Alpha 21）」，以及能讓孩子們近距離觀看實驗過程的「科學廚房」。

園區戶外的「吉野川游船」（需購票），帶領遊客穿梭在佈置了許多日本狸塑像的河岸景致之中，途中還會經歷幾次驚險刺激的激流俯衝，趣味十足。

明日多夢樂園

營業時間：全年上午 9:30～下午 5:00（每週三休園）

兒童科學館

高中生及以上：510 日圓 / 中小學生：200 日圓 / 學齡前兒童：免費

吉野川遊船

高中生及以上：310 日圓 / 中小學生：100 日圓 / 學齡前兒童：免費

餐廳

營業時間：上午 11:00～下午 3:00（最後點餐時間）

<日本語仮訳>

あすたむらんど

あすたむらんどは、各種ゾーンで構成されるテーマパークです；一部は無料で、一部はわずかの入場料が必要です。無料のアトラクションには、広い芝生エリア、回る風車のある丘、多層階建ての冒険の砦、人工の山、そしてパドリングプールや水鉄砲ゲームなどのある「ウォーターパラダイス」といった冒険遊び場があります。

子ども科学館（有料入場）は 3 つのセクションに分かれており、いずれもインタラクティブな展示や体験が特徴です。最小限の説明に留め、展示は子どもたちが自分で発見することを促すよう作られています。

「宇宙と地球」セクションは、圧縮空気でボールをシュートしてバスケットボールをする機会があり、「月面歩行」では訪れる人は重力調整装置にストラップで固定された状態を体験し、カミナリシアターでは人工の雷がまっすぐの木材を真っ二つにします。

「生命と環境」セクションでは、子どもたちは、イグアナ、ホワイトコーンスネーク、ボールパイソンなどの生きている爬虫類に餌をあげることができます。展示されている魚の中に、特徴的な下側のヒレを持つブラックゴーストナイフフィッシュがいます。傾いた部屋と暗闇の迷路は、子どもの五感を一部錯覚させたり遮断したりした状態での探検を試します。

「科学技術と人間」には、VR タイムトラベルシアター「アルファ 21」や、子どもたちが実験の進行の様子を見られる「サイエンスキッチン」など、人気の体験があります。

屋外には、吉野川クルーズ（要チケット）が訪れる人をためきの像が点在する景色を巡る船の旅にいません；そして何回かあるスリリングな溪流下りが楽しいです。

あすたむらんど

営業時間：年中 午前 9:30～午後 5:00（水曜日閉館）

子どもの科学館

大人：510 円 / 子ども：200 円 / 未就学児以下：無料

吉野川クルーズ

大人：310 円 / 子ども：100 円 / 未就学児以下：無料

レストラン

営業時間：午前 11:00～午後 3:00（オーダーストップ）

【タイトル】 板野町（全体概要）

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>

板野町

板野町位于德岛县东北部，是一座人口约 1.3 万人的小镇。这里北倚阿讃山脉，南接平坦农田。农业是本地的支柱产业，主要农产品包括稻米、莲藕、腌渍用白瓜以及桃、草莓等水果。自 20 世纪 60 年代起，温室培育的春季胡萝卜逐步成为代表作物，如今这里已是日本首屈一指的春季胡萝卜产区。

世界闻名的“四国遍路”八十八座古刹中，有三座坐落于板野町。幕府时代监察藩地边界往来人员和物资的大坂口御番所遗址，如今也广受游客欢迎。此外，拥有互动科学馆与吉野川游船的多主题乐园“明日多梦乐园（Asutamu Land）”，则是亲子游的理想场所。

<繁体字>

板野町

板野町位於德島縣東北部，是一個人口約 1 萬 3 千人的小鎮。其地理環境北起阿讃山脈，南接平坦廣闊的農地。本地的主要產業為農業，盛產稻米、蓮藕、傳統醃漬用的白瓜（越瓜），以及水蜜桃與草莓等水果。自 1960 年代起，溫室栽培的春季紅蘿蔔便成為重要農產，如今板野町已躋身為日本國內首屈一指的春季紅蘿蔔產地。

聞名全球的「四國遍路」88 座古刹中，就有 3 座位於板野町內。在歷史景點方面，「大坂口御番所遺跡」是昔日幕府時代為了監管穿越藩界的旅人與貨物而設立的關卡，如今已成為深受遊客喜愛的景點之一。此外，擁有多個主題區域、設有互動式科學館及吉野川遊船的「明日多夢樂園」，更是親子同樂的絕佳去處。

<日本語仮訳>

板野町

板野町は徳島県北東部に位置する人口約 13,000 人の小さな町です。北の阿讃山脈から南の平

坦な農地までに広がります。板野町の主要な産業は農業で、主な農産物は、米、蓮根、漬物用瓜のシロウリ、そして桃やイチゴなどの果物です。温室栽培の春にんじんが 1960 年代以降、主要な農作物となっています；板野町は現在日本国内有数の生産地です。

板野町には世界的に有名な四国遍路を構成する 88 の古刹の内 3 つがあります。大坂口御番所跡は幕府時代の領地境界を渡る旅人や荷物を監視した番所で、観光客の間で人気のある歴史的建造物の一つです。インタラクティブな科学館と川船クルーズがあるマルチゾーンテーマパーク、あすたむらんどは、小さな子ども連れのご家族に楽しい場所です。

【タイトル】 あせび公園

【想定媒体】 Web

<簡体字>**马醉木公园**

在日本，地方政府常常会选定一种植物作为町或县的象征。板野町的町树马醉木（学名 *Pieris japonica*），是一种常绿灌木，早春时节会垂挂下一簇簇铃铛状的白色或粉色花朵。

“马醉木”即字面意思“使马醉倒的灌木”。

马醉木公园海拔约 400 米，沿着阿讃山脉的龙王山山脊延展。园内两处观景台均可饱览壮丽景色。从停车场步行约 10 分钟，即可抵达公园北端的大坂峠观景台，在此向西可远眺濑户内海及星罗棋布的岛屿。一块石碑上刻着俳句：“花馬酔木 あがたをへだて いる峠（马醉木花开——两地相隔处，静卧山隘）”，意指大坂峠横跨现今的德岛县与香川县。纵贯四国、全长 1600 公里的自然步道“四国之路”，以及其中一段被称作“山里之道”的本地短途步行道，均途经此处。

停车场南侧设有一处小型休憩点，由此延伸的步道可通往马醉木公园观景台。步道穿过一片生长着约 2000 株马醉木的灌木区，其亮点在于沿途可眺望板野町的大坂地区以及东侧的群山。这段步道往返各需约 10 分钟。

<繁体字>**馬醉木公園**

在日本，地方公共團體（地方政府）經常選定某種花卉、樹木作為該市鎮或縣的象徵。板野町的町樹是馬醉木（學名：*Pieris japonica*）。這是一種常綠灌木，每年早春會開出白色或粉紅色、狀似下垂鈴鐺的花朵。由於馬醉木全株有毒，馬匹誤食後會出現如酒醉般的中毒症狀，故得此名。

馬醉木公園位於海拔約 400 公尺處，沿著阿讃山脈的龍王山稜線延伸。園內設有兩處展望台，可將周圍的壯麗景色盡收眼底。從停車場步行約 10 分鐘，即可抵達位於公園北端的大坂峠展望台，由此向西眺望，瀨戶內海及星羅棋布的島嶼美景一覽無遺。路旁的石碑上刻著

一首俳句：「花馬酔木 あがたをへだて いる峠（馬酔木花鮮，兩縣遙望一嶺間，靜臥白雲巔）」。詩句巧妙地點出了大坂峠の地理位置——現在的德島縣與香川縣正是在此交界。此外，全長 1,600 公里、縱貫四國的長距離自然步道「四國之道」，以及作為其一部分的在地短程散步路線「山里之道」，皆經過此處。

停車場南側設有一座小型休憩區，從這裡有一條通往馬酔木公園展望台的步道。途中會經過一片生長著約 2,000 株馬酔木の灌木區。步道的亮點在於展望台的視野，能俯瞰板野町的大坂地區及向東綿延的群山。這趟散步行程單程約需 10 分鐘。

＜日本語仮訳＞

あせび公園

日本では、地方自治体が町や県のシンボルとしてよく花を選びます。板野町の町木は、馬酔木（ピエリス・ジャポニカ、英語で「Temple Bells」）です；春のはじめ頃に鐘の形をした白またはピンクの花の下垂する房がつく常緑低木です。馬酔木は文字通り「馬を酔わせる低木」を意味します。

標高約 400 メートルの位置にあるあせび公園は、阿讃山脈の龍王山の尾根沿いに広がっています。そこには絶景を望める 2 つの展望台があります。駐車場から徒歩約 10 分の場所にある、公園北端の大坂峠展望台は、瀬戸内海と数多くの島々を西に望みます。真っすぐ立った石碑に刻まれた俳句は「花馬酔木 あがたをへだて いる峠」と書いてあり、大坂峠が現在の徳島県と香川県にまたがることをほのめかしています。四国を縦断する 1,600 キロメートルの長距離自然步道「四国のみち」と、その一部である地元の短い散策コース「山里のみち」の両方がこの地点を通過します。

駐車場から南には、小さな休憩所があり、そこからあせび公園の展望台に続く道が延びています。途中、道は約 2,000 本の馬酔木の低木が育つエリアを通過します。見どころは、板野町の大坂と、東に向かって連なる山々を望む景色です。この散策路は片道約 10 分ほどです。

【タイトル】 岡の宮の大クス

【想定媒体】 Web

<簡体字>

冈之宫神社的大樟树

这株巨大的樟树生长于冈之宫神社境内，该神社位于“四国遍路”第三处灵场金泉寺与第四处灵场大日寺之间。此树于 1973 年被指定为日本天然纪念物。冈之宫神社建于公元 900 年，供奉着一位无名神祇，相传能驱除虫害、庇佑五谷丰登。

此树露于地面的根部周长达 25 米，树高约 35 米，树冠东西延展约 27 米、南北延伸约 37 米。其树龄估计约 700 年，可追溯至镰仓时代（1185-1333 年）末期或室町时代（1336-1573 年）初期，远早于日本实现统一的时代。

数百年来，当地民众一直尊崇此树，将其奉为神木。树干上垂挂的“注连绳”，即是划分神域与俗世的界标。即使早在两个半世纪前的 1768 年，其巨木之姿就引起了当地藩国海军事务官员的注意。当时藩主需要航行于濑户内海的船只，信众们担心这棵古树会被伐作船材，向藩主请愿，恳请保留此树。如今，树后所立石碑，正是这次请愿成功的纪念。

<繁体字>

岡之宮神社的大樟樹

這棵巨大的樟樹矗立於四國遍路第 3 番札所「金泉寺」與第 4 番札所「大日寺」之間的神社境內，於 1973 年獲指定為天然紀念物。岡之宮神社創建於西元 900 年，供奉著一位雖無具體名諱，但能驅除害蟲、庇佑五穀豐收的神祇。

這棵樹露出地面的根部樹圍達 25 公尺、樹高約 35 公尺、樹冠向東西延伸 27 公尺，南北則達 37 公尺。推估樹齡約 700 年，可追溯至鎌倉時代（1185～1333 年）後期或室町時代（1336～1573 年）初期，那是遠在日本統一之前的時代。

數百年來，在地居民一直將此樹視為御神木而虔誠供奉。樹幹上繫著的繩索被稱為注連繩，象徵著神聖領域與俗世的分界。早在兩個半世紀前的 1768 年，這棵樹便因生長得極為巨

大，而受到德島藩水師官員（船奉行）的覬覦。當時藩主需要建造橫渡瀬戸内海的船隻，信眾們深恐心愛的古樹被砍伐作為造船木材，於是向藩主請願希望能保留此樹。位於大樹後方的石碑，正是為了紀念當年那場成功的請願而設立的。

＜日本語仮訳＞

岡の宮神社の大クス

この大クスは金泉寺と大日寺（四国遍路の第 3 番札所と第 4 番札所）の間にある神社の境内にそびえています。この木は、1973 年に天然記念物に指定されました。岡の宮神社は 900 年に建立されました；そして害虫を寄せ付けないようにして豊作をもたらす無名の神を祀っています。

木の露出した根の周りが 25 メートルもあります。木自体は高さ 35 メートル、枝張りは東西方向に 27 メートル、南北方向に 37 メートルあります。樹齡は推定約 700 年で、日本が統一されるもっと前の鎌倉時代（1185～1333 年）後期または室町時代（1336～1573 年）初期に遡ります。

地域住民は数百年にわたりこの木を崇め奉り、神聖な木（御神木）として拝んでいます。幹に巻きつけられたロープはしめ縄として知られ、神聖な領域と俗世の境界線を示しています。2 世紀半前の 1768 年には、この木は地元藩の海軍省事務官（船奉行）の目を引くほどに大きく成長していました。藩主は、瀬戸内海を渡るための船を必要としていました。親しまれてきた木が船の木材にされることを恐れた氏子たちは、藩主に伐採しないよう請願しました。木の後ろにある石碑は、その請願が成功したことを記念しています。

【タイトル】 愛染院

【想定媒体】 Web

<簡体字>**爱染院****神佛的草鞋**

爱染院是一座古朴的寺院，院内生长着苏铁，草木葱茏，是“四国遍路”第三处灵场——金泉寺的奥之院（内院）。虽然并非八十八所正式灵场之一，但位于第三处灵场金泉寺与第四处灵场大日寺之间的巡礼路线上。通往爱染院的狭窄土路穿过山脚的竹林，是巡礼古道上现存最早的、保持了原始土路原貌的路段。

从正前方走近寺院，最引人注目的便是正门两侧悬挂的巨型草鞋。这是用来供奉守护寺院的两尊体格魁梧、面容威猛的仁王的物品，仁王雕像立于门内，守护这座寺院。草鞋高约两米，据说这是因为仁王的身高有十米。门内天花板上绘有天女图，以及象征吉祥的松竹梅纹样。

本堂内供奉着两尊明王。一尊是通体赤红、三目六臂、亦为寺名由来的爱染明王。另一尊是面容威赫的不动明王，则被供奉在称为“御厨子”的木龕内，平日不公开展示。爱染明王像位于佛坛左侧。堂内墙壁上，绘有爱染明王所属的“金刚界曼荼罗”与不动明王所属的“胎藏界曼荼罗”。

出家武将之墓

本堂左侧的庙供奉的是 16 世纪末的当地城主、同时也是出家僧人的赤泽信浓守。赤泽于 1582 年战死，相传其死因竟然是临阵前未能系好草鞋所致。与正门一样，建筑的入口两侧同样悬挂着大草鞋，室内也堆满了普通尺寸的草鞋。据说在此供奉草鞋能保护足、腿及腰部的健康。昔日巡礼者多以草鞋为鞋履，因此会来此祈愿，祈求获得顺利走完全程的体力。

紧邻墓堂后方稍偏处便是赤泽的墓碑，周围环立着被称为“板西城将士”的家臣们的五轮塔墓碑，这种布局因循传统，但实际上这些家臣的墓地原位于约一公里外，直到 20 世纪 70 年代才迁至此处。

一条小径从寺院后方延伸至山顶，沿途间隔排列着“四国遍路”八十八处灵场各寺本尊的石像。这类室内或室外的“迷你遍路”在四国遍路的寺院中十分常见。

院落最右侧是大师堂，供奉着真言宗创始人空海（谥号弘法大师）。在院落另一端、依山脚而立的，则是寺院的钟楼。楼内有两口钟，一口悬吊，一口置于地面。第二次世界大战期间，日本许多寺庙的钟被征用熔化以充军需。地上那口钟铸于战后不久，因品质不佳很快便出现了裂纹。

爱染院原名阿弥陀寺，1921年与位于四国遍路第二十一处灵场太龙寺境内的爱染院合并后，改为现名。

＜繁体字＞

愛染院

眾神的草鞋

愛染院是一座種滿蘇鐵與青草、風格質樸的寺院，也是四國遍路第3番札所「金泉寺」的奥之院（位於主寺深處的聖地）。雖然愛染院並未正式被列入88處札所，但正好位於金泉寺與第4番札所「大日寺」之間的遍路路徑上。穿過山腳下的竹林後通往愛染院的狹窄土路，是整條遍路道中，第一段至今仍保留自然原貌、未鋪砌的路段。

從正面接近寺院時，最引人注目的莫過於正門兩側懸掛的一對巨大草鞋。這是為了供奉守護寺院的兩尊「仁王」（金剛力士）雕像；祂們肌肉發達、面容威猛，矗立於門內守護著寺院。（據說真正的仁王身高達10公尺，因此供奉的草鞋也就長達約2公尺。）正門內側的天花板上，則繪有天界的女神「天女」，以及象徵吉祥的松、竹、梅圖案裝飾。

本堂內供奉著兩尊明王。一尊是全身赤紅、擁有三眼六臂的「愛染明王」，本寺即以此神祇命名。愛染明王供奉於祭壇左側，信眾可瞻仰其法相；而另一尊面露忿怒之相的「不動明王」，則被安奉在稱為「御廚子」的木製佛龕中，平時不對外公開（秘佛）。牆上則掛有愛染明王所屬的「金剛界」曼荼羅，以及不動明王所屬的「胎藏界」曼荼羅。

出家武將之墓

位於本堂左側的建築是一座靈廟，供奉著16世紀後半葉的在地城主、同時也是出家武將的赤澤信濃守。赤澤於1582年戰死，相傳他戰敗的原因，是因為出征時未將草鞋的帶子繫好

所致。與正門相同，這座靈廟入口兩側也掛有巨大的草鞋，內部則堆滿了信眾供奉的眾多一般尺寸草鞋。據說只要在此供奉草鞋，便能保佑足部、腿部及腰部的健康。過去，穿著草鞋長途跋涉的遍路巡禮者，都會來此祈求獲得走完遍路所需的體力。

在靈廟正後方的一角，立有赤澤的墓碑，周圍環繞著被稱為「板西城之兵」的家臣們的五輪塔。雖然這樣的排列方式維持古制，但家臣們原來的墓地其實位於約一公里外，直到 1970 年代才遷移至此。

一條小徑從寺院後方延伸至高台頂端，沿途每隔一段距離便安置著四國遍路全 88 所寺院的本尊石像（各寺供奉的佛像）。這種「迷你遍路道」無論設於室內或室外，在四國遍路的寺院中均相當常見。

在境內最右側的是「大師堂」，供奉著真言宗開山祖師空海（法號弘法大師）。而在境內另一端、面朝山腳處則矗立著寺院的鐘樓。這裡有兩口鐘，一口懸掛著，另一口則放置於地面。第二次世界大戰期間，日本許多寺院的梵鐘都被徵收並熔化以用於戰爭。放置在地面上的這口鐘是在戰後不久鑄造的，因品質不佳而迅速龜裂。

愛染院最初名為「阿彌陀寺」，後於 1921 年與四國遍路第 21 番札所「太龍寺」境內的愛染院合併，才更名為現在的名稱。

<日本語仮訳>

愛染院

神のわらじ

愛染院は、境内にサゴヤシと草が茂る簡素な寺で、四国遍路の第 3 番札所の寺である金泉寺の本殿（奥の院）です。公式の八十八ヶ所の札所の一つではありませんが、愛染院は金泉寺と第 4 番札所である大日寺との間の巡礼ルート上にあります。山の麓の竹林を抜けて愛染院へと続く狭い土道は遍路道で自然のまま未舗装の状態に残っている最初の区間です。

前方から寺に近づく人たちにとって、最も目を引くのが、正門両側に付けられた対の大きなわらじです。これらは筋肉隆々とした迫力ある顔の二体の守護の王（仁王）に捧げられたものです；その像が門内に立ち、寺を守っています。（わらじは高さ約 2 メートルあります；実際の守護王は身長が 10 メートルあると言われているためです。）門内の天井には、天界の女神 天女と縁起を担いだ松・竹・梅のモチーフが装飾されています。

本堂には二体の明王が祀られています；一体は全身赤色で三目六臂の愛染明王です；彼の名前が寺に付されています。もう一体の忿怒顔の不動明王は木製の箱（御厨子）の中に隠されており、一方で愛染明王は祭壇の左側に姿をみることができます。壁には、愛染明王が属する金剛界と、不動明王が属する胎蔵界の曼荼羅が飾られています。

僧兵の墓

本堂の左にある建物は、16 世紀後半の地元城主で出家した僧侶でもある赤沢信濃守を祀る廟です。赤沢は 1582 年に討死しましたが、言い伝えではその原因はわらじをきちんと結ばなかったためだと言われています！正面の門同様、この建物の入り口の両側にも大きなわらじがあります。内部にも通常のサイズのわらじが積まれています；ここにわらじを奉納すると、足、脚、腰の健康を高めると信じられています。わらじが自分たちにとって普通の履物だった巡礼者は、徒歩でお遍路の道を歩ききるために必要な力を得ようと、かつてはここにきて拝んでいました。

廟のすぐ後ろの一角には赤沢の墓石があり、それを囲むように、「板西城の兵」と呼ばれる赤沢の家臣の五つの輪でできた塔（五輪塔）があります。並びは昔からそのままですが、家臣の実際の墓は 1970 年代に約 1 キロメートル離れた元の場所からここに移されました。

四国遍路の全 88 体の本尊（各寺で祀られる仏像）の石像が間隔をおいて並べられている小さな道が、寺の後ろから高台の頂上まで伸びています。これらの「ミニ遍路道」が、屋内や屋外に存在し、四国遍路の寺院で一般的にみられます。

境内の一番右端には、大師堂があります；真言宗の開祖である空海（法名を弘法大師として知られる）が祀られる大堂です。境内の反対奥、山の麓に面して建つのがお寺の鐘楼です。鐘は 2 つあります；1 つは吊り下げられ、もう 1 つは地面に置かれています。第二次世界大戦中、多くの日本の寺の鐘は没収され、軍事活動のために溶かされました。戦後すぐに作られた地面にある鐘は質が悪く、すぐに割れてしまいました。

愛染院は当初、阿弥陀寺と呼ばれていましたが、四国遍路の第 21 番札所の寺である太龍寺境内にある愛染院寺と合併し、1921 年に現在の名称に変更されました。

【タイトル】 大坂口御番所跡

【想定媒体】 Web

<簡体字>

大坂口御番所遗址

在德川幕府时期（1603-1867 年），日本社会受到高度管制，人员流动有诸多限制。各藩在藩境设立名为“番所”的关卡，用以监察人员往来与物资流动。仅德岛藩境内就有 49 处番所。大坂口御番所得名于其地理位置——它位于通往邻藩高松藩（今香川县）的山道入口处，当时此地名为“大坂村”。

当时想要出行的民众必须从当地的寺院或神社取得通行证。这份文书不仅证明持有人品行端正、担保其非基督徒（1871 年以前，基督教在日本被视为非法），同时注明了出行目的，如参拜或经商等。

番所的守卫也负责稽查叛逃者：包括逃犯，以及不堪土地束缚与赋税重负、试图前往城市谋求更好生活的农民。若守卫怀疑行人是基督徒，会迫使其践踏画有耶稣、圣母玛利亚或十字架的画像，以证明其对基督教符号的漠视。番所制度最终于明治时代（1868-1912 年）第四年，即 1872 年被废除。

受德岛藩主蜂须贺氏委托，当地的村濑家与久次米家两大家族共同管理此番所。屋檐瓦片的瓦当上可见蜂须贺家族的万字（左向卍字）家纹。通常行人需跪在地上，将通行证呈交给站在建筑周围木制廊台上的番所官员查验。

这座番所最初于 1644 年设立时，位置比现址稍高。原建筑于 1773 年焚毁后，于现址重建。现存建筑中最古老的部分是正面墙边的一段短石阶，建于 1790 年。番所建筑主体约有两百年历史，但保存状况并非完全忠于原貌。例如，窗户加装了金属窗框，而茅草屋顶现在已被波纹塑料板覆盖。

室内前半部分并排有三间铺着榻榻米的房间，后半部分则保留了传统土间式厨房，以及铺有地板并被架高的房间。室内陈列着一些记载通关货物的原始文件、一套江户时代初期的盔甲，以及守卫当年用以拘捕无权通行者时所使用的武器的仿制品。

大坂口御番所遺址在偶数月的第一个周日 10:00 至 16:00 开放，亦接受预约参观。

<繁体字>

大坂口御番所遺跡

日本在德川幕府統治下的江戶時代（1603～1867 年），是一個社會階級森嚴且移動受到諸多限制的社會。各藩皆在其領地的邊界處設置了稱為「番所」的關卡，以嚴格監控人員的流動與物資的流通。光在德島藩內，御番所就多達 49 個。大坂口御番所之所以得名，是因為當時此地名為「大坂村」，而且正好位於通往鄰國高松藩（今香川縣）山路關口的緣故。

在那個時代，想要出行的人必須先向當地的神社或寺廟取得通行證（通行手形）。通行證不僅可證明持有人身家清白、品行良好，也可保證其並非基督徒（1871 年之前，基督教在日本是被禁止的），同時還需詳細記載出行的目的是為了宗教參拜還是商業買賣。

當時的番所官員主要負責監視違法亂紀者，例如逃亡的罪犯，或是因不堪土地束縛與繁重稅賦、試圖前往城市謀求生路的農民。如果官員懷疑旅人是基督徒，便會強迫其踐踏畫有耶穌、瑪利亞或是十字架的畫像（即「踏繪」），以證明沒有基督教方面的信仰。這套番所制度直到明治時代第 4 年的 1872 年才終於被廢除。

這座御番所是由在地的村瀨與久次米兩大家族，受德島藩統治者蜂須賀氏之託代為管理的。在屋簷瓦片的圓形末端，飾有蜂須賀家的「圓框左萬字紋（卍）」家紋。一般而言，旅人在接受檢查時必須跪在地面上，向站在建築物外圍木造走廊上的官員出示通行證。

據推測，這座御番所於江戶時代初期約 1644 年首次建造時，位於地勢稍高處。原建築在 1773 年燒毀後，於現址重建。現存建築中最古老的部分，是位於正面牆邊的一小段石階，建於 1790 年。御番所主體雖有約 200 年歷史，但並未完全依照古法保留原貌，例如窗戶已換裝為金屬窗框，原本的茅草屋頂現在也被覆蓋上了塑膠波浪板。

建築內部的前半部由三間榻榻米房相連而成，後半部則保留了舊有的土間式廚房以及架高的木板地房間。現場展示著部分記載當年通關貨物的原始文件、江戶時代初期的盔甲，以及官員用來壓制或逮捕無權通行者的武器與捕具的複製品。

大坂口御番所遺跡的開放時間は雙數月の第一個週日上午 10:00～下午 4:00，亦可依預約開放。

＜日本語仮訳＞

大坂口御番所跡

徳川幕府が統治した江戸時代（1603～1867 年）、日本は移動に多くの制限が課せられる厳格な社会でした。番所として知られる警備所が藩の間の境に設置され、人の移動と物の流通を監視していました。徳島藩だけでも 49 の番所がありました。大坂口御番所は、隣の高松藩（現在の香川県）へと通じる山道の入り口（口）にその当時あった大坂村から、その名が付けました。

当時、移動を希望する人たちは、地元の神社や寺から通行証（通行手形）を入手しなければなりません。この通行証はその人物の品行を保証し、キリスト教徒ではないこと（1871 年まで日本において禁止されていた宗教）を証明し、そして旅の目的が宗教的か商業的かを記載していました。

番所役人は一方で、反抗的な者を監視していました；逃亡犯や、土地と税負担の束縛に疲れ、都市のよりよい生活を求める農民のことです。番所役人は、旅人がキリスト教徒であると疑った場合、彼らはそうした旅人たちにイエス、マリア、または十字架の絵を踏ませ、キリスト教の象徴への無関心を証明させました。番所の制度は、明治時代（1868～1912 年）の 4 年目にあたる 1872 年に遂に廃止されました。

地元の村瀬家と久次米家の両家が、徳島藩の統治者である蜂須賀氏に代わって、この番所を預かりました。軒先の瓦の丸い端部には、蜂須賀氏の家紋である万字紋（左向きのスワスティカ）が示されています。通常、旅人は地面に跪き、建物の周囲を囲む木製の張り出しに立っている番所役人に通行証を提示して検査を受けました。

この番所は、江戸時代に入って 40 年ほど経った 1644 年に初めて建設された当時は、もう少し高台にあったと考えられています。元の建物が 1773 年に焼失した後に、現在の場所に再建されました。現在の構造物で最も古い部分は、正面壁のそばに残る短い石段部分です；1790 年に建造されました。番所自体は、約 200 年の歴史がありますが、最大限忠実に保存されているわけではありません。例えば、窓には金属製のサッシが取り付けられています；また、茅葺き屋根には現在、波板プラスチックがかけられています。

内部には前面半分に 3 つの畳の間が並び、後面半分には古い土間式の台所と床板張りの高床の間があります。番所を通過した品物を記載した一部の原本資料、江戸時代初期の鎧甲冑や、番所役人が通行する権利のない者を拘束・捕縛するために使用したとされる複製武具が展示されています。

大坂口御番所跡は偶数月の第 1 日曜日の午前 10:00～午後 4:00 に開館、または要望に応じて公開されています。

地域番号	027	協議会名	錦町多言語解説協議会

解説文一覧

NO.	スポット名（タイトル）	中国語文字数	想定媒体
027-001	沖縄軍事作戦を支援する米国の空襲	956	QRコード
027-002	海軍航空廠	435	QRコード
027-003	銃後の暮らし① 在郷軍人会	393	QRコード
027-004	銃後の暮らし② 銃後の女性たち	440	QRコード
027-005	銃後の暮らし③ 学校が軍事活動に参画	552	QRコード
027-006	軍需工場への学徒動員	495	QRコード
027-007	銃後に動員された民間人	524	QRコード
027-008	沖縄からの疎開者たちを迎える	502	QRコード
027-009	松根油の製造	543	QRコード
027-010	米砲艦「ウェーク」の拿捕と国旗の返還	565	QRコード

【タイトル】 沖縄軍事作戦を支援する米国の空襲

【想定媒体】 QR コード

<簡体字>

策应冲绳岛战役的美军空袭

1945 年初，盟军开始筹备进攻冲绳岛，这是进入日本本土决战前的最后一道屏障。此次进攻定于 4 月 1 日发起，行动代号为“冰山行动（Operation Iceberg）”。在此之前的数月间，美军飞机持续攻击日本西部的军事设施，重点打击机场和飞机制造设施，以瓦解日本的空中力量。

3 月 18 日清晨，一支由格鲁曼 F6F “地狱猫”战斗机组成的飞行中队，从停泊在九州岛东侧外海的美军海军航空母舰“卡伯特”号（USS Cabot）起飞。他们的任务是对熊本县和宫崎县的机场进行空中侦察，其中包括人吉海军航空基地。途中，在驱逐一架日方战斗机后，该中队在约 7000 英尺高空对基地进行了摄影侦察，并报告未再遭遇日本飞机。

当天上午 9 时 45 分，另一支由 16 架钱斯·沃特 F4U “海盗”战斗机组成的中队从美国海军航空母舰“邦克山”号（USS Bunker Hill）起飞。其中两架因发动机故障被迫返航，其余 14 架于 11 时 15 分左右飞抵人吉。在持续约 15 分钟的袭击中，“海盗”战斗机两次低空掠过基地，发射了 91 枚 5 英寸火箭弹和 9900 发 12.7 毫米（.50 口径）弹药。

此次空袭造成了严重破坏：跑道布满弹坑，两座大型飞机库被完全摧毁，一栋营房严重受损，一个储存航空燃料用酒精的仓库燃起大火。躲避在通往战斗指挥所的地下通道中的海军军官佐野敏雄及其他八人死亡。此外，包括幼童在内的四名平民也在此次空袭中丧生。

后续空袭

随着惨烈的冲绳岛战役的持续，日本扩大了“神风特攻队”自杀式袭击的规模，对支援登陆作战的美军舰队造成了惨重伤亡。作为回应，美军战机继续空袭日本西部机场，以压制其后续攻击。

5月14日16時30分，一個由16架F6F“地獄貓”戰鬥機組成的中隊，從美軍“聖賈辛托”號（USS San Jacinto）航母起飛，對人吉機場實施了新一輪空襲。戰機自東向西使用火箭彈和炸彈進行攻擊，隨後又調轉方向，對地面進行了機槍掃射。

空襲点燃了停放在跑道南侧的一架双引擎飞机，并严重损毁了一架单引擎飞机。工兵部队为伪装跑道而搭建的多处假建筑也被摧毁。飞行员在事后报告中称，由于机场仍可见3月18日空袭留下的痕迹，此次战果难以准确评估。

人吉中学校校长报告称，学校也在扫射中受损。校舍被10发机枪子弹击中，其中包括校长室。还有多发子弹击中了操场和学校的防空掩体。

＜繁体字＞

支援沖繩戰役的美軍空襲

1945年初，盟軍正準備對沖繩本島發動大規模軍事攻勢——這被視為進攻日本本土前的最後一道跳板。這項代號為「冰山行動」的作戰預定於4月1日展開。為了替登陸行動鋪路，在此之前的數個月，美軍戰機鎖定西日本各地的軍事設施，集中打擊機場與飛機製造廠，意圖全面癱瘓日本的空中防禦力。

3月18日清晨，一支格魯曼F6F「地獄貓」戰鬥機中隊從停泊於九州東岸外海的美軍「卡伯特號」航空母艦起飛。他們在前往熊本縣與宮崎縣境內的機場（包含人吉海軍航空基地）執行攝影偵察任務中，曾驅離一架敵機，隨後以約7,000英尺（約2,100公尺）的高度飛越人吉基地，確認現場並無進一步攔截。

當日上午9點45分，另一支由16架錢斯·沃特F4U「海盜式」戰鬥機編成的中隊，從美軍「邦克山號」航空母艦出發。其中2架因引擎故障被迫返航，其餘14架於11點15分抵達人吉。在短短15分鐘的猛烈攻勢中，機群發射了91枚5英寸火箭彈，並射出9,900發0.50口徑機槍彈。

人吉海軍航空基地在首波攻擊中遭受嚴重損害：跑道遍布彈坑、2座大型機庫全毀、一棟營房嚴重受損，另有一處儲存航空燃料用酒精的倉庫被引燃焚毀；當時躲入通往作戰指揮所地下通道避難的海軍軍官佐野敏雄與另外8人一同陣亡，另有4名平民（包含年幼孩童）也在空襲中喪生。

後續空襲

隨著沖繩戰役演變為激烈的消耗戰，日本軍方擴大動用「神風特攻隊」進行自殺式攻擊，造成美軍艦隊損失慘重。為此，美軍持續轟炸西日本各地的機場，力求從源頭壓制特功機の出擊。

5月14日下午4點30分，來自美軍「聖哈辛托號」的16架F6F「地獄貓」再次對人吉飛行場發動空襲。機群自東向西以火箭彈與炸彈攻擊後隨即折返，並以機槍進行低空掃射。

此次空襲使一架停放於跑道南側的雙引擎飛機起火，另有一架單引擎飛機重創。多棟由工程部隊搭建、用以偽裝跑道的「假屋」也遭摧毀。據飛行員的事後報告，由於飛行場仍可見3月18日攻擊留下的痕跡，因此本次戰果較難精確評估。

此外，人吉中學也遭到了機槍掃射；根據校長回報，校舍共中彈10發，包含校長室、操場與校內防空洞也留下多處掃射痕跡。

<日本語仮訳>

沖繩軍事作戰を支援する米国の空襲

1945年初頭、連合軍は沖繩本島での大規模な軍事攻勢の準備をしていました。日本の本州を占領するために必至の戦いの前の最終下準備です。この攻撃は作戦名を「アイスバーグ作戦」と名付けられ、4月1日に予定されました。それまでの数か月、米国の戦闘機は西日本の軍事施設を標的にして、日本の航空戦力を無力化するために飛行場や航空機製造施設を集中攻撃しました。

3月18日の早朝、グラマン F6F ヘルキャット戦闘機は九州島の東海岸に停泊していたアメリカ軍空母 カボットから発艦しました。彼らの作戦は熊本県と宮崎県にある飛行場の空中偵察で、人吉海軍航空基地もその中に含まれていました。途中で戦闘機を撃退し、飛行隊は写真偵察で基地の7000フィート上空を通過し、日本の航空機とそれ以上遭遇することはなかったと報告しました。

その後、午前9時45分に、16機からなるチャンスヴォート F4U コルセア戦闘機がアメリカ軍空母バンカー・ヒルを出発しました。内2機はエンジントラブルにより帰艦を余儀なくされましたが、残る14機は11時15分頃に人吉に到達しました。15分の襲撃で、コルセアは2機に基地を通過させて91本の5インチロケットを発射し、50口径弾薬を9,900発も撃ち込みました。

攻撃は深刻な被害をもたらしました；滑走路には穴があき、2棟の大きな航空機格納庫は壊滅；

兵舎 1 棟は大破し、そして航空燃料に使用するために保管されていたアルコールの貯蔵庫は燃やされました。戦闘指揮所につながる地下通路に退避していた海軍将校の佐野敏雄と他 8 名は戦死しました。幼い子どもを含む 4 人の民間人も死亡しました。

追撃空襲

容赦ない沖縄軍事作戦は長期間にわたり、日本は神風特攻隊による自爆攻撃の使用を拡大し、侵攻を後押しする米軍艦隊に甚大な人的損害を与えました。これに対抗し、米国の戦闘機はさらなる攻撃を抑え込もうと、西日本の飛行場に攻撃を続けました。

5 月 14 日の午後 4 時 30 分、アメリカ軍空母 サン・ジャシントからの F6F ヘルキャット飛行隊 16 機が人吉飛行場にさらなる空襲を行いました。戦闘機は東から西に向かって、ロケットおよび爆弾で攻撃を行い、それから方向を反転してその区域に機銃掃射を行いました。

空襲により滑走路のすぐ南に駐機していた双発機 1 機が炎上し、単発機 1 機が大破しました。滑走路をカモフラージュするために建設部隊に建てられていた多数のダミーの家屋も破壊されました。パイロットの事後報告書によれば、飛行場にはまだ 3 月 18 日に行った攻撃の影響が残っていたために今回の結果の評価が難しいとされていました。

人吉中学校長は、学校も機銃掃射を受けたと報告しました。機銃掃射により校舎に 10 発が被弾し、その中には校長室も含まれていたほか、校庭や学校の防空壕にも多数被弾しました。

【タイトル】 海軍航空廠

【想定媒体】 QRコード

<簡体字>

海军航空厂

海军航空厂是直属于“大日本帝国海军”的军工厂。其主要职责包括采购原材料，制造和维修航空兵器。

太平洋战争爆发时，该厂位于长崎县大村市的主要厂区，已被公认为亚洲规模最大、技术最先进的军工厂。该厂尤以高效率的节拍式生产系统而闻名。在此制造的军用飞机包括零式水上观测机、舰上攻击机“流星”，以及局地战斗机“紫电改”。

随着 1944 年美军空袭日益加剧，工厂及其他军工设施面临的风险与日俱增。为此，日本海军开始将生产作业向更偏远、或更靠近前线的地区分散转移。其中一处据点便设在人吉，并任命游桥辰雄中佐为厂长。

人吉设施设立在利用当地火山地貌开凿的地下坑道群内。机床设备经卡车运输至这些地下掩体中进行安装，主要用于维修受损的飞机部件。直至战争结束，坑道挖掘仍在进行。有证据表明该据点是为最终防御战所进行的大规模准备工作的一部分。

战后数年间，由于这些地下坑道多开凿于脆弱的火山沉积层中，许多都已坍塌。位于较稳定地质层中的部分段落得以保存，如今作为资料馆历史展览的一部分向公众开放。

<繁体字>

海軍航空廠

「海軍航空廠」是大日本帝國海軍直營的軍需工廠，核心職責涵蓋軍用物資採購，以及航空兵器的研發、製造與維修。

太平洋戰爭爆發之初，位於長崎縣大村的主要設施，曾被譽為「亞洲規模最大且最先進」

的軍用工廠。該廠引入了極為高效的「節拍式（Takt）生産系統」，並以此聞名。當時許多威震一方的機種皆出自該廠，包括零式水上觀測機、艦上攻撃機「流星」，以及擁有火力與短程攔截能力的局地戰鬥機「紫電改」。

隨著 1944 年美軍對日本本土的空襲加劇，大型地面工廠面臨極高的毀滅風險。為確保生產力不中斷，日本海軍開始執行「分散化」策略，將生産線轉移至偏遠山區或更接近防禦前線的地點。其中一處據點便設於人吉，並任命遊橋辰雄中校擔任廠長。

人吉設施是利用當地特有的火山地形，開鑿出一套錯綜複雜的地下坑道網。當時利用卡車將大型工具機運入地底掩體，主要負責受損飛機零組件的修復工作。直到 1945 年戰爭結束時，坑道的挖掘工程仍在持續。這顯示該基地不僅是修護站，更是日本軍方為「本土決戰」預作準備的重要環節。

戰後數年間，由於人吉的坑道主要開鑿於脆弱的火山碎屑堆積層，許多地段因承受不住地壓而陸續崩塌。幸運的是，少部分位於較穩定地層的區域得以留存，現已作為博物館歷史展區的一部分，向大眾開放，見證這段地下工廠的歷史。

<日本語仮訳>

海軍航空廠

海軍航空廠は大日本帝国海軍直営の軍需工場でした。その主な役割には材料の調達や航空併記の製造・修理があります。

太平洋での戦争勃発時、長崎県大村にあった廠の主施設はアジアで最大かつ最新の軍需工場と評価を得ていました。特に、高い生産効率を誇るタクトベースの生産システムで知られていました。そこで製造された軍用機の中には、零式水上観測機、艦上攻撃機「流星」、そして局地戦闘機「紫電改」がありました。

1944 年の米国による空襲激化の中、工場やその他軍需施設はますます被害にさらされました。これを受けて、日本海軍は製造作業をより人里離れた地域や最前線により近い場所へと分散しはじめました。その拠点の一つが人吉に建てられました；工場長には遊橋辰雄中佐が任命されました。

人吉施設はその地域の火山地帯に造られた地下壕群の中に設けられました。工作機械はトラックで運びこまれ、これらの地下壕に設置され、その場所で工作機械は損傷した航空機部品の修理に主に使用されました。掘削は終戦時でもまだ進行中でした（この拠点は最終防衛戦のためのより広範な準

備の一部だったという証拠があります）。

戦後数年間で、多くの地下壕が倒壊しました；壊れやすい火砕流堆積物に掘削されたからです。より安定した地層に在る一部の箇所は残存し、今なお資料館の歴史的展示物として訪れることが可能です。

【タイトル】銃後の暮らし① 在郷軍人会

【想定媒体】QRコード

＜簡体字＞

在乡军人会

在乡军人会成立于 1910 年，旨在向日本社会宣扬军事价值观。该组织由预备役及退役士兵组成，并有民间志愿人员参与，在日本帝国扩张并为总体战做准备的过程中发挥了关键作用。它宣扬忠诚、勇武、节俭、协作、勤勉等理念，这些皆植根于对天皇神圣权威的信仰。

在鼎盛时期，在乡军人会拥有约三百万名成员，分支机构遍布全国。至 20 世纪 30 年代，它已成为农村地区（包括人吉等地）社会生活的支柱，开展社会活动，援助伤残退役军人及阵亡军人遗属，并帮助提振民众士气。在乡军人会向学校派遣专职军官，组织实施军事训练，管理动员程序，还与地方妇女后援团体保持着紧密协作。

随着战争进入 40 年代，在乡军人会的影响力开始衰退。其退役军人会员被重新征召服役，多数民间男性也被征入伍，导致地方支援体系出现空缺。为此，妇女团体——尤其是主妇会——在社区（包括人吉地区）内承担起更重要的战时支援角色。

战后，在乡军人会被正式解散。

＜繁体字＞

在郷軍人會

「在郷軍人會」成立於 1910 年，旨在將推廣軍事價值觀全面滲透至日本社會各階層。該組織由預備役、退役軍人及民間志願者組成；隨著帝國版圖擴張，在日本為「總體戰」做準備的過程中，發揮了舉足輕重的關鍵作用。其所倡導的忠誠、勇敢、節約、勤勉、協同合作等理念，皆建立在對「天皇神聖權威」的絕對信仰之上。

在全盛時期的 1930 年代，該會擁有高達 300 萬名會員，分會遍布全國。在如人吉這類的

農村社區，它不僅是軍事組織，更是生活的核心。像是提供傷殘榮民及陣亡將士遺族的實質支援、透過各類活動提振民心士氣、派遣專責軍官進入學園主持軍訓，並直接管理地方的兵力動員事務；並與在地的婦女支援團體保持極為緊密的合作關係。

1940 年代，隨著戰事進入白熱化，在鄉軍人會的結構也發生了轉變。由於退役軍人被重新徵召回前線，且多數適齡男性已入伍，導致地方分會的人力與組織運作出現嚴重斷層。原有的後勤支援任務，逐漸由婦女團體（特別是主婦協會）接手，這些女性組織在人吉等地的地區支援中開始扮演更顯著的角色。

日本投降後，在鄉軍人會隨著體制的瓦解正式宣告解散。

＜日本語仮訳＞

在郷軍人会

在郷軍人会は日本社会で軍の価値を宣伝するために 1910 年に設立されました。予備役および退役軍人で構成され、民間の支援者と共に、同組織は帝国が拡大する中で日本が国家総力戦のため準備するうえで極めて重要な役割を果たしました。忠誠心、勇敢さ、質素倹約、連携、勤勉などの観念を説きました；そのすべてが帝国という神聖な権威の下の信念に根ざしたものです。

全盛期には当会は 300 万人もの会員が所属し、国中の支部を維持していました。1930 年代には農村社会における生活を下支えする中心となり（人吉などの地域も含まれる）、その中で社会活動に携わり、退役傷病軍人や軍人遺族への支援提供、公衆道徳の向上にも貢献しました。当会は学校に専任の将校を斡旋し、軍事教練の実施、招集事務を管理しました。また、地域の女性の支援グループとも密に連携しました。

戦争が 1940 年代も続き、当会は影響力を失いはじめました。在郷軍人は軍務に招集され、多くの民間人男性が徴兵されたため、地域の支援網には穴があいてしまいました。これを受けて、女性のグループ（特に、主婦の会）がグループが属する地域の軍事活動を支援するうえでより重要な役割を担いました；人吉地域もまたその一つでした。

在郷軍人会は戦後に正式に解散されました。

【タイトル】銃後の暮らし② 銃後の女性たち

【想定媒体】QRコード

<簡体字>

后方的妇女组织

“大日本国防妇人会”成立于1932年，是日本为支援其不断扩大的军事行动而设立的三大妇女志愿团体之一。该会由家庭主妇组成，以“国防始于厨房”为口号。其成员可通过统一的“会服”识别：白色“割烹着（和服外罩的传统围裙）”以及印有会名的白色绶带。

该会提倡节俭生活为爱国义务，大力宣扬“奢侈是敌人”的口号。其活动内容包括为出征士兵送行、看护伤病军人、处理阵亡者遗骨等。此外还负责准备慰问袋、组织防空演习，并在维持战时士气方面发挥了重要作用。

尽管最初仅有约50名成员，但发展极为迅猛。至日本加入第二次世界大战时，会员已近千万。资料馆中展出的一张照片记录了该会的一个地方分会在木上小学集会的场景。讲台旁的旗帜上写着“皇纪2599年”——这是日本传统皇纪的纪年方式，对应公历1939年。

1942年，三大妇人会合并成立了“大日本妇人会”，所有已婚妇女及20岁以上未婚女性均须强制入会。至1944年3月，会员总数已超过两千万人。

随着日本战败及战后占领改革，该会于1946年秋被正式解散。

<繁体字>

戰時後方的婦女

「大日本國防婦人會」成立於1932年，是支撐日本戰爭體制最重要的三大女性志願團體之一。該組織主要由家庭主婦組成，她們喊出「國防從廚房做起」的口號，將日常生活與國家戰爭機器緊密連結。國防婦人會的成員擁有極具辨識度的「制服」裝扮：身穿純白色的日式罩衫圍裙「割烹著」；斜掛印有組織名稱的白布帶，象徵其參與國家事務的身分。

該會將勤儉節約提升至愛國義務的高度，大力推廣「奢侈是敵人」的社會風氣。他們的工作涵蓋了戰爭後方的各個面向，包括在車站歡送入伍士兵、製作「慰問袋」寄往戰場；迎接並照顧歸國的傷病兵，並莊嚴地協助處理戰亡者的遺骸；同時也組織民防訓練與空防演習，並在動盪的局勢中穩定民心士氣。

該組織最初僅由 50 人發起，但在戰爭氛圍下迅速擴張。日本進入第二次世界大戰時，會員已接近 1,000 萬人。資料館內展示的一張照片，紀錄了當地分部在木上小學集結的情景。講台旁的旗幟標註著「皇紀 2599 年」，即西元 1939 年，這是當時日本以神武天皇即位為基準的紀年方式。

1942 年，三大婦女團體合併為「大日本婦人會」。此時，加入組織已變為強制性，所有已婚女性及 20 歲以上的未婚女性均須入會。至 1944 年 3 月，會員人數已突破 2,000 萬人。

隨著日本投降與戰後駐日盟軍總司令部的改革，該會於 1946 年秋季正式走入歷史。

<日本語仮訳>

銃後の女性たち

大日本国防婦人会は、日本の拡大する軍事活動を下支えするために結成された三大婦人会の一つとして、1932 年に結成されました。主婦で構成される当会は「国防は台所から」をスローガンに掲げました。会員はその「会服」で識別できました；白い割烹着（着物上に着る伝統的なエプロン）と、会の名前が入った白地のたすきです。

当会は愛国的義務として質素倹約の生活を奨励し、「贅沢は敵」のモットーを広めました。会の活動には、出征兵士の見送り、傷病兵の出迎えと手当、戦死者の遺骨の対応などでした。彼女らはまた、慰問袋の準備や、防空演習の実施、そして士気の維持において重要な役割を担いました。

当初は 50 人ほどで始まったこの組織は急速に成長し、日本が第二次世界大戦に入る頃にはおよそ 1000 万人に達しました。資料館に展示されている写真は木上小学校に集められた会の地方支部を写しています。演台の隣にある旗には「皇紀 2599 年」と書かれています；西暦 1939 年を指し、日本の昔の皇紀に従った表記です。

1942 年には三大婦人会が一つに統合され、大日本婦人会となりました。加入は既婚女性皆と 20 歳以上の独身女性に強制でした。1944 年 3 月には、組織の入会者数は 2000 万人以上に上り

ました。

当会は日本の降伏と戦後占領改革を受けて 1946 年秋に正式に解散されました。

【タイトル】 銃後の暮らし③ 学校が軍事活動に参画

【想定媒体】 QR コード

<簡体字>

学校被纳入战时体制

明治时代（1868-1912 年）以来，日本的教育制度大致参照欧洲体系建立。义务小学教育从六岁开始，为期六年，侧重基础读写、算术、道德和体育。提供进阶课程的高等小学阶段则为选修。

1941 年，教育制度发生了重大变革。政府颁布《国民学校令》，将学校置于更严格的国家管控之下。新的标准化课程旨在将儿童培养为天皇的忠诚臣民，灌输国家道德、军国主义色彩浓厚的日本历史以及服从意识。连教科书也被修订以反映战时意识形态。例如算术题常配以飞机、坦克等军事图案。

随着战争的加剧，学校生活日益受到冲击。1944 年，物资短缺导致教科书用纸粗劣、页数缩减，彩色印刷也被取消。大量儿童被动员参与劳动，同时为躲避空袭，城市儿童被大规模疏散至农村地区。在人吉等地，教学被拆分成小班进行，当地的社区中心、寺庙及神社都被用作临时教室。

粮食短缺成为常态，校园操场被改造成菜园以补充地方食物供给。在人吉的一所学校，甘薯田被称为“胜利之园”。由于金属配给管制，学生制服上的金属纽扣被陶制或木制扣子取代。到 1945 年 3 月，所有高等课程全部停课，学生被分配从事农业及其他劳动。

战后，占领当局禁止了日本教科书中一切与军事相关的内容。学生被要求用墨水涂黑被审查的段落，常常涂到书本无法阅读的程度。（资料馆中展出了一本涂黑教科书复制品。）

<繁体字>

學校參與軍事活動

日本的教育制度自明治時代（1868–1912 年）起，大致參考歐洲體系建立。當時的義務教

育從 6 歲開始，為期 6 年，課程核心為基礎讀寫、算術、道德與體育；若想接受更進階的教育，則可選擇就讀「高等科」。

1941 年，政府頒布了《國民學校令》，將全國學校納入國家的嚴格管控。這項變革旨在將孩童培養成對天皇絕對忠誠的「臣民」，包括強調國民道德、滲透軍國主義色彩的日本歷史，以及絕對的服從精神；教科書內容也被大幅改寫，例如在算術課本中，題目常配以飛機、坦克等軍事圖像，讓戰時思想根植於基礎教育。

隨著戰況惡化，校園生活受到嚴重衝擊。1944 年起，因物資極度短缺，教科書的紙張品質變差、頁數減少，且取消了彩色印刷。此外，許多學生被動員投入生產勞動。為了躲避城市空襲，大量孩童被疏散至鄉村；在人吉等地，因校舍不敷使用或為了分散風險，課程改以小組形式在社區中心（公民館）、寺廟與神社境內的臨時教室進行。

糧食短缺成為師生共同的挑戰，校園操場紛紛被開闢為蔬菜田，以補充社區的糧食供應。在人吉的某所學校，種植甘薯的田地被賦予了「勝利農園」的稱號；因應軍方的金屬回收令，制服上的金屬鈕扣被替換成陶製或木製的替代品；到了 1945 年 3 月，所有高等科課程宣告停課，學生被全數派往農作或執行其他戰時任務。

日本投降後，駐日盟軍總司令部禁止教科書中出現任何與軍事相關的內容。當時的學生接到指示，必須以墨汁將課本中遭審查的段落塗黑。由於審查範圍極廣，許多課本往往被塗得漆黑一片，幾乎無法閱讀。資料館現正展示一份當時「塗黑教科書」的複製品，供民眾近距離觀察這段教育體制的轉折。

<日本語仮訳>

学校が軍事活動に参画

明治時代（1868～1912 年）以降、日本の教育は大まかに欧州の教育制度を手本にしていました。義務小学校教育は 6 歳の時に始まり 6 年間続き、基礎的な読み書き、算数、道徳、体育を中心としました。高度な勉強を提供した上級学年は選択式でした。

制度は 1941 年に大きく変わりました。政府が国民学校令を発令して学校をより厳格な国家の管理に置いた頃でした。子どもたちを天皇の忠臣とするために新たな標準化された教育課程が導入され、国民の道徳や軍国主義的な日本の歴史、服従に重点をおきました。教科書さえも戦時の思想を反映するために改訂されました。算数の問題もたとえば飛行機やタンク、その他の軍事的な画で描かれま

した。

戦争が激化するにつれ、学校生活はますます混乱に見舞われました。1944年には資源不足により紙質が低下し、ページ数も減り、教科書の色使いは乏しくなりました。多くの子供たちが勤労動員され、そして都市部からの大疎開により子どもたちは空襲から身を守るために田舎へと離れました。人吉などの場所授業は少人数班に分けられ、地域の公民館やお寺、神社の境内が仮教室として機能しました。

食糧不足は当たり前にあり、校庭はその町村の食糧供給を補うために野菜畑へと変えられました。人吉のある学校では、サツマイモ畑は「勝利の庭」と呼ばれました。学校の制服の金属製のボタンは金属の統制により陶器製や木製の代用品に置き換えられました。1945年3月には、上級の授業がすべて休講となり、生徒は農業やほかの仕事に割り当てられました。

戦後、占領軍が日本の教科書の軍事関連内容をすべて禁止しました。生徒は検閲された文章を墨で黒く塗りつぶすよう指示されました；大抵は彼らの本は読めなくなるほどまでにさせられました。（墨塗りされた教科書の一つの複製が資料館で展示されています）

【タイトル】 軍需工場への学徒動員

【想定媒体】 QR コード

<簡体字>

学生被动员至军工厂

日本全国学生均被动员以支援战争。至 1944 年，已有近五十万儿童在军事相关产业劳动。在人吉地区，男子中学与女子高中的学生被派至九州各地的军工厂。

例如，1944 年 10 月，人吉中学校的男生乘坐专列被送往长崎县大村市的海军航空厂。他们在那里接受金属加工基础训练，协助生产战斗机部件。10 月 25 日，该工厂遭毁灭性空袭后，学生们被转移至福岡的另一家工厂，协助制造“震电”战斗机部件。然而，由于卫生条件恶劣和食物短缺，许多学生患病，最终被遣返回人吉。

同年 8 月，人吉高等女学校的女生被派往熊本的三菱飞机工厂，在那里学习技术制图、使用千分尺等测量工具，并通过锤击和铆接参与四式重型轰炸机“飞龙”的机身制造工作。1945 年 3 月 27 日，在为这些学生举行毕业典礼期间，美军飞机对该工厂发动了空袭。次日，这些女学生们被送回人吉。

同样在 1944 年，包括高等女学校在校生及一名应届毕业生在内的一批年轻女性接到正式通知，加入“人吉女子挺身队”。她们乘火车前往八代市的三阳飞机工厂，参与制造舰载攻击机“流星”的座舱盖和机翼部件。她们身着工装裤、头戴印有日之丸图案的头巾，从早到晚用锤子和电动钻组装飞机零件。

<繁体字>

軍需工廠的學生動員

隨著戰火蔓延，日本政府展開了全國性的學生動員。到了 1944 年，已有近 50 萬名學生投入軍事相關產業。在人吉地區，男子中學與女子高等學校的學生也被編入勞動隊伍，派往九州各地的軍需工廠支援。

1944 年 10 月，人吉中學的男學生搭乘專用列車前往長崎縣的「大村海軍航空廠」。他們在那裡接受基礎金屬加工訓練，協助製造戰鬥機零件。同年 10 月 25 日工廠遭空襲重創後，學生被轉移至福岡另一座工廠支援「震電」戰鬥機零件的生產。然而，由於衛生條件惡劣且糧食嚴重短缺，許多學生相繼染病，最終被遣返回人吉。

1944 年 8 月，人吉高等女學校的學生被派往熊本的三菱航空機製作所。她們學習閱讀技術圖面，練習使用分厘卡等測量工具，並負責為四式重型轟炸機「飛龍」的機身進行鉚接與錘打作業。1945 年 3 月 27 日，當工廠正為這群學生舉行一場克難的畢業典禮時，美軍戰機發動了空襲。隔天，這群少女被送回人吉。

此外在 1944 年，另一群年輕女性（包含高等女校學生與應屆畢業生）接獲官方通知，加入「人吉女子挺身隊」。她們前往鄰近八代市的三陽航空機工廠，協助製作「流星」艦上攻擊機的座艙罩與機翼零組件。她們穿著工作褲，額頭綁著印有日之丸圖樣的「鉢卷」，長時間揮動鐵鎚與電動鑽進行零件組裝。

<日本語仮訳>

軍需工場への学徒動員

日本中で、軍事活動を支援するために生徒が動員されました。1944 年にはおよそ 50 万人の子どもたちが軍事関連分野で勤務に従事しました。人吉地域では男子中学生や女子高校生らが九州のさまざまな軍需工場へと動員されました。

1944 年 10 月にはたとえば、人吉中学校の男子中学生らが特別列車にて長崎県大村の海軍航空廠の工場へと送られました。そこで彼らは戦闘機部品の製造を支援するために金属加工の基礎的な訓練を受けました。10 月 25 日に空襲が工場を襲った後、生徒たちは福岡にある別の工場へと異動させられ、そこで戦闘機「震電」の部品製造を支援しました。しかし、衛生環境の悪さと食糧不足により、多くの生徒たちが病気にかかり、結局は人吉へと帰郷させられました。

同年 8 月、人吉高等女学校の女子生徒が熊本の三菱航空機製作所に送られており、そこで技術図面を学び、マイクロメーターやその他の測定器具の使い方を学んだほか、ハンマーやリベットで四式重爆撃機「飛龍」の胴体への作業を行いました。1945 年 3 月 27 日、その生徒たちの卒業式挙行中に米国の戦闘機が工場を襲撃しました。その翌日、女子生徒たちは人吉へと帰郷させられました。

1944 年にも、高等女学校の生徒や新規卒業生を含む若い女性たちのグループが公式の通知を受けて人吉女子挺身隊へと入隊しました。彼女らは汽車で八代の三陽航空機工場へと移動し、そこで

艦上攻撃機「流星」の風防や翼の部品製造を補助しました。作業用ズボンや日の丸鉢巻を身につけ、彼女らは朝から晩までハンマーや電動ドリルを振り回し航空機部品を組み立てました。

【タイトル】 銃後に動員された民間人

【想定媒体】 QRコード

<簡体字>

后方的平民动员

日本各地的民众在支援战争中发挥了积极作用，人吉地区亦不例外。人吉海军航空基地及驻扎于此的海军航空队，与周边城镇和村落密切协作，在很大程度上依赖于当地居民的自愿劳动。

随着盟军逼近日本本土，人吉被选定为用于本土防御的战略性地转与补给基地。1943年11月，一条全长1500米的混凝土跑道开始动工，这是一座设备齐全的军用机场的重要组成部分。尽管负责军用设施建设的海军航空厂部队提供了专业技术支持，但工程本身则高度依赖本地人力，大量当地居民参与了跑道的修建。

基地正式启用后，来自日本各地的年轻海军训练生陆续抵达人吉。当地妇女会成员和小学生们挥舞欢迎旗帜迎接他们。后来有退役军人回忆，当地妇女为他们准备了夹有牛肉的大饭团，而当地温泉则让他们从前往九州中部的长途火车旅途中恢复过来。

自1945年1月起，当地家庭开始接待来自全国、为接受神风特攻训练任务而来的年轻飞行员。他们训练使用的是九三式中级教练机“红蜻蜓”。这些家庭在飞行员执行赴死任务前，为他们提供短暂的休息、慰藉以及与当地社区的人情纽带。

冲绳失守后，在战争最后的数个月里，本州决战的可能性变得愈发现实。在居民协助下，人吉地区秘密开挖了规模庞大的地下设施网络——这项工程一直持续至战争结束。

<繁体字>

戰時後方的平民動員

在戰爭期間，日本各地的平民皆被納入戰時體制，人吉也不例外。人吉海軍航空基地及其駐紮部隊海軍航空隊，與周邊的町村（市鎮與村落）維持著密切的合作關係，並高度仰賴

當地居民自發性投入的勞務支撐。

隨著盟軍步步逼近日本本土，人吉被定位為關鍵的戰略中繼與補給基地。1943 年 11 月，一條長達 1,500 公尺的混凝土跑道開始動工，作為這座設施完備的軍用機場之核心。雖然由專精軍事建設的「海軍航空廠」部隊提供技術指導，但整個工程高度依賴地方人力，許多在地居民都投入了跑道的修築工作。

當基地正式啟用，來自日本各地的年輕海軍練習生湧入人吉時，在地婦女會成員與揮舞著歡迎旗幟的小學生，在現場迎接他們的到來。退伍軍人後來感念地回憶道，在地婦女當時準備了包著牛肉的巨大飯糰；同時，這群士兵也在當地著名的溫泉中洗去疲憊，讓他們在經過長途鐵路運輸來到九州中部後，身心得到了短暫的修復。

1945 年 1 月起，許多年輕飛行員來到此地，駕駛著被暱稱為「紅蜻蜓」的九三式中間練習機，接受特攻（自殺攻擊）任務訓練。當地的許多家庭主動開放家園，讓這些來自全國各地的飛行員寄宿。在這群少年飛行員出發執行致命任務前的最後日子裡，這些家庭提供了寶貴的休息空間與心理安慰，讓他們在生命最後階段能與地方社會保有溫暖的人情連繫。

1945 年的最後幾個月，隨著沖繩陷落，「本土決戰」的危機感已變得極為真實。在居民的傾力協助下，一套縱橫人吉地區的龐大地下設施網絡開始秘密開鑿。這項防禦性建設工程一直持續進行，直到戰爭結束的那一天才停止。

＜日本語仮訳＞

銃後に動員された民間人

日本の民間人は軍事活動を支援するうえで積極的な役割を果たし、人吉も例外ではありませんでした。人吉海軍航空基地、そしてそこに駐留していた海軍航空隊は周囲の町村と密に連携して活動し、住民の勤労意欲のある労働者に大きく依存していました。

人吉は、連合国軍が日本に迫った際に祖国を防衛するための戦略的中継地点および補給基地として選択されました。1943 年 11 月、全長 1500 メートルのコンクリート滑走路に建設がはじまりました；完備された軍用飛行場の一部です。軍事施設の建設に特化した海軍航空廠部隊が専門知識を提供する一方、このプロジェクトは現地の労働力を当てにし、多くの住民が滑走路の建設に携わりました。

基地が公式に開設されると、日本中からの若い海軍練習生たちが人吉に到着しはじめました。彼らは歓迎の旗を振る地元の婦人会員や小學校生徒に出迎えられました。退役軍人たちは後に、地元の女性たちが作ってくれた牛肉入りの大きなおにぎりと、九州の中心までの汽車による長旅から癒してくれたつろぎの温泉を思い返しました。

1945 年 1 月からは、現地の地域家族らが九三式中間練習機「赤とんぼ」を使った神風特攻の訓練任務のために全国からやってきた多くの若いパイロットたちに自身の家を開放しました。こうした家族が、パイロットたちが自身の命をかけた任務に出立する前の休息のひとつ、慰安、そして現地地域社会との人間的なつながりを提供しました。

沖縄陥落から戦争の最後の数か月には、本州の最終決戦の見通しは現実味を帯びてきました。住民の助けを借りて、人吉地域全域にわたる広大な地下施設群の掘削は秘密裏に進められました（建設は戦争が終わるまで続けられました）。

【タイトル】 沖縄からの疎開者たちを迎える

【想定媒体】 QRコード

<簡体字>

来自冲绳的疏散者

1944年7月7日，塞班岛被盟军攻陷时，冲绳将成为太平洋战场上的下一个目标已显而易见。对此，日本政府启动了疏散计划，将八万名冲绳平民转移至日本本土，另有二万人疏散至台湾。老人、妇女和儿童获得优先疏散资格，其中包括由教师组织集体转移的学生群体。

首批疏散于8月开始，约2200名学童和80名教师被送往熊本县、宫崎县和大分县。战争期间最悲惨的事件之一随即发生：8月21日，载有约1660人的疏散船“对马丸”号驶离冲绳，在前往九州途中，在吐噶喇群岛近海遭到美军潜艇“鲍芬”号（USS Bowfin）的鱼雷袭击。船只沉没，导致1485人遇难，其中包括780名学生。尽管当局对该事件下达了封口令，但由于家属们期盼的孩子家书始终未到，消息迅速传开，民众意识到发生了重大悲剧。

即便发生了如此惨痛的事故，疏散行动仍在9月继续进行。9月28日，24户共计156人的冲绳家庭抵达空军基地西侧的深田村，他们被安置在当地寺院。然而，文化与语言的隔阂，加之严酷的冬季气候，使他们的日常生活异常艰难。

1946年11月，经历两年多的疏散生活后，这些冲绳家庭终于踏上归途，但在疏散期间建立起来的羁绊，在此后的岁月中依然延续。

<繁体字>

迎接來自沖繩的疏散者

1944年7月7日，隨著塞班島落入盟軍手中，沖繩將成為太平洋戰線下一個目標已成定局。為此，日本政府啟動大規模疏散計畫，預計將8萬名沖繩平民遷移至日本本土，另有2萬人移往台灣。疏散對象以老人、婦女與孩童為優先，學生則由教師帶領進行集體疏散。

1944 年 8 月，第一批疏散行動展開，約 2,200 名學童與 80 名教師被送往熊本、宮崎與大分等地。然而，一場震驚社會的悲劇隨即發生：8 月 21 日，載有約 1,660 人的疏散船「對馬丸」自沖繩出發。翌日在前往九州途中，於吐噶喇列島外海遭美軍潛艦「弓鰭魚號」發射魚雷擊沉。此次事件造成 1,485 人罹難，其中包括 780 名學童。儘管軍方下達了緘口令，但由於家屬遲遲收不到原本約定好的報平安信件，消息很快在民間不脛而走，人們悲痛地意識到這群孩子已遭遇不測。

儘管遭逢「對馬丸」的浩劫，疏散行動在 9 月仍持續進行。1944 年 9 月 28 日，位於人吉航空基地西側的深田村迎來了 24 戶、共 156 人的沖繩家庭，並安排他們暫住在當地的寺廟中。雖然當地社區伸出援手，但疏散者的生活依然艱辛。除了文化與語言（沖繩方言與本土方言）的隔閡，人吉嚴酷的冬季氣候對於習慣南方溫暖氣候的沖繩人來說，更是體力與意志的考驗。

這群沖繩家庭在人吉生活超過 2 年，直到 1946 年 11 月才返回故鄉；然而在當地建立的情誼並未就此中斷。1972 年沖繩主權移交日本後，昔日的疏散者與人吉居民重新恢復了書信往來。透過頻繁的互訪，這份在戰爭歲月中鑄就的深厚友誼得以延續至今。

＜日本語仮訳＞

沖繩からの疎開者たちを迎える

サイパン島が 1944 年 7 月 7 日に連合軍に陥落する頃には、沖繩が太平洋戦線の次の標的となるであろうことは明白でした。これを受けて、日本政府は 8 万人の沖繩民間人を日本本土へ、そして 2 万人を台湾へと疎開させる計画を開始しました。老人や女性、子どもたちが優先され、中には教師と共にまとまったグループで疎開する児童たちも含まれました。

一回目の疎開がはじまったのは 8 月のこと、学童約 2200 人と教師約 80 人が熊本県、宮崎県、大分県へと送られました。戦争の悲惨な出来事の一つが起きたのは、学童約 1660 人が乗る疎開船対馬丸が 8 月 21 日に沖繩を出発した直後でした。九州へ向かう途中、同船はトカラ列島沖合でアメリカ潜水艦ボーフィンの攻撃を受けたのです。船は沈没し、学童 780 人を含む 1,485 人が犠牲となりました。緘口令がこの事案に敷かれたものの、家族が子どもたちから待っている便りがまったく届かなかったなどの理由により噂はすぐに広まり、何か悪いことが起きたということは知れ渡りました。

こうした大惨事にもかかわらず、疎開は 9 月も行われました。空軍基地の西側にある深田の村では、24 戸 156 人の沖繩の家族が 9 月 28 日に到着し、現地のお寺で生活を始めました。ただ、文化

や言葉の違いに加えて厳しい冬の気候も相まって、疎開者にとって日々の生活は苦しいものでした。

2 年以上が経過した 1946 年 11 月に、沖縄の疎開家族は 1946 年 11 月に帰郷しましたが、疎開中に築かれた絆はその後も続きました。

【タイトル】 松根油の製造

【想定媒体】 QR コード

＜簡体字＞

松根油の制取

日本无法获得关键燃料资源，是引发对美战争的因素之一。随着战事持续，这一问题日益凸显。在第二次世界大战的最后几年，航空燃料尤为短缺，日本政府迫切寻求替代资源。

松根油即是其中一种替代品。这是一种在部分农村地区使用的原始燃料。其制取方法是將松树桩粉碎后，浸泡在松脂中，再放入窑内加热，释放出的化合物经冷凝后，即可成为可用的油料。

日本各地的农村被要求增产松根油。在人吉海军航空基地附近的一座村庄，全体村民都被动员起来。村里共建造了六座干馏窑，参与劳作的村民（多为妇女和老人）每收集 100 贯（约 375 公斤）松树桩，可获得 3 日元报酬。

人吉海军航空队则在基地正门附近设立了自己的松根油干馏设施。该设施配备五座大型窑炉，并利用机场水源作为冷却用水。尽管海军提供了工业规模的窑炉，但大部分配套设备均利用现有材料临时改装而成。例如，将竹子制成引水槽，把冷却水从基地的排水渠引至窑炉。那些因飞机与燃料短缺无法进行训练的年轻飞行员，也奉命参加了这项需要大量人力的生产工作。

由于所得燃料无法适配现有飞机，海军加紧研发能使用该燃料的机型。1945 年 8 月 7 日，日本首架喷气式战斗机“橘花”使用掺有松根油的低质燃料混合物，成功完成了 12 分钟的试飞。然而，未等该燃料进一步完善或大规模投入使用，战争便已结束。

＜繁体字＞

松根油の製造

日本難以取得關鍵燃料資源，是導致對美開戰的原因之一；隨著戰事拉長，這一危機更趨

惡化。到了二戰末期，航空燃料極度匱乏，日本政府在絕望中開始尋找替代來源。

其中一種替代燃料是「松根油」，這種簡易燃料過去曾在部分鄉村地區使用。製作方式是將松樹樹根或樹樁粉碎後，將木料浸泡在瀝青中，接著再把木料放入乾餾窯加熱以釋放化合物，最後冷凝並濃縮成可使用的油料。

日本各地鄉村都被下令增加松根油產量。在距離人吉海軍航空基地不遠的一個村落，幾乎全村老少皆被動員投入生產。該村建造了 6 座乾餾窯；工人多為留守的婦女與老人。當時的報酬標準為每採集 100 貫（約 375 公斤）的松樹樹樁，發放 3 日圓的酬勞。

人吉海軍航空隊也在基地正門附近設立了專門的提煉廠，配置了 5 座大型窯爐。並利用飛行場的水作為冷卻用水。除了海軍配發的工業級窯爐外，其餘設備皆為就地取材。例如，士兵利用竹子製作導水槽，將基地排水道的冷卻水引至窯爐。當時許多受訓中的年輕飛行員，因燃料荒與飛機短缺而無法進行飛行訓練。這群本該翱翔天際的菁英，被改派往提煉廠，從事這項勞力密集的生產工作。

由於松根油與當時既有的往復式發動機（活塞引擎）並不相容，日本海軍轉而研發能使用此類燃料的機型。1945 年 8 月 7 日，日本首架噴射機「橘花」搭載了混合松根油的低階燃料，成功完成了一次 12 分鐘的試飛。儘管試飛成功，但在燃料技術得以進一步改良或大規模應用之前，戰爭便宣告結束。

<日本語仮訳>

松根油の製造

重要な燃料資源を入手する機会が日本にないことは米国との戦争を招いた要因の一つでした。それはまた、紛争が長引く中で大きな問題としてくすぶり続けました。第二次世界大戦が終わる最後の数年間には、航空燃料が特に不足しており、日本政府は必死に代わる資源を探していました。

そうした代替資源の一つが 松根油で、一部の田舎地域で使用されている原始的な燃料でした。この油は松の木の根元部分を破碎し、木片をピッチに浸け、そして化合物を放出するために窯の中で加熱することにより抽出されます；その化合物が使用可能な油へと濃縮されるのです。

日本中の田舎地域が松根油の生産を増やすよう命じられました。人吉海軍航空基地からそう離れていないある村では、その全人口が動員されました。村は乾留窯を 6 口作りました；そして作業者（多

くは女性や老人）は松の切株を 100 貫（約 375kg）収穫するごとに 3 円支払われました。

人吉海軍航空隊は、基地の正門付近に隊の松根油乾留施設を建設しました。施設には大きな窯が 5 口備えられ、飛行場の水を冷却用水として使用しました。海軍が工業規模の窯を供給した一方で、その他の器具のほとんどは入手可能な資源から現地で即席で用意されました。たとえば竹は基地の排水路から窯へ冷却用水を送るための樋に変えられました。飛行機や燃料の不足により練習に出られない若いパイロットたちは労力を必要とする生産工程で手伝いをするよう命じられました。

生成された燃料は既存の航空機には適合しなかったため、海軍はそれを使用できる飛行機を開発する取り組みを強化しました。1945 年 8 月 7 日、日本初のジェット戦闘機橘花が松根油を混合した低質燃料を動力源とする 12 分のテスト飛行に成功しました。しかし、燃料の開発をさらに進められるか、広い範囲で展開できるかという前に終戦してしまいました。

【タイトル】 米砲艦「ウェーク」の拿捕と国旗の返還

【想定媒体】 QR コード

<簡体字>

俘获“威克”号与归还舰旗

1941 年 12 月 8 日夜，日本驱逐舰“栗”号，与巡洋舰“出云”号、驱逐舰“莲”号以及炮舰“鸟羽”号一并停泊在上海近海。午夜时分，“栗”号收到一封密电，内容为“Uchi-iri katidoki”，这一讯息标志着日本与美国正式开战。仅仅两小时后，日本战机即展开了对珍珠港的袭击。

在上海，日舰随即响应密令，击沉了英国炮舰“海燕”号（Petrel），并兵不血刃地俘获了美国海军炮舰“威克”号（USS Wake）。直到珍珠港袭击得手的消息公布后，日军才宣布俘获“威克”号，进一步强化了开战大获全胜的印象。

登上“威克”号后，一等水兵府本正一奉命从舰船前桅上取下美国的星条旗。他换挂上日本旗后，并未丢弃美方国旗，而是小心翼翼地用随身携带的写有寄语的日之丸旗将其包裹起来，藏入军服之中。府本后来回忆道：“那些星星是手工缝制的。虽是敌国的旗帜，但我想一定曾有人对它珍视有加。”由于担心受到上级处分，或在战后遭到美军惩罚，府本在整个战争期间以及战后占领时期，都始终将这面旗帜隐秘保存。

直到战争结束二十年后的 1965 年，府本才决定归还这面“威克”号的舰旗。同年二月，他前往福冈，将旗帜交还给美国领事馆。一周之后，他收到了总领事托马斯·P·休史密斯（Thomas P. Shoemaker）寄来的感谢信，对其展现的敬意与诚挚之举表示感谢。

<繁体字>

威克號的捕獲與國旗的歸還

1941 年 12 月 8 日深夜，日本驅逐艦「栗」號停泊於上海外海，與巡洋艦「出雲」號、驅逐艦「蓮」號及炮艦「鳥羽」號並列。午夜時分，「栗」號收到一封密碼電報：「討入 勝 関」——這是一則宣告對美戰爭正式開始的信號。僅僅兩小時後，日本戰機便對珍珠港發

動了攻撃。

在上海，日本艦隊迅速做出反應，擊沉了英國炮艦「彼得雷爾號」，隨後在未流血的情況下，成功奪取美軍砲艦「威克號」。為了營造開戰即大捷的社會氛圍，捕獲「威克號」的消息直到珍珠港襲擊成功的捷報傳開後才對外公布。

登上威克號後，一等水兵府本正一奉命降下艦艏桅杆上的美國星條旗，並換上日本國旗。然而府本並未按常規丟棄這面旗幟，而是將其仔細包裹在自己隨身攜帶、寫滿親友題字的「寄書日之丸」內，並隱藏在制服中。府本日後回憶道：「那些星星是手工縫製的。即便那是敵人的旗幟，我也心想一定有人曾深深珍惜著它。」

在整個戰爭期間以及後來的盟軍佔領時期，府本始終將這面旗幟藏得滴水不漏。直到戰後 20 年的 1965 年，府本認為歸還時機終於成熟。同年 2 月，他前往福岡，親手將威克號的星條旗交還給美國領事館。一週後，他收到首席領事舒史明的親筆來信。信中對府本這種充滿敬意且真誠的舉動表達了由衷的感激。

<日本語仮訳>

ウェークの拿捕と旗の返還

1941 年 12 月 8 日の晩、上海沖に日本の駆逐艦栗が、巡洋艦出雲、駆逐艦蓮、砲艦鳥羽と並んで停泊していました。深夜に栗に「ウチイリ カチドキ」の電文が届き、米国との戦争の開始を示唆しました。たったその 2 時間後、日本の戦闘機が真珠湾への攻撃を開始することになりました。

上海で日本の艦隊は電文に応え、英国軍砲艦ベテルを撃沈し、アメリカ軍砲艦ウェークを無欠拿捕しました。ウェークの拿捕は真珠湾攻撃の成功に続いて発表され、勝利による開戦を強く印象付けました。

ウェークに乗り込んだ一等水兵の府本正一は、艦体前部マストから星条旗の取り外しを任されました。彼は日本の旗と取り替えましたが、米国の旗を廃棄はせず、自身が所持していた日の丸寄せ書きに丁重に包み、制服の中に隠しました。「星は手縫いでつけてあった」と、府本は後に思い返しました。「敵国の旗とはいえど、誰かが大切に思っているのではと考えた。」彼は自身の上官から、あるいはその後にアメリカ軍から罰を受けることを恐れ、戦時中も占領時も旗を隠し続けました。

終戦から 20 年が経過する 1965 年になって、府本はウェークの旗を還す時がきたと決意しました。同年 2 月、彼は福岡に赴き、アメリカ領事館に旗を返還しました。その一週間後、彼は首席領事トーマ

ス P.シュースマスから彼の誠意誠実な想いと行動への感謝を綴った手紙を受け取りました。

地域番号	028	協議会名	「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会

解説文一覧

NO.	スポット名（タイトル）	中国語文字数	想定媒体
028-001	大島交流館 （世界遺産ガイダンス施設）/漁師と沖ノ島	243	アプリ QRコード
028-002	大島交流館 （世界遺産ガイダンス施設）/漁師と宗像三女神信仰	204	アプリ QRコード
028-003	大島交流館 （世界遺産ガイダンス施設）/「神宿る島」沖ノ島と「神守る島」大島	223	アプリ QRコード
028-004	大島交流館 （世界遺産ガイダンス施設）/「神宿る島」沖ノ島	1,432	アプリ QRコード
028-005	大島交流館 （世界遺産ガイダンス施設）/宗像三女神の降臨	711	アプリ QRコード
028-006	大島交流館 （世界遺産ガイダンス施設）/自然崇拝から始まった中津宮	704	アプリ QRコード
028-007	大島交流館（世界遺産ガイダンス施設）/沖ノ島祭祀と御嶽山祭祀	638	アプリ QRコード
028-008	大島交流館 （世界遺産ガイダンス施設）/神宿る島への祈りの場	353	アプリ QRコード
028-009	大島交流館 （世界遺産ガイダンス施設）/神守る島	610	アプリ QRコード
028-010	大島交流館 （世界遺産ガイダンス施設）/沖ノ島の禁忌	559	アプリ QRコード
028-011	大島交流館 （世界遺産ガイダンス施設）/大島の歴史＜原始・古代＞	469	アプリ QRコード
028-012	大島交流館 （世界遺産ガイダンス施設）/大島の歴史＜中世＞	592	アプリ QRコード
028-013	大島交流館 （世界遺産ガイダンス施設）/大島の歴史＜近世＞島守の島	642	アプリ QRコード
028-014	大島交流館 （世界遺産ガイダンス施設）/大島の歴史＜近世＞捕鯨の島・流人の島	305	アプリ QRコード
028-015	大島交流館 （世界遺産ガイダンス施設）/大島の歴史＜近・現代＞漁とともに生きる島	439	アプリ QRコード
028-016	大島交流館（世界遺産ガイダンス施設）/大島の歴史＜近・現代＞戦争の歴史を伝える島	367	アプリ QRコード

028-017	大島交流館 (世界遺産ガイダンス施設) / 大島の年間予定表	590	アプリ QRコード
028-018	大島交流館 (世界遺産ガイダンス施設) / 大島の言い伝え	287	アプリ QRコード
028-019	大島交流館 (世界遺産ガイダンス施設) / 大島の食文化	859	アプリ QRコード
028-020	大島交流館 (世界遺産ガイダンス施設) / 大島の七夕伝説	525	アプリ QRコード
028-021	大島交流館 (世界遺産ガイダンス施設) / 感光の島	216	アプリ QRコード
028-022	大島交流館 (世界遺産ガイダンス施設) / Taboo words	197	アプリ QRコード
028-023	大島交流館 (世界遺産ガイダンス施設) / Welcoming leaflet	370	アプリ QRコード/ パンフレット

028-001

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会

【タイトル】 大島交流館（世界遺産ガイダンス施設）/漁師と沖ノ島

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

渔民和冲之岛

感受神圣气息

有些人说，登上看不见日本本土和其他岛屿的冲之岛，会心生强烈的敬畏之情。

圣地

这座岛屿备受尊崇，被视为御神体。神职人员每天早上会进行名为“禊”的仪式，在海中沐浴，以洁净身心。

深厚信仰

岛上有许多禁忌，禁止带走任何物品。即便是用渔网在冲之岛附近捞到的石头，也要放回海中。

人们对这座岛屿的感情

大岛居民以冲之岛守护者自居，恪守古老的仪式和行为准则。在附近海域捕鱼而在岛上留宿的人，即便在隆冬也会每天早上进行“禊”仪式。，他们离岛后亦会遵守保密誓言，绝不透露在岛上看到的一切。

<繁体字>

漁民和沖之島

感受神聖氣息

有人說，登上看不見日本本土和其他島嶼的沖之島，會心生強烈的敬畏之情。

聖地

這座島嶼備受尊崇，被視為御神體。神職人員每日早晨會進行名為「禊」的儀式，在海中沐浴潔淨身心。

深厚信仰

島上有諸多禁忌，任何物品都禁止帶走。即便是用漁網在沖之島附近撈到的石頭，也要放回海中。

島民之情

大島居民以沖之島守護者自居，恪守古老的儀式和行為準則。那些在附近海域捕魚而在島上留宿的人，即便是隆冬，每日早晨仍會進行「禊」的儀式，離島後也遵守保密誓言，絕不透露在島上的所見所聞。

<日本語仮訳>

大島交流館（世界遺産ガイド施設）/漁師と沖ノ島

神々しさを感じる

本土や他の島々が見えない沖ノ島に上陸すると、崇敬の念を強く感じる方もいます。

聖地

この島は崇拝すべき対象として神格化され崇められています。神職たちは毎朝、禊という儀式で、海で沐浴して身を清めます。

深い信仰

禁忌がいかなる物も持ち出すことを禁じ、島を守っています。沖ノ島付近で漁師の網にかかった石でさえも元の位置に戻されます。

島に対する人々の思い

大島の人々は、古の祭祀や行動規範を守りながら、沖ノ島の守護者としての自覚を持っています。近くの海で漁をするために一晩滞在する者たちは、真冬でも毎朝海で禊を行い、帰途についた後は島で見たことを決して口外しないという誓いを守ります。

028-002

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会

【タイトル】 大島交流館（世界遺産ガイダンス施設）/漁師と宗像三女神信仰

【想定媒体】 アプリ QR コード

＜簡体字＞

渔民和宗像信仰

渔民的传统习俗

新船建好后，渔民按习俗需将船驶向中津宫附近的海域，并逆时针绕行三圈。

奉纳

大岛居民是宗像信仰的坚定拥护者，他们积极参与神社维护工作，包括编织悬挂在神社境内的神圣注连绳。

感恩赐福

在每月 1 日和 15 日，渔民会在中津宫供奉部分渔获，以祈求平安与好运。

离冲之岛最近的地方

冲之岛是一处神圣之地，公众不得登岛。大岛是冲之岛的守护岛，两岛的角色密不可分。对于大岛居民而言，冲之岛始终存在于他们心中。

＜繁体字＞

漁民和宗像信仰

漁民的傳統習俗

新船建好後，漁民按習俗需將船駛向中津宮附近的海域，並逆時針繞行三圈。

奉納

大島居民是宗像信仰的堅定擁護者，他們積極參與神社維護事務，像是編織神社內懸掛的神聖注連繩。

感恩賜福

在每月的 1 日和 15 日，漁民們會在中津宮奉上部分漁獲，以求平安與好運。

離沖之島最近的地方

沖之島為神聖之地，一般大眾不得登島。大島則為沖之島的守護島嶼，兩島的角色密不可分。對大島居民而言，沖之島始終長存於心中。

<日本語仮訳>

大島交流館（世界遺産ガイド施設）/ 漁師と宗像三女神信仰

漁師の伝統的慣習

新しい船が造船されると、中津宮の沖に船を出し、反時計回りに 3 周するという慣習があります。

奉納

大島の人々は宗像信仰に誇りを持っており、神社の境内に掛けられる神聖なしめ縄作りを含む神社の維持管理に携わっています。

祝福への感謝

毎月 1 日と 15 日には、漁師たちが中津宮に獲れた物の一部をお供えし、安全と幸運を祈ります。

沖ノ島に最も近い場所

沖ノ島は神聖な場所で、一般の人々の立ち入りは禁止されています。大島は沖ノ島の守護島であり、2 つの島の役割は深く結びついています。大島の人々にとって、沖ノ島は今も変わらず常に心の中に存在しています。

028-003

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会

【タイトル】 大島交流館（世界遺産ガイダンス施設）/「神宿る島」沖ノ島と「神守る島」大島

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

18 世纪的大岛地图

这幅大岛地图绘制于 1797 年，是福岡藩主下令开展的土地调查一环。尽管已过去数百年，岛上的地貌仍和地图所绘大致相仿。

如今仍可辨认的主要地点包括位于岛屿中央的中津宫、御岳山（海拔 224 米）山顶的御岳神社，以及连接这两处地点的山路。沿海聚居地的位置也和地图中标示的位置基本一致。在地图顶部、大岛以北处可见冲之岛。

与现今不同的是中津宫境内末社数量与配置，以及冲津宫遥拜所的位置。面向地图时，如今的大岛交流馆位于右侧，紧邻一片圆形水湾。

<繁体字>

18 世紀的大島地圖

這幅大島地圖繪製於西元 1797 年，屬於福岡藩主下令進行的土地調查一環。儘管數百年過去，島上的地貌仍和地圖所繪相去不遠。

如今依舊可辨認的主要地點包括位於島嶼中央的中津宮、御嶽山（海拔 224 公尺）山頂的御嶽神社，以及連接兩處地點的山路。沿海聚落所在也和地圖中標示的位置基本一致。在地圖頂部，大島以北處可見沖之島。

與現今不同的是中津宮境內末社數量與配置，以及沖津宮遙拜所的位置。面向地圖時，現在的大島交流館位於右側，緊鄰一片圓形水灣。

<日本語仮訳>

大島交流館（世界遺産ガイド施設）/「神宿る島」沖ノ島と「神守る島」大島

大島のこの地図は、1797 年に福岡藩主の命により行われた土地調査の一環として描かれました。数世紀が経過したにもかかわらず、島は地図に描かれた姿とほぼ変わっていません。

現在も確認できる主な場所としては、島の中央にある中津宮、御嶽山（224 メートル）の頂上にある御嶽神社、そしてその 2 つを結ぶ山道などが挙げられます。沿岸部にある集落も、ほぼ同じ位置に描かれています。地図の上部、大島の北側には沖ノ島が確認できます。

現在との相違点としては、中津宮境内にある末社の数と配置、そして中津宮遙拝所の位置が挙げられます。地図を正面にみると、現在の大島交流館は右側、円形の入り江のすぐそばに位置します。

【タイトル】 大島交流館（世界遺産ガイダンス施設）/「神宿る島」沖ノ島

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

“神宿之岛” 冲之岛

长期以来，冲之岛一直作为宗像信仰的一部分而备受尊崇。这座小岛面积不足 1 平方公里，距离大岛的海岸约 48 公里。冲之岛位于日本和朝鲜半岛之间，曾是海员的航标，也是人们敬拜的对象。考古调查发现的大量文物证实了 4 世纪至 9 世纪岛上曾发展出祭祀习俗，为研究日本早期祭祀传统及对外关系提供了宝贵线索。

信仰

根据 8 世纪初编纂的《日本书纪》记载，太阳神天照大御神命令其神裔——宗像三女神守护横跨玄界滩上连接日本与亚洲大陆的航道。为答谢神恩，历代天皇尊崇并敬拜她们。三位女神分别供奉在宗像大社的三宫中：冲之岛的冲津宫、大岛的中津宫和本岛的边津宫。

宗像氏族曾统治九州西北部，并掌管冲之岛的祭祀事务。该氏族在 8 世纪初日本最早的书面文献中已有记载，但其崛起时间可能早于这些文献的编纂时间。至 7 世纪时，该氏族的成员开始世袭担任地方行政长官和最高祭司的双重职务，并持续履行相关职责，直至 16 世纪末世系断绝。

祭祀习俗的变迁

4 世纪至 9 世纪期间，冲之岛的祭祀仪式经历了不同的变化阶段，各阶段皆有其独特的供品与主要摆放地点。出土的文物包括镜子、珠饰、刀剑、鎏金青铜饰品及来自遥远中东的进口玻璃器皿，揭示了这座岛屿在贸易和外交方面与大陆的紧密联系。在数百年间，供品的来源有所变化，不仅体现了宗像地区政治、经济和文化环境的转变，也反映了日本与亚洲大陆关系的演变，以及海上交通网络的发展。

祭祀仪式围绕岛屿中心的巨石举行。在最早期，人们会郑重地将镜子和铁锭等供品供奉于

巨石顶部，并用石块覆盖或环绕。在随后的几个世纪里，供品被供奉在岩石的阴影中、突出的岩石下方或半遮蔽的区域。到 9 世纪时，还愿供品被供奉在现今冲津宫附近的开放空地上。

这种从自然空间向人造祭祀场所的转变反映了日本早期的宗教习俗从自然崇拜演变为组织化的信仰体系，也就是后来的“神道”。供品的形式也有所变化，从早期的武器和珠宝，到 8 世纪时演变为纺织工具和乐器的微型模型，最终在 9 世纪时演变为人、马和船只造型的小雕像。

冲之岛迄今已出土超过 8 万件文物。有赖于长期以来禁止公众登岛的禁忌（仅少数例外），这些文物保存完好。这些出土文物有许多早于日本最早的文字记载。这些发现表明了宗像信仰在地区与国际交流中的核心作用，也反映了宗像氏族在日本早期统治阶层中享有的威望。整批文物均得到妥善保存，并被指定为日本国宝，统称为“海之正仓院”。部分文物现陈列于本岛边津宫境内的神宝馆中。

冲之岛和大岛

在冲之岛和大岛的最高点——御岳山（海拔 224 米）山顶，人们发现了相似的祭祀用品。这些文物的相似性表明御岳山的祭祀活动与冲之岛后期的祭祀阶段处于同一时期，并且随着时间推移，仪式活动逐渐从冲之岛转移到大岛。

虽然在冲之岛上供的习俗于 9 世纪终止，但人们对所供奉神明的崇拜并未中断。16 世纪，宗像氏族血脉断绝，此后祭祀活动的重心逐渐从冲之岛转移到大岛。大岛因此有守护岛之称，以距离神圣冲之岛最近的中介据点，保护这座岛屿。冲津宫遥拜所位于大岛北岸，面朝冲之岛，是时至今日人们遥祭岛上神明的场所。

列入联合国教科文组织世界遗产名录

2017 年，冲之岛及相关遗址被列入联合国教科文组织《世界遗产名录》，统称为“‘神宿之岛’宗像·冲之岛及相关遗产群”。此次申遗范围包括“神宿之岛”冲之岛、宗像大社的相关遗址——冲津宫、冲津宫遥拜所、中津宫和边津宫，以及新原·奴山古坟群。该遗产被认定为崇拜神圣岛屿之文化传统的杰出范例，体现了这一传统在东亚活跃的海外交流过程中不断发展演变，并传承至今。

<繁体字>

「神宿之島」沖之島

長期以來，沖之島在宗像信仰中一直備受尊崇。這座小島面積不到 1 平方公里，離大島的海岸約 48 公里。沖之島位於日本和朝鮮半島之間，曾是海員的航標，也是人們敬拜的對象。考古調查出土大量文物，顯示沖之島在 4 世紀至 9 世紀間祭祀活動的發展，並為研究日本早期的祭祀傳統與對外關係提供寶貴線索。

信仰

根據 8 世紀初編纂的《日本書紀》記載，太陽神「天照大御神」命令其神裔「宗像三女神」，守護玄界灘上連接日本與亞洲大陸的海上航線。為答謝神恩，歷代天皇尊崇並敬拜三位女神。三女神分別供奉在宗像大社三宮：沖之島沖津宮、大島中津宮和九州本島的邊津宮。

宗像氏族曾統治九州西北部，並掌管沖之島的祭祀事務。8 世紀初日本最早的書面文獻曾提及宗像氏族，但其崛起時間可能早於這些文字記錄。至 7 世紀時，地方行政長官和最高祭司皆由宗像氏族成員世襲擔任，並持續履行相關職責，直到 16 世紀末家系斷絕為止。

祭祀習俗的變遷

4 世紀至 9 世紀，沖之島的祭祀儀式經歷不同的變化階段，各階段皆有其獨特的奉納品與主要擺放地點。出土的文物包括鏡子、珠飾、刀劍、鍍金青銅飾品，以及來自遙遠中東的進口玻璃器皿，揭示這座島嶼在貿易和外交上與大陸有所往來。在數百年間，奉納品的來源有所變化，不僅體現宗像地區政治、經濟和文化環境的變遷，也反映日本與亞洲大陸關係的演變，以及海上交通網的發展。

祭祀儀式在島嶼中心的巨石周遭舉行。在最早期，人們會鄭重地將鏡子和鐵錠等奉納品供奉於巨石頂端，並用石塊覆蓋或環繞。在之後的幾世紀裡，奉納品會被供奉於岩石的陰影中、岩石突出處的下方，或部分遮蔽的區域。到 9 世紀時，奉納品會供奉在現今沖津宮附近的開放空地上。

這種從自然空間轉往人造祭祀場所的轉變，反映日本早期的宗教習俗從自然崇拜變為組織

化的儀式體系，也就是後來的「神道」。奉納品形式也有所改變，從早期的武器和珠寶，到 8 世紀時的紡織工具和樂器的縮小模型，最後在 9 世紀變為人、馬和船隻造型的小雕像。

沖之島已出土超過 8 萬件文物。有賴於長期以來禁止任何人登島的禁忌（僅少數例外），這些文物保存狀況完好。其中許多文物可追溯至比日本最早文字記錄更久遠的年代。這些發現展現宗像信仰在地區與國際交流中的核心地位，也顯示宗像氏族在日本早期統治階層中享有的威望。所有文物均得到妥善保存，並經指定為日本國寶，亦被稱為「海之正倉院」。其中部分文物現於九州本島邊津宮境內的神寶館中展出。

沖之島和大島

在沖之島和大島的最高點御嶽山（海拔 224 公尺）山頂，人們發現了相似的奉納品。由此可看出，御嶽山的祭祀活動與沖之島後期祭祀階段同時期進行，且祭祀儀式隨著時間推移，逐漸由沖之島轉移至大島。

雖然在沖之島奉納的習俗在 9 世紀終止，但人們對所供奉神明的崇拜並未中斷。16 世紀，宗像氏族血脈斷絕，之後祭祀活動的重心逐漸從沖之島轉移到大島。大島因此有守護島之稱，成為距離神聖沖之島最近的中介據點，並扮演守護角色。沖津宮遙拜所位於大島北岸，面朝沖之島，是時至今日人們遙祭島上神明的場所。

名列聯合國教科文組織世界遺產

西元 2017 年，沖之島及相關遺址列入聯合國教科文組織《世界遺產名錄》，合稱「『神宿之島』宗像・沖之島及相關遺產群」。遺產包括「神宿之島」沖之島、宗像大社相關遺址——沖津宮、沖津宮遙拜所、中津宮和邊津宮，以及新原・奴山古墳群。這被認為崇拜神聖島嶼之文化傳統的傑出例證範例，體現了這一傳統在東亞活躍的海外交流過程中發展，並傳承至今。

<日本語仮訳>

大島交流館（世界遺産ガイド施設）/「神宿る島」沖ノ島

沖ノ島は長い間宗像信仰の一部として崇められてきました。この小さな島は、面積 1 平方キロメートルにも満たず、大島の沖合約 48 キロメートルに位置しています。日本と朝鮮半島の間にあり、航海の目印として船乗りたちに利用され、信仰の対象となってきました。考古学調査によって、4 世紀から 9

世紀にかけて島で発展した祭祀の慣行を証明するたくさんの遺物が発見されており、日本の初期の祭祀の伝統や外国との関係に関する貴重な手がかりとなっています。

信仰

日本最古の史書の1つである『日本書紀』（8世紀初期編纂）によれば、太陽神 天照大御神は、自身から生まれた神聖な存在である三女神（宗像三女神）に、玄界灘を挟んで相対する日本とアジア大陸間の海路を守るよう命じました。その見返りとして、天皇らは彼らを崇め、敬いました。神々はそれぞれ、3つの宗像大社の1宮に祀られました。沖ノ島の沖津宮、大島の中津宮、そして本土の辺津宮です。

宗像氏は九州北西部を統治し、沖ノ島の祭祀を司りました。その名は8世紀初頭から日本最古の文献にも見られますが、彼らの台頭はこれらの文献よりもっと古い時代にさかのぼると考えられます。7世紀まで、宗像氏は地方行政官と最高祭司の両方の世襲職にありました。彼らは16世紀後半に家系が途絶えるまで、これらの職務を維持しました。

祭祀慣行の変遷

沖ノ島における祭祀は、主要な場所に奉納供物が置かれ、4世紀から9世紀にかけてはつきりと段階的に発展しました。鏡、ビーズ、刀剣、金銅の装飾品、さらには中東のようにはるか遠くから輸入されたガラス製品などの遺物は、この島の大陸との貿易や外交との関わりを示しています。奉納供物の起源は数世紀にわたって異なり、宗像地域の政治的・経済的・文化的状況の変化、日本とアジア大陸との関係、海上網の発展を映し出しています。

島の中心付近にある大きな岩の周囲で、祭祀が行われました。最も初期の段階では、鏡や鉄ののべ棒といった供物が、儀式的に巨岩の頂上に直接置かれたり、石で覆われたり囲まれたりしていました。その後数世紀にわたり、供物は岩陰や張り出した岩の下、あるいは部分的に日陰になった場所に安置されました。9世紀には、現在の沖津宮付近の開けた場所に奉納供物が捧げられるようになりました。

自然の空間から人工の祭祀の場へのこの移り変わりは、日本の初期の宗教的慣行が、自然崇拝から「神道」と呼ばれるようになった組織化された慣習へと進化したことを示しています。供物の形態も変化し、武器や装飾品から、8世紀には織具や楽器を表現した雛形へ、そして9世紀には人、馬、船の像へと変わっていきました。

沖ノ島では8万点以上の遺物が発掘されました。その驚くべき保存状態は、ごく一部の例外を除き、島への立ち入りを禁じてきた長年の禁忌のおかげです。これらの遺物の多くは、日本最古の歴史文献よりも古い時代にさかのぼります。これらの発見は、宗像信仰が地域および国際交流において中心的な役割を果たしたこと、また宗像氏が日本の初期の統治者たちから高い威信を享受していたことを示しています。遺物はすべて保存されており、全て国宝に指定され「海の正倉院」と呼ばれている、一部

は本土の辺津宮の敷地内にある博物館 神宝館に展示されています。

沖ノ島と大島

同様の祭祀用具は、沖ノ島と、大島の最高峰である御嶽山（224メートル）の山頂でも発見されています。遺物の類似性から、御嶽山での祭祀は沖ノ島の後期祭祀の段階と同時期に行われており、儀式慣行は時を経て沖ノ島から大島へと徐々に移行されたことを示唆しています。

沖ノ島への供物奉納の慣行は9世紀に終焉を迎えましたが、祀られている神様への崇拝は続きました。16世紀に宗像の血族が途絶えた後、祭祀活動の中心は沖ノ島から大島へと徐々に移っていきました。大島は守護の島として知られるようになり、聖なる沖ノ島に最も近い地点に位置する、守護の仲介地としての役割を果たしました。大島北岸に位置し沖ノ島を向くお堂、沖津宮遙拝所は、今も島の神を遠くに拝むことができる場所となっています。

ユネスコ世界遺産認定

2017年、沖ノ島と関連する地は「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群としてユネスコ世界遺産リストに登録されました。これには、「神宿る島」沖ノ島、宗像大社の関連遺跡群である沖津宮、沖津宮遙拝所、中津宮、辺津宮、そして新原・奴山古墳群が含まれます。東アジアにおける海外との活発な交流が進む中で発展を遂げ、現在まで受け継がれてきた、神聖な島を崇拝する文化的伝統の類まれな例として、評価されています。

【タイトル】 大島交流館（世界遺産ガイダンス施設）/宗像三女神の降臨

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

宗像三女神

宗像信仰是一种源自古代祈求航海安全的信仰体系，其核心是三位守护着日本列岛和亚洲大陆之间航线的女神。自古以来，海员和渔民便会向她们祈愿保佑出海平安、渔获丰饶。随着时间推移，对宗像女神的信仰传播到日本各地，其他沿海神社也随之建立，包括广岛的严岛神社和神奈川的江岛神社。

三女神的传说

根据 8 世纪初编纂的《古事记》，宗像女神是在太阳神天照大御神举行的神谕仪式时诞生的。在仪式中，天照大御神取下弟弟风暴之神须佐之男命的佩剑并折成三段，接着用神井的水清洗断剑的碎片，并放入口中咀嚼，随后呼气而呵出宗像三女神，分别是田心姬、湍津姬和市杵岛姬。天照大御神任命新降生的女神守护日本与朝鲜半岛之间玄界滩的重要航线。

三女神分别供奉在宗像大社的三座神社内：冲之岛的冲津宫供奉田心姬，大岛的中津宫供奉湍津姬，位于本岛的边津宫供奉市杵岛姬。

长久的信仰与祭祀

自古以来，人们主要在冲之岛举行祭祀女神的仪式，由从事航海以及与东亚大陆进行交流的统治氏族宗像氏主持。借助参与国家祭祀活动的权责，氏族将供奉在宗像大社三座神社内的三女神尊为航线和渔民的守护神。即使氏族在 16 世纪末衰落，当地的神职人员和其他民众依然坚守着这些传统。如今，宗像大社的神职人员每十天一次轮班驻守冲之岛，在位于半山腰的神社境内举行祭祀仪式。

三座神社如今仍保留着相关仪式习俗。每年 10 月 1 日至 3 日举办的秋季大祭依然是最重

要的年度盛事。祭典以御阿礼祭拉开序幕，人们会将冲津宫和中津宫中供奉的神輿（神轿）渡海运往边津宫，让三女神团聚。宗像地区的七个港口会派出一百多艘渔船，组成盛大的船队护送神輿。秋季大祭的最后一场活动是在高宫祭场举办的神奈备祭，人们会感谢神明保佑仪式圆满完成。

＜繁体字＞

宗像三女神

宗像信仰是一種信仰體系，源自古代的航海平安祈願。信仰核心為守護日本列島與亞洲大陸之間航線的三位女神。自古以來，船員和漁民們會向女神祈願出海平安、漁獲豐收。隨著時間過去，宗像女神信仰傳播到日本全國，各地也興建起沿海神社，包括廣島的嚴島神社和神奈川的江島神社。

三女神傳說

根據 8 世紀初編纂的《古事記》，宗像女神是在太陽神「天照大御神」進行占問儀式時，由其化生而出。在儀式中，天照大御神取了弟弟風暴之神須佐之男命的佩劍並折成三段，接著以神聖之井水清洗斷劍的碎片，並放入口中咀嚼。祂隨後吐出一口氣，便誕生宗像三女神，分別是田心姬神、湍津姬神和市杵島姬神。天照大御神任命新降生的女神們守護日本與朝鮮半島之間玄界灘的重要航線。

三女神分別供奉在宗像大社的三座神社內：沖之島的沖津宮供奉田心姬神，大島的中津宮供奉湍津姬神，位於日本本島的邊津宮供奉市杵島姬神。

延續至今的信仰與祭祀儀式

自古以來，人們主要在沖之島舉行祭祀女神的儀式，由從事航海和亞洲大陸交流的統治氏族宗像氏主持。藉在國家祭祀活動中的職責，氏族將供奉在宗像大社三座神社內的三女神尊為航線與航海者的守護神。即使 16 世紀末氏族衰落，當地神職人員和其他地方社區的居民仍持續守護並延續這些傳統。如今，宗像大社的神職人員每十天一次輪班駐留沖之島，在位於半山腰的神社境內舉行祭祀儀式。

三座神社如今仍延續相關儀式習俗。每年 10 月 1 日至 3 日舉辦的秋季大祭，依然是最重

要的年度盛事。大祭以御阿禮祭拉開序幕，人們會將沖津宮和中津宮中的神輿渡海運往邊津宮，讓三女神團聚。宗像地區的七個港口會派出一百多艘漁船，組成盛大的船隊護送神輿。大祭的最後一場活動是在高宮祭場舉辦的神奈備祭，人們會感謝神明保佑儀式圓滿完成。

<日本語仮訳>

大島交流館（世界遺産ガイド施設）/宗像三女神の降臨

宗像信仰は、古代における海洋渡航の安全祈願を起源とする信仰体系です。日本列島とアジア大陸を結ぶ海路を守る三女神を中心としています。古来より、船乗りや漁師たちは、安全と豊かな漁獲を祈願してその女神たちに祈りを捧げてきました。時を経て、宗像の神々への信仰は日本全国に広がり、広島の大島神社や神奈川の江島神社など、他の沿岸の神社も建立されるに至りました。

三女神の伝説

8世紀初期に編纂された『古事記』によれば、宗像の神々は神託の儀において太陽神 天照大御神から生まれました。この儀で、天照大御神は、嵐の神である弟 須佐之男の剣を取り、3つに折りました。天照大御神は、その剣の破片を神聖なる泉の水ですすぎ、噛み砕きました。そして息と共に宗像の三神を吐き出しました。田心姫、湍津姫、そして市杵島姫です。天照大御神は新たな子どもたちに、日本と朝鮮半島の間にある玄界灘の重要な海路を見守るよう命じました。

三神はそれぞれ、3つの宗像大社の1宮に祀られています：沖ノ島の沖津宮には田心姫、大島の中津宮には湍津姫、そして本土の辺津宮には市杵島姫です。

不朽の信仰と祭祀

これらの神々を祀る祭祀は、古の時代から、主に沖ノ島で、大陸との航海や交流に携わる血族である統治者 宗像氏によって執り行われてきました。国の祭祀におけるその役割を通して、彼らは宗像大社の三宮に祀られる三女神を、海路と船乗りを守る神として崇めました。16世紀後半に氏族が潰えた後も、地元の宮司やその他地域住民たちがこれらの伝統を守り続けました。現在では、宗像大社の神職らが10日ごとに交代で沖ノ島に滞在し、山腹にある神社の境内で祭祀を執り行っています。

3つの神社すべてで、今日まで儀式の習慣が守り続けられています。10月1日から3日まで催される秋の大祭は、今も最も重要な年中行事です。祭りの幕開けとなるみあれ祭では、沖津宮と中津宮に鎮座する神輿が海を渡って辺津宮に運ばれ、三姉妹神が再会します。宗像の7つの港から100隻を超える漁船が雄大な船団の進行に随行します。祭りは高宮祭場で神奈備祭をもって締めくくられ、祭祀を無事終えられたことに対して神々に感謝が捧げられます。

【タイトル】 大島交流館（世界遺産ガイダンス施設）/自然崇拜から始まった中津宮

【想定媒体】 アプリ QR コード

＜簡体字＞

中津宮的发展历程

位于大岛的中津宫是宗像大社的三宫之一，供奉着宗像三女神之一——湍津姬。境内涵盖山顶的祭祀场和山脚的本殿建筑。人们在山顶遗址发现了可追溯至 7 世纪后半叶至 9 世纪的供品，表明祭祀活动最初在山顶举行。中津宫是联合国教科文组织世界遗产“‘神宿之岛’宗像・冲之岛及相关遗产群”的一部分。

从山岳信仰到宗像神社

御岳山峰是大岛的最高点（海拔 224 米）。山顶祭祀场的考古发现可追溯到 7 世纪后半叶至 9 世纪。这些文物与神圣的冲之岛，及位于本岛宗像大社的边津宫出土的文物相似，表明三处地点曾在同一时期举行祭祀活动。山顶的发现印证了当地长久以来的信仰——宗像三社供奉着三位女神。这三位女神见载于《古事记》与《日本书纪》，两书均编纂于 8 世纪初，为日本现存最古老的文献。

中津宫的历史发展

随着时间推移，在山麓举行祭祀仪式变得更加普遍。根据 15 世纪的文献记载，至镰仓时代(1185–1333)晚期，此处已经存在神社建筑群。文献将上宫称为御岳神社，将下宫中津宫称为本殿，证明了山顶和山麓的祭祀场所曾同时存在。1997 年，在实施本殿修复工程时，人们发现了写于 1655 年的墨书，表明现在的本殿大约在这一时期建造。

布局与特色

两座神社由一条 970 米长的参道相连，构成一处圣域。据说日本各地广为流传的起源于本殿。本殿境内的神社供奉着传说中那对不幸的恋人——织女（织姬）和牵牛（彦星），他们被名为天之川（银河）的溪流分隔。在大岛，考虑到阴历日期，相关祭典在 8 月 7 日举

行，比日本大多数地区晚一个月。

本殿境内还有与宗像三女神的起源传说息息有关的天之真名井。从海岸通往本殿的参道上立着两座鸟居，内侧的鸟居建于 1673 年，是宗像大社现存最古老的鸟居。

＜繁体字＞

中津宮的發展演變

位於大島的中津宮是宗像大社的三宮之一，供奉著宗像三女神之一的湍津姬神。神社境內涵蓋山頂的祭祀場，以及位於山麓的主要社殿。在山頂遺址發現的供品，可追溯到 7 世紀後半至 9 世紀，顯示祭祀活動最初在山頂舉行。中津宮是聯合國教科文組織世界文化遺產「『神宿之島』宗像・沖之島及相關遺產群」的一部分。

從山岳信仰到宗像神社

御嶽山是大島最高峰（標高 224 公尺）。山頂祭祀場的考古發現可追溯到 7 世紀後半葉至 9 世紀。這些文物與神聖的沖之島，及位於本島宗像大社的邊津宮出土的文物相似，表明三處地點曾在同一時期舉行祭祀活動。山頂的發現印證了當地長久以來的信仰——宗像三社供奉著三位女神。這三位女神見載於《古事記》與《日本書紀》，兩書均編纂於 8 世紀初，為日本現存最古老的文獻。

中津宮的歷史發展

隨著時間推移，在山麓舉行祭祀儀式變得普及。根據 15 世紀的文獻記載，到了鎌倉時代（西元 1185—1333）晚期，當地已存在神社建築群。文獻將上宮稱為御嶽神社，下宮中津宮稱為主社，表明山頂和山麓的祭祀場所同時存在。在西元 1997 年對本殿進行修復時，發現一份撰於西元 1655 年的墨書題記，據此可推測本殿大約是在這個時期建造。

格局與特色

兩座神社間以一條長約 970 公尺的參道相連，構成一處神域。據說日本各地廣為流傳的七夕傳說就是發源於主社。境內的神社供奉著傳說中那對不幸的戀人，織女（織姬）和牽牛（彥星），兩人被天之川（銀河）的溪流分隔兩地。在大島，考慮到陰曆日期，相關祭典

在 8 月 7 日舉行，比日本大多數地區晚一個月。

境內還有與宗像三女神的起源傳說息息有關的天之真名井。從海岸通往主社的參道上矗立著兩座鳥居，內側那一座建於西元 1673 年，是宗像大社現存最古老的鳥居。

<日本語仮訳>

大島交流館（世界遺産ガイダンス施設）/自然崇拜から始まった中津宮

大島にある中津宮は宗像大社の三宮の一宮で、宗像三女神の一柱である湍津姫が祀られています。境内には山頂の祭祀場と山麓の本殿があります。山頂からは、7 世紀後半から 9 世紀にかけての奉納供物が出土しており、山頂での信仰が始まったことを示唆しています。中津宮はユネスコ世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の一部です。

山岳信仰から宗像神社へ

御嶽山（224 メートル）は、大島の最高峰です。山頂にある祭祀跡からは、7 世紀後半から 9 世紀にかけての考古学的遺物が出土しています。これらは聖なる島 沖ノ島や本土の宗像大社 辺津宮の境内から出土した遺物と類似しています。それらは、祭祀が 3 つの場所すべてで同じ時期に行われていたことを示しています。山頂での発見は、宗像三社には、8 世紀初頭に編纂された日本最古の文献である『古事記』と『日本書紀』に記述されている三女神が祀られているという、長きにわたり地元伝わる信仰を裏付けています。

中津宮の歴史的発展

時が経つにつれて、山麓で礼拝の祭祀が行われることがより一般的になりました。鎌倉時代（1185～1333 年）後期には神社の施設が存在していたことが、15 世紀の文献に記録されています。この記録では、上宮を御嶽神社、下宮の中津宮を本殿と特定しており、山頂と山麓の礼拝場所が共存していたことを証明しています。1997 年の本殿修復工事の際、1655 年の墨書が発見され、現在の本殿がその頃に建立されたことを示唆しています。

配置と特徴

2 つの神社は 970 メートルの参道で結ばれ、一種の聖域を形成しています。本殿は日本全国で祝われる七夕伝説の発祥の地と言われています。境内には、物語の悲恋の主人公である織女（織姫）と牽牛（彦星）を祀る神社があり、天の川（銀河）と呼ばれる小川で隔てられています。大島では、日本の他のほとんどの地域より 1 か月遅い、およそ旧暦を考慮し 8 月 7 日に関連する祭りが行われます。

境内にはまた、宗像三女神の起源伝説に由来する天ノ真名井という井戸があります。海岸から本殿へと続く参道沿いには 2 本の鳥居が立っており、内側の鳥居は 1673 年に建立された宗像大社の現存最古の鳥居です。

【タイトル】大島交流館（世界遺産ガイダンス施設）/沖ノ島祭祀と御岳山祭祀

【想定媒体】アプリ QR コード

<簡体字>

冲之岛和御岳山：祭祀习俗和相似之处

考古调查表明，从 7 世纪后半叶至 9 世纪，人们曾在冲之岛和大岛的御岳山举办祭祀仪式。在御岳山山顶（海拔 224 米）和冲之岛的宗教遗址发现的供品种类相似，这表明敬献这些供品是宗像地区共有的宗教传统，在九州本岛的边津宫也发现了类似的供品。根据日本最古老的历史文献《古事记》和《日本书纪》（均于 8 世纪初编纂）记载，宗像氏族曾在上述地点举办祭祀三女神的仪式。

冲之岛的祭祀

自古以来，冲之岛一直被尊为日本和朝鲜半岛航线上的重要航标。自约 7 世纪起，这座岛屿开始与守护此航线的三女神之一田心姬产生关联。过去，日本国家祭祀仪式会在冲之岛举行，以祈求航海平安及遣外使节出使顺利。4 世纪至 9 世纪期间，人们在岛上敬奉了数千件供品。迄今为止发现的供奉器物数量约为 8 万件，其中有来自朝鲜半岛、中国大陆乃至现今伊朗地区的供品。

这些供品被放置在冲之岛中央的大型岩盘上或附近。祭祀在约五百年内经历了四个发展阶段：从岩顶祭祀（4 世纪）演变为岩影祭祀（5 至 7 世纪），然后转变为部分岩影祭祀（7 世纪中期），最后发展为野外祭祀（8 至 9 世纪）。供奉器物的形制也随着时间推移发生了变化，反映了政治、社会和外交环境的变迁。

御岳山的祭祀

自 8 世纪后半叶起，人们开始在大岛的最高点——御岳山举办类似的祭祀仪式。在山顶勘查中发现了各种物件，例如造型为人、船、马的滑石雕像，以及穿孔陶器和青铜器。这些物件与在冲之岛发现的物件十分相似，年代也相近，这表明御岳山的祭祀活动与冲之岛的祭祀活动是在同一时期进行的。

＜繁体字＞

沖之島和御嶽山祭祀習俗的相似之處

經考古調查發現，從 7 世紀後半葉到 9 世紀，人們曾在沖之島和大島的御嶽山舉辦祭祀儀式。在御嶽山山頂（海拔 224 公尺）和沖之島的聖地出土的供奉遺物種類相似，表示敬獻這些奉納品是宗像地區共有的宗教傳統，在九州本島的邊津宮也發現了類似奉納遺物。根據日本最古老歷史文獻《古事記》和《日本書紀》（均於 8 世紀初編纂）記載，宗像氏族曾在上述地點舉辦宗像三女神祭祀儀式。

沖之島祭祀儀式

自古以來，沖之島一直被奉為日本與朝鮮半島之間航路上的重要航標。從約 7 世紀起，這座島嶼與守護此海路的三女神之一田心姬神開始有了關聯。日本國家祭祀儀式過去會在沖之島舉行，以祈航海平安及遣外使節出使順利。4 世紀到 9 世紀間，人們在島上留下了數千件奉納品。迄今發現的奉納品約有 8 萬件，來自朝鮮半島、中國，乃至現今的伊朗地區。

奉納品被放置在沖之島中央的巨岩地形上或周遭。祭祀在約五百年間經歷了四個發展階段：岩頂祭祀（4 世紀）、岩影祭祀（5 至 7 世紀）、部分岩影祭祀（7 世紀中期），最後演變為露天祭祀（8 至 9 世紀）。奉納品的形態也隨著時間而變，反映當時政治、社會和外交環境的更迭。

御嶽山祭祀儀式

自 8 世紀後半葉起，人們開始在大島至高點御嶽山開始進行類似的祭祀儀式。在調查山頂時出土了各種物品，例如人、船、馬等造型的滑石雕像，以及穿孔陶器和青銅器。這些物品與在沖之島發現的器物相當類似，年代也相近，表示御嶽山與沖之島的祭祀活動在同一時期進行。

＜日本語仮訳＞

大島交流館（世界遺産ガイド施設）/沖ノ島祭祀と御嶽山祭祀

考古学調査により、祭祀は 7 世紀後半から 9 世紀にかけて、沖ノ島と大島の御嶽山の両方で行われていたことが明らかになっています。御嶽山の山頂（224 メートル）と沖ノ島の聖域から発見された

供物遺物の種類に見られる類似点が、これらの供物は宗像地域内で共有された宗教的伝統の一部として捧げられたものということを示唆しています。同種の遺物が、本土の辺津宮でも発見されています。日本最古の歴史書である『古事記』と『日本書紀』（いずれも 8 世紀初期に編纂）は、宗像氏がこれらの様々な場所で宗像三女神に捧げる祭祀を行ったと記しています。

沖ノ島の祭祀

古の時代から、沖ノ島は、日本と朝鮮半島とを結ぶ海路を渡る人々の目印として崇められてきました。7 世紀頃から、この島は海路を守る三女神の一柱、田心姫と結びつけられるようになりました。海上の安全や海外使節の成功を祈願する国の祭祀が、伝統的にこの地で執り行われました。4 世紀から 9 世紀にかけて、何千もの供物が島に奉納されました。朝鮮半島、中国本土、さらには現在のイランにさえ由来する品々を含む、約 8 万点の奉納供物が発見されています。

これらの供物は沖ノ島の中央にある大きな岩盤の上またはその周辺に置かれました。祭祀はおよそ 500 年で 4 段階を経て発展しました。4 世紀の岩頂祭祀から始まり、岩影祭祀（5～7 世紀）、部分的岩影祭祀（7 世紀半ば）、そして最後に野外祭祀（8 世紀～9 世紀）へと至りました。この奉納供物の形態も、政治的・社会的・外交的状況の変化を反映して、時代とともに変化しました。

御嶽山の祭祀

8 世紀後半からは、大島最高峰の御嶽山で、同様の祭祀が行われました。山頂の調査では、人、船、そして馬を象った凍石の像や、穴あき土器、青銅器などの遺物が発見されました。これらは沖ノ島で見つかるものとよく似ており、同様の時代に製造されたものとみられ、御嶽山での祭祀が沖ノ島での祭祀と同時期に行われていたことを示唆しています。

【タイトル】 大島交流館（世界遺産ガイダンス施設）/神宿る島への祈りの場

【想定媒体】 アプリ QR コード

＜簡体字＞

冲津宫遥拜所

冲津宫遥拜所位于大岛北岸，隔着玄界滩与冲之岛相望。由于冲之岛的圣域（包括冲津宫及附近的祭祀场）禁止一般公众进入，冲津宫遥拜所便成为了远距离敬拜“神宿之岛”的场所。在晴朗的日子里，可以从这里看到冲之岛。

16 世纪，世代担任神职的宗像氏族祭司后继无人，当地两个家族共同承担起举办宗像信仰祭祀活动的职责。随着时间过去，他们逐渐在冲津宫遥拜所主持原本在冲之岛举行的仪式。遥拜所入口处有一座可追溯到 1749 年的石碑，上面刻有关于该遥拜所的已知最早文字记录。1875 年的地图证实其位置至今未曾改变，不过早期的布局中神职人员的居所等建筑，如今已变成开阔的前庭。

遥拜所的门窗通常紧闭，但打开时，可直接望见神圣的冲之岛。在春季和秋季举办的大祭期间会打开门窗，让参拜者能够在视线不受阻隔的情况下，眺望冲之岛进行祈祷。

＜繁体字＞

冲津宫遥拜所

冲津宫遥拜所位于大岛北岸，隔著玄界滩与冲之岛相望。由於冲之岛的圣域（包括冲津宫及附近的祭祀场）禁止一般公众进入，冲津宫遥拜所便成为远距离敬拜「神宿之岛」的场所。在晴朗的日子裡，可以在這裡望見冲之岛。

16 世紀，世代擔任神職的宗像氏族祭司後繼無人，當地兩個家族共同承擔起舉辦宗像信仰祭祀活動的職責。隨著時間過去，他們逐漸在冲津宫遥拜所主持原本在冲之岛舉行的儀式。遙拜所入口處有一座可追溯到西元 1749 年的石碑，上面刻有關於該遙拜所的已知最早文字記錄。從西元 1875 年的地圖可確認其位置至今未曾改變，不過早期格局中神職人

員の居所等建築，如今已成開放式前庭。

遙拜所の門窗一般保持關閉；當打開時，可直接望見神聖的沖之島。在春季和秋季舉辦的大祭期間會打開門窗，讓參拜者得以在視線不受遮擋的情況下，朝向沖之島祈禱。

<日本語仮訳>

大島交流館（世界遺産ガイド施設）/神宿る島への祈りの場

沖津宮遙拜所は、大島の北岸に位置し、玄界灘を隔てて沖ノ島と向かい合っています。沖津宮やその周辺の祭祀場を含む沖ノ島のこの聖域は、一般の人々の立ち入りが禁止されているため、この場所には、遥か彼方から神宿る島を崇める場所として機能しています。晴れた日には、沖ノ島をこの場所から見渡すことができます。

16 世紀に宗像氏の代々続く神職の家系が途絶えた後、地元の 2 つの家系が宗像信仰の祭祀の責任を共同で引き受けました。時が経つにつれ、彼らは沖ノ島で以前行われていた祭祀をこの礼拝所で執り行うようになりました。入口にある石碑は 1749 年のもので、遙拜所の最古の記録として知られています。1875 年の地図でもその位置は変わっていないことが確認できますが、当時の配置には、現在の前庭にあたる場所に神職の居住区などの建物が含まれていました。

この拝殿の扉や窓は普段閉ざされていますが、開かれると、神聖な島の直接の景色を収めることができます。春と秋に開催される沖津宮の大祭の際には、沖ノ島への視線が遮られることなく祈りを捧げられるようそれらが開かれます。

【タイトル】大島交流館（世界遺産ガイダンス施設）/神守る島

【想定媒体】アプリ QR コード

<簡体字>**守护神之岛——大岛**

自古以来，在这片海域航行捕鱼的大岛居民，将冲之岛视为神圣之岛，并将其作为信仰对象加以守护。由于冲之岛有禁止登岛的禁忌，大岛便成为了管理冲之岛登岛事宜的重要据点。诸岛和九州本岛对宗像地区的考古成果可追溯至 8 至 9 世纪，这些成果表明，该地区存在共通的信仰传统。时至今日，大岛仍是重要的参拜场所，人们可以在与冲之岛相望的冲津宫遥拜所，向岛上供奉的神明致以敬意。

仪式传承与神社家族

在古代，冲之岛上的祭祀仪式由宗像氏族成员主持。该氏族对当地的统治可追溯到 8 世纪日本最早的文献记载出现以前。16 世纪末宗像氏族的祭司世系断绝后，居住在大岛上的两个家族接替了信仰事务的管理权，通过名为“一之甲斐”与“二之甲斐”分工履行职责。

一之会负责冲之岛冲津宫的祭祀，而二之会则负责大岛中津宫的仪式。两个家族有时也会协助本岛边津宫举办典礼。江户时代(1603-1867)，两大家族在统治当地的黑田藩庇护下，继续守护着这一信仰。一之会还负责维护包括冲津宫遥拜所在内的祭祀场所，并每年两次渡海前往神圣的冲之岛举行仪式，从而确保古老习俗的延续。

御阿礼祭

每年 10 月 1 日，当地会举办御阿礼祭，这项活动维系着冲之岛、大岛与日本本岛之间长久以来的深厚联系，同时也标志着为期三天的秋季大祭的开始。平时供奉于大岛中津宫的冲津宫神輿与中津宫神輿将渡海前往本岛的边津宫。三位宗像神明将在这里重聚。宗像地区七个港口会派出一百多艘渔船，组成盛大的船队护送神輿。

＜繁体字＞

大島：守護之島

自古以來，在這片海域航行、捕魚的大島居民，將沖之島視為神聖之島，並視其為信仰對象進行守護。由於沖之島有禁止登島的禁忌，大島便成為管理沖之島登島事宜的重要據點。諸島與九州本島出土、可追溯至 8 至 9 世紀的考古發現顯示，宗像地區存在共通的信仰傳統。大島至今仍是重要的參拜場所，人們可以在與沖之島相望的沖津宮遙拜所，向島上所奉祀的神明致敬。

祭祀傳承與神職家族

沖之島自古以來的祭祀儀式由宗像氏族成員主持。早在 8 世紀最早的日本史料出現之前，宗像一族便已統治此地。16 世紀末，宗像氏族的祭司一脈斷絕後，居住在大島上的兩個家族接替信仰事務管理權，透過「一之甲斐」與「二之甲斐」分工履行職責。

一之會負責沖之島沖津宮的祭祀，大島中津宮則由二之會負責。兩家族有時也會協助日本本島邊津宮奉行祭祀儀式。在江戶時代（西元 1603－1867），兩大家族在統治當地的黑田藩庇護下，繼續守護著信仰。一之會同時負責維護包括沖津宮遙拜所在內的祭祀場所，並每年兩次渡海前往沖之島舉行儀式，確保古老習俗的延續。

御阿禮祭

每年 10 月 1 日，當地會舉辦御阿禮祭，這項活動維繫著沖之島、大島與日本本島之間長久以來的連結。此祭典揭開為期三天的秋季大祭序幕。平日供奉在大島中津宮的沖津宮神輿與中津宮神輿將渡海前往日本本島的邊津宮，宗像三女神將在這裡重聚。宗像地區的七個港口會派出一百多艘漁船，組成盛大的船隊護送神輿。

＜日本語仮訳＞

大島交流館（世界遺産ガイド施設）/神守る島

古代からこの海域を航海し、ここで漁業を営んできた大島の人々は、沖ノ島を神聖な島とみなし、信仰の対象として守ってきました。沖ノ島への立ち入りを禁じる禁忌があるため、大島は島へのアクセスを管理する拠点としての役割を果たしていました。この島と本土から出土した考古学的遺物は 8 世紀から 9 世紀にかけて造られたもので、宗像地域において共有された精神的伝統を示唆しています。大

島は現在も重要な礼拝の場であり、ここで人々は沖ノ島の祭神に、島と向き合うように建つお堂の沖津宮遙拝所から参拝することができます。

祭祀の系譜と神社の家系

沖ノ島の古の祭祀は、8世紀の日本最古の記録以前からこの地域を統治していた宗像氏の人々によって執り行われました。16世紀後半に宗像の神職の家系が途絶えた後、大島に居住する二つの家系が、一ノ甲斐と二ノ甲斐として知られるものを通じて仕え、信仰の管理を引き継ぎました。

一ノ甲斐は沖ノ島で沖津宮の祭祀を執り行い、二ノ甲斐は大島で中津宮の祭祀を行いました。両家ともに時には本土にある辺津宮の祭祀を補助することもありました。江戸時代（1603～1867年）には、統治する黒田藩の庇護の下、彼らは信仰を守り続けました。一ノ甲斐では、沖津宮遙拝所などの祭祀の場も維持管理し、年に二度、聖なる島へ渡ってそこで祭祀を行い、古からの慣習を継承してきました。

みあれ祭

沖ノ島、大島、そして本土との長きにわたる結びつきは、毎年10月1日に催されるみあれ祭によって続いています。このお祭りは、3日間にわたって祝われる秋の大祭の始まりを告げるものです。大島の中津宮に鎮座する沖津宮と中津宮の神輿が海を渡って本土の辺津宮に運ばれ、そこで宗像の三神が再び会します。宗像の7つの港から、100隻を超える漁船が雄大な船団の進行に随行します。

【タイトル】大島交流館（世界遺産ガイダンス施設）/沖ノ島の禁忌

【想定媒体】アプリ QR コード

<簡体字>

由禁忌守护的岛屿

虽然冲之岛的古老祭祀活动在 9 世纪就已终止，这座岛屿仍由神道教神职人员及当地社区通过设置一系列禁忌加以守护。这些禁忌使得这座岛屿在一千多年的岁月里保持着原始风貌，岛上的祭祀遗址和文物因此得以格外完整地保存至今。

长久以来，人们一直依靠严格的准则来维系冲之岛的神圣性，其中包括严苛的登岛限制。宗像大社的神职人员会在岛上驻留十天，来举行仪式。登岛前，他们必须先赤裸身体在海中沐浴，进行洁净身心的“禊”仪式。此外，他们不得谈论在岛上的所见所闻，也不能带走岛上的任何物品。大岛至今依然遵守许多禁忌，成为本地文化的一部分。例如，应避免说出传统概念里视为不洁或不吉利的某些词语。

17 世纪早期，福岡藩初代藩主黑田长政(1568-1623)曾命令当地基督徒带走部分神圣的宝物，当时人们便感受到违反既有禁忌的危险。根据记载，不久后就发生了莫名的灾异，直到宝物被及时归还后才平息。这件事进一步加深了人们对岛上神明守护力量的信仰。

20 世纪，当局批准在严格管控条件下进行有限的考古调查，以研究岛上的祭祀遗址和大量供品。宗像大社复兴期成会在 1954 年至 1971 年期间开展了调查，分三个阶段进行。调查发现了逾 8 万件祭祀文物，所有文物均被指定为国宝，这不仅证实了冲之岛的非凡文化价值，也为后续被认定为联合国教科文组织世界遗产奠定了基础。

<繁体字>

受禁忌守護的島嶼

儘管沖之島的古老祭祀活動在 9 世紀就終止，這座島嶼仍由神職人員及當地居民透過一系列禁忌加以守護。這些禁忌使得這座島嶼在一千多年的歲月裡得以保有原始風貌，島上的祭祀遺址與文物也因此得以格外完整地保存至今。

長久以來，沖之島的神聖性一直由嚴格的規範維繫，其中包括嚴苛的登島限制。宗像大社的神職人員會在島上駐留十天以舉行儀式。登島前，他們必須先裸身在海中沐浴，進行潔淨身心的「禊」儀式。此外，他們不得提及在島上的所見所聞，也不能帶走任何物品。大島至今仍遵守著多項禁忌，屬於當地文化的一環。舉例來說，應避免說出傳統認為不潔或不吉利的特定詞語。

17 世紀早期，福岡藩初代藩主黑田長政（西元 1568–1623）曾命當地基督徒帶走部分神聖寶物，當時人們便感受到違反既定禁忌的危險。據記載，不久後就發生莫名的災異，直到寶物被匆忙歸還後才平息。此事使人們更加相信，沖之島確實受到神明護佑。

20 世紀，當局批准在嚴格管控條件下進行有限的考古調查，以評估島上的祭祀遺址和大量奉納品。宗像大社復興期成會在 1954 年至 1971 年期間展開調查，分三個階段進行。調查發現了超過 8 萬件祭祀文物，全部經指定為國寶，這不僅證實沖之島的重要文化價值，也為後續獲聯合國教科文組織世界遺產認定奠定基礎。

<日本語仮訳>

大島交流館（世界遺産ガイド施設）/沖ノ島の禁忌

沖ノ島の古の祭祀が 9 世紀に終焉を迎えた後も、島は神職や地域社会によって支持された禁忌によって保護され続けました。これらの禁制によって島は千年以上もの間手つかずの状態と保存され、その祭祀の場や遺物は驚くほど完全な形で残されています。

沖ノ島の神聖さは厳しいルールによって長らく守られており、その中には立ち入りが厳しく制限されていることも含まれています。宗像大社の神職たちは、各々 10 日間この島に滞在して祭祀を行います。上陸する前に、彼らはまず禊という、海で裸で沐浴する浄化の儀を行わなければなりません。彼らは、目にしたものについて語ったり、何かを持ち出したりすることが禁じられています。大島では、多くの禁忌が地域文化の一部として今も守られています。これには、伝統的に不浄または不吉とみなされる特定の言葉を口にすることを避けることも含まれています。

17 世紀初頭に、福岡藩初代藩主である黒田長政（1568～1623 年）が、地元のキリシタンに特定の神聖な宝物を撤去するよう命じたとき、確立された禁忌に違反することの危険性が感じられました。間もなく、原因不明の異変の発生が報告され、その品々が急いで返還されてはじめてその異変が収まったそうです。この出来事は、島の神様の神聖な加護に対する信仰を一層強めました。

20 世紀には、島の祭祀場と大量の奉納供物を評価するため、当局は管理された条件下での限定的な考古学調査を許可しました。調査は、宗像大社復興期成会により 1954 年から 1971 年にか

けて3つの期間に分けて行われました。調査では8万点以上の祭祀遺物が発見され、全て国宝に指定されています。沖ノ島の卓越した文化的価値が確認されるとともに、ユネスコ世界遺産としての認定の実現に寄与しました。

【タイトル】 大島交流館（世界遺産ガイダンス施設）/大島の歴史＜原始・古代＞

【想定媒体】 アプリ QR コード

＜簡体字＞

古时的大岛

人类很可能于弥生时代（公元前 900 年至公元 300 年）开始在大岛定居。岛上已知最古老的文物包括大约公元 1 世纪初的石制箭头和陶器碎片，部分与同时期亚洲大陆的器物有相似特征。这些文物说明大岛曾与朝鲜半岛存在交流，也表示大岛是连接日本列岛与大陆早期海上贸易网络的一部分。

除了日常器物，大岛的聚居地遗址还出土了祭祀用品，其中最引人注目的是古坟时代（约公元 250 年至公元 600 年初）的逗号形勾玉珠。这一时期的特征是大和地区（今奈良）中央集权国家的建立和大型土墩墓葬（即“古坟”）的建造。这些墓葬专供统治阶层使用，常会与勾玉珠一同下葬。虽然大岛上尚未发现此类墓葬，但相关祭祀用品的存在表明，大岛可能与本土具有相同的祭祀传统，且有可能与大和朝廷存在联系。

约奈良时代（710—794）的出土文物表明，祭祀习俗出现了变化。这一时期，祭祀活动似乎主要集中在海拔 224 米的御岳山山顶，山顶出土的祭祀用品证实了这一点，其中许多与冲之岛出土的文物相似。这些祭祀用品被认为与早期对宗像三女神的崇拜有关。日本最早的编年史《古事记》和《日本书纪》中就对此有记载。

＜繁体字＞

古代的大島

人類很可能於彌生時代（西元前 900 年至西元 300 年）開始在大島定居。在島上發現最古老的文物包括大約西元紀元初期的石箭鏃和陶器碎片，部分與同時期亞洲大陸的器物有相似特徵。這說明了大島與朝鮮半島曾有交流，也表示大島是連結日本列島與亞洲大陸的早期海上往來網絡之一環。

除日常器物，大島聚落遺址亦出土祭祀器物，其中最引人注目的是古墳時代（約西元 250 年至西元 600 年初）的逗號形勾玉珠。這個時期的特徵是建立了大和地區（今奈良）中央集權國家以及建造大型墳丘墓（即「古墳」）。這些古墳多為統治階級專用，而勾玉珠經常作為陪葬品。雖然大島上尚未發現這類墓葬，但相關祭祀用品的存在佐證大島可能與日本本土共享祭祀傳統，並暗示其與大和朝廷或有關聯。

約為奈良時代（西元 710—794）的出土文物顯示，祭祀習俗後來出現了變化。當時的祭祀活動似乎主要集中在海拔 224 公尺的御嶽山山頂；其依據是山頂出土的奉納器物，其中許多與沖之島的出土文物有相似之處。這些奉納器物被認為與早期的宗像三女神崇拜有關。日本最早的歷史文獻《古事記》和《日本書紀》中亦有相關記載。

＜日本語仮訳＞

大島交流館（世界遺産ガイダンス施設）/大島の歴史＜原始・古代＞

大島の人の居住は、弥生時代（紀元前 900 年～紀元後 300 年）に始まったと考えられます。島で発見された最古の遺物には、紀元後 1 千年紀初頭頃の石製の矢じりや土器片が含まれており、その一部には同時期のアジア大陸の遺物と共通の特徴があります。これらは朝鮮半島との交流を示しており、大島が日本列島と大陸とを結ぶ初期の航海交流網の一部であったことを示唆しています。

日用品的な遺物と共に、祭祀用具が大島の集落跡から発掘されており、中でも注目すべきは古墳（墳墓）時代（およそ 250～600 年代前半）に作られたコンマの形をした勾玉です。この時代は、大和地方（現在の奈良）における中央集権国家の樹立と、巨大な土製の墳墓（日本語で古墳）の建造を特徴としています。これらは支配階級の特権で、その埋葬時にはしばしば勾玉と一緒に供えられました。大島では古墳は発見されていませんが、こうした儀式用具の存在は、共通する祭儀の伝統の思想と大和朝廷との結びつきの可能性を示唆しています。

奈良時代（710～794 年）頃の遺物は儀式の慣習の変化を示唆しています。その頃、山頂から発見された奉納供物からも明らかなように、御嶽山（224 メートル）の山頂では礼拝の儀が行われていたことが窺えます。その多くが沖ノ島で発見された遺物とよく似ています。これらは、日本最古の歴史書である『古事記』や『日本書紀』に記録されている、宗像三女神の崇拜の初期の頃に関連していると考えられています。

【タイトル】 大島交流館（世界遺産ガイダンス施設）/大島の歴史＜中世＞

【想定媒体】 アプリ QR コード

＜簡体字＞

中世纪时期的大岛

中世纪时期(1185-1568)，大岛在玄界滩海域的区域政治和交流中持续承担着战略性的重要角色。无论是岛上唯一的佛教寺庙安昌院，还是历史文献记载的山地要塞（后来被称为大岛城），都是明证。

安昌院与安倍宗任的传说

安昌院与武士安倍宗任（1032—1108）相关，他出身于北日本强大的安倍家族。相传安倍家族在北方战败后，安倍宗任被流放到大岛，并在那里度过余生。他的后裔尼妙任于1264年在安倍宗任的故居遗址上建造了安昌院。寺庙北侧有一座坟墓相传为安倍宗任之墓，但墓碑是于1824年所重建。

寺内藏有中国宋代钱币，还有一尊13至14世纪朝鲜半岛高丽王朝时期所铸造的鎏金铜佛像。这些文物表明，在中世纪时期，宗像地区与朝鲜半岛之间一直保持着联系和贸易往来。当时，大岛在早自8世纪便统治该地区的宗像氏掌控下，作为海上据点运作。

大岛城：宗像氏族的最后一道防线

16世纪晚期，大岛成为战国时代(1467-1568)的战乱避难所。据历史文献记载，岛上曾有一座建于山中的堡垒。虽然尚未发现任何建筑遗迹，但据推测为堡垒原址的地点，至今仍被当地人称为“城山”。

1559年，宗像氏大宫司兼领主宗像氏贞因与九州敌对武士家族大友氏发生冲突，逃往大岛。氏贞在大岛的堡垒中避难，并在次年夺回了位于日本本岛的要塞——许斐城。宗像氏贞于1586年去世，终结宗像氏的血脉，也结束了一族在该地区长达八个多世纪的统治。

＜繁体字＞

中世紀的大島

中世紀時期（西元 1185－1568），大島在橫跨玄界灘的區域政治與交流中，持續扮演戰略角色。無論是島上唯一的佛教寺廟安昌院，還是文獻記載的山地要塞（後稱大島城），都是明證。

安昌院與安倍宗任的傳說

安昌院與武士安倍宗任（西元 1032－1108）相關，他出身於北日本強大的安倍家族。相傳安倍家族在北方戰敗後，安倍宗任遭流放到大島，並在那裡度過餘生。西元 1264 年，安倍宗任的後裔尼妙任在宗任故居遺址創建了安昌院。寺廟北側的一座墓據說為宗任之墓，但墓碑是於西元 1824 年所重建。

寺內收藏中國宋代錢幣，還有一尊 13 至 14 世紀朝鮮半島高麗時期鑄造的鍍金銅佛像。從這些文物顯示，宗像地區在中世紀與朝鮮半島有貿易往來。當時，大島在早自 8 世紀便統治該地區的宗像氏掌控下，作為海上據點運作。

大島城：宗像氏族的最後防線

16 世紀後半，大島成了戰國時代（西元 1467－1568）的避難之地。根據歷史記錄，島上曾建有一座山中堡壘。雖未發現建築遺蹟，但據推測為堡壘原址的地點，至今仍被當地人稱為「城山」。

西元 1559 年，宗像氏的大宮司兼領主宗像氏貞，因為與敵對的九州武士家族大友氏發生鬥爭，而逃往大島。氏貞在大島的堡壘中避難，於翌年奪回了位在日本本島的要塞許斐城。西元 1586 年宗像氏貞去世，宗像氏血脈自此斷絕，結束一族在當地長達八個世紀多的統治。

＜日本語仮訳＞

大島交流館（世界遺産ガイド施設）/大島の歴史＜中世＞

中世（1185～1568 年）も、大島は玄界灘を隔てた地域政治と交流において戦略的役割を担い

続けました。これは、島唯一の仏教寺院である安昌院や、後に大島城として知られるようになった山城の存在を示す歴史的記録にも表れています。

安昌院と安倍宗任の伝説

安昌院は、北日本の有力な安倍家出身の武将、安倍宗任（1032～1108 年）と関係があります。一説によれば、安倍家が北部での戦に敗退した後、彼は大島に流され、そこで余生を過ごしたといわれています。その子孫である尼妙任が、1264 年に彼の住居跡に安昌院を建てました。寺院の北側にあるお墓は宗任のものとされていますが、墓石は 1824 年に再建されたものです。

お寺には中国の宋朝の貨幣や、13～14 世紀に朝鮮半島の高麗で造られた金銅仏が所蔵されています。これらの存在は、中世を通じて宗像地域と朝鮮半島との交流と交易が継続していたことを示唆しています。当時、大島は 8 世紀初頭からこの地域を支配した宗像氏の管理の下、海上拠点として機能していました。

大島城：宗像氏の最後の防衛線

16 世紀後半、大島は戦国時代（戦国）（1467～1568 年）の紛争における避難場所となり、歴史的記録が島の山城に言及しています。建造物の遺構は確認されていませんが、その跡地と推定される場所は、今でも地元では城山（城の山）として知られています。

1559 年、宗像氏を大宮司そして領主として統治していた宗像氏貞は、九州に本拠を置くライバルの武家一族、大友との戦いの中で、大島へ逃れました。宗像氏貞は城に身を寄せ、翌年には本島の彼の拠点である許斐城を奪還しました。1586 年に彼が亡くなったことで宗像の家系は途絶え、8 世紀以上にわたる同家の支配は幕を閉じることとなりました。

【タイトル】大島交流館（世界遺産ガイダンス施設）/大島の歴史＜近世＞島守の島

【想定媒体】アプリ QR コード

＜簡体字＞

锁国时期的大岛

在江户时代(1603-1867)日本实行锁国政策期间，大岛发挥着守卫冲之岛和玄界滩的作用。幕府将基督教视为对自身统治的威胁，并于 1614 年颁布禁教令。17 世纪 30 年代末，日本天主教徒发动起义，导致葡萄牙人被驱逐出境，这也标志着长达两个世纪的日本锁国时期正式开始。在福岡黑田藩统治时期，大岛成为海防要塞，卫兵于此驻守，以监视外国船只。

葡萄牙传教士事件

1643 年 5 月 12 日，一艘载有四名葡萄牙传教士和数名其他基督徒的外国船只抵达大岛。这一行人被岛上的守卫逮捕，参与拘捕的岛民也受到了嘉奖。传教士登陆的地点至今仍保留着一块纪念碑。

该事件发生后，黑田藩加强了岛上的防御，在西岸的津和瀬、北岸的岩瀬以及御岳山（海拔 224 米）山顶增设了哨所。大岛成为监管冲之岛的基地，官员驻扎于此，并派遣卫兵前往神圣的冲之岛驻守，每 50 天轮岗一次。获准登上冲之岛的人员必须在大岛的中津宫进行多种净化仪式，并洁戒一段时间，才能渡海登岛。关于“禊”（海中净化仪式）仪式最早的记载就出现在这一时期，该习俗至今还在延续。

青柳种信的记录

学者兼黑田家臣青柳种信(1766–1836)在 1794 年被任命为冲之岛监督。在启程赴任前，他在大岛停留十天，完成“禊”和攀登御岳山等一系列净化仪式。青柳种信将这些经历记录在自己的日记《瀛津岛防人日记》中。他还描述了岛上风光、当地的禁忌以及抵达冲之岛时的敬畏之情。这些记录为我们提供了宝贵的资料，展现了大岛如何作为通往冲之岛的神圣门户，以及黑田藩海上监视系统一环的双重作用。

＜繁体字＞

鎖國時期的大島

江戸時代（西元 1603-1867）日本實行鎖國政策，期間大島扮演著守護沖之島與玄界灘的角色。幕府將基督教視為對統治的威脅，並於西元 1614 年頒佈禁教令。西元 1630 年代後半，日本天主教徒發動起義，導致葡萄牙人遭驅逐出境，也標誌長達兩世紀的日本鎖國時期正式開始。在福岡黑田藩的統治下，大島成為海防前哨，衛兵駐守於此，監視外國船隻。

葡萄牙傳教士事件

西元 1643 年 5 月 12 日，一艘載有四名葡萄牙傳教士和其他幾位基督徒的外國船隻抵達大島。這一行人遭島上守衛逮捕，參與拘捕的島民也得到封賞。傳教士登陸地現存有一塊紀念碑牌。

事件之後，黑田藩加強了島上防禦，在西岸的津和瀬、北岸的岩瀬及御嶽山（224 公尺）山頂增設哨所。大島成為監守沖之島的基地，官員駐紮於此，並派遣守衛前往神聖的沖之島輪值駐守，每次為期 50 天。獲得登島許可的人員必須在大島中津宮進行多項淨化儀式，並潔戒一段時間，才能渡海登島。關於「禊」（海中淨化儀式）最早的記載就出現在這個時期，這項習俗流傳至今。

青柳種信的紀錄

學者兼黑田藩家臣青柳種信（西元 1766—1836）在西元 1794 年獲任命為沖之島的監督。啟程赴任前，他在大島停留十天，完成「禊」和攀登御嶽山等一系列淨化儀式。青柳種信將這些經歷記錄在日記《瀛津島防人日記》中。他寫下了島上風光、當地禁忌，以及抵達沖之島時的敬畏之情。這些記錄成為如今的寶貴資料，呈現大島如何同時作為通往沖之島的神聖門戶，以及作為黑田藩海上監視系統的一環。

＜日本語仮訳＞

大島交流館（世界遺産ガイド施設）/大島の歴史＜近世＞島守の島

江戸時代（1603～1867 年）の日本の鎖国中、大島は沖ノ島と玄界灘の守護島として機能して

いました。幕府はキリスト教を統治への脅威と見なし、1614年にこの宗教を禁止しました。日本のカトリック教徒による反乱が発生したことを受けて、これが1630年代後半にポルトガル人の日本追放へと発展し、約2世紀にわたる鎖国の始まりとなりました。福岡の黒田藩の支配下で、大島は沿岸要衝地となり、外国船を監視する警備隊が駐屯しました。

ポルトガル人宣教師事件

1643年5月12日、ポルトガル人宣教師4名とほかに数名のキリスト教徒を乗せた外国船が大島に到来しました。その一行は島の警備隊に捕らえられ、そして拘束に関わった住民には褒賞が与えられました。地碑が上陸地点に残されています。

この事件を受けて、黒田藩は島の防衛体制を強化し、西岸の津和瀬、北岸の岩瀬、そして御嶽山頂（224メートル）に番所が設けられました。大島は沖ノ島を見張る役人の拠点となり、ここから警備隊が派遣され、その聖なる島で50日間の交代勤務に就きました。沖ノ島に上陸を許された者たちは、渡る前に大島の中津宮で様々な禊の儀を行い、禁忌期間を守ることを義務付けられました。今日まで続く禊の慣習（海に入って身を清める儀式）は、この時期に初めて記録されています。

青柳種信の記録

学者であり黒田藩家臣であった青柳種信（1766～1836年）は、1794年に沖ノ島の見張り役に任命されました。任務地に赴く前に、彼は大島にて10日間、禊や御嶽山頂までの登山など、身を清める儀を行いました。彼はこれらの儀式を『瀛津島防人日記』に認（したた）めています。彼はまた、島の風景や地元の禁忌、沖ノ島に到着した際の崇敬の念についても記しています。彼の記述は、大島が沖ノ島への霊的な玄関口として、また藩の海上監視体制の一部としてどのように機能していたかを伝える貴重な資料です。

【タイトル】 大島交流館（世界遺産ガイド施設）/大島の歴史＜近世＞ 捕鯨の島・流人の島

【想定媒体】 アプリ QR コード

＜簡体字＞

近世的大島：捕鯨与政治流放

在江户时代(1603-1867)和明治时代(1868-1912)期间，大岛是繁忙的捕鲸基地，也是两处流放地的所在地。东北海岸和附近岛屿设有瞭望点，以便寻找玄界滩海域的鲸鱼。一份1821年的记录描绘了当时的捕鲸活动，写道：“海中鲸鱼往来，如牛马成群。”人们捕鲸除了取肉以外，还为获得鲸油，这是一种用于防治稻田害虫的珍贵商品。据估计，一头鲸鱼在当时的价值相当于今天的逾一千万日元。

1607年到1908年间，大岛上共有两处流放地：一处位于东北岸的加代，另一处位于西北岸的长畑。许多被流放至此的人都是政治流亡者。他们与村民们共同生活，参与社区服务，从事捕鱼与捕鲸活动，甚至为岛上孩童提供教育。

＜繁体字＞

近世的大島：捕鯨與政治流放

在江戶時代（西元1603－1867）和明治時代（西元1868－1912），大島是繁忙的捕鯨基地，也是兩處流放地的所在地。東北海岸和附近島嶼設有瞭望點，以便尋找玄界灘海域的鯨魚。一份西元1821年的記錄描繪了當時的捕鯨活動，記錄寫道：「海中鯨魚往來，如牛馬成群。」人們捕鯨除食肉外，還為獲得鯨油，這是可用於防治稻田害蟲的珍貴商品。有說法指出，單一頭鯨魚的價值折算至今日可逾一千萬日圓。

西元1607年到1908年間，大島共有兩處流放地，一處是東北岸的加代，另一處是西北岸的長畑。流放到島上的人多為政治流放者。他們與村民們共同生活，從事各種社區服務，並參與漁業與捕鯨活動，甚至為島上孩童提供教育。

＜日本語仮訳＞

大島交流館（世界遺産ガイド施設）/大島の歴史＜近世＞ 捕鯨の島・流人の島

江戸時代（1603～1867 年）と明治時代（1868～1912 年）、大島は熱心な捕鯨基地であり、2 つの流刑地が置かれていました。北東海岸沿いや周辺の島々には、玄界灘で鯨を見つけるための見張り場所が設置されていました。1821 年の記録には、そこの捕鯨の様子が記されており、「海では、鯨が牛や馬のように行き来している」と述べています。鯨は肉のほかに、水田での害虫駆除に用いられる貴重な商品として、その油も目的に捕獲されました。1 頭の鯨で現在の価値で 1000 万円以上に相当する金額が手に入ったと言われています。

1607 年から 1908 年にかけて、大島には 2 つの流刑地が設けられました。1 つは北東岸の加代、もう 1 つは北西岸の長畑にありました。島に流された人々の多くは政治亡命者でした。彼らは村人に混じって暮らし、漁業や捕鯨活動に参加し、さらには島の子どもたちに教育を施すなど、地域社会に貢献しました。

【タイトル】 大島交流館（世界遺産ガイダンス施設）/大島の歴史〈近・現代〉 漁とともに生きる島

【想定媒体】 アプリ QR コード

＜簡体字＞

现代时期的大岛：渔岛

自古以来，冲之岛周边的海域一直是重要的渔场，既是大岛居民的生计来源，也形成他们的文化。

大岛南岸受季节风影响较小，渔村逐渐发展起来。由于可用土地有限，房屋比邻而建，海岸边延伸出名为“アゲ（日语发音 age）”的竹制平台，用于晾晒渔网、摆放渔具和停靠船只。

大岛的渔民一年中有部分时间会在冲之岛度过。他们会居住在小屋里，并出海捕鱼。他们遵守传统习俗，避免触犯禁忌，并组成了名为冲之岛仲間（即“冲之岛伙伴”）的团队。他们会将渔获储存在岛上的冰窖内，再通过从本岛运送物资的船只将渔获送往市场。驻岛期间，渔民会向守护其生计的神明祈求庇佑。他们将这座岛屿称作冲之岛尊或不言尊（即“不可言说之尊”），以表达尊敬和亲近。

冲之岛于 1955 年修建了渔港，再加上船只和设备日益现代化，使得季节性驻岛的生活方式就此终结。随着尼龙渔网取代老式渔网，传统竹制平台及大岛渔村常见的其他景象逐渐消失。如今，尽管面临渔获减少和人口老龄化问题，岛民的身份认同依然植根于他们与海洋和冲之岛的关系之中。

＜繁体字＞

現代的大島：漁業相伴

自古以來，沖之島周遭海域一直是重要漁場，既為大島居民的生計來源，也形成他們的文化。

大島南岸沿海地區因地勢能避開季節風，漁村逐漸發展起來。房屋在面積有限的土地上比鄰而建，海岸邊延伸出竹製平台「アゲ」（日語發音 age），用來曬漁網、放漁具和停靠船隻。

大島漁民們一年中有部分時間在沖之島度過。他們會居住在小屋裡，並出海捕魚。他們遵守傳統習俗，避免觸犯禁忌，並組成「沖之島仲間」（意為沖之島的夥伴們）船隊。捕到的漁獲會貯存於島上冰窖，再由自日本本島運來物資的貨船回程載往市場。駐島期間，漁民會向守護其生計的神明祈求庇佑。他們將島嶼稱作沖之島尊或不言尊（即「我等不可提及之尊者」），以表敬意和親近之心。

沖之島於西元 1955 年修建了漁港，再加上船隻和設備日益現代化，使季節性駐島的生活方式畫上句點。隨著尼龍漁網取代舊式漁網，傳統竹製平台及大島其他常見漁村景象也逐漸成為過往。儘管如今有漁獲量減少和人口高齡化問題，島民的身分認同依舊植根於與海洋和沖之島的關係中。

<日本語仮訳>

大島交流館（世界遺産ガイド施設）/大島の歴史<近・現代> 漁とともに生きる島

古の時代から、沖ノ島周辺の海域は重要な漁場として機能し、大島の住民の生計を支え、その文化を形成してきました。

大島の南岸沿いは、季節風から守られた土地で、漁村が発展しました。家々は限られた土地に密集するように立ち、そして網を干したり漁具を並べたり船舶を係留したりするためのアゲと呼ばれる竹製のデッキが岸辺から伸びていました。

大島の漁師たちはしばしば、一年のうちの一部を沖ノ島で過ごし、島の小屋に住みながら海で漁を行いました。彼らは慣習的な規則に従って禁忌を犯さないよう注意しつつ、「沖ノ島仲間」（沖ノ島の友人たち）として知られる一団を結成しました。彼らは漁獲物を島内の氷蔵庫に保管し、本土から物資を運ぶ荷船でそれらを市場に出荷しました。漁師たちは滞在中、生計を守ってくれる聖なる島の神様へ向けて祈りを捧げました。彼らは沖ノ島を崇敬の念と親しみを込めて、沖ノ島様あるいは不言様（「私たちが口にしない御方」）と呼んでいました。

1955 年に沖ノ島に漁港が建造され、船や漁具が近代化されると、島でのこうした季節ごとの滞在は終わりを告げました。伝統的な竹製のデッキや大島の漁村で見慣れた光景は、ナイロン網が従来の網に取って代わるにつれて次第に姿を消していきました。今日、漁獲量の減少や高齡化が進む中でも、島民のアイデンティティは海と沖ノ島との関係に根ざして残っています。

【タイトル】 大島交流館（世界遺産ガイダンス施設）/大島の歴史＜近・現代＞ 戦争の歴史を伝える島

【想定媒体】 アプリ QR コード

＜簡体字＞

战争时期的大岛

由于临近国际海域，大岛在日本沿海防御网络中具有重大战略意义。岛上随处可见近代战争时期的历史遗迹，如纪念碑和 20 世纪的军事设施。

在日俄战争(1904–1905)期间，具有决定性意义的对马海峡海战在冲之岛附近爆发。日本获胜後举国同庆，并在大岛修建了多座战争纪念碑。中津宫的入口处还修建了第二座鸟居以纪念这场海战，旁边的炮弹形纪念碑上刻有部分参战人员的名字。神社境内的灯笼上刻有海军大将东乡平八郎(1848–1934)的书法题字，他是日俄战争中率军取得胜利的指挥官。

20 世纪 30 年代，随着东亚局势日益紧张，大岛西北部的山丘上修建了一座炮台，作为下关海峡防御体系的一部分，守护这片通往日本主要产业和军事中心的重要水道。这座炮台设有四个炮位、一个弹药库和一个观测所。15 厘米口径的大炮在战后已被拆除，但遗址得以保留，如今可供参观。

＜繁体字＞

戰時的大島

由於臨近國際海域，大島在日本沿海防禦網中具有重要戰略意義。島上隨處可見近現代戰爭時期留下的遺蹟，像是紀念碑和 20 世紀的軍事設施。

在日俄戰爭（西元 1904－1905）期間，具有決定性意義的對馬海峽海戰爆發於沖之島一帶。日本獲勝後舉國同慶，並在大島興建多座戰爭紀念碑。中津宮入口也修建第二座鳥居，作為海戰紀念，一旁的砲彈形狀紀念碑刻有部分參戰人員的姓名。神社境內的燈籠刻有東鄉平八郎（西元 1848－1934）的書法題字，他是日俄戰爭中率軍取得勝利的指揮

官。

西元 1930 年代，隨著東亞局勢日益緊張，大島西北部的山丘上興建了一座砲台，作為下關海峽防禦體系的一部分，守護這片通往日本主要產業和軍事中心的重要水路。這座砲台設有四個砲位、一個彈藥庫和一個觀測所。15 公分口徑大砲已於戰後拆除，但遺址得以保留，民眾可以前往參觀。

＜日本語仮訳＞

大島交流館（世界遺産ガイダンス施設）/大島の歴史＜近・現代＞戦争の歴史を伝える島

大島が国際水域に近接しているため、この島は日本の沿岸防衛網において戦略的に重要な位置を占めていました。記念碑から 20 世紀の軍事施設まで、島内の随所に近代戦争の痕跡があります。

日露戦争（1904～1905 年）では、沖ノ島付近で勝敗を決する対馬海戦が繰り広げられました。日本の勝利は全国的に祝われ、戦争記念碑が大島に建てられました。中津宮神社の入口には、この戦いを記念する 2 基目の鳥居が建てられ、それと並んで砲弾型の記念碑には従軍者の名前が刻まれています。神社の境内には、勝利を収めた東郷平八郎提督（1848～1934 年）の筆跡が刻まれた灯籠があります。

1930 年代、東アジアの緊張が高まる中で、日本の主要な産業・軍事拠点へのアクセスを可能にする水路の下関海峡を守る防衛網の一環として、大島の北西部の丘に砲台が建設されました。この砲台には、砲台 4 基、弾薬庫、そして観測所がありました。15 センチ砲は戦後に撤去されましたが、跡地は今も残されたままで、現在も見学することができます。

028-017

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会

【タイトル】 大島交流館（世界遺産ガイダンス施設）/大島の年間予定表

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

大島の年度活动

大島の行事历与海洋、阴历和对宗像三女神的信仰息息相关。许多本地习俗遵循潮汐的变化规律，反映渔业生活和神道传统。季节性祭典将岛上的社区和更广泛的宗像大社祭祀网络联结起来。

月次祭

每月 1 日和 15 日，渔民会在中津宫敬奉部分渔获，以祈求平安和渔获丰收。通过定期的祭祀活动，大岛居民延续着对冲之岛和宗像女神的信仰，这份信仰数百年来始终指引着岛上的渔业社会。

春秋大祭

在阴历 3 月 15 日和 9 月 15 日前后（即阳历 4 月和 10 月上旬），大岛北部的冲津宫遥拜所会举行祭祀活动。届时，遥拜所平日紧闭的门窗会打开，以便参拜者清晰地眺望冲之岛，并在遥望这座神圣之岛的同时祈祷。

七夕祭

大岛七夕祭于 8 月 7 日在中津宫举办，庆祝天上的眷侣织女（织姬）和牵牛（彦星）一年一度的相会。祭典日期按阴历计算，比日本大多数地区晚一个月。人们会在供奉织女的神社前献上鱼和时令农产品，在中津宫境内张灯结彩，并在竹枝上挂上彩色祈愿纸笺。

御阿礼祭

岛上最重要的祭典——御阿礼祭于 10 月 1 日举行。由一百多艘船组成的盛大船队会护送

載有沖津宮和中津宮神輿（兩者均供奉于大島中津宮）的聖船，駛向九州本島的邊津宮。儀式标志着宗像三女神的團聚，并揭開秋季大祭的序幕，這場為期三天的祭典是宗像大社最盛大的年度慶祝活動。

注意：部分慶祝活動日期有所更改或不再舉行。例如，天皇誕生日現為 2 月 23 日，而 5 月 27 日的日俄戰爭開戰紀念活動現已不再舉行。

＜繁體字＞

大島年度活動

大島的行事曆與海洋、陰曆和對宗像三女神的信仰息息相關。許多當地習俗遵循潮汐規律，反映漁業生活和神道傳統。季節性祭典將島上社群與更廣泛的宗像大社祭祀體系連結起來。

月次祭

每月 1 日和 15 日，漁民會在中津宮敬奉部分漁獲，以祈求平安和漁獲豐收。透過這些定期祭拜，大島居民延續對沖之島與宗像諸神的信仰；這份信仰數百年來一直指引著島上的漁家社群。

春秋大祭

在陰曆 3 月 15 日和 9 月 15 日前後（即陽曆 4 月和 10 月上旬），大島北部的沖津宮遙拜所會舉行祭祀活動。屆時，遙拜所平日緊閉的門窗會開啟，讓信徒們可以清楚眺望沖之島，並在遙望這座神聖之島的同時參拜祈願。

七夕祭

大島七夕祭於 8 月 7 日在中津宮舉辦，慶祝天上眷侶織女（織姬）和牽牛（彥星）一年一度的相會。祭典日期按陰曆計算，比日本大多數地區晚一個月。人們會在供奉織女的神社前獻上魚和時令農產品，中津宮境內以燈籠、飄帶妝點，竹枝上掛滿彩色祈願紙籤。

御阿禮祭

御阿禮祭於 10 月 1 日舉行，是島上最重要的祭典。由一百多艘船組成的盛大船隊會護送載有沖津宮和中津宮神輿（兩者均供奉於大島中津宮）的聖船，駛向九州本島的邊津宮。此舉象徵宗像三女神的團聚，並揭開秋季大祭的序幕，這場為期三天的祭典是宗像大社最盛大的年度祭典。

備註：部分祭典日期有所更改或不再舉行。例如，天皇誕生日現為 2 月 23 日，而 5 月 27 日的日俄戰爭開戰紀念活動現已停辦。

＜日本語仮訳＞

大島交流館（世界遺産ガイド施設）/大島の年間予定表

大島の行事は、海と旧暦、そして宗像三女神の信仰と密接に関係しています。地元の多くの慣習は潮の満ち引きのサイクルに従って、漁業生活と神道の伝統の両方に影響を与えています。季節ごとのお祭りは、島の地域社会を宗像大社の広範なネットワークと結びつける役割を果たしています。

月次祭

毎月 1 日と 15 日には、漁師たちが中津宮に獲った物の一部をお供えし、安全と海からの大漁を祈ります。こうした定期的な信仰活動を通じて、大島の人々は、何世紀にもわたり島の漁業共同体を導いてきた沖ノ島と宗像の神々への信仰を守り続けています。

春秋の大祭

旧暦の 3 月と 9 月の 15 日頃（4 月上旬と 10 月上旬）、大島北部の沖津宮遙拝所で祭祀が行われます。こうした機会には、普段は閉ざされている遙拝所の扉や窓が開かれ、参拝者は沖ノ島まではっきりと見通して、聖なる島を目の前に拝むことができます。

七夕祭

8 月 7 日に中津宮で催される大島の七夕祭は、日本の他の地域より一か月遅れて、天上の恋人である織女（織姫）と牽牛（彦星）の年一回の再会を祝います。この祝日は旧暦に基づいており、織女の神社の前には魚や旬の農産物が供えられ、中津宮の境内は提灯や飾り紐、色とりどりの願い事を書いた紙を付けた竹の枝で飾られます。

みあれ祭

島で最も重要な祭りは 10 月 1 日に催されます。100 隻を超える船からなる壮大な船団が、大島の中津宮に鎮座する沖津宮と中津宮の神輿を、本土の辺津宮へと運ぶ神船を護るように送り届けます。これが宗像の三神の儀式的な再会を告げ、宗像大社の最大の年次行事である 3 日間にわたる秋季大祭の幕を開けます。

注記：一部の祭祀は日付が変更あるいは廃止されています。例えば、天長祭は現在 2 月 23 日に祝われ、5 月 27 日の沖津宮現地大祭は廃止されました。

【タイトル】 大島交流館（世界遺産ガイダンス施設）/大島の言い伝え

【想定媒体】 アプリ QR コード

＜簡体字＞

大島の俗语和民间信仰

大岛居民长期以海为生。在现代天气预报出现之前，他们通过仔细观察和代代口头相传的知识来学习解读天气和潮汐。久而久之，这些认知演变成了俗语和民间信仰，既反映了实践经验，又体现了对自然和灵力的敬畏。

天气关乎生死存亡，风、潮汐或云的变化即使再细微，都要密切留意。许多源自经验的法则由此诞生，例如“秋日的晚霞预示着晴天，火红的朝霞则预示着降雨。”岛民还注意到潮汐与风向的关联，流传着“涨潮时吹南风，落潮时吹北风或西北风”等俗语。

为求平安与好运而形成的民间禁忌形塑了海上的行为准则。有些说法警示着人们不要鲁莽行事，并强调正确使用工具，例如将刀掉入海中会导致渔获欠佳。

＜繁体字＞

大島諺語和民間信仰

大島居民長期以海為生。在現代天氣預報出現之前，島民們透過仔細觀察和世代口頭流傳的知識學習解讀天氣與潮汐。久而久之，這些認知演變成諺語和民間信仰，不只反映實際生活經驗，更體現對自然和神靈力量的敬畏。

由於天氣攸關生存，風、潮汐或雲的變化即使再細微，都要密切留意。許多經驗法則由此而生，例如「秋晚霞晴，紅朝霞雨」（秋天的晚霞預示晴天，而火紅的朝霞則預示會下雨）。島民們還觀察出潮汐與風向的關聯，而有「漲潮吹南風，退潮時吹北風或西北風」等說法的流傳。

為求平安與好運的民間禁忌形塑了人們在海上的行為準則。有些說法警告人們勿魯莽行事，並強調正確使用工具，例如相信把刀掉進海裡會導致漁獲不佳。

＜日本語仮訳＞

大島交流館（世界遺産ガイド施設）/大島の言い伝え

大島の人々は長い間海を生活の糧としてきました。近代的な気象予報が出現する前は、彼らは入念な観察と世代を超えて受け継がれてきた口承の知識によって、天候や潮の満ち引きを読み取る術を身につけていました。時を経て、こうした知識は実践的な経験と自然や霊的な力への崇敬の念の両方を反映した格言や迷信へと発展していきました。

天候が生死を左右したため、風や潮の満ち引き、雲のわずかな変化さえも注意深く観察されました。これから生まれた、経験に根ざす知恵があります：「夕焼けは晴れ、朝焼けは雨（直訳：秋の夕焼けは晴天をもたらし、赤い夜明けは雨をもたらす）」島の人々は潮の満ち引きと風の関係にも注目し、「満潮時には風が南から吹き、干潮時には北または北西から吹く」といった言い習わしがあります。

安全と幸運を願う迷信が、海での行動を形作りました。海にナイフを落とすと不漁になるという信仰など、不注意な行動を戒め、道具の正しい扱いを強調するものもありました。

【タイトル】 大島交流館（世界遺産ガイダンス施設）/大島の食文化

【想定媒体】 アプリ QR コード

＜簡体字＞

大岛的饮食文化

大岛的饮食文化反映了其沿海环境和捕鱼传统。自古以来，岛民仰靠海洋的馈赠为生，发展出了以海产品为主的美食，通常搭配时令蔬菜和其他本地食材一同烹制。岛上温和的滨海气候很适合种植柑橘，其天然清新的风味能衬托以海产品为主的菜肴。

星鳎锅

这道菜的做法是将黑星鳎、卷心菜和其他蔬菜放入以鳎鱼骨熬制的味噌高汤中烹煮。大岛居民常在庆祝特殊场合时享用这道菜，尤其是在秋冬季鳎鱼最为肥美的时候。

倍良素面

倍良是一种在夏季捕捞的隆头鱼。人们会将这种鱼放入甜咸风味的高汤中炖煮，然后将煮鱼的汤汁作为冷素面的蘸汁。

甘夏蜜柑

甘夏蜜柑是本地培育的柑橘品种，其名称在日语中意为“甘甜的夏日”。果实在夏初至夏未成熟，有多种食用方式，包括直接食用或制成果冻。

Gaze 味噌

Gaze（ガゼ）是海胆的方言名称，也是这道特色美食名字的由来。这种海胆味噌的制作方法是将熟海胆内脏、味噌和糖捣成酱。传统做法是在庆祝3月3日雏祭（人偶节）时搭配菱形烤年糕食用。如今，人们常将海胆味噌佐饭或作日式饭团的馅料。

Bina 海螺

这种可食用海螺又名蜷贝，在日本的大多数海滩都能见到。夏季，人们会在大岛的礁岩海岸采集这种海螺，在清洗和烹煮后用各种方法将其制作成美食，如腌渍或放入高汤炖煮。

Okuyuto 食用海藻

海藻粉条是一种耐储存食品，热量低，富含可溶性膳食纤维和矿物质，是当地早餐常见的菜色。人们会在夏季采收海藻，并反复进行日晒和清洗工序，直至海藻由红变白。食用海藻粉条前要加水泡发，可搭配酱油、柚子醋或蛋黄酱享用。

海胆饭

在大岛，人们分别在每年夏季和冬季捕捞海胆，令这种海产成为本地菜肴中的常见食材。海胆饭的制作方法是将海胆内脏和生米混合后一同蒸熟。部分做法会加入胡萝卜薄片或蜷螺。

铜藻

铜藻是一种可食用海藻，因富含褐藻糖胶而著称，这种植物纤维具有多种健康益处。常见的吃法是将铜藻煮熟后搭配柚子醋食用或加入汤中。

素面海苔食用海藻

这种海藻是本地特色美食，因形似细长的素面而得名，类似冲绳的主要特产海蕴。这种海藻在 5 月和 6 月采收，通常搭配柚子醋食用，亦可加入味噌汤或其他汤品中。

<繁体字>

大島飲食文化

大島的飲食文化反映出沿海環境和漁業傳統。自古以來，島民仰賴海洋維生，因而發展出以海鮮為主的飲食文化，並常搭配時令蔬菜與其他在地食材一同烹調。島上溫和的濱海氣候適合種植柑橘，其天然清爽的風味能襯托以海鮮為主的料理。

星鰻鍋

這道菜會將黑星鰻、高麗菜等蔬菜放入以星鰻骨熬出的味噌高湯中烹煮。這道料理通常在慶祝特殊場合時享用，尤其是秋冬季鰻魚最為肥美的時候。

倍良素麵

倍良是一種可在夏季捕撈到的隆頭魚。人們將這種魚放入甜鹹風味的高湯中燉煮，煮魚的湯汁則作為冷素麵的沾醬。

甘夏蜜柑

甘夏蜜柑是當地培育的柑橘品種，其名在日語中意為「甘甜的夏天」。果實在夏初至夏末成熟，可生吃或製成果凍，食用方式多元。

Gaze 味噌

ガゼ(Gaze) 是海膽的方言名稱，也是這款特色美食名字的由來。這種海膽味噌的製作方法是將熟海膽內臟、味噌和糖搗成醬。傳統上會在慶祝 3 月 3 日雛祭（人偶節）時搭配烤過的菱形年糕（菱餅）食用，而現在人們會拿海膽味噌佐飯或做成飯糰餡料。

Bina 海螺

這種可食用海螺又名蜷貝，在日本大多數的海灘都能看到。夏季時，人們會在大島的礁岩海岸採集海螺，經過清洗後煮熟，或醃漬或加入高湯，製成各式各樣的料理。

Okamoto 食用海藻

Okamoto 海藻是一種可長期貯存的食物，熱量低又富含水溶性膳食纖維和礦物質，是當地常見的早餐菜色。人們會在夏季採收海藻，反復進行日曬和清洗工序，直到海藻由紅變白。吃海藻前要加水泡發，可搭配醬油、柚子醋或美乃滋享用。

海膽飯

在大島，人們分別在每年夏季和冬季捕撈海膽，令這種海產成為當地菜餚中的常見食材。海膽飯的製作方法是將海膽內臟與生米拌勻後蒸熟。部分做法會加入薄切紅蘿蔔或蠔螺。

銅藻

銅藻是一種可食用海藻，以富含褐藻醣膠著稱，這種植物纖維具有多種健康益處。常見的法是將銅藻煮熟後搭配柚子醋，或加入湯中。

素麵海苔食用海藻

這種海藻是當地特色美食，因狀似細長素麵而得名，類似沖繩名產海蘊。人們會在 5 月和 6 月採收海藻，通常搭配柚子醋食用，也可做成味噌湯或其他湯品。

<日本語仮訳>

大島交流館（世界遺産ガイド施設）/大島の食文化

大島の食文化は、その沿岸環境と漁業の伝統を映し出しています。古の時代から、島民は海からの恵みを頼って生活してきたため、魚介類を豊富に用いた料理が生まれ、たいてい季節の野菜や他の地元の食材と共に調理されます。この島の穏やかな沿岸気候は柑橘類の栽培に理想的で、魚介類中心の料理に天然の爽やかな風味を添えています。

アナゴの鍋

この料理では、黒アナゴ、キャベツやその他の野菜を、アナゴの骨から取った味噌味の出汁で煮込みます。大島では、アナゴが最も脂がのる通常秋から冬にかけて、特別な行事を祝って食べられます。

ベラそうめん

ベラは夏に漁獲されるベラ科の魚です。この魚は甘辛い煮汁で煮込まれ、その煮汁は冷やし素麵のつけ汁として利用されます。

甘夏柑

甘夏は、温州みかんを地元で改良した品種です。その名は日本語で「甘い夏」を意味します。この果物は初夏から晩夏にかけて熟し、生食やゼリーにするなど様々な形で楽しまれています。

ガゼ味噌

「ガゼ」とは方言でウニを意味しており、この珍味の名前に由来しています。このようなウニ味噌は、茹で

たウニのはらわたを味噌と砂糖と合わせてペースト状にすりつぶして作られます。伝統的に3月3日に祝うひな祭り（人形祭）に、菱形の焼き餅の上に載せて提供されます。現在では、ご飯のお供として、またはおにぎりの具として食されています。

びな巻き貝

ニナとしても知られるこの食用巻き貝は、日本のほとんどの海岸で見られます。夏に大島の岩場で採られ、洗って茹でた後、酢漬けにしたり出汁で煮たりなど様々な方法で調理されます。

おきゅうと食用海藻

低カロリーで水溶性食物繊維やミネラルが豊富なおきゅうとは、地元の朝食の一部としてよく食べられる保存食です。海藻は夏に収穫し、天日干しをして洗います。赤い海藻が白くなるまで、この工程を繰り返します。水で戻した後、醤油、ポン酢、またはマヨネーズをつけて食べます。

ウニご飯

大島では、夏と冬のそれぞれにウニが水揚げされ、地元の料理に材料としてよく使われます。この料理では、ウニのはらわたを生米と混ぜて蒸します。料理に人参の薄切りやサザエ巻き貝を加えるパターンなどもあります。

アカモク

アカモクは、様々な健康効果があるとされる植物繊維フコイダンを豊富に含むことで知られる食用海藻です。茹でてポン酢でいただくか、スープに加えるのが一般的です。

素麺海苔食用海藻

細い素麺に似ていることから名付けられた地元の特産品で、沖縄の名産品であるモズクに似ています。5月から6月に収穫され、ポン酢でいただくか、味噌汁など様々なスープに加えるのが一般的です。

【タイトル】 大島交流館（世界遺産ガイダンス施設）/大島の七夕伝説

【想定媒体】 アプリ QR コード

＜簡体字＞

大岛和七夕传说

相传，七夕传说和在日本全国举办的相关祭典起源于大岛的中津宫。日本许多地区会在 7 月 7 日举办七夕祭，而中津宫则考虑到阴历日期，在 8 月 7 日举办该活动。最早的相关祭典记录可追溯到镰仓时代(1185-1333)，当时神社会举办牵线结缘和诗歌雅集活动。

传说

七夕传说有许多版本，但在大岛流传的版本讲述了贵族青年牵牛（彦星）和女织工织女（织姬）的爱情故事。牵牛奉朝廷之命前往唐朝时期的中国带回技艺精湛的织工，两人也因此相识。在回国途中，他爱上了其中一位织工——织女。抵达日本后，织女被送往边津宫，牵牛则返回朝廷。他无法忘记织女，变得郁郁寡欢，直到有天夜里，宗像神明托梦告诉他必须前往中津宫。牵牛遵循神明的指示，辞去官职并成为了中津宫的神职人员。一天夜里，他正在神社境内流淌的小溪中净身，突然在水桶中看见了织女的倒影。自此，每年阴历 7 月 7 日，织女的倒影都会出现在他的水桶中，两人得以深情对望。后来某日，两人从各自的神社中神秘消失了。

七夕庆祝活动

在中津宫境内有两座小型神社，分别供奉着牵牛和织女，中间由一条小溪分隔。每逢 8 月 7 日，人们会在供奉织女的神社前设立祭坛，上面摆放着时令农产品和鱼。在当晚的庆祝活动中，神社境内张灯结彩，竹枝上则挂满了彩色祈愿纸笺。

＜繁体字＞

大島和七夕傳說

相傳，七夕傳說和在日本全國舉辦的相關祭典起源於大島的中津宮。日本多數地區在 7 月

7日舉行七夕祭；中津宮則考慮到陰曆日期，於8月7日舉辦。最早的相關祭典記錄可追溯到鎌倉時代（西元1185—1333），當時神社會舉辦結緣習俗和詩歌雅集活動。

傳説

七夕傳説版本眾多，而在大島流傳的是一位貴族青年「牽牛」（彦星）與女織工「織女」（織姫）的愛情故事。牽牛奉朝廷之命，前往中國唐朝帶回技藝高超的織工，兩人也因此相識。返程途中，他愛上其中一位名為「織女」的織工。抵達日本後，織女被送往邊津宮，牽牛則返回朝廷。他忘不了織女，變得鬱鬱寡歡，直到某天夜裡宗像神明託夢，告訴他必須前往中津宮。牽牛遵照神明指示辭去官職，成為中津宮的神職人員。某晚，他在神社境內流淌的小溪中淨身，水桶中映出了織女的倒影。自此，每年陰曆七月七日，織女的倒影都會映在他的水桶中，兩人得以深情相望。後來某日，兩人各自在神社裡神秘消失。

七夕慶祝活動

在中津宮境內有兩座小神社，分別供奉著牽牛和織女，中間隔著一條小溪。每年8月7日，人們會在織女神社前擺設祭壇，並供上時令農產和魚。在當晚的慶祝活動中，神社境內會掛起燈飾並以彩帶裝飾，竹枝上則懸掛著一張張彩色的祈願紙條。

<日本語仮訳>

大島交流館（世界遺産ガイド施設）/大島の七夕伝説

七夕の物語とそれにまつわるお祭りは、全国的に行われていますが、その発祥は大島の中津宮神社だと信じられています。このお祭りは、日本の多くの地域では7月7日に行われますが、中津宮ではおおよその旧暦を考慮し8月7日に催されます。最も古い記録は鎌倉時代（1185～1333年）にさかのぼり、その頃は縁結びの習わしや詩歌の集いがこの神社で行われていました。

伝説

七夕の物語には様々なバリエーションがありますが、大島で伝わるものは、牽牛（彦星）という名の上流階級の若者と、織女（織姫）という名の織り手の女性の恋物語を語っています。牽牛が唐の時代の中国から熟練の織工を連れてくるよう朝廷から命じられた後、彼らは出会いました。彼が戻った後、牽牛はその一人である織女と恋に落ちました。日本に到着した後、織女は辺津宮に遣わされ、牽牛は朝廷に戻りました。彼女を忘れられず彼は深く嘆いていたある夜、彼の夢に現れた宗像の神様が、中津宮へ行くよう告げました。神のお告げに従い、牽牛は自身の職を離れ、彼の地で神職に就きました。ある夜、神社の境内を流れる小川で身を清めていると、彼の水桶に織女の面影が映りました。その夜以来、毎年旧暦7月7日になると、織女が桶に映るようになり、二人は愛おしそうに互いを見つめ

合いました。それからある日のこと、二人はそれぞれの神社から忽然と姿を消してしまったのです。

七夕のお祝い

中津宮の境内には、川を挟んで牽牛と織女の 2 つの小さな神社が建っています。8 月 7 日には、織女の神社の前に祭壇が設けられ、旬の農産物や魚介類が供えられます。その夕べの祝いに向け、神社の境内は灯りで彩られ、飾り紐で飾られ、竹の枝には色とりどりの祈願の紙が吊るされます。

【タイトル】 大島交流館（世界遺産ガイダンス施設）/感光の島

【想定媒体】 アプリ QR コード

＜簡体字＞

光之島

夜幕降临时，太阳沉入地平线，但大岛的夜晚却并非一片漆黑。从岛屿西侧的津和瀬海滩望去，玄界滩上空的夕阳西下后，九州海岸线的灯火便次第亮起。

夜色渐浓时，更多光芒浮现：鱿鱼捕捞船的灯光在海上微微闪烁，以诱捕这种夜行动物，直至清晨。由于光污染极少，这里是绝佳的观星之处。每逢秋季至初冬，北斗七星会低悬于海平面之上，仿佛正要舀起海水的长柄勺。

在冬至（12 月 22 日）和日本传统立春（2 月 3 日）前后，升起的太阳会和中津宫的两座鸟居连成一线。

＜繁体字＞

光之島

一日即將結束時，太陽沉入地平線下，但大島的夜晚卻不會陷入黑暗。從島嶼西側的津和瀬海灘眺望，玄界灘上空的夕陽西下後，九州海岸線的燈火逐個點亮。

當夜色漸濃，更多光芒浮現：魷魚漁船的燈光在海面上微微閃爍，用來吸引夜間的漁獲，直至清晨。由於光害極少，此地是絕佳的觀星處。每逢秋季至初冬，北斗七星會低懸於海平面之上，彷彿一支舀起海水的長柄勺。

在冬至（12 月 22 日）和日本傳統立春（2 月 3 日）左右，升起的太陽會和中津宮的兩座鳥居連成一線。

＜日本語仮訳＞

大島交流館（世界遺産ガイド施設）/感光の島

日が暮れる頃、太陽は地平線の彼方へと沈みますが、大島の夜は決して暗くはありません。島の西側にある津和瀬の浜から玄界灘に沈む夕日を眺めていると、九州の海岸線が徐々に明るくなっていきます。

夜が更けていくにつれ、他の光も現れます。イカ漁船の灯りが水面にかすかに光り、夜行性の獲物を朝の早い時間まで誘い込みます。光害がほとんどないため、夜空は星空の観察に絶好の環境を提供します。秋から初冬にかけては、北斗七星が水平線近くまで低く現れ、まるで柄杓が海から水をすくい上げているかのように見えます。

冬至（12月22日）と日本の旧暦の春分（2月3日）の頃には、昇る太陽が中津宮神社の2本の鳥居と一直線に並びます。

【タイトル】 大島交流館（世界遺産ガイド施設）/Taboo words

【想定媒体】 アプリ QR コード

＜簡体字＞

大島独特的表达用语

大岛独特的文化在本地方言中亦有所体现，许多日常用语都有不同的表达方式。不少表达用语源自古老的禁忌或文化交流。

不吉利的词汇通常会替换为其他词。例如，冲之岛居民不食用四足动物，甚至会避免提及这些动物的名字。因此，牛被称作“四（足）之角”。

其他替换表达则反映了大岛与外国文化接触的历史。酒有时被称作“chinta”，据说这个词源自葡萄牙语；米饭也被称作“shari”，据说源于佛教。

＜繁体字＞

大島的獨特用語

大島獨一無二的文化在當地方言中可見一斑，許多日常用語都有不同的表達方式。不少表達源自古老的禁忌或文化交流。

不吉利的詞彙通常會有替代詞，例如，由於在沖之島不食四足動物的肉，甚至會避免說出這些動物的名字。因此，牛會被稱作「四（足）之角」。

其他替代表達則反映了大島與外國文化接觸的歷史。酒有時被稱作「chinta」，據說這個詞源自葡萄牙語；米飯也叫「shari」，據說是源於佛教。

＜日本語仮訳＞

大島交流館（世界遺産ガイド施設）/Taboo words

大島の独特な文化は、日常的な用語の多くに異なる表現を使う方言にも表れています。これらの表現の多くは、古の禁忌や文化交流に由来するものです。

不吉な意味合いを持つ言葉は通常置き換えられます。例えば、沖ノ島では四本足の動物の肉は食べられないため、その動物の名前を口にすることさえも避けられます。牛はそのため「四本（足）の角」と呼ばれます。

その他の言い換えは、外国文化と接触してきた大島の歴史を映し出しています。酒はチンタと呼ばれることがあり、この言葉はポルトガル語からきていると考えられ、そして、米はシャリとも呼ばれ、仏教に起源を持つと考えられています。

【タイトル】 大島交流館（世界遺産ガイド施設）/Welcoming leaflet

【想定媒体】 アプリ QR コード / パンフレット

<簡体字>

欢迎来到大岛交流馆

在大岛交流馆，您可以探索大岛的历史、文化及与神圣的冲之岛之间的渊源。

展板上的二维码提供中文解说。如需查看，请开启智能手机摄像头或二维码扫描器，对准二维码扫描。您的手机屏幕上会显示链接，点击链接即可打开页面。浏览这些内容需连接互联网，因此请确保您的设备已连接网络。

馆内提供免费互联网“Munakata_Free_Wi-Fi”，如需连接，请在设备的 Wi-Fi 设置中选择“Munakata_Free_Wi-Fi”，并使用电子邮件地址或社交媒体账户注册。

大岛交流馆介绍了大岛与冲之岛之间的深厚联系，后者有严格的登岛限制。展览追溯了大岛作为冲之岛守护者与门户的角色，并通过文物呈现昔日曾在冲之岛举行的古老祭祀仪式。一楼放映室播放短片，讲述岛民对冲之岛的看法（提供英文字幕）。二楼展示大岛历史和文化相关资料，三楼是可观赏海景的工作区。

<繁体字>

歡迎來到大島交流館

在大島交流館，您可以探索大島的歷史、文化，以及與神聖沖之島之間的淵源。

展示面板上的 QR 碼提供中文解說。如要查看說明，請開啟智慧型手機相機或 QR 碼掃描器對準掃描。您的手機畫面會顯示連結，點選即可開啟頁面。瀏覽內容需網際網路連線，因此請確認您的裝置已連線網路。

館內可使用免費網際網路連線「Munakata Free Wi-Fi」，如需連線，請在裝置的 Wi-Fi 設

定中選取「Munakata_Free_Wi-Fi」，並使用電子郵件地址或社群媒體帳戶註冊。

大島交流館介绍了大島與沖之島の深厚連結，後者有嚴格的登島限制。展示内容追溯大島作為沖之島守護者與門戶所扮演的角色，並引用相關文物，呈現昔日曾在沖之島進行的古老祭祀儀式。一樓放映室播映短片，講述島民對沖之島的看法（提供英文字幕）。二樓展示大島歷史和文化相關資料，三樓是可觀賞海景的工作區。

<日本語仮訳>

大島交流館（世界遺産ガイド施設）/Welcoming leaflet

大島交流館で、大島の歴史と文化、そして神聖な島 沖ノ島との関わりをたどりましょう。

展示パネルの QR コードは中国語の説明を提供しています。ご覧になる際は、スマートフォンのカメラまたは QR コードリーダーを起動して、コードに向けてください。リンクが画面に表示されます。それをタップすると該当ページが開きます。コンテンツの閲覧にはインターネット接続が必要となりますので、お使いの端末が接続されていることをご確認ください。

無料インターネット接続は Munakata Free Wi-Fi をご利用いただけます。接続するには、お使いの端末の Wi-Fi 設定で「Munakata_Free_Wi-Fi」というネットワークを選択し、お持ちのメールアドレスまたはソーシャルメディアアカウントでご登録ください。

当大島交流館では、大島と立ち入りが厳しく制限されている沖ノ島との深いつながりを紹介しています。展示では、大島が沖ノ島の守護島かつ玄関口としての役割を果たしてきた経緯を、かつてそこで行われていた古の祭祀を伝える遺物に触れながらたどります。1 階には、島民の方々が沖ノ島への想いを語る短編映像（英語字幕付き）をご覧いただける展示室があります。2 階では大島の歴史と文化に関する情報を紹介しており、3 階は海を眺められる作業スペースとなっています。